

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡

東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第2分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉 十 郎 北 堀 遺 跡 勘

(第2分冊)

公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

よし じゅう きた 遺 跡
吉 十 北
かん じゅう ろう ぼり 堀 跡
勘 十 郎

東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第2分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社
公益財団法人茨城県教育財団

目 次

—第2分冊—

第3章 吉十北遺跡

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

(4) 土坑（第201号土坑～第600号土坑）	295
-------------------------	-----

第 201 号土坑 (第 257 図 PL45)

位置 調査区中央部北寄りの C 3 d5 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 202 号土坑を掘り込み, 第 204 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第 202・204 号土坑と重複しているため, 開口部は長径が 1.83 m, 短径が 1.68 m しか確認できなかった。楕円形と推定でき, 長径方向は N - 48° - E である。底面は長径 2.82 m, 短径 2.10 m の不整楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 103cm である。壁は大きく内傾しており, 袋状を呈している。

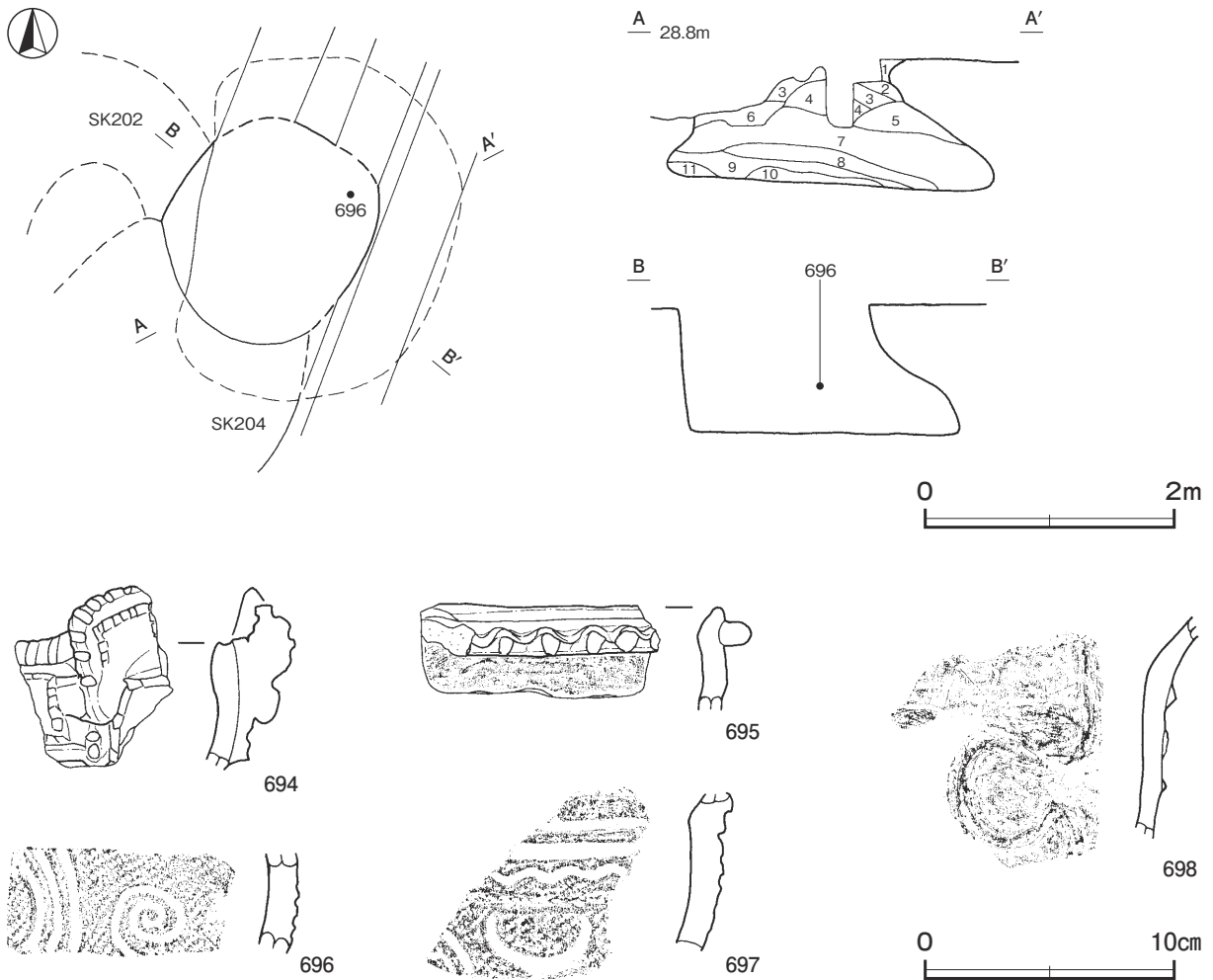
覆土 11 層に分層できる。各層にローム粒子が多量に含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 9 黒褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量 | 11 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 381 点 (深鉢 377, 浅鉢 4), 石器 2 点 (磨石), 石核 4 点 (石英), 剥片 6 点 (石英 4, 砂岩 1, 瑪瑙 1), 礫 2 点が出土している。698 は覆土上層と覆土下層から出土した破片が接合している。694・695・697 は覆土下層から, 696 は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。いずれも破片が散乱した状態で出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 257 図 第 201 号土坑・出土遺物実測図

第 201 号土坑出土遺物観察表 (第 257 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
694	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	扇状把手 節沈線	口唇頂部に刺突文 隆帯に沿って有	覆土下層	
695	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部に段を有し太い隆帯が一巡	隆帯上に刺突文	覆土下層	
696	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦)	沈線による文様描画	覆土中層	
697	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	浅黄褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦)	半截竹管による横線・波状文・曲線文 波状文の下位に有節沈線	覆土下層	
698	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	断面三角形の隆起線で文様描画	外・内面横位の磨き	覆土上・下層	

第 202 号土坑 (第 258 ~ 261 図 PL45・99)

位置 調査区中央部北寄りの C 3 d4 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 201・203・204 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南半部を複数の土坑に掘り込まれているため, 開口部は南北径 1.06 m しか確認できなかった。東西径は 1.00 m で, 円形または楕円形と推定できる。底面は径 2.62 ~ 2.70 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 126 cm である。壁は大きく内傾して袋状を呈し, 上位はほぼ直立している。

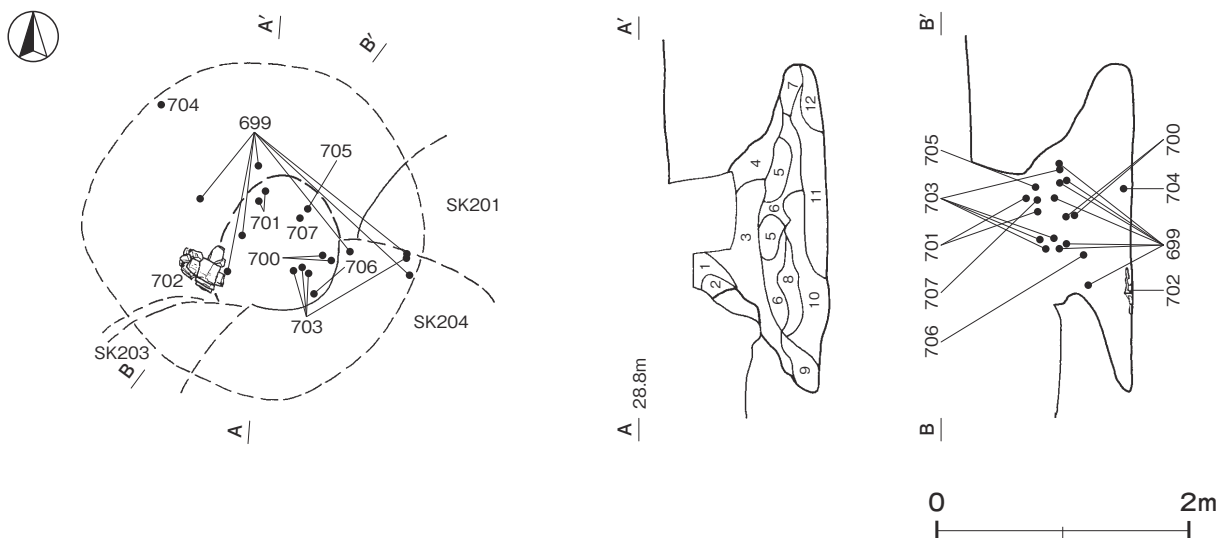
覆土 12 層に分層できる。第 3・4 層は含有物の少ない黒褐色土で, 一時的に開口していた際に流れ込んだ土と考えられる。第 5 層以下は不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

土層解説

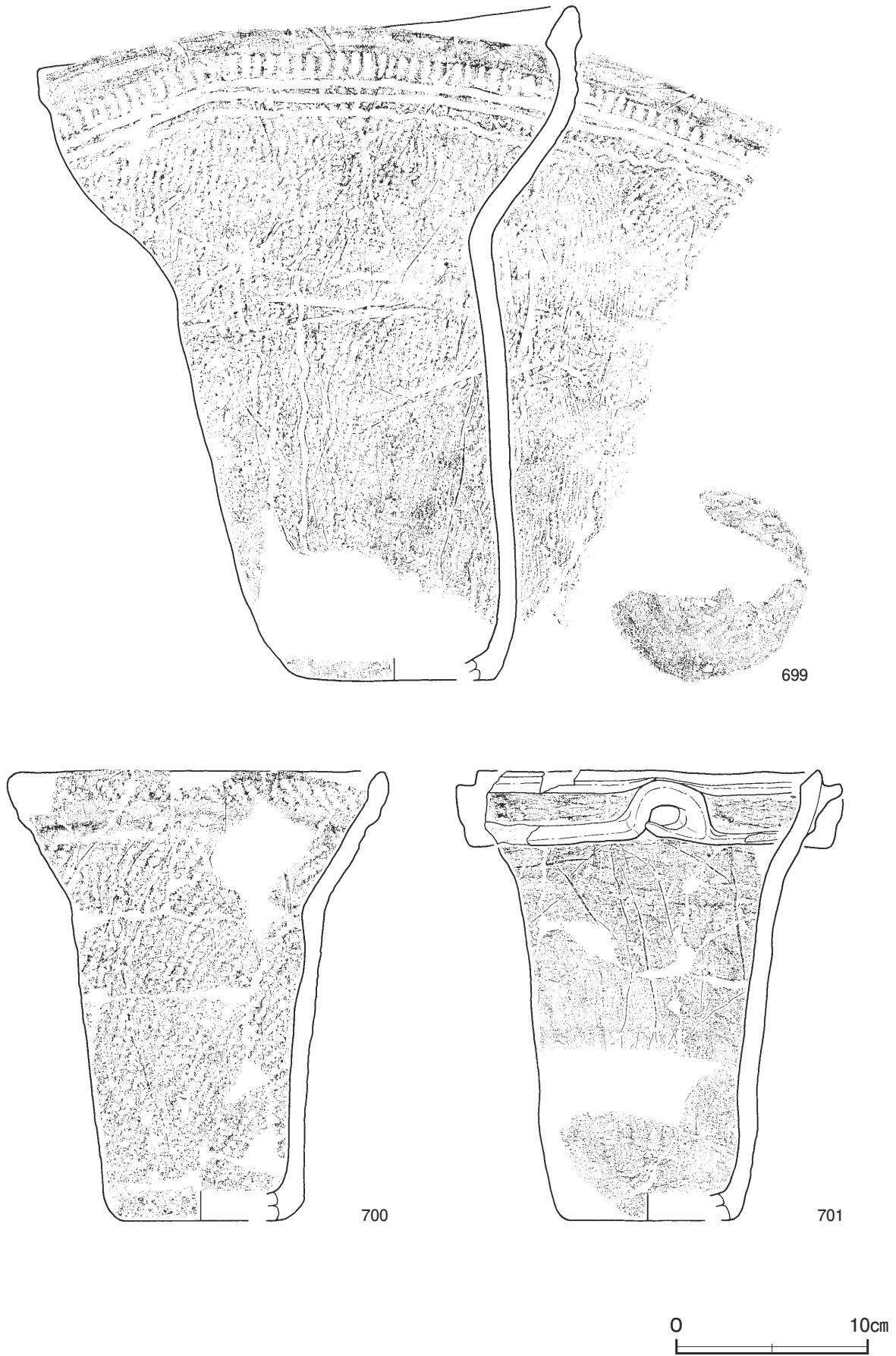
- | | | | |
|----------|------------------------|-----------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | 鹿沼パミスブロック・ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子中量 | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 243 点 (深鉢 239, 浅鉢 4), 石器 6 点 (磨製石斧 3, 磨石 1, 敲石 1, 敲砥石 1), 石核 1 点, 礫 1 点が出土している。702 は中央部南西寄り, 704 は北西壁際の底面から出土している。702 は底部が欠損しているが, 横位で押しつぶされた状態で出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。699 ~ 701・703・705 ~ 707・709・710, Q 188 は, 覆土中層からまとまって出土しており, ある程度埋め戻された凹地状の部分に一括投棄されたものと考えられる。

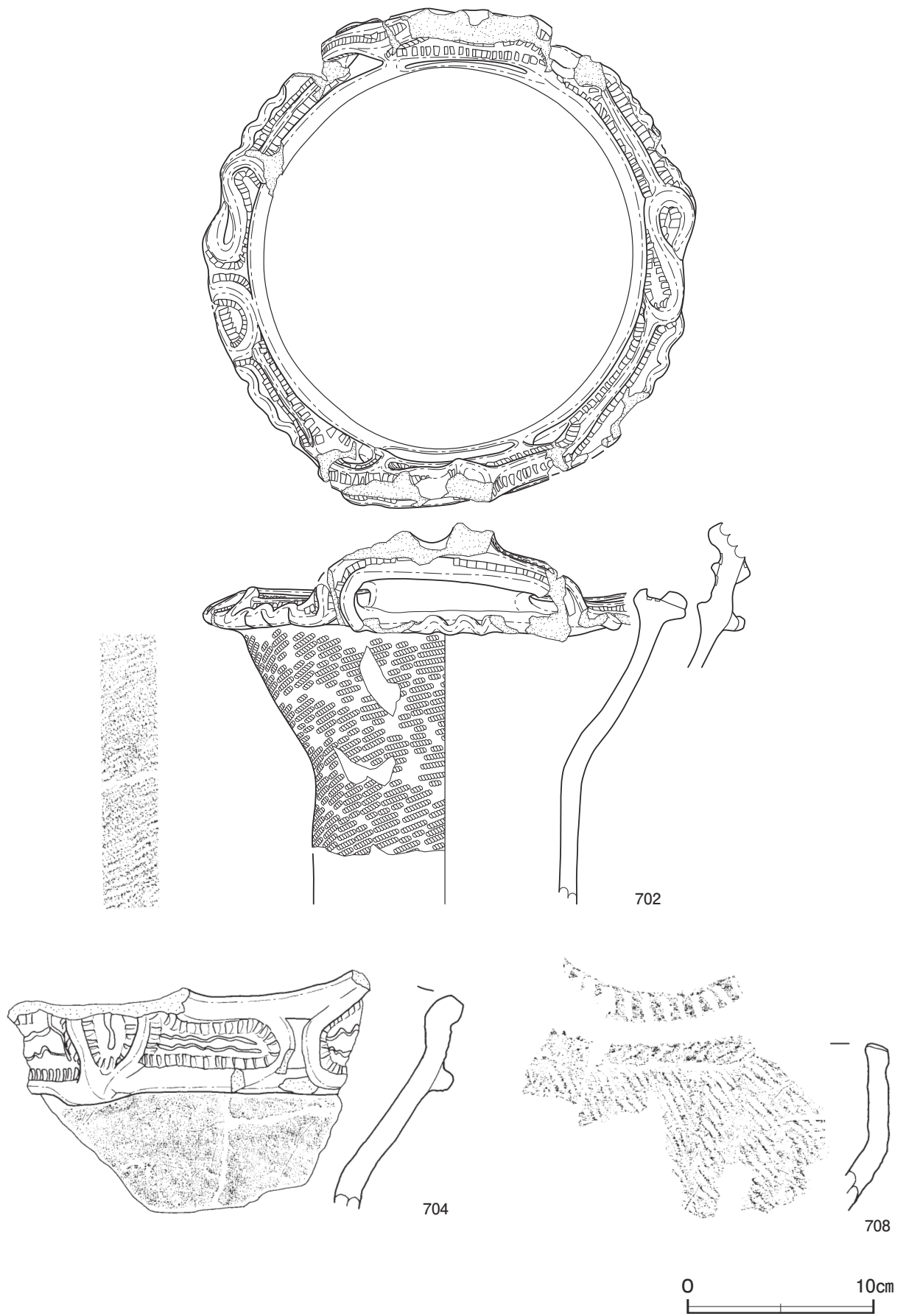
所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



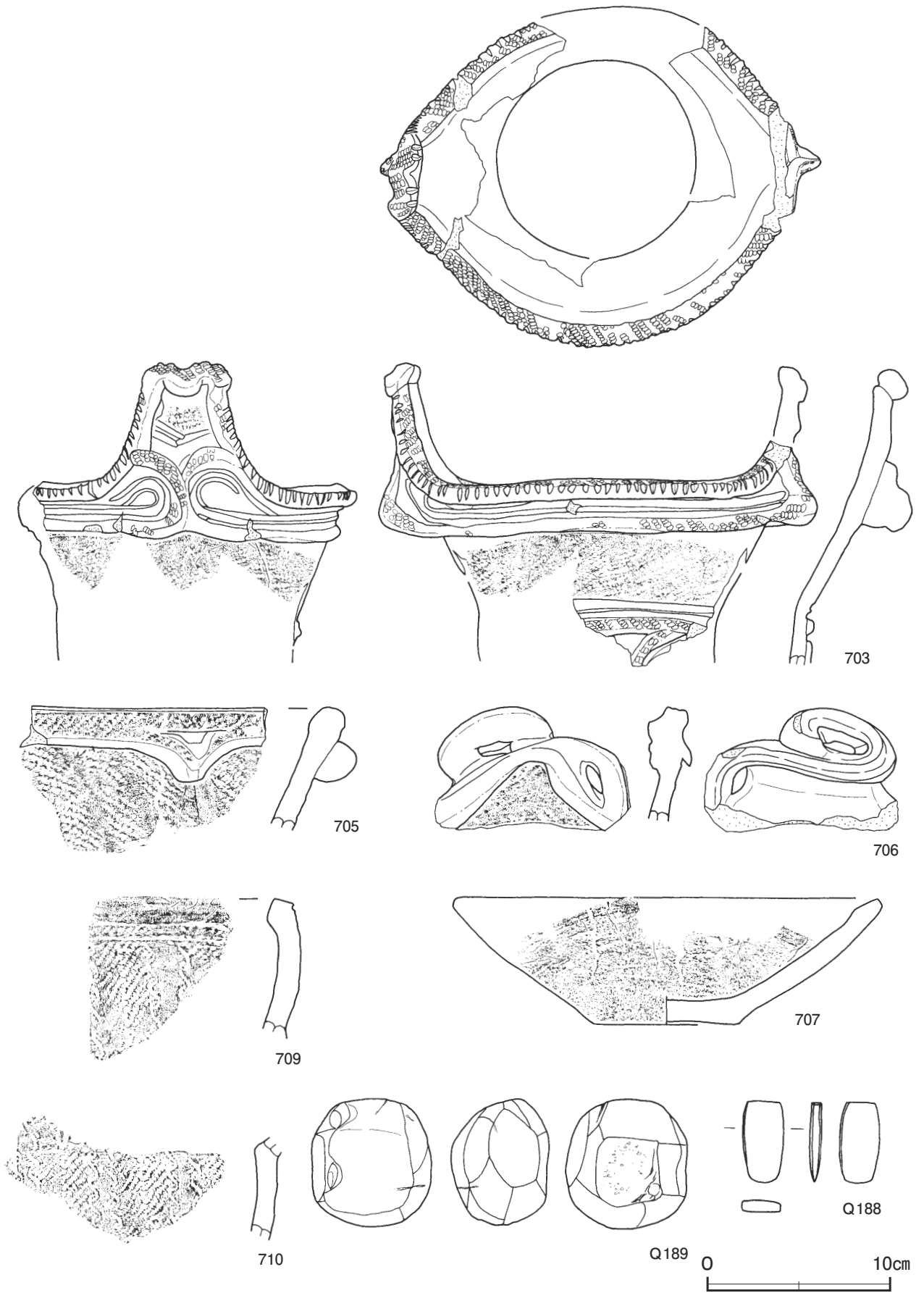
第 258 図 第 202 号土坑実測図



第 259 図 第 202 号土坑出土遺物実測図(1)



第 260 图 第 202 号土坑出土遗物实测图(2)



第 261 図 第 202 号土坑出土遺物実測図 (3)

第 202 号土坑出土遺物観察表 (第 259 ~ 261 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
699	縄文土器	深鉢	27.7	35.4	10.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文帯に幅広い爪形文・並行沈線・波状文が一巡 頸部以下地文に単節縄文 RL (縦・斜) 蛇行文・糸線文が垂下 底面網代痕	覆土中層	80% PL126
700	縄文土器	深鉢	[18.9]	23.5	[8.6]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部に段を有し段上に単節縄文 RL (横) 胴部同一原体 (縦)	覆土中層	80% PL126
701	縄文土器	深鉢	17.8	23.5	[8.5]	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部底状の隆帯による文様描画 口縁部外面横位の磨き 頸部以下縦位の磨き	覆土中層	50% PL126
702	縄文土器	深鉢	21.4	(20.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	一对の穿孔把手 把手下部に楕円区画 把手裏面に有節沈線 口唇頂部隆帯による S 字状・弧文・線文 隆帯に沿って有節沈線 (口縁周縁波状隆帯が巡る 胴部単節縄文 RL (縦) 把手頂部から口唇頂部に単節縄文 RL (横) 側面にキザミ目 隆帯を一巡させ把手下で X 字状に交差 交差部摘み状 頸部同一原体 (縦)	底面	80% PL126
703	縄文土器	深鉢	18.8	(15.2)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	隆帯による楕円区画 区画内隆帯に沿ってキャタピラ文 2本の波状沈線 頸部無文帯	覆土中層	20% PL126
704	縄文土器	深鉢	-	(12.8)	-	長石・石英・針状鉱物	黒褐	普通	口縁部上端に V 字状の隆帯貼付 口縁部単節縄文 LR (横) 胴部同一原体 (縦) を間隔を開けて施文	底面	10%
705	縄文土器	浅鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	把手裏面背割れ隆帯による横 S 字状文 地文に単節縄文 RL (横)	覆土中層	
706	縄文土器	浅鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外・内面横位の磨き 底面丁寧なナデ	覆土中層	50% PL126
707	縄文土器	浅鉢	[22.9]	6.9	7.8	長石・石英	暗赤褐	普通	口唇頂部にキザミ目 肥厚部に無節縄文 L (横) 胴部同一原体 (縦)	覆土中	
708	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部上部に平行有節沈線が一巡 地文に結節縄文 (縦) を間隔を開けて施文	覆土中層	710・SK205 720 と同一個体。
709	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	地文に結節縄文 (縦) を間隔を開けて施文	覆土中層	709・SK205 720 と同一個体。
710	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通		覆土中層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 188	磨製石斧	4.5	2.2	0.6	12.8	角閃岩	極小型 全面研磨 両側縁に稜 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中層	PL170
Q 189	敲砥石	7.0	6.6	5.3	378.3	黒色安山岩	円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中層	PL172

第 203 号土坑 (第 262・263 図 PL46)

位置 調査区中央部北寄りの C 3 e4 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 202・205 号土坑を掘り込み, 第 204 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第 204 号土坑に掘り込まれており, 開口部は北西・南東径が 2.34 m で, 北東・南西径は 2.13 m しか確認できなかった。楕円形で, 長径方向は N - 65° - W である。底面は長径 2.26 m, 短径 1.98 m の楕円形である。平坦で, 南壁際に径 60cm, 深さ 10cm ほどの浅い凹みがある。確認面からの深さは 70cm である。壁は内彎しており, 袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は, 深さ 68・28cm で, 西部と北西部の壁際に位置しており, 補助的な貯蔵施設と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子少量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | | |

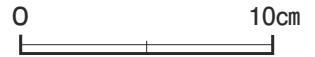
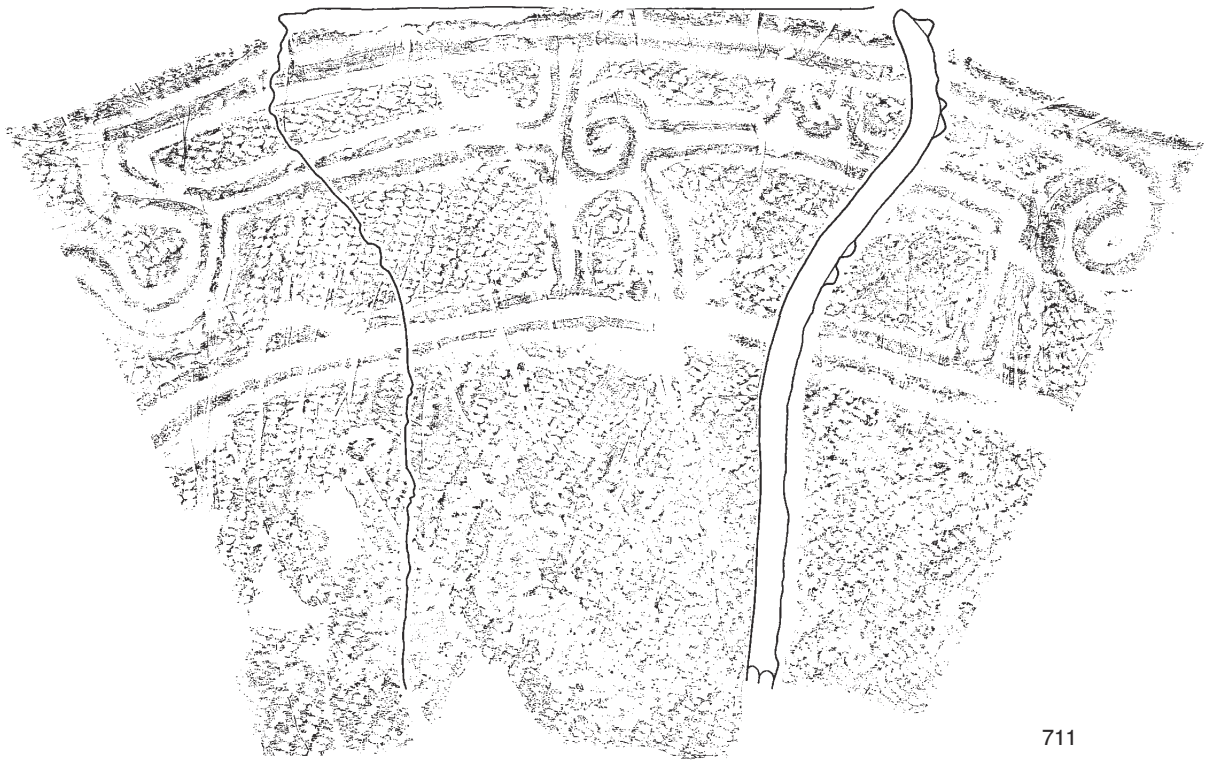
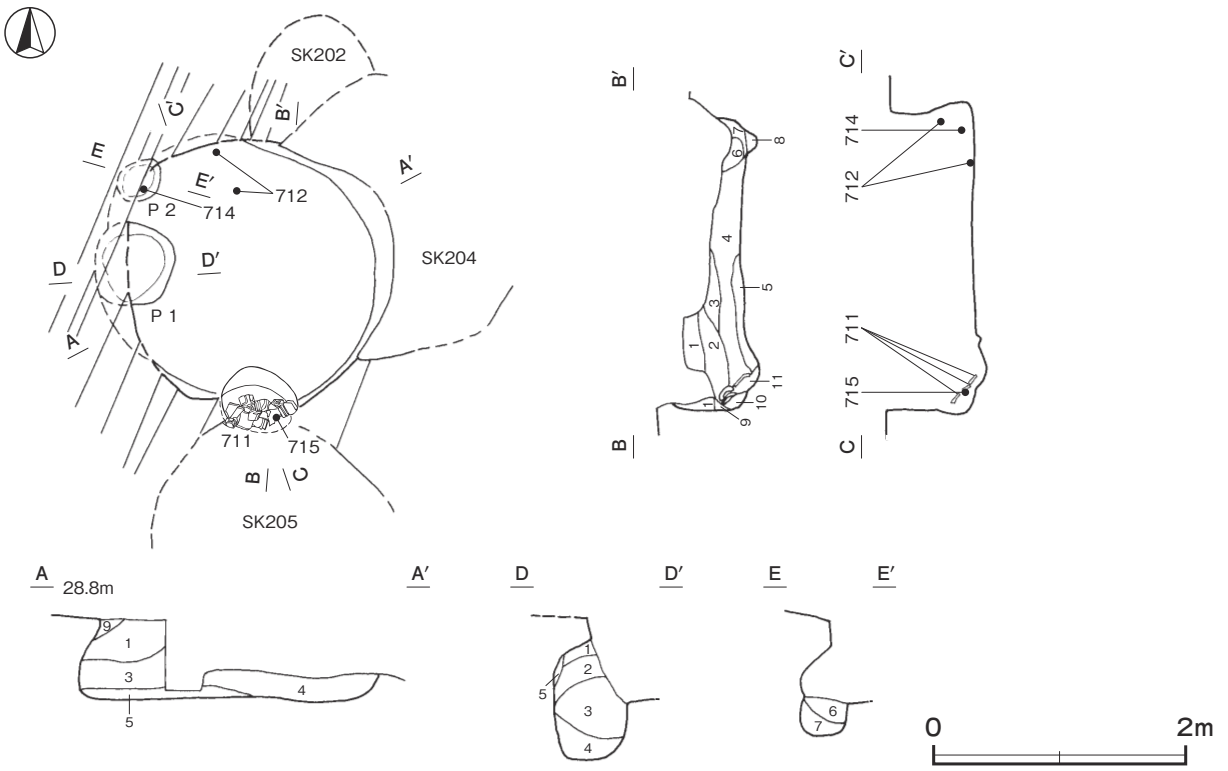
覆土 11 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

土層解説

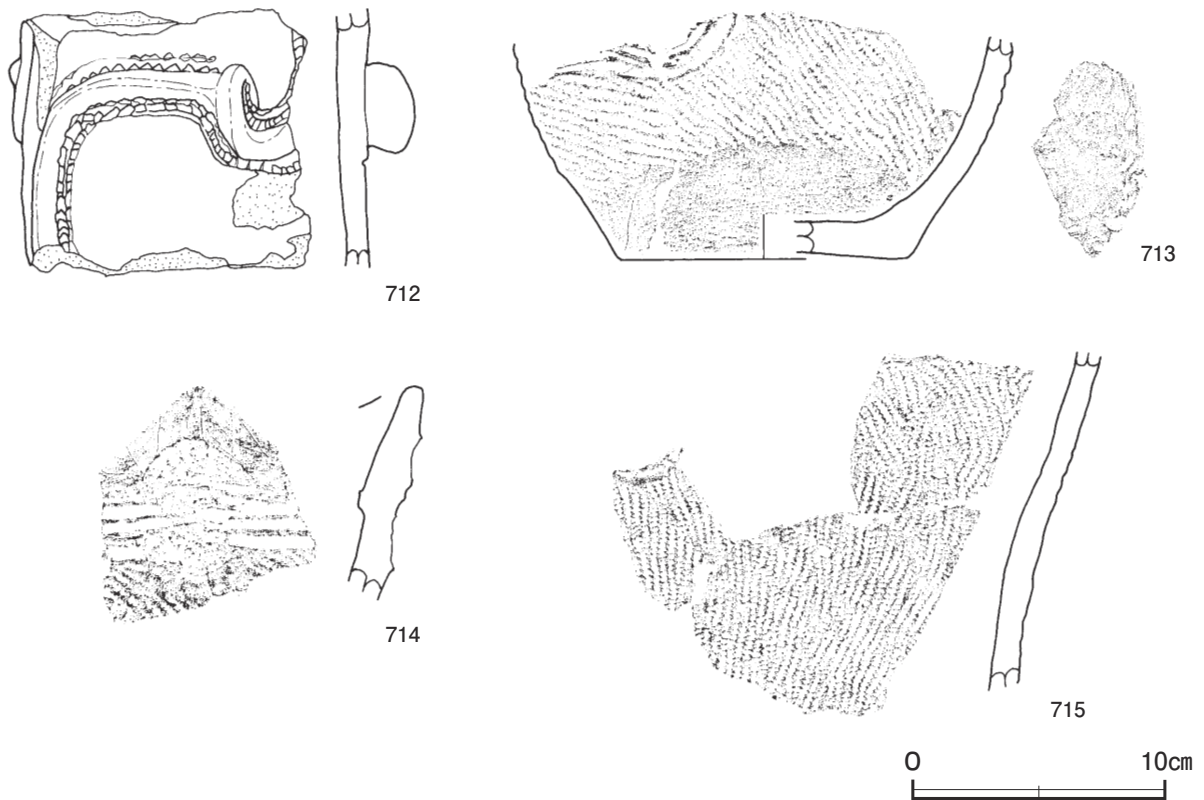
- | | | | |
|---------|-------------------------|-----------|--------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 鹿沼バミスブロック・炭化粒子 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| | 微量 | 8 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗 褐 色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量 | 10 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒 褐 色 | ローム粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 48 点 (深鉢) が出土している。711・715 は南壁際の凹みの上部から出土しており, 711 は破片が一か所にまとめられた状態で出土していることから, 破碎後に遺棄されたと考えられる。712・714 は, 北壁際の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 262 図 第 203 号土坑・出土遺物実測図



第 263 図 第 203 号土坑出土遺物実測図

第 203 号土坑出土遺物観察表 (第 262・263 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
711	縄文土器	深鉢	23.3	(27.0)	-	長石・石英	橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 口唇頂部に沈線一巡背割れ隆帯によるクランク文・渦巻文	覆土下層	70% PL125
712	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	蒲鉾状隆帯で文様描画し一部に摘み状の突起隆帯に沿って平行有節沈線	覆土中～下層	10%
713	縄文土器	深鉢	-	(8.8)	[11.4]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 太い沈線で文様描画胴下端横位の磨き 底面網代痕をナデ消す	覆土上層	15%
714	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい赤褐	普通	口縁部上端に3本の沈線が一巡 沈線下部から単節縄文 RL (横)	覆土下層	
715	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 LR (縦・斜) 施文	覆土下層	

第 204 号土坑 (第 264 図)

位置 調査区中央部北寄りの C 3 e5 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 201 ~ 203 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径 2.77 m、短径 2.21 m の楕円形で、長径方向は N - 63° - E である。底面は平坦で、深さは 45cm である。壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。北東側から埋め戻された堆積状況を示している。

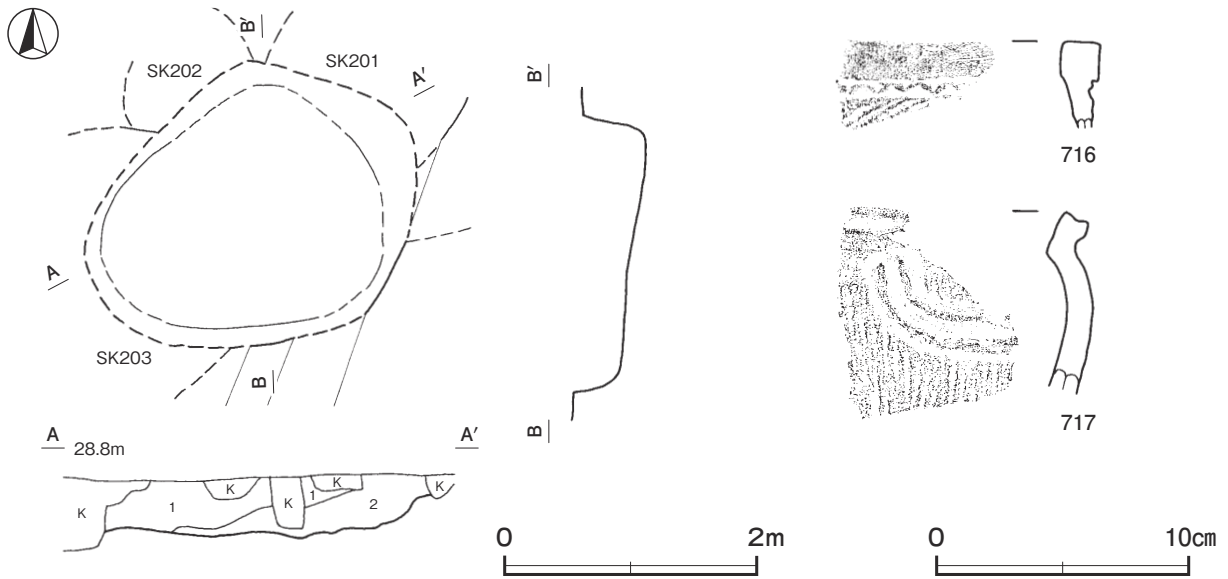
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片 77 点 (深鉢), 石核 1 点 (頁岩) が出土している。716・717 は、覆土下層から出土している。

所見 耕作による攪乱を受けているため明確でないが、規模から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 264 図 第 204 号土坑・出土遺物実測図

第 204 号土坑出土遺物観察表（第 264 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
716	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇頂部平坦面 口縁部無文帯 無文帯下部に交互刺突文 地文に0段多条縄文 RL (縦)	覆土下層	
717	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇頂部に沈線が一巡 地文に0段多条縄文 RL (斜) 背割れ隆帯による文様描画	覆土下層	PL126

第 205 号土坑（第 265 図 PL46）

位置 調査区中央部の C 3e4 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 203 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.85 ~ 1.95 m の円形である。底面は長径 3.30 m、短径 2.80 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 124cm である。壁は大きく内傾して袋状を呈し、底面から 68 ~ 84cm のところでくびれ、上位は外傾している。

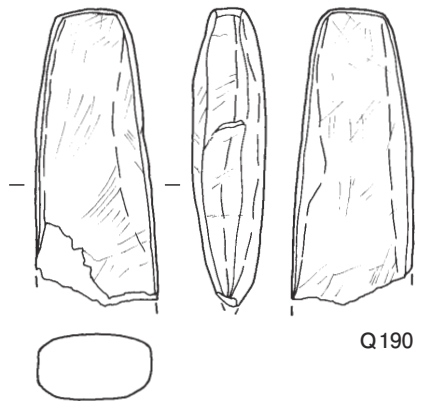
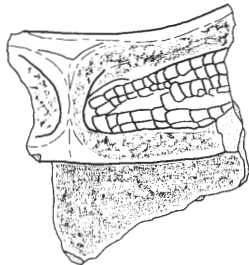
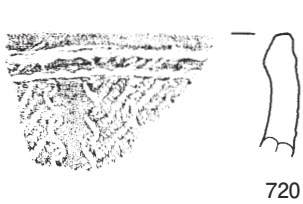
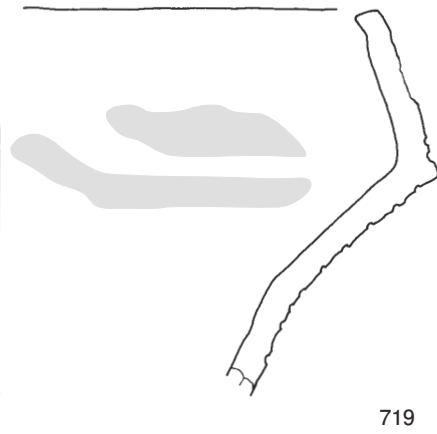
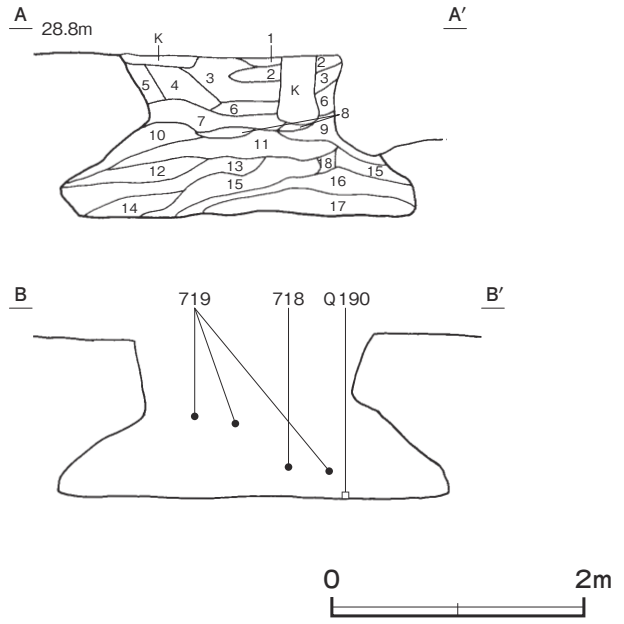
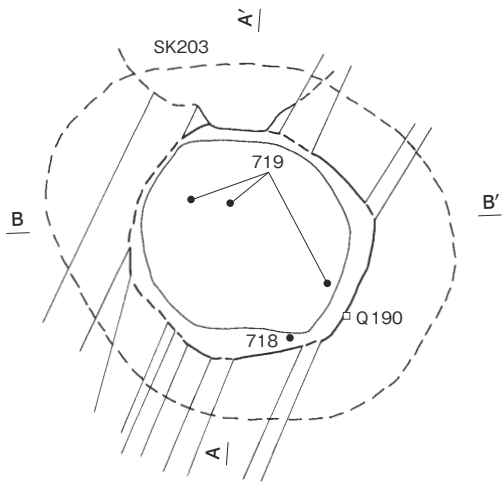
覆土 18 層に分層できる。ロームブロックを多く含む層と黒褐色土が互層に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 | 12 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 15 褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 | 17 褐色 | ロームブロック中量 |
| 9 黒褐色 | ローム粒子微量 | 18 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 162 点（深鉢 161, 浅鉢 1）、石器 1 点（磨製石斧）、石核 1 点（頁岩）が、覆土上層及び最下層から散乱して出土している。719 は、中央部から南東部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合している。Q 190 は底面から、718 は覆土下層からそれぞれ出土している。また、720 と同一個体とみられる土器片が、第 202 号土坑の覆土中層から出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 265 图 第 205 号土坑·出土遺物実測図

第 205 号土坑出土遺物観察表 (第 265 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
718	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	隆帯による楕円区画に沿って有節沈線 区画接合部に突起 隆帯に沿って有節沈線 隆帯上単節縄文 RL (横)	覆土下層	
719	縄文土器	浅鉢	[29.8]	(15.4)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 口縁部沈線で方形区画・麻手文 頸部並行沈線と波状沈線 胴部弧線文・懸垂文	覆土中～下層	10% PL125
720	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部上部に平行有節沈線が一巡 地文に結節縄文 (縦) を間隔を開けて施文	覆土中	SK202 709・710 と同一個体。

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 190	磨製石斧	(11.8)	4.8	2.8	(246.6)	緑色岩	定角式 全面に微細な敲打調整後研磨 刃部欠損	底面	PL167

第 206 号土坑 (第 266・267 図 PL47)

位置 調査区西部の C 2c9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 234 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 1.37 m, 短径 1.08 m の楕円形で, 長径方向は N - 62° - W と推定できる。底面は径 1.77 ~ 1.86 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 82cm である。壁は大きく内彎して, 袋状を呈し, 底面から 27 ~ 54cm のところでくびれ, 上位は外傾している。

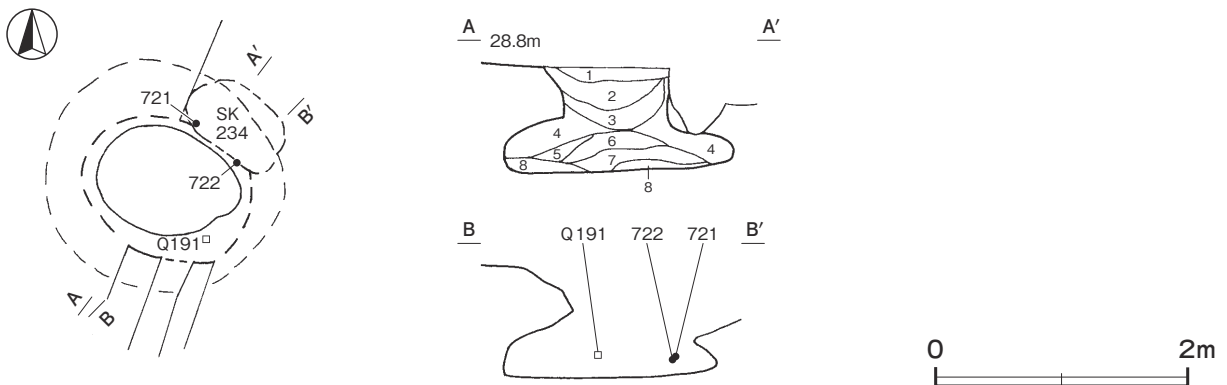
覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックや炭化物が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 106 点 (深鉢), 石器 1 点 (凹石), 剥片 2 点 (黒色安山岩, チャート) が出土している。721 は北部, 722 は東部, Q 191 は南部の覆土下層から散乱した状態で出土している。

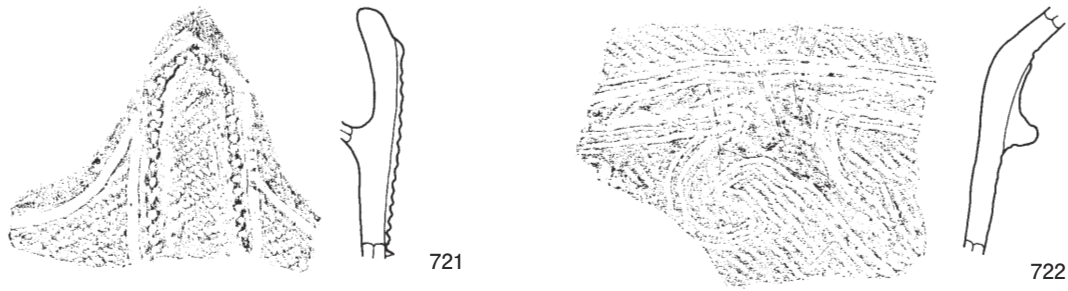
所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 266 図 第 206 号土坑実測図

第 206 号土坑出土遺物観察表 (第 267 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
721	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 逆U字状の隆帯貼付 隆帯上に刺突文 口縁に沿って沈線 波頂部裏側袋状の凹み	覆土下層	
722	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に無節縄文 L (縦) 蒲鉾状隆帯貼付一部突起 隆帯に沿って有節沈線	覆土下層	



第 267 図 第 206 号土坑出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 191	凹石	10.3	8.8	4.8	617.0	安山岩	表裏面、側面の一部研磨痕 側縁部と表裏面の一部に敲打痕	覆土下層	PL181

第 208 号土坑（第 268 図 PL44・47）

位置 調査区西部の C 2 b9 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 199 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.55 m，短径 0.40 m の楕円形で，長径方向は N - 38° - W である。底面は平坦で，深さは 103cm である。壁は直立している。

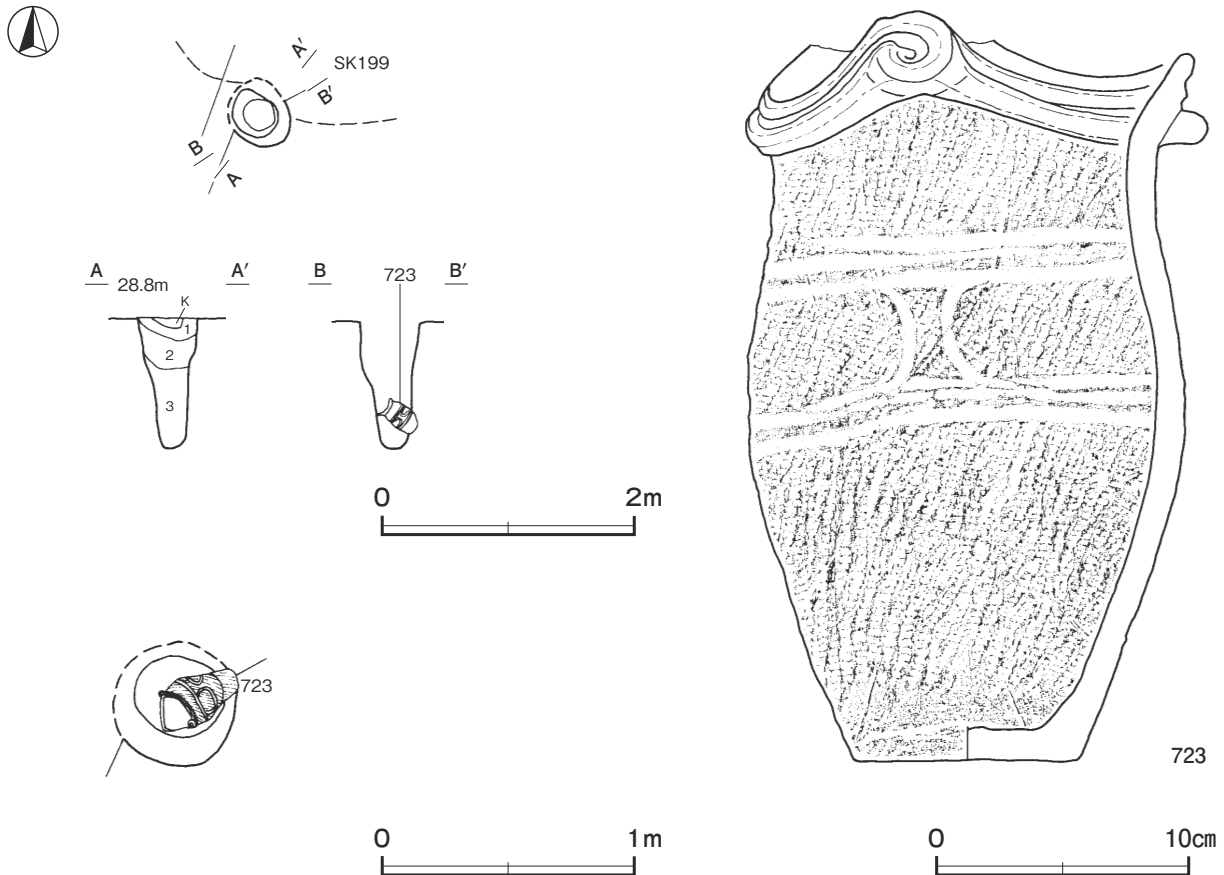
覆土 3 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから，埋め戻されている。柱抜き取り後の埋土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器 1 点（深鉢）が出土している。723 は覆土下層から，口縁部を上に向けた斜位の状態で出土しており，柱の抜き取り後に埋納されたものと考えられる。

所見 形状から柱穴と考えられるが，構造や対応するようなその他の柱穴の存在は不明である。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第 268 図 第 208 号土坑・出土遺物実測図

第 208 号土坑出土遺物観察表 (第 268 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
723	縄文土器	深鉢	16.0	29.8	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	波頂部背割れ隆帯による渦巻文 地文に0段多 条LR(横) 並行沈線による4単位の楕円区画	覆土下層	95% PL127

第 209 号土坑 (第 253・269 図 PL47)

位置 調査区北西部の C 2 a9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 196 ~ 198 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西半部が複数の土坑に掘り込まれているため, 長径は 1.62 m, 短径は 1.31 m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で, 深さは 40cm である。壁は直立している。

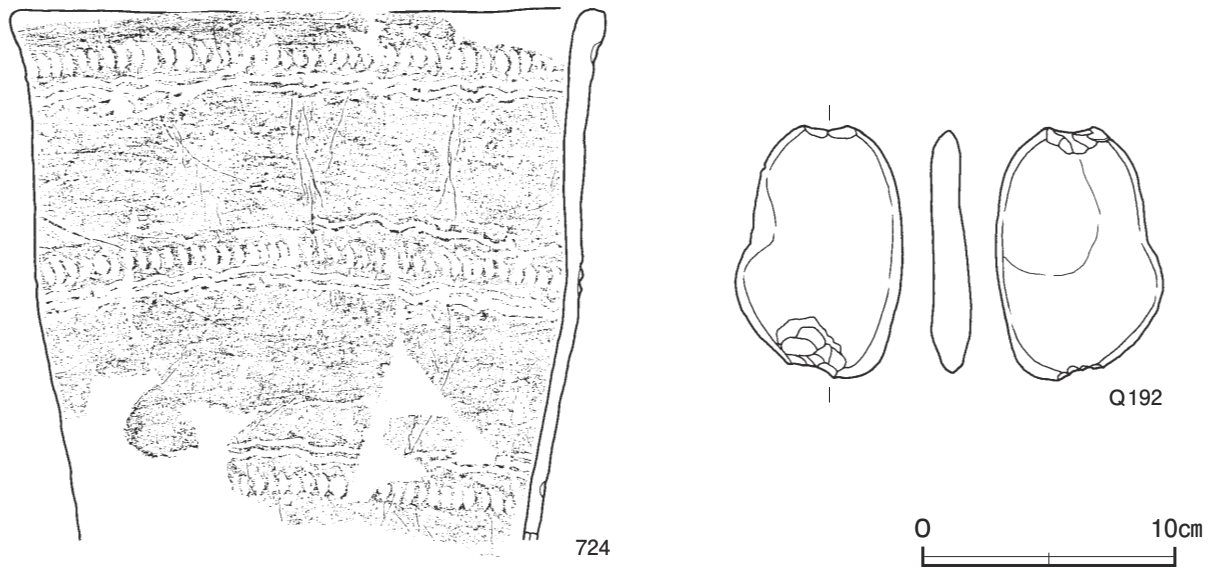
覆土 3 層に分層できる。含有物の少ない暗褐色土が水平に堆積していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片 49 点 (深鉢), 石器 1 点 (石錘), 剥片 2 点 (安山岩, 瑪瑙) が出土している。724 は, 東壁際の覆土最下層から大型の破片がつぶれた状態で出土しており, 廃絶後, 間もなく投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 269 図 第 209 号土坑出土遺物実測図

第 209 号土坑出土遺物観察表（第 269 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
724	縄文土器	深鉢	[23.2]	(21.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁下部・胴部に爪形文と波状文が一巡	覆土下層	30% PL127

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 192	石錘	10.1	6.6	1.6	150.7	砂岩	扁平な自然石を利用 両端を敲打	覆土上層	PL181

第 211 号土坑（第 270・271 図 PL48・98）

位置 調査区北西部の B 215 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 345 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.78 m，短径 1.41 m の楕円形で，長径方向は N - 38° - E である。底面は径 2.28 ~ 2.38 m のほぼ円形で，平坦である。確認面からの深さは 111cm である。壁は大きく内傾して袋状を呈し，底面から 64 ~ 70cm のところでくびれ，上位は外傾している。

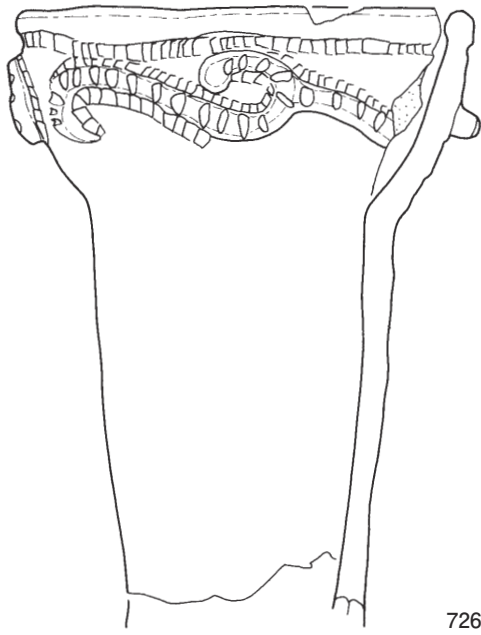
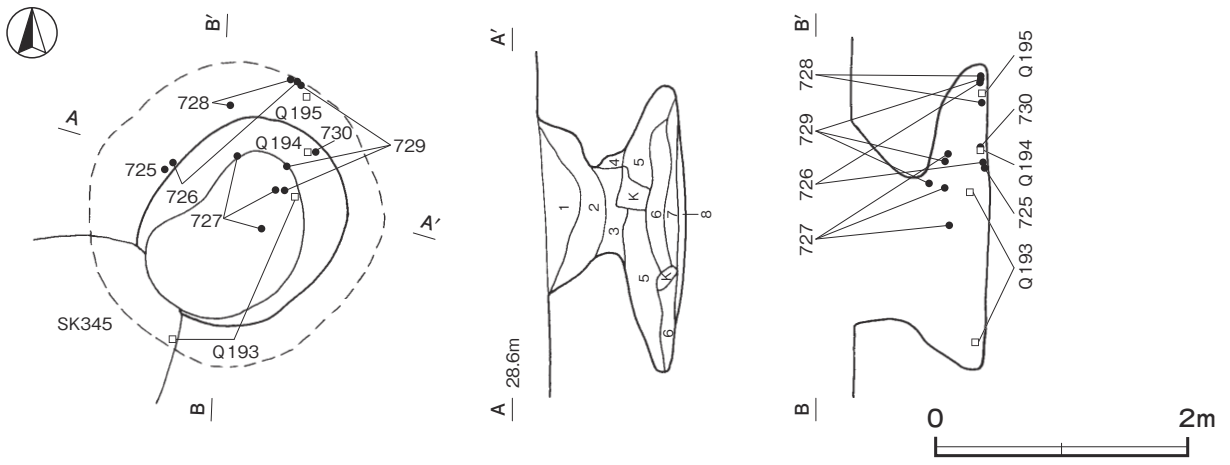
覆土 8 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

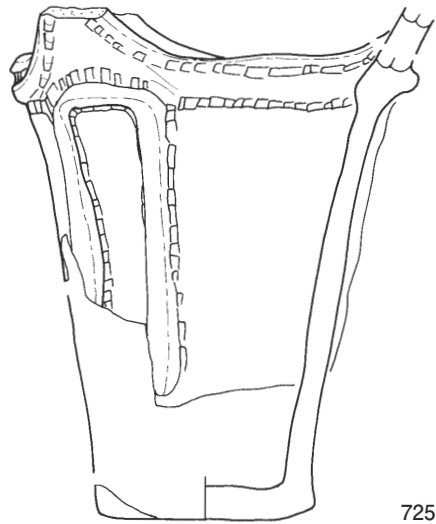
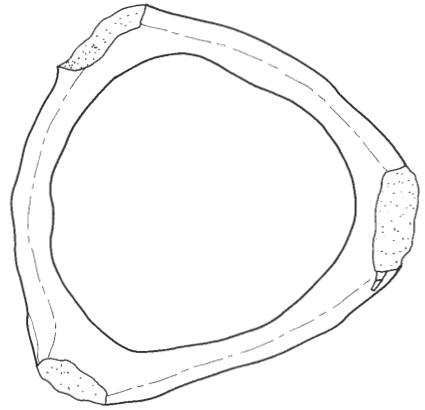
1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量	5 黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量	7 黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 201 点（深鉢 196，浅鉢 5），土製品 1 点（不明土製品），石器 3 点（磨製石斧未成品，磨石，敲砥石），剥片 2 点（石英，泥岩）が出土している。725・726・728・730，Q 193 ~ Q 195 は北部の覆土下層から散乱した状態で出土している。727・729 は，北半部の覆土中層の第 5 層を中心に，破片がまとまって出土しており，埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

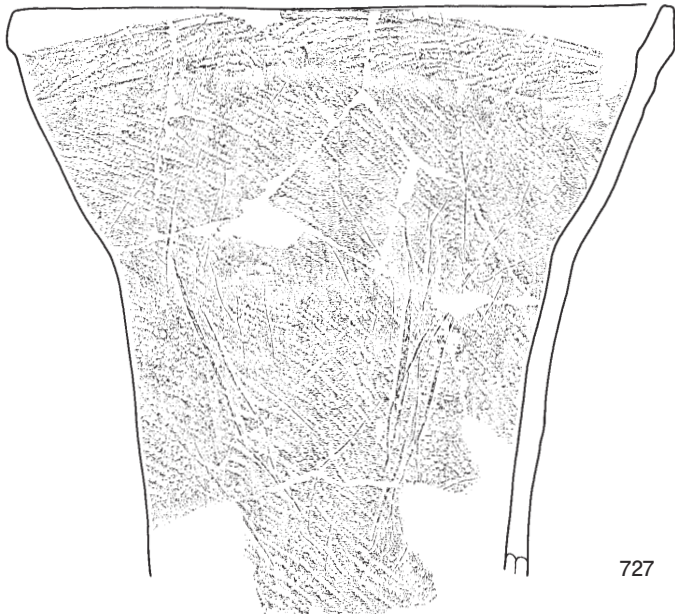
所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



726



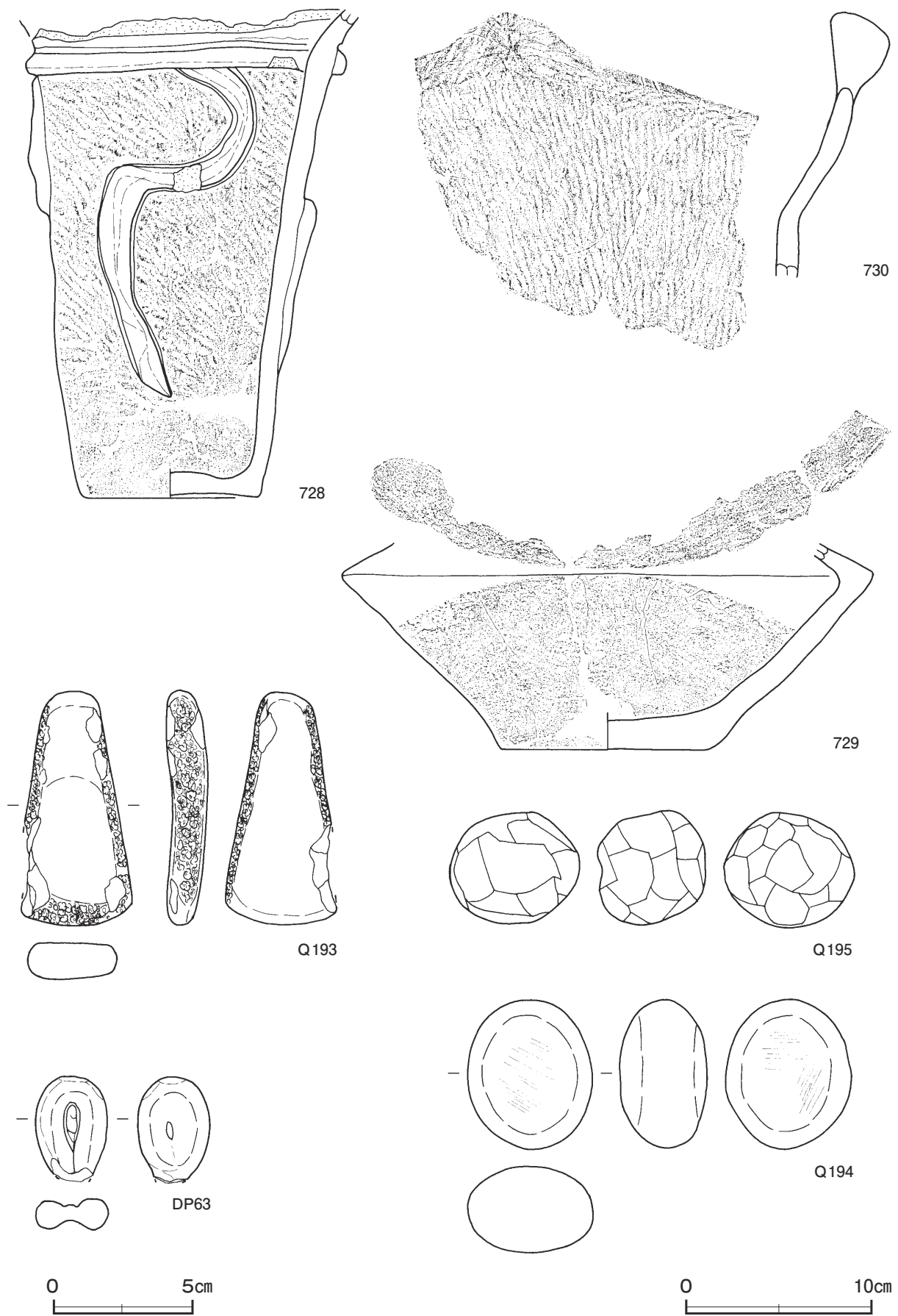
725



727



第 270 図 第 211 号土坑・出土遺物実測図



第 271 图 第 211 号土坑出土遗物实测图

第 211 号土坑出土遺物観察表 (第 270・271 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
725	縄文土器	深鉢	13.6	(20.4)	8.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	3単位の把手。口縁部上端2本の有節沈線。把手部から逆U字状の隆帯垂下。隆帯に沿って有節沈線。底面ナデ。	覆土下層	70% PL127
726	縄文土器	深鉢	17.5	(24.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐色	普通	口縁部幅広の有節沈線一巡。隆帯による横S字状文。隆帯上刺突文及び隆帯に沿って有節沈線。	覆土下層	80% PL127
727	縄文土器	深鉢	25.8	(22.7)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁上端単節縄文LR(横) 胴部同一原体(縦)	覆土中層	60% PL127
728	縄文土器	深鉢	-	(26.4)	9.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	地文に無節縄文R(横) 蒲鉾状隆帯が一巡。断面三角形の隆帯がクランク状に垂下。底面網代痕。	覆土下層	80% PL127
729	縄文土器	浅鉢	-	(11.2)	11.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外・内面横位の丁寧な磨き	覆土中層	80% PL127
730	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部肥厚。摘み状の突起貼付。口唇部無節縄文L(横) 胴部同一原体(斜)	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP63	不明土製品	(3.8)	2.6	1.1	(11.1)	長石・石英	にぶい褐色	粘土紐をドーナツ状に連結し、中央部に突起貼付。端部一部欠損。	覆土中	PL160

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 193	磨製石斧未成品	12.6	6.0	2.4	217.2	砂岩	表裏面研磨痕 周縁部・片刃部敲打調整	覆土下層	PL170
Q 194	磨石	8.0	6.7	4.6	336.0	砂岩	表裏面研磨痕	覆土下層	PL181
Q 195	敲砥石	6.1	7.0	5.8	346.6	チャート	円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土下層	PL172

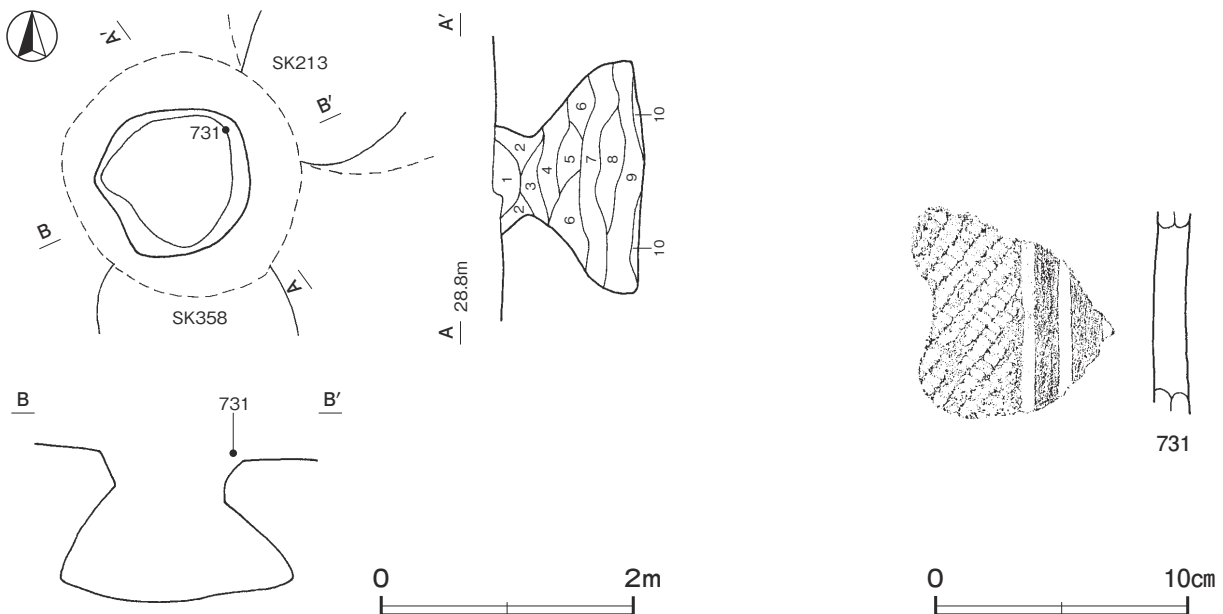
第 212 号土坑 (第 272 図 PL48)

位置 調査区北西部の C 2 b8 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 213・358 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径 1.19 ~ 1.30 m の円形である。底面は径 1.82 ~ 1.97 m の円形で、中央部が皿状に凹んでいる。確認面からの深さは 118 cm である。壁は内傾して袋状を呈し、底面から 82 ~ 90 cm のところでくびれ、上位は外傾している。

覆土 10 層に分層できる。各層にロームブロックや炭化物が多く含まれていることから、埋め戻されている。



第 272 図 第 212 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化物中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 1 点 (深鉢), 石器 2 点 (打製石斧, 石皿), 剥片 1 点 (チャート) が出土している。731 は, 覆土最上層から出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 212 号土坑出土遺物観察表 (第 272 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
731	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 沈線間磨消 3本の沈線を垂下	覆土上層	

第 213 号土坑 (第 273 ~ 275 図 PL48・100)

位置 調査区北西部の C 2 b8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

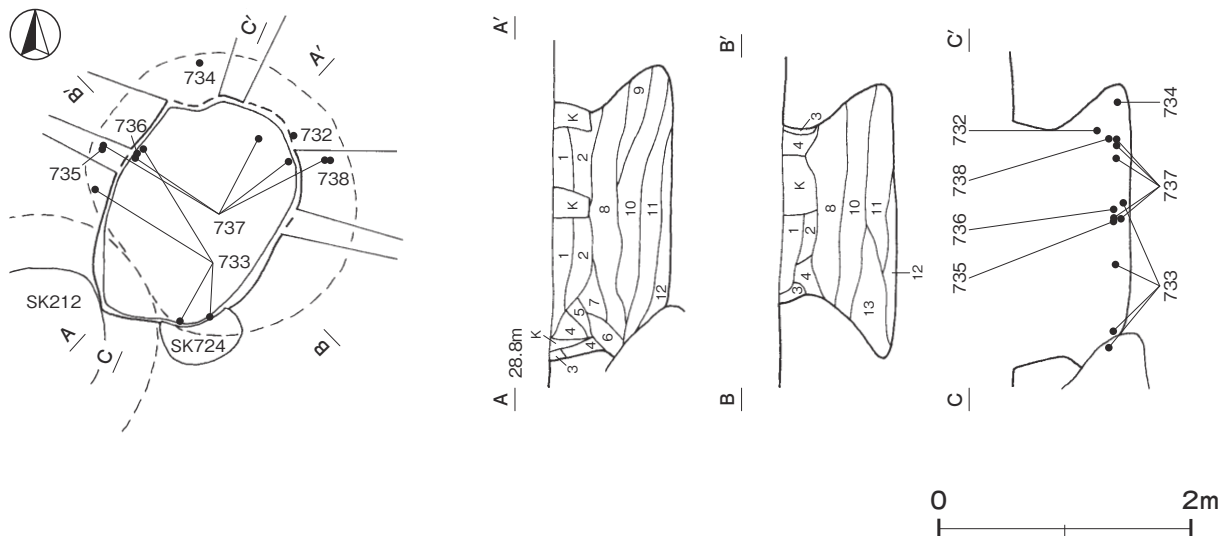
重複関係 第 212・724 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.09 m, 短径 1.34 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 24° - E である。底面は南西部を第 212 号土坑に掘り込まれているが, 径 2.08 ~ 2.27 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 93 cm である。壁は内傾して袋状を呈し, 底面から 62 ~ 72cm のところでくびれ, 上位はほぼ直立している。

覆土 13 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

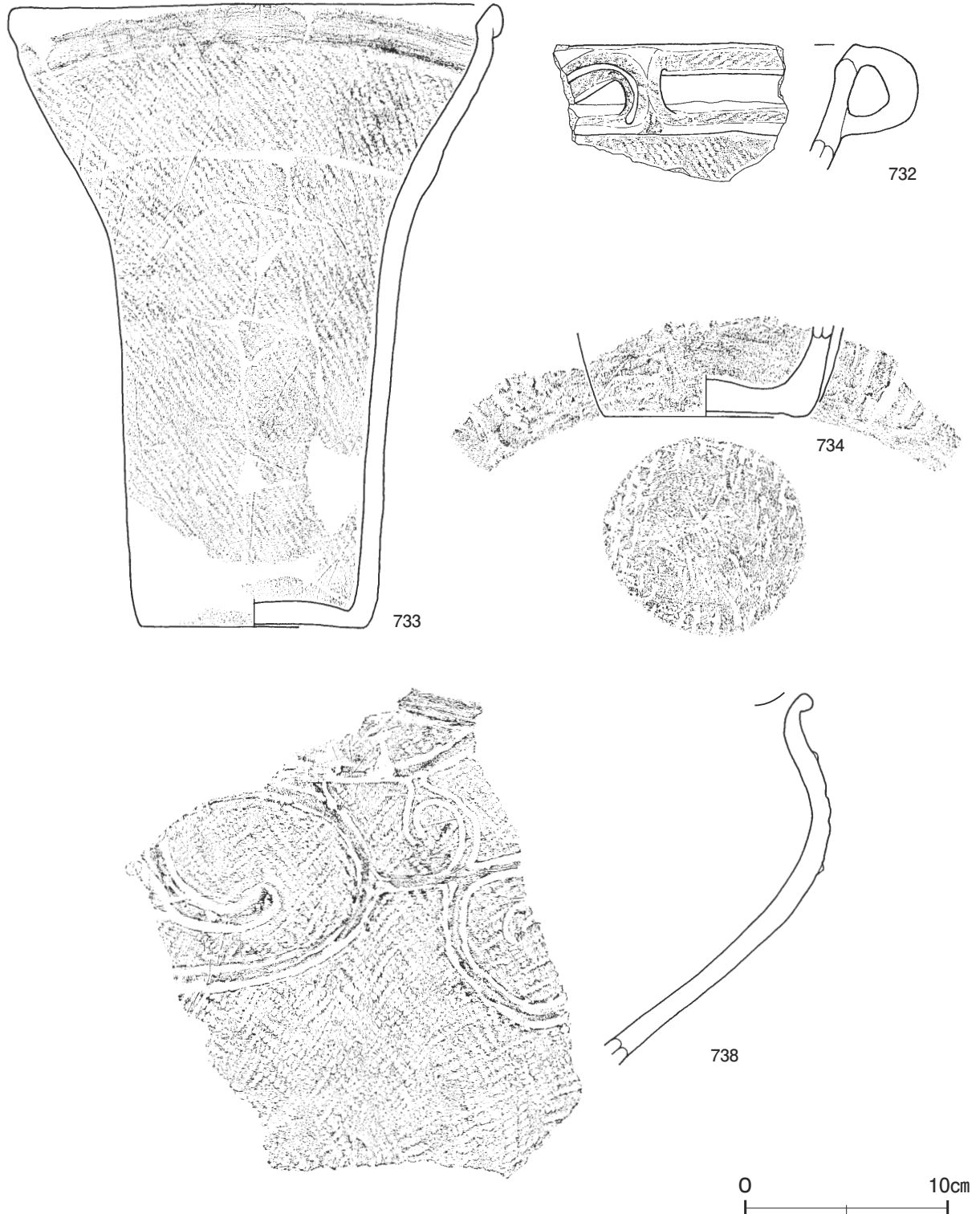
- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | | |



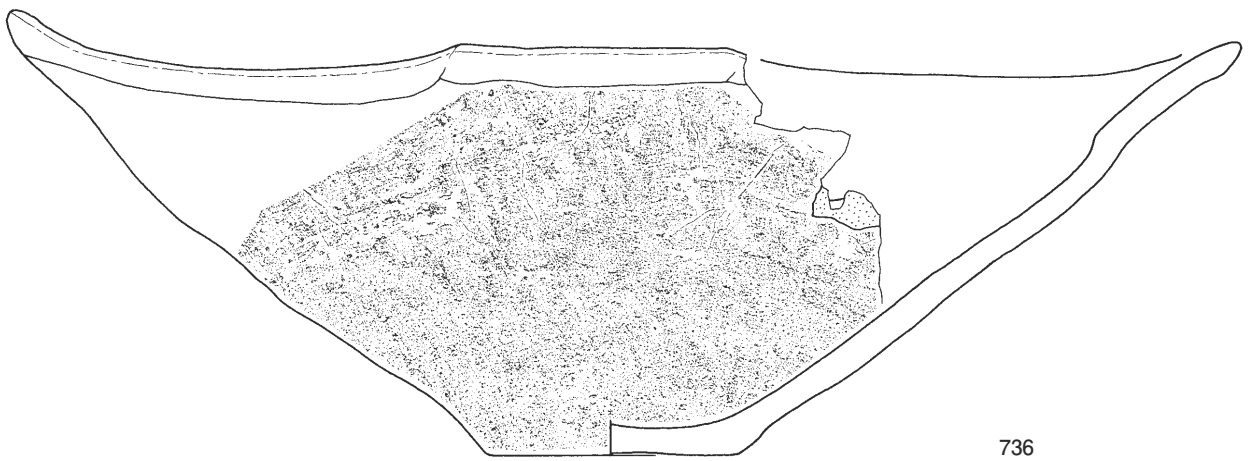
第 273 図 第 213 号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 150 点（深鉢 135, 浅鉢 14, 器台 1）, 石器 6 点（打製石斧 1, 敲石 2, 砥石 1, 台石 2）が出土している。732・734～736・738 は北半部の壁際, 733 は西部及び南部の壁際の覆土下層から, 大型の破片が散乱した状態で出土している。いずれも埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

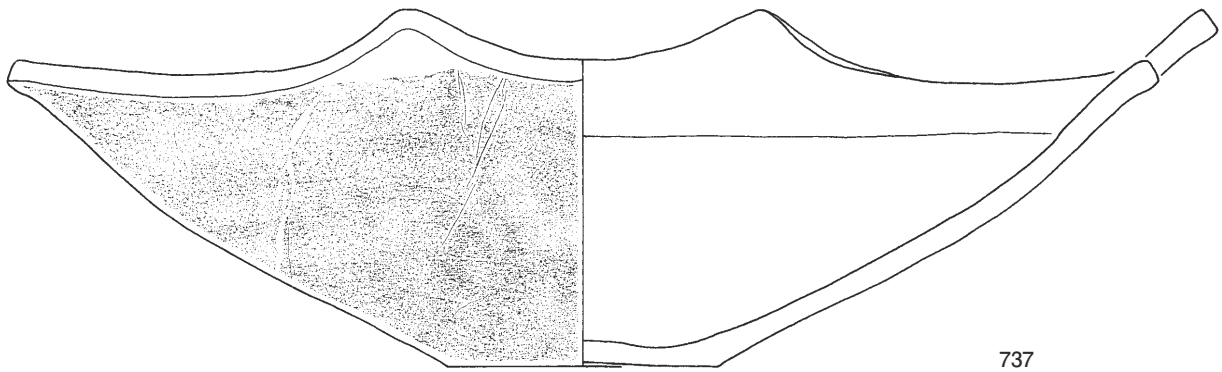
所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



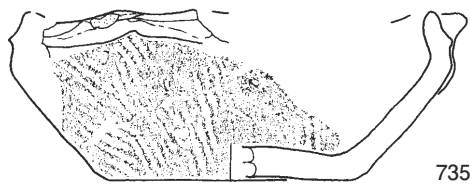
第 274 図 第 213 号土坑出土遺物実測図 (1)



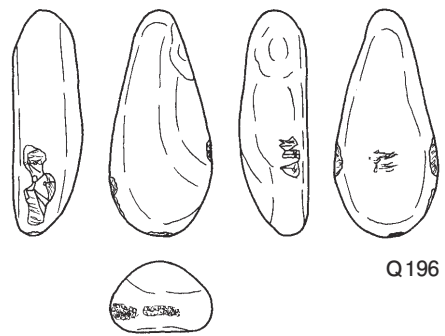
736



737



735



Q196



第 275 图 第 213 号土坑出土遗物实测图 (2)

第 213 号土坑出土遺物観察表 (第 274・275 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
732	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁上部に隆帯と橋状把手貼付 隆帯上に無節縄文L(横) 胴部同一原体による縦位施文	覆土下層	
733	縄文土器	深鉢	23.6	30.9	10.8	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	口縁部肥厚 肥厚部無文 地文に単節縄文LR(縦) 底部ナデ	覆土下層	80% PL128
734	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	10.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐	普通	2条の蒲鉾状隆帯が垂下 横位のナデ 底面網代痕	覆土下層	10%
735	縄文土器	浅鉢	[15.8]	6.7	[9.8]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部断面三角形の隆起帯を巡らせ部分的に突起貼付 地文に無節縄文L(縦)	覆土下層	30% PL128
736	縄文土器	浅鉢	48.6	16.8	9.9	長石・石英・雲母	褐	普通	外・内面横位の丁寧な磨き 底面網代痕 2か所穿孔あり	覆土下層	50% PL128
737	縄文土器	浅鉢	[49.0]	14.3	11.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外・内面丁寧な磨き 口縁部及び口唇部赤彩痕 底面網代痕	覆土下層	60% PL128
738	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に単節縄文RL(横・縦)で羽状に施文 隆帯による文様描画 隆帯に沿って有節沈線 内面上部赤彩痕	覆土下層	PL128

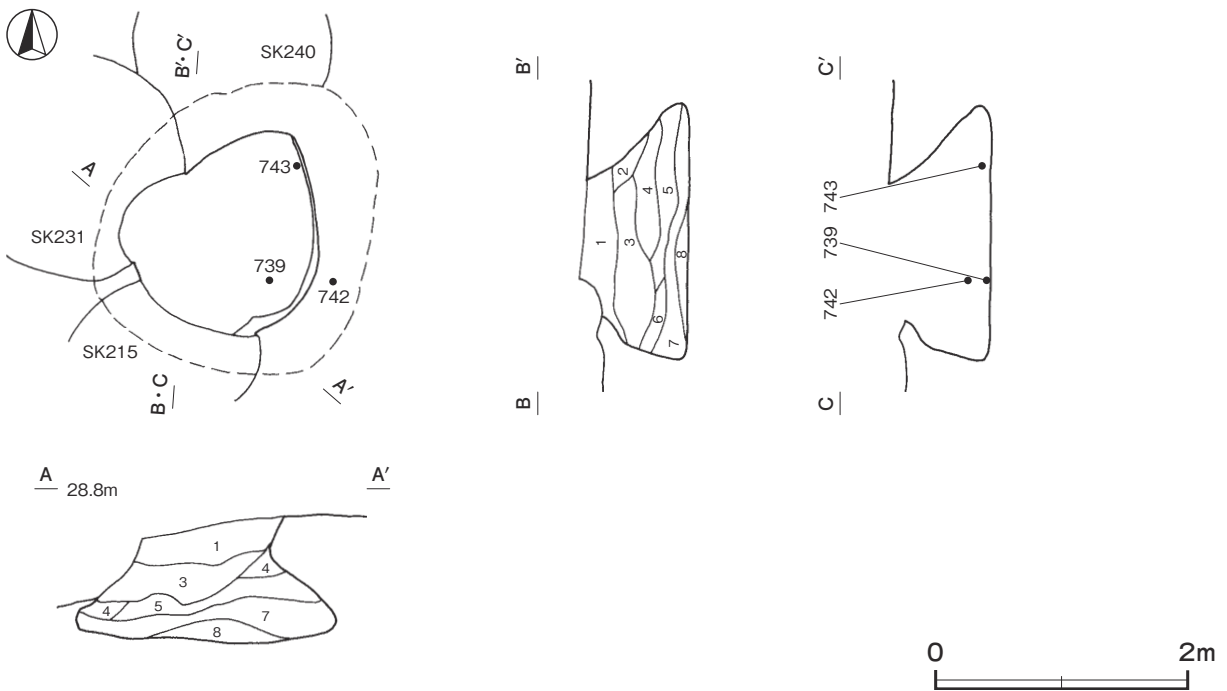
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 196	敲石	9.0	4.1	2.8	128.5	流紋岩	側縁の一部と端部に敲打痕	覆土中	PL172

第 216 号土坑 (第 276・277 図)

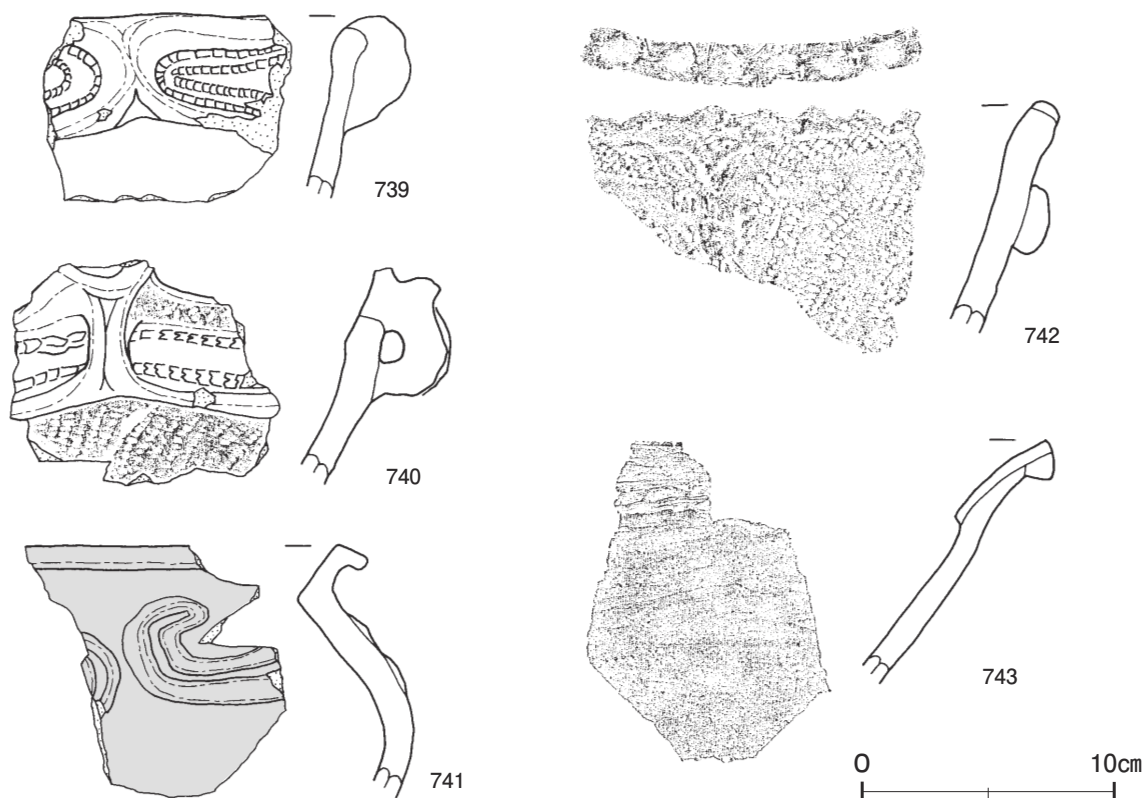
位置 調査区北西部の C 2 b7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 240 号土坑を掘り込み, 第 215・231 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西・南部を第 215・231 号土坑に掘り込まれているため, 開口部は長径が 1.66 m, 短径が 1.32 m しか確認できなかった。不整楕円形で, 長径方向は N - 23° - E である。底面は長径 2.45 m, 短径 2.14 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 98cm である。壁は内傾して袋状を呈し, 底面から 74cm のところでくびれ, 上位はほぼ直立している。



第 276 図 第 216 号土坑実測図



第 277 図 第 216 号土坑出土遺物実測図

覆土 8層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 96 点（深鉢 86, 浅鉢 10）、石器 3 点（磨製石斧 1, 磨石 2）、剥片 3 点（瑪瑙）が出土している。739・742・743 は東半部の覆土下層から散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 216 号土坑出土遺物観察表（第 277 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
739	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部隆帯による楕円区画文 区画間に摘み状に張出す 隆帯に沿って 2本の有節沈線	覆土下層	
740	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英	橙	普通	口縁上部 2条の隆帯 隆帯間有節沈線 橋状把手貼付 隆帯上と胴部単節縄文 RL (横・縦)	覆土中	
741	縄文土器	浅鉢	-	(10.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	背割れ隆帯による蕨手文 外・内面丁寧な磨き 口縁部内面赤彩痕	覆土中	
742	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇頂部指頭による波状圧痕 口縁部 V字状の隆帯貼付 口縁部及び胴部単節縄文 RL (横・縦)	覆土下層	
743	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面横位の丁寧な磨き	覆土下層	

第 222 号土坑 (第 278 図 PL49)

位置 調査区北部の C 3 a4 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 223 号土坑を掘り込み, 第 221 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.94 m, 短径 1.70 m の楕円形で, 長径方向は N - 63° - W である。底面は平坦で, 深さは 42cm である。壁は外傾している。

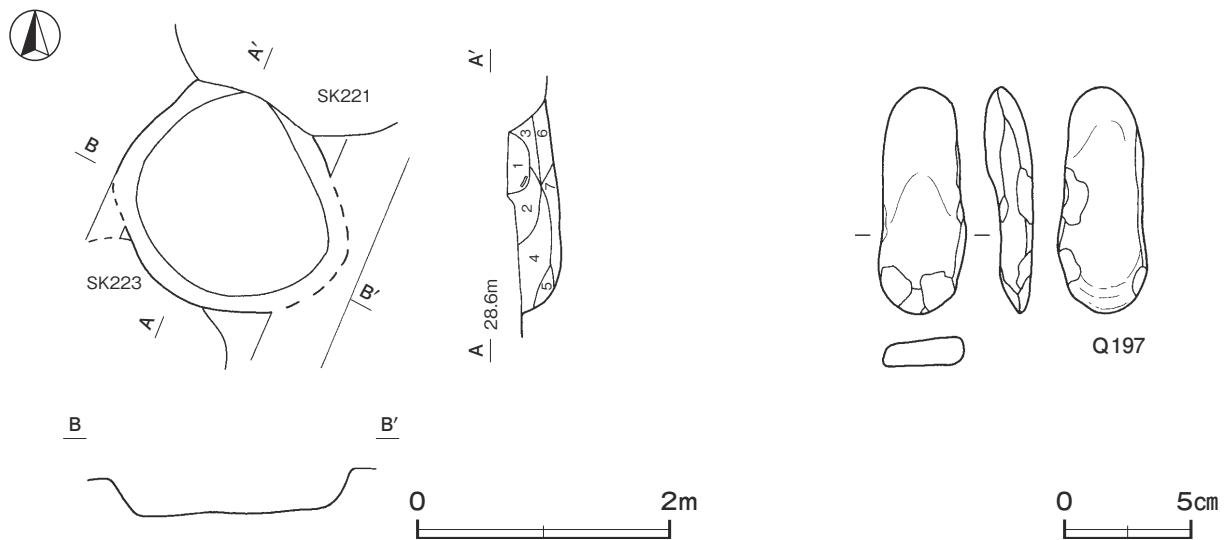
覆土 7 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量 | 5 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 25 点 (深鉢), 石器 2 点 (磨製石斧, 磨石), 剥片 1 点 (石英) が出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期と考えられるが, 詳細は不明である。



第 278 図 第 222 号土坑・出土遺物実測図

第 222 号土坑出土遺物観察表 (第 278 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 197	磨製石斧	9.0	3.5	1.9	82.3	緑色岩	短冊形 表裏面研磨 両側縁微細な敲打痕 刃部は片面を敲打	覆土中	PL168

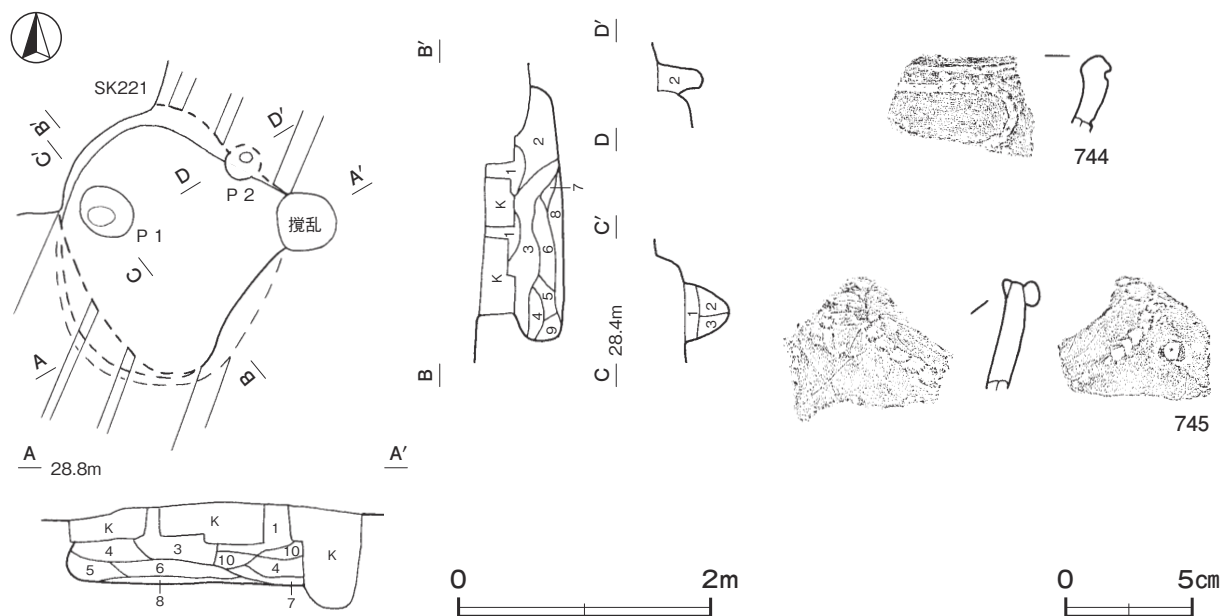
第 224 号土坑 (第 279 図)

位置 調査区北部の C 3 a4 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 221 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 2.16 m, 短径 1.76 m の不定形である。底面は径 1.90 ~ 2.06 m の不整形円で, 平坦である。確認面からの深さは 64cm である。壁は北半部が外傾しており, 南半部が内彎して, 袋状を呈している。

ピット 2 か所。深さは, P 1 が 36cm, P 2 が 38cm で, 性格は不明である。



第 279 図 第 224 号土坑・出土遺物実測図

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量
- 8 黒褐色 ロームブロック微量
- 9 黒褐色 ロームブロック少量
- 10 極暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 54 点（深鉢），石器 1 点（磨石）が出土している。

所見 上部が耕作による攪乱を受けているため明確でないが、規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第 224 号土坑出土遺物観察表（第 279 図）

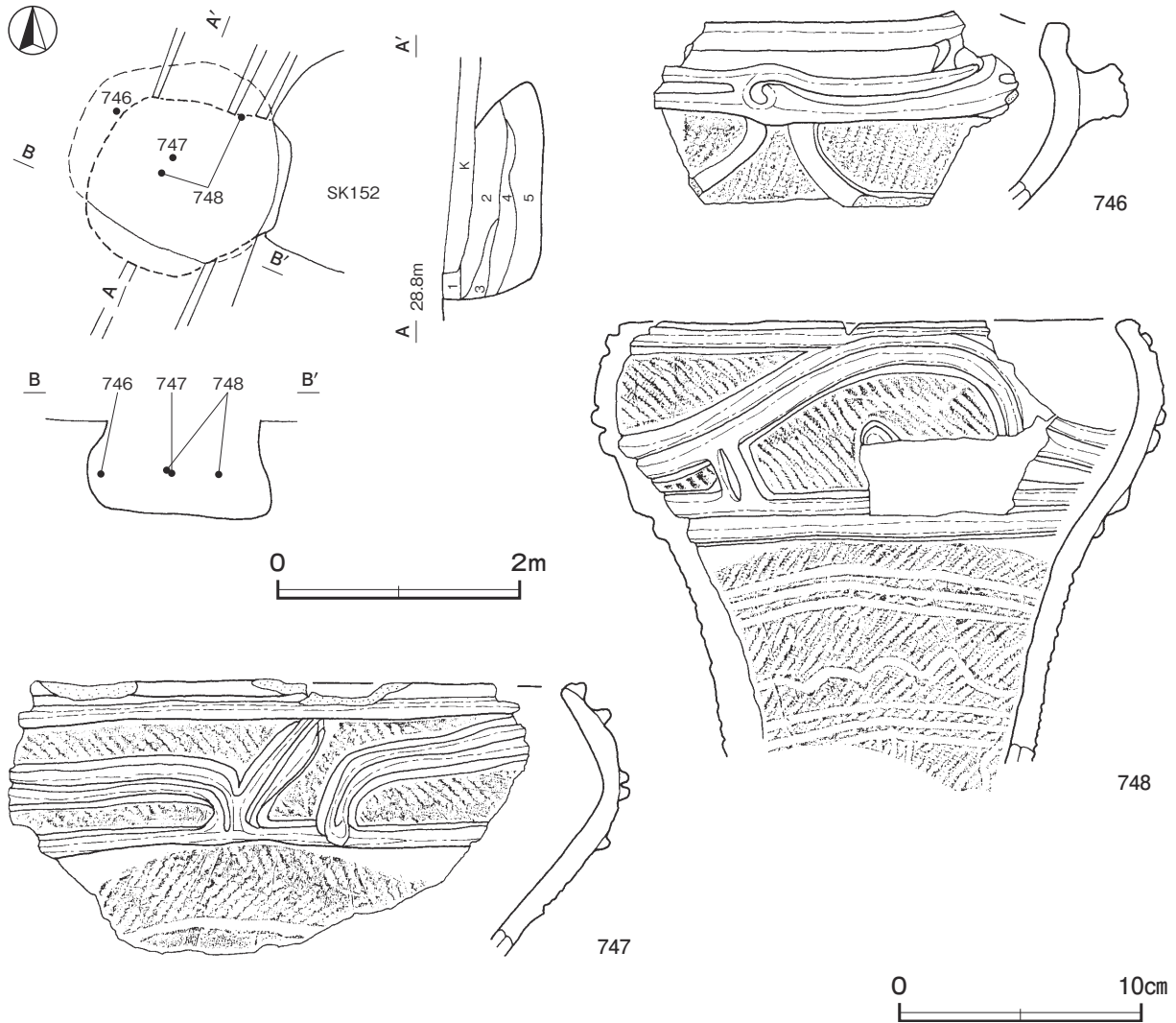
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
744	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	有節沈線による楕円区画文	覆土中	
745	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	波頂部に摘み状の突起 外・内面口縁に沿って有節沈線 内面円形刺突文	覆土中	

第 227 号土坑（第 280 図）

位置 調査区中央部の C 3e2 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 152 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径 1.76 m、短径 1.45 m の不整楕円形で、長径方向は N - 64° - E である。底面は径 1.72 ~ 1.78 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 81cm である。壁は南・東部がほぼ直立している。北・西部は内彎して、袋状を呈しており、底面から 54 ~ 56cm のところでぐびれ、上位は直立している。



第 280 図 第 227 号土坑・出土遺物実測図

覆土 5層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 4 におい黄褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 99 点 (深鉢), 石器 1 点 (磨石), 石核 2 点 (瑪瑙), 剥片 3 点 (石英 1, 瑪瑙 2) が出土している。746～748 は, 覆土中層の第 2 層から破片が散乱した状態で出土しており, いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 227 号土坑出土遺物観察表 (第 280 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
746	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母	におい黄褐	普通	口縁部厚みのある隆帯貼付 隆帯上に沈線 頸部単節縄文 RL (縦) と隆帯貼付	覆土中層	
747	縄文土器	深鉢	-	(11.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部地文に単節縄文 RL (横) と頸部 RL (縦) で羽状構成に施文 背割れ隆帯によるクランク文 頸部沈線が一巡し無文帯	覆土中層	10%
748	縄文土器	深鉢	[21.0]	(18.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部 0 段多条縄文 RL (横) 背割れ隆帯 胴部同一原体の縦位施文 沈線による文様描画	覆土中層	20%

第 229 号土坑 (第 281 図 PL35)

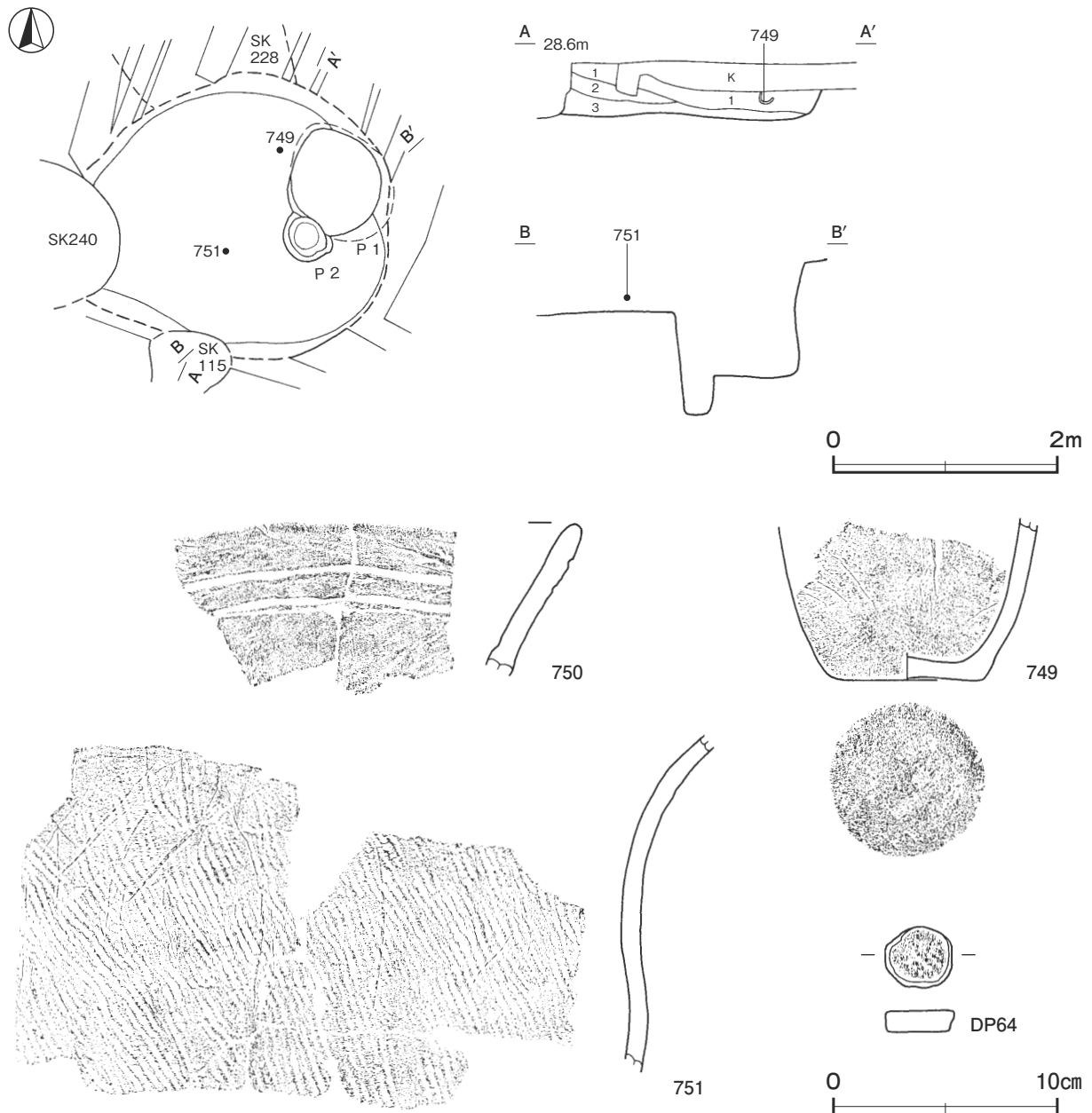
位置 調査区北西部の C 2 b 8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 228 号土坑を掘り込み, 第 115 号土坑に掘り込まれている。第 240 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 耕作による攪乱を受け, 西部が第 240 号土坑と重複しているため, 長径は 2.84 m しか確認できなかった。短径は 2.38 m で, 楕円形と推定でき, 長径方向は N - 80° - W である。底面は平坦で, 深さは 47 cm である。壁は外傾している。

ピット 2 か所。P 1 は径 83 ~ 91 cm の円形で, 深さ 55 cm である。北東壁際に位置していることから, 補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は深さ 92 cm である。柱穴と考えられる。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。



第 281 図 第 229 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子多量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 176 点 (深鉢), 土製品 1 点 (土器片円盤), 剥片 4 点 (チャート 2, 石英 1, 泥岩 1) が出土している。749 は北部, 751 は中央部の覆土中層から, 破片が散乱した状態で出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 上部が耕作による攪乱を受けているため明確でないが, 規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 229 号土坑出土遺物観察表 (第 281 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
749	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	6.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面・底面丁寧なナデ 一部単節縄文 RL (縦)	覆土中層	20%
750	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部撚りの緩い単節縄文 RL (横) 口縁下同一原体 (縦) 2本の並行沈線一巡	覆土中	
751	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に 0 段多条縄文 RL (横) 頸部無文帯	覆土中層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP64	土器片円盤	2.8	3.0	1.0	10.7	長石・石英・雲母	橙	胴部片 周縁部丁寧に研磨	覆土上層	

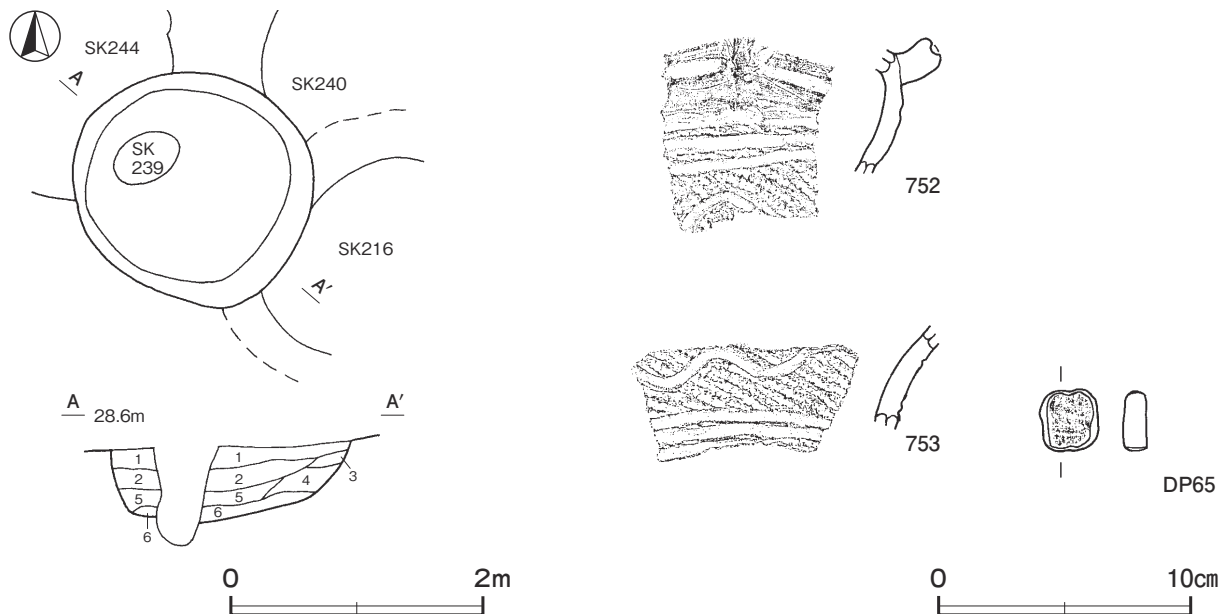
第 231 号土坑 (第 282 図)

位置 調査区北西部の C 2 b7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 216・240・244 号土坑を掘り込み, 第 239 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.80 ~ 1.93 m の円形である。底面は平坦で, 深さは 57cm である。壁は外傾している。

覆土 6 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている



第 282 図 第 231 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|-------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 6 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 25 点 (深鉢 17, 浅鉢 8), 土製品 1 点 (土器片錘), 剥片 2 点 (泥岩, 瑪瑙) が出土している。

所見 規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 231 号土坑出土遺物観察表 (第 282 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
752	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	厚みのある隆帯貼付 隆帯上に沈線 地文に単節縄文 LR (縦) 沈線による文様描画	覆土中	753 と同一個体
753	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 沈線による文様描画	覆土中	752 と同一個体

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP65	土器片錘	2.4	2.3	0.9	5.7	長石・石英	明褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	

第 235 号土坑 (第 283 ~ 285 図 PL50)

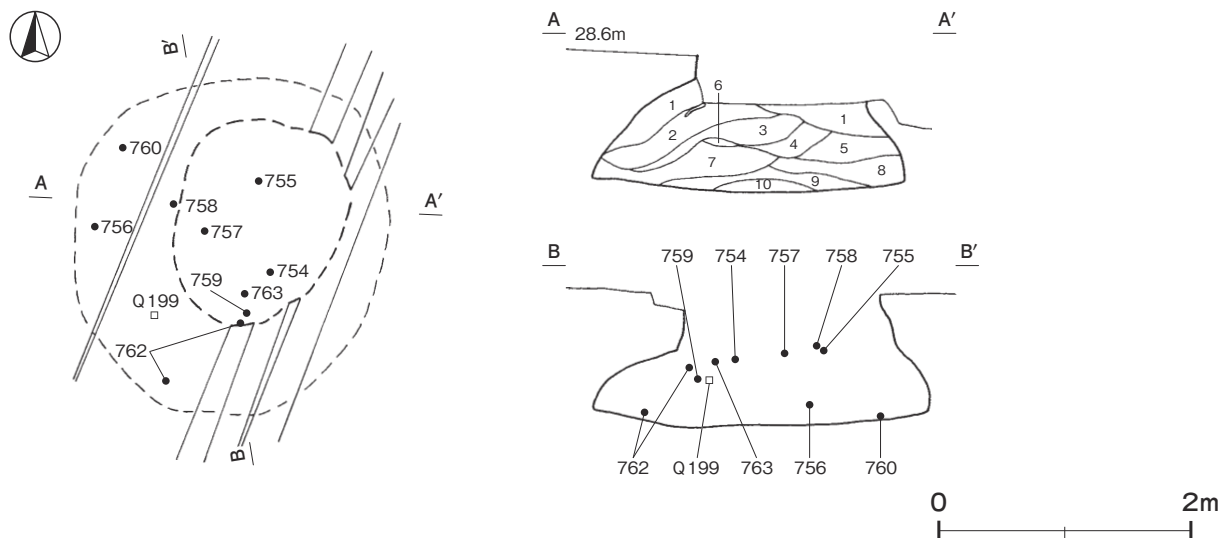
位置 調査区北西部の C 2 a7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 1.68 m, 短径 1.38 m の楕円形で, 長径方向は N - 22° - E である。底面は径 2.57 ~ 2.76 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 105cm である。壁は大きく内傾して袋状を呈し, 底面から 60 ~ 89cm のところでぐびれ, 上位はほぼ直立している。

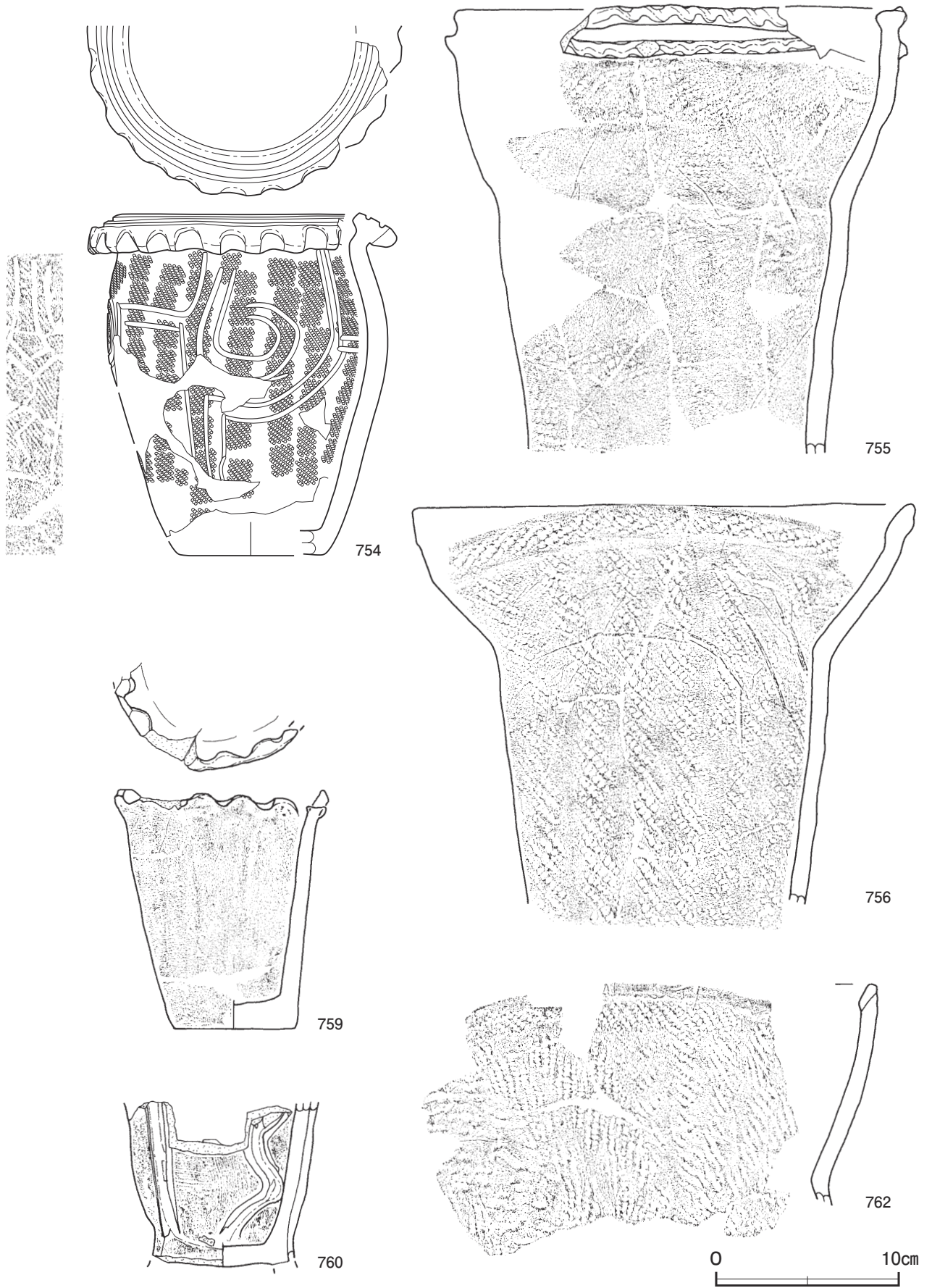
覆土 10 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

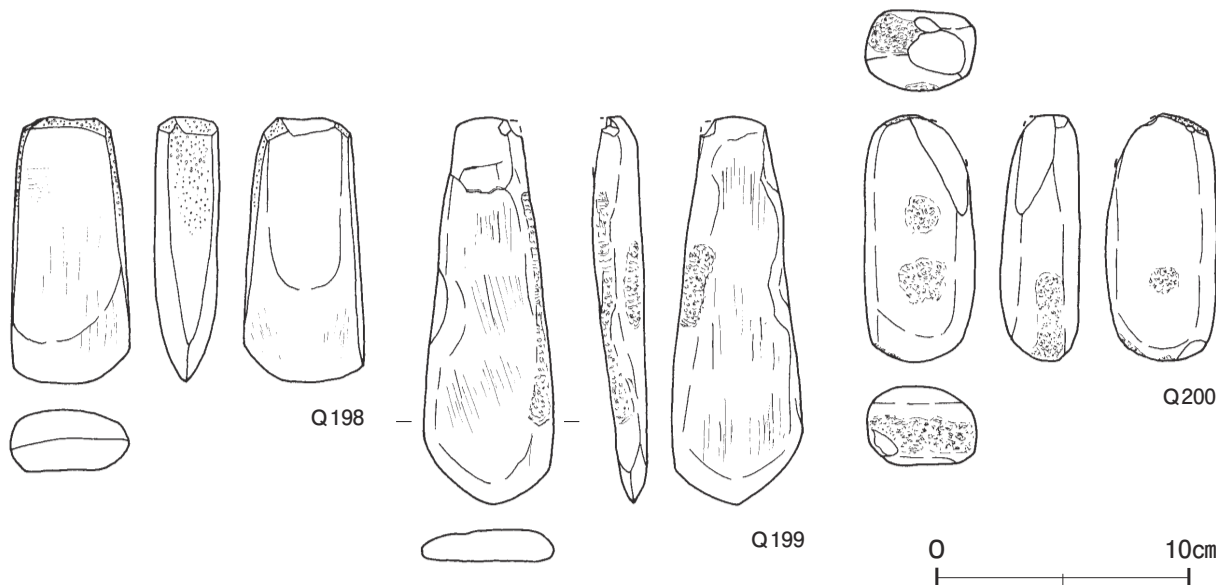
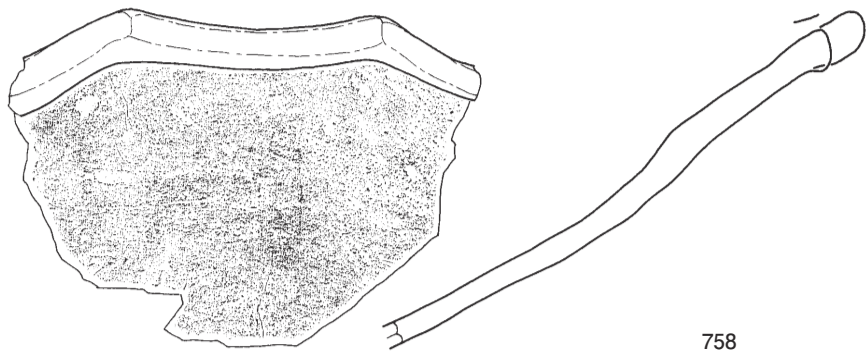
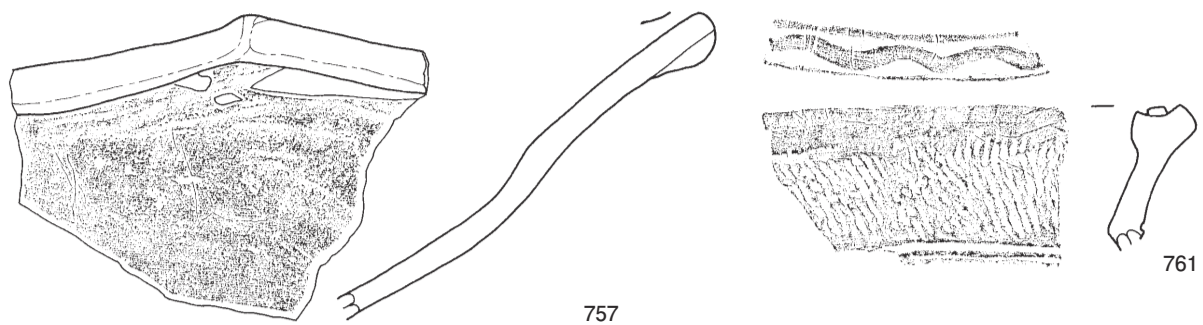
- | | | | |
|---------|-------------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子多量, 炭化物・焼土粒子微量 | 7 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子多量 | 8 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 10 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |



第 283 図 第 235 号土坑実測図



第 284 図 第 235 号土坑出土遺物実測図(1)



第 285 图 第 235 号土坑出土遗物实测图(2)

遺物出土状況 縄文土器片 275 点（深鉢 265, 浅鉢 8, 小型土器 1, 小型台付土器 1), 石器 4 点（磨製石斧 2, 磨石 1, 敲砥石 1）が出土している。756・760 は, 覆土下層から出土しており, 廃絶直後に投棄されたものと考えられる。754・755・757～759・762・763, Q 199 は, 覆土上層の第 1・2 層を中心に, 破片が散乱した状態で出土していることから, ある程度埋め戻された段階で一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 235 号土坑出土遺物観察表（第 284・285 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
754	縄文土器	深鉢	13.2	18.7	8.1	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい褐	普通	口縁部庇状の隆帯が巡る 口唇頂部 2本の沈線が周囲 胴部単節縄文 LR (縦) 2本の沈線による区画文・渦巻文	覆土上層	70% PL129
755	縄文土器	深鉢	[24.1]	(24.6)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	2条の交互刺突状の隆帯 地文に単節縄文 LR (横)	覆土上層	50% PL129
756	縄文土器	深鉢	27.2	(22.0)	-	長石・石英	黒褐	普通	口唇部単節縄文 LR (横) 胴部同一原体 (縦) を間隔を開けて施文	覆土下層	60% PL129
757	縄文土器	浅鉢	-	(12.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外・内面磨き 口縁部外・内面赤彩痕	覆土上層	10%
758	縄文土器	浅鉢	-	(13.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面横位の磨き 口唇部・口縁部内面赤彩痕	覆土上層	10% PL129
759	縄文土器	小型土器	[11.0]	13.2	6.6	長石・石英	赤褐	普通	口唇頂部指頭による波状口縁 外面縦位の磨き 内面横位の磨き 底部ナデ	覆土上層	80% PL129
760	縄文土器	小型台付土器	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	直線的隆帯と蛇行状隆帯を交互に垂下 隆帯に沿って沈線 隆帯間歯状工具による施文	覆土下層	30% PL129
761	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部平坦面作出し蛇行状隆帯貼付 口縁部無節縄文 L (縦) 口縁部下端並行沈線	覆土下層	
762	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口縁部単節縄文 RL (横) 口縁下部撚りのほどけた同一原体 (縦), 一部 (斜)	覆土上・下層	
763	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	外・内面横位の磨き	覆土上層	PL129

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 198	磨製石斧	10.6	4.8	2.5	233.7	輝緑岩	定角式 ハマグリ刃 側縁部に弱い稜 片面に凹状の研磨痕 基部に敲打痕	覆土中	PL167 砥石再利用 _a
Q 199	磨製石斧	8.0	6.7	4.6	(202.4)	変質ドレライト	短冊形 表裏面研磨 片側縁微細な敲打調整 刃部は表裏から研ぎ出す 剣先状	覆土上層	PL168
Q 200	敲砥石	9.8	4.4	3.1	(226.1)	ホルンフェルス	楕円礫の両端及び表裏に敲打痕・砥面をもつ	覆土中	PL172

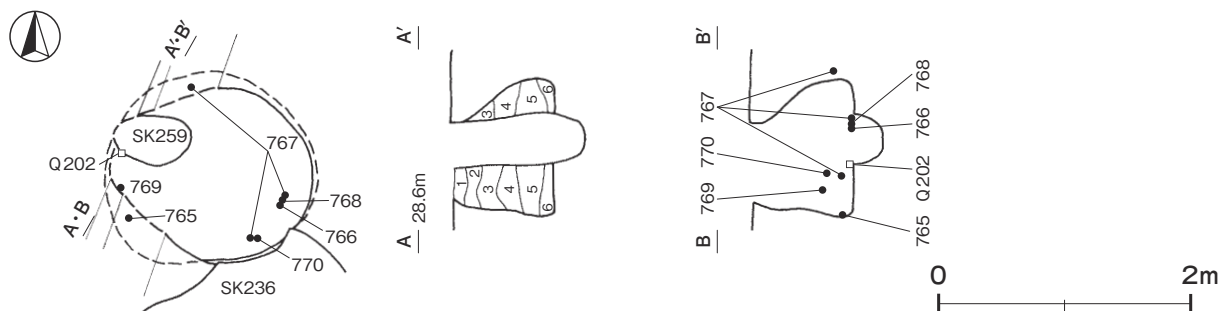
第 238 号土坑（第 286～288 図）

位置 調査区北西部の C 2 a7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

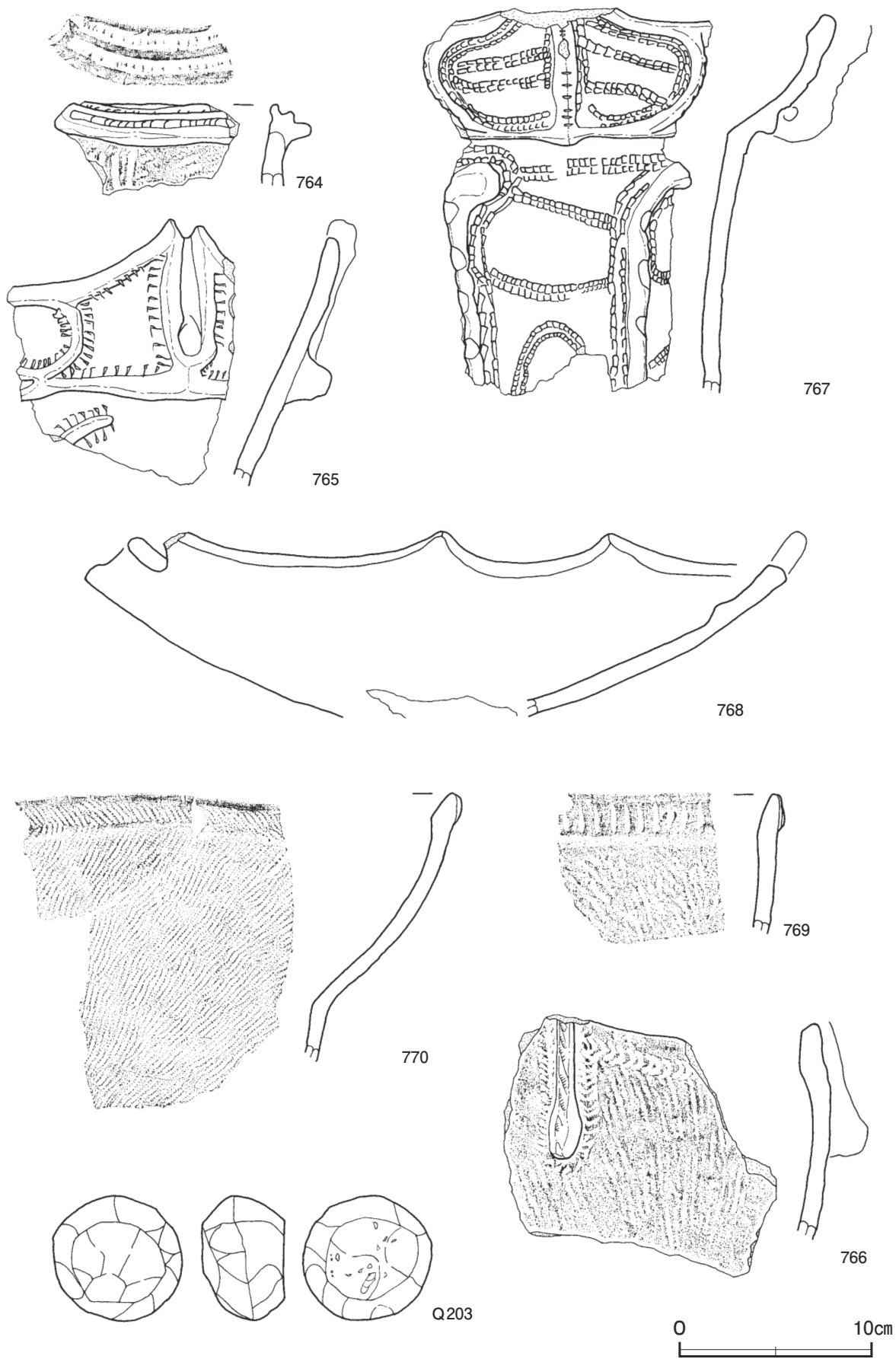
重複関係 第 236・259 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.58 m, 短径 1.34 m の楕円形で, 長径方向は N - 83° - W である。底面は径 1.60 ~ 1.62 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 79cm である。壁はやや内彎しており, 袋状を呈している。

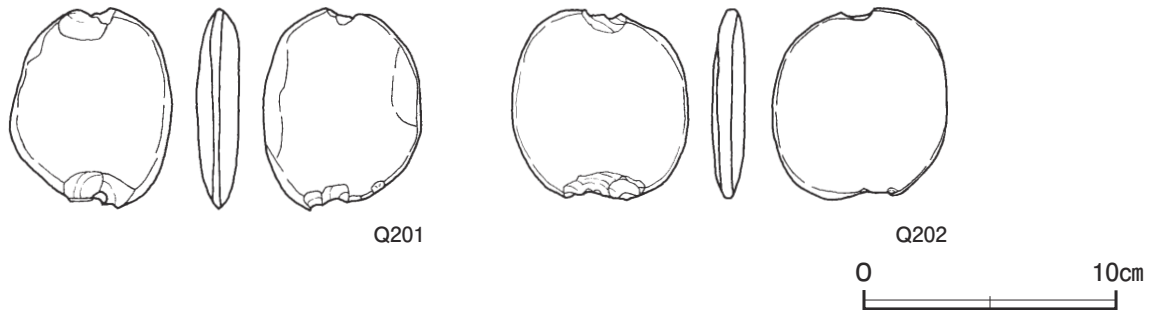
覆土 6 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。覆土上層には, 焼土塊が投棄されている。



第 286 図 第 238 号土坑実測図



第 287 图 第 238 号土坑出土遗物实测图 (1)



第 288 図 第 238 号土坑出土遺物実測図 (2)

土層解説

- | | | | | | |
|---|------|-----------------------------|---|-----|------------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化物微量 | 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| | | | 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | | 6 | 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 99 点 (深鉢 93, 浅鉢 6), 石器 3 点 (石錘 2, 敲砥石 1), 剥片 1 点 (チャート) が出土している。765 ~ 770, Q 202 は, 各壁際の覆土下層から破片が散乱した状態で出土している。いずれも埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

第 238 号土坑出土遺物観察表 (第 287・288 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
764	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇頂部平坦面に 2 本の有節沈線 胴部単節縄文 RL (縦) 沈線垂下	覆土中	
765	縄文土器	深鉢	-	(13.9)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	隆帯による文様描画 隆帯に沿ってキョウビラ文	覆土下層	10%
766	縄文土器	深鉢	-	(13.8)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	縦位の隆帯貼付 口縁部及び隆帯に沿って爪形文 地文に無節縄文 L (縦)	覆土下層	PL131
767	縄文土器	深鉢	-	(20.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部隆帯による区画文 隆帯上キザミ目 区画内有節沈線 胴部隆帯垂下 隆帯上指頭圧痕 隆帯間を有節沈線で文様描画	覆土下層	20% PL131
768	縄文土器	浅鉢	[37.6]	(9.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面横位の削り 内面横・斜位の磨き	覆土下層	30% PL131
769	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部幅広の爪形文 胴部無節縄文 L を多方向に施文	覆土下層	
770	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部単節縄文 RL (横) 胴部同一原体 (縦)	覆土下層	PL131

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 201	石錘	8.0	6.3	1.7	120.0	安山岩	長径方向の両端部敲打痕	覆土中	PL181
Q 202	石錘	7.5	7.0	1.3	104.1	ホルンフェルス	長径方向の両端部敲打痕	覆土下層	PL181
Q 203	敲砥石	6.5	6.7	4.3	267.4	チャート	円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	PL172

第 245 号土坑 (第 289 図 PL50)

位置 調査区北西部の B 2j7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 157 号土坑を掘り込み, 第 248 号土坑に掘り込まれている。

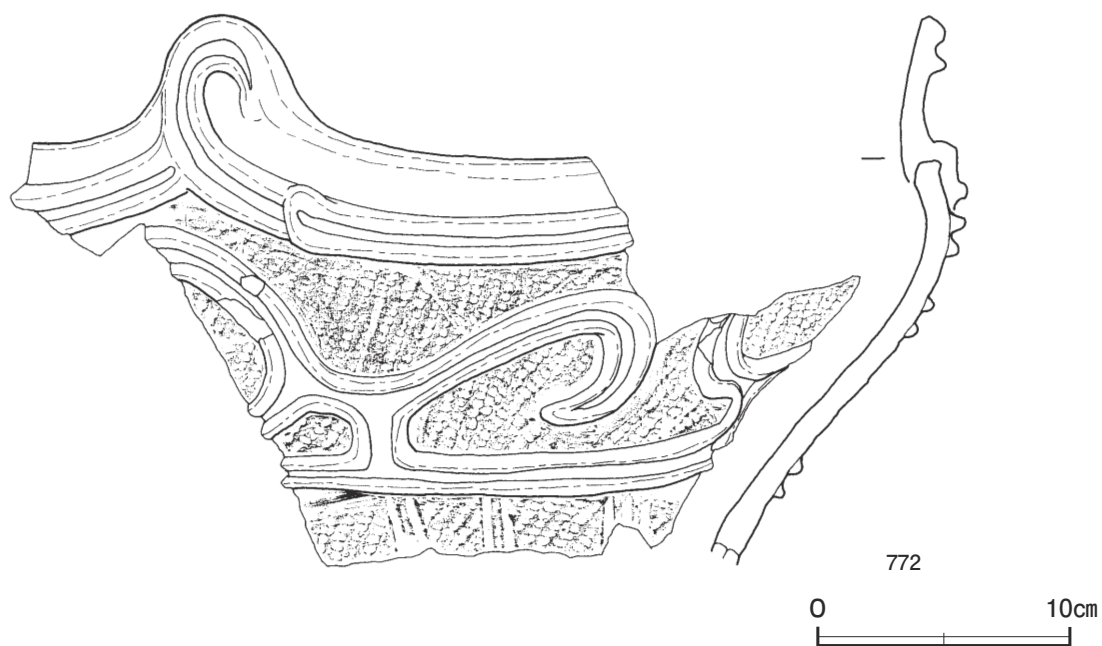
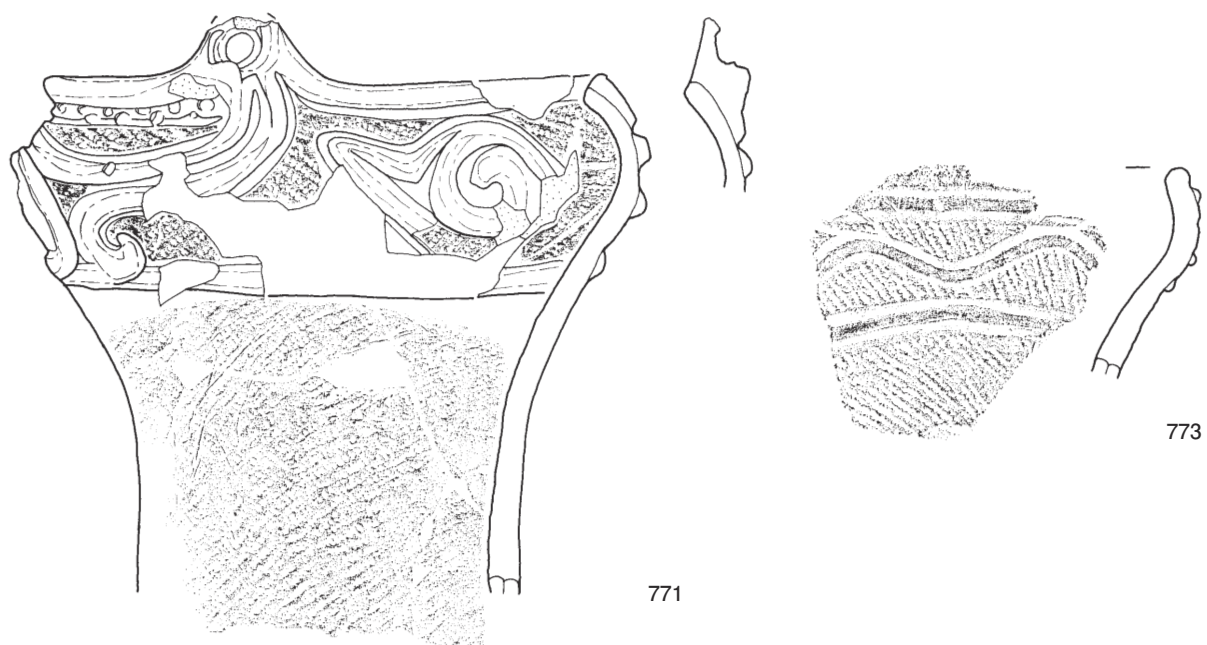
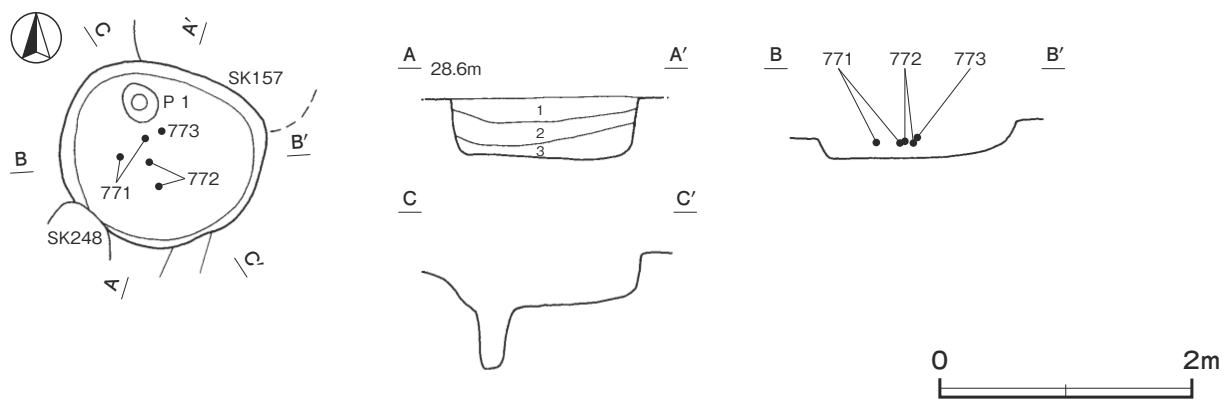
規模と形状 1.48 ~ 1.50 m の円形である。底面は平坦で, 深さは 48cm である。壁は外傾している。

ピット 深さ 46cm で, 柱穴と考えられる。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|--------------------------|---|-----|------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化物 | | | |



第 289 图 第 245 号土坑·出土遺物实测图

遺物出土状況 縄文土器片 62 点（深鉢），剥片 1 点（チャート），礫 1 点が出土している。771～773 は，中央部の覆土中層から破片が散乱した状態で出土しており，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 245 号土坑出土遺物観察表（第 289 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
771	縄文土器	深鉢	21.8	(23.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部地文に単節縄文 RL (横) 隆帯による渦巻文・変形クランク文・剣先文・交互刺突文 口唇部に渦巻状の突起 胴部同一原体 (縦) 口縁部隆帯間に幅広の沈線 渦巻状の突起 口縁部隆帯による文様描画 地文に単節縄文 RL (縦・斜) 胴部並行沈線が垂下	覆土中層	50% PL129
772	縄文土器	深鉢	-	(21.8)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	地文に 1 段多条縄文 LR (縦) 隆帯による並行区画 区画内蛇行隆帯 隆帯に沿って沈線	覆土中層	10% PL129
773	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐 (外) におい黄橙 (内)	普通		覆土中層	

第 247 号土坑（第 290・291 図）

位置 調査区北西部の B 2j6 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 266 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.00 m，短径 1.66 m の楕円形で，長径方向は N - 37° - E である。底面は平坦で，深さは 67cm である。壁は外傾している。

ピット 3 か所。P 1～P 3 は，径 26～45cm，深さ 28～44cm で，規模と形状から柱穴と考えられる。

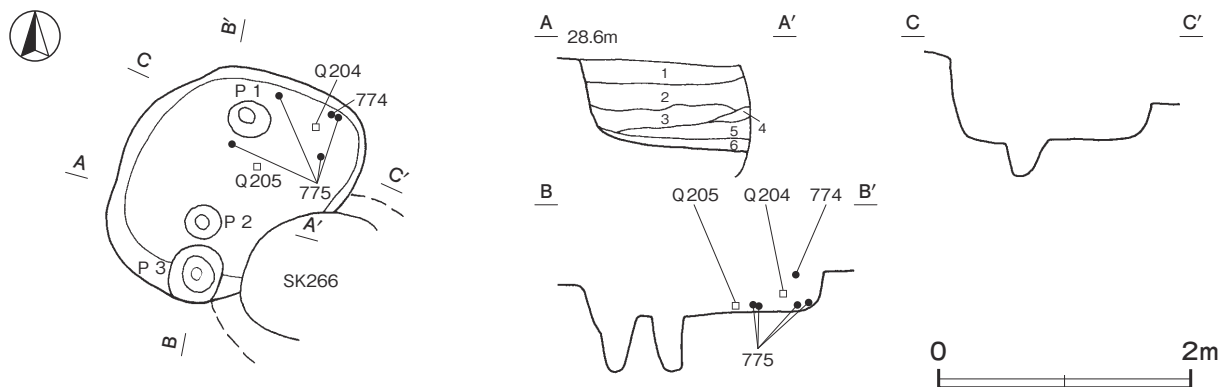
覆土 6 層に分層できる。各層にローム粒子が多量に含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 100 点（深鉢），石器 2 点（鏃，砥石），剥片 1 点（頁岩）が出土している。775 は北部の底面から破片が散乱した状態で，Q 205 は中央部の覆土下層，Q 204 は北東壁際の覆土中層，774 は北東壁際の覆土上層からそれぞれ出土しており，廃絶直後から，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

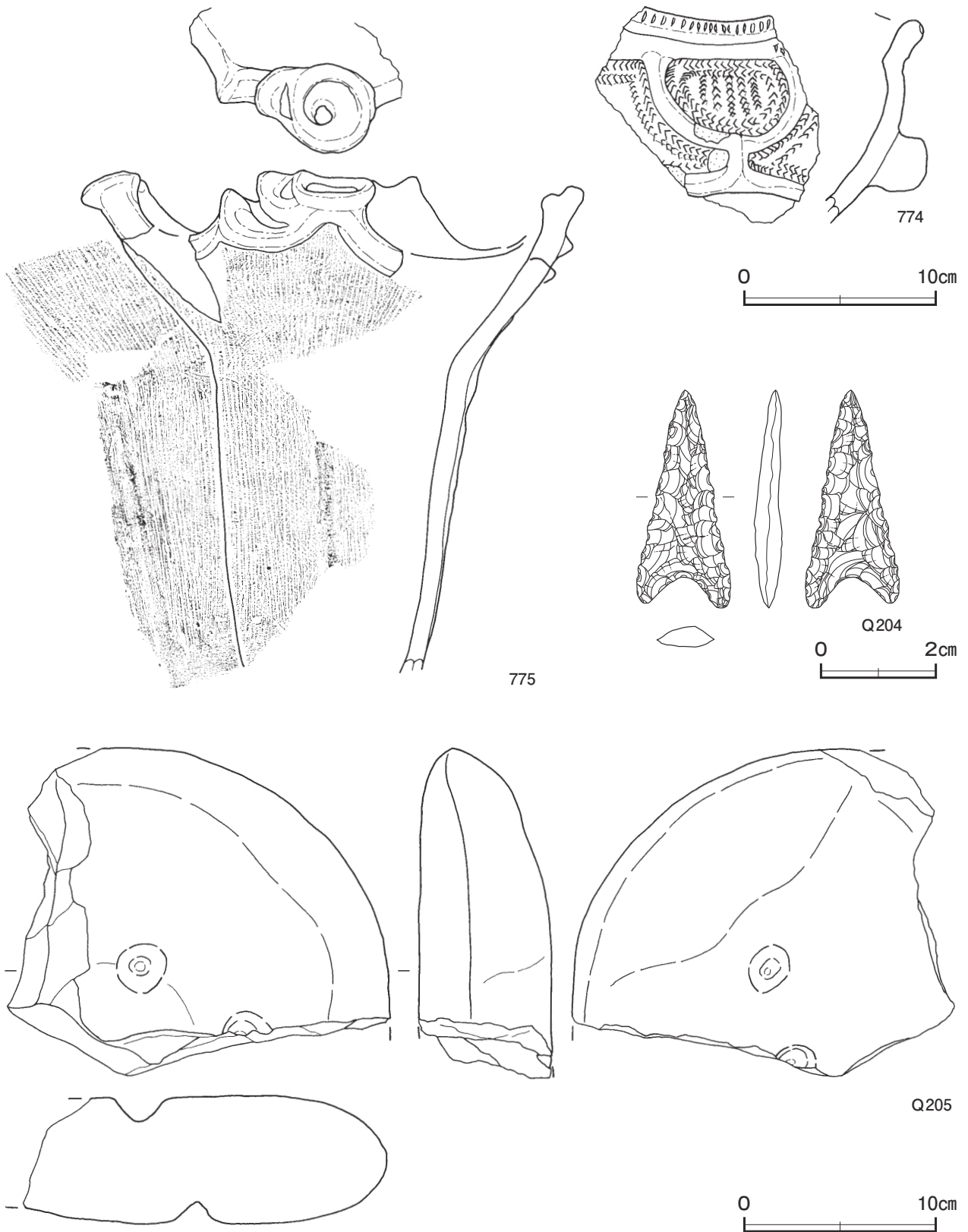
所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第 290 図 第 247 号土坑実測図

第 247 号土坑出土遺物観察表（第 291 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
774	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口唇頂部にキザミ目 口縁部隆帯により区画隆帯交点摘み上げ突起状 区画内ペン先状刺突文	覆土上層	
775	縄文土器	深鉢	23.6	(26.4)	-	長石・石英・雲母	におい赤褐	普通	地文に縦方向の条線文 頸部から隆帯垂下	底面	60% PL130



第 291 図 第 247 号土坑出土遺物実測図

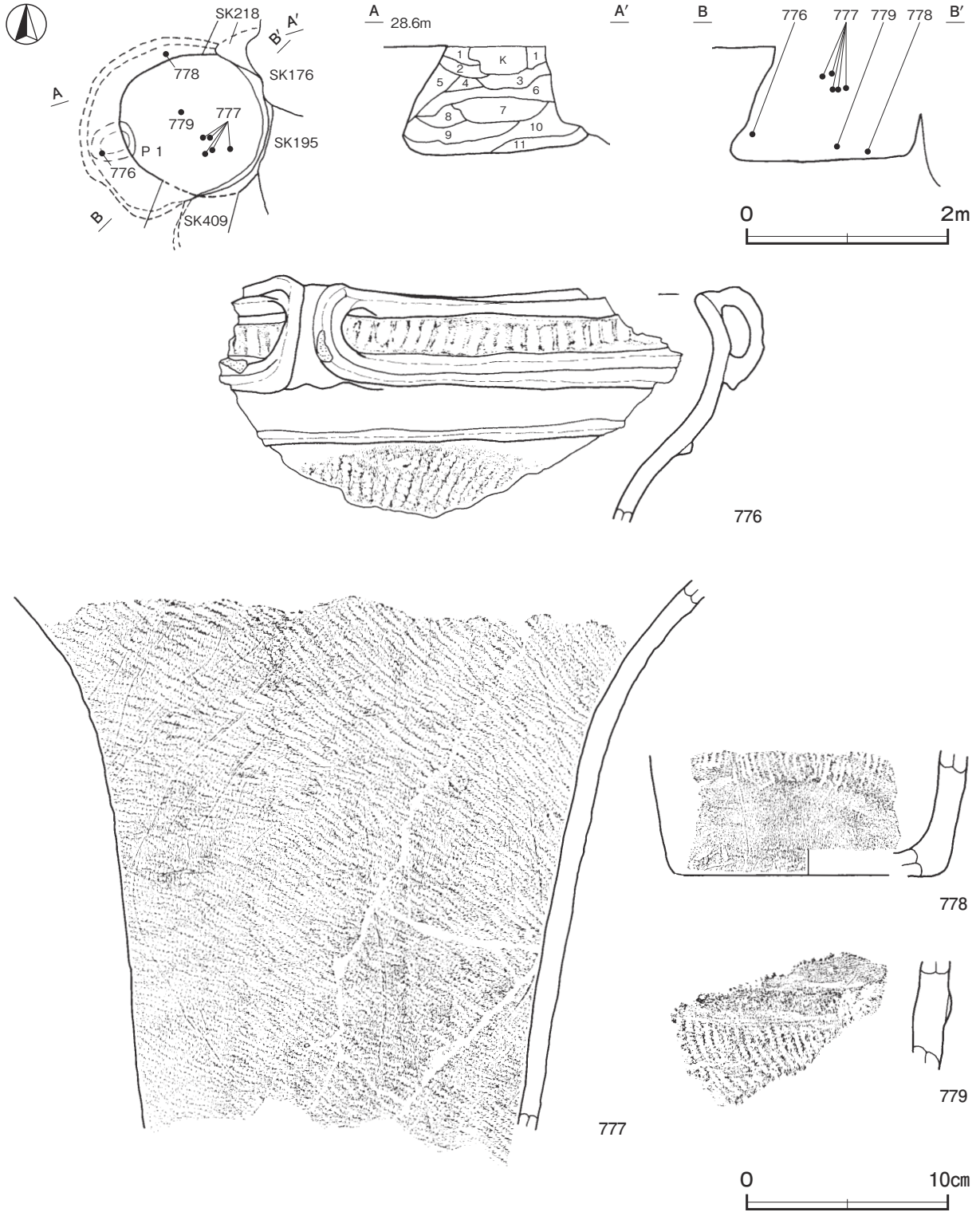
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 204	鏃	3.8	1.7	0.5	2.2	チャート	茎部中央は彎入	覆土中層	PL161
Q 205	砥石	(17.2)	(20.0)	7.0	(29522)	アブライト	石皿転用 表裏面に凹み痕・研磨痕	覆土下層	PL180

第 260 号土坑 (第 292 図 PL51)

位置 調査区北西部の B 2j7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 409 号土坑を掘り込み, 第 176・195・218 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.37 ~ 1.46 m の円形である。底面は径 1.78 ~ 1.88 m の不整形円形で, 平坦である。確認面からの深さは 109cm である。壁は内彎しており, 袋状を呈している。



第 292 図 第 260 号土坑・出土遺物実測図

ピット 長径 46cm, 短径 36cmの楕円形で, 深さ 15cmである。西部の壁際に位置しており, 補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 11層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子, 炭化粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量	8 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
3 黒褐色	炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量	9 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量
4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量
6 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック少量		

遺物出土状況 縄文土器片 208点 (深鉢 207, 浅鉢 1), 石器 1点 (磨製石斧), 剥片 2点 (石英, チャート) が出土している。776・778・779は, 覆土下層から破片が散乱した状態で出土しており, 埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。777は, 中央部の覆土上層の第3層から大型破片がまとまった状態で出土しており, ある程度埋め戻された段階で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 260 号土坑出土遺物観察表 (第 292 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
776	縄文土器	深鉢	-	(120)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇頂部に太い沈線 口縁部背割れ隆帯による区画と把手貼付 区画内幅の太い条線文 地文に単節縄文 RL (縦)	覆土下層	10%
777	縄文土器	深鉢	-	(27.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に0段多条縄文 RL (横)	覆土上層	60% PL130
778	縄文土器	深鉢	-	(62)	[13.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	縦位の燃糸文 胴部下半及び底面磨き	覆土下層	
779	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	低い隆帯貼付 0段多条縄文 LR (縦)	覆土下層	

第 266 号土坑 (第 293 図)

位置 調査区北西部の B 2j6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 247 号土坑を掘り込み, 第 248・265 号土坑に掘り込まれている。

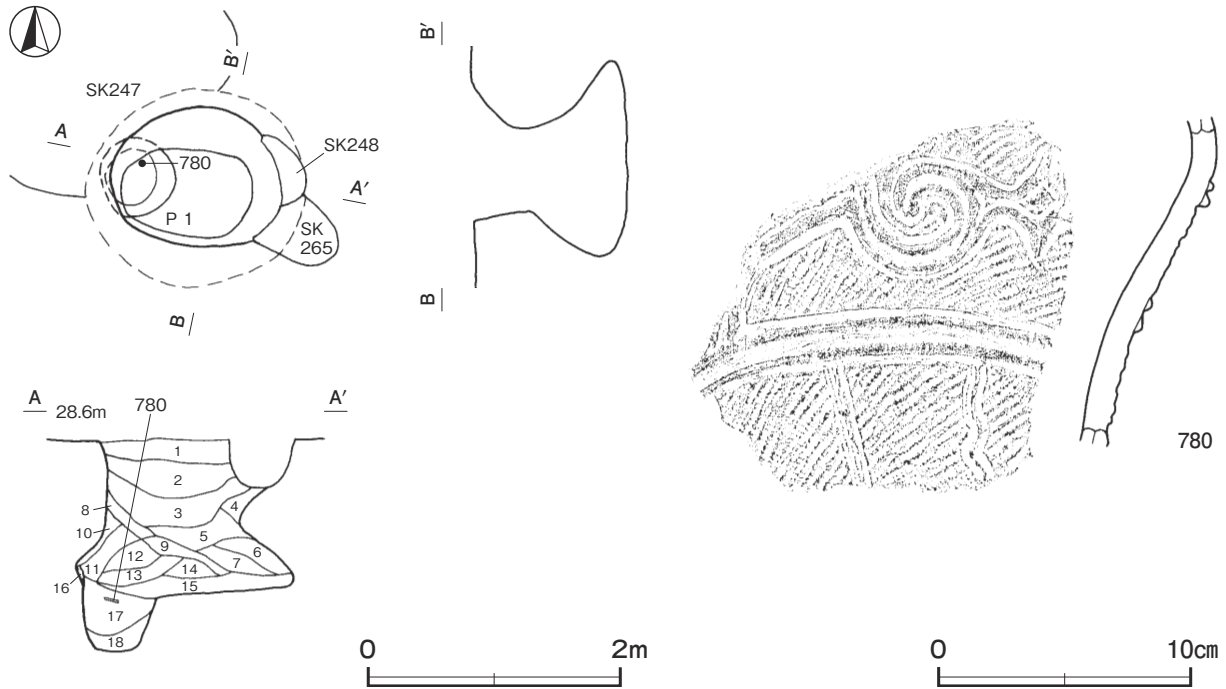
規模と形状 東部を第 248・265 号土坑に掘り込まれているため, 開口部は長径が 1.52 m しか確認できなかった。短径 1.18 m の楕円形で, 長径方向は N - 80° - W である。底面は長径 1.70 m, 短径 1.56 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 120cm で, 壁は内傾して袋状を呈し, 底面から 57 ~ 75cm のところでくびれて, 上位は外傾している。

ピット 径 60cm, 深さ 46cm で, 西部の壁際に位置している。補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 16層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。第 17・18層は P 1 の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	12 褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
4 極暗褐色	ロームブロック中量	13 褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
5 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	14 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック少量	15 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック中量	16 褐色	ローム粒子多量
8 暗褐色	ローム粒子少量	17 暗褐色	ロームブロック多量
9 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量	18 褐色	ロームブロック多量



第 293 図 第 266 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 2 点（深鉢）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 266 号土坑出土遺物観察表（第 293 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
780	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	地文に単節縄文 RL（縦）隆帯による渦巻文・剣先文。胴部横走する背割れ隆帯から 2 本の並行沈線・蛇行線が垂下	P 1 覆土上層	PL130

第 267 号土坑（第 294・295 図）

位置 調査区北西部の B 2j6 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号竪穴建物跡、第 264・395 号土坑を掘り込んでいる。

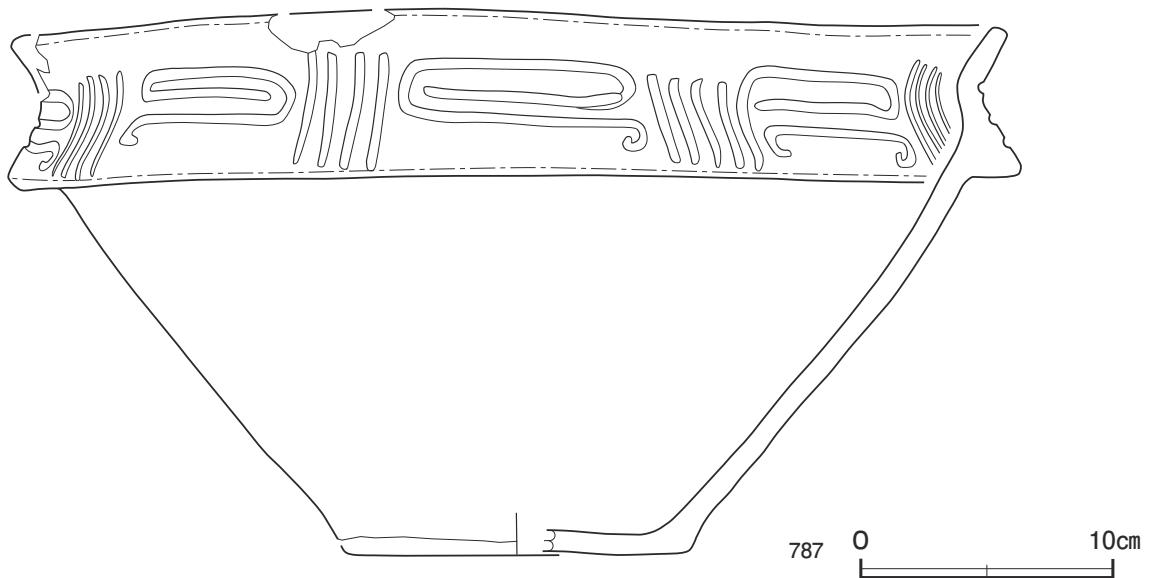
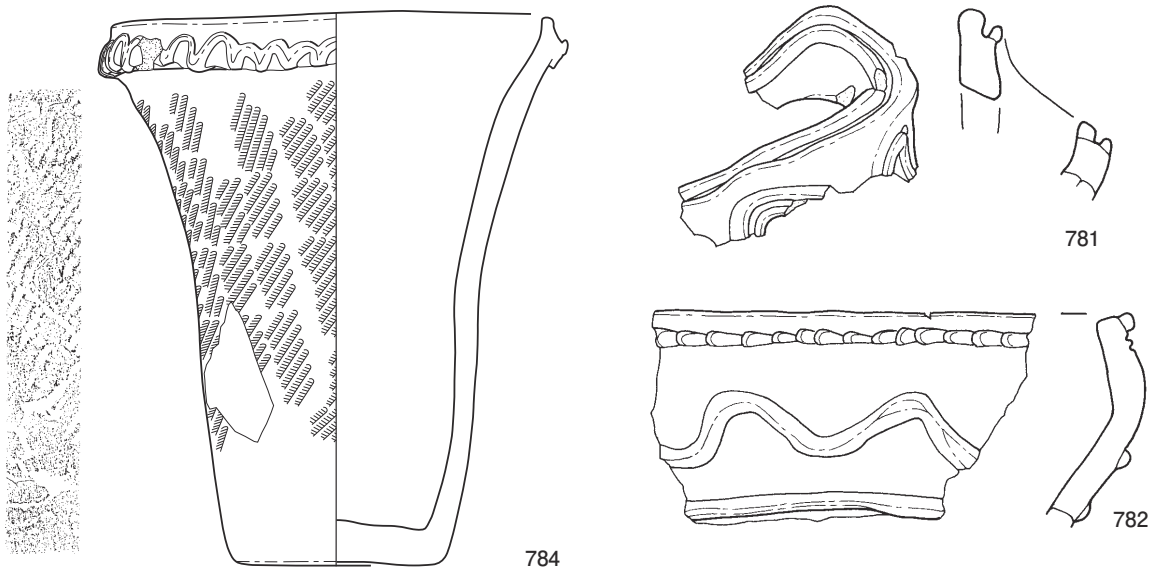
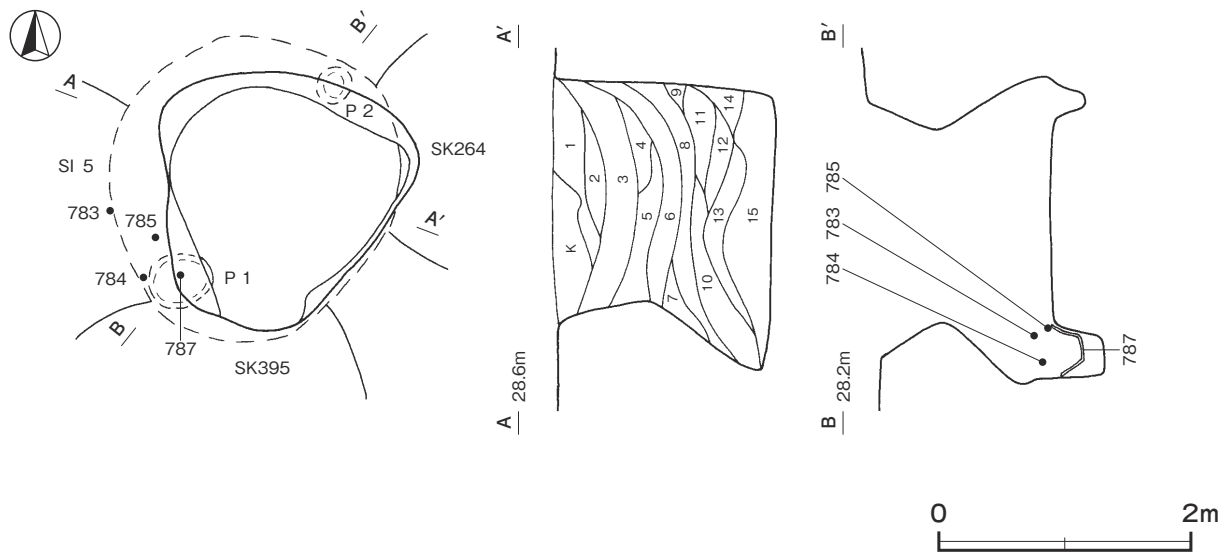
規模と形状 開口部は径 2.05 ~ 2.08 m の不整形である。底面は径 2.24 ~ 2.25 m の不整形で、平坦である。確認面からの深さは 176cm である。壁は南東部が直立しており、その他は内傾して袋状を呈している。底面から 88 ~ 97cm のところでくびれて、上位は外傾している。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は、径 49・30cm、深さ 44・24cm で、南西部と北東部の壁際に対峙して位置している。P 1 は、787 の浅鉢がほぼ正位で据え置かれており、補助的な貯蔵施設と考えられる。

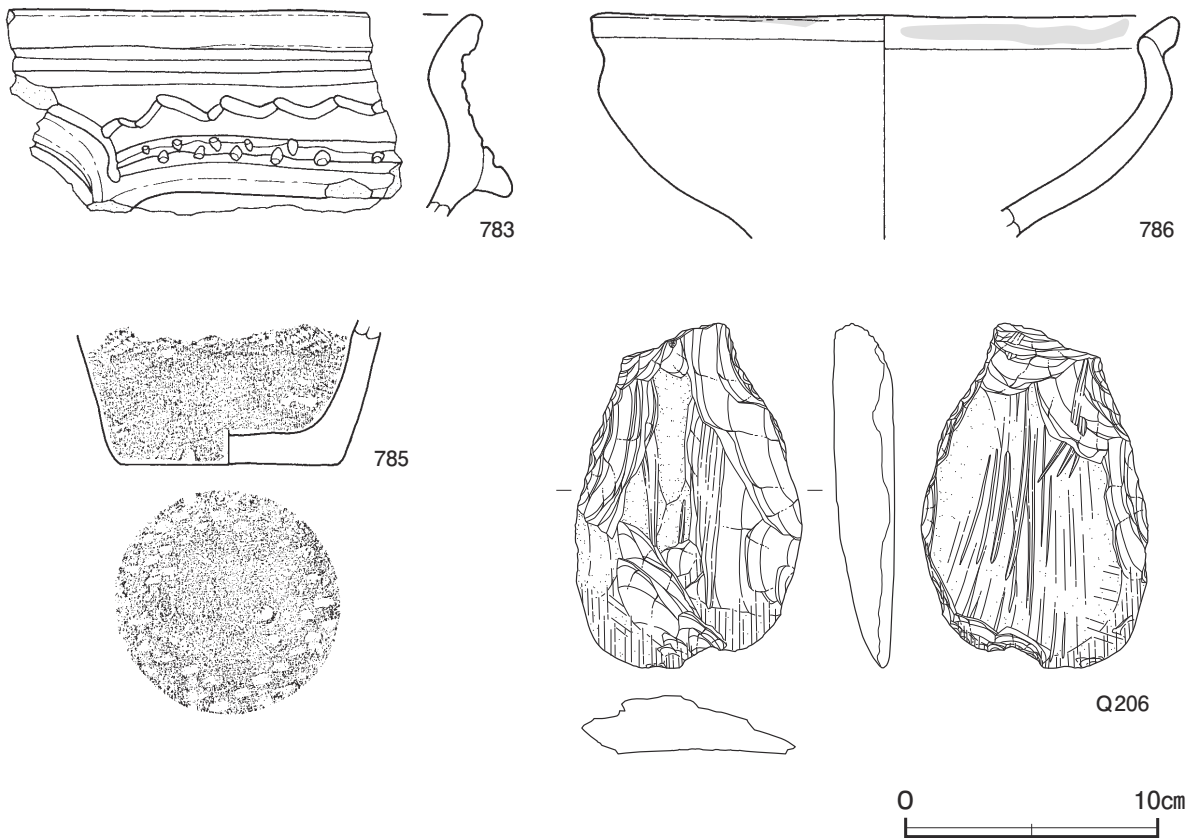
覆土 15 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。覆土中層にあたる第 4 層には、焼土塊が投棄されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | 7 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量 |



第 294 图 第 267 号土坑·出土遗物实测图



第 295 図 第 267 号土坑出土遺物実測図

- 11 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化物・焼土粒子少量
- 12 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子微量
- 13 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 14 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 15 にぶい黄褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片 213 点（深鉢 178, 浅鉢 35）, 石器 1 点（砥石）が出土している。787 は, P 1 内からほぼ正位で据え置かれた状態で出土しており, 使用時の状況を示している可能性がある。783 ~ 785 は, 南東部の壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 267 号土坑出土遺物観察表（第 294・295 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
781	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・赤色 粒子	明赤褐	普通	中空の把手 把手に沿って沈線	覆土中	
782	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁上端に半截竹管による有節沈線 口縁部無文 蛇行隆帯貼付 頸部隆帯一巡	覆土中	10%
783	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁上部から2本の並行沈線・蛇行沈線・交互 刺突文 鹿状の隆帯を貼付	覆土下層	
784	縄文土器	深鉢	17.2	22.1	7.9	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部に波状隆帯が巡る 地文に無節縄文R（縦）	覆土下層	90% PL130
785	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	8.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	地文に0段多条縄文RL（縦） 胴部下端横位の 磨き 底面網代痕	覆土下層	10%
786	縄文土器	浅鉢	[23.0]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面横位の磨き	覆土中	30%
787	縄文土器	浅鉢	39.6	21.7	[13.7]	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部太い沈線で文様描画 外・内面横位の磨き	P 1 覆土中層	80% PL130
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴		出土位置	備 考	
Q 206	砥石	13.7	9.0	2.5	330.1	緑色粘板岩	表裏に溝状の砥面		覆土中		

第 272 号土坑 (第 296 図 PL51)

位置 調査区北部の C 3 a5 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3 号竪穴建物に掘り込まれている。

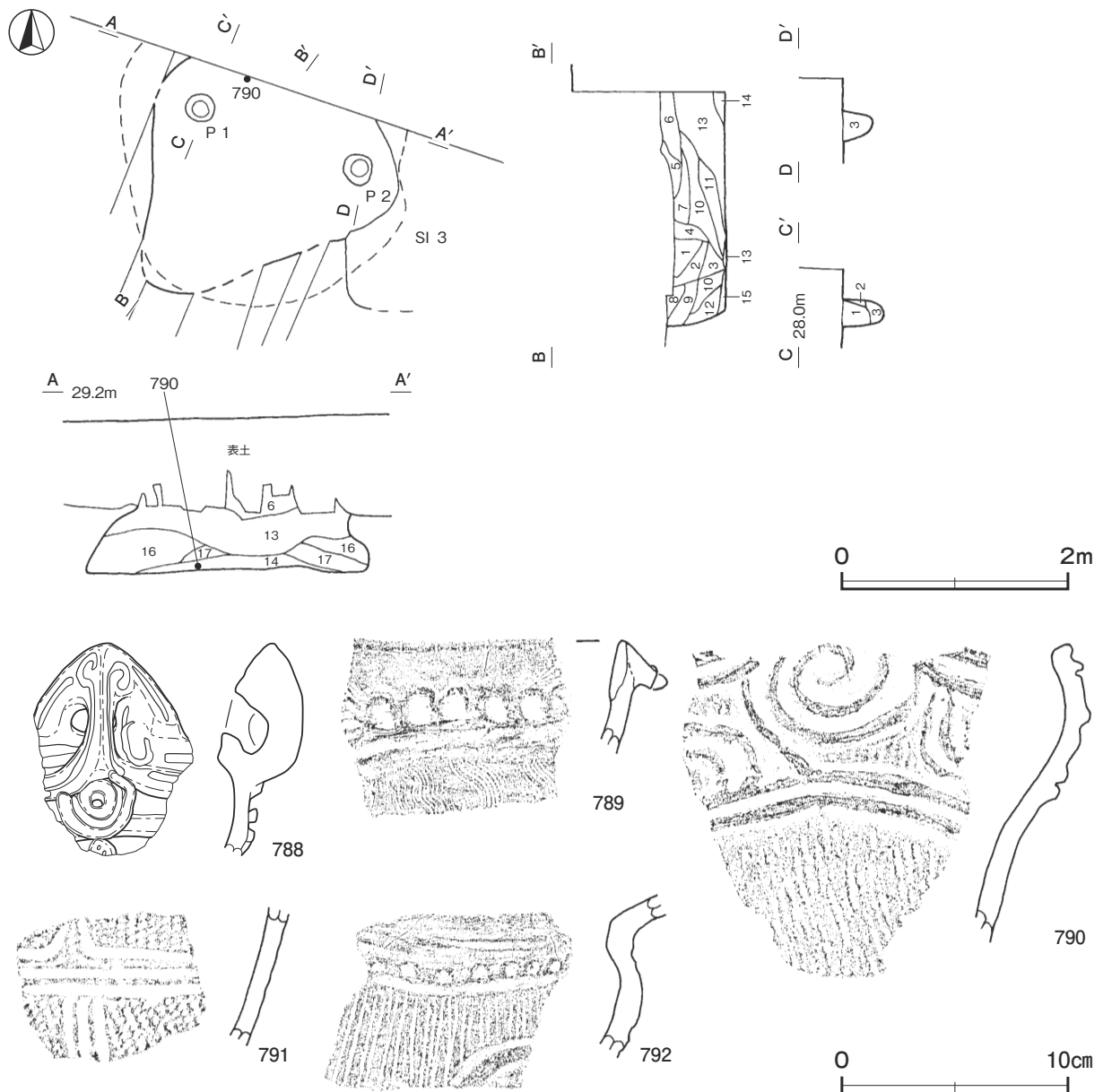
規模と形状 北部が調査区域外へ延びており, 開口部は東西軸が 2.20 m で, 南北軸は 2.10 m しか確認できなかったが, 不定形である。底面は東西軸が 2.60 m で, 南北軸は 1.98 m しか確認できなかったが, 確認できた範囲は平坦である。確認面からの深さは 87cm である。壁は内彎して, 袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は, 深さ 36・26cm で, 東部と西部に対峙して位置していることから, 柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

覆土 17 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。



第 296 図 第 272 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | 12 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量 | 13 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子中量 | 14 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック少量 | 17 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 137 点 (深鉢), 石器 1 点 (磨石), 剥片 4 点 (瑪瑙) が出土している。790 は, 北部の底面から出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 272 号土坑出土遺物観察表 (第 296 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
788	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	一穴穿孔の中空把手 隆帯貼付後沈線で文様描画 隆帯上の一部に刺突あり	覆土中	PL131
789	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部上端隆帯貼付 隆帯上指頭圧痕 地文に櫛歯状工具による縦位の波状条線	覆土中	
790	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に単節縄文 RL (斜) 背割れ隆帯による文様描画	底面	PL131
791	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	地文に単節縄文 RL (横) 沈線により文様描画	覆土中	
792	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	くびれ部に 2 本の沈線 沈線間に円形刺突文 胴部縦位の条線文と並行沈線による文様描画 沈線間磨消	覆土中	

第 274 号土坑 (第 297 図 PL51)

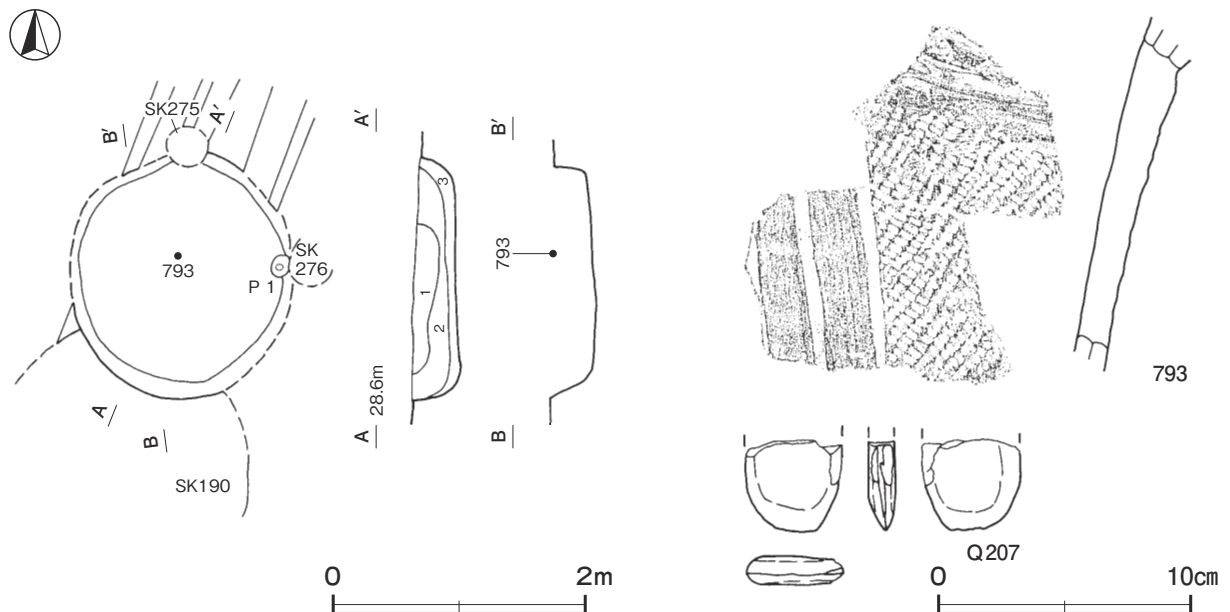
位置 調査区北西部の C 2 a0 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 190 号土坑を掘り込んでいる。第 275・276 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 径 1.80 ~ 1.87 m の円形である。底面は平坦で, 深さは 36cm である。壁は外傾している。

ピット 東壁際に位置し, 径 13 ~ 16cm の円形で, 深さ 8cm である。性格不明である。

覆土 3層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。



第 297 図 第 274 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 86 点（深鉢 85, 浅鉢 1）, 石器 1 点（磨製石斧）, 剥片 2 点（石英）が出土している。
793 は、中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 274 号土坑出土遺物観察表（第 297 図）

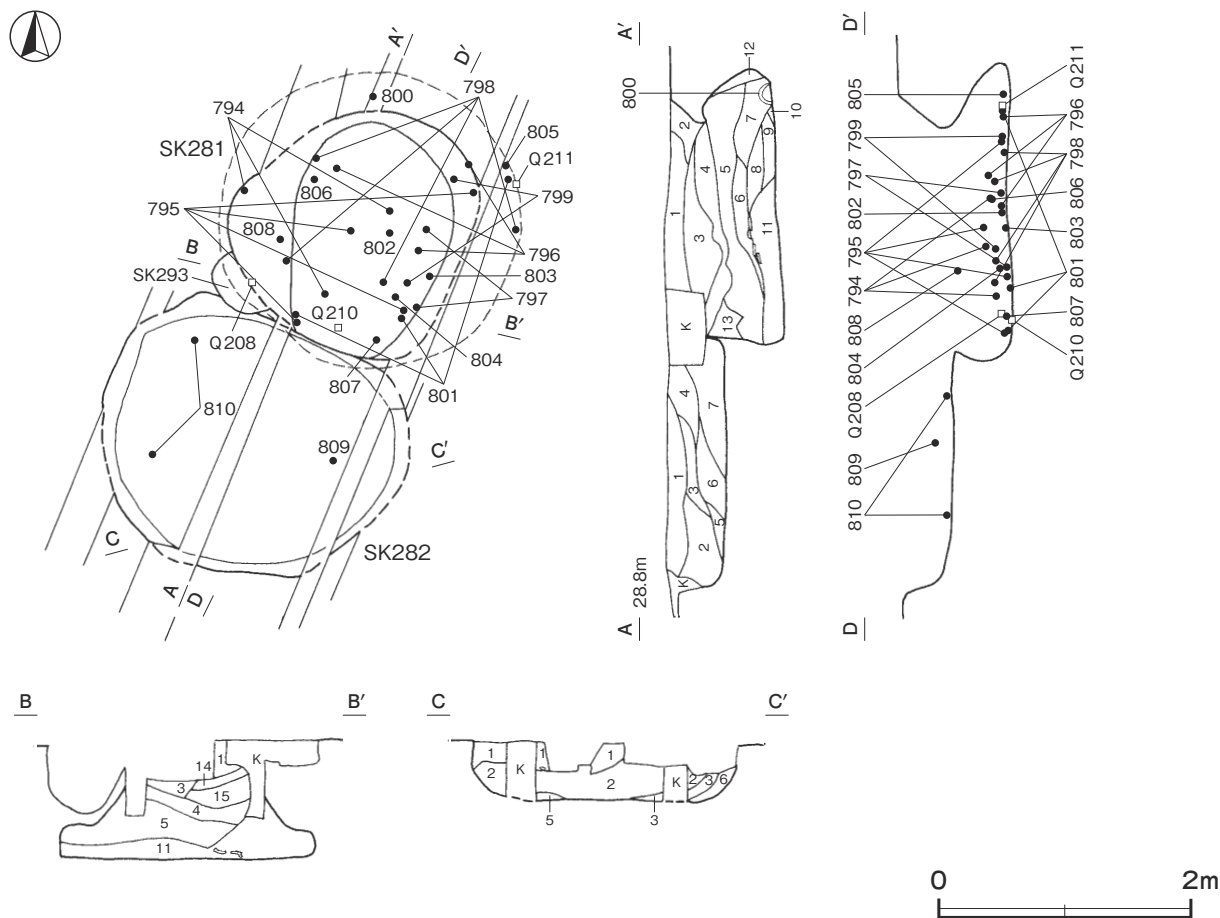
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
793	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	単節縄文 RL（縦） 3本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 207	磨製石斧	(3.6)	(3.9)	1.1	(23.8)	ホルンフェルス	小型 全面研磨 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	

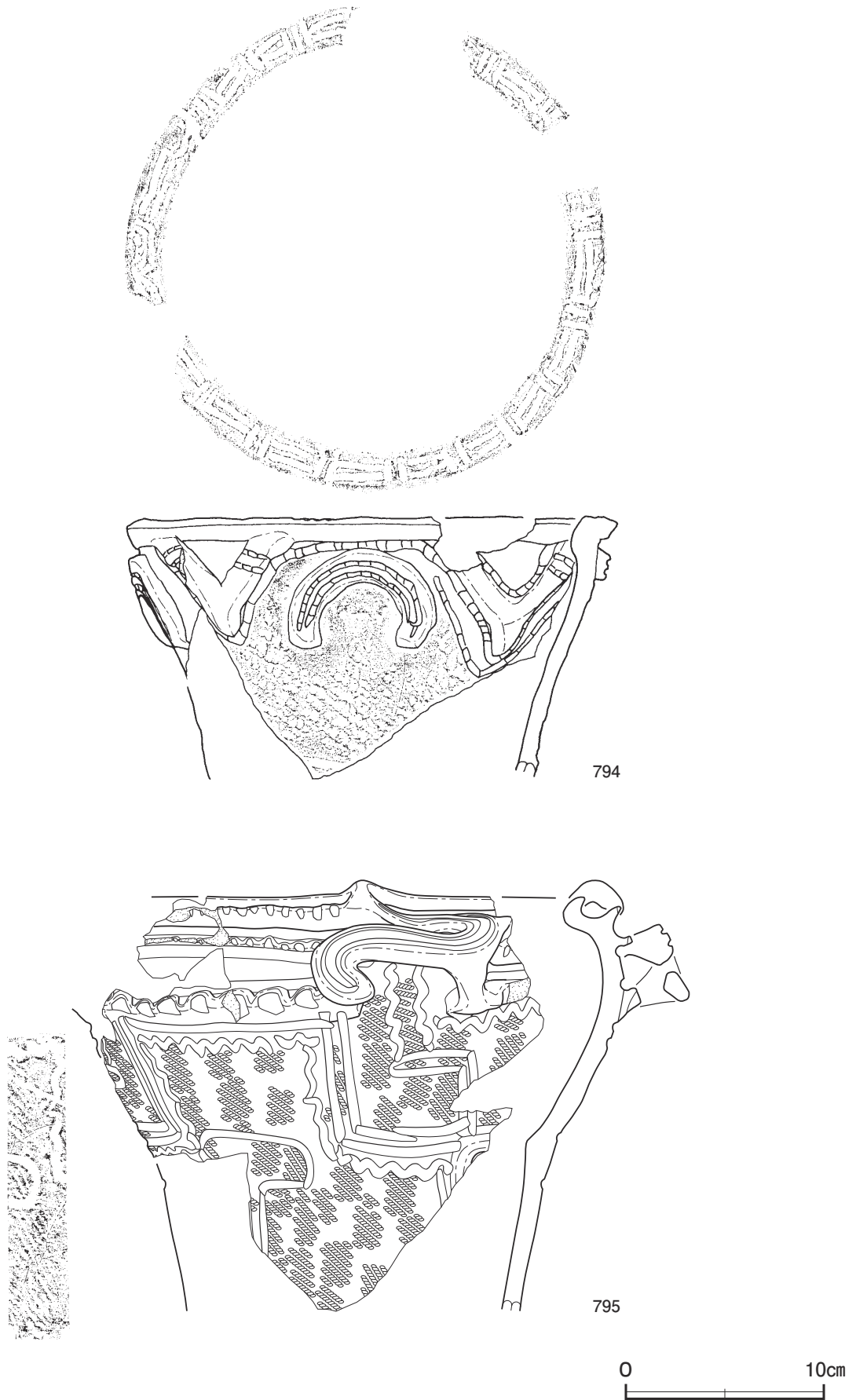
第 281 号土坑（第 298 ~ 304 図 PL52・98）

位置 調査区北部の C 3 b5 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

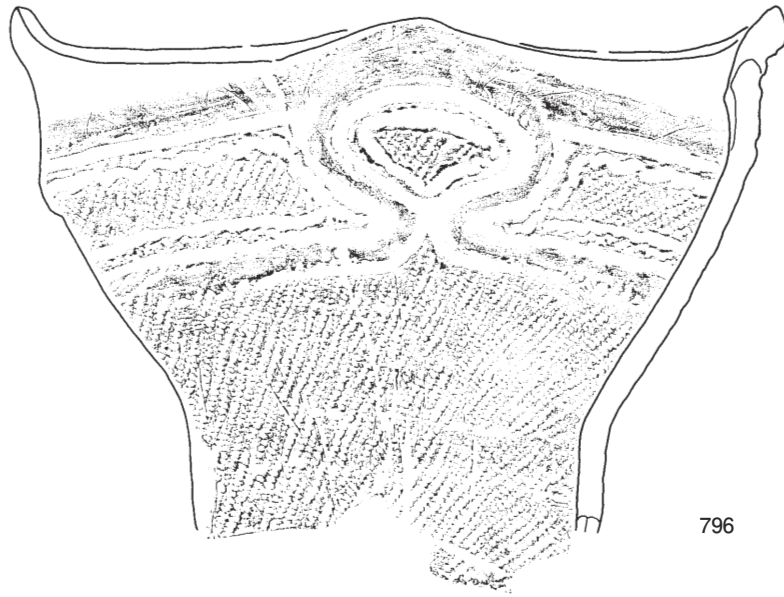
重複関係 第 282・293 号土坑に掘り込まれている。



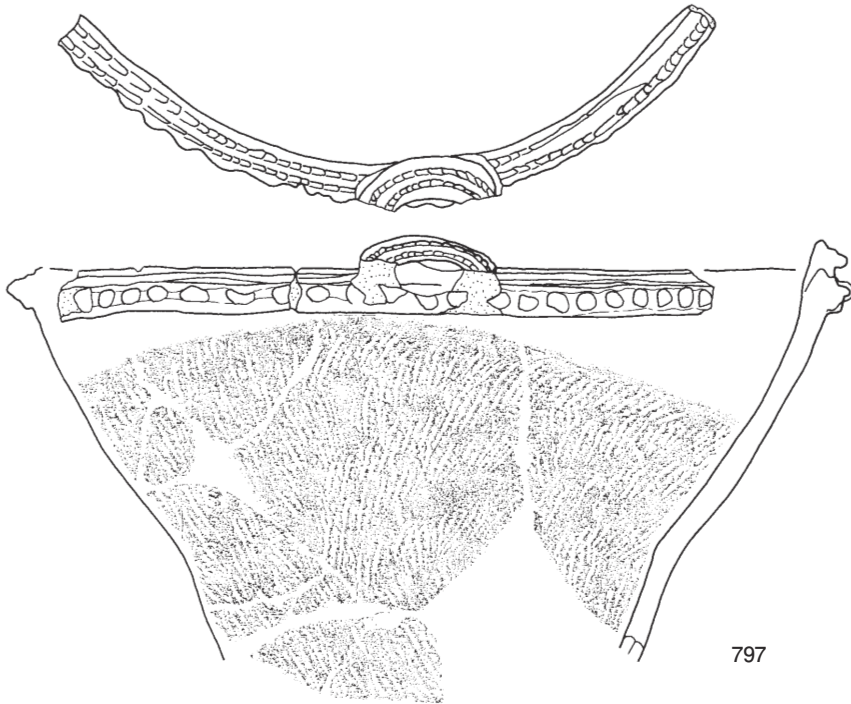
第 298 図 第 281・282 号土坑実測図



第 299 図 第 281 号土坑出土遺物実測図(1)



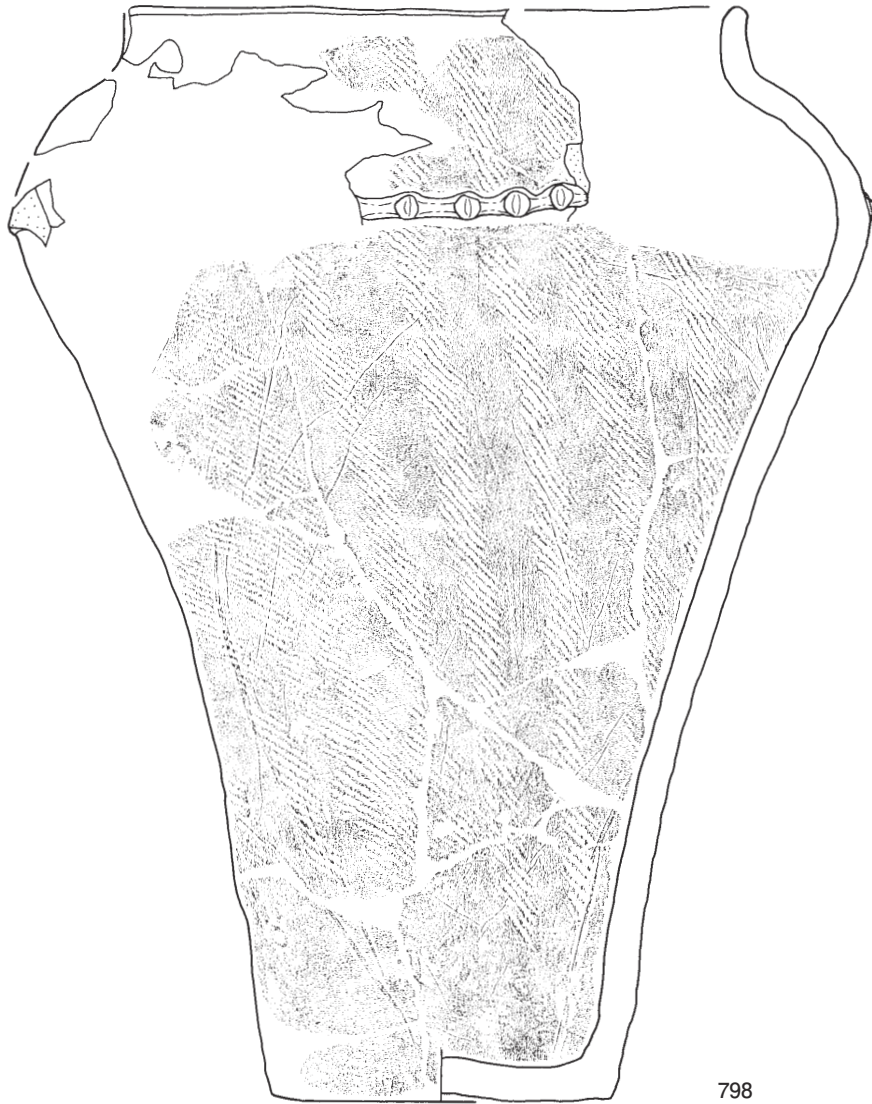
796



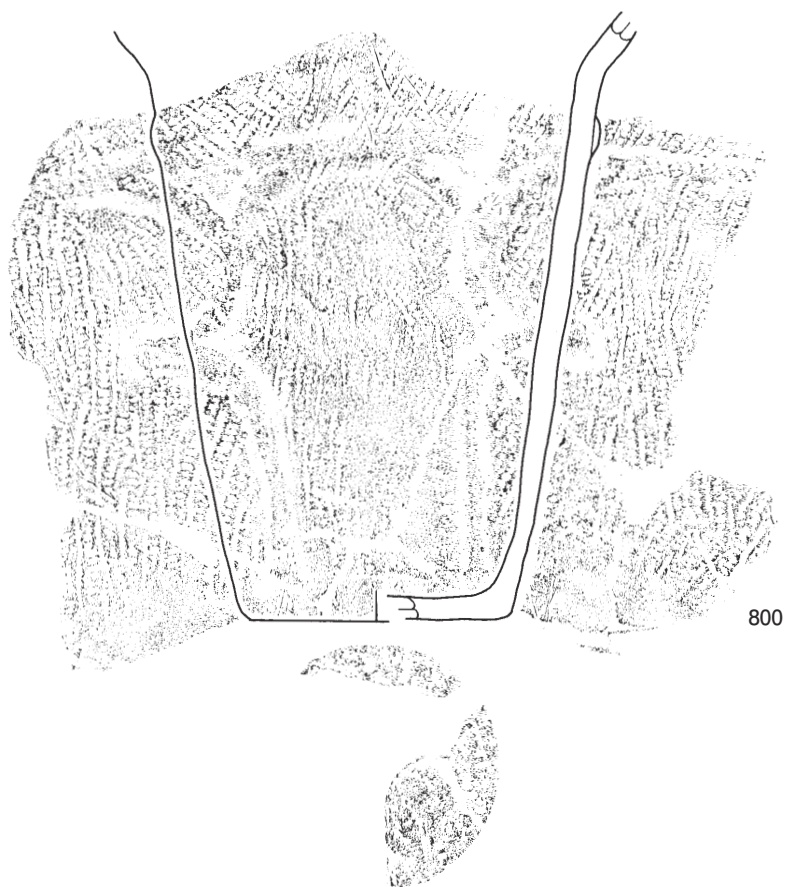
797



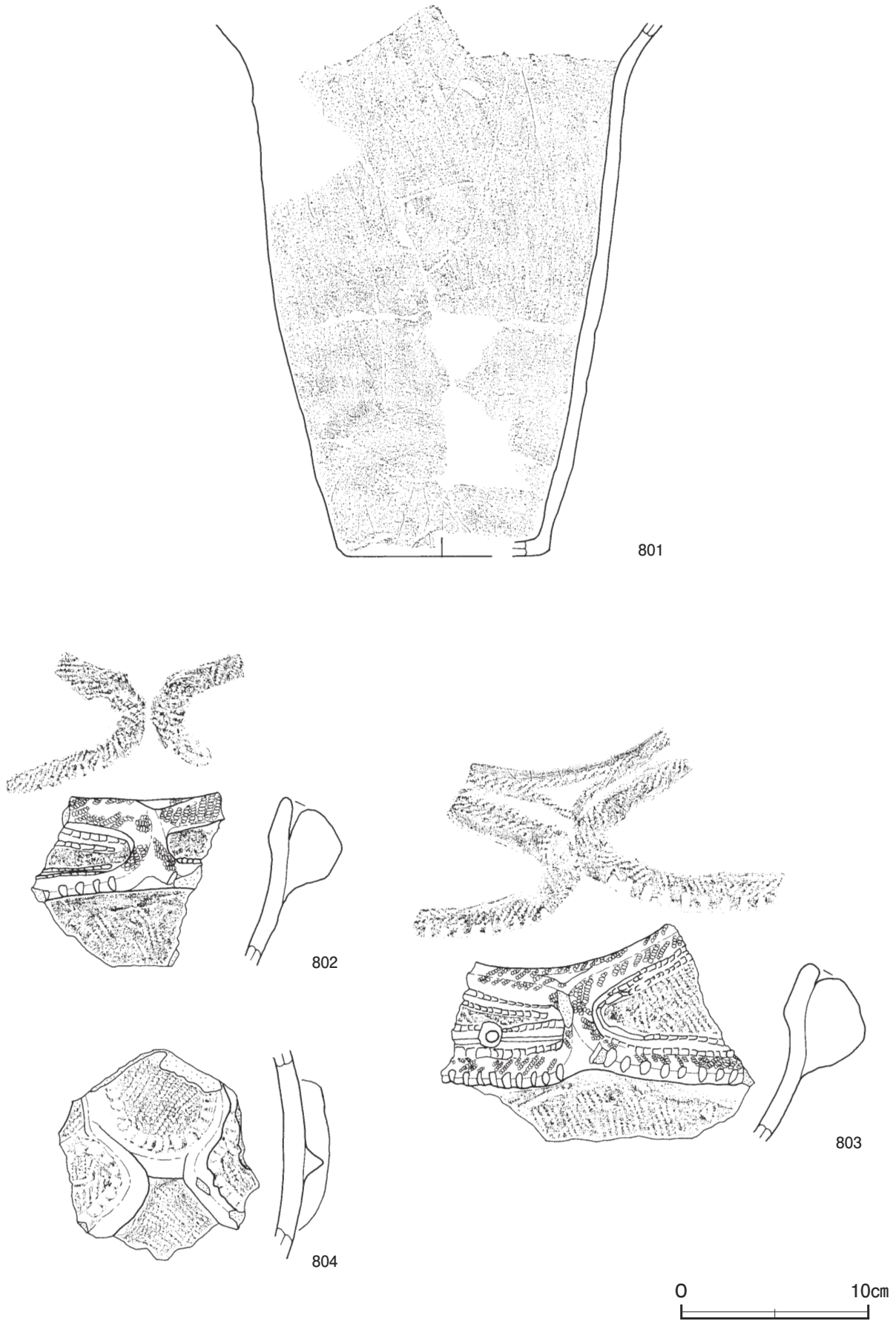
第 300 图 第 281 号土坑出土遺物実測图 (2)



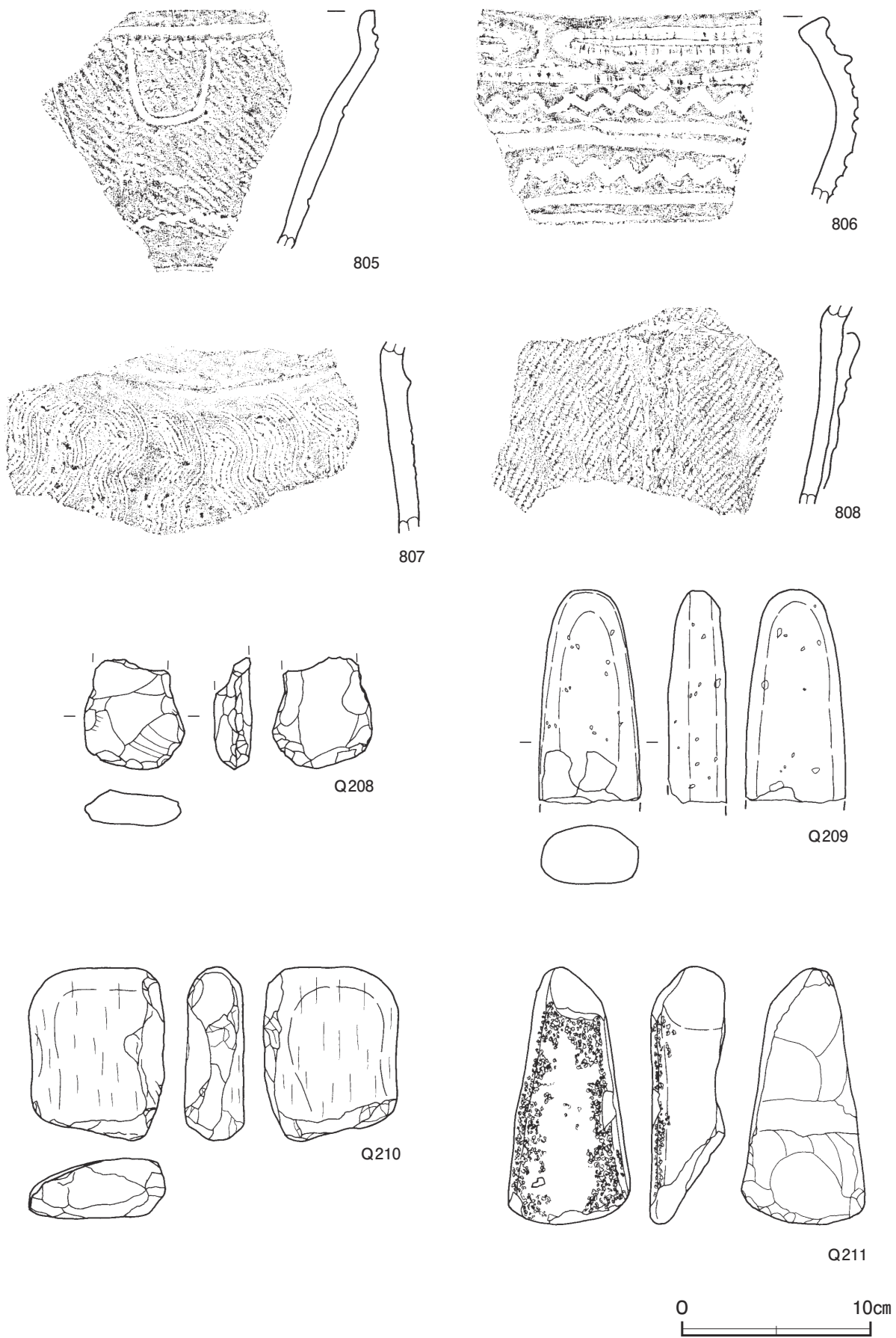
第 301 図 第 281 号土坑出土遺物実測図 (3)



第 302 図 第 281 号土坑出土遺物実測図 (4)



第 303 図 第 281 号土坑出土遺物実測図 (5)



第 304 图 第 281 号土坑出土遺物実測図 (6)

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径1.86～1.93mの不整形円で、長径方向はN-11°-Eである。底面は径2.32～2.40mの円形で、平坦である。確認面からの深さは92cmである。壁は内彎して、袋状を呈し、底面から高さ52～58cmのところできびれて、上位は外傾している。

覆土 15層に分層できる。各層にローム粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ローム粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子微量	11 にぶい黄褐色	ローム粒子少量, 鹿沼パミスブロック微量
4 黒褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子中量
6 黒褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム粒子少量
7 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック中量
8 暗褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量		

遺物出土状況 縄文土器片 375点（深鉢374, 器台1）、石器8点（打製石斧, 磨製石斧, 石皿, 敲石, 敲砥石, 凹石, 砥石, 台石）、石核4点（瑪瑙）、加工痕のある剥片1点（瑪瑙）、剥片8点（石英1, チャート1, 瑪瑙4, 黒曜石2）、礫1点（砂岩）が出土している。800は北壁際の底面から横位で、794は中央部、795～799・801～807, Q 208・Q 210・Q 211は坑内全体の覆土下層から、大型の破片が散乱した状態で出土している。土器は、いずれも底部あるいは口縁部が欠損しており、不要になったものが、廃絶後間もない段階で一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第281号土坑出土遺物観察表（第299～304図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
794	縄文土器	深鉢	23.1	(13.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇頂部平坦面 有節沈線による文様描画 口縁部隆帯による文様描画 隆帯に沿って有節沈線 地文に単節縄文LR(縦)	覆土下層	30% PL132
795	縄文土器	深鉢	23.2	(21.7)	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部上端波状の隆帯を貼付 指頭によるナデ2単位のS字状の把手貼付 胴部単節縄文LR(縦) 沈線による文様描画	覆土下層	40% PL132
796	縄文土器	深鉢	28.4	(20.9)	-	長石・石英・雲母	極暗赤褐	普通	地文に単節縄文LR(横) 蒲鉾状隆帯による文様描画 隆帯に沿って波状沈線	覆土下層	60% PL132
797	縄文土器	深鉢	[30.8]	(16.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇頂部平坦面に2本の有節沈線 半楕円の把手貼付 口縁上端隆帯貼付 隆帯上指頭圧痕 地文に単節縄文LR(横・斜)	覆土下層	20% PL131
798	縄文土器	深鉢	[24.0]	43.5	13.4	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	頸部に刺突隆帯一巡 地文に無節縄文L(縦)を間隔を開けて施文	覆土下層	70% PL132
799	縄文土器	深鉢	[31.0]	(15.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横位, 頸部外面縦位の磨き	覆土下層	10%
800	縄文土器	深鉢	-	(24.2)	[9.8]	長石・石英・雲母	橙(外) 黒(内)	普通	頸部に断面蒲鉾状の低い隆帯貼付 隆帯からY字状構成の隆帯垂下 地文に附加糸一種縄文RL(横・斜) 底面網代痕	底面	30% PL132
801	縄文土器	深鉢	-	(28.5)	[11.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面縦位・内面斜位のナデ 底部ナデ	覆土下層	50% PL132
802	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部隆帯で区画 隆帯上に単節縄文LR(横)とキザミ目 隆帯に沿って有節沈線 胴部同一原体(斜)	覆土下層	803と同一個体。
803	縄文土器	深鉢	-	(11.6)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部隆帯で区画 隆帯上に単節縄文LR(横)とキザミ目 隆帯に沿って有節沈線 胴部同一原体(斜) 補修孔あり	覆土下層	10% 802と同一個体。
804	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	断面三角形の隆帯で区画 隆帯に沿って有節沈線・蛇行沈線 区画内単節縄文LR(縦・横)	覆土下層	
805	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	地文に無節縄文L(縦) 口縁部上端に2本の有節沈線 U字状の沈線文 胴部有節沈線一巡	覆土下層	PL131
806	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部上端隆帯で楕円区画文 区画内及び隆帯に沿って有節沈線 蛇行沈線と並行沈線を交互に施文	覆土下層	PL131
807	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	隆帯が一巡 6本単位の櫛歯状工具による縦位の波状文	覆土下層	
808	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	刺突隆帯が垂下 隆帯上及び地文に単節縄文RL(縦)	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 208	打製石斧	(5.8)	5.4	2.0	(72.5)	ホルンフェルス	分銅形 表裏面研磨 刃部は表裏を敲打 片刃部欠損	覆土下層	
Q 209	磨製石斧	(11.3)	5.4	3.1	(320.7)	斑れい岩	定角式 全面研磨 周縁部に弱い稜 刃部欠損	覆土中層	PL167
Q 210	敲砥石	9.2	7.2	3.2	348.0	石英斑岩	楕円礫の両端及び側縁部に敲打痕・砥面をもつ	覆土下層	
Q 211	台石	13.7	6.5	4.0	412.6	ホルンフェルス	片側に微細な敲打痕	覆土下層	

第 282 号土坑（第 298・305 図 PL52）

位置 調査区北部の C 3 b5 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 281 号土坑を掘り込み，第 293 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが，長径 2.45 m，短径 2.09 m の楕円形で，長径方向は N - 74° - W である。底面は平坦で，深さは 48cm である。壁は外傾している。

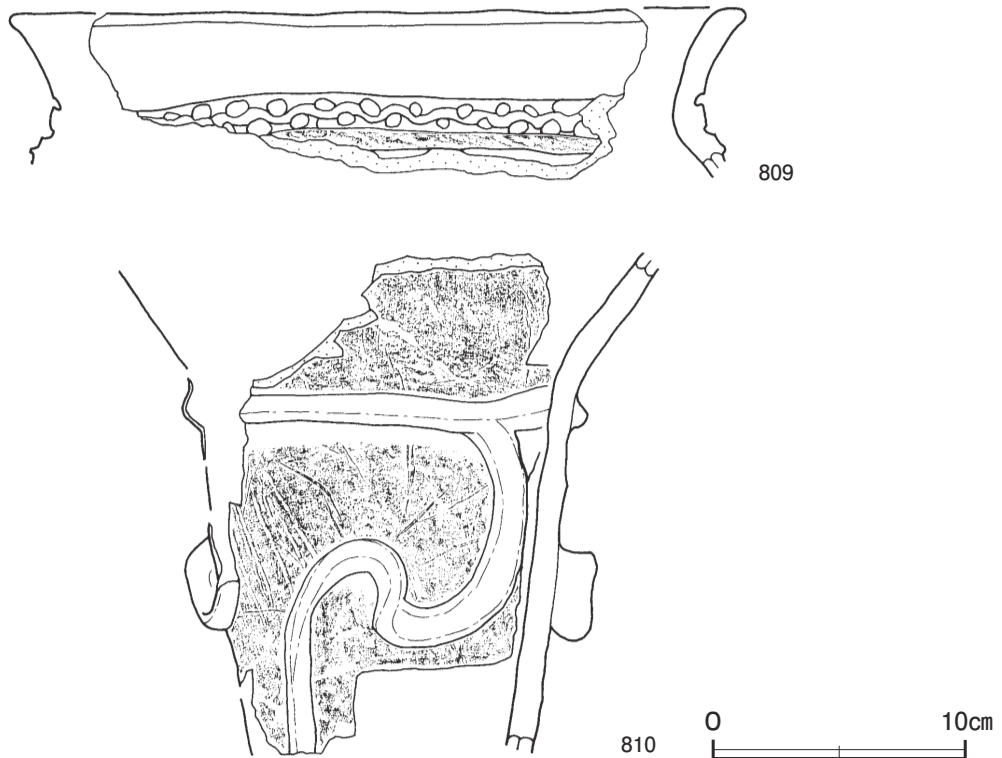
覆土 7 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 におい黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 におい黄褐色 | ローム粒子多量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 62 点（深鉢），石器 1 点（打製石斧），剥片 1 点（瑪瑙）が出土している。809 は東部の覆土中層，810 は西部の覆土下層から，いずれも破片が散乱した状態で出土しており，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 上部が耕作による攪乱を受けているため明確でないが，規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第 305 図 第 282 号土坑出土遺物実測図

第 282 号土坑出土遺物観察表（第 305 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
809	縄文土器	深鉢	[28.6]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	におい橙	普通	口縁部無文帯 頸部交互刺突文 胴部単節縄文 LR (縦) 外・内面横位の磨き	覆土中層	
810	縄文土器	深鉢	-	(19.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい褐	普通	頸部・胴部蒲鋒状隆帯貼付 隆帯屈曲部摘み状の突起 一部に条線文	覆土下層	40% PL130

第 283 号土坑 (第 306・307 図 PL53)

位置 調査区北部の C 3 b6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 285・337 号土坑を掘り込んでいる。第 284 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径 2.50 m, 短径 1.74 m の楕円形で, 長径方向は N - 58° - E である。底面は平坦で, 深さ 78 cm である。壁は外傾している。

ピット 深さ 32cm で, 壁際に位置していることから補助的な柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | |

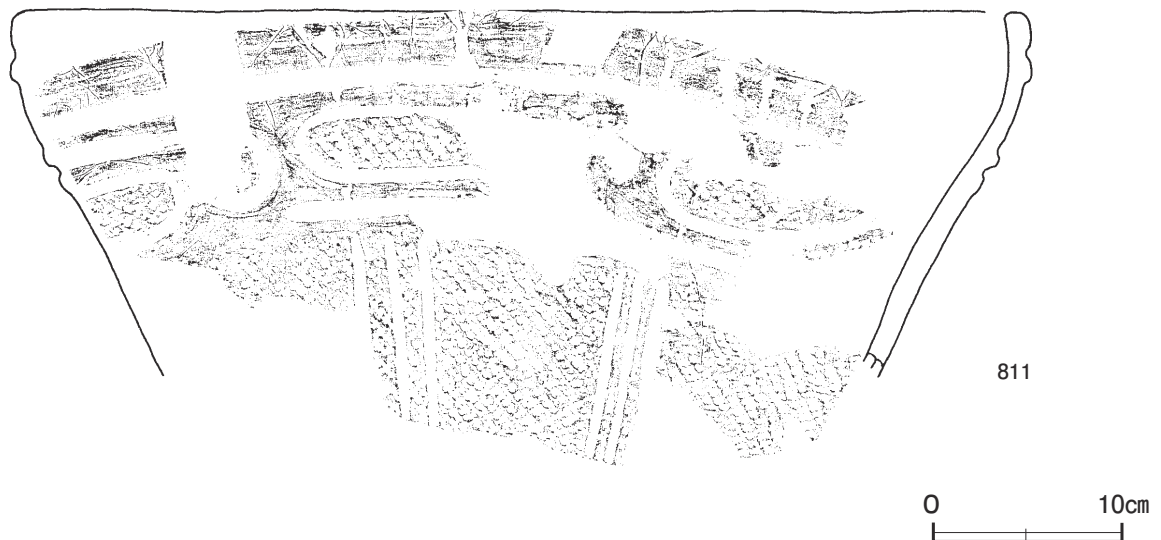
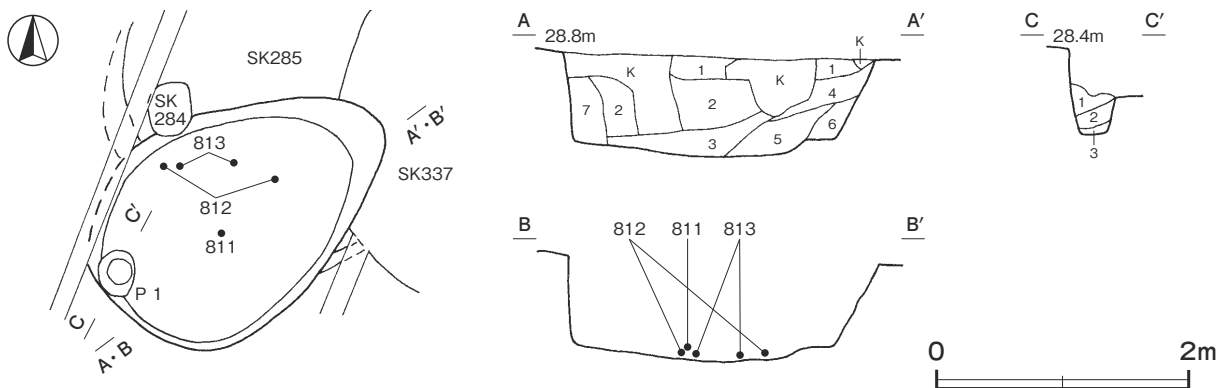
覆土 7層に分層できる。各層にローム粒子が多く含まれており, 東側から埋め戻された堆積状況を示している。

土層解説

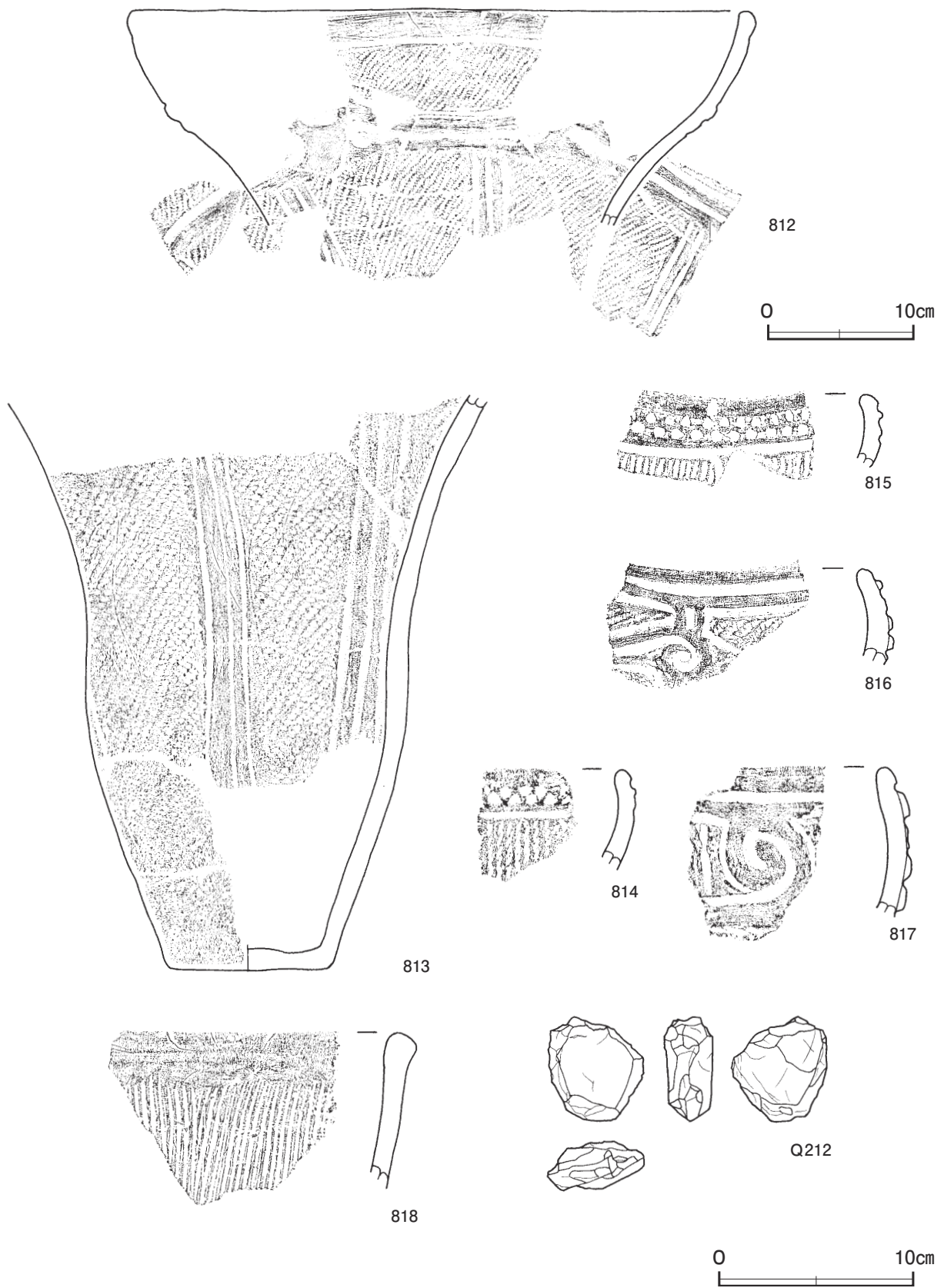
- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 7 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 301 点(深鉢 284, 浅鉢 17), 石器 1 点(敲砥石), 石核 16 点(石英 4, 瑪瑙 11, 水晶 1), 剥片 12 点(石英 5, 瑪瑙 3, 水晶 2, トロトロ石 2) が出土している。811～813 は, 北半部の覆土下層から, 破片が散乱した状態で出土しており, 埋め戻しの早い段階で一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 306 図 第 283 号土坑・出土遺物実測図



第 307 图 第 283 号土坑出土遗物实测图

第 283 号土坑出土遺物観察表 (第 306・307 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
811	縄文土器	深鉢	[52.6]	(19.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部無文 隆帯による楕円区画 隆帯に沿って太い沈線 地文に複節縄文 LRL (縦) 胴部 3本の沈線垂下	覆土下層	30% PL133
812	縄文土器	深鉢	[42.0]	(14.9)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部無文 地文に単節縄文 RL (縦) 隆帯による楕円区画 隆帯に沿って沈線 胴部 3本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土下層	10% PL133
813	縄文土器	深鉢	-	(29.3)	8.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 3本の沈線垂下 沈線間磨消 底面ナデ	覆土下層	70% PL133
814	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐	普通	口縁部上端交互刺突文 沈線が一巡 地文に撚糸文 (縦)	覆土中	
815	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部上端に3本の沈線を巡らし2本の沈線に刺突文 地文に撚糸文 (縦)	覆土中	
816	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に0段多条縄文 LR (横) 隆帯による区画文・渦巻文 隆帯に沿って太い沈線	覆土中	
817	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	低い隆帯による区画文・渦巻文 隆帯に沿って沈線 区画内縦位の沈線	覆土上層	
818	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口唇部肥厚 口縁部無文 縦・斜位の条線文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 212	敲砥石	5.4	5.0	2.5	79.4	石英	円盤の側縁部に敲打痕・砥面をもつ	覆土中層	PL172

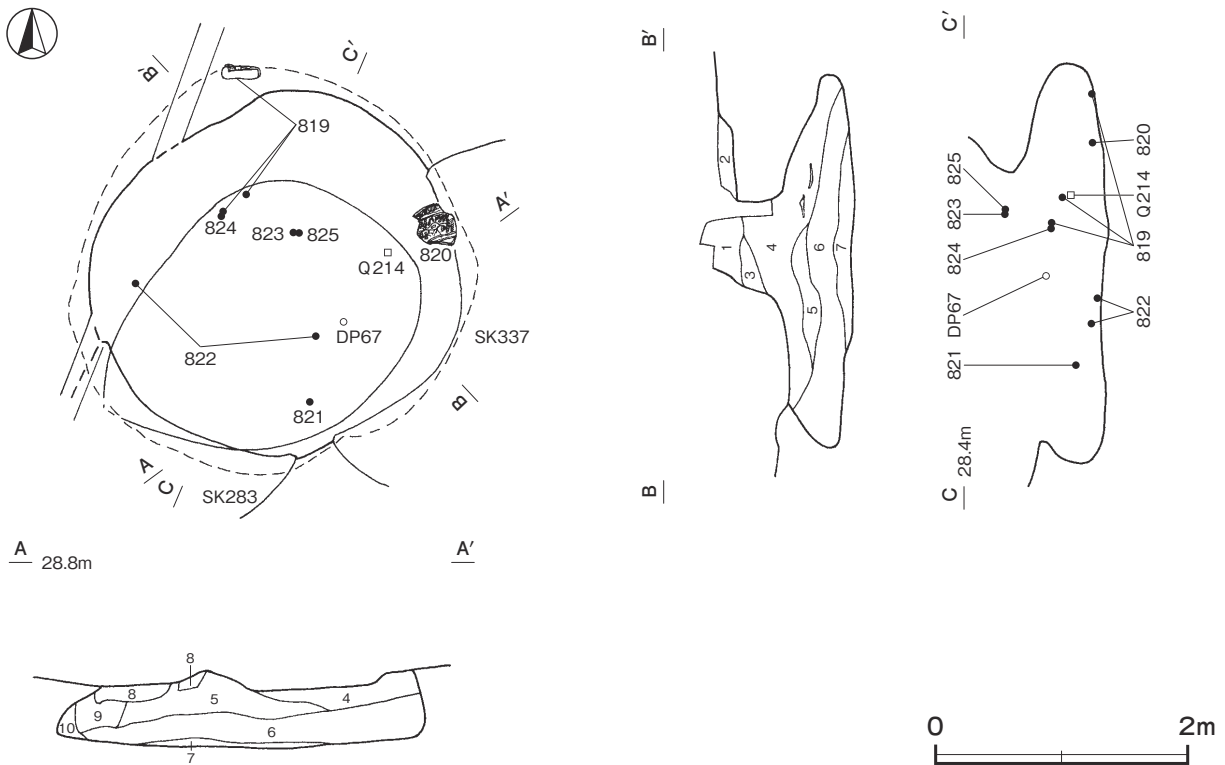
第 285 号土坑 (第 308 ~ 311 図 PL53)

位置 調査区北部の C 3 b7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

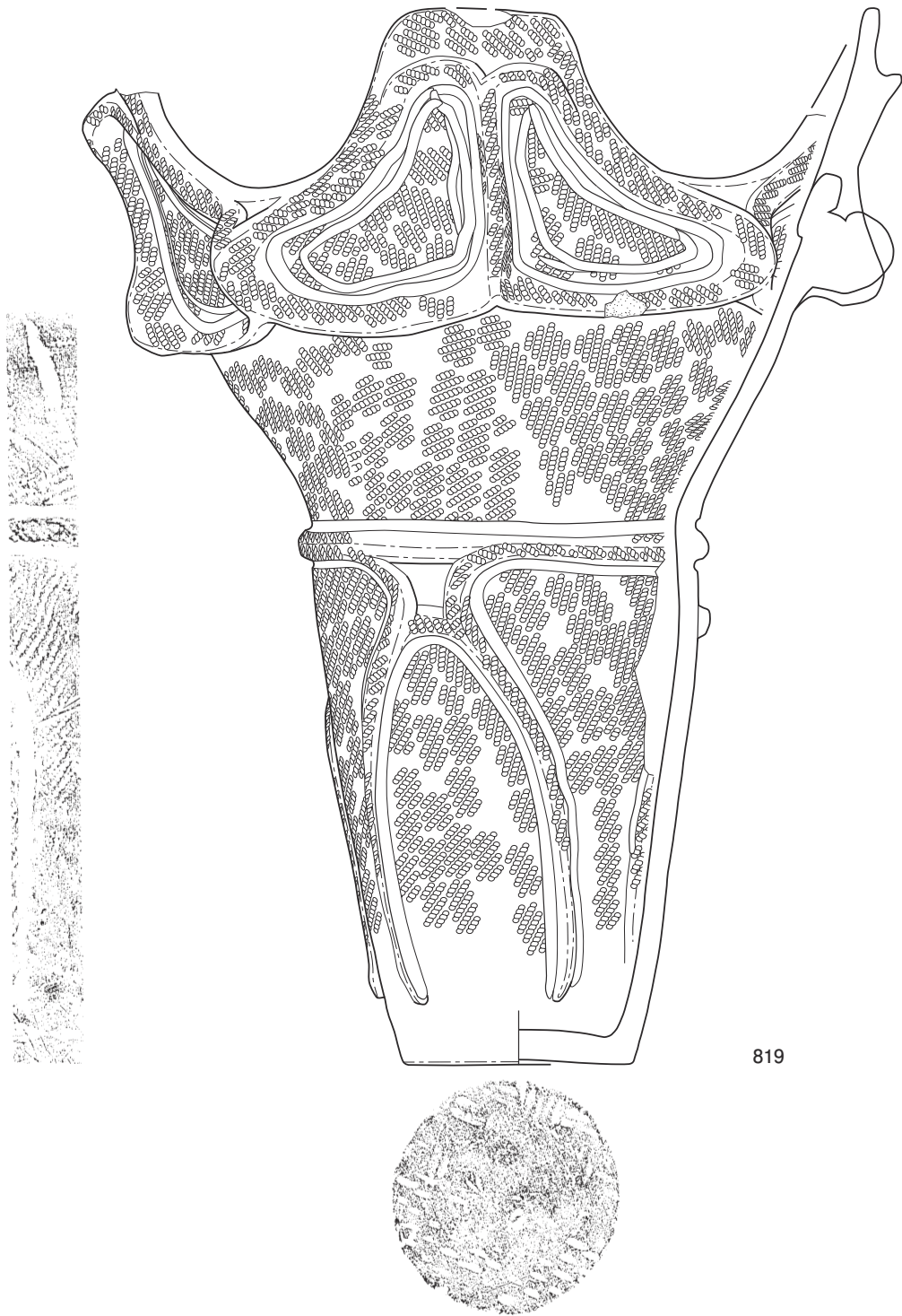
重複関係 第 283・284・337 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.90 m, 短径 2.65 m の楕円形で, 長径方向は N - 53° - E である。底面は径 3.15 ~ 3.25 m のほぼ円形で, 平坦である。確認面からの深さは 118cm である。壁は大きく内彎して, 袋状を呈し, 底面から 74 ~ 90cm のところでくびれ, 上位は緩やかに傾斜している。

覆土 10 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。



第 308 図 第 285 号土坑実測図



819

0 10cm

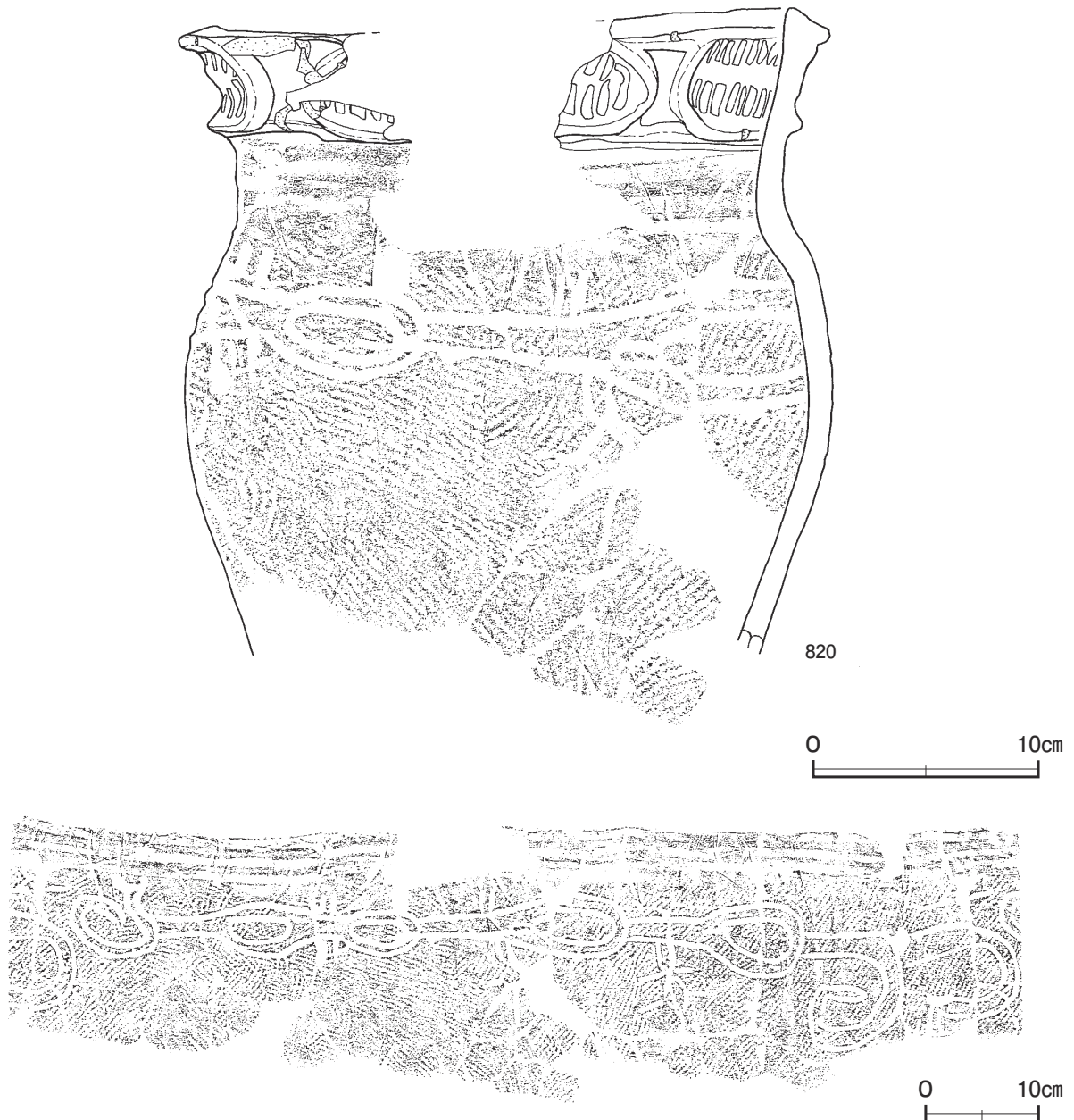
第 309 图 第 285 号土坑出土遗物实测图(1)

土層解説

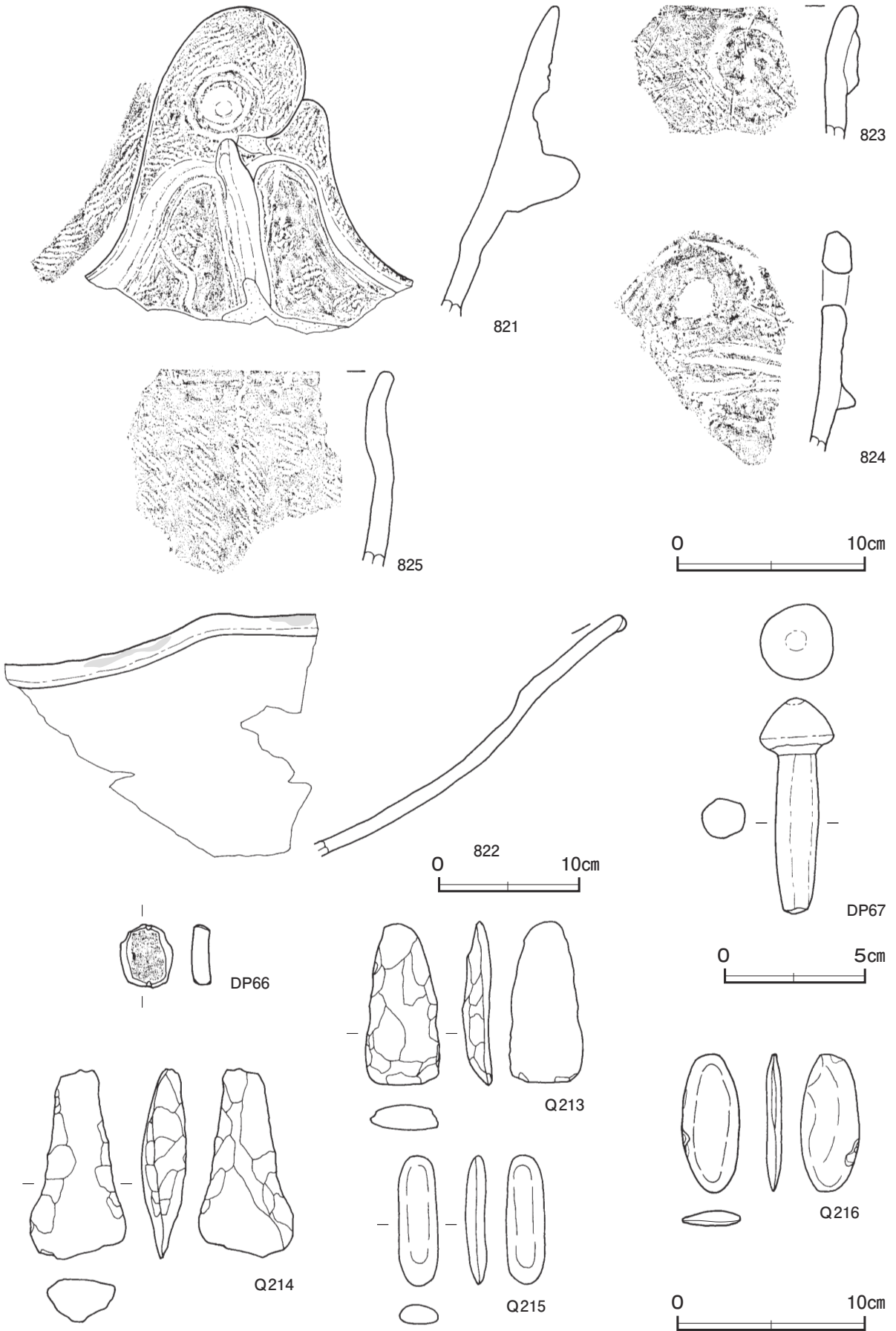
- | | | | |
|-------|-------------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 8 黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 161 点 (深鉢 136, 浅鉢 25), 土製品 2 点 (土器片錘, きのご形土製品), 石器 5 点 (打製石斧 2, 磨製石斧 2, 磨石 1), 石核 15 点 (石英 1, チャート 1, 瑪瑙 13), 剥片 15 点 (石英 1, 安山岩 2, 瑪瑙 9, 水晶 3) が出土している。822 は東部と西部の底面から出土した破片が接合している。820 は底部を欠いており, 北東壁際から, 819 は縦に半截されており, 北壁際から, いずれも底面に横位で置かれた状態で出土している。819 の残りの半個体分は, 中央部の覆土中層から散乱して, 821・823～825, Q 214 は覆土中層の第 4 層を中心に出土している。いずれも廃絶直後とある程度埋め戻した段階で投棄されたと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 310 図 第 285 号土坑出土遺物実測図 (2)



第311图 第285号土坑出土遗物实测图(3)

第 285 号土坑出土遺物観察表 (第 309 ~ 311 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
819	縄文土器	深鉢	29.5	46.7	10.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	把手部鱗状隆帯による2つの三角区画 隆帯に沿って沈線 胴部蒲葺状隆帯による横線・逆U字状文 地文及び隆帯上単節縄文RL(横・斜) 底面網代痕	覆土中層・底面	90% PL134
820	縄文土器	深鉢	25.0	(28.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部隆帯による楕円区画文 区画内2条の爪形文 胴部単節縄文LR(縦) 2本の沈線で文様描画	底面	70% PL134
821	縄文土器	深鉢	-	(17.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文RL(多方向) 波頂部円形突起貼付 突起中央に2本の沈線による凹み 波状部中央に鱗状隆帯と沈線	覆土中層	PL134
822	縄文土器	浅鉢	-	(17.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外・内面横位の磨き 口唇部・口縁部内面の一部に赤彩痕	底面	10% PL134
823	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	地文に無節縄文L(縦) 逆U字状の隆帯貼付	覆土中層	
824	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部逆丁字状の隆帯貼付 口唇部の一部に無節縄文L(横) 口縁部横位の3本の沈線 沈線下に隆帯で区画	覆土中層	
825	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	地文に無節縄文L(縦)を間隔を開けて施文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP66	土器片鏟	3.4	2.8	0.9	11.6	石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中層	
DP67	きのこ形土製品	7.7	2.6	2.7	28.5	長石・石英・雲母・角閃石	明赤褐	全体に丁寧なナデ	覆土中層	PL160 根本部煤付着

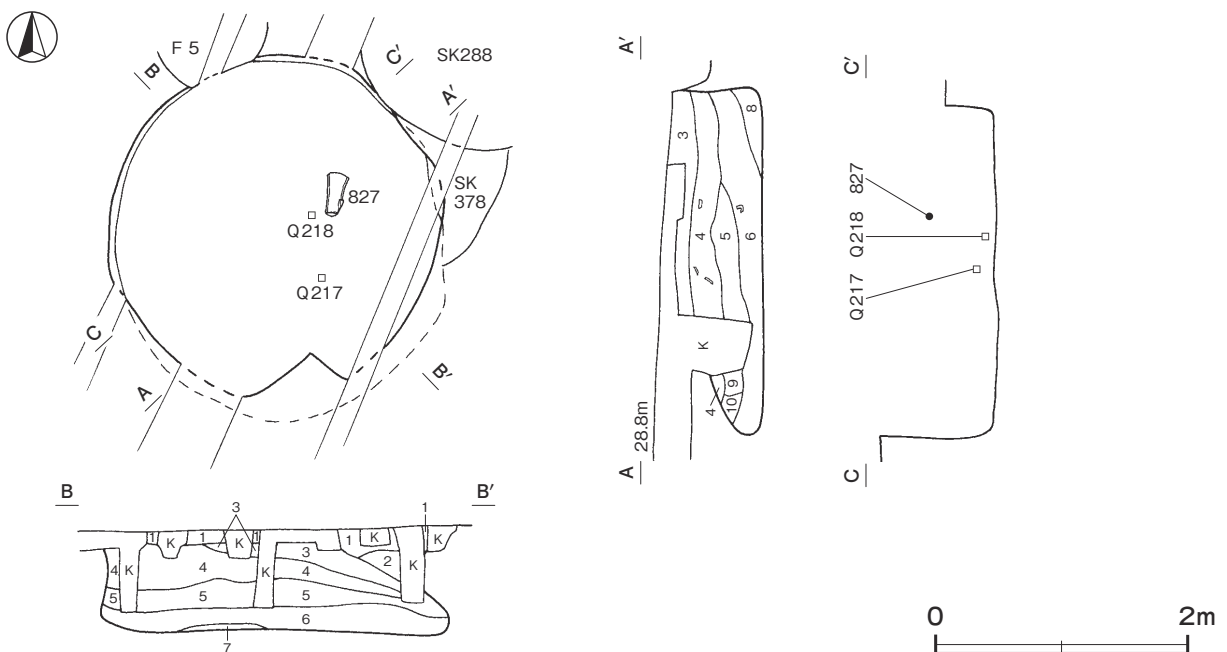
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 213	打製石斧	8.8	4.0	1.6	66.2	緑色岩	撥形 両側縁片面を敲打 刃部片面を研磨	覆土中	PL164
Q 214	打製石斧	10.2	5.2	2.4	98.2	砂岩	鉾形 片面に自然面 両側縁微細な敲打調整 刃部は末広がり	覆土中層	PL166
Q 215	磨製石斧	6.9	2.1	1.1	23.8	ホルンフェルス	極小型 扁平な自然礫 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	PL170
Q 216	磨製石斧	7.4	3.2	0.8	30.2	角閃岩	小型 扁平な自然礫 両側縁に稜 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土下層	

第 286 号土坑 (第 312 ~ 314 図 PL53)

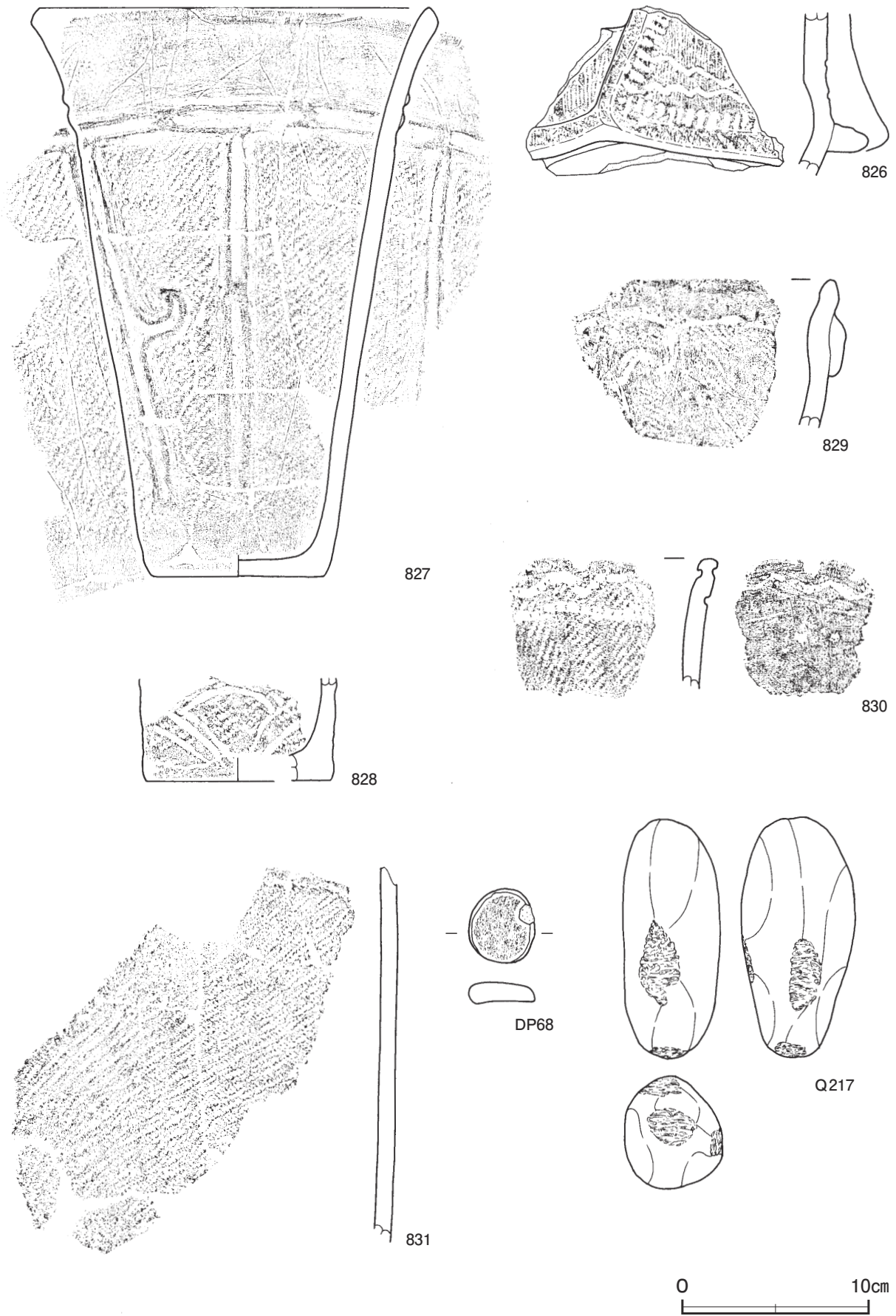
位置 調査区北部のC 3 b7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号炉, 第 288 号土坑に掘り込まれている。第 378 号土坑との新旧関係は不明である。

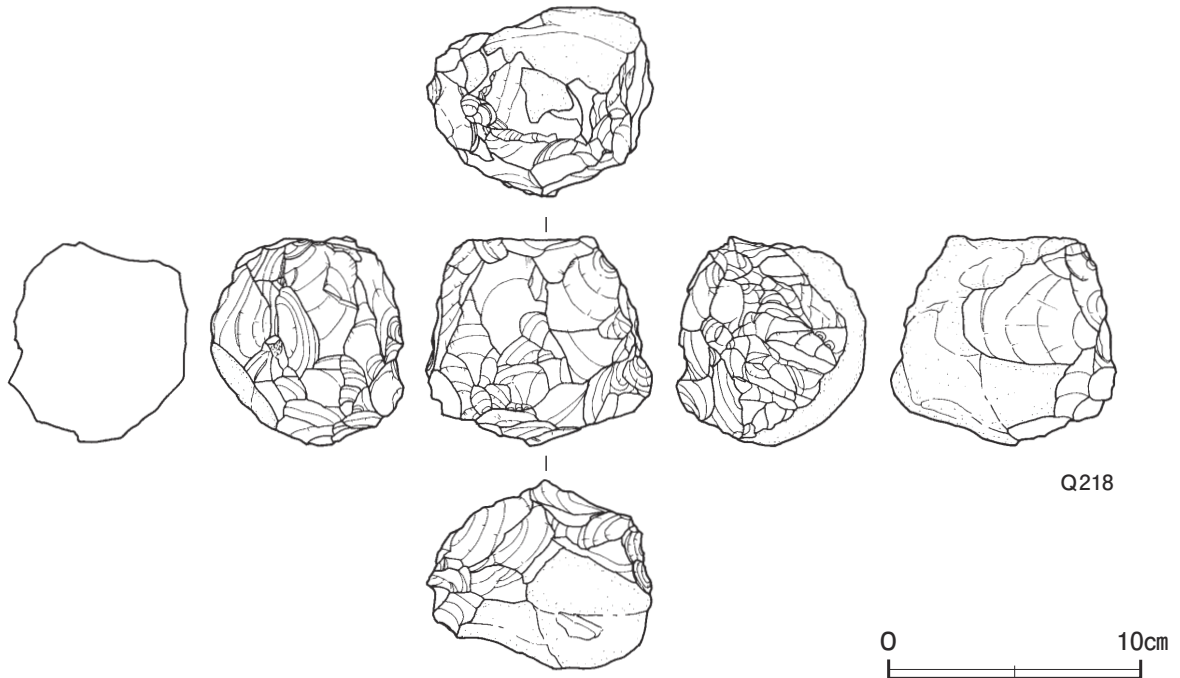
規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は径 2.47 ~ 2.66 m の円形である。底面は長径 2.82 m, 短径 2.55 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 86 cm である。壁は南東部が内彎しており, その他はやや内傾して袋状を呈している。



第 312 図 第 286 号土坑実測図



第 313 图 第 286 号土坑出土遗物实测图 (1)



第 314 図 第 286 号土坑出土遺物実測図 (2)

覆土 10層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれており、北側から埋め戻された堆積状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子多量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 365 点 (深鉢), 土製品 1 点 (土器片円盤), 石器 1 点 (敲砥石), 母岩 1 点 (瑪瑙), 剥片 6 点 (石英 4, 瑪瑙 2) が出土している。Q 217・Q 218 は中央部の覆土下層から, 827 は中央部の覆土中層から横位でそれぞれ出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 286 号土坑出土遺物観察表 (第 313・314 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
826	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	鱗状の隆帯で区画 隆帯上 0 段多条縄文 RL (横) 隆帯に沿ってキョウビラ文 区画内条線文・波状沈線文	覆土上層	
827	縄文土器	深鉢	[21.0]	30.6	9.2	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 背割れ隆帯による区画底部ナデ	覆土中層	50% PL131
828	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	[10.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 有節沈線による半楕円文	覆土中	
829	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	胴部無節縄文 L (縦) 肥厚部下部に M 字状の隆帯貼付	覆土中	
830	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 口縁部上端外・内面に波状の有節沈線 口唇部棒状の刺突圧痕により波状文	覆土中	
831	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	0 段多条縄文 RL (縦)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP68	土器片円盤	4.0	3.6	1.1	(17.9)	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	胴部片 周縁部丁寧に研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 217	敲砥石	12.9	5.5	6.1	549.3	安山岩	楕円礫の両端及び側縁部に敲打痕・砥面をもつ	覆土下層	PL172
Q 218	母岩	8.9	8.6	7.5	636.6	瑪瑙	裏面に自然面を残し全面剥離	覆土下層	

第 291 号土坑 (第 315 図 PL54)

位置 調査区北部の C 3 b9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

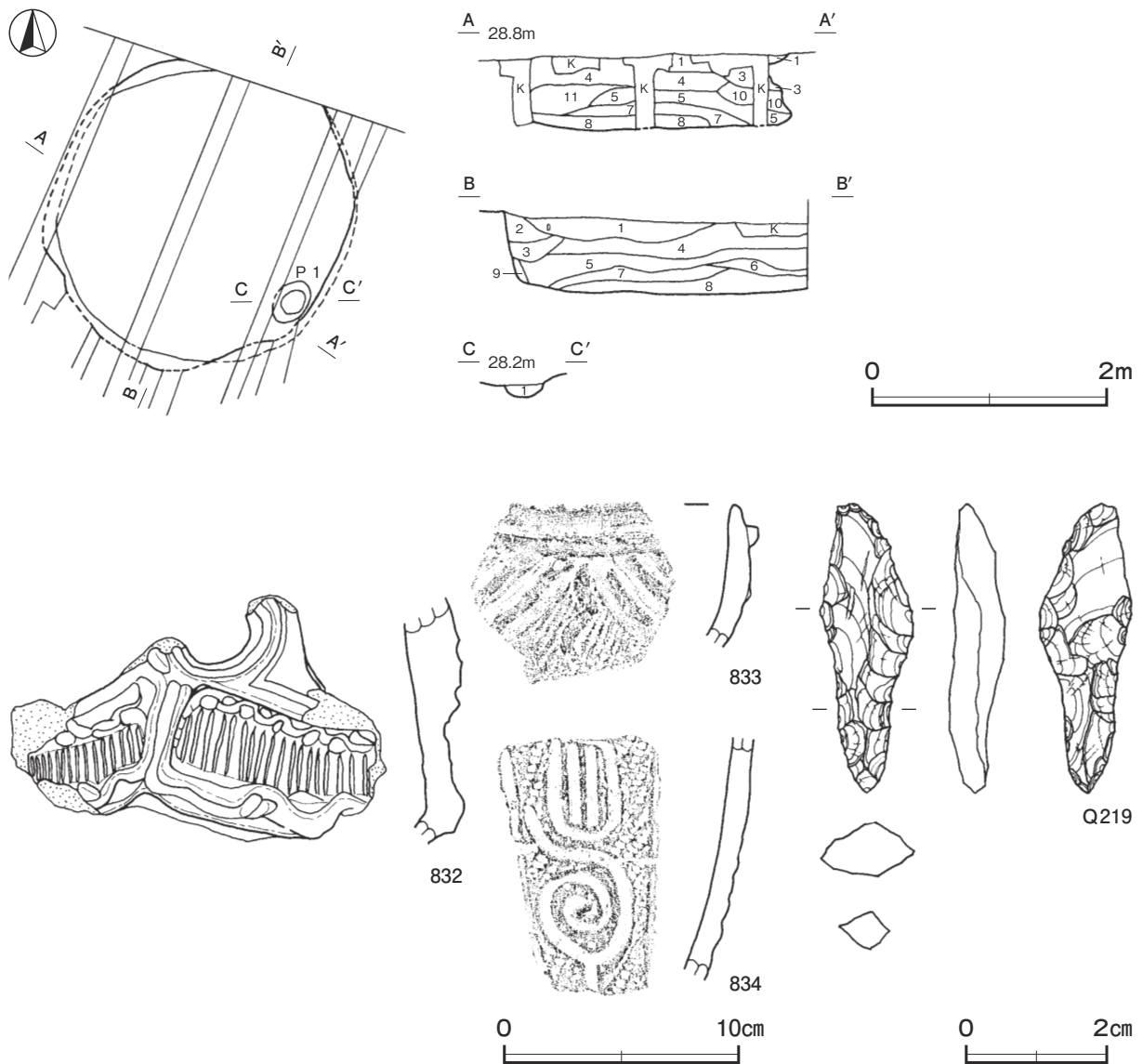
規模と形状 北端部が調査区域外へ延びているが, 開口部は径 2.45 ~ 2.59 m の円形と推定できる。底面は径 2.52 m の円形と推定でき, 平坦である。確認面からの深さは 62cm である。壁は南・東部がやや内傾して袋状を呈しており, 北・西部はほぼ直立している。

ピット 深さ 11cm で, 性格は不明である。

ピット土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

覆土 11 層に分層できる。含有物が少なく, 黒褐色土や暗褐色土が主体であることから, 自然堆積である。



第 315 図 第 291 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 195 点（深鉢 194, 浅鉢 1）, 石器 3 点（石錐, 磨石, 敲石）, 石核 1 点（瑪瑙）, 剥片 5 点（石英 1, 安山岩 1, チャート 1, 瑪瑙 2）が出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 291 号土坑出土遺物観察表（第 315 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
832	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	中空の把手 口縁部蛇行隆帯による区画 区画内交互刺突文・縦位の条線文	覆土中層	
833	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁上部無文帯 隆帯により文様描画 地文に単節縄文 RL（縦）	覆土上層	
834	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文 RL（縦） 沈線による縦位の渦巻文・楕円区画文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 219	石錐	4.1	1.3	0.8	3.1	瑪瑙	両側縁押圧剥離	覆土下層	PL160

第 292 号土坑（第 316・317 図 PL54）

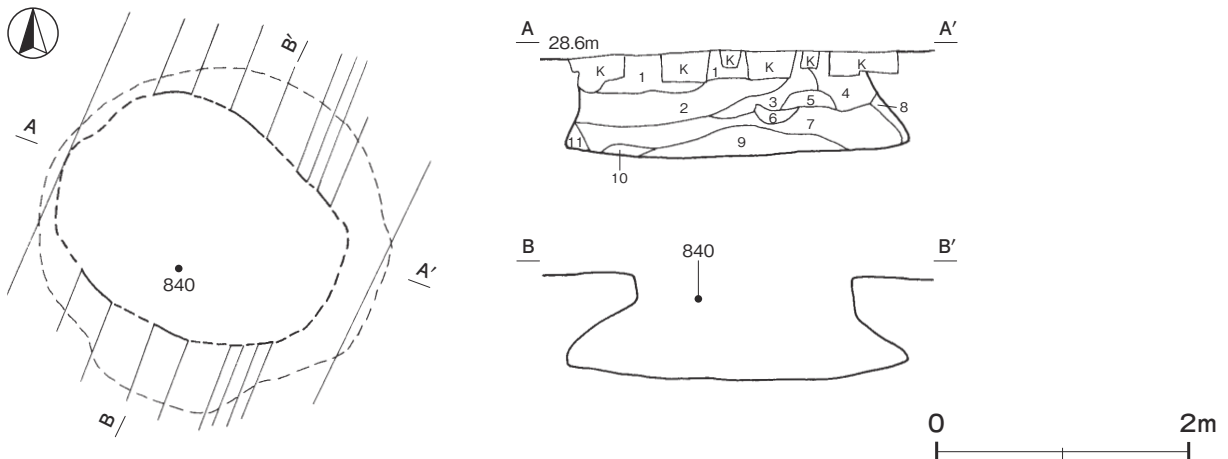
位置 調査区北部の C 3 b3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 2.34 m, 短径 1.79 m の楕円形と推定でき, 長径方向は N - 70° - W である。底面は径 2.74 ~ 2.77 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 83cm である。壁は大きく内傾して袋状を呈し, 底面から 45 ~ 60cm のところでぐびれ, 上位は直立している。

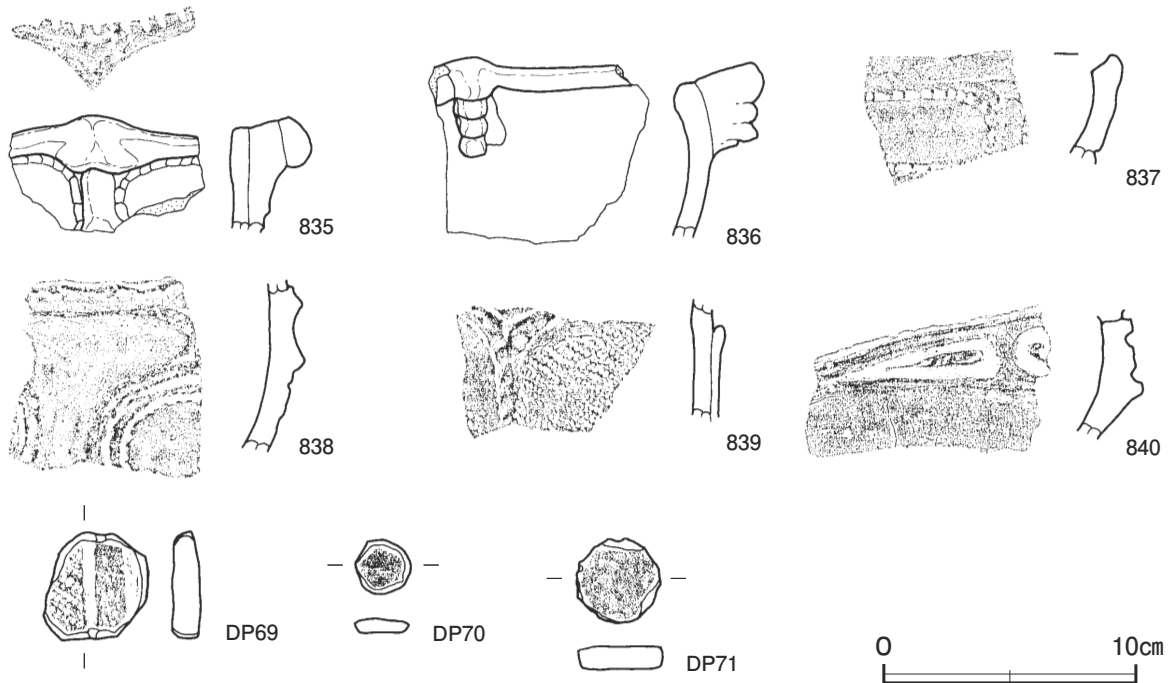
覆土 11 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量 | 11 黒褐色 | 鹿沼バミスブロック中量, ロームブロック少量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量 | | |



第 316 図 第 292 号土坑実測図



第 317 図 第 292 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 359 点 (深鉢 352, 浅鉢 7), 土製品 (土器片錘 1, 土器片円盤 2)・石核 (石英, 安山岩, 瑪瑙)・剥片 (安山岩 2, チャート 1) 各 3 点が覆土中層から下層にかけて, 散乱して出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

第 292 号土坑出土遺物観察表 (第 317 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
835	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英	灰褐	普通	口縁上端隆帯貼付 摘み状突起 口唇部内面刺突列 突起部から隆帯垂下 隆帯に沿って有節沈線	覆土中層	
836	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇部断面三角形・縦長の段状の隆帯貼付 外・内面横位磨き	覆土中	
837	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	細い隆帯による楕円区画 隆帯に沿って有節沈線	覆土下層	
838	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	断面三角形の隆帯で区画 隆帯に沿って有節沈線	覆土下層	
839	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL (横) 断面三角形の Y 字状の隆帯を貼付	覆土下層	
840	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線による文様描画 外・内面横位の磨き	覆土中層	

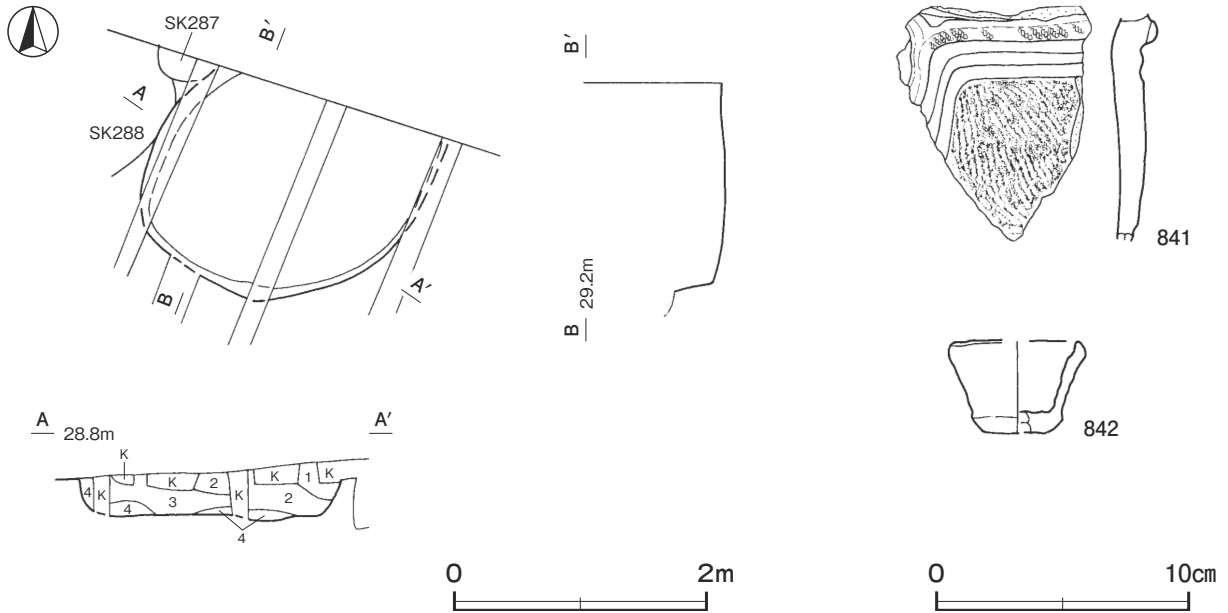
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP69	土器片錘	4.2	3.1	1.1	23.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	
DP70	土器片円盤	2.1	2.1	0.6	2.7	長石・石英	橙	胴部片 周縁部研磨	覆土中層	
DP71	土器片円盤	3.3	3.3	0.9	10.6	長石・石英・雲母	橙	胴部片 周縁部粗雑に研磨	覆土中層	

第 295 号土坑 (第 318 図 PL54)

位置 調査区北部の C 3 b8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 287・288 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており, 北部が調査区域外へ延びているため, 北西・南東径は 1.97 m, 北東・南西径は 1.71 m しか確認できなかった。楕円形と推定でき, 北東・南西径方向は N - 38° - E である。底面は平坦で, 深さ 42cm である。壁は外傾している。



第 318 図 第 295 号土坑・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。含有物が少ない暗褐色土を主体としていることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 6 点（深鉢 4，浅鉢 1，手捏土器 1）が，覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 295 号土坑出土遺物観察表（第 318 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
841	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	隆帯による区画 隆帯に沿って 2本の太い沈線 隆帯上及び地文に無節縄文 L (縦)	覆土上層	
842	縄文土器	手捏土器	[4.1]	3.1	[2.8]	長石・石英	橙	普通	外面横位のナデ・指頭痕あり 内面横位のナデ	覆土中	40%

第 299 号土坑（第 319 図）

位置 調査区西部の C 2c7 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 342 号土坑を掘り込み，第 4 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第 4 号竪穴建物，西部を第 342 号土坑に掘り込まれており，北西・南東径は 2.29 m，北東・南西径は 2.06 m しか確認できなかった。不整楕円形で，北西・南東径方向は N - 68° - W である。底面は平坦で，深さ 57cm である。壁は外傾している。

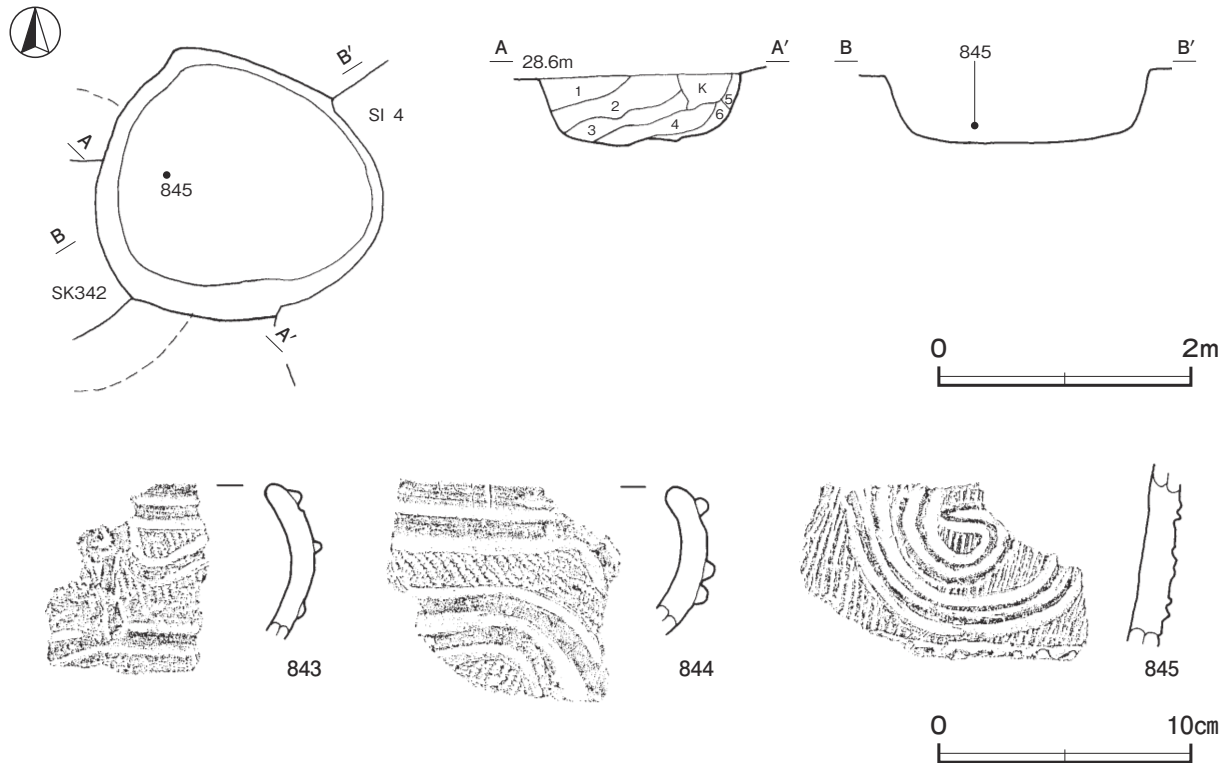
覆土 6層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片 26 点（深鉢 19，浅鉢 7）が出土している。845 は西部の覆土下層から出土している。

所見 形状から袋状土坑の下部と推定でき，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第 319 図 第 299 号土坑・出土遺物実測図

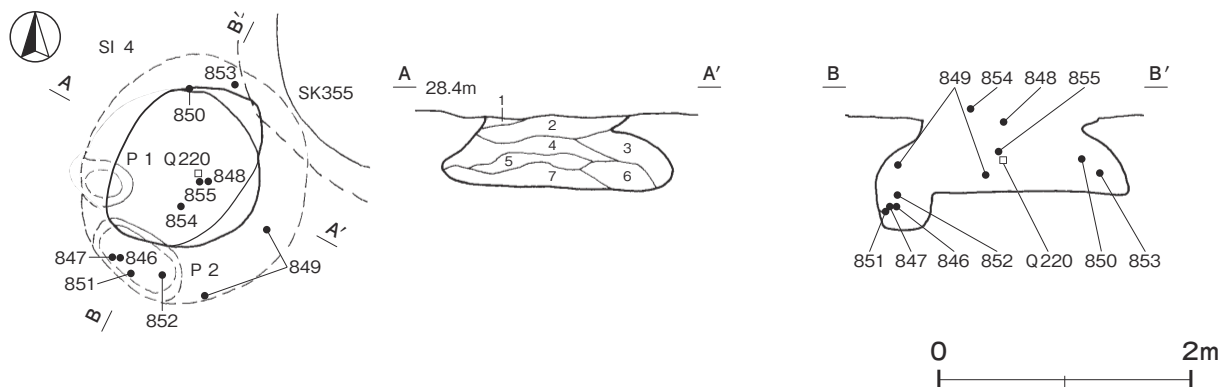
第 299 号土坑出土遺物観察表 (第 319 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
843	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	地文に0段多条縄文RL(横) 隆帯による文様 描画 隆帯に沿って沈線	覆土中	
844	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文RL(横・斜) 隆帯による区画 隆帯に沿って沈線	覆土中	
845	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に燃糸文(縦) 背割れ隆帯による渦巻文	覆土下層	

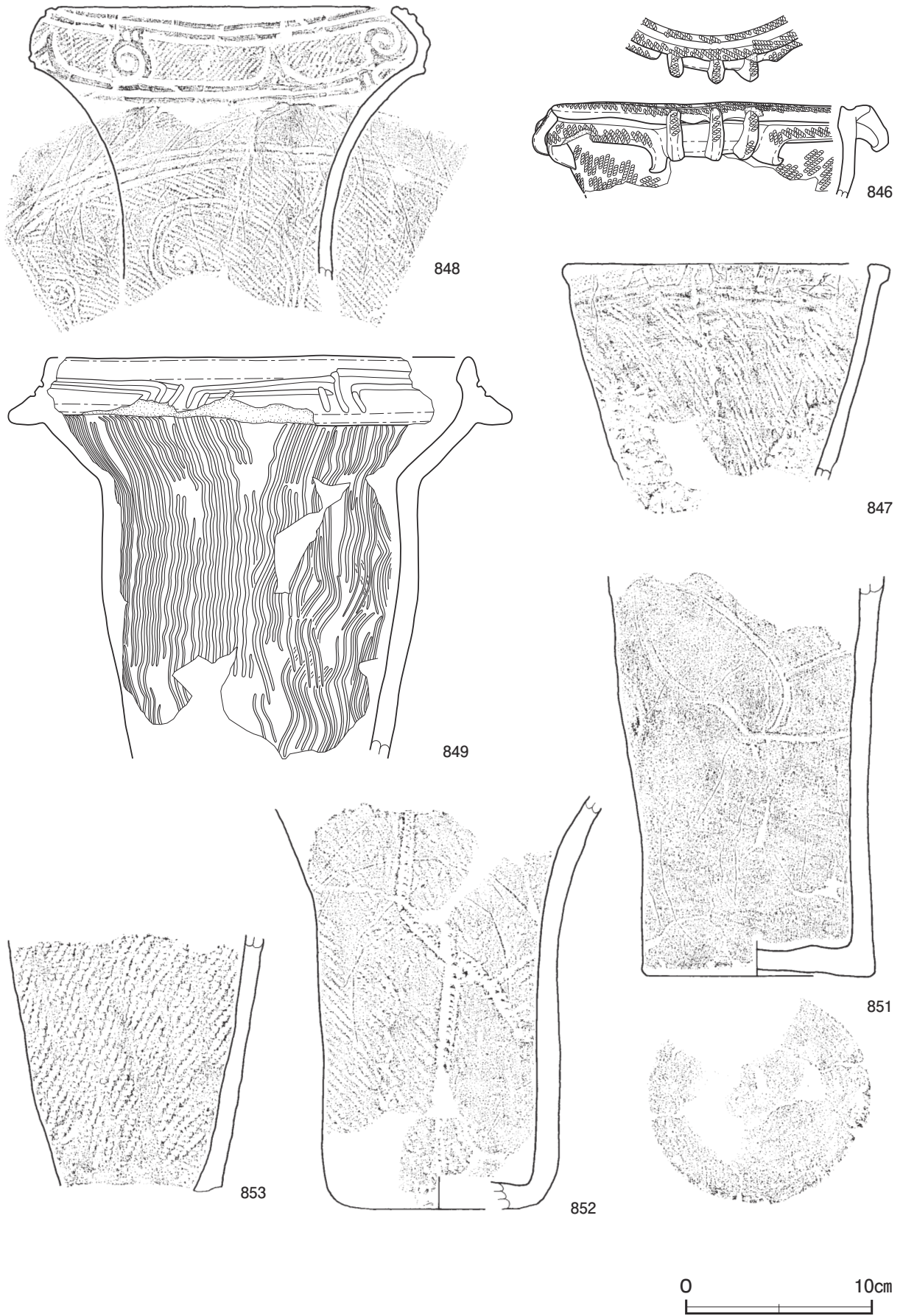
第 300 号土坑 (第 320 ~ 322 図 PL55)

位置 調査区西部のC 2 c8 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

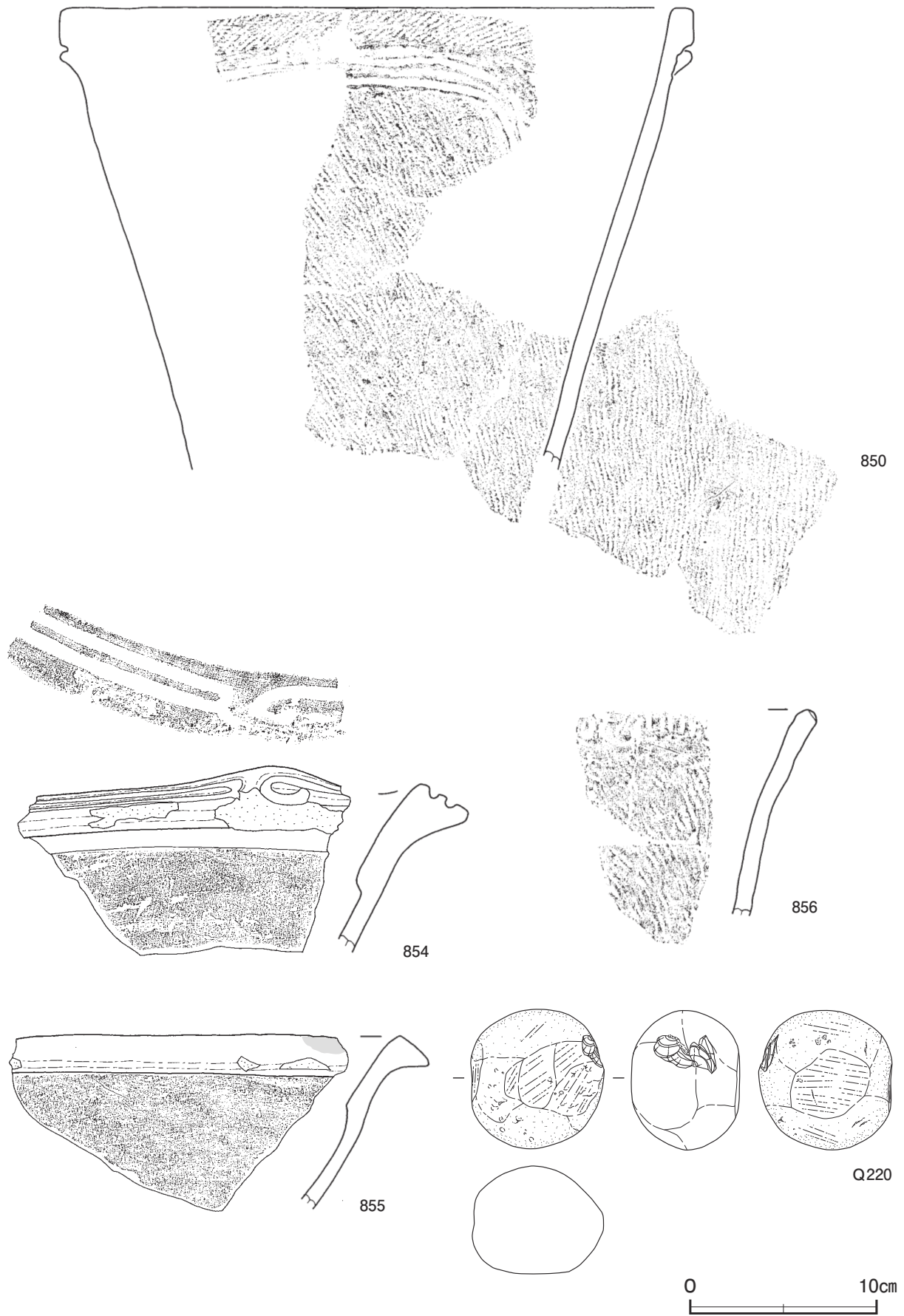
重複関係 第 4 号竪穴建物, 第 355 号土坑に掘り込まれている。



第 320 図 第 300 号土坑実測図



第 321 図 第 300 号土坑出土遺物実測図(1)



第 322 图 第 300 号土坑出土遗物实测图 (2)

規模と形状 開口部は長径 1.48 m, 短径 1.15 m の楕円形で, 長径方向は N - 50° - E である。底面は径 2.00 m ほどの円形で, 平坦である。確認面からの深さは 56cm で, 壁は底面から内彎して, 袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1 は長径 50cm, 短径 30cm の楕円形で, 深さ 25cm である。P 2 は長径 80cm, 短径 40cm の楕円形で, 深さ 30cm である。位置と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 7 層に分層できる。下層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	5 黒 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	6 暗 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐 色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量		

遺物出土状況 縄文土器片 89 点 (深鉢 87, 浅鉢 2), 石器 1 点 (敲砥石), 剥片 4 点 (瑪瑙) が出土している。849・850・853・855, Q 220 は覆土下層から, 848・854 は覆土上層から, 846・847・851・852 は P 2 の覆土中層から, 856 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 300 号土坑出土遺物観察表 (第 321・322 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
846	縄文土器	深鉢	16.3	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇頂部に平坦面を作り出し浅い沈線が一巡 隆帯貼付による文様描画 隆帯上及び地文に単 節縄文 RL (横) を施文	P 2 覆土中層	10% PL134 外・内面煤付着
847	縄文土器	深鉢	[17.6]	(11.5)	-	長石・雲母・赤色 粒子・黒色粒子	明赤褐	良好	口唇頂部に平坦面 胴部無節縄文 L (縦) 外・内面横方向の磨き	P 2 覆土中層	25%
848	縄文土器	深鉢	18.1	(14.7)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	明褐	普通	口縁部単節縄文 LR (横) 口縁上部に沈線が一巡 隆帯により楕円区画・渦巻文 隆帯に剣先文 頸部無文帯 3 本の沈線で区画 胴部同一原体 (縦) 沈線により縦位の渦巻文	覆土上層	40% PL134
849	縄文土器	深鉢	[22.5]	(21.7)	-	長石・石英	暗赤褐	普通	口縁部に沈線による区画文 庇状の隆帯貼付 胴部 6 本単位の櫛歯状工具による縦位の蛇行条 線文	覆土下層	PL134
850	縄文土器	深鉢	[34.6]	(24.9)	-	長石・石英・雲母・ 細礫	灰褐	普通	V 字状の隆帯貼付 口縁下に並行沈線 口縁部 無節縄文 L (横)・胴部 (縦)	覆土下層	30%
851	縄文土器	深鉢	-	(21.6)	12.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	浅い沈線により蛇行線文を描画	P 2 覆土中層	10% PL135
852	縄文土器	深鉢	-	(22.3)	[11.1]	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	灰褐	普通	地文に無節縄文 L (縦) をまばらに施文 ベン 先状刺突による有節沈線で縦位の文様描画	P 2 覆土中層	60% PL135
853	縄文土器	深鉢	-	(13.8)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	明褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦)	覆土下層	30%
854	縄文土器	浅鉢	-	(10.1)	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	にぶい赤褐	良好	口唇頂部に太沈線で楕円文・渦巻文を描画 外・ 内面横方向の磨き	覆土上層	
855	縄文土器	浅鉢	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁頂部横方向の磨き 外・内面横方向の磨き 口唇部及び口縁部内面赤彩痕	覆土下層	
856	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	褐色	普通	口唇頂部にキザミ目 胴部無節縄文 L (縦) を 施文	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 220	敲砥石	7.5	7.2	5.8	441.9	石英	円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土下層	PL172

第 301 号土坑 (第 323 図)

位置 調査区西部の C 2 d3 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

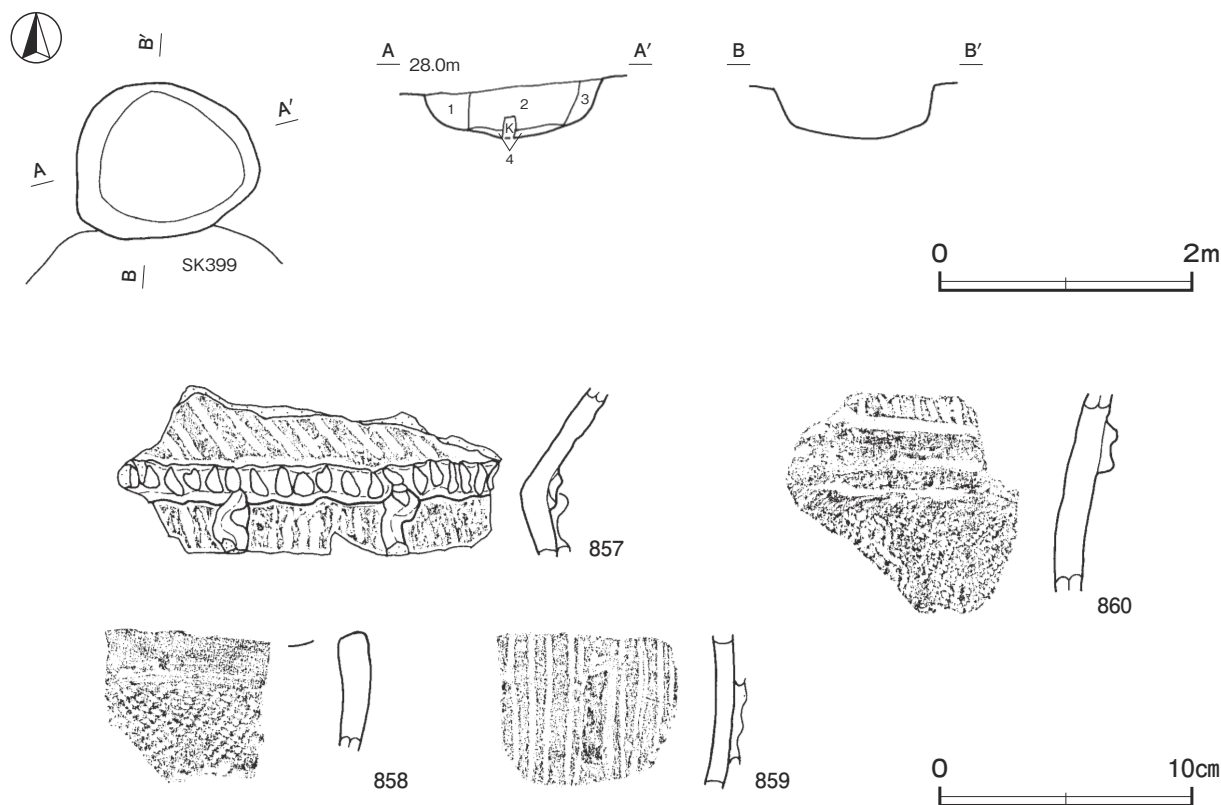
重複関係 第 399 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.46 m, 短径 1.25 m の楕円形で, 長径方向は N - 83° - W である。底面は皿状で, 深さは 40cm である。壁は外傾している。

覆土 4 層に分層できる。不自然な堆積状況から, 埋め戻されている。

土層解説

1 褐 色	ローム粒子微量	3 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	4 にぶい褐色	ロームブロック微量



第 323 図 第 301 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 56 点（深鉢 54, 浅鉢 2）, 石器 1 点（磨製石斧）, 石核 1 点（安山岩）が出土している。857～860 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 301 号土坑出土遺物観察表（第 323 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
857	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	刺突隆帯が一巡 隆帯から蛇行隆帯が垂下 地に斜・縦の条線文	覆土中	PL133
858	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	口唇部肥厚 口縁部無文 地文に単節縄文 RL (縦) を施文	覆土中	
859	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・針状鉱物	明赤褐	普通	地文に縦位の沈線文 縦位の刺突隆帯が垂下	覆土中	
860	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	背割れ隆帯が一巡 地文に単節縄文 RL (縦) 縦位の結節縄文を施文	覆土中	

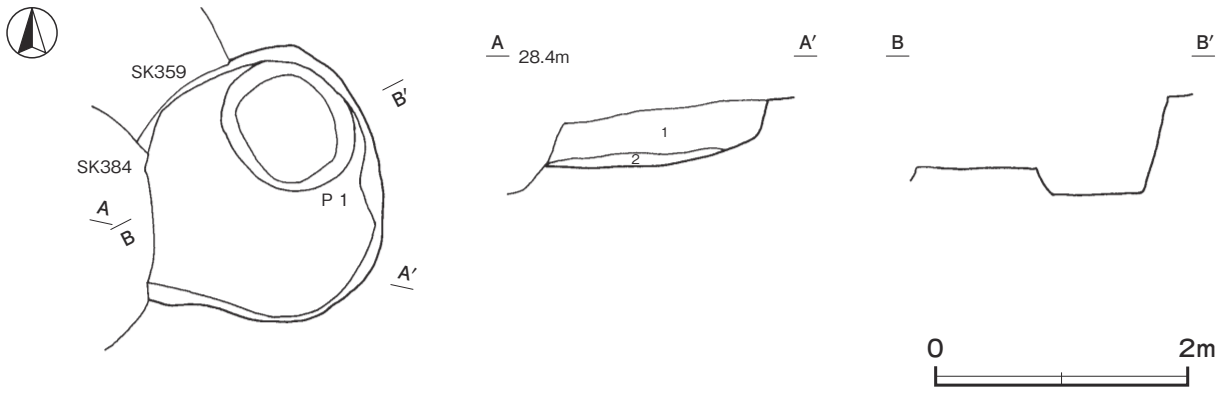
第 302 号土坑（第 324・325 図 PL55）

位置 調査区西部の C 2 e4 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

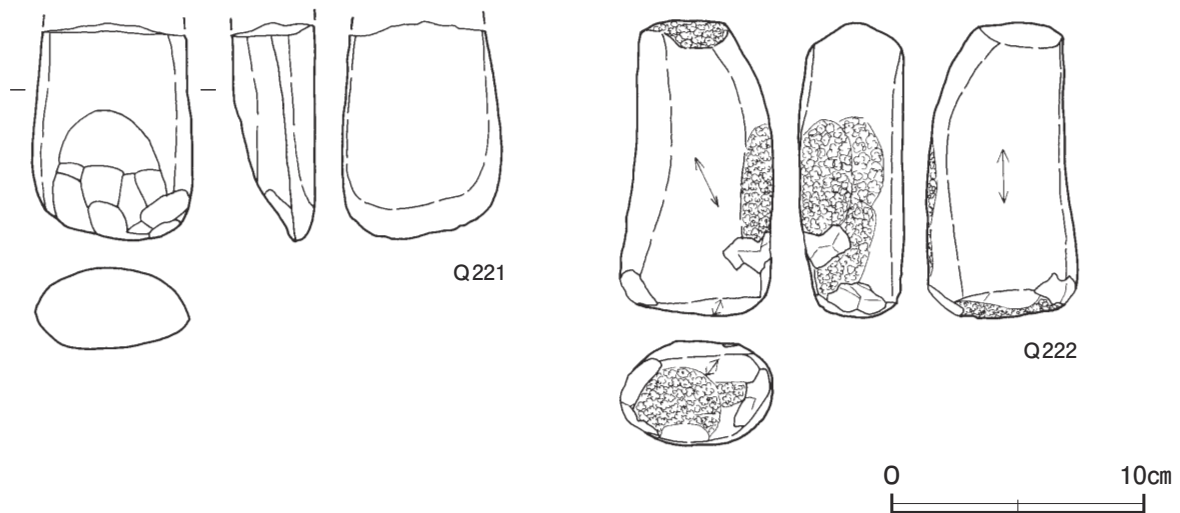
重複関係 第 359・384 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 2.05～2.18 m の円形である。底面は平坦で、深さは 55cm である。壁は緩やかに立ち上がっている。

ピット 北東壁際に位置し、長径 110cm、短径 100cm の楕円形で、深さ 20cm である。規模や形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。



第 324 図 第 302 号土坑・出土遺物実測図



第 325 図 第 302 号土坑出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが混入していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 2 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 489 点 (深鉢 483, 浅鉢 6), 石器 2 点 (打製石斧, 敲砥石), 剥片 2 点 (瑪瑙, 緑泥片岩) が出土している。861 ~ 872, Q 221・Q 222 はいずれも覆土中から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

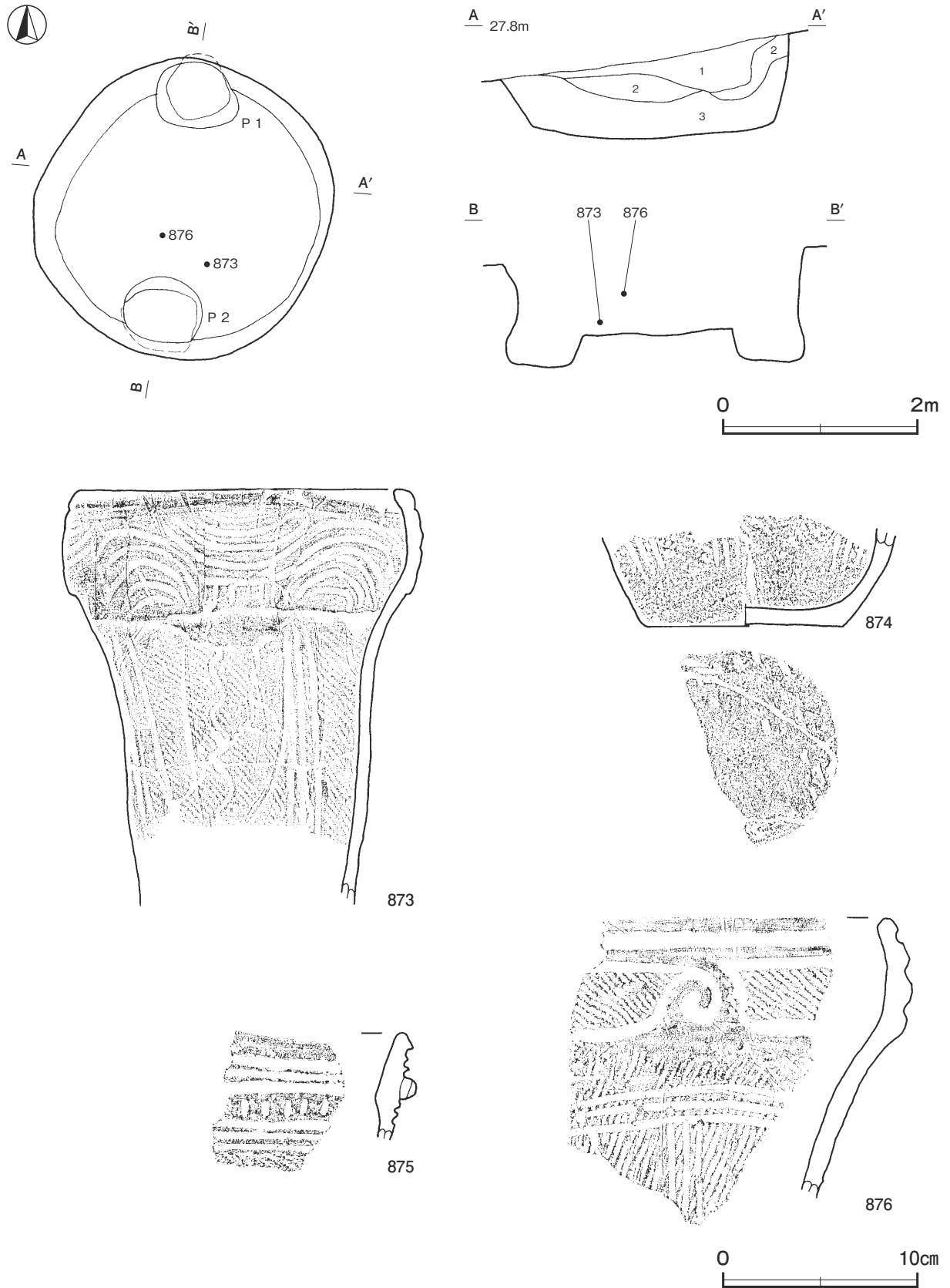
第 302 号土坑出土遺物観察表 (第 324・325 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
861	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇直下から 2 条の鱗状隆帯を巡らせ 隆帯上に突起 下位の隆帯下に横位の並行沈線施文	覆土中	
862	縄文土器	深鉢	-	(10.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	鱗状の隆帯貼付 隆帯に沿って有節沈線を施文	覆土中	
863	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	断面三角形の隆帯による区画文 隆帯の一部に中空の把手 隆帯に沿って沈線を施文	覆土中	
864	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	橙	良好	断面三角形の隆帯上に眼鏡状の中空把手 隆帯に沿ってペン先状の突起による有節沈線	覆土中	
865	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	隆帯による方形区画 縦位の隆帯上と隆帯に沿って有節沈線 区画内 2 本の蛇行沈線	覆土中	
866	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部肥厚 口唇頂部にキザミ目 肥厚部に条線文 口縁に沿って有節沈線 地文に横位の条線文	覆土中	
867	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇内面内削ぎ 口唇部に列点文 口縁部有節沈線が一巡させ区画 2 本の波状有節沈線が垂下	覆土中	
868	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口唇部肥厚 外・内面横方向のナデ	覆土中	
869	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口唇内側に段 口縁部横方向のナデ→単節縄文 LR (横) 胴部同一原体により間を開けて縦施文 内面丁寧な横ナデ	覆土中	
870	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口唇頂部に突起 横位の並行沈線を巡らせ沈線間に突起文と蛇行沈線が一巡	覆土中	
871	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部内削ぎ 口唇頂部外削ぎ 外・内面横方向のナデ	覆土中	
872	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	無文地に半截竹管による縦位の蛇行沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 221	打製石斧	(8.6)	6.3	3.3	(261.3)	砂岩	撥形 表裏に自然面 刃部は片面を敲打 基部欠損	覆土中	
Q 222	敲砥石	11.7	4.1	6.0	(474.5)	砂岩	楕円礫の両端及び片側縁部に敲打痕・砥面により稜をもつ	覆土中	PL172

第 303 号土坑 (第 326 図 PL55)

位置 調査区南西部の C 2 i4 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 326 図 第 303 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 径 3.06 ～ 3.16 m の円形で、底面は平坦である。深さは 94cm で、壁はほぼ直立している。

ピット 2 か所。南北の壁際に位置しており、いずれも径 80cm ほどの円形で、深さは 30cm である。規模と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 3 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況が見られることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片 135 点（深鉢）、石器 1 点（磨石）が出土している。873 は覆土下層、876 は覆土中層から散乱した状態で、874・875 は覆土中から出土している。いずれも埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 303 号土坑出土遺物観察表（第 326 図）

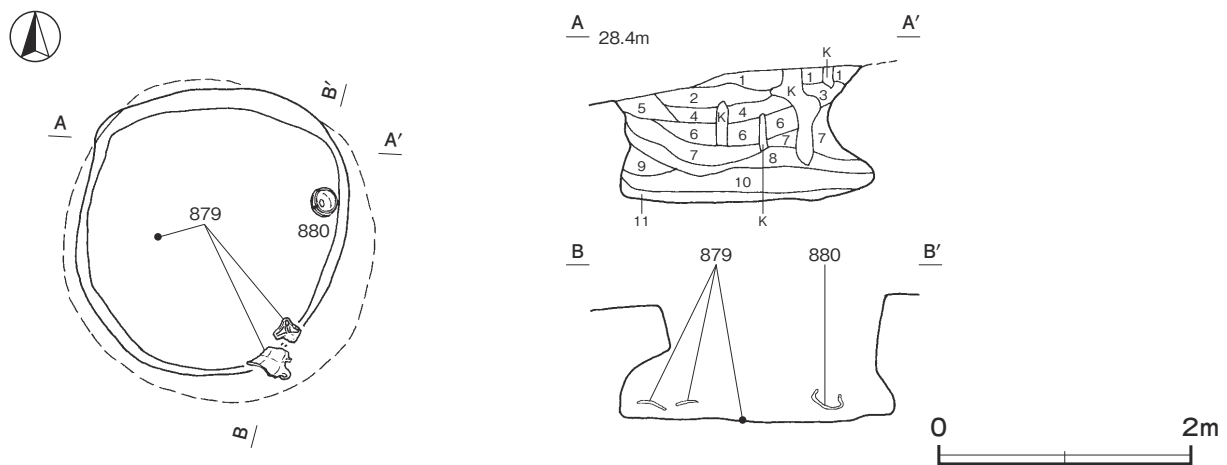
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
873	縄文土器	深鉢	16.0	(21.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部交互弧線文が一巡 胴部無節縄文 L (縦) 口縁直下から 3 本の並行沈線と 1 本の蛇行沈線が垂下	覆土下層	60% PL133
874	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	10.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 3 本の沈線が垂下 底面網代痕	覆土中	10%
875	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口唇部外削ぎ 棒状工具による 3 本の沈線・キザミ目の隆帯が一巡 胴部単節縄文 LR (縦)	覆土中	
876	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口唇上部に沈線が一巡 隆帯による渦巻区画 区画内単節縄文 RL (横) 頸部を 3 本の横位沈線で区画し 3 本の並行沈線が垂下 地文に同一原体による縦位施文	覆土中層	PL133

第 304 号土坑（第 327・328 図 PL56）

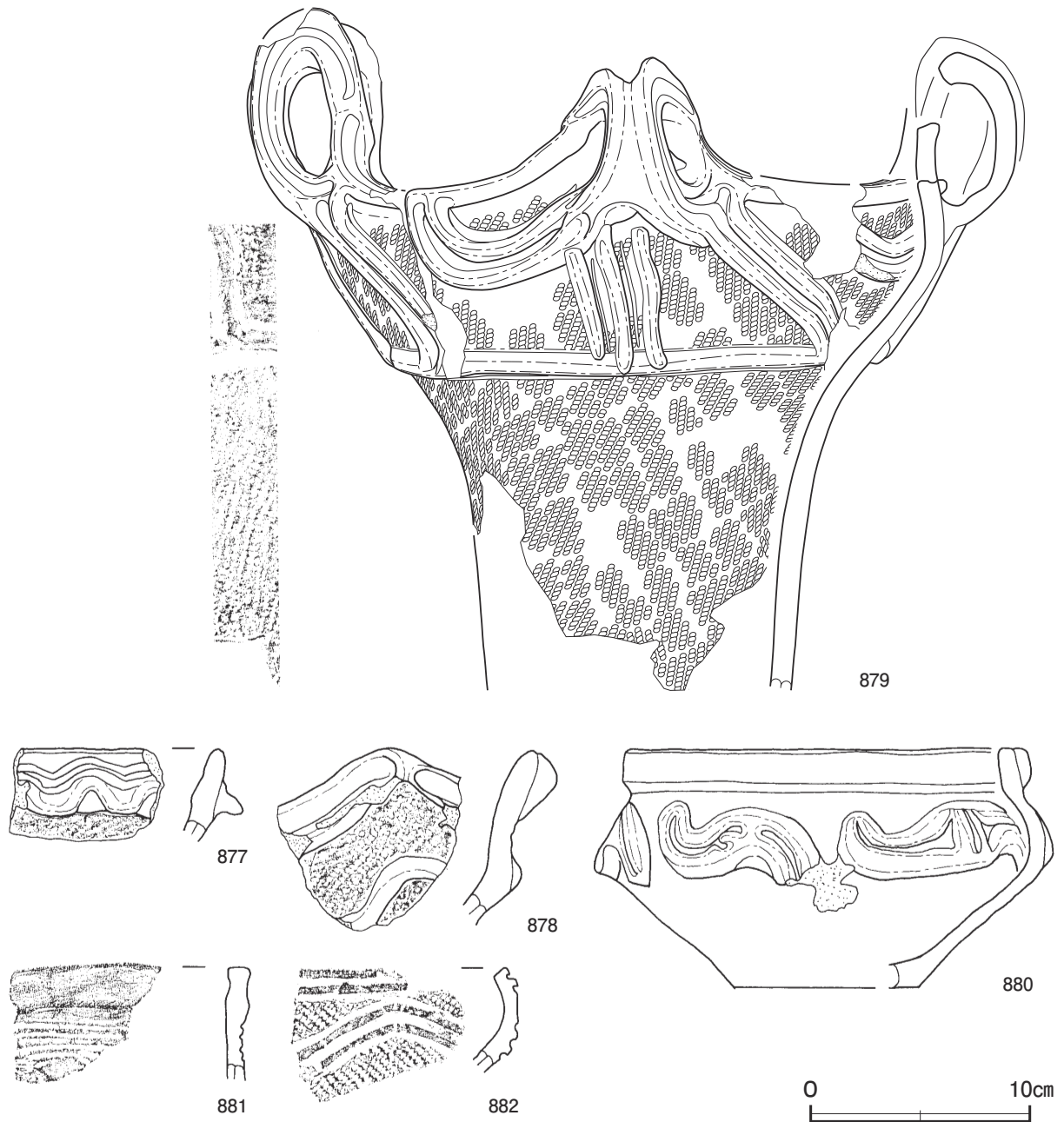
位置 調査区南西部の C 2 i5 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は径 2.20 ～ 2.40 m の円形である。底面は径 2.48 ～ 2.60 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 102cm である。壁は内彎して、袋状を呈している。

覆土 11 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第 327 図 第 304 号土坑実測図



第 328 図 第 304 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|----------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒 褐 色 | ローム粒子微量 | 10 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 11 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 135 点（深鉢 134, 浅鉢 1）, 石核 1 点（安山岩）, 剥片 3 点（瑪瑙, 頁岩, チャート）が出土している。879・880 は覆土下層から一括出土している。877・878・881・882 は, 覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 304 号土坑出土遺物観察表 (第 328 図)

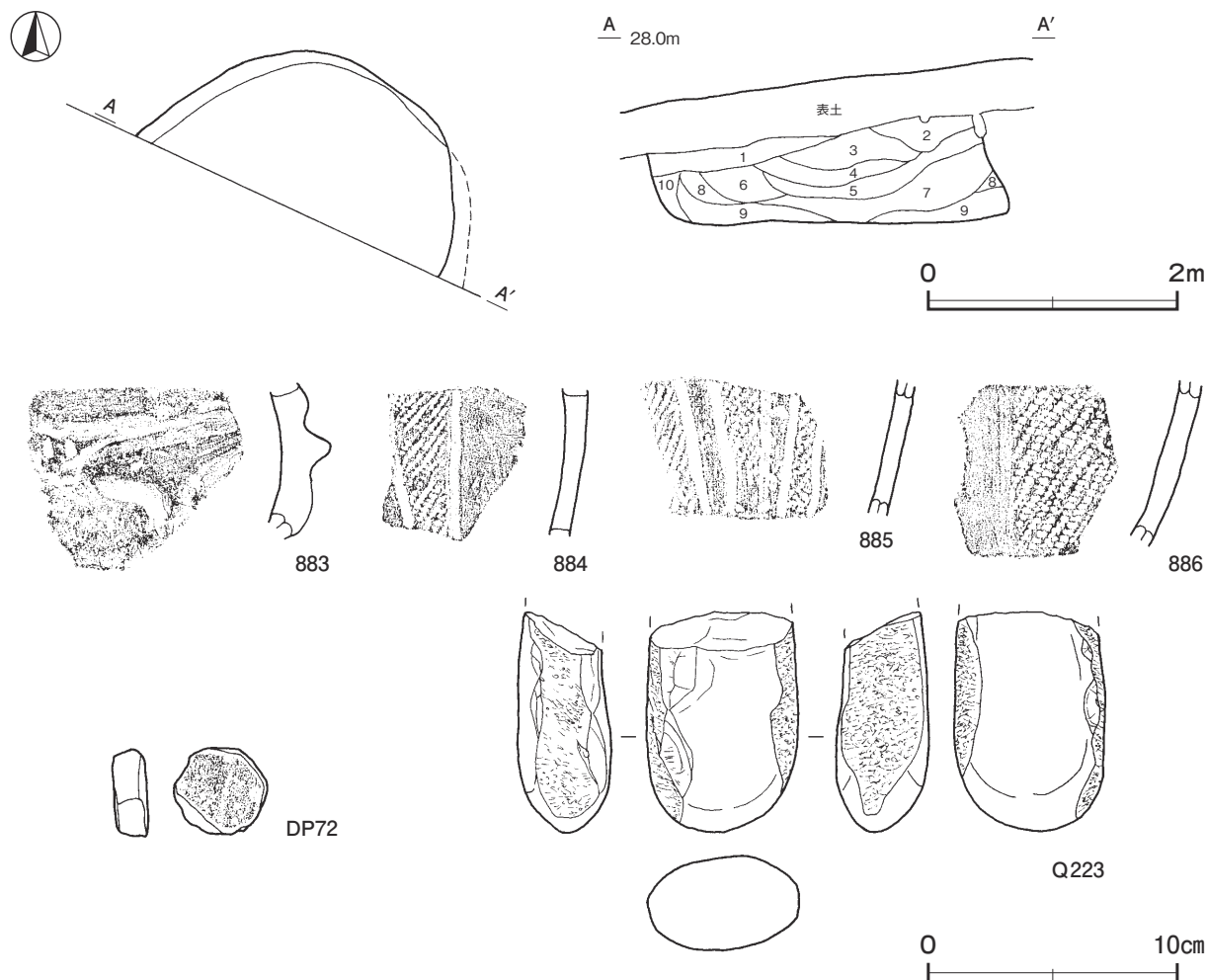
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
877	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部鱗状の刺突隆帯が一巡 胴部は単節縄文LR (横)	覆土中	
878	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁波頂部から太沈線 地文に単節縄文LR (横) 浦針状の蛇行隆帯が巡る	覆土中	
879	縄文土器	深鉢	27.2	(31.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	4単位橋状把手 地文は単節縄文RL (斜) 隆帯による区画文	覆土下層	PL133
880	縄文土器	浅鉢	18.0	10.9	[8.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	良好	普通	外・内面丁寧な磨き 口唇部肥厚 背割れ隆帯貼付による横位の5単位の文様描画 口縁部外・内面赤彩痕	覆土下層	90% PL133
881	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇頂部平坦 口唇部肥厚 2本の半截竹管による沈線が一巡	覆土中	
882	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇上部に背割れ隆帯が一巡 2条の蛇行隆帯が巡る 地文に単節縄文RL (横)	覆土中	

第 305 号土坑 (第 329・330 図 PL56)

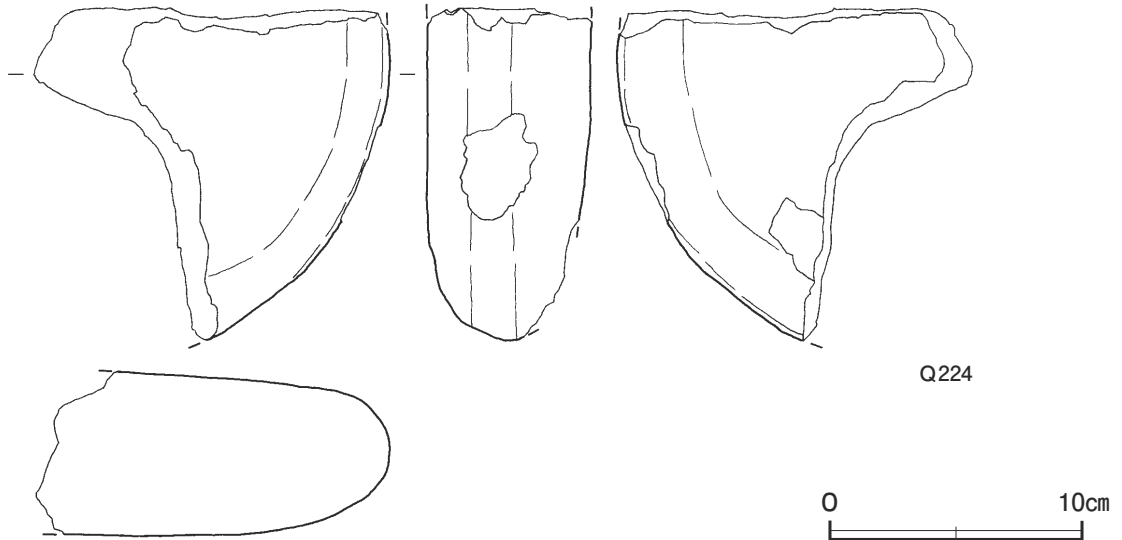
位置 調査区南西部のC 2j4区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南西部が調査区域外へ延びていることから, 北西・南東径は 2.68 m, 北東・南西径は 1.28 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で, 深さ 85cmである。壁は, 東部が緩やかに内彎しており, その他はほぼ直立している。

覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。



第 329 図 第 305 号土坑・出土遺物実測図



第 330 図 第 305 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 6 褐 色 | ロームブロック多量, 炭化物微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐 色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 77 点 (深鉢), 土製品 1 点 (不明土製品), 石器 5 点 (磨製石斧未成品 1, 砥石 1, 磨石 1, 敲石 2), 剥片 1 点 (ホルンフェルス) が出土している。883 ~ 886, DP72, Q 223・Q 224 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

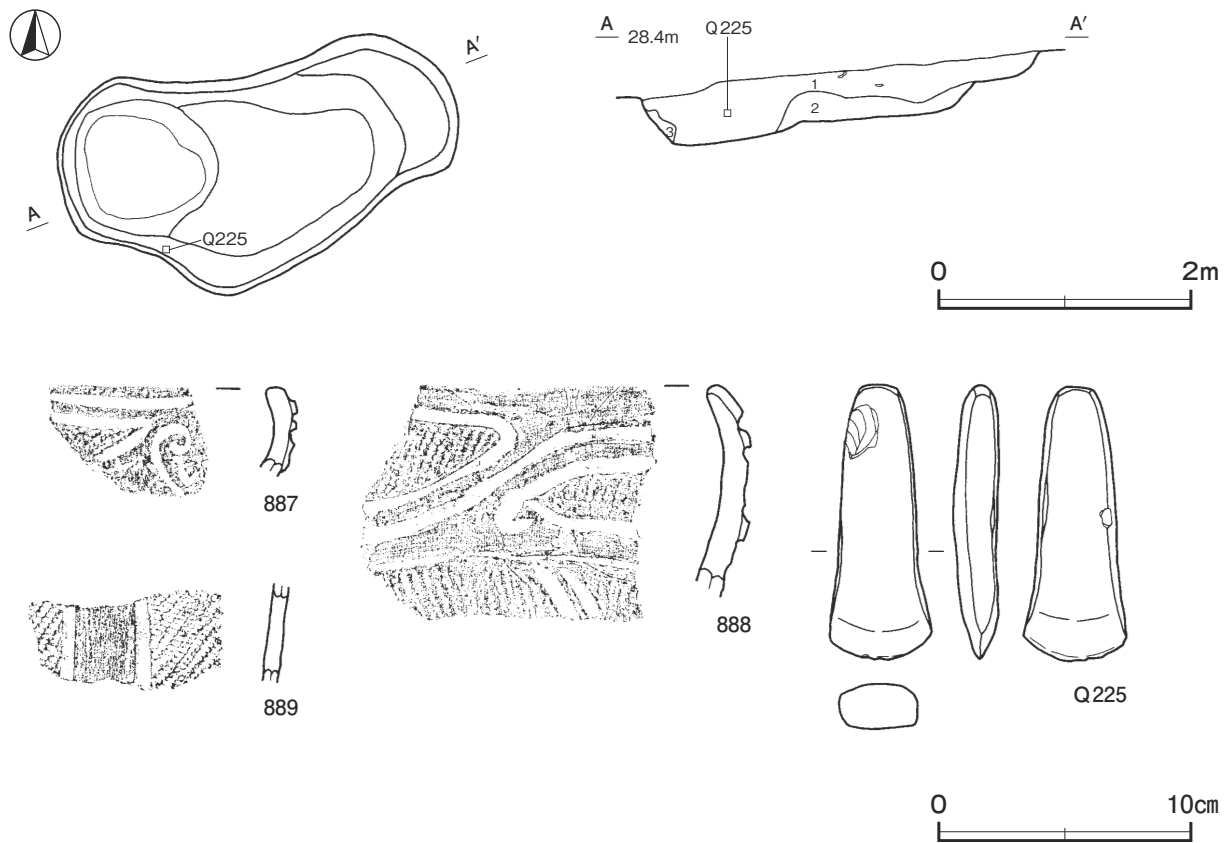
第 305 号土坑出土遺物観察表 (第 329・330 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
883	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・黒色 粒子	にぶい黄橙	普通	太沈線による渦巻文 縦長の刺突	覆土中	
884	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	
885	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に無節縄文 R (縦) 沈線を垂下 沈線間 磨消	覆土中	
886	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 浅い沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考	
DP72	不明土製品	3.5	3.7	1.4	18.3	長石・石英・雲母	橙	胴部片 周縁部粗雑に研磨	覆土中	錘・円盤 未成品	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考		
Q 223	磨製石斧 未成品	(8.9)	6.1	3.7	(314.2)	安山岩	表裏面研磨 両側縁に微細な敲打痕 基部欠損	覆土中	PL171		
Q 224	砥石	(13.2)	(14.0)	6.5	(1241.7)	砂岩	石皿転用 表裏に砥面	覆土中	被熱		

第 307 号土坑 (第 331 図)

位置 調査区西部の C 2 f4 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.18 m, 短軸 1.74 m の不定形で, 長軸方向は N - 73° - E である。底面は東部から西部にかけて 3 段の階段状を呈し, いずれも平坦である。深さは西部の最深部が 40cm で, 壁は外傾している。



第 331 図 第 307 号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 69 点（深鉢），石器 4 点（打製石斧 1，磨製石斧 2，磨石 1）が出土している。Q225は覆土中層から、887～889は、覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 307 号土坑出土遺物観察表（第 331 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
887	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口縁上部に沈線が一巡 隆帯による渦巻区画区画内単節縄文 LR（横）	覆土中	
888	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	隆帯による区画 隆帯に沿って沈線区画・渦巻文区画内単節縄文 RL（縦） 胴部同一原体（斜）並行沈線を施文	覆土中	
889	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	地文に単節縄文 RL（縦） 2本の沈線を垂下沈線間磨消	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 225	磨製石斧	10.9	4.0	1.8	107.6	砂岩	新形 全面研磨 両側縁に弱い稜 刃部は表裏から研ぎ出す 末広がり	覆土中層	PL168

第 308 号土坑 (第 332 図)

位置 調査区西部の C 2 f5 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.08 m, 短径 1.43 m の楕円形で, 長径方向は N - 87° - W である。底面は平坦で, 深さは 28cm である。壁は外傾している。

ピット 2 か所。P 1 は長径 40cm, 短径 30cm の楕円形で, 深さは 65cm, P 2 は径 30cm ほどの円形で, 深さは 30cm である。規模と形状から柱穴と考えられる。

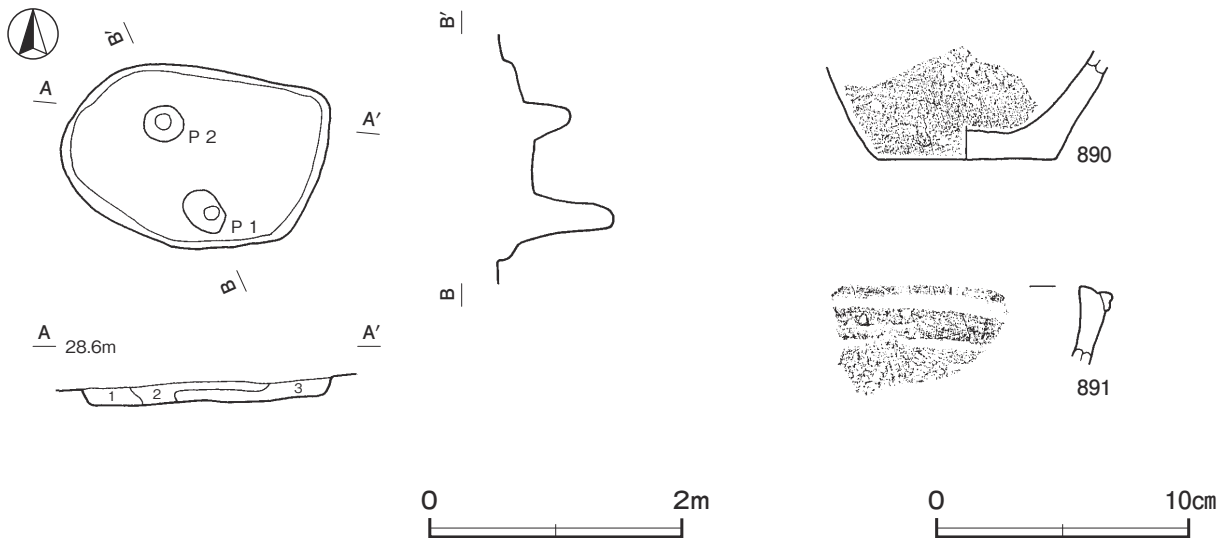
覆土 3 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 21 点 (深鉢), 石器 1 点 (打製石斧), 剥片 1 点 (瑪瑙) が出土している。890・891 は覆土中から出土している。埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 柱穴を有する貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 332 図 第 308 号土坑・出土遺物実測図

第 308 号土坑出土遺物観察表 (第 332 図)

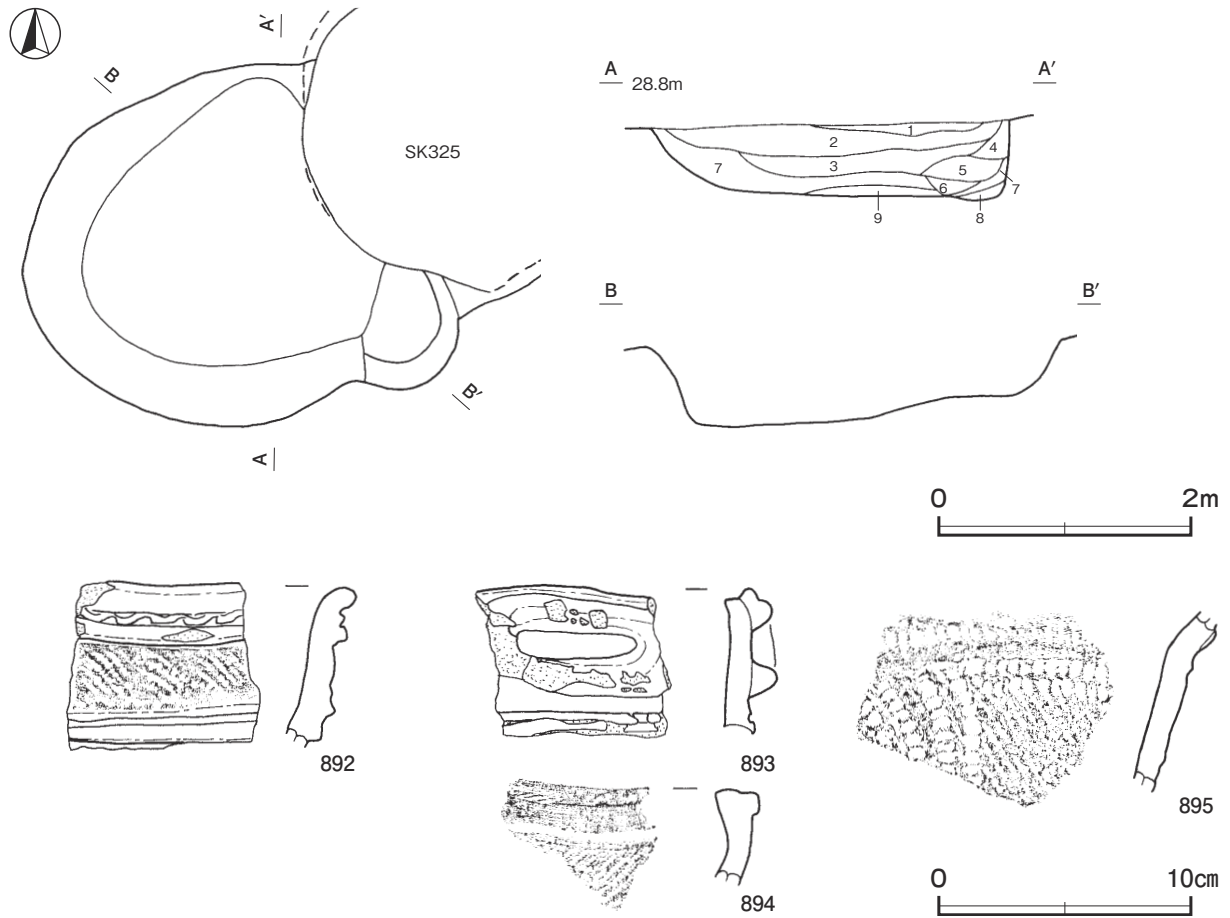
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
890	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	7.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に単節縄文 胴部下端横方向の磨き 底面丁寧なナデ	覆土中	10%
891	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部肥厚 口唇頂部に沈線が一巡 地文に単節縄文 LR (横)	覆土中	

第 309 号土坑 (第 333 図 PL56)

位置 調査区西部の C 2 g5 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 325 号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 長径 2.87 m, 短径 2.45 m の南東部がやや張り出す楕円形で, 長径方向は N - 61° - E である。底面は張り出し部に向かって緩やかに下降しており, 深さは 52 ~ 66cm である。壁は北部がほぼ直立し, 南側は外傾している。



第333図 第309号土坑・出土遺物実測図

覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 106点 (深鉢 102, 浅鉢 4), 剥片 6点 (粘板岩 4, チャート 2) が出土している。

892～895は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第309号土坑出土遺物観察表 (第333図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
892	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部2条の隆帯が一巡 隆帯間に交互刺突による波状文 区画内単節縄文LR (縦)	覆土中	
893	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	隆帯による横位の楕円区画 隆帯下に2本の有節沈線を施文	覆土中	
894	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	口唇部肥厚 口唇頂部に太沈線が一巡 地文に0段多条縄文RL (縦)	覆土中	
895	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	蒲葺状隆帯による区画文 地文に無節縄文L (縦) 隆帯に沿って2本の有節沈線	覆土中	

第 310 号土坑 (第 334 図 PL57)

位置 調査区南西部の C 2 i7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 385 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 2.57 ~ 2.65 m の円形である。底面は径 2.39 ~ 2.45 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 93cm で, 壁は北部がほぼ直立しており, その他は底面から内彎して, 袋状を呈している。

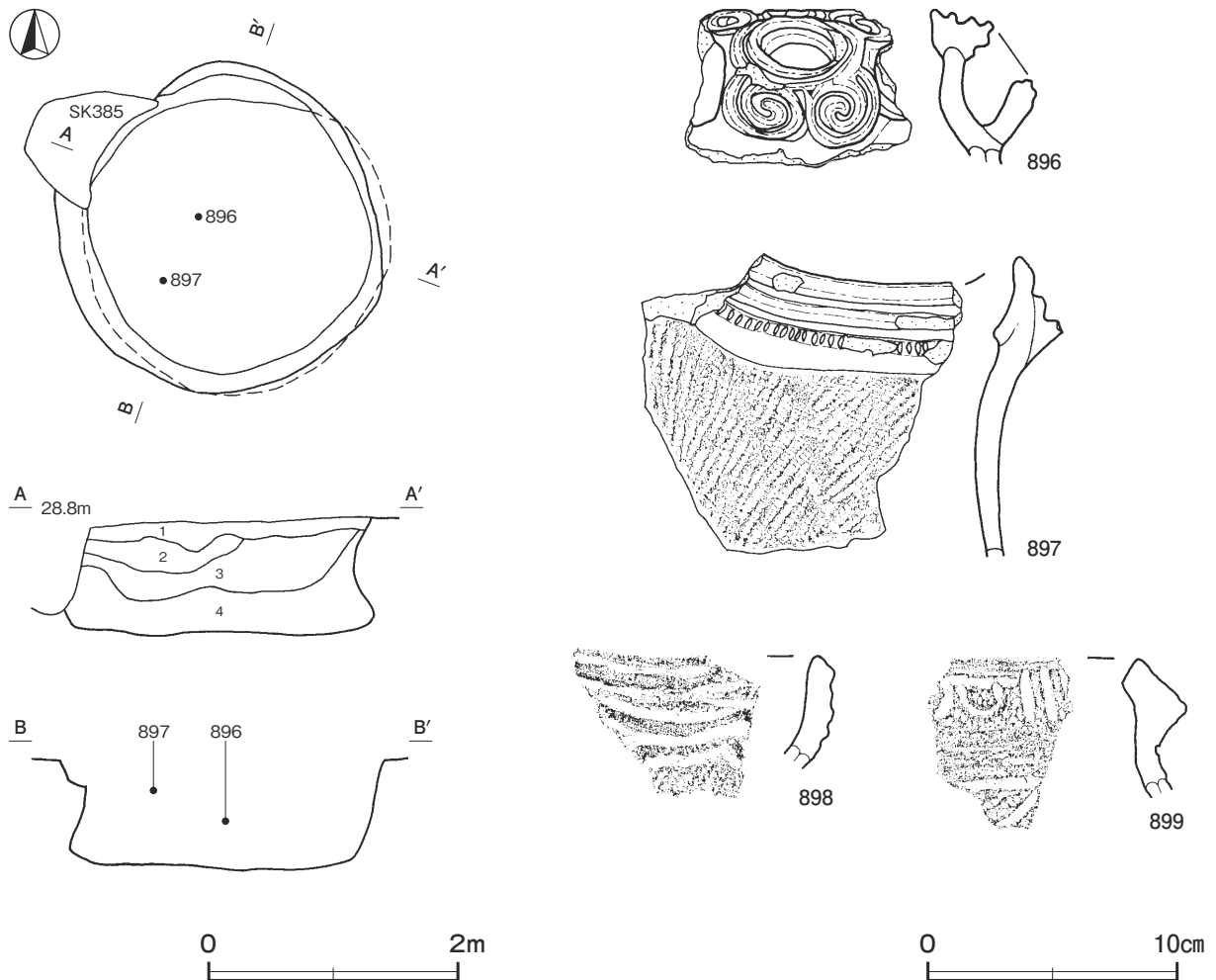
覆土 4 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 極暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 39 点 (深鉢), 剥片 3 点 (瑪瑙, 石英, チャート) が出土している。896・897 は中央部の覆土中層から, 898・899 は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 334 図 第 310 号土坑・出土遺物実測図

第 310 号土坑出土遺物観察表 (第 334 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
896	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	中空把手 把手頂部に3個の渦巻文 把手下部に2個の渦巻文を描画	覆土中層	
897	縄文土器	深鉢	-	(12.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇内側にシャープな段 口縁部3条の隆帯を巡らし下段の隆帯にキザミ目 地文に単節縄文RL(縦)	覆土中層	10% 口縁部煤付着
898	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文LR(横) 隆帯により文様描画	覆土中	
899	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	良好	口唇部肥厚 肥厚部に単節縄文RL(横) 沈線により口縁部文様を描画	覆土中	

第 311 号土坑 (第 335 図)

位置 調査区南西部のC 2j7区, 標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.76 m, 短径 1.57 mの不整楕円形で, 長径方向はN - 69° - Wである。底面は平坦である。深さは 28cmで, 壁は外傾している。

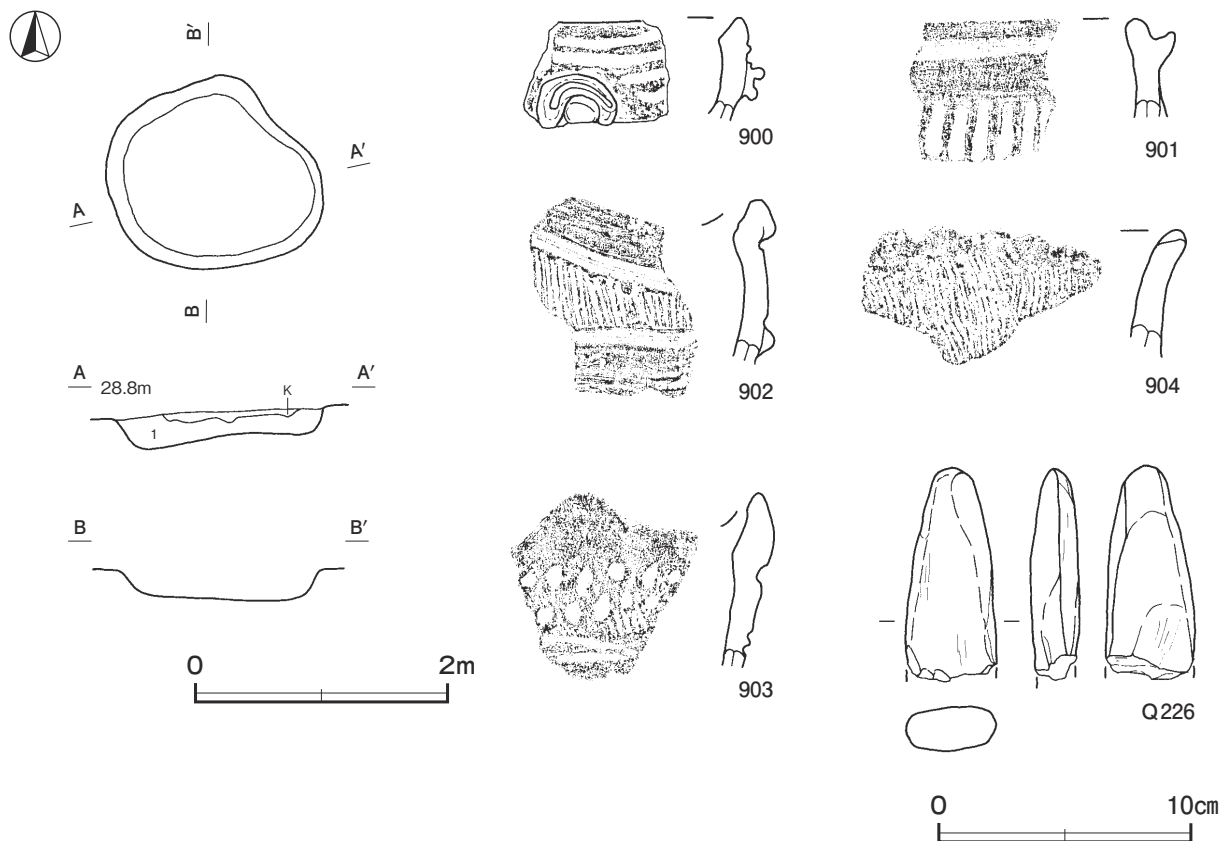
覆土 単一層であることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 141 点 (深鉢 139, 浅鉢 2), 石器 3 点 (磨製石斧 1, 磨石 2), 剥片 2 点 (瑪瑙, トロトロ石) が出土している。900 ~ 904, Q 226 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 335 図 第 311 号土坑・出土遺物実測図

第 311 号土坑出土遺物観察表 (第 335 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
900	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口唇部内削ぎ 半楕円隆帯貼付 沈線による横線文	覆土中	
901	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	口唇部肥厚 口唇頂部に太沈線が一巡 太沈線による縦位の沈線	覆土中	
902	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部肥厚 蒲鉾状隆帯による区画文 区画内斜位の条線文	覆土中	
903	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明褐	普通	2条の縦長の刺突が巡る 地文に縦位の捺糸文	覆土中	
904	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇頂部指頭による波状 口縁直下から縦位の捺糸文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 226	磨製石斧	(8.4)	3.6	1.8	(928)	角閃岩	短冊形 表裏面研磨 刃部欠損	覆土中	PL168

第 312 号土坑 (第 336 図)

位置 調査区南部中央の D 3 b1 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 484 号土坑を掘り込み、第 313 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.28, 短径 1.57 m の楕円形で、長径方向は N - 86° - W である。底面はほぼ平坦で、深さは 45cm である。壁は外傾している。

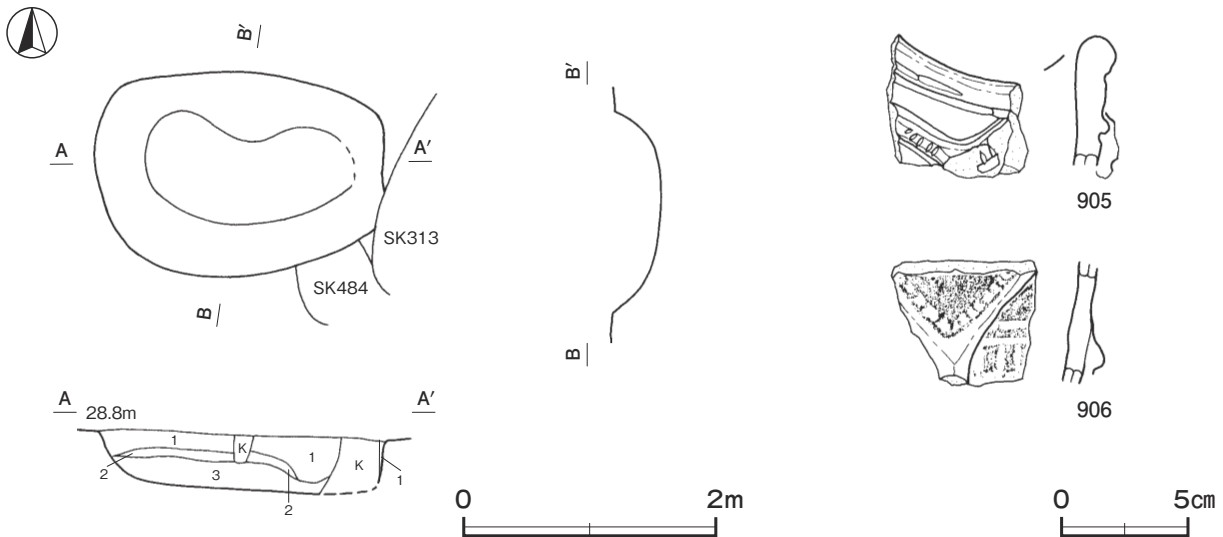
覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 明褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 23 点 (深鉢) が出土している。905・906 は、覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 336 図 第 312 号土坑・出土遺物実測図

第 312 号土坑出土遺物観察表 (第 336 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
905	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部肥厚 隆帯により文様描画 隆帯に沿って沈線を附加 一部隆帯にキザミ目	覆土中	
906	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	断面三角形の隆帯による Y 字状文 交点摘み状隆帯に沿って有節沈線 横位の爪形文	覆土中	

第 313 号土坑 (第 337 図)

位置 調査区南部中央の D 3 c2 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 312・315・484 号土坑を掘り込み, 第 2 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径 3.46 ~ 3.52 m の円形で, 底面は皿状である。深さは 63cm で, 壁は外傾している。

ピット 2 か所。P 1 は東部に位置し, 径 1.10 m ほどの円形で, 深さは 12cm である。規模と形状から, 補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は中央部に位置し, 長径 50cm, 短径 40cm の楕円形で, 深さ 70cm である。位置と形状から柱穴と考えられる。

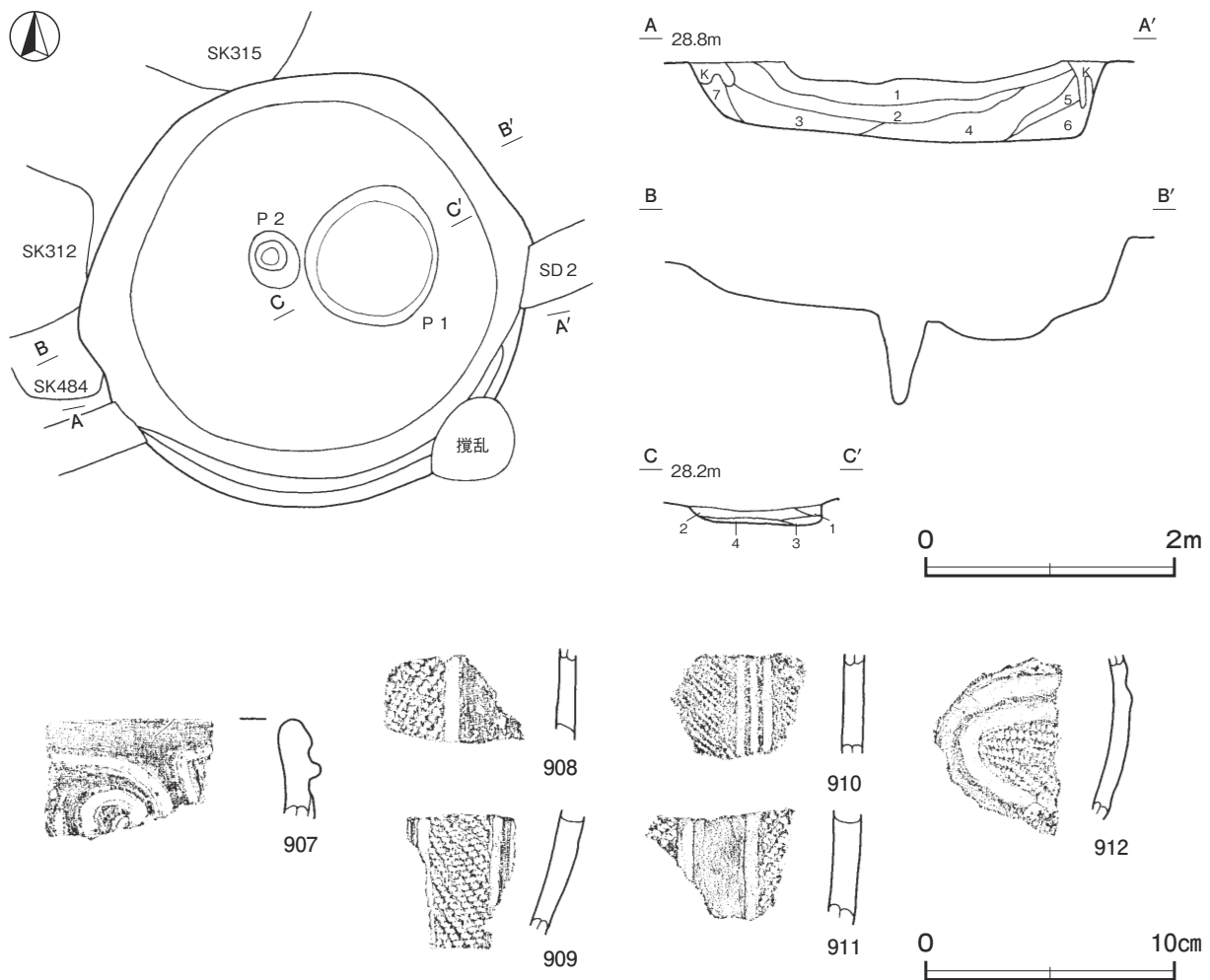
ピット土層解説

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 ロームブロック微量 | 3 明 褐 色 ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 ローム粒子少量 | 4 褐 色 ロームブロック中量 |

覆土 7 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 黒 褐 色 ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 6 暗 褐 色 ロームブロック少量 |
| 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量 | 7 暗 褐 色 ロームブロック中量 |
| 4 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量 | |



第 337 図 第 313 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 77 点（深鉢）が出土している。907～912 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、中央に柱穴を有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 313 号土坑出土遺物観察表（第 337 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
907	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	太沈線による渦巻文・方形区画 外・内面横方向の磨き	覆土中	
908	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL（縦）太沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
909	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に複節縄文 LRL（縦）並行沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
910	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 LR（縦）3本の並行沈線が垂下	覆土中	
911	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文 RL（縦）並行沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
912	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	地文に単節縄文 RL（斜）磨消を伴う隆起線により楕円区画	覆土中	

第 314 号土坑（第 338・339 図）

位置 調査区南部の D 3 a1 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 2.40～2.47 m の円形で、底面は平坦である。深さは 70cm で、壁は外傾している。

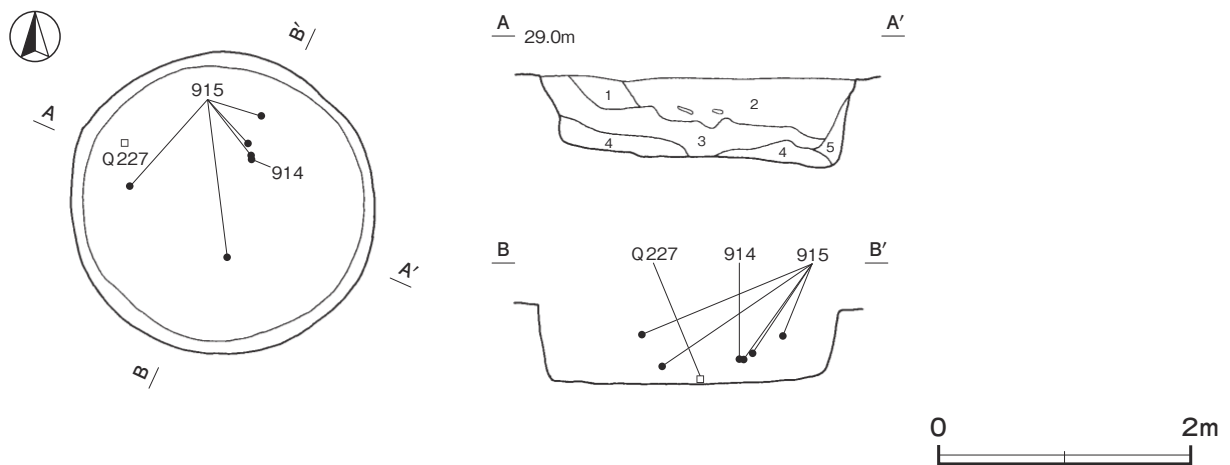
覆土 5 層に分層できる。ロームブロックや炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

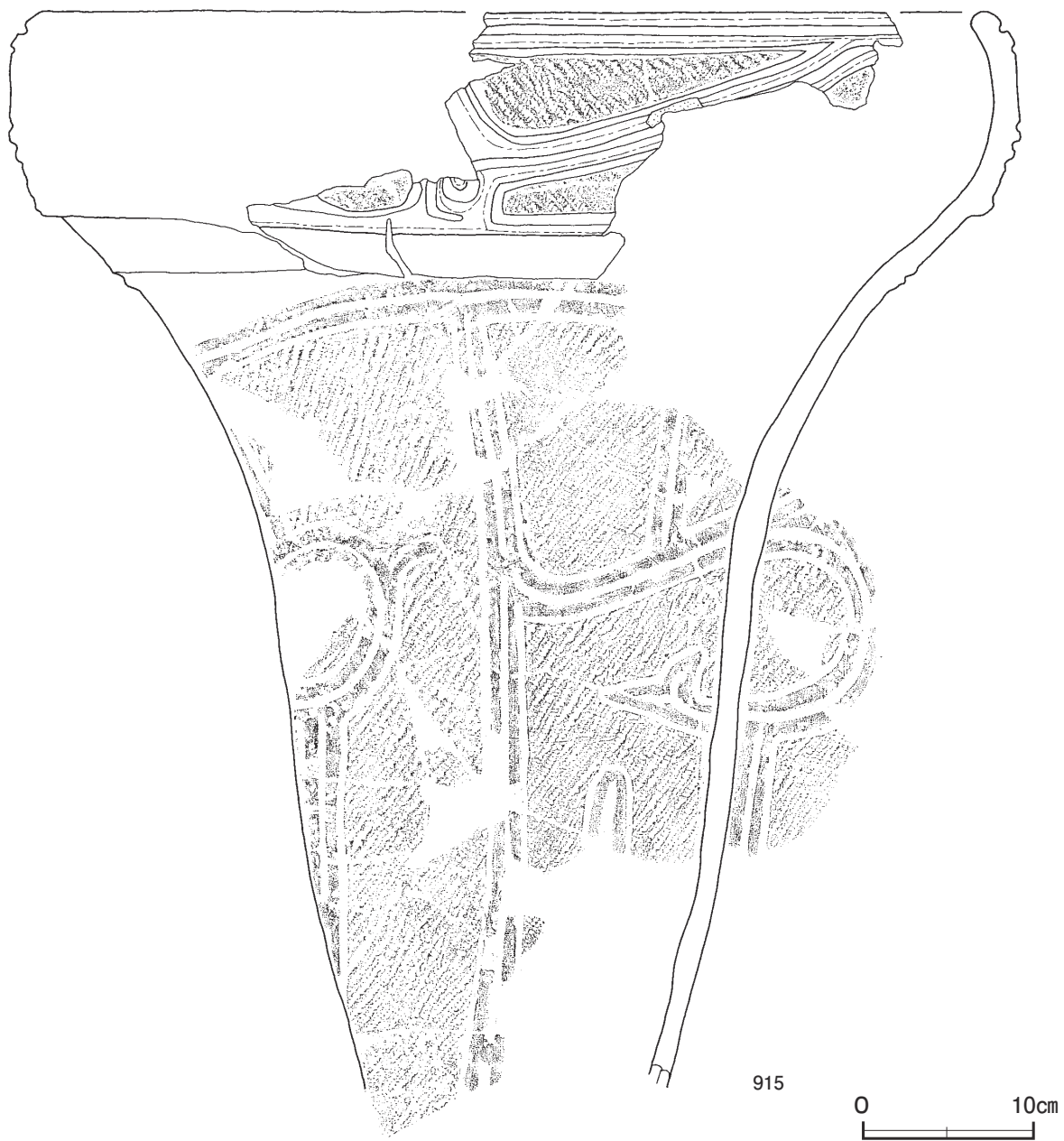
- | | | | |
|--------|-------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 160 点（深鉢）、石器 1 点（磨製石斧）が出土している。Q 227 は西部の底面から、915 は中央部の覆土上層から中層にかけて、散乱した状態で出土した破片が接合している。914 は覆土中層から、913 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

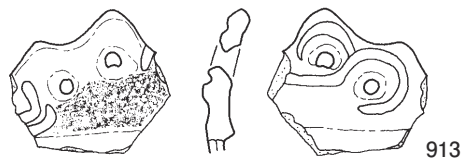
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



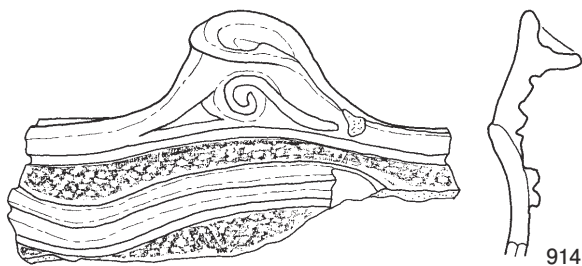
第 338 図 第 314 号土坑実測図



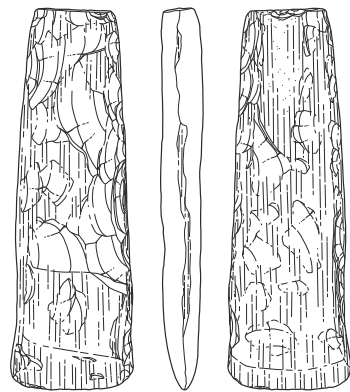
915



913



914



Q227



第 339 图 第 314 号土坑出土遗物实测图

第 314 号土坑出土遺物観察表 (第 339 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
913	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	把手2孔穿孔。裏面穿孔に沿って沈線。地文単節縄文LR(横) 断面三角形の隆帯が巡る	覆土中	
914	縄文土器	深鉢	-	(10.0)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	口唇及び把手頂部に太沈線。把手中央部に渦巻文。地文に単節縄文RL(縦) 背割れ隆帯による蛇行文	覆土中層	
915	縄文土器	深鉢	[55.0]	(63.3)	-	長石・石英	灰褐	普通	口縁頂部に沈線が一巡。0段多条縄文RL(横) 隆帯による区画文。頸部無文。胴部同一原体(縦) 並行隆帯による懸垂文・渦巻文・剣先文	覆土上~中層	35% PL135

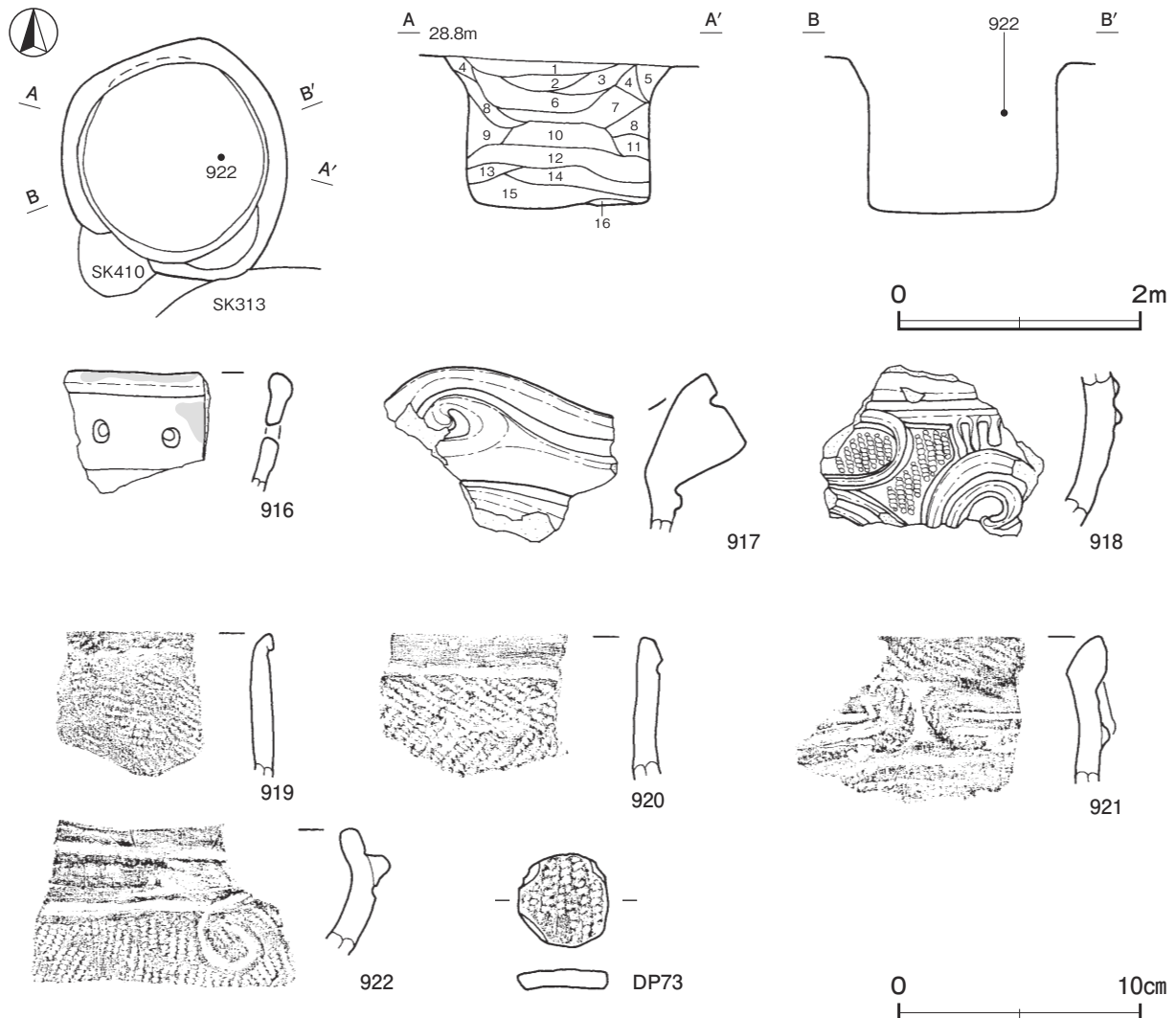
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 227	磨製石斧	8.4	3.6	1.8	222.0	角閃岩	短冊形 全面研磨 刃部は表裏から研ぎ出す 平刃	底面	PL168

第 315 号土坑 (第 340 図 PL57)

位置 調査区南部中央のD 3 b2 区、標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 313 号土坑に掘り込まれている。第 410 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径 2.04 m、短径 1.84 mの楕円形で、長径方向はN - 26° - Wである。底面は平坦で、深さは 129cmである。壁はほぼ直立している。



第 340 図 第 315 号土坑・出土遺物実測図

覆土 16層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|---------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 9 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 極暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 11 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 12 褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 13 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量 | 15 褐色 | ロームブロック少量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子少量 | 16 褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 147 点（深鉢 145, 浅鉢 1, 有孔土器 1), 土製品 1 点（土器片円盤), 剥片 1 点（安山岩）が出土している。922 は覆土中層, 916 ~ 921, DP73 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 315 号土坑出土遺物観察表（第 340 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
916	縄文土器	有孔土器	-	(5.0)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇部肥厚 口縁部棒状工具による穿孔 外・内面横方向の磨き	覆土中	
917	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英	灰褐	普通	口唇部肥厚 背割れ隆帯による渦巻文	覆土中	
918	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	細隆起線及び背割れ隆帯により渦巻文等描画 地文に単節縄文 LR (縦)	覆土中	
919	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇部隆帯が一巡 隆帯上及び地文に単節縄文 RL (横)	覆土中	
920	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部無文 沈線が一巡 沈線下単節縄文 RL (横) 胴部同一原体による縦施文による羽状構成	覆土中	
921	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口唇部内削ぎ 隆帯による楕円区画 隆帯上に 0 段多糸縄文 RL (横)	覆土中	
922	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	蒲鉾状隆帯が一巡 地文に単節縄文 RL (横・斜) 沈線による渦巻文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP73	土器片円盤	3.8	3.7	0.8	14.4	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰褐	胴部片 周縁部粗雑に研磨	覆土中	

第 316 号土坑（第 341 図 PL57）

位置 調査区南部中央の D 3c6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 3.83 ~ 3.96 m の円形で、底面は平坦である。深さは 90cm で、壁はほぼ直立している。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 60cm, P 2 は深さ 45cm で、柱穴と考えられる。

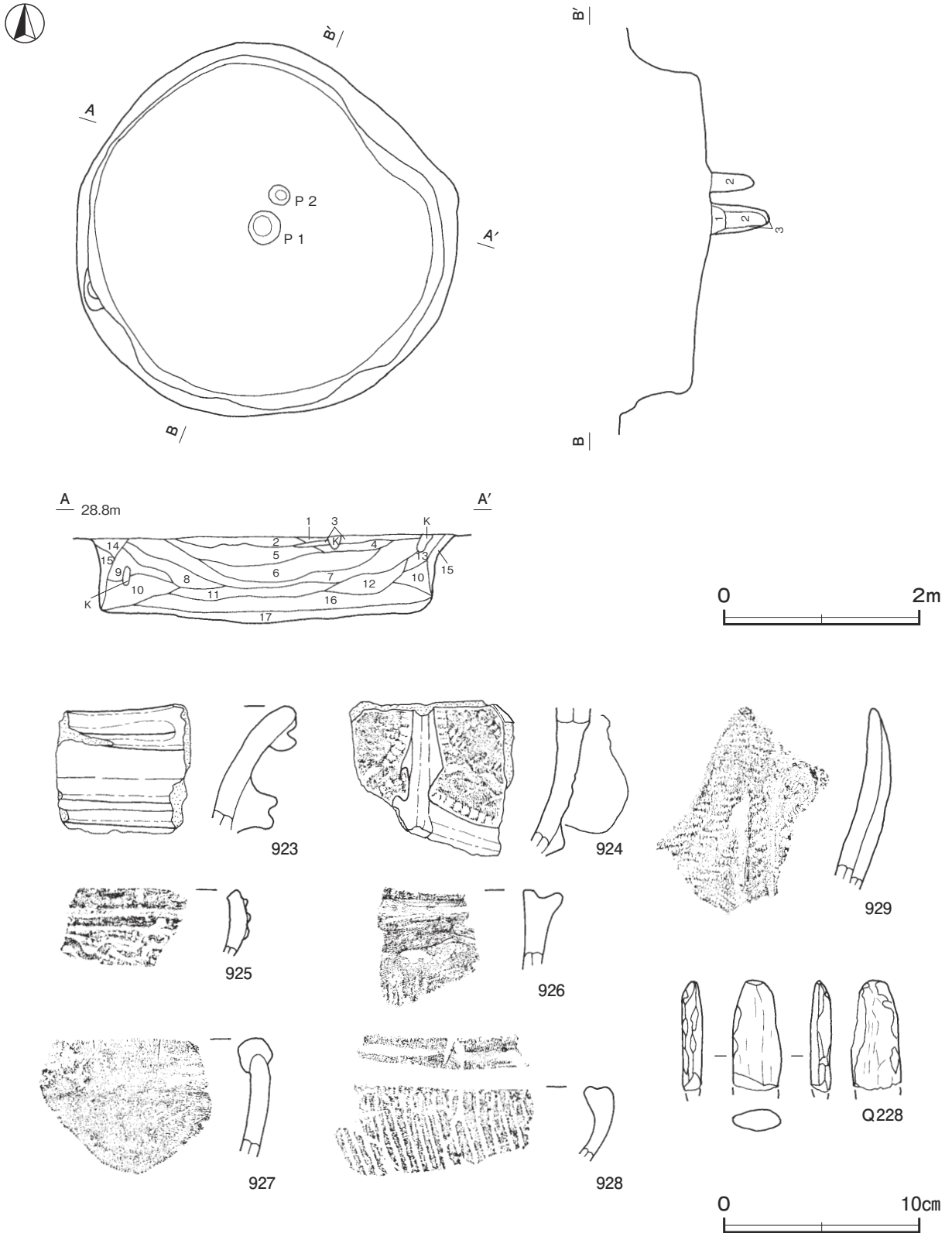
ピット土層解説

- | | | | |
|------|----------------|---------|---------|
| 1 褐色 | 鹿沼バミス少量、黒色粒子微量 | 3 にぶい褐色 | 鹿沼バミス微量 |
| 2 褐色 | 鹿沼バミス微量 | | |

覆土 17層に分層できる。第 1 ~ 4 層は周囲からの流入による堆積状況から自然堆積で、第 5 ~ 17 層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 15 褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 17 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | | |



第 341 図 第 316 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 377 点（深鉢 373, 浅鉢 4）, 石器 2 点（磨製石斧, 磨石）, 石核 2 点（石英, 瑪瑙）, 剥片 2 点（粘板岩, 砂岩）が出土している。923～929, Q 228 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 柱穴を有する貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 316 号土坑出土遺物観察表（第 341 図）

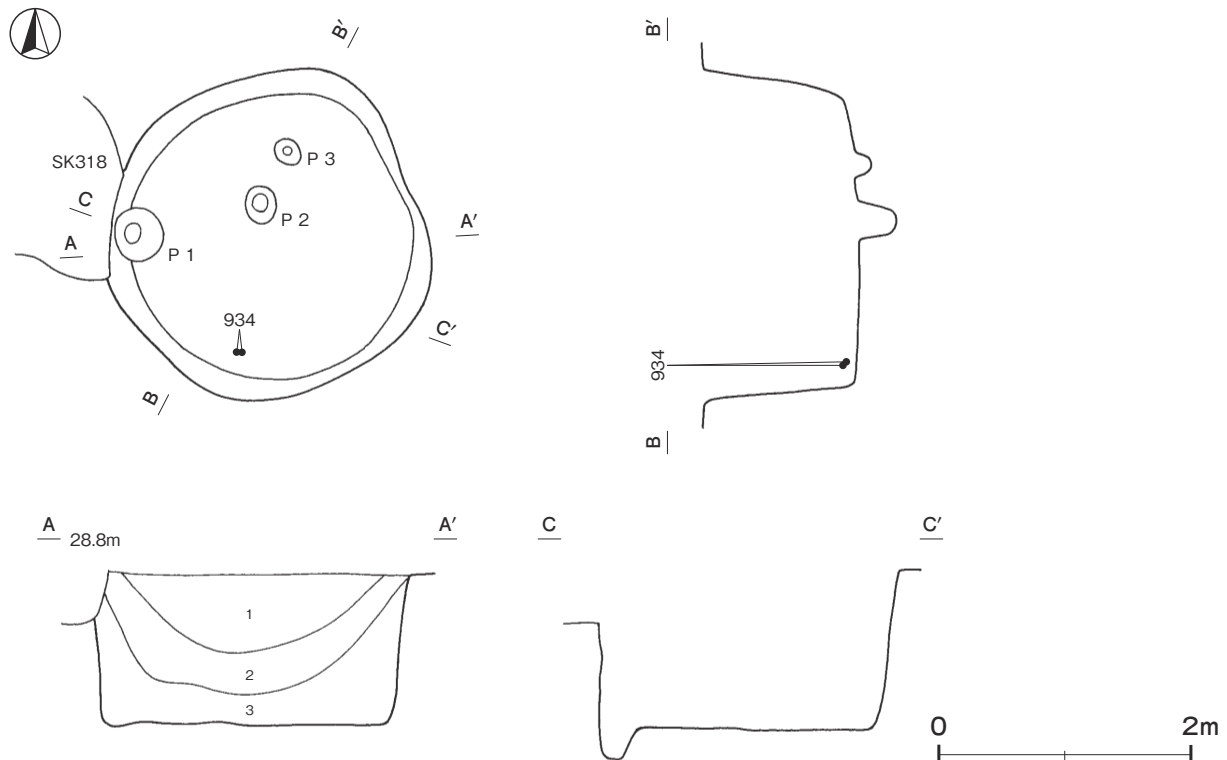
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
923	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	背割れ隆帯による横位の文様区画	覆土中	
924	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	隆帯による区画文 摘み状突起 隆帯に沿って有節沈線 区画内横位の波状沈線	覆土中	
925	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇内面内削ぎ 地文に単節縄文 LR (斜) 2 条の並行隆帯と蛇行隆帯が巡る	覆土中	
926	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇頂部に太沈線が一巡 地文にまばらな縦位の捺糸文	覆土中	
927	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部肥厚 無文	覆土中	
928	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口唇部肥厚 口唇頂部に浅い沈線が一巡 半截竹管による斜位の条線文	覆土中	
929	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	把手口唇部肥厚 隆帯による区画 隆帯上及び区画内 0 段多糸縄文 RL (横・斜)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 228	磨製石斧	(5.7)	2.5	1.1	(24.2)	角閃岩	極小型 表裏面研磨 側縁部に稜 刃部欠損	覆土中	PL170

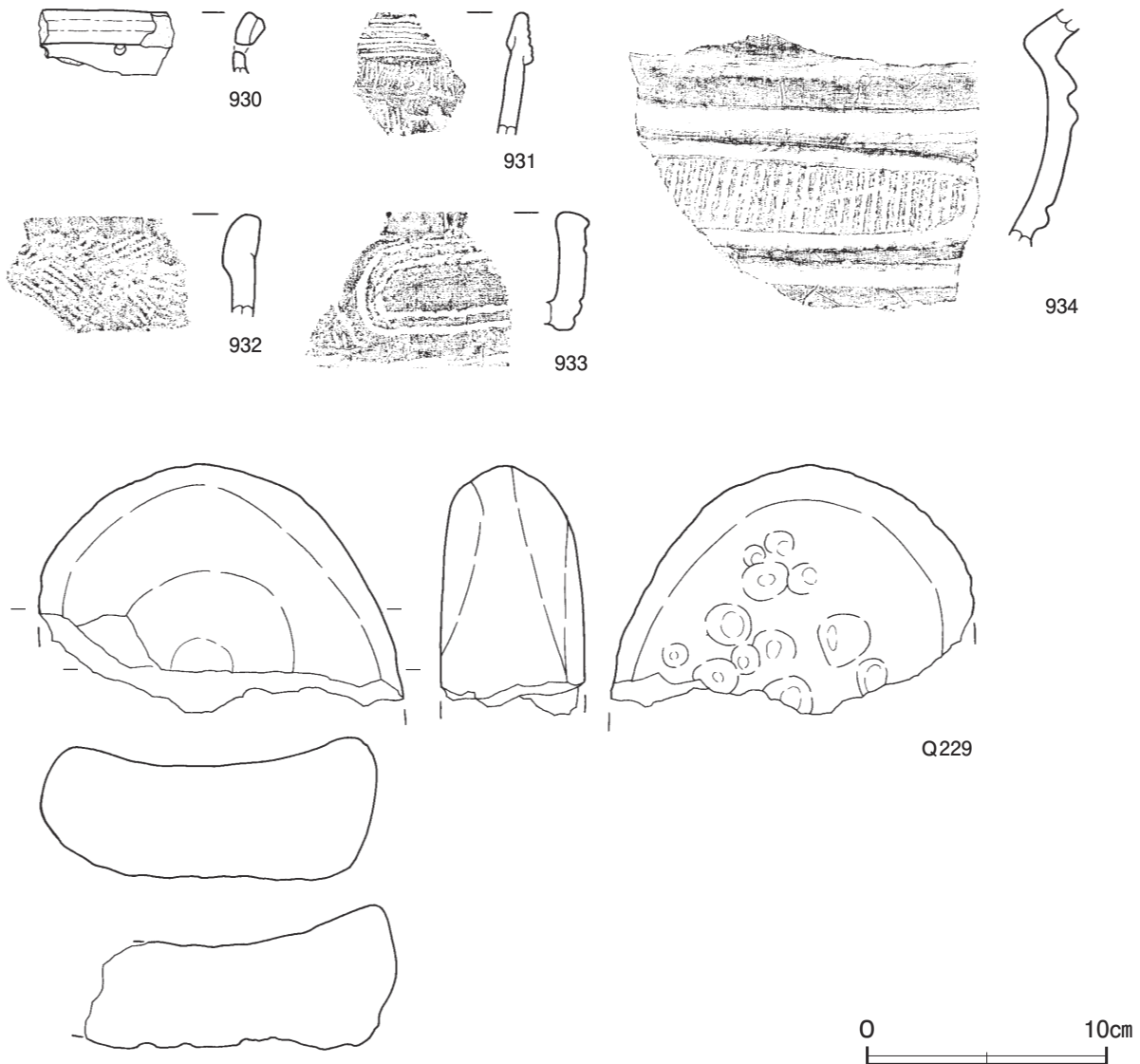
第 317 号土坑（第 342・343 図 PL58）

位置 調査区南部中央の D 3 b6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 318 号土坑に掘り込まれている。



第 342 図 第 317 号土坑実測図



第 343 図 第 317 号土坑出土遺物実測図

規模と形状 径 2.60～2.71 m の円形である。底面は平坦で、深さは 121cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 3 か所。P 1 は西壁際に位置し、深さ 30cm、P 2 は中央部に位置し、深さ 30cm、P 3 は北部に位置し、深さ 15cm である。いずれも位置と形状から、柱穴と考えられる。

覆土 3 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

- 3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 131 点（深鉢 122，浅鉢 8，有孔土器 1），石器 1 点（石皿）が出土している。934 は覆土下層から出土している。930～933，Q 229 は覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 317 号土坑出土遺物観察表 (第 343 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
930	縄文土器	有孔土器	-	(26)	-	長石・石英・雲母・角閃石	にぶい赤褐	普通	口唇部肥厚 口唇下に2か所の穿孔	覆土中	
931	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部板状の隆帯貼付 隆帯上に横位の条線文 胴部縦位の条線文	覆土中	
932	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇部肥厚 口縁部単節縄文LR(横) 胴部同一原体を縦位に施し羽状構成	覆土中	
933	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部肥厚 隆帯による楕円区画 区画内半截竹管による2本の有節沈線	覆土中	
934	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部くの字状に外反 外反部横位の磨き 太沈線を巡らせ隆起帯による楕円区画 区画内縦位の燃糸文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 229	石皿	(10.4)	15.2	6.0	(980.4)	安山岩	表面皿状に研磨 裏面に凹み痕	覆土中	PL180

第 320 号土坑 (第 344 図)

位置 調査区南部中央の D 3 b9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

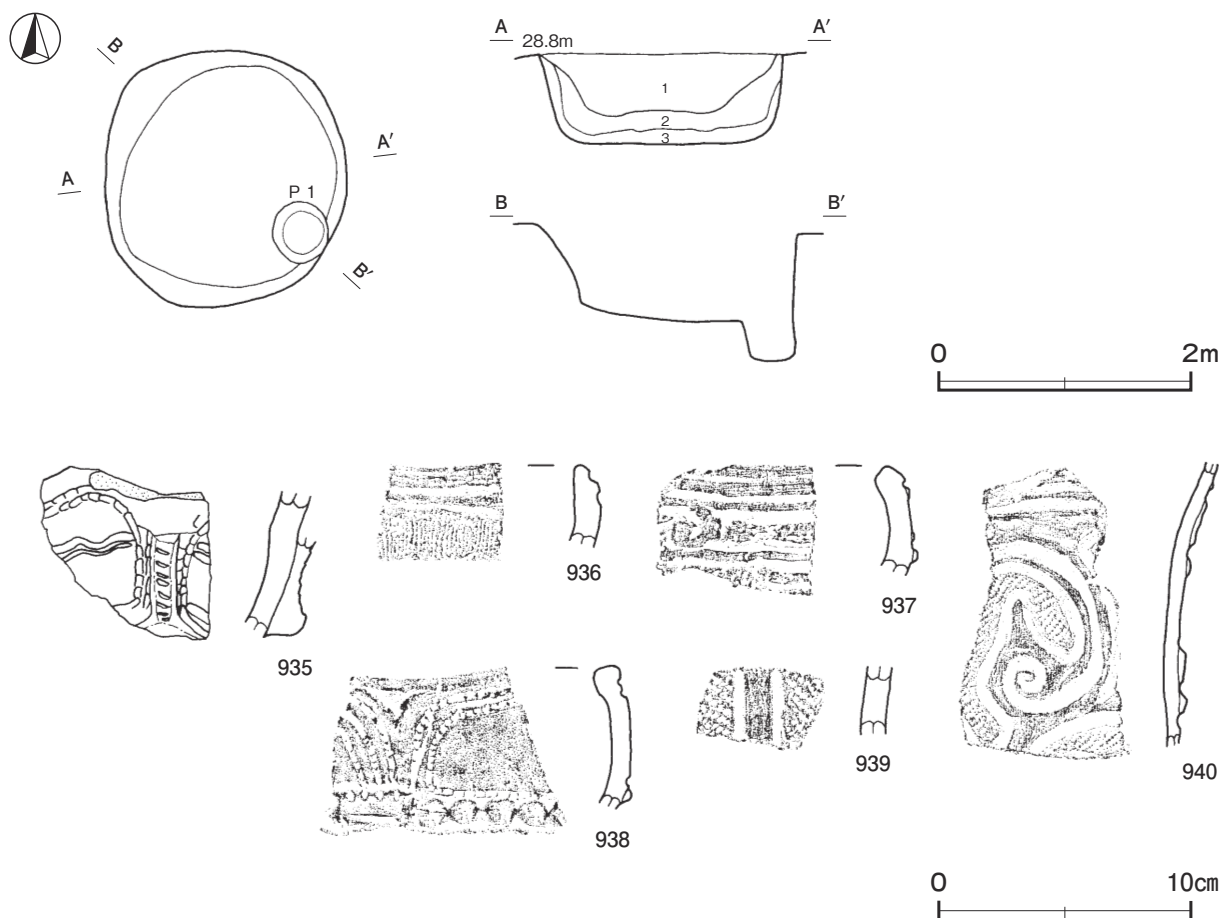
規模と形状 径 1.94 ~ 2.07 m の円形である。底面は平坦で、深さは 73cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 南東部の壁際に位置しており、径 40cm の円形で、深さ 30cm である。位置と規模から補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック少量



第 344 図 第 320 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 73 点（深鉢 69，浅鉢 4），石核 1 点（瑪瑙）が出土している。935～940 は，覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。

第 320 号土坑出土遺物観察表（第 344 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
935	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	隆帯による区画文 部分的に摘み状の突起 隆帯に沿って 2本の有節沈線 区画内横位の波状沈線	覆土中	
936	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部 2本の沈線が一巡 地文に縦位の捺糸文	覆土中	
937	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰褐色	普通	口唇部内削ぎ 地文に単節縄文 LR (横) 隆帯による横位区画 区画内渦巻文	覆土中	
938	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	断面三角形の隆帯による V字状文 有節沈線による横位区画 指頭隆帯が一巡	覆土中	
939	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 2本の並行沈線が垂下沈線間磨消	覆土中	
940	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に 0段多条縄文 RL (縦・斜) 隆起線による渦巻文 渦巻に剣先文 外・内面丁寧な磨き	覆土中	

第 322 号土坑（第 345～349 図 PL58・101）

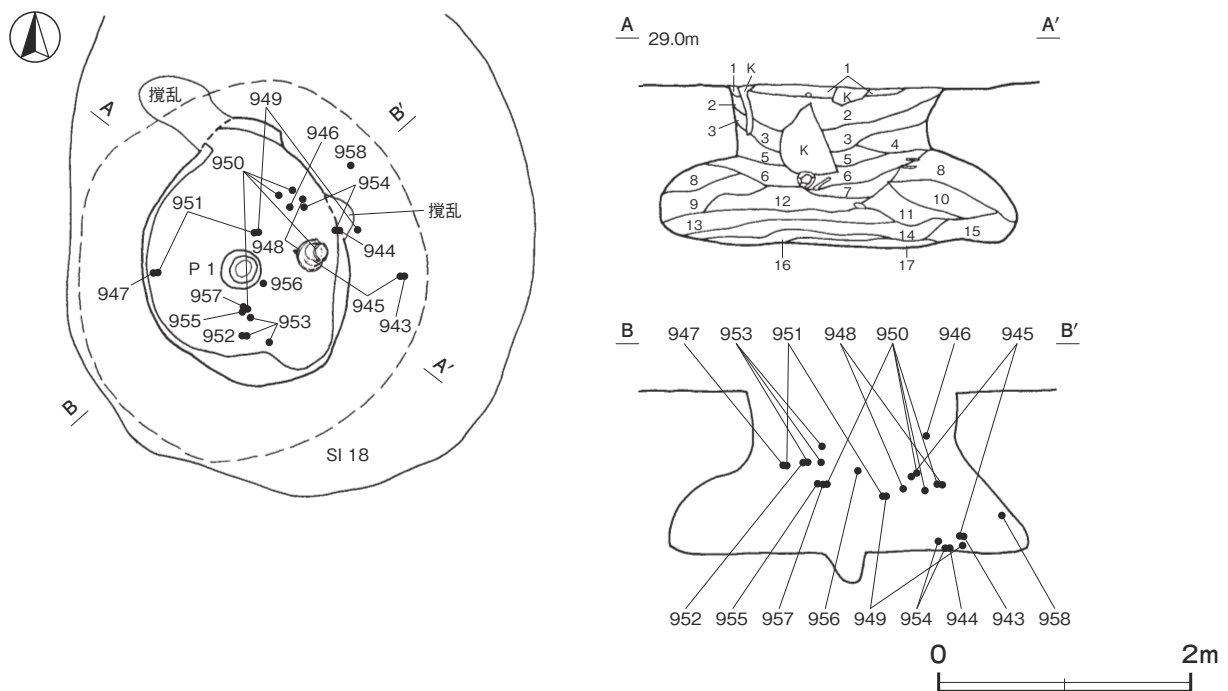
位置 調査区南部の C 2j0 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 18 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

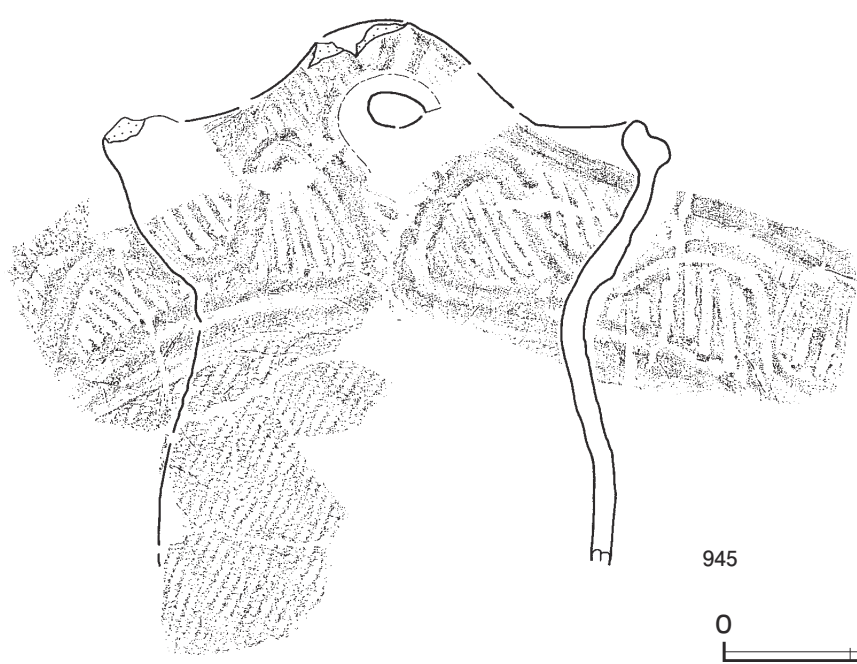
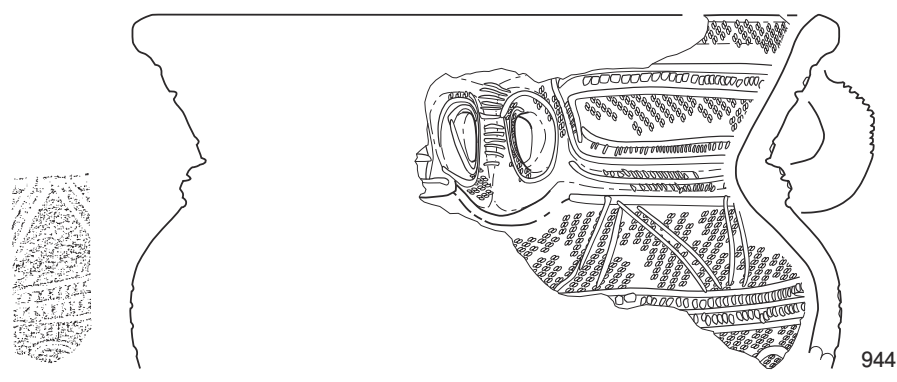
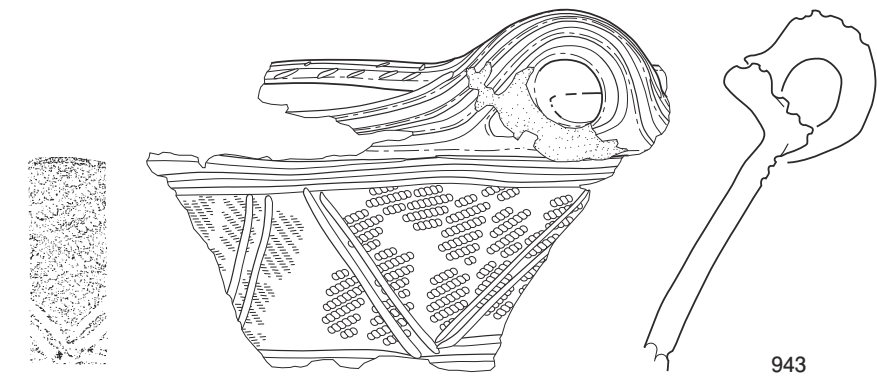
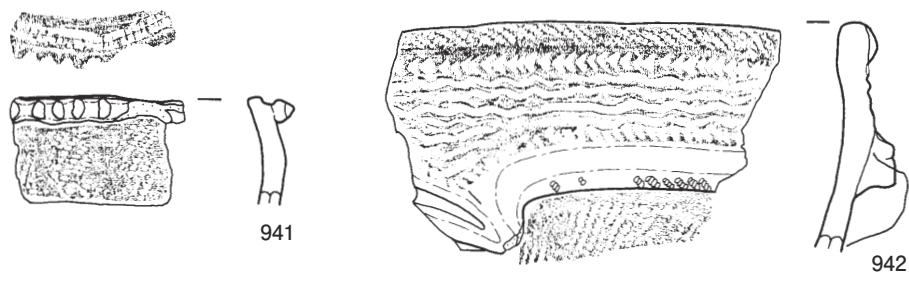
規模と形状 開口部は長径 2.16 m，短径 1.65 m の不整楕円形で，長径方向は N - 14° - W である。底面は径 2.82～3.04 m の円形で，底面は平坦である。確認面からの深さは 128cm である。壁は大きく内彎して，袋状を呈している。

ピット 中央部に位置し，径 30cm の円形で，深さ 20cm である。位置と形状から柱穴と考えられる。

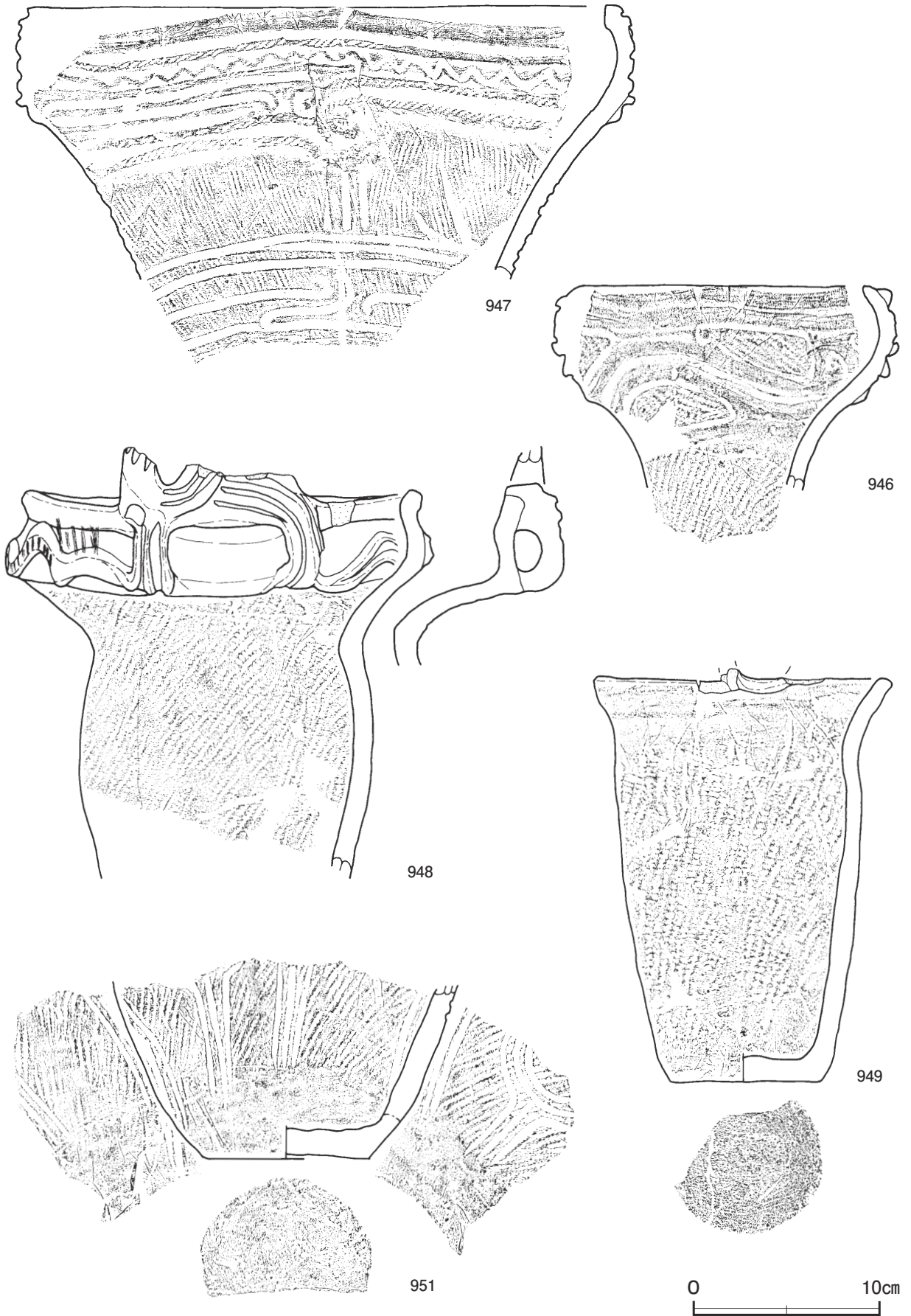
覆土 17 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。



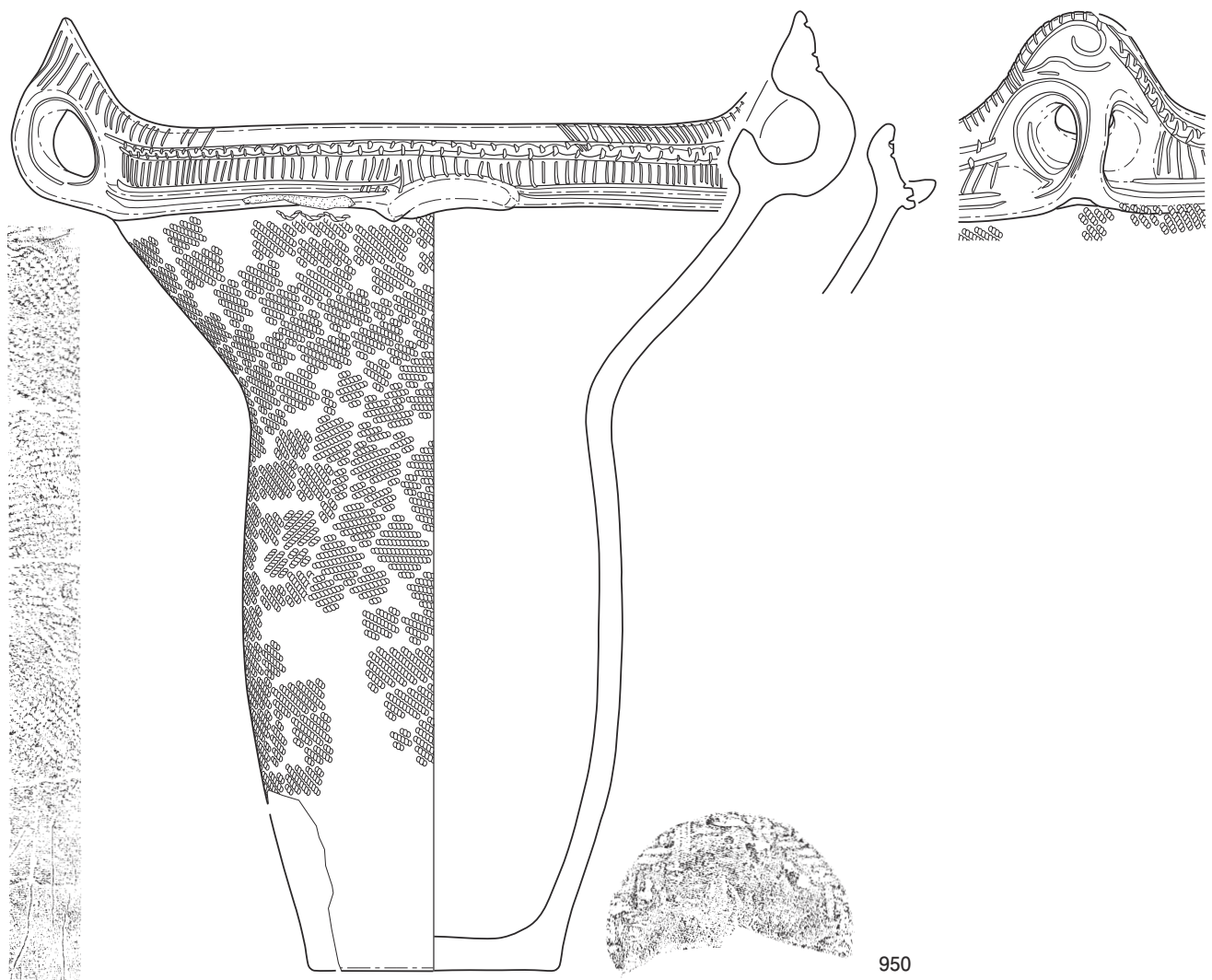
第 345 図 第 322 号土坑実測図



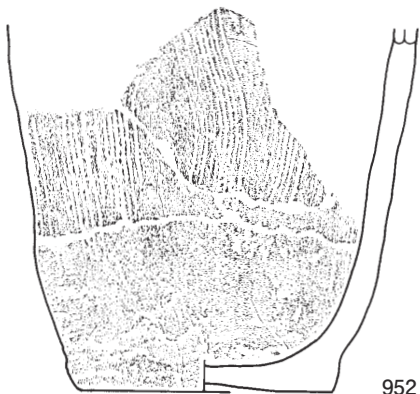
第 346 图 第 322 号土坑出土遗物实测图 (1)



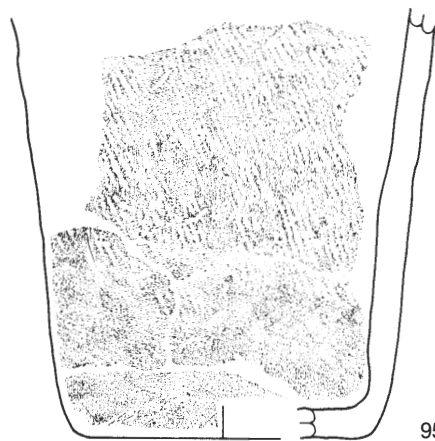
第 347 図 第 322 号土坑出土遺物実測図 (2)



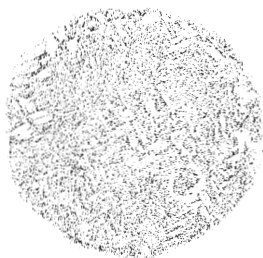
950



952

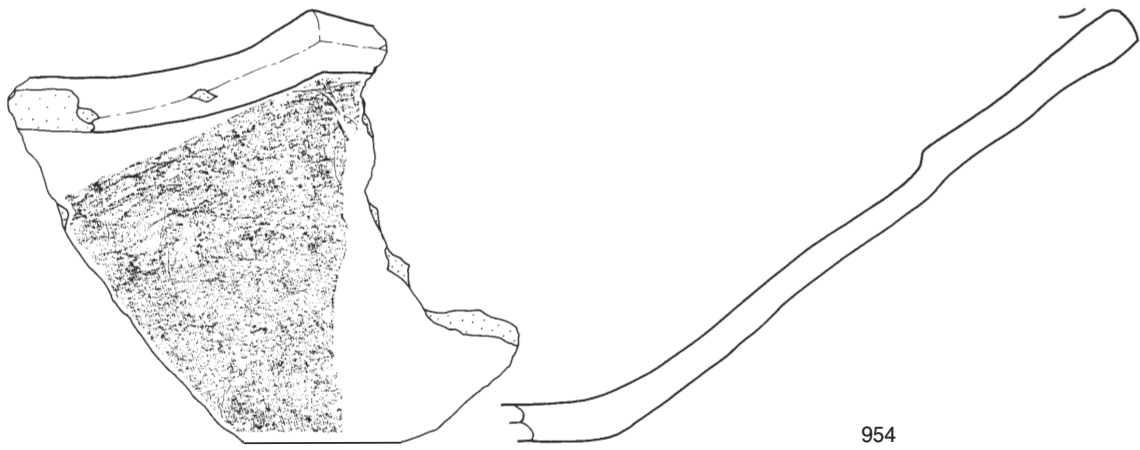


953

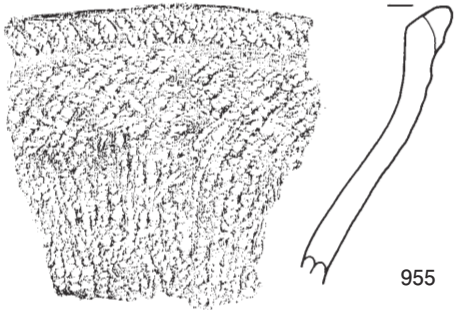


0 10cm

第 348 图 第 322 号土坑出土遺物実測図 (3)



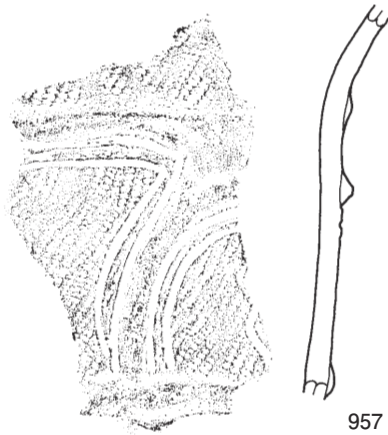
954



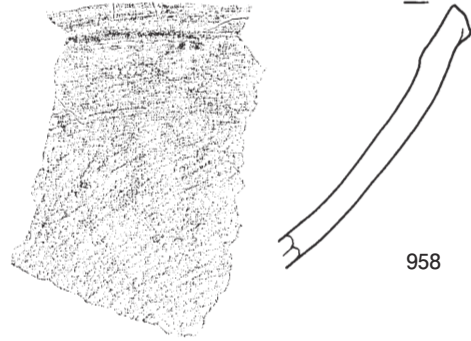
955



956



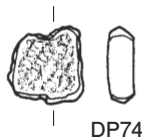
957



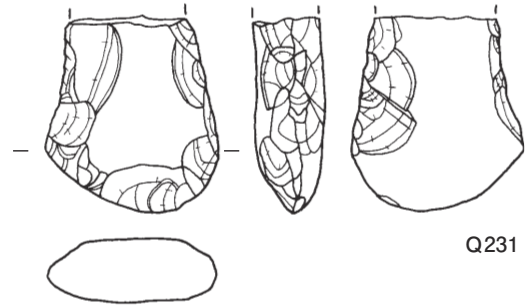
958



Q230



DP74



Q231



0 2cm



0 10cm

第 349 图 第 322 号土坑出土遺物実測图 (4)

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック多量, 炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12	黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	13	褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量	14	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
6	黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	15	褐色	ロームブロック多量, ローム粒子少量
7	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	16	褐色	ロームブロック中量
8	暗褐色	ロームブロック多量	17	褐色	ロームブロック多量
9	暗褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 縄文土器片 345 点 (深鉢 340, 浅鉢 5), 土製品 1 点 (土器片錘), 石器 3 点 (鏃 1, 打製石斧 2), 剥片 1 点 (チャート), 礫 1 点が出土している。944・954 は底面, 943 は覆土下層から出土している。949 は覆土中層と底面, 945 は覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合している。946 ~ 948・950 ~ 953・955 ~ 958 はいずれも覆土中層からまとまって出土している。950 は中央部から底部を欠いた逆位の状態 で出土し, 底部片が南部から出土している。第 6 層まで埋め戻した段階で, 一括投棄されたものと考えられる。941・942, DP74, Q 230・Q 231 は覆土中から出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 322 号土坑出土遺物観察表 (第 346 ~ 349 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
941	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口唇部隆帯貼付。口唇頂部に有節沈線が一巡。側面に刺突文。隆帯直下から単節縄文 RL (縦) を開けて施文。	覆土中	
942	縄文土器	深鉢	-	(9.2)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	にぶい橙	良好	口唇肥厚部に単節縄文 RL (横) 幅広の隆帯による横位の区画。隆帯に沿ってペン先状の刺突区画内横位の蛇行沈線。胴部同一原体 (縦)。	覆土中	
943	縄文土器	深鉢	-	(14.3)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄褐色	普通	中空把手。頂部に 3 ~ 6 本の沈線文。口縁下に 3 本の沈線が一巡。地文に単節縄文 RL (縦)。2 本の沈線による山形区画。	覆土下層	10% PL136
944	縄文土器	深鉢	[26.5]	(14.0)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	地文に複節縄文 RLR (横)。口縁部 2 本の沈線による長方形区画。区画に沿って連続刺突。口縁下に中空把手。2 本の沈線による山形区画。胴部 2 条の連続爪形文が一巡。	底面	10% PL136
945	縄文土器	深鉢	20.4	(21.7)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口唇頂部浅い太沈線が一巡。中空の突起。低い背割れ隆帯による蛇行線による区画。区画内縦・斜の条線文。胴部単節縄文 RL (縦)。	覆土中~下層	40% PL136
946	縄文土器	深鉢	[15.0]	(10.9)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇頂部に平坦面。口縁部背割れ隆帯による横 S 字区画。地文に単節縄文 RL (横)。胴部同一原体による縦施文。	覆土中層	20%
947	縄文土器	深鉢	[32.0]	(14.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	良好	口縁部隆帯と沈線による渦巻文・交互刺突による波状文。隆帯上に無節縄文 L (横)。頸部捻糸文 (縦)。沈線により縦・横・クランク状文。	覆土中層	20% PL136
948	縄文土器	深鉢	20.9	(23.3)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	楕円区画の中空の把手。背割れ隆帯による波状文が一巡。一部に櫛歯状のキザミ目。胴部単節縄文 RL (縦)。	覆土中層	60% PL136
949	縄文土器	深鉢	15.1	21.9	8.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口唇部肥厚。口縁部無文。中空の把手痕。口縁直下から単節縄文 RL (縦) を全面に施文。	覆土中層・底面	95% PL136
950	縄文土器	深鉢	25.2	41.3	10.5	長石・石英・雲母	褐色	普通	口唇部キザミ目。口縁部交互刺突文と 2 本の沈線が一巡。区画内条線文。把手間舌状の突起。胴部単節縄文 LR (縦・斜)。底面網代痕。	覆土中層	80% PL136
951	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	9.1	長石・石英・黒色粒子	橙	良好	地文に単節縄文 RL (縦)。3 本の沈線により懸垂文・円文を描画。下部部横方向のナデ。	覆土中層	20%
952	縄文土器	深鉢	-	(14.5)	10.0	長石・石英・雲母	橙	普通	櫛歯状工具による縦位の条線文。底面網代痕。	覆土中層	20%
953	縄文土器	深鉢	-	(17.1)	[11.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に浅い単節縄文 LR (縦) を施文。下部部無文。底面網代痕。	覆土中層	10%
954	縄文土器	浅鉢	-	17.3	[9.4]	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部肥厚。外・内面横方向の磨き。胴下半縦方向の磨き。	底面	15%
955	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇内側に段。口縁に浅い沈線が一巡。口縁上部単節縄文 RL (横)。口縁下部縦位に施文し羽状構成。胴部斜施文。	覆土中層	
956	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	肉厚の隆帯による楕円区画。隆帯に沿って太沈線。全面に 0 段多糸縄文 RL をランダムに施文。	覆土中層	
957	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に単節縄文 RL (縦)。蒲鉾状隆帯による区画文。隆帯に沿って 2 本の沈線を附加。	覆土中層	
958	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口縁内側に緩い段。口唇部肥厚。外・内面斜位の丁寧な磨き。	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP74	土器片錘	3.0	3.0	1.1	10.9	長石・石英・雲母	明褐色	胴部片。両端にキザミ目。片側縁を研磨。	覆土中	未成品。

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 230	鏃	2.1	1.0	2.5	0.5	チャート	無茎鏃。周縁部押圧剥離。	覆土中	
Q 231	打製石斧	(7.8)	6.8	2.6	(205.3)	砂岩	撥形。表裏に自然面。両側縁敲打。刃部は片面を敲打。基部欠損。	覆土中	

第 323 号土坑 (第 350 図)

位置 調査区南部中央の D 3 a7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 2.04 ~ 2.16 m の不整円形で, 底面は中央部から南東部にかけて緩い段が見られる。深さは 58 ~ 65 cm である。壁は南部がほぼ直立しており, 北西部が外傾している。

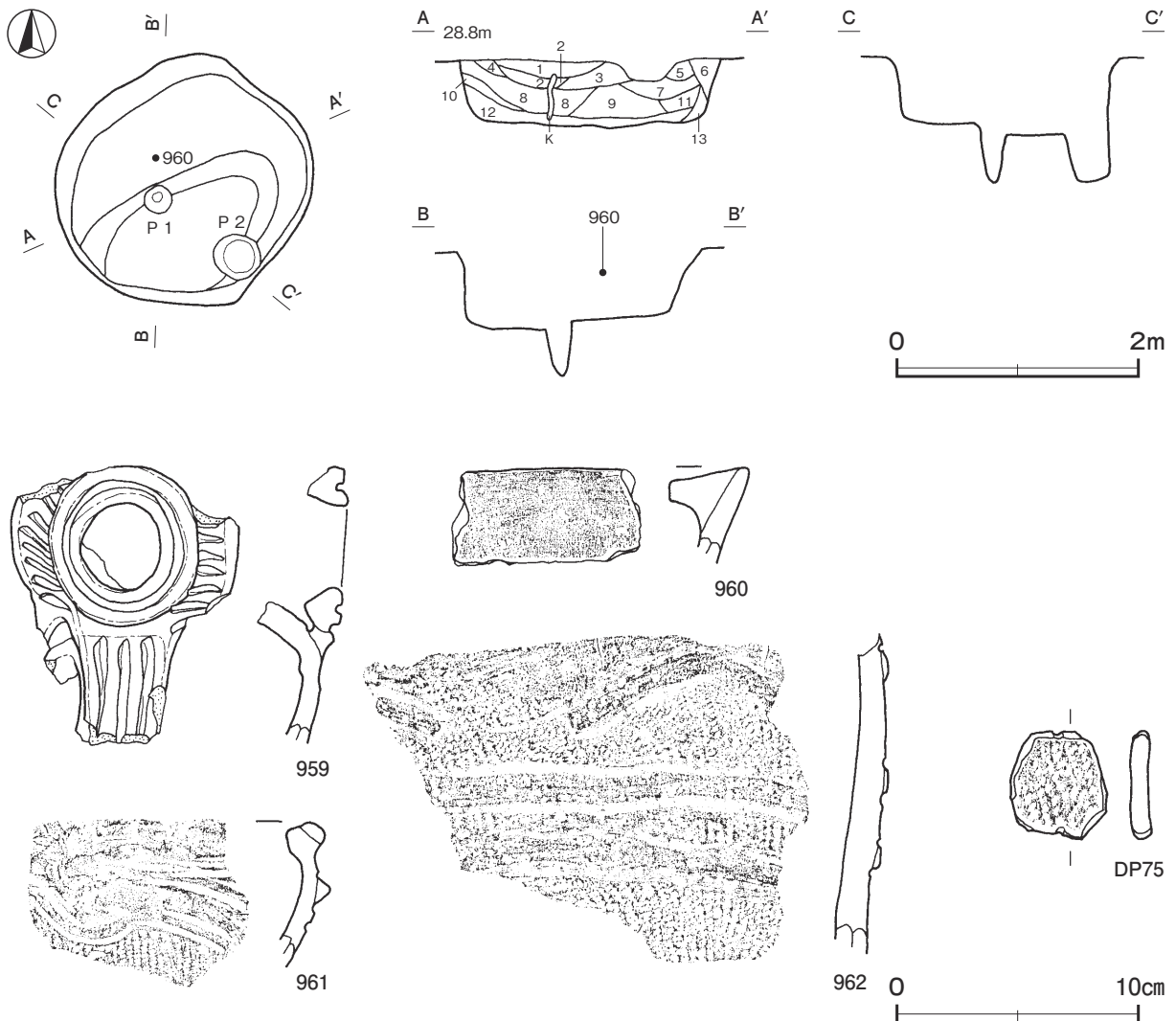
ピット 2 か所。P 1 は中央部, P 2 は南東壁際に位置しており, 深さ 50・40 cm である。いずれも位置と形状から柱穴と考えられる。

覆土 13 層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子微量 | 12 黒色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量 | 13 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 72 点 (深鉢 67, 浅鉢 5), 土製品 1 点 (土器片錘), 剥片 1 点 (石英) が出土している。960 は覆土上層から, 959・961・962, DP75 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。



第 350 図 第 323 号土坑・出土遺物実測図

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第323号土坑出土遺物観察表(第350図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
959	縄文土器	深鉢	-	(11.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	中空の把手 把手に沿って沈線による円文・直線文を描写	覆土中	
960	縄文土器	浅鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口唇頂部に平坦面 外・内面横方向のナデ	覆土上層	
961	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	明褐色	普通	口唇部肥厚 内側に段 地文に単節縄文RL(斜)隆帯により文様描写 隆帯に沿って沈線を附加	覆土中	
962	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文LR(縦・斜) 2条の低い隆帯が一巡 横位の蛇行隆帯を巡らす	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP75	土器片鏝	4.5	4.0	0.9	19.5	長石・石英・赤色粒子	橙	胴部片 両端にキザミ目 一部を粗雑に研磨	覆土中	未成品

第325号土坑(第351～353図)

位置 調査区西部C 2g6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

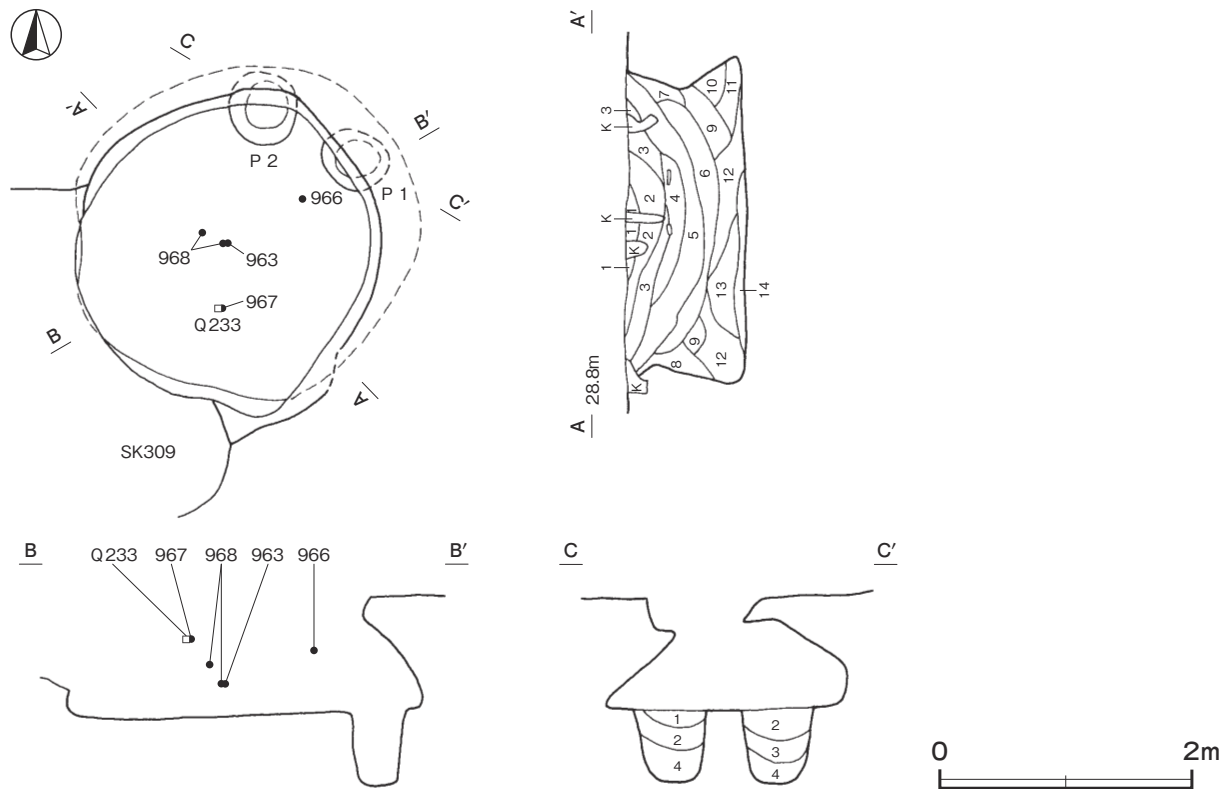
重複関係 第309号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部は径2.43～2.61mの円形である。底面は径2.62～2.81mの円形で、平坦である。確認面からの深さは95cmである。壁は底面から強く内彎して、袋状を呈し、上位は外傾している。

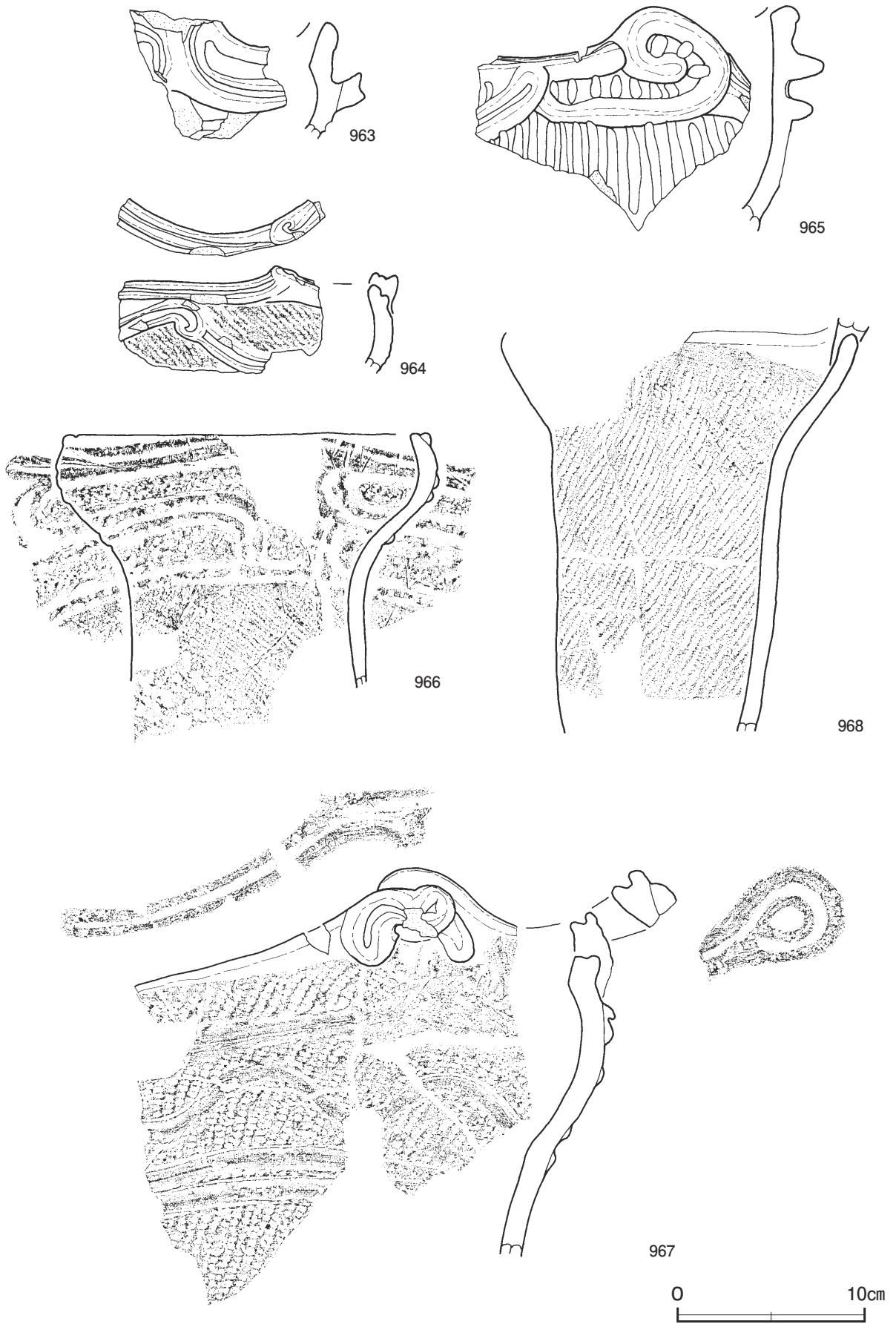
ピット 2か所。P1は北東壁際、P2は北壁際に位置し、深さは58・56cmである。位置と形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

ピット土層解説

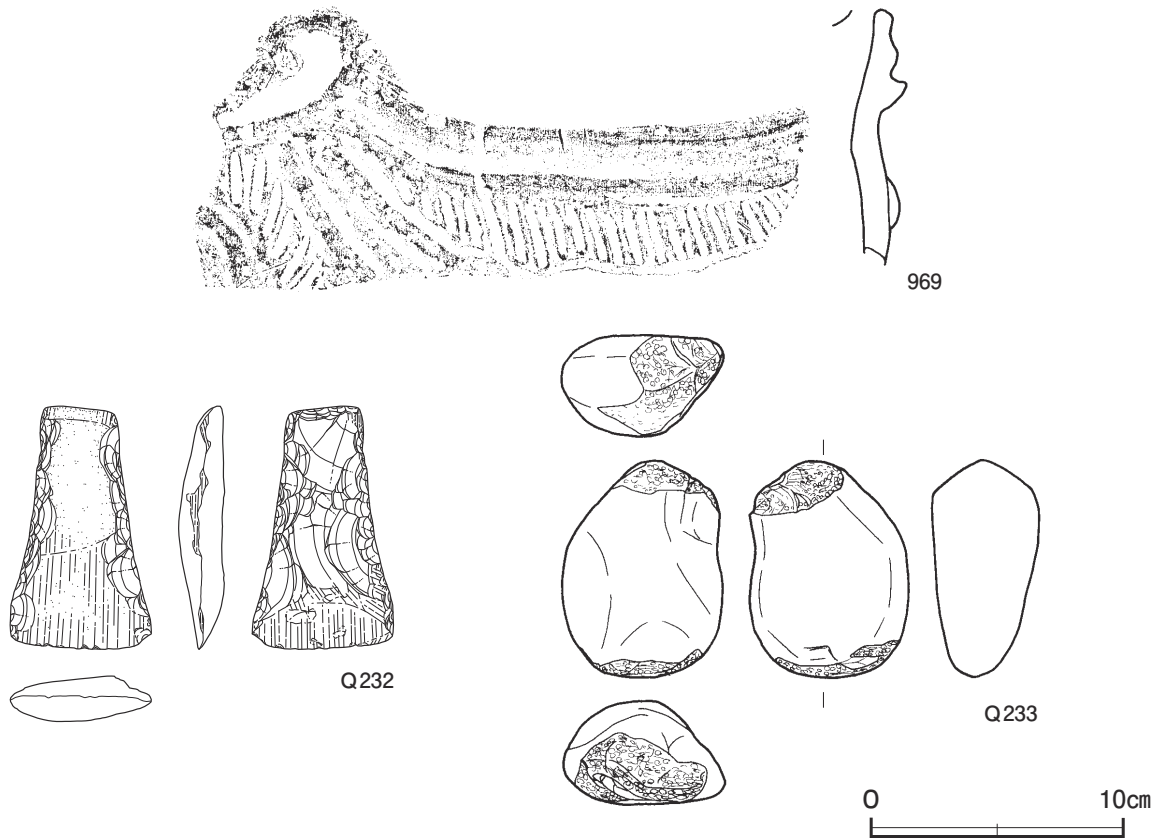
- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量



第351図 第325号土坑実測図



第 352 図 第 325 号土坑出土遺物実測図(1)



第 353 図 第 325 号土坑出土遺物実測図 (2)

覆土 14層に分層できる。第6～14層はロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。その後、第1～5層が自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック多量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 7 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 186 点 (深鉢 170, 浅鉢 16), 石器 2 点 (打製石斧, 敲砥石) が出土している。963・966～968, Q 233 は覆土中層から, 964・965・969, Q 232 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 袋状の貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 325 号土坑出土遺物観察表 (第 352・353 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
963	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	口縁内側に段 隆帯による把手 隆帯上に太沈線 把手下部に 2 本の並行沈線が巡る	覆土中層	
964	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部沈線が一巡 頂部に渦巻状突起 地文に無節縄文 R (横) 並行隆帯による蛇行線 隆帯間に節	覆土中	
965	縄文土器	深鉢	-	(12.0)	-	長石・石英	灰褐	普通	口唇頂部に太沈線 隆帯による渦巻文 棒状工具による縦位の刺突・太沈線	覆土中	
966	縄文土器	深鉢	[19.6]	(13.6)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	口唇部に隆帯を一巡させ口唇頂部に平坦面 並行隆帯によるクランク文 口縁部単節縄文 LR (横) 胴部は同一原体による縦施文	覆土中層	20% PL137 外面二次焼成

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
967	縄文土器	深鉢	-	(20.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐	良好	口唇頂部に沈線が一巡 中空の把手貼付 背割れ隆帯及び蒲鉾状隆帯により横線・蛇行線を描画 地文に単節縄文RL(縦)	覆土中層	10% PL137
968	縄文土器	深鉢	-	(22.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇頂部外削ぎ 内面に段 口唇直下から単節縄文RL(縦)を全面施文	覆土中層	70% PL137
969	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	口唇部肉厚の隆帯貼付を巡らし渦巻状の突起 指頭による幅広の凹線 隆帯による弧状区画 区画内斜位の沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 232	打製石斧	96.5	56.0	18.1	99.7	砂岩	鉾形 両側縁微細な敲打調整 刃部は表裏を研磨 末広がり	覆土中	PL166
Q 233	敲砥石	8.6	6.3	4.1	300.4	石英	両端部微細な敲打痕と多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中層	PL173

第 331 号土坑 (第 354 ~ 356 図 PL58)

位置 調査区北部の C 3 d4 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

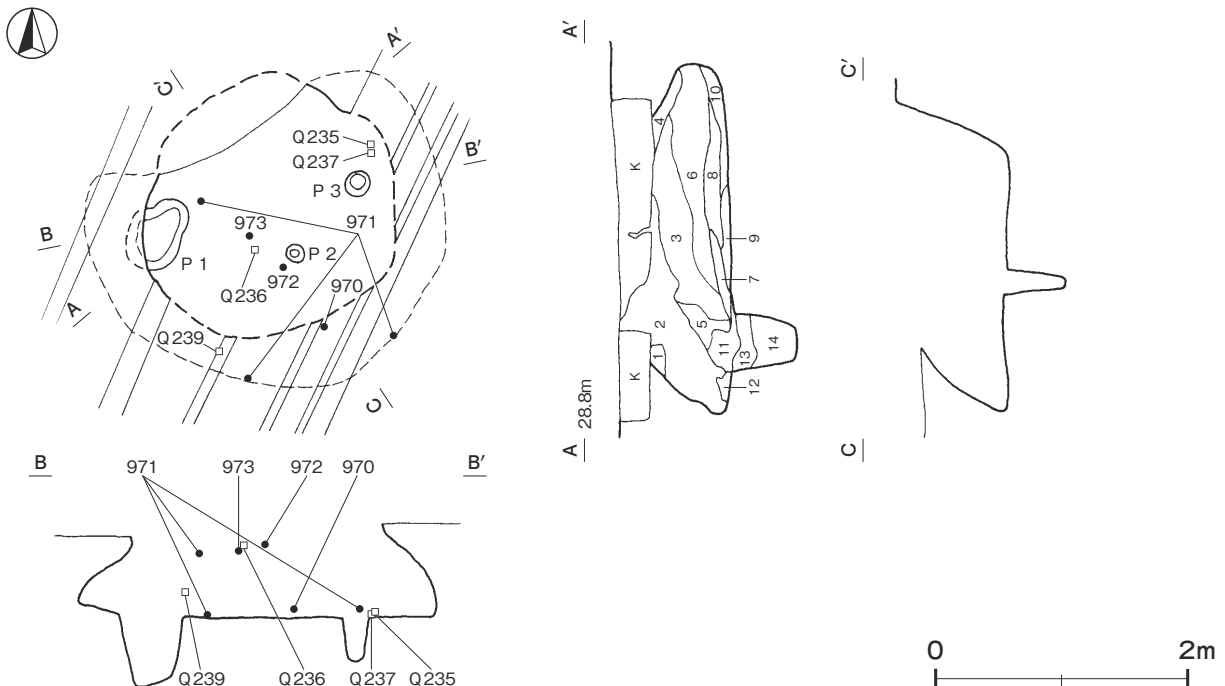
規模と形状 開口部は径 1.97 ~ 2.12 m の円形である。底面は長径 2.85 m, 短径 2.20 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 90cm である。壁は底面から強く内彎して, 袋状を呈している。

ピット 3 か所。P 1 は西壁寄りに位置し, 長径 60cm, 短径 46cm の不整楕円形で, 深さは 58cm である。P 2 はほぼ中央部に位置し, 径 18cm の円形で, 深さは 48cm である。P 3 は北東部に位置し, 径 20cm の円形で, 深さは 38cm である。P 1 は規模から考えて, 補助的な貯蔵施設, P 2・P 3 は柱穴と考えられる。

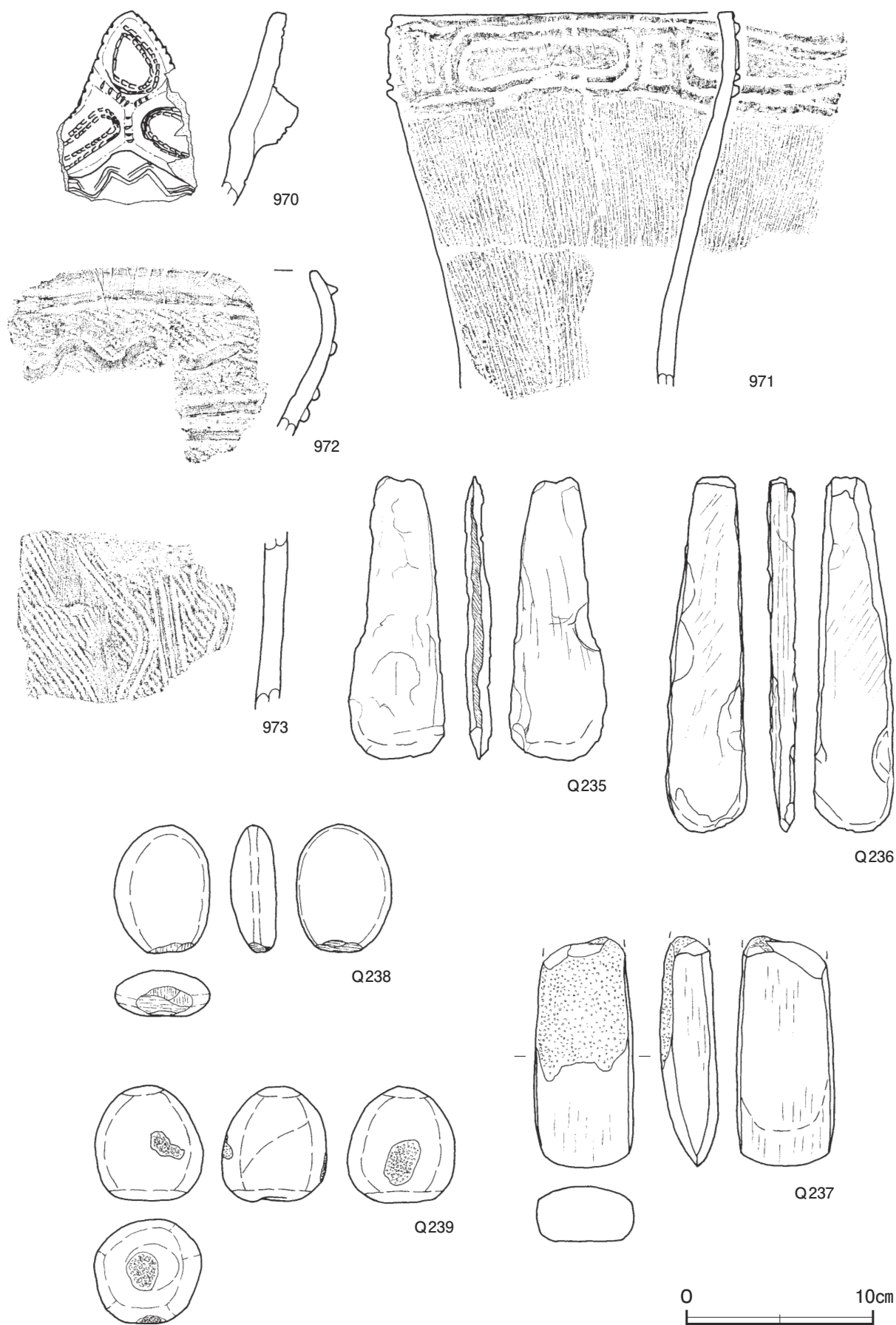
覆土 12 層に分層できる。各層にロームブロックや鹿沼パミスが含まれていることから, 埋め戻されている。第 13・14 層は, P 1 の覆土である。

土層解説

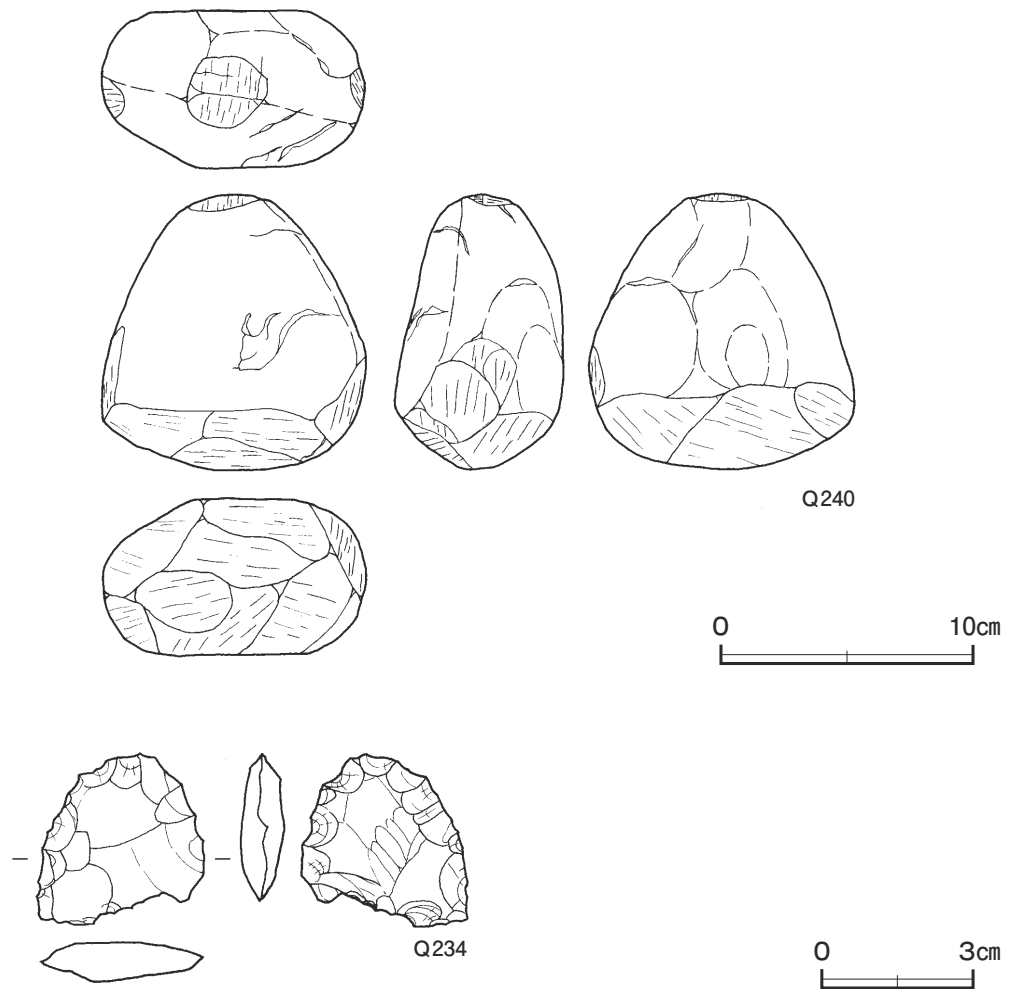
- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 9 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量 | 10 暗褐色 鹿沼パミス少量, ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量 | 11 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子多量 | 12 にぶい赤褐色 ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 鹿沼パミス多量, ロームブロック少量 | 13 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック微量 | 14 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |



第 354 図 第 331 号土坑実測図



第 355 图 第 331 号土坑出土遗物实测图 (1)



第 356 図 第 331 号土坑出土遺物実測図 (2)

遺物出土状況 縄文土器片 373 点 (深鉢 372, 浅鉢 1), 石器 9 点 (スクレイパー 1, 打製石斧 2, 磨製石斧 1, 磨石 1, 敲砥石 3, 不明 1) が出土している。970, Q 235・Q 237 は底面から, 971 は覆土中層と底面から出土した破片が接合している。Q 239 は覆土下層から, 972・973, Q 236 は覆土上層から, Q 234・Q 238・Q 240 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 331 号土坑出土遺物観察表 (第 355・356 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
970	縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	断面三角形の隆帯により文様描画。隆帯上に摘み状の突起。隆帯上にキザミ目。半截竹管による有節沈線。横位の鋸歯状文。	底面	
971	縄文土器	深鉢	[18.2]	(20.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇頂部平坦。口縁部隆帯と沈線による楕円及び方形の区画。区画内無文。胴部鋸歯状工具による縦位の条線文。	覆土中層・底面	30% PL137
972	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇部無文。地文に単節縄文 LR (縦)。隆帯を一巡させ口縁部区画。区画内蛇行隆帯が巡る。	覆土上層	
973	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	黒褐	普通	地文に無節縄文 L (縦)。半截竹管による縦位の並行沈線・蛇行沈線が垂下。	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 234	スクレイパー	3.4	3.3	0.8	9.1	石英斑岩	周縁を表裏から押圧剥離	覆土中	
Q 235	打製石斧	15.2	5.1	1.3	119.9	ホルンフェルス	撥形 片側縁に研磨痕 刃部は片面を敲打	底面	PL164
Q 236	打製石斧	18.9	4.2	1.5	211.1	角閃岩	撥形 側縁部に研磨痕 刃部は表裏を研磨 使用痕 ハマグリ刃	覆土上層	PL164
Q 237	磨製石斧	(12.4)	5.3	3.1	(325.6)	砂岩	定角式 刃部は表裏から研ぎ出す 平刃 基部欠損 片面基部寄りに敲打痕	底面	PL167 再加工品
Q 238	敲砥石	6.8	5.1	2.4	127.1	石英	円礫の片端部に微細な敲打痕と多方向からの砥面をもつ	覆土中	PL173
Q 239	敲砥石	6.2	5.9	5.7	278.7	花崗岩	円礫の周縁部に多方向からの砥面をもつ 片面に微細な敲打痕	覆土下層	PL173
Q 240	敲砥石	11.0	10.5	6.7	979.5	石英	楕円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	PL173

第 332 号土坑 (第 357 図 PL59)

位置 調査区北部中央 C 3 a6 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.10 m ほどの不整形円で, 底面は平坦である。深さは 50cm である。壁は, ほぼ直立している。

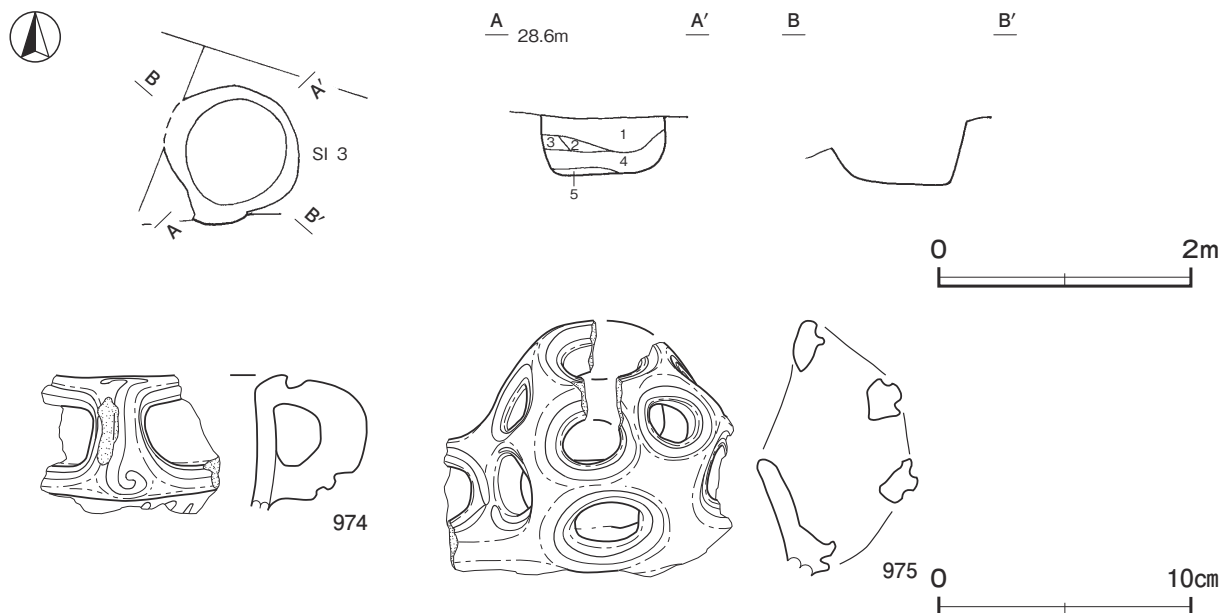
覆土 5 層に分層できる。各層にロームや鹿沼パミスのブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック少量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 29 点 (深鉢) が出土している。974・975 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 357 図 第 332 号土坑・出土遺物実測図

第 332 号土坑出土遺物観察表 (第 357 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
974	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	中空の把手 隆帯に沿って沈線文・蕨手文	覆土中	PL137
975	縄文土器	深鉢	-	(10.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	8か所の円形の穿孔 穿孔に沿って沈線	覆土中	PL137

第 333 号土坑 (第 358・359 図 PL59)

位置 調査区中央部C 3e4 区, 標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 576 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.46 m, 短径 2.23 mの楕円形で, 長径方向はN - 3° - Eである。底面は平坦で, 深さは 60cmである。壁は外傾している。

ピット 4か所。P 1は北壁際に位置し, 径 50cmの円形で, 深さ 60cmである。P 2は北東壁際に位置し, 長径 58cm, 短径 48cmの楕円形で, 深さ 50cmである。P 3は南西壁寄りに位置し, 長径 54cm, 短径 50cmの楕円形で, 深さは 46cmである。P 4は中央部に位置し, 径 30cmの円形で, 深さは 40cmである。P 1 ~ P 3は位置と規模から補助的な貯蔵施設, P 4は柱穴と考えられる。

P 1 土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 3 黒褐色 ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

P 2 土層解説

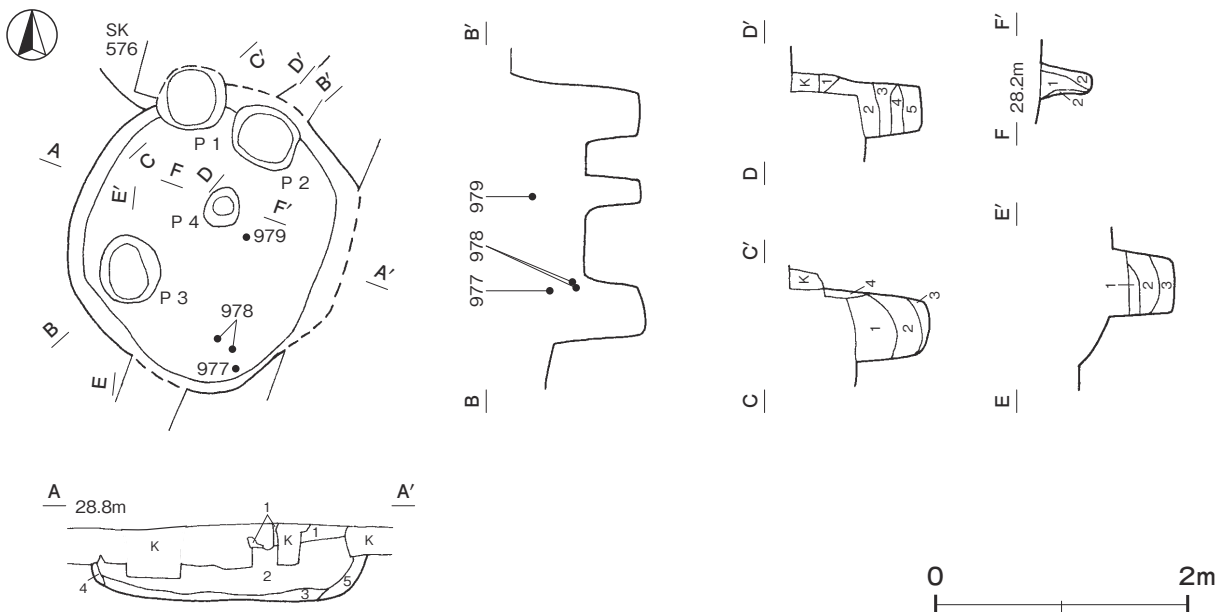
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量 | |

P 3 土層解説

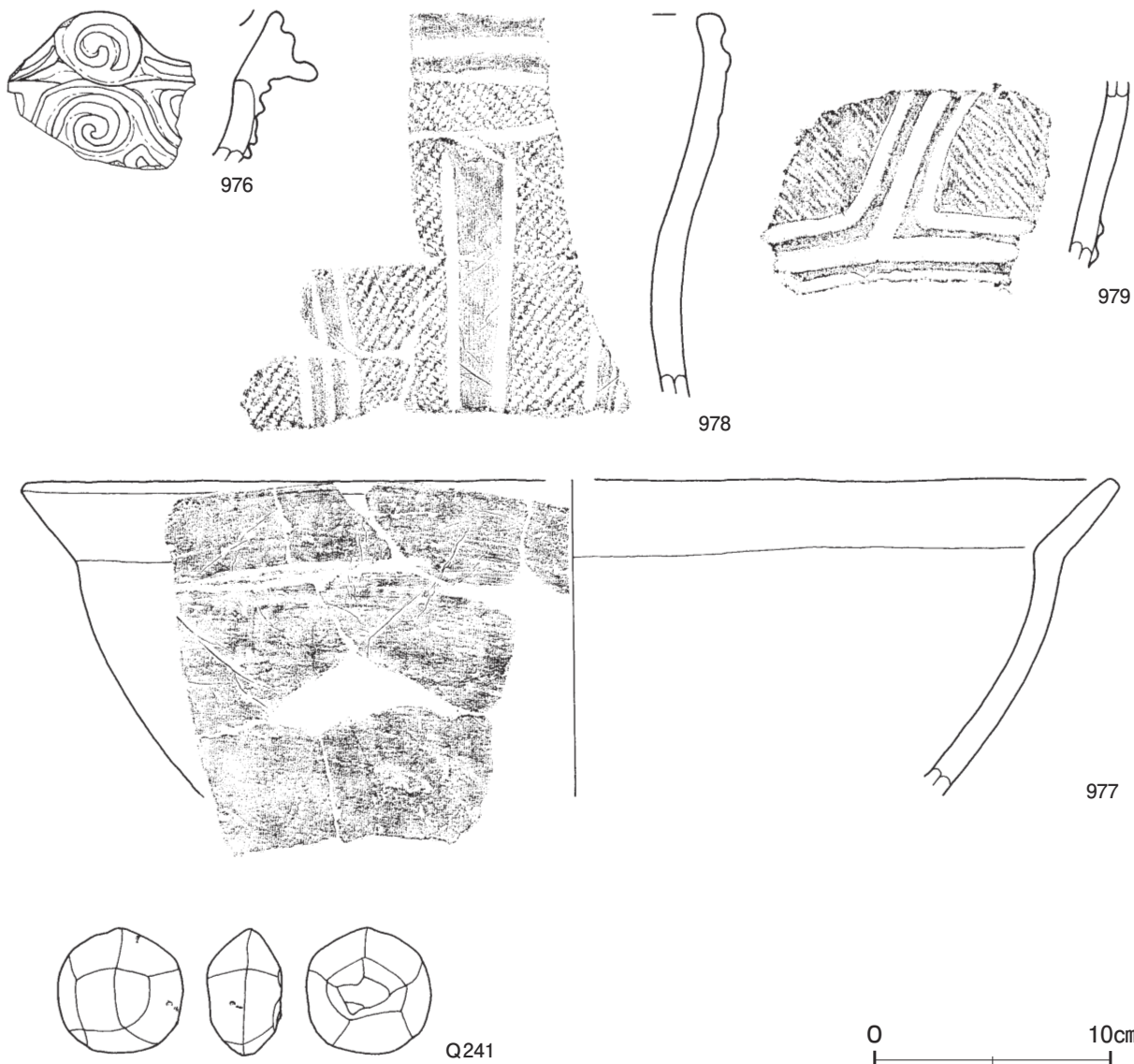
- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量 | |

P 4 土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 ロームブロック少量 |
|----------------------------|-----------------|



第 358 図 第 333 号土坑実測図



第359図 第333号土坑出土遺物実測図

覆土 5層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片203点（深鉢202，浅鉢1），石器2点（敲砥石，砥石），剥片1点（瑪瑙）が出土している。978は覆土下層から，977・979はいずれも覆土中層から，976，Q241は覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，ピットを有する貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。

第333号土坑出土遺物観察表(第359図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
976	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇頂部に渦巻状突起 口縁部沈線による渦巻文	覆土中	
977	縄文土器	浅鉢	[45.8]	(134)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部くの字状に外反 外・内面ナデ 胴部外・内面横方向の磨き	覆土中層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
978	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色 粒子	橙	普通	口唇部無文 太沈線を巡らせ楕円区画 区画内 単節縄文 RL (横) 胴部は同一原体 (縦) を施 文し羽状構成 2~3本の並行沈線を垂下 沈 線間磨消	覆土下層	PL137
979	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	背割れ隆帯による文様区画 区画内無節縄文 R (横) 隆帯に沿って太沈線を附加	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 241	敲砥石	5.4	5.3	3.2	119.5	チャート	円縁の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	PL173

第 336 号土坑 (第 360・361 図 PL59)

位置 調査区北部中央 C 3 b4 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 729 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.24 m, 短径 2.07 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 51° - E である。底面は径 2.58 ~ 2.68 m の円形で, ほぼ平坦である。確認面からの深さは 96cm である。壁は南側が内傾し, その他が底面から強く内彎して, 袋状を呈している。

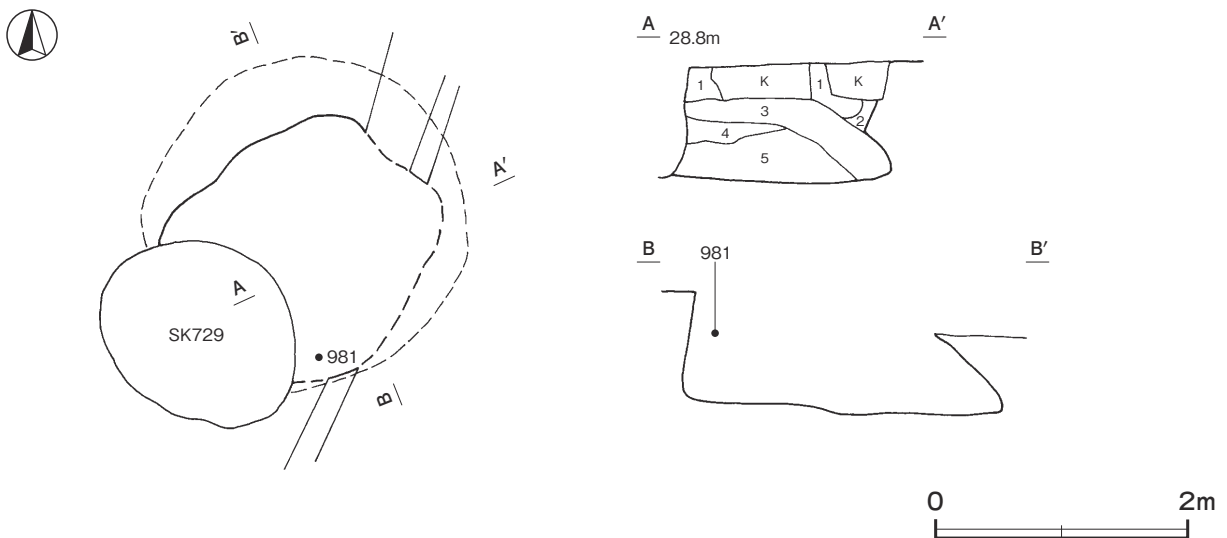
覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

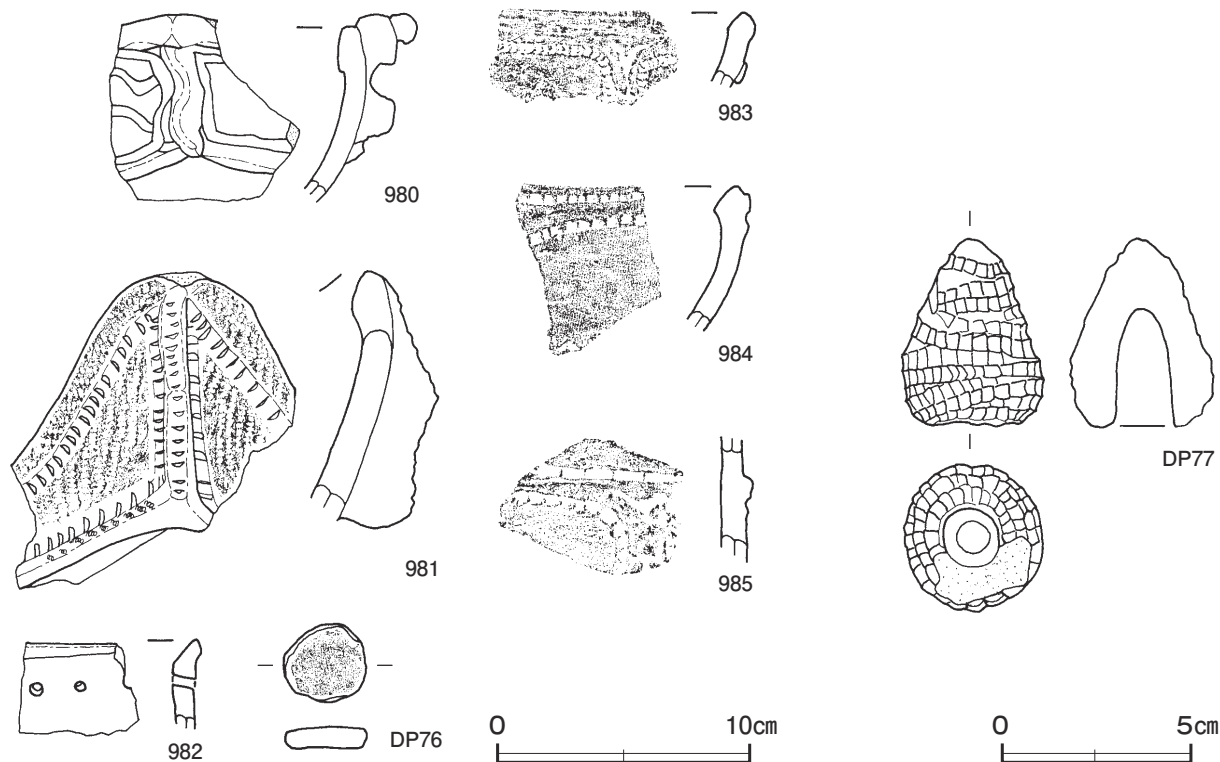
- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 440 点 (深鉢 427, 浅鉢 13), 土製品 2 点 (土器片円盤, 不明土製品), 石核 1 点 (石英) が出土している。981 は覆土上層から, 980・982 ~ 985, DP76・DP77 は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 360 図 第 336 号土坑実測図



第 361 図 第 336 号土坑出土遺物実測図

第 336 号土坑出土遺物観察表 (第 361 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
980	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英	褐	普通	口唇部三角形の突起 鱗状の隆帯による区画文 区画内及び隆帯に沿って沈線	覆土中	
981	縄文土器	深鉢	-	(12.5)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	波状口縁 口唇部肥厚 鱗状の隆帯による区画文 隆帯上及び隆帯に沿ってキザミ目 地文に単節縄文 RL (横・斜)	覆土上層	
982	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・角閃石	褐灰	良好	口唇内面内削ぎ 口唇部肥厚 口縁部棒状工具による穿孔	覆土中	
983	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部V字状の隆帯貼付 隆帯に沿って1本の有節沈線	覆土中	
984	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口唇部内削ぎ 口縁上部に2本の有節沈線	覆土中	
985	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	断面三角形の隆帯により区画文 隆帯上に一部摘み状の突起 隆帯に沿って1本の有節沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP76	土器片円盤	3.0	3.3	0.8	12.2	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐	胴部片 周縁部研磨	覆土中	
DP77	不明土製品	5.0	3.8	3.8	(47.0)	長石・石英・雲母	赤褐	有節沈線が周回 中央部指頭による凹み 松笠形	覆土中	PL160

第 338 号土坑 (第 362・363 図 PL60)

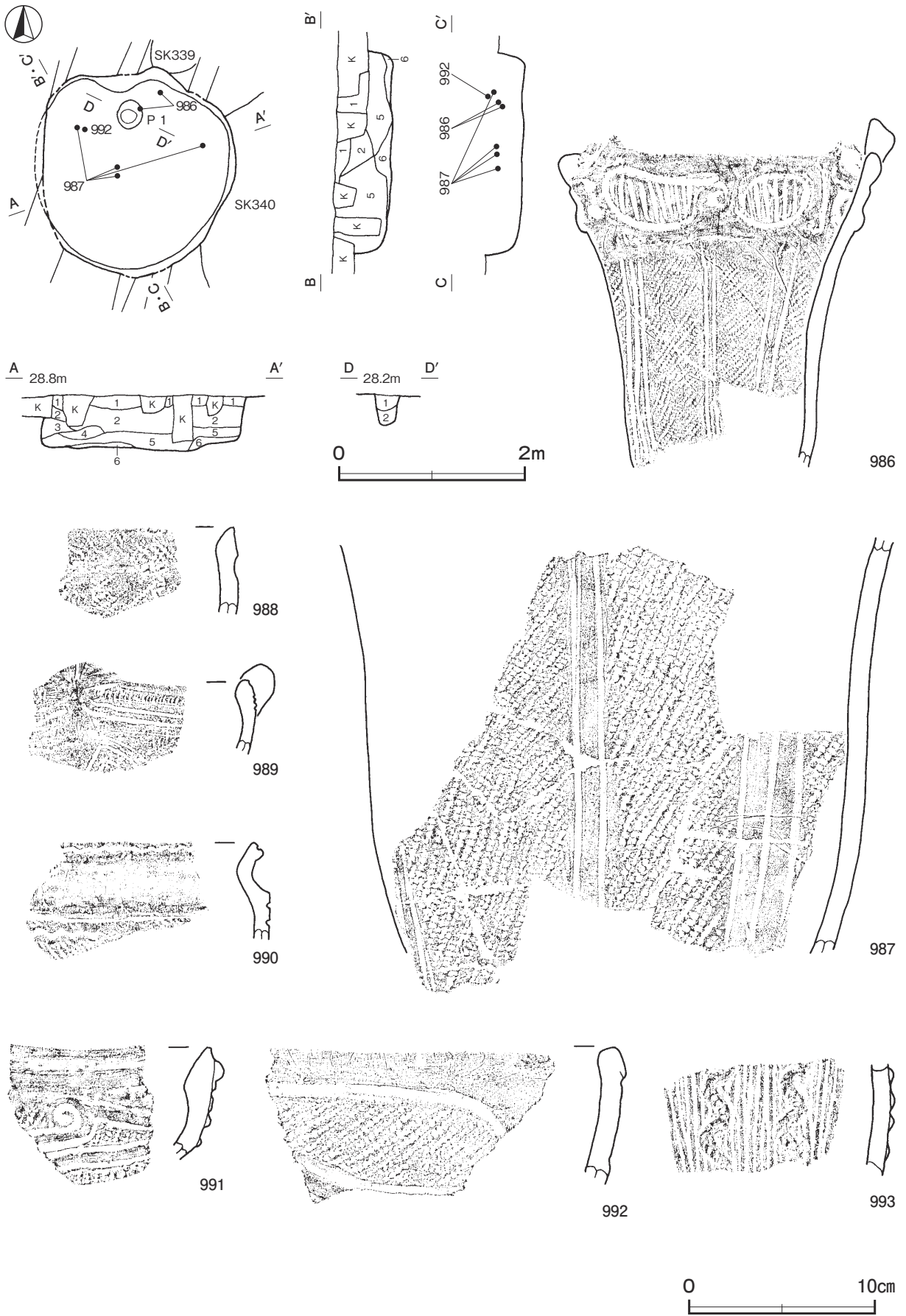
位置 調査区北部中央の C 3 c5 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 340 号土坑を掘り込んでいる。第 339 号土坑との新旧関係は不明である。

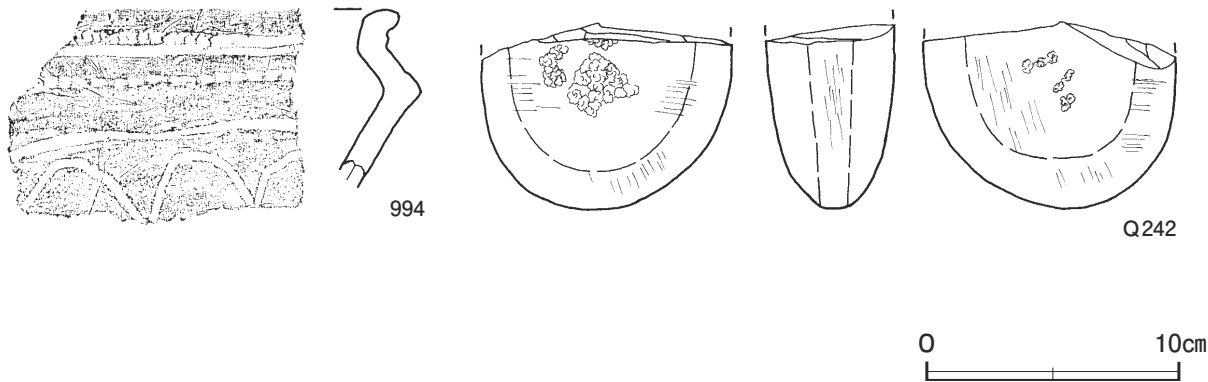
規模と形状 径 2.10 ~ 2.25 m の不整形円形である。底面は平坦で、深さは 58cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 北部に位置し、径 28cm の円形で、深さは 36cm である。規模と形状から柱穴と考えられる。

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第 362 図 第 338 号土坑・出土遺物実測図



第 363 図 第 338 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 166 点 (深鉢), 石器 1 点 (敲石) が出土している。986・987・992 は覆土中層から、988～991・993・994, Q 242 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 338 号土坑出土遺物観察表 (第 363 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
986	縄文土器	深鉢	[16.2]	(18.7)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁上部に渦巻突起 口縁部低い隆帯により楕円区画・渦巻文 区画内縦位の条線文 胴部は単節縄文 RL (縦) 2～3本の並行沈線が垂下沈線間磨消	覆土中層	30% PL137
987	縄文土器	深鉢	-	(22.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の並行沈線を垂下沈線間磨消	覆土中層	20% PL137
988	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇内側に段 口縁部指頭による凹線を一巡 口縁上部単節縄文 RL (横) 凹線下結節縄文 (縦)	覆土中	
989	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁内側に段 摘み状の突起 口縁上部に微細な爪形文 半截竹管による横線文	覆土中	
990	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒色粒子	にぶい褐	普通	口唇部外反 口唇頂部に波状沈線が一巡 頸部横位の有節沈線と波状沈線が巡る 地文に無節縄文 R (横)	覆土中	
991	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口唇内側に段 口縁部隆帯が一巡 地文に単節縄文 LR (横) 隆帯による渦巻文を描画	覆土中	
992	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	灰褐	普通	口唇部肥厚 太沈線による楕円区画 区画内単節縄文 RL (縦)	覆土中層	
993	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	半截竹管による縦位の条線文 縦位の蛇行隆帯が垂下	覆土中	内面煤付着
994	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部 S 字状に外反 横位の有節沈線と沈線が一巡 逆 U 字状文を連続して描画	覆土中	

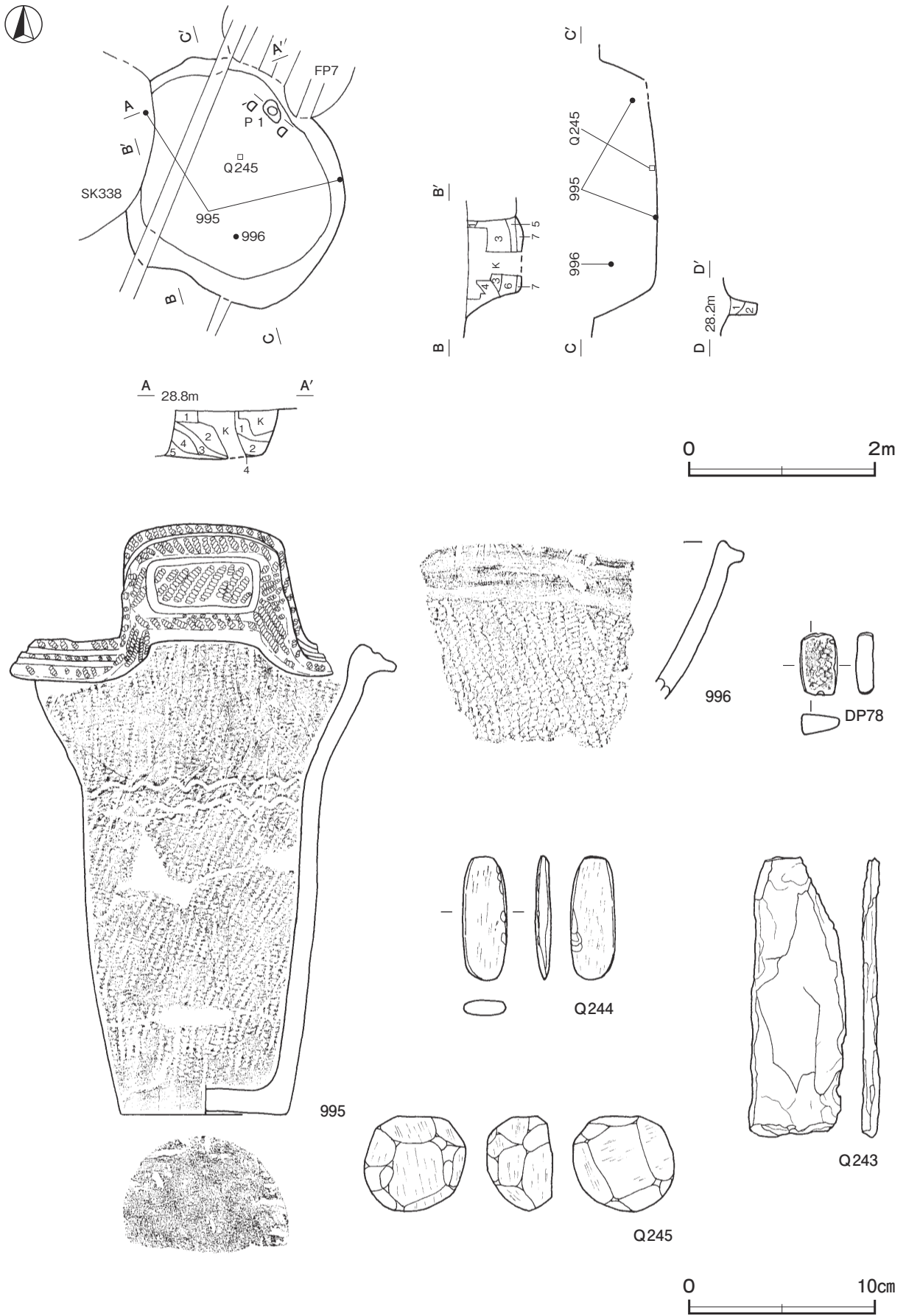
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 242	敲石	(7.5)	10.0	5.1	(498.2)	砂岩	表裏面に微細な敲打痕 周縁部研磨	覆土中	

第 340 号土坑 (第 364 図 PL60)

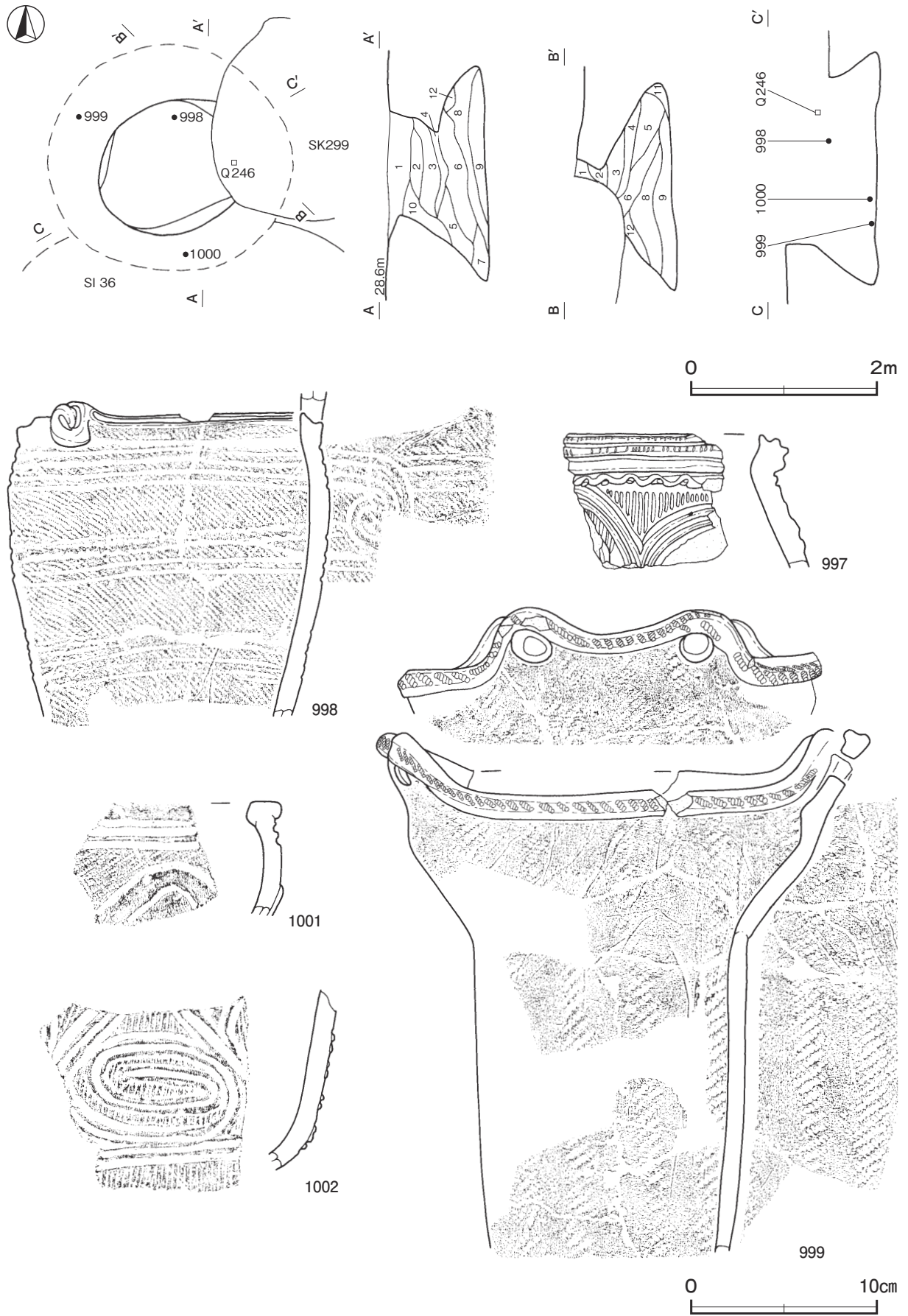
位置 調査区北部中央 C 3c5 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 338 号土坑に掘り込まれている。第 7 号炉跡との新旧関係は不明である。

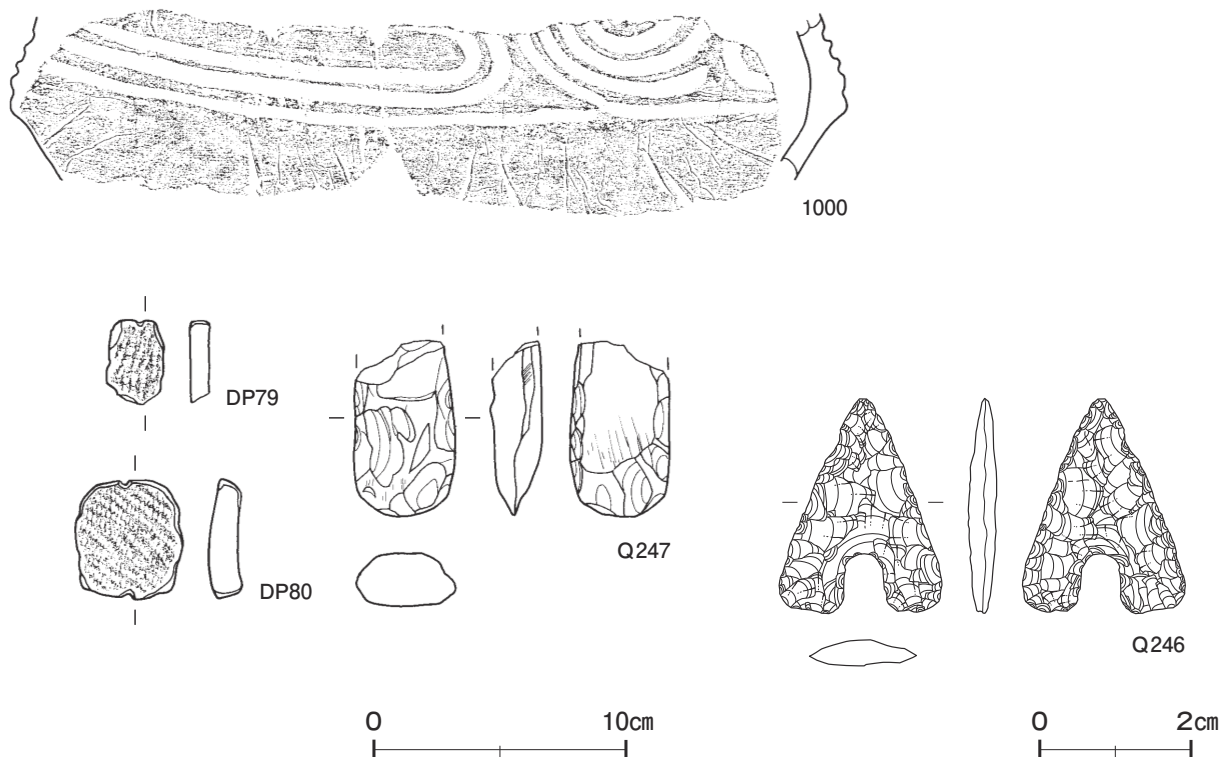
規模と形状 長径 2.80 m, 短径 2.41 m の楕円形で, 長径方向は N - 18° - W である。底面は平坦で, 深さは 62cm である。壁は外傾している。



第 364 图 第 340 号土坑·出土遺物実測図



第 365 图 第 342 号土坑·出土遺物実測図



第 366 図 第 342 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 168 点（深鉢 167, 浅鉢 1）, 土製品 2 点（土器片錘）, 石器 6 点（鏃 1, 打製石斧 1, 磨製石斧 2, 磨石 1, 敲石 1）, 剥片 1 点（ホルンフェルス）が出土している。999 は西壁際, 1000 は南壁際の底面から破片が散乱した状態で出土している。998, Q 246 は中央部の覆土中層, 997・1001・1002, DP79・DP80, Q 247 は覆土中からそれぞれ出土しており, いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 342 号土坑出土遺物観察表（第 365・366 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
997	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	ぶい黄褐	普通	口唇頂部に背割れ隆帯が一巡 隆帯にキザミ目 地文に縦位の燃糸文 交互刺突による蛇行沈線 弧線文を描写	覆土中	
998	縄文土器	深鉢	[14.4]	(17.7)	-	長石・石英・雲母	ぶい赤褐	普通	口唇頂部に太沈線が一巡 渦巻状の隆帯 口唇 直下から無節縄文 L (縦) を前面施文 半截竹 管による横線文・渦巻文 4 単位の穿孔突起 口縁端部に隆帯を一巡 隆帯 上に単節縄文 RL (横) 口縁直下から同一原体 による間を開けての縦施文	覆土中層	25% PL138
999	縄文土器	深鉢	24.8	(28.3)	-	長石・石英・雲母・ 細礫・赤色粒子	ぶい褐	普通	沈線による楕円・同心円文 外・内面横方向の ナデ	底面	50% PL138
1000	縄文土器	浅鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通		底面	10% PL138
1001	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	ぶい橙	普通	口唇部肥厚 口唇頂部平坦 地文に単節縄文 LR (横) 口縁部横位の並行沈線 低い蛇行隆帯に沿 って沈線を付加	覆土中	
1002	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に縦位の燃糸文 背割れ隆帯による横線・ 斜線・渦巻文を描写	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP79	土器片錘	3.4	2.3	0.8	8.1	長石・石英・雲母	褐灰	胴部片 一端にキザミ目 片側縁研磨	覆土中	
DP80	土器片錘	4.8	4.2	1.3	27.1	長石・雲母・赤色 粒子	ぶい橙	胴部片 両端にキザミ目 周縁部粗雑に研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 246	鏃	2.9	2.2	3.9	1.8	チャート	基部中央は深く彎入	覆土中層	PL161
Q 247	打製石斧	(6.9)	4.0	2.1	(81.5)	ホルンフェルス	撥形 片面に自然面 側縁部・刃部敲打後研磨 基部欠損	覆土中	

第 343 号土坑 (第 367 図 PL32)

位置 調査区西部 C 2 c6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 101 号土坑を掘り込んでいる。第 360 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部は, 長径 1.97 m, 短径 1.65 m の楕円形で, 長径方向は N - 76° - E である。底面は長径 1.78 m, 短径 1.52 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 85 cm である。壁は北部がやや内彎し, その他が底部から丸みを帯びて, ほぼ直立している。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は, 深さ 68・40 cm で, 中央部や壁際に位置していることから, 柱穴と考えられる。

覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 6・7 層は, P 1 の覆土である。

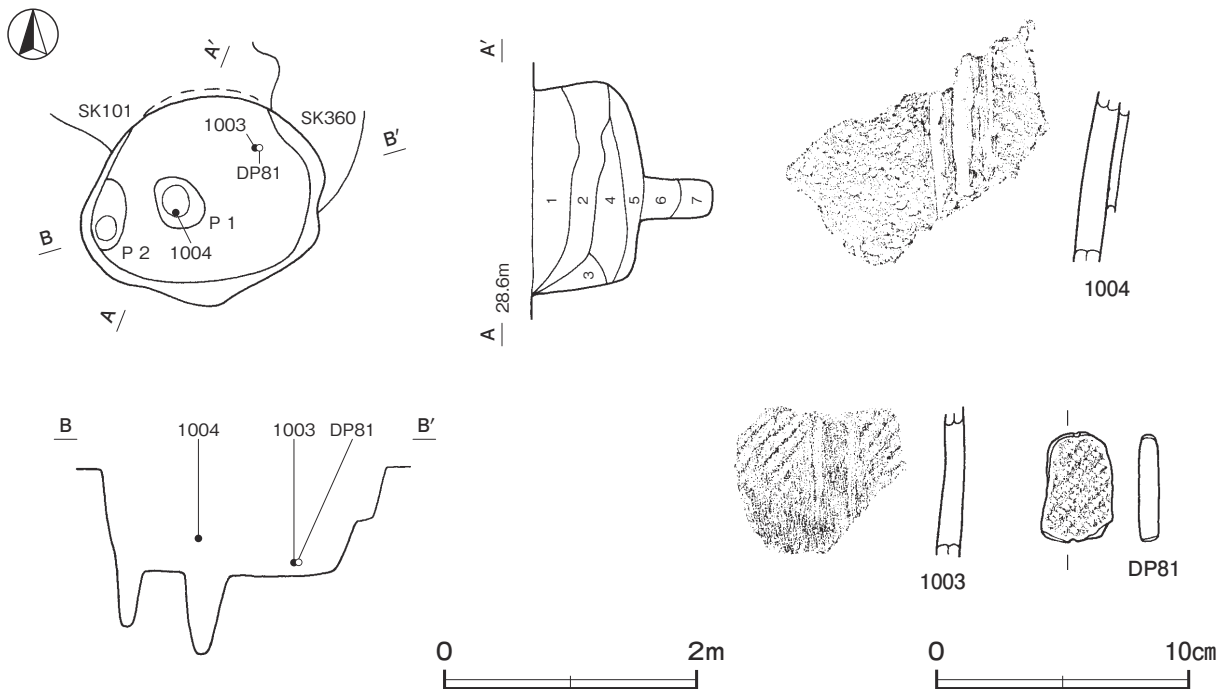
土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|---------|------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 63 点 (深鉢 61, 浅鉢 2), 土製品 1 点 (土器片錘), 剥片 1 点 (瑪瑙) が出土している。

1003, DP81 は北東部の底面から, 1004 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 367 図 第 343 号土坑・出土遺物実測図

第 343 号土坑出土遺物観察表 (第 367 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
1003	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に無節縄文 R (縦) 並行沈線を垂下沈線間磨消	底面	
1004	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明赤褐	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 背割れ隆帯が垂下	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP81	土器片錘	4.3	2.9	0.8	13.8	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部粗雑に研磨	底面	

第345号土坑（第368図 PL60）

位置 調査区北西部のB2j4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第211・347号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.51m、短径1.87mの楕円形で、長径方向はN-13°-Eである。底面は平坦で、深さは45cmである。壁は外傾している。

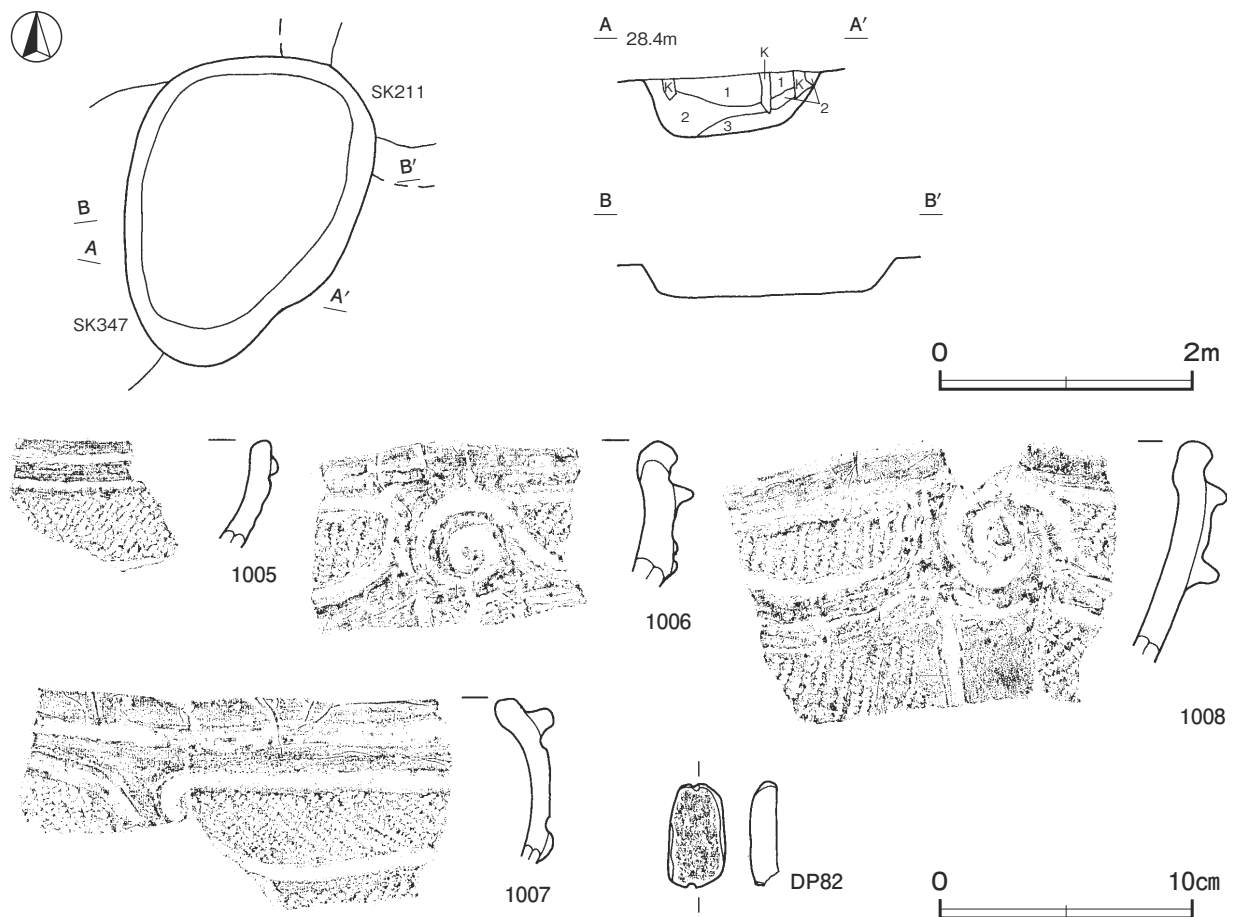
覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片95点（深鉢），土製品1点（土器片錘）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第368図 第345号土坑・出土遺物実測図

第345号土坑出土遺物観察表(第368図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1005	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇内面内削ぎ 地文に単節縄文RL(横) 背割れ隆帯が一巡	覆土中	
1006	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	隆帯による楕円区画と渦巻文 隆帯に沿って沈線を附加 地文に単節縄文LR(横)	覆土中	
1007	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁上部に太沈線が一巡 地文に単節縄文RL(横) 沈線による楕円区画	覆土中	PL138
1008	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯による楕円区画・渦巻文 区画内及び胴部単節縄文RL(縦) 渦巻文から並行沈線が垂下沈線間磨消	覆土中	PL138

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP82	土器片鏟	4.1	2.3	1.0	(12.1)	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部粗雑に研磨	覆土中	

第346号土坑(第369・370図 PL61)

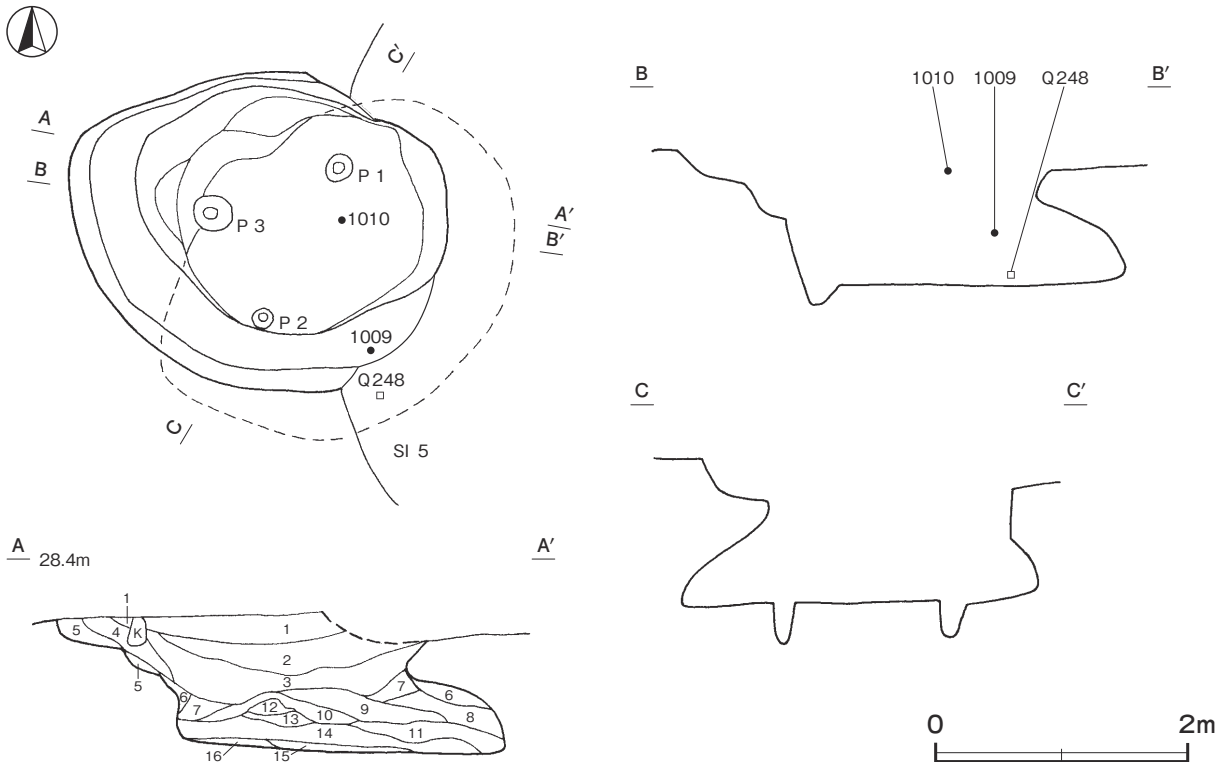
位置 調査区西部のC2a4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号竪穴建物に掘り込まれている。

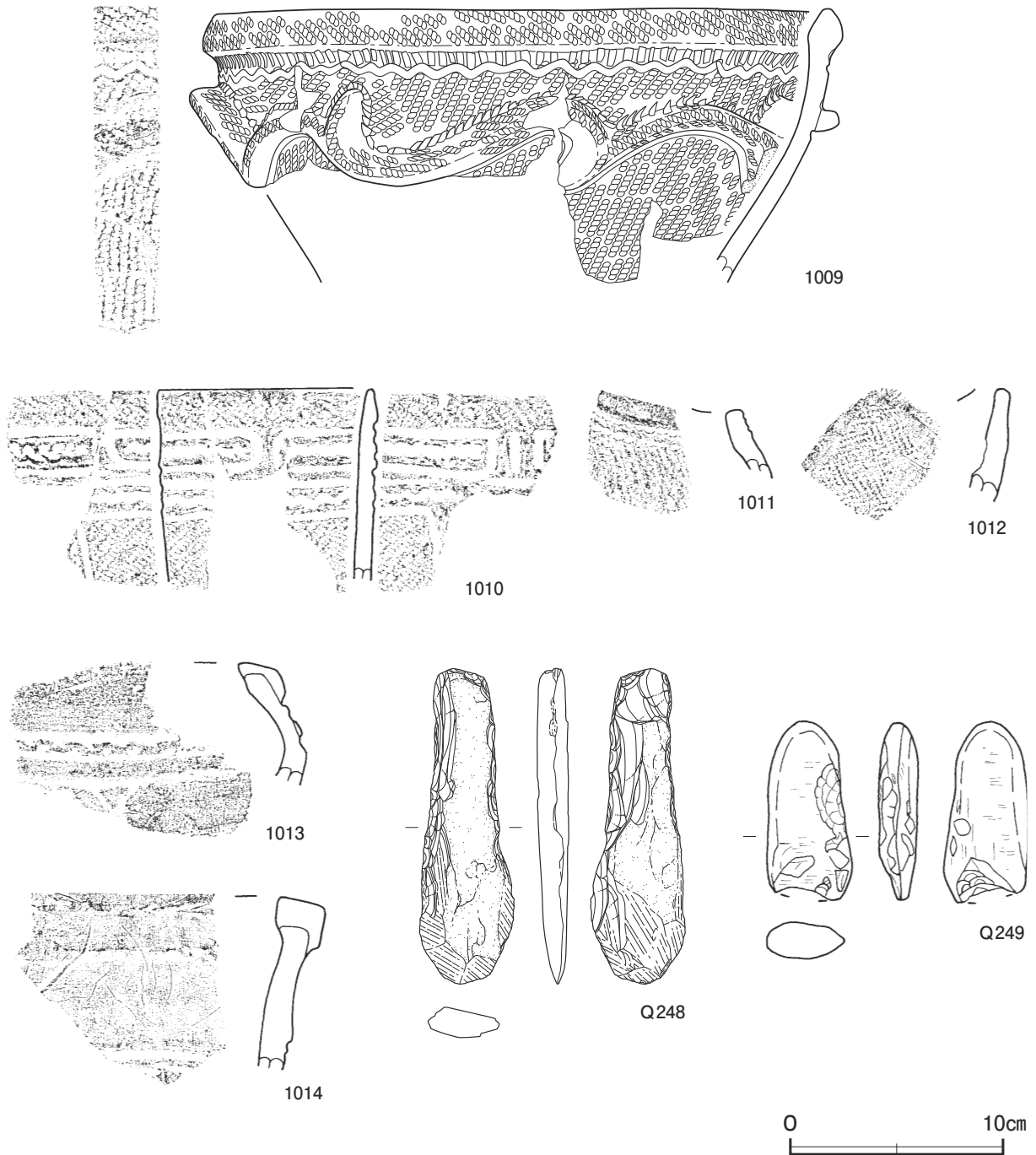
規模と形状 開口部は長径3.05m、短径2.57mの不整楕円形で、長径方向はN-77°-Wである。底面は長径3.03m、短径2.40mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは115cmである。壁は西部が外傾しており、その他が大きく内彎して、袋状を呈している。

ピット 3か所。P1は北東部に位置し、径20cmの円形で、深さ26cmである。P2は南部に位置し、径14cmの円形で、深さは30cmである。P3は西壁際に位置し、径30cmの円形で、深さは15cmである。

覆土 16層に分層できる。第1~5層は、周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第6~16層は、各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。



第369図 第346号土坑実測図



第370図 第346号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 11 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・ローム粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 16 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 195点(深鉢), 石器5点(磨製石斧3, 打製石斧2), 石製品1点(不明), 剥片3点(瑪瑙2, チャート1)が出土している。Q 248は南東壁際の底面, 1009は南東部の覆土中層から出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。1010は中央部の覆土上層, 1011~1014, Q 249は覆土中から

それぞれ出土しており、埋没する課程で投棄あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 規模と形状から、ピットを有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 346 号土坑出土遺物観察表 (第 370 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1009	縄文土器	深鉢	[29.0]	(12.9)	-	長石・石英・雲母・黒色斑点	橙	普通	口唇部肥厚。肥厚部に単節縄文 RL (横) 肥厚部に沿ってキョウビラ文が一巡。板状の隆帯による変形 S 字状文。隆帯に沿ってペン先状の刺突	覆土中層	20% PL138
1010	縄文土器	深鉢	10.0	(9.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁上部 0 段多条縄文 RL (横) が一巡。横楕円区画。区画内波状沈線。頸部を横位の波状沈線が一巡。沈線が垂下。胴部は同一原体 (縦)	覆土上層	30% PL138
1011	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁内側に段。口縁上部無文。2本の有節沈線が一巡。地文に単節縄文 LR (縦)	覆土中	
1012	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	波状口縁。地文に単節縄文 RL を縦・横に施文し、格子状に縄文を施文	覆土中	
1013	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部肥厚。口縁上端に交互刺突文。太沈線による区画文	覆土中	
1014	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口唇頂部に平坦面。口縁部無文。2本の沈線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 248	打製石斧	14.8	4.5	1.5	112.1	粘板岩	撥形 周縁部敲打調整 刃部は表裏とも斜方向に研磨	底面	PL164
Q 249	打製石斧	8.5	4.0	1.8	(88.2)	石英斑岩	撥形 扁平な自然礫の片側縁部敲打調整 刃部欠損	覆土中	PL164

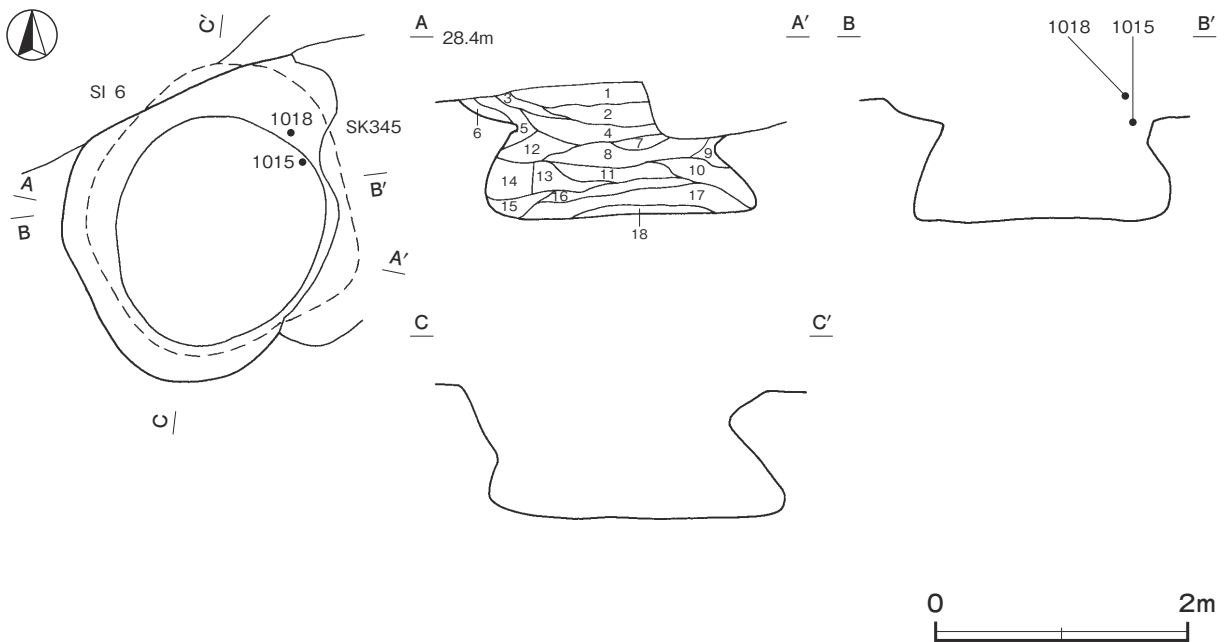
第 347 号土坑 (第 371・372 図 PL61)

位置 調査区北西部の B 2 j4 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

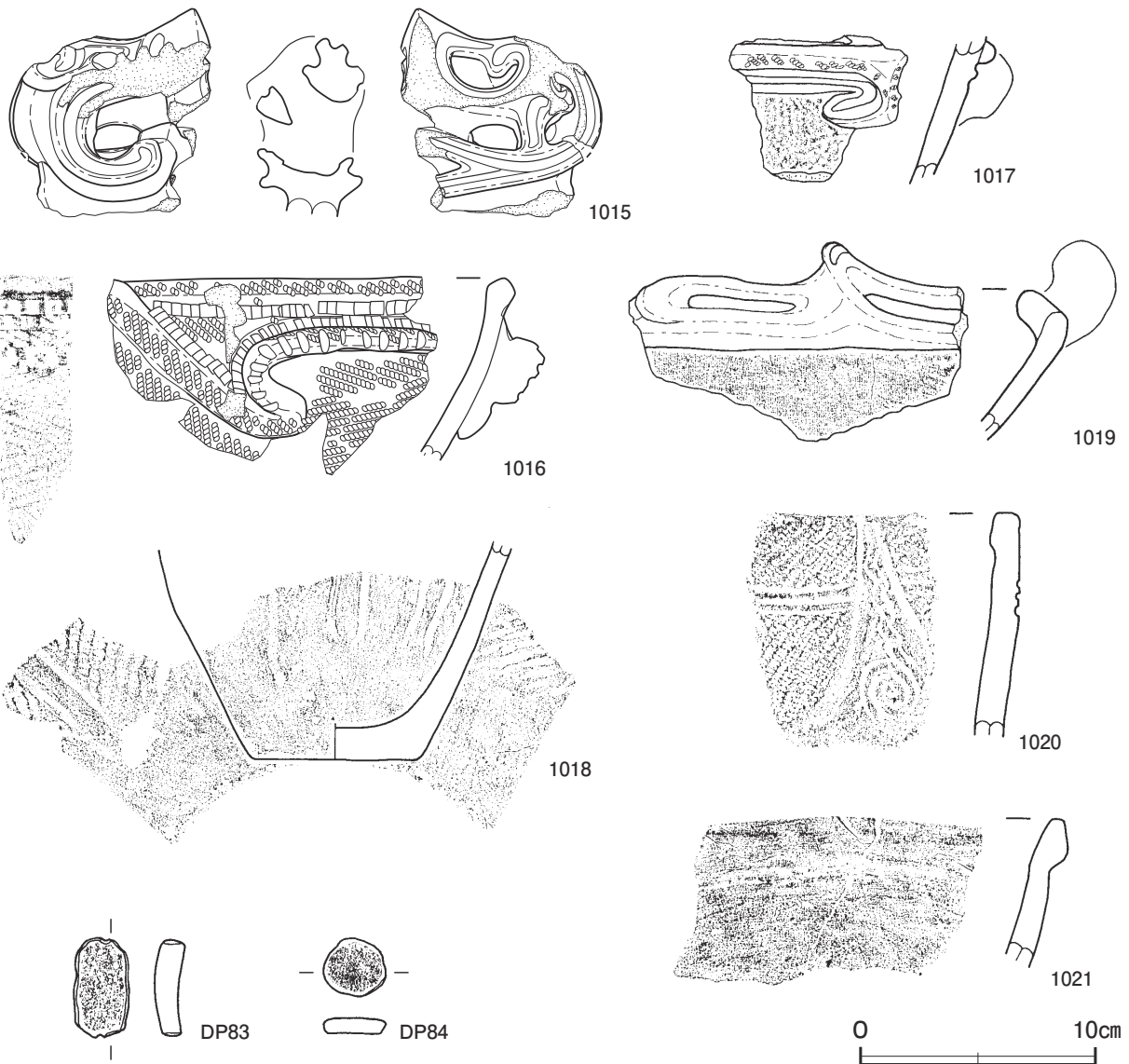
重複関係 第 6 号堅穴建物跡を掘り込み、第 345 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.60 m、短径 2.10 m の不整楕円形で、長径方向は N - 19° - E である。底面は径 2.17 ~ 2.36 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 101cm で、壁は内彎して、袋状を呈している。

覆土 18 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。



第 371 図 第 347 号土坑実測図



第 372 図 第 347 号土坑出土遺物実測図

土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量	10	暗 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗 褐 色	焼土粒子・炭化粒子中量, ロームブロック少量	11	黒 褐 色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量
3	暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗 褐 色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
4	暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック微量	13	褐 色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量
5	暗 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	14	褐 色	ロームブロック多量, 炭化物微量
6	暗 褐 色	ロームブロック中量	15	暗 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
7	暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量	16	暗 褐 色	ロームブロック多量, 炭化物微量
8	黒 褐 色	ロームブロック・炭化物中量, 焼土ブロック少量	17	褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
9	褐 色	ロームブロック中量	18	褐 色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 253 点 (深鉢 250, 浅鉢 3), 土製品 2 点 (土器片錘, 土器片円盤), 石製品 1 点 (石棒), 石核 1 点 (瑪瑙) が出土している。1015・1018 は北東部の覆土上層, 1016・1017・1019～1021, DP83・DP84 は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 347 号土坑出土遺物観察表 (第 372 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1015	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫・赤色粒子	にぶい橙	普通	中空の把手 背割れ隆帯による文様描画 把手に蕨手状沈線	覆土上層	PL138
1016	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	口縁部隆帯による横位の文様区画 隆帯上にキザミ目 隆帯に沿ってキャタピラ文 隆帯上及び地文に単節縄文RL(横)	覆土中	PL138
1017	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	横位の隆帯による渦巻文 隆帯に沿って2本の沈線 隆帯及び地文単節縄文RL(ランダム)	覆土中	
1018	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	7.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に無節縄文R(縦) 2本の並行沈線が垂下沈線間磨消 胴下半部ナデ	覆土上層	10%
1019	縄文土器	深鉢	-	(8.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に摘み状の突起 突起部から指頭による太沈線 口唇部赤彩痕 外・内面横方向の磨き	覆土中	
1020	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	口縁直下から0段多糸縄文RL(縦) 半截竹管による横線・渦巻文・波状文を描画 口唇内側に凹みが一巡	覆土中	
1021	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	口唇部肥厚 太沈線が一巡させ口縁部を区画 外・内面横方向のナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP83	土器片錘	4.2	2.3	1.2	13.3	長石・石英・雲母	明赤褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部粗雑に研磨	覆土中	
DP84	土器片円盤	2.4	2.7	0.6	5.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	胴部片 周縁部を丁寧に研磨	覆土中	

第 348 号土坑 (第 373・374 図)

位置 調査区西部のC 2c8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 4 号堅穴建物跡, 第 381 号土坑を掘り込み, 第 382 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 2.07 ~ 2.10 m の円形である。底面はやや凹凸があり, 深さは 35 ~ 46 cm で, 壁は外傾している。

ピット 南西壁際に位置し, 径 58 cm ほどの円形で, 深さは 44 cm である。規模と形状から, 補助的な貯蔵施設と考えられる。

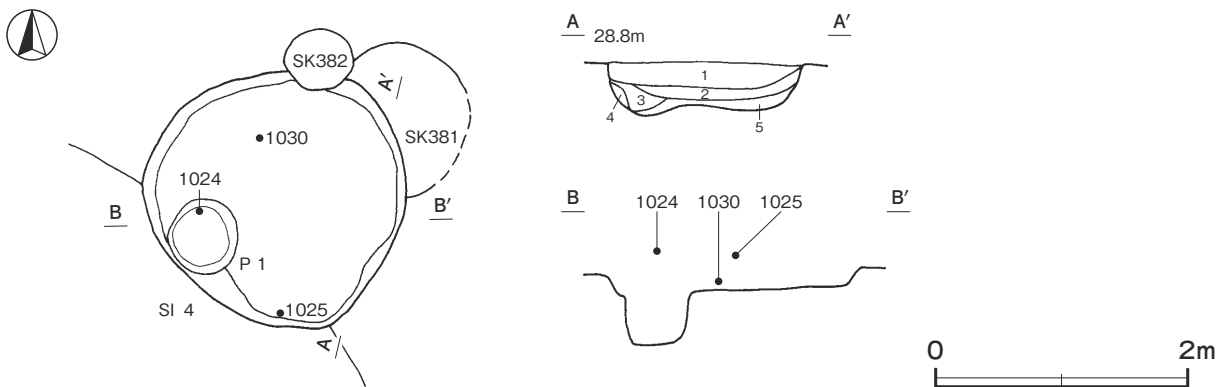
覆土 5 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

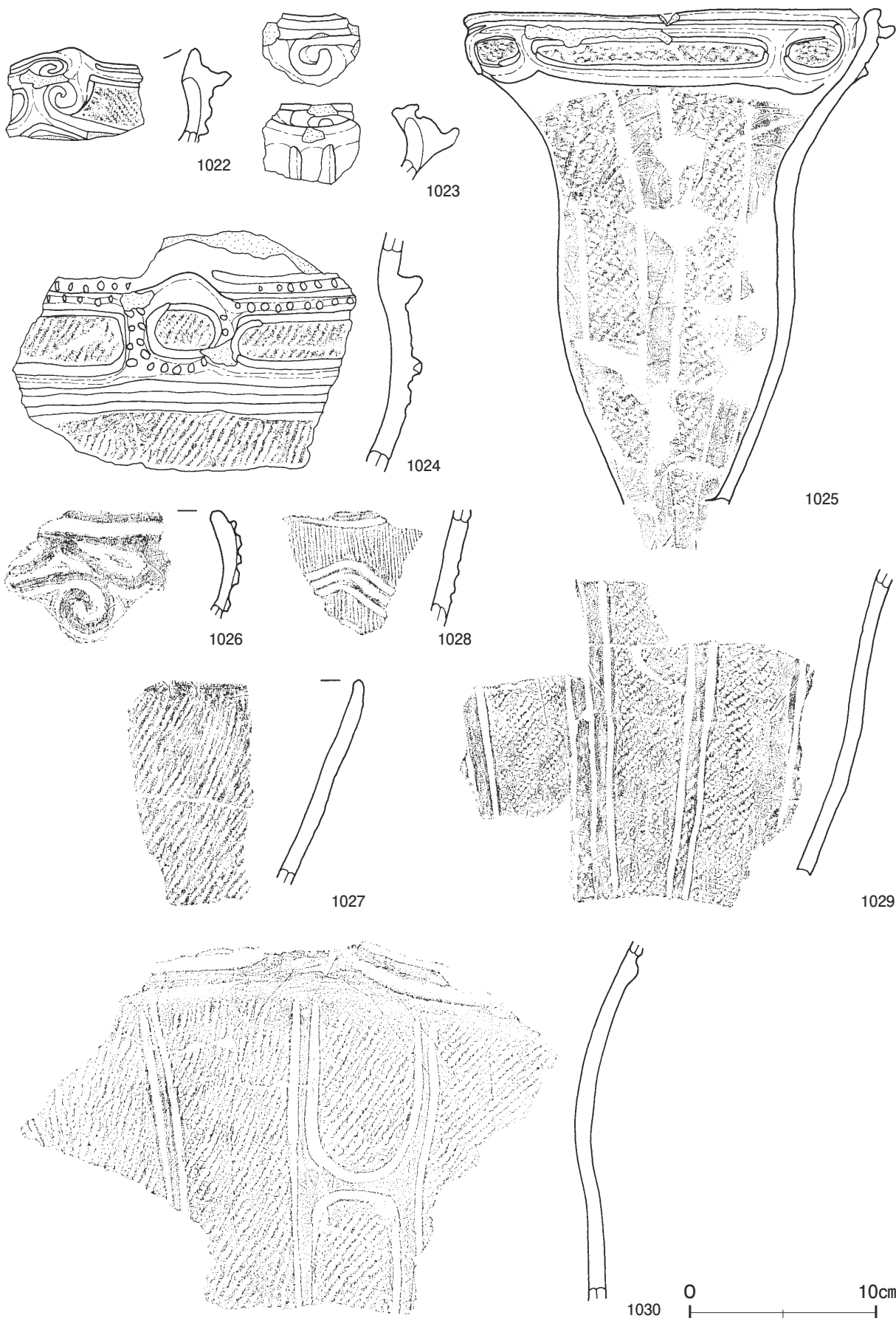
- | | | | |
|--------|----------------------|---------|--------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 344 点 (深鉢 337, 浅鉢 7) が出土している。1030 は北部の底面, 1024 は西部, 1025 は南壁際の覆土上層から, いずれも破片が散乱した状態で出土している。1022・1023・1026 ~ 1029 は覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 373 図 第 348 号土坑実測図



第 374 图 第 348 号土坑出土遗物实测图

第 348 号土坑出土遺物観察表 (第 374 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1022	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇部隆帯及び沈線による2方向の渦巻文・方形区画 区画内単節縄文RL(横)	覆土中	
1023	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	褐	普通	口唇頂部に渦巻文 渦巻文から2条の隆帯が垂下	覆土中	
1024	縄文土器	深鉢	-	(12.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	頸部に隆帯による円・楕円区画 一部に摘み状の突起 隆帯上に刺突 地文に0段多条縄文RL(縦)	覆土上層	PL139
1025	縄文土器	深鉢	[22.5]	(26.9)	-	長石・石英・細礫	褐灰	普通	口縁部隆帯による楕円区画・渦巻文 区画内単節縄文RL(横) 胴部同一原体(縦) 口縁直下から磨消縄文が垂下	覆土上層	50% PL139
1026	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明褐	普通	口縁部内彎 太沈線により渦巻文・区画文を描画 内面横方向の磨き	覆土中	
1027	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口唇部内彎 口縁上部にわずかに無文帯を置き、無節縄文R(縦)を全面に施文	覆土中	
1028	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	地文に縦位の燃糸文 3本の並行沈線による連続弧状文	覆土中	
1029	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	地文に単節縄文RL(縦) 2~3本の並行沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	PL139
1030	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に単節縄文RL(縦) 2本の沈線が垂下 沈線間H状の磨消	底面	PL139

第 349 号土坑 (第 375・376 図)

位置 調査区西部のC 2c9 区、標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 4 号堅穴建物跡を掘り込み、第 734 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.25 m、短径 1.89 mの楕円形で、北東部に長さ 25cm、幅 60cmほどの張り出し部がある。長径方向はN - 69° - Eである。底面は平坦で、深さは 76cmである。壁はほぼ直立している。

ピット 南東部に位置し、径 40cmほどの円形で、深さは 39cmである。規模と形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

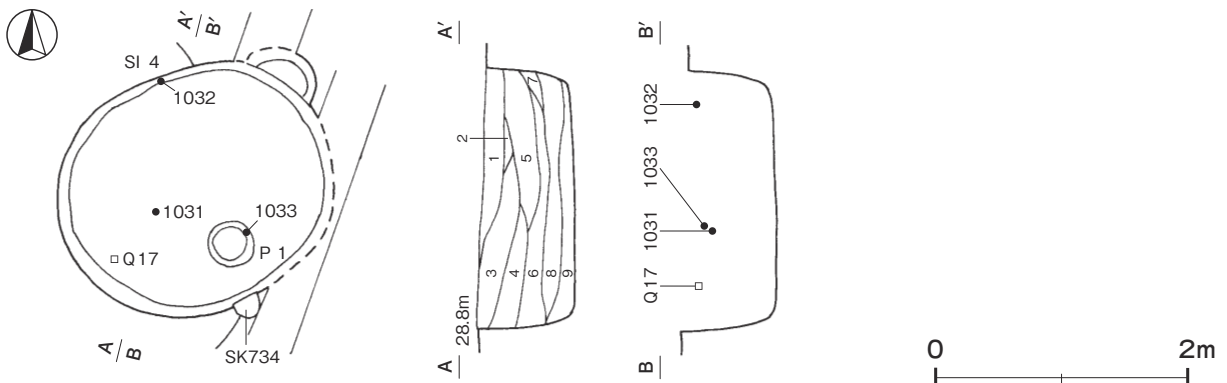
覆土 9層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

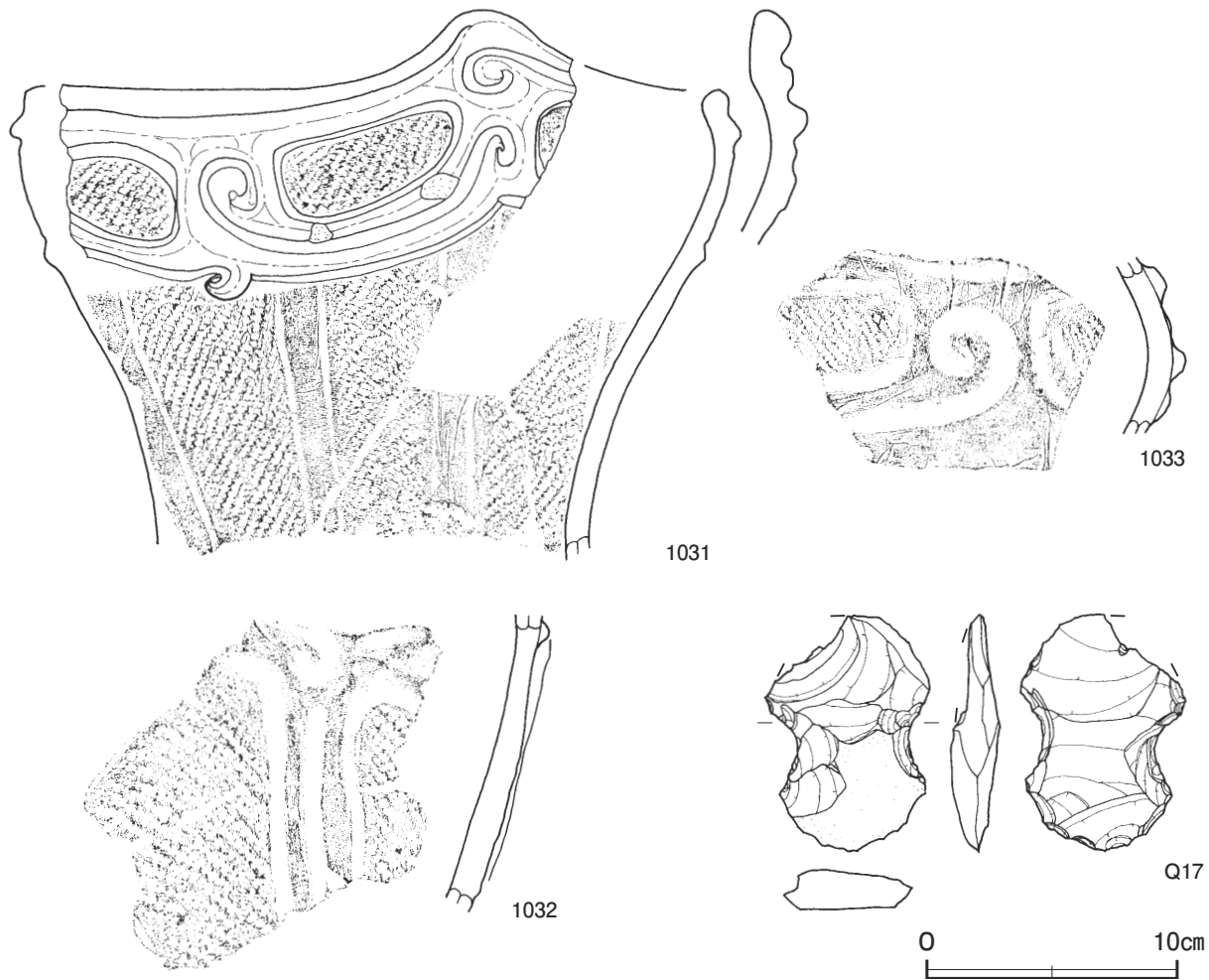
- | | | | |
|--------|---------------------|----------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 115 点 (深鉢), 石器 3 点 (打製石斧, 磨石, 敲石), 剥片 1 点 (チャート) が出土している。1031・1033 は中央部, 1032 は北壁際, Q 17 は南西部の覆土上層から、散乱した状態で出土している。いずれも埋没過程で投棄あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 375 図 第 349 号土坑実測図



第 376 図 第 349 号土坑出土遺物実測図

第 349 号土坑出土遺物観察表 (第 376 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1031	縄文土器	深鉢	[27.5]	(22.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部隆帯による楕円区画と渦巻文。隆帯に沿って横位の沈線。区画内単節縄文 RL (縦)。胴部同一原体 (縦) 2本の沈線を垂下。沈線間磨消	覆土上層	30% PL139
1032	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐	普通	地文に複節縄文 LRL (縦)。低い隆帯と太沈線による区画文・渦巻文	覆土上層	
1033	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐 (外) 黒 (内)	普通	太沈線による渦巻文・楕円区画。区画内単節縄文 RL (横)	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 17	打製石斧	9.4	6.6	2.0	(88.7)	ホルンフェルス	分銅形 片面に自然面 抉り部・刃部は表裏を敲打 片刃部欠損	覆土上層	PL162

第 350 号土坑 (第 377 図)

位置 調査区西部の C 2 a5 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

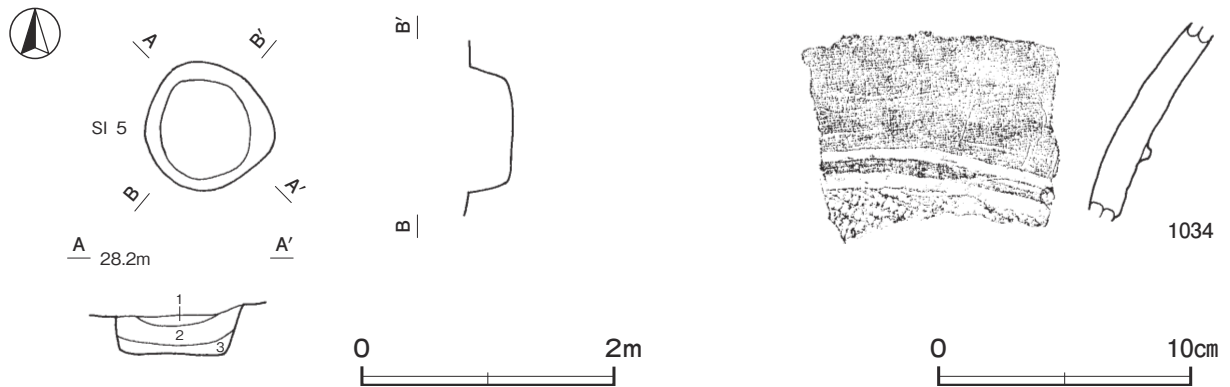
重複関係 第 5 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.00 ~ 1.02 m の円形である。底面は平坦で、深さは 35cm である。壁は外傾している。

覆土 3 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量



第 377 図 第 350 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 11 点（深鉢）が出土している。1034 は覆土中から出土しており，埋没過程で投棄あるいは混入したものと考えられる。

所見 規模と形状から，小型の貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。

第 350 号土坑出土遺物観察表（第 377 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1034	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	頸部無文帯 2本の沈線が一巡し頸部を区画胴部は単節縄文RL（横）	覆土中	

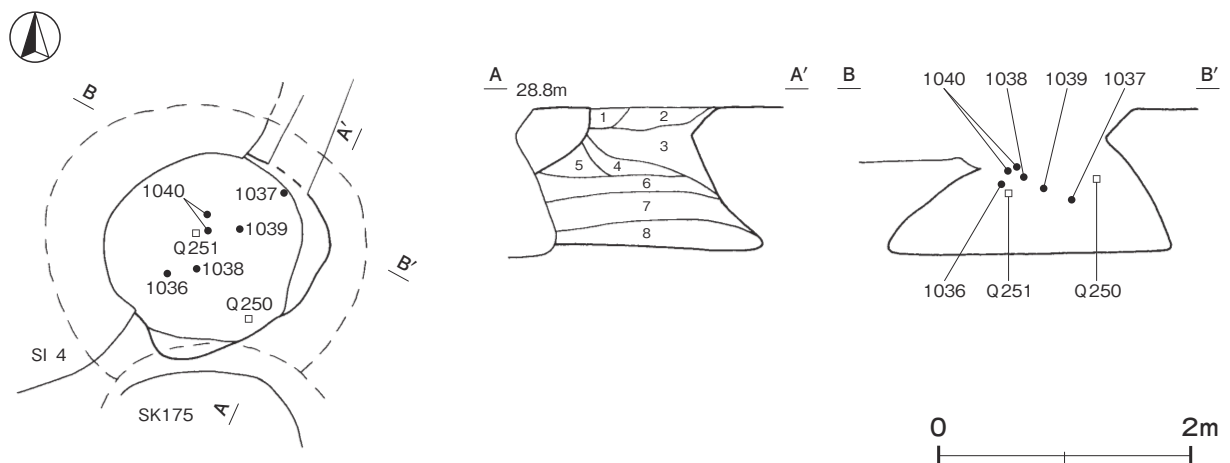
第 354 号土坑（第 378・379 図）

位置 調査区西部中央の C 2d9 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

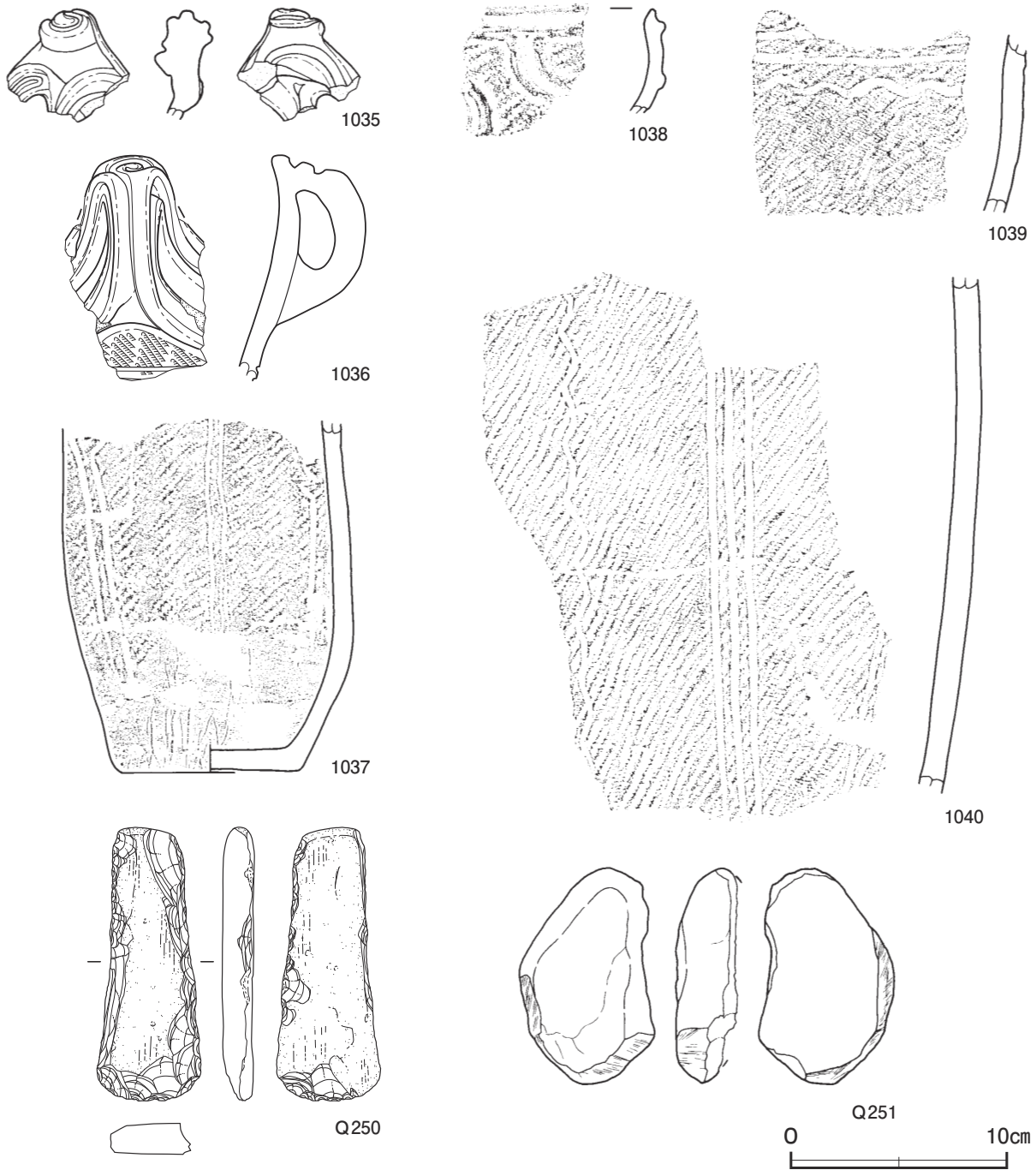
重複関係 第 4 号竪穴建物，第 175 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.73 ～ 1.81 m の円形である。底面は径 2.40 ～ 2.55 m の円形で，平坦である。確認面からの深さは 115cm である。壁は大きく内傾して，袋状を呈している。

覆土 8 層に分層できる。ロームブロック，炭化粒子，焼土粒子が含まれている土層が，水平に堆積していることから，埋め戻されている。



第 378 図 第 354 号土坑実測図



第 379 図 第 354 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 73 点（深鉢 70，浅鉢 3），石器 2 点（打製石斧，敲砥石），剥片 1 点（瑪瑙）が出土している。1036～1040，Q 250・Q 251 は，覆土中層からまとめて出土している。ある程度埋め戻された段階で，一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 354 号土坑出土遺物観察表 (第 379 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1035	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	中空の把手。頂部に渦巻文。外・内面とも沈線による文様描画	覆土中	
1036	縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	中空の把手。把手に沿って太沈線による蕨手状文背割れ隆帯による文様描画。把手下部無節縄文 L (縦)	覆土中層	PL139
1037	縄文土器	深鉢	-	(16.3)	8.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の並行沈線が垂下。下部横方向の磨き	覆土中層	30%
1038	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 口縁上部に沈線が一巡。隆帯による文様描画。口唇内側外削き	覆土中層	
1039	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に 0 段多条縄文 RL (縦) 横位の並行沈線と蛇行沈線が一巡	覆土中層	
1040	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に 0 段多条縄文 RL (縦) 3本の並行沈線と 1本の蛇行沈線が垂下。内面縦方向の磨き	覆土中層	PL139

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 250	打製石斧	12.7	4.8	1.5	124.5	石英片岩	撥形 両側縁敲打調整 刃部は表裏を敲打	覆土中層	PL164
Q 251	敲砥石	10.0	6.3	(2.8)	(226.9)	チャート	楕円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中層	PL173

第 355 号土坑 (第 380 ~ 383 図 PL101)

位置 調査区西部中央の C 2 c8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 300 号土坑を掘り込み, 第 4 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.97 m, 短径 1.69 m の楕円形で, 長径方向は N - 33° - W である。底面は径 2.16 ~ 2.23 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 94cm で, 壁は内彎して, 袋状を呈している。

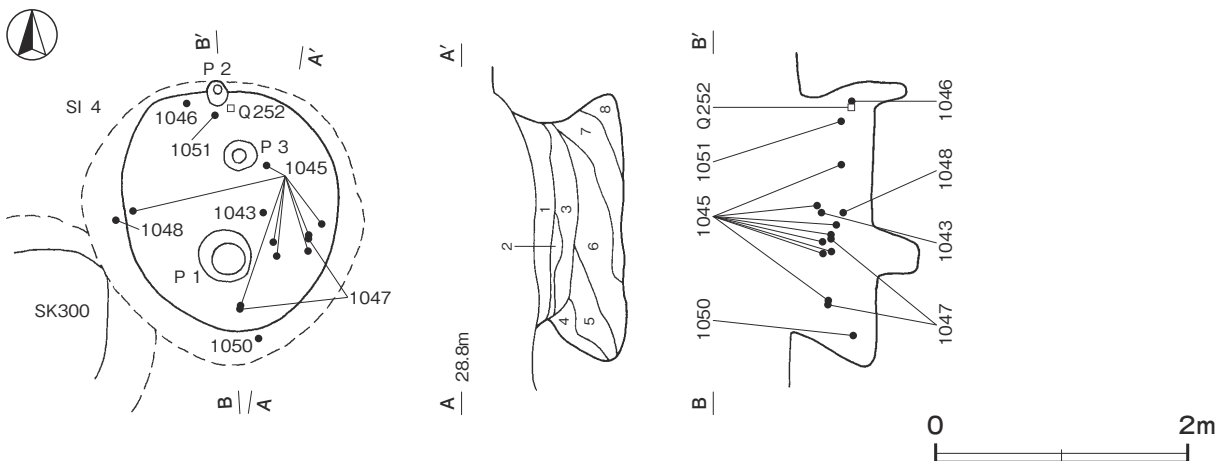
ピット 3 か所。P 1 は径 40cm の円形で, 深さ 36cm, P 2 は径 18cm の円形で, 深さ 30cm, P 3 は径 25cm の円形で, 深さ 8cm である。いずれも形状から柱穴と考えられる。

覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックや炭化粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

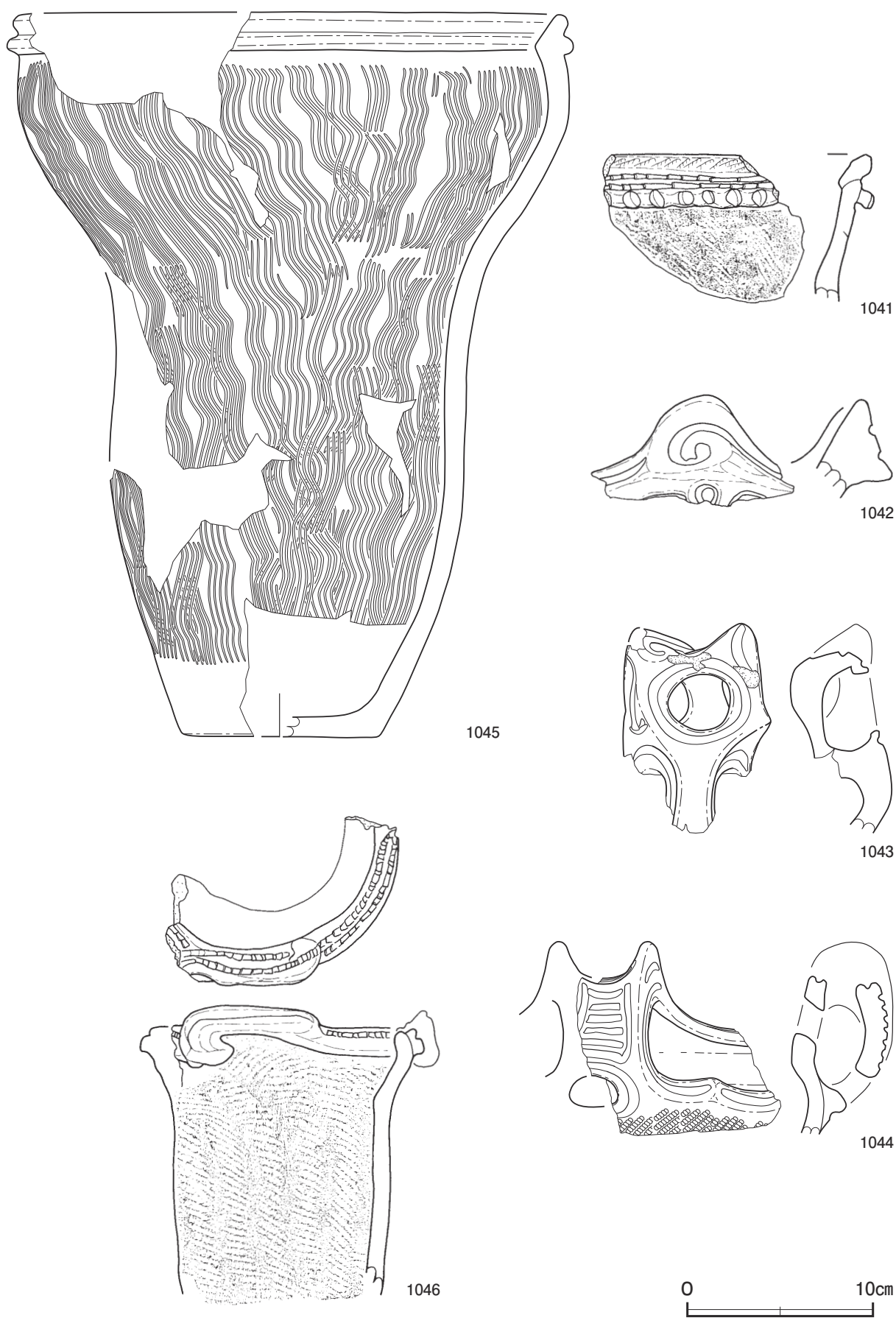
土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量, 炭化物中量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック多量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 74 点 (深鉢 72, 浅鉢 2), 石器 1 点 (打製石斧) が出土している。1046・1050, Q 252 は覆土下層から, 1043・1047・1048・1051 は覆土中層からそれぞれ出土している。1045 は, 南東部の覆土中層を中心に破片が散乱した状態で出土している。埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。



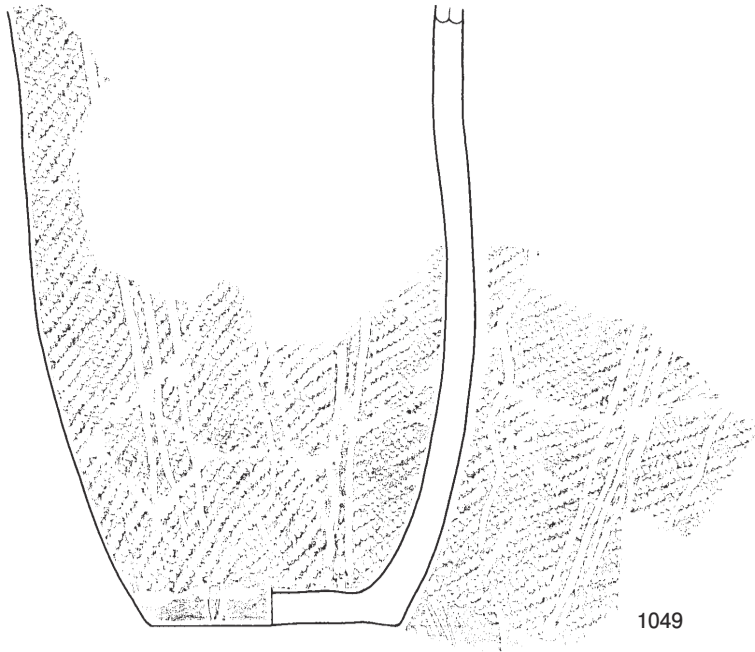
第 380 図 第 355 号土坑実測図



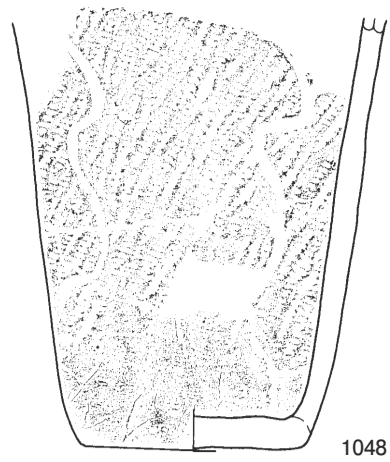
第 381 图 第 355 号土坑出土遗物实测图(1)



1047



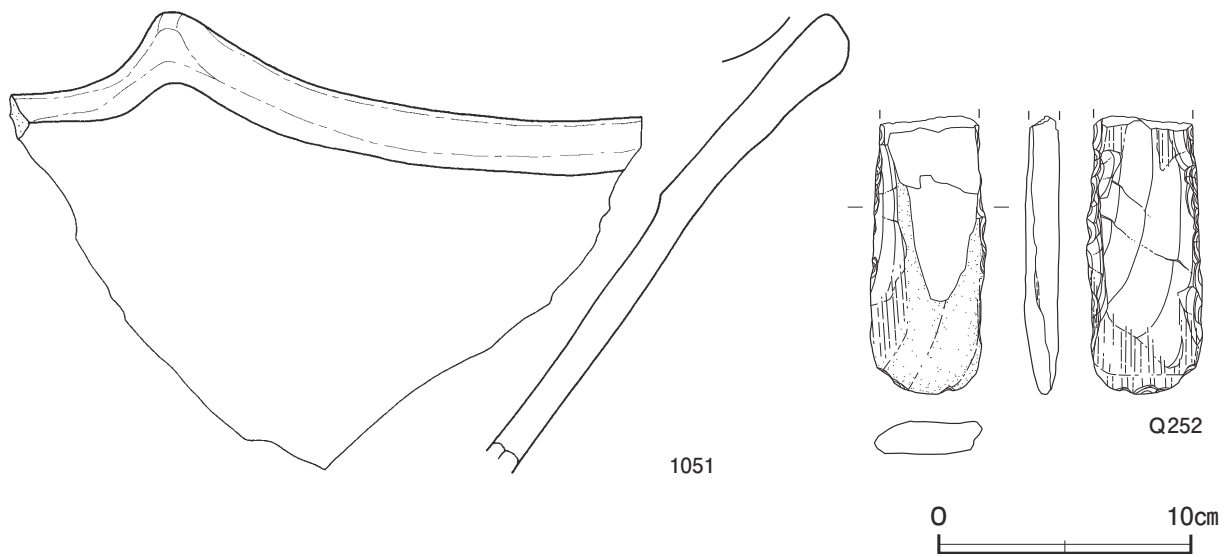
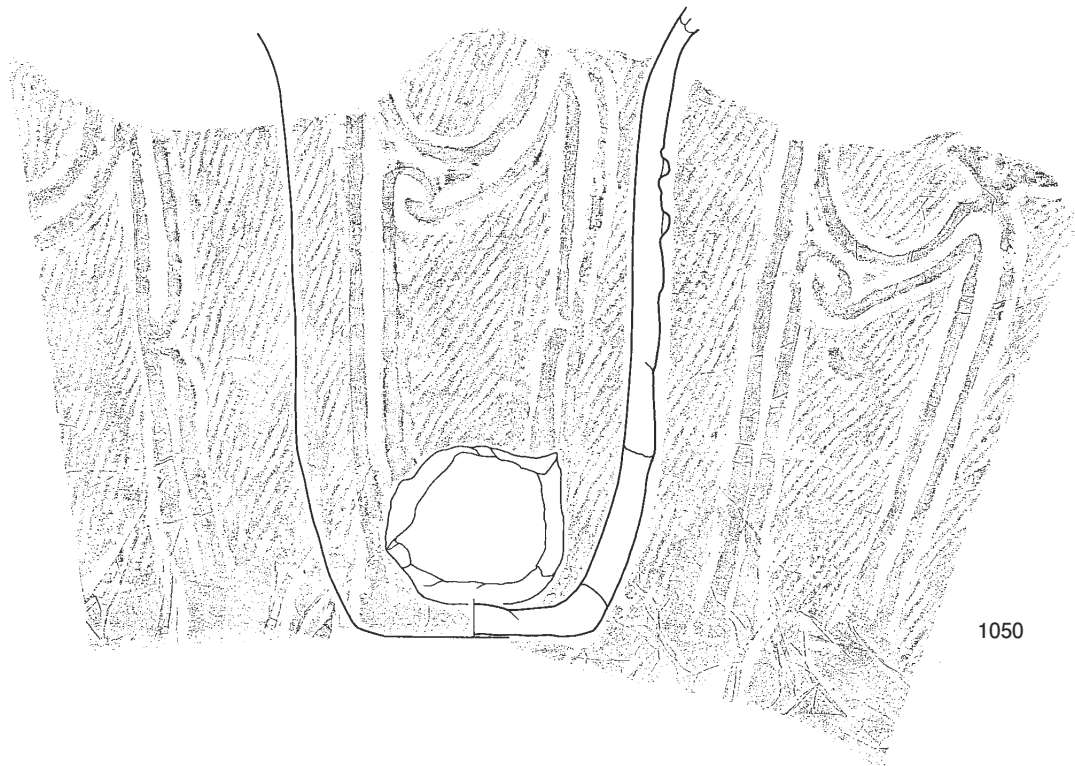
1049



1048



第 382 図 第 355 号土坑出土遺物実測図 (2)



第 383 図 第 355 号土坑出土遺物実測図 (3)

所見 規模と形状から、柱穴と考えられるピットを有する袋状の貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 355 号土坑出土遺物観察表 (第 381 ~ 383 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1041	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	良好	口唇部肥厚 肥厚部に無節縄文L(横)2本の有節沈線が一巡させ刺突隆帯が巡る 胴部は同一原体を間隔を開けて縦施文	覆土中	
1042	縄文土器	浅鉢	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	波頂部に沈線による渦巻文 口唇に沿って太沈線が巡る 外・内面丁寧な磨き	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1043	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	穿孔把手 5か所の穿孔 穿孔に沿って太沈線 穿孔間に麻手状文	覆土中層	PL140
1044	縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母	橙	良好	4か所穿孔の中空把手 穿孔に沿って太沈線 把手中央部横位の沈線 地文に単節縄文RL(縦)	覆土中	PL140
1045	縄文土器	深鉢	[29.5]	39.2	10.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部でくの字状に外反 口縁部内彎 口縁部を隆帯で区画 地文に櫛歯状工具による波状文が垂下	覆土中層	70% PL140
1046	縄文土器	深鉢	[14.2]	(15.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部隆帯貼付による変形横S字状文 口唇頂部及び内面に有筋沈線が巡る 口唇直下から0段多条縄文LR(縦)を間隔を置いて施文	覆土下層	30%
1047	縄文土器	深鉢	26.4	(42.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	3か所穿孔の中空把手 把手に沿って太沈線 把手下部から背割れ隆帯を巡らせ 中間で摘み上げる 地文に単節縄文RL(縦) 蛇行隆帯が巡る	覆土中層	50% PL140
1048	縄文土器	深鉢	-	(17.1)	8.8	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に0段多条縄文RL(縦) 蛇行沈線が垂下 胴部下端横方向の磨き 底面丁寧な磨き	覆土中層	30%
1049	縄文土器	深鉢	-	(24.7)	[9.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に単節縄文RL(縦) を下端部まで施文 3本の並行沈線と蛇行沈線が垂下	覆土中	30% PL140
1050	縄文土器	深鉢	-	(25.1)	9.5	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	にぶい橙	良好	地文に無節縄文R(縦) 2条の蒲鉾状隆帯による縦位の区画文 下端部に径8cmほどの外側からの穿孔	覆土下層	60% PL140
1051	縄文土器	浅鉢	-	(18.3)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	にぶい橙	良好	波状口縁 口縁部外・内面赤彩痕 外・内面ともに丁寧な磨き	覆土中層	20% PL140

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 252	打製石斧	(11.1)	4.6	1.4	(117.2)	角閃岩	撥形 両側縁微細な敲打調整 刃部は片面に自然面を残し、片面を研磨 基部欠損	覆土下層	PL164

第 358 号土坑 (第 384 図)

位置 調査区西部のC 2c8区, 標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号堅穴建物, 第212号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部を第4号堅穴建物に掘り込まれているため, 南北径は0.70 m, 東西径は1.68 mしか確認できなかった。円形または楕円形と考えられ, 長径方向はN - 60° - Wである。底面は平坦で, 深さは50cmである。壁はほぼ直立している。

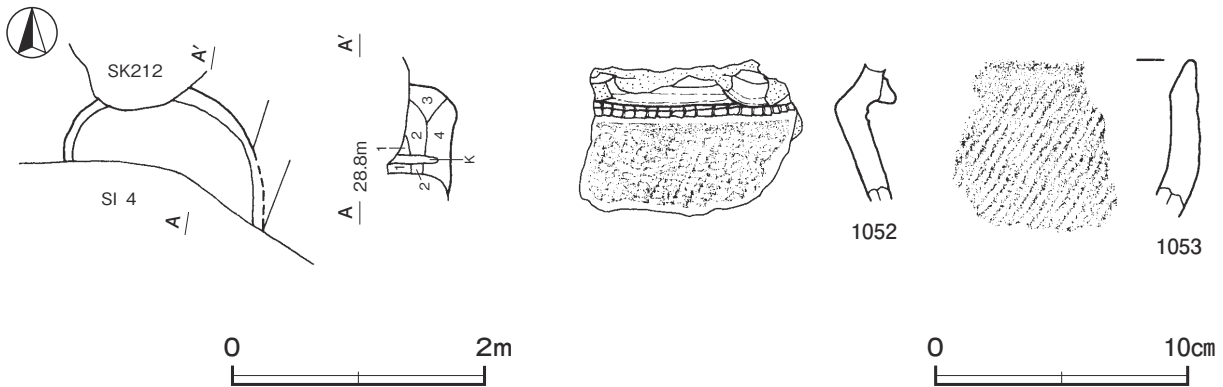
覆土 4層に分層できる。ロームブロック, 炭化粒子, 焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 59点 (深鉢 54, 浅鉢 5), 剥片 1点 (瑪瑙) が, 覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 384 図 第 358 号土坑・出土遺物実測図

第 358 号土坑出土遺物観察表 (第 384 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1052	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母	明褐	良好	頸部くの字状に外反隆帯により文様描画 隆帯下に有節沈線が巡る 地文に単節縄文RL(縦)	覆土中	
1053	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇内側内削ぎ 口唇部横ナデ 地文に単節縄文RL(縦)	覆土中	

第 359 号土坑 (第 385 図 PL55)

位置 調査区西部の C 2 e3 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 302 号土坑を掘り込み, 第 384・399 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 複数の土坑と重複しているため, 東西径は 1.66 m, 南北径は 1.40 m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で, 深さは 38cm である。壁はほぼ直立している。

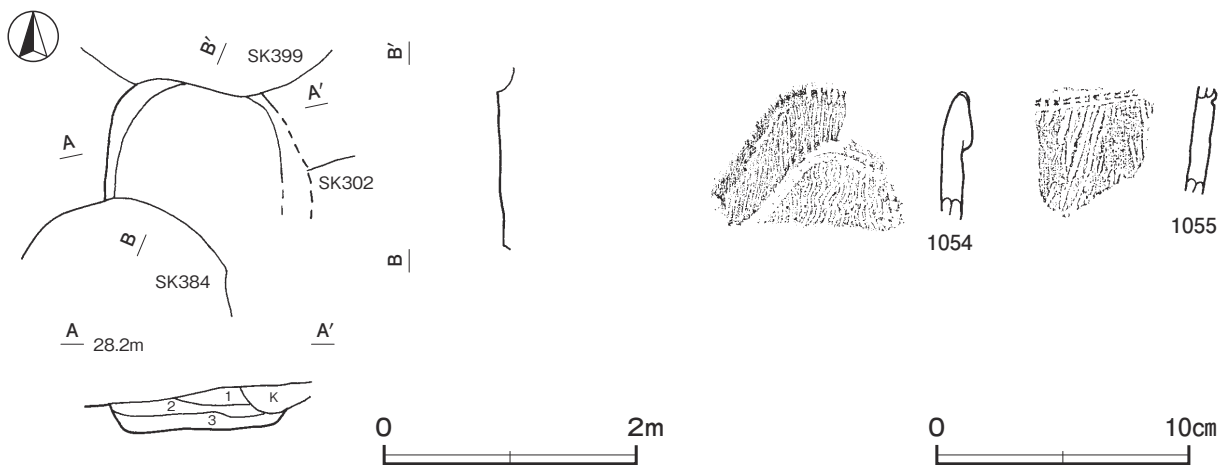
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックや炭化粒子, 焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (深鉢) が出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 385 図 第 359 号土坑・出土遺物実測図

第 359 号土坑出土遺物観察表 (第 385 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1054	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	波状口縁 板状の隆帯貼付 隆帯に沿って有節沈線 隆帯上に縦位の条線文 区画内歯状工具による波状文が垂下	覆土中	
1055	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	有節沈線が一巡 まばらな熱糸文を斜位に施文	覆土中	

第 364 号土坑 (第 386 図 PL62)

位置 調査区北部中央の C 3 c6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径 2.78 m, 短径 1.83 m の楕円形で, 長径方向は N - 32° - W である。底面は長径 2.50 m, 短径 1.84 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 66cm である。壁は東部が内彎して, 袋状を呈し, その他は下部がやや丸みを帯びて直立している。

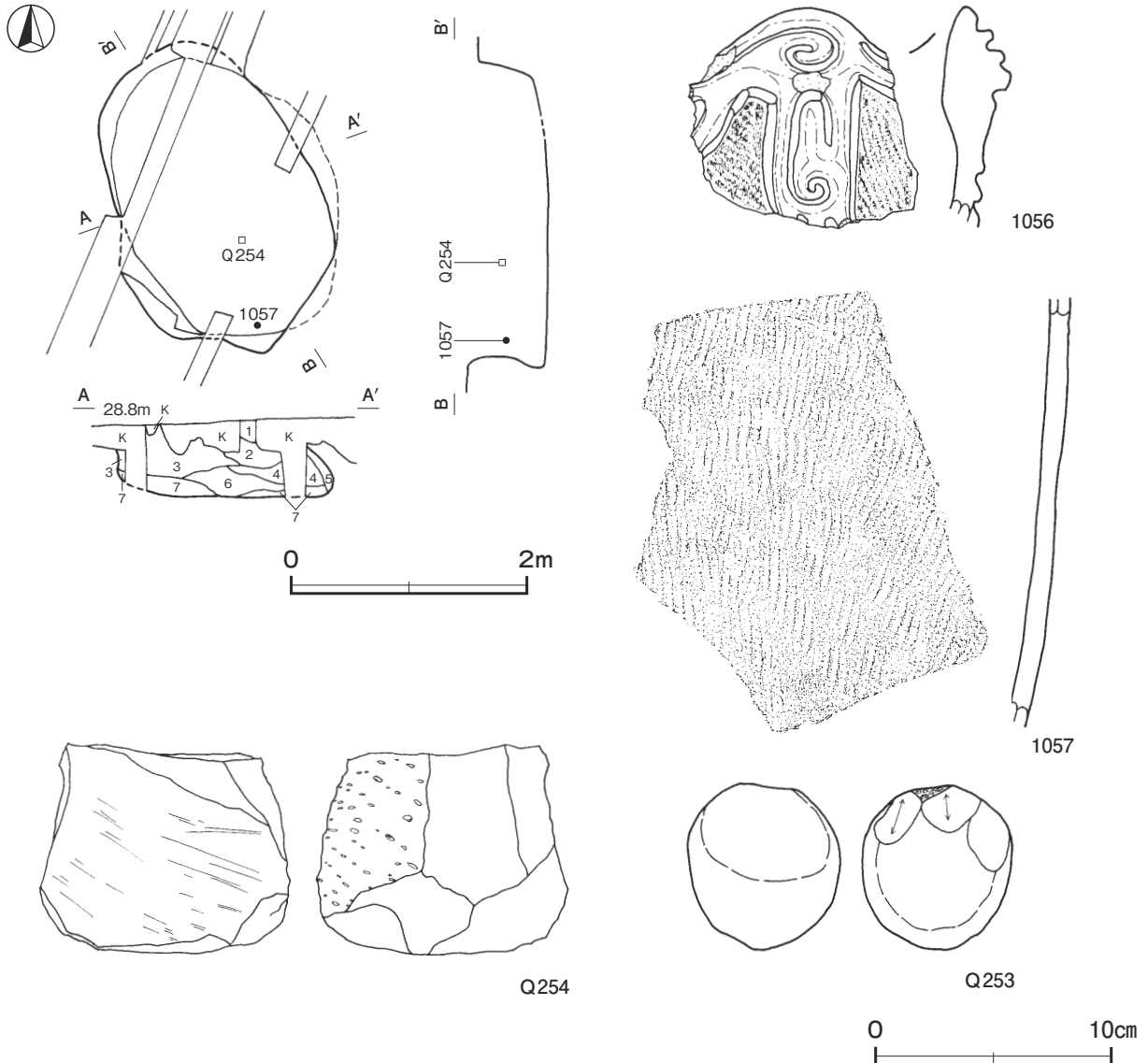
覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量 | 7 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子中量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 126 点 (深鉢 125, 浅鉢 1), 石器 3 点 (磨石, 敲砥石, 砥石), 剥片 2 点 (石英, 泥岩) が出土している。1057, Q 254 は覆土中層, 1056, Q 253 は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。出土土器から中期後葉と考えられる。



第 386 図 第 364 号土坑・出土遺物実測図

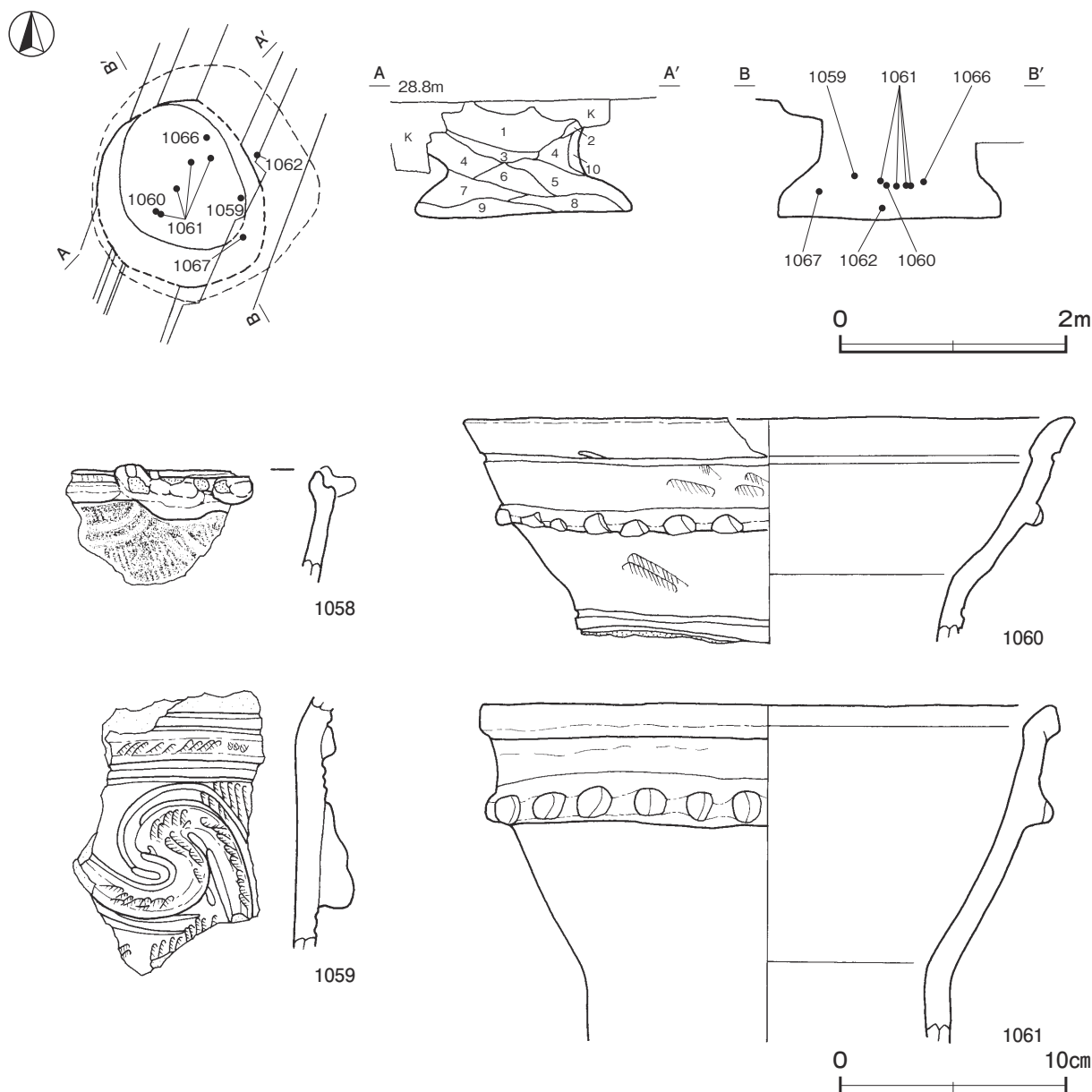
第 364 号土坑出土遺物観察表 (第 386 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1056	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	にぶい黄橙	普通	波頂部に渦巻文 波頂部から垂下する隆帯に縦位の渦巻文 地文に単節縄文LR(縦)	覆土中	
1057	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文RL(斜)を間隔を開けて施文	覆土中層	

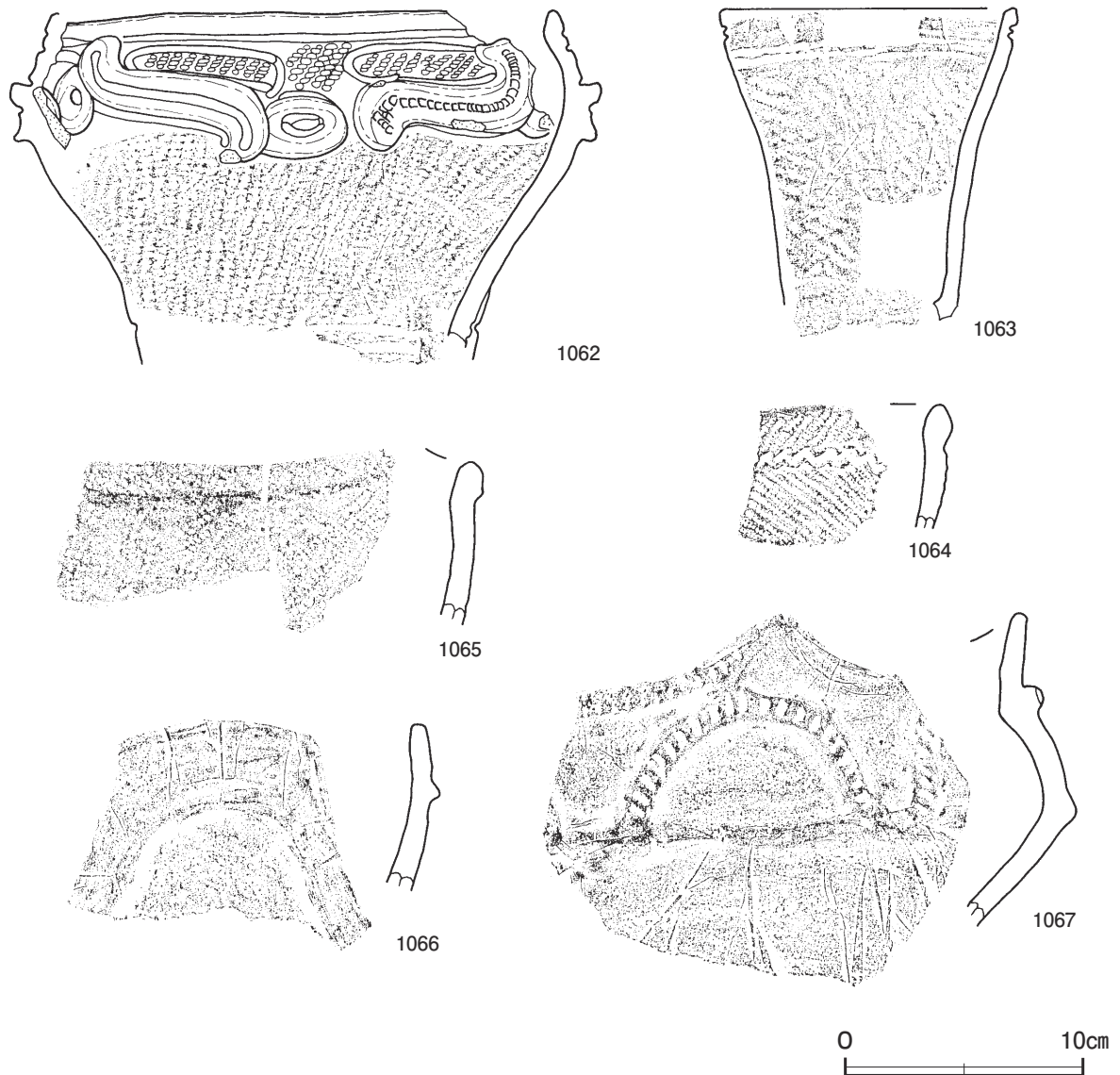
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 253	敲砥石	7.1	6.4	4.8	293.4	石英斑岩	円礫の側縁部に微細な敲打痕・砥面をもつ	覆土中	PL173
Q 254	砥石	(8.9)	(10.7)	(4.9)	(668.0)	安山岩	片面に砥面 片側縁あばた状の敲打痕	覆土中層	

第 366 号土坑 (第 387・388 図 PL63)

位置 調査区北部中央の C 3 c6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 387 図 第 366 号土坑・出土遺物実測図



第 388 図 第 366 号土坑出土遺物実測図

規模と形状 開口部は長径 1.66 m，短径 1.42 m の楕円形で，長径方向は N - 21° - W である。底面は径 2.00 ~ 2.13 m の円形で，平坦である。確認面からの深さは 102cm で，壁は内彎して，袋状を呈している。

覆土 10 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 325 点（深鉢 286，浅鉢 38，コップ形土器 1），石器 1 点（磨石），石核 1 点（チャート），剥片 1 点（チャート）が出土している。1062・1067 は覆土下層から，1059～1061・1066 は第 5・6 層に該当する覆土中層から出土している。いずれも埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 366 号土坑出土遺物観察表 (第 387・388 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1058	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	灰褐	普通	隆帯上突起に指頭による圧痕文 一部に有節沈線 地文に単節縄文 LR (縦) 浅い沈線による 2 条の弧線文	覆土中	
1059	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・赤色粒子	明赤褐	良好	蒲鉾状隆帯により文様描画 隆帯に沿って半截竹管による沈線文 隆帯上・地文に無節縄文 L (横・斜)	覆土中層	
1060	縄文土器	深鉢	[26.8]	(10.0)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部外反 口縁に 1 本の沈線と指頭圧痕の隆帯が一巡 部分的に無節縄文 R (横) 頸部に 2 本の並行沈線が巡る 外面横方向の磨き	覆土中層	20%
1061	縄文土器	深鉢	[25.2]	(15.0)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	無文 口唇部肥厚 幅広の刺突隆帯が一巡 口縁部横方向のナデ 胴部縦方向のナデ	覆土中層	20% PL139
1062	縄文土器	深鉢	[21.0]	(15.0)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰褐	普通	口縁上部沈線が一巡 背割れ隆帯による横 S 字状文 一部 S 字隆帯に有節沈線 S 字隆帯間に楕円文 地文に単節縄文 LR (横) 頸部縦位の隆帯貼付 隆帯間に横位の 3 本の沈線が巡る	覆土下層	25% PL139
1063	縄文土器	コップ形土器	[12.5]	(13.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文 半截竹管による並行沈線が一巡 地文に無節縄文 L (縦)	覆土中	25%
1064	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部肥厚 肥厚部に 0 段多条縄文 LR (横) 波状沈線が一巡 胴部は同一原体による縦施文	覆土中	
1065	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部肥厚 肥厚部に単節縄文 RL (横) 肥厚部下指頭によるナデ 胴部は同一原体による縦施文	覆土中	
1066	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	板状把手 口縁に沿って隆帯貼付 外・内面多方向の磨き	覆土中層	
1067	縄文土器	浅鉢	-	(13.2)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	にぶい黄橙	良好	波状口縁 頂部はやや外反 頸部くの字状に内帯 隆帯を一巡させ 口縁部半円状の刺突隆帯 外・内面横方向のナデ	覆土下層	10% PL139

第 367 号土坑 (第 389 図 PL62)

位置 調査区北部中央の C 3 c6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.64 ~ 1.70 m のほぼ円形である。底面は平坦で, 深さは 68cm である。壁は, ほぼ直立している。

覆土 7 層に分層できる。ロームブロック, 炭化粒子, 焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

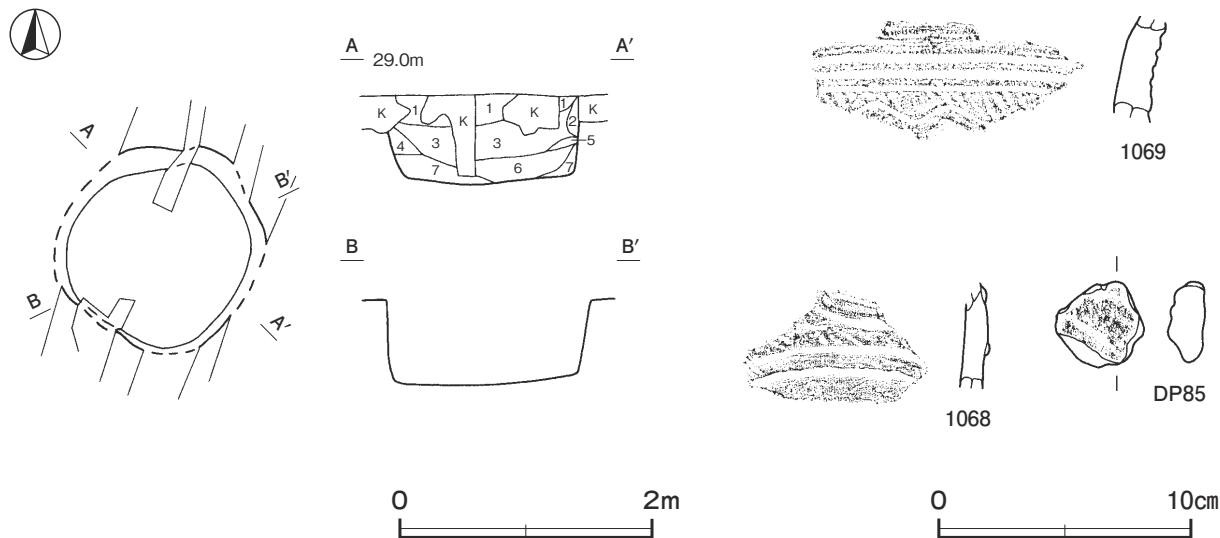
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 34 点 (深鉢), 土製品 1 点 (土器片錘), 石製品 1 点 (石棒) が出土している。

1068・1069, DP85 は覆土中から出土しており, いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 389 図 第 367 号土坑・出土遺物実測図

第 367 号土坑出土遺物観察表 (第 389 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1068	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・黒色粒子	にぶい褐	普通	地文に単節縄文LR(縦)隆帯による文様描画	覆土中	
1069	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	地文に無節縄文L(縦)半截竹管による4本の 並行沈線と蛇行沈線が一巡	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP85	土器片錘	3.4	3.5	1.4	15.0	長石・石英	灰褐	胴部片 両端部にキザミ目	覆土中	

第 368 号土坑 (第 390 ~ 392 図 PL63)

位置 調査区中央部の C 3 f4 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径 1.65 m, 短径 1.41 m の楕円形で, 長径方向は N - 50° - E である。底面は径 1.75 ~ 1.87 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 67cm で, 壁は内彎して, 袋状を呈している。

ピット 南東壁際に位置し, 径 30cm の円形で, 深さは 20cm である。補助的な貯蔵施設と考えられる。

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

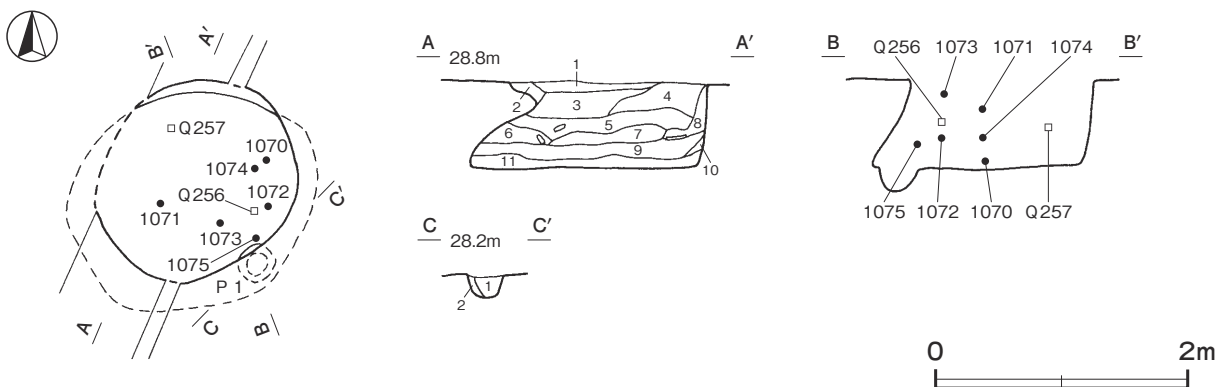
覆土 11 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

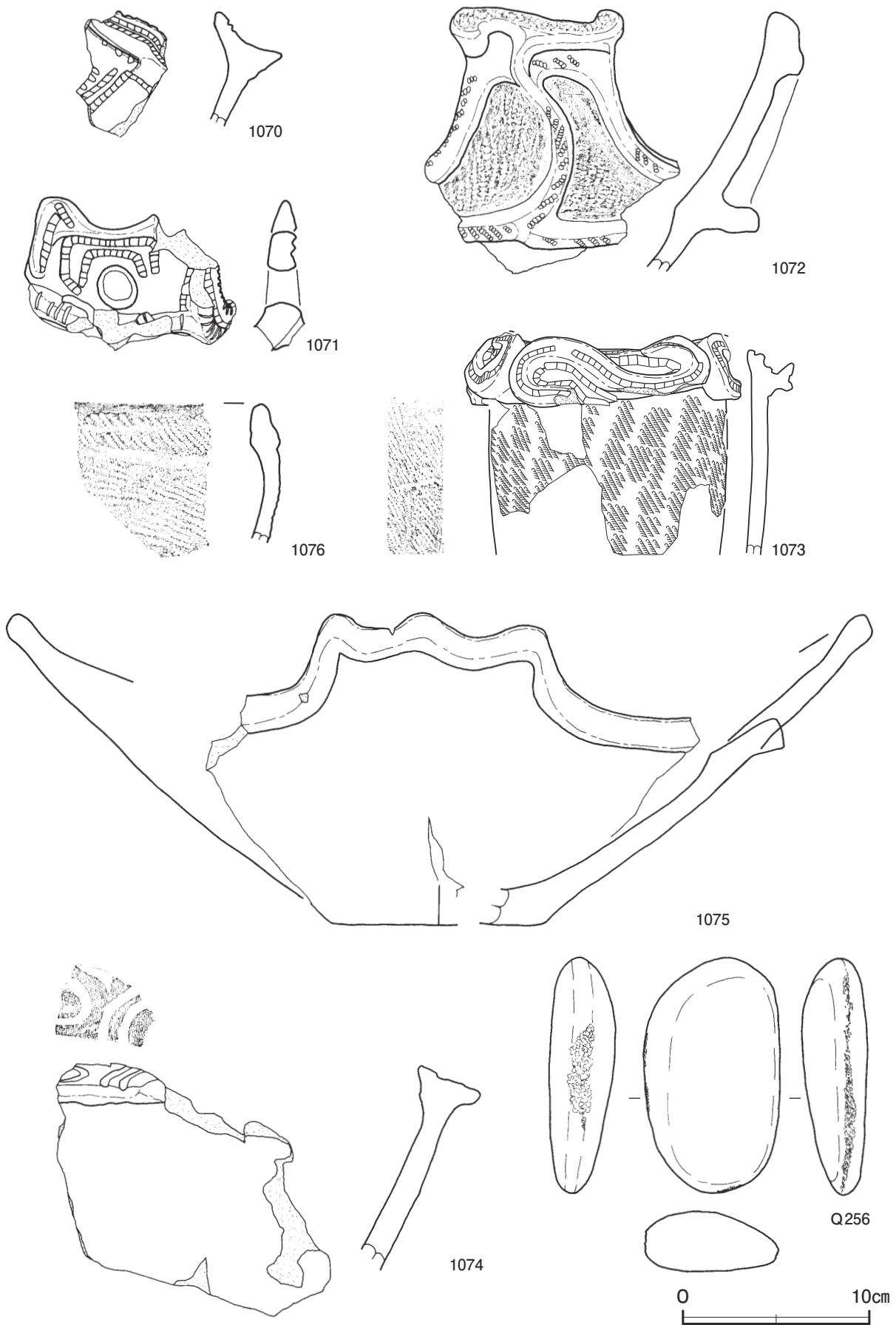
- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量
- 8 黒褐色 ロームブロック中量
- 9 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 10 黒褐色 ローム粒子微量
- 11 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 92 点 (深鉢 89, 浅鉢 3), 石器 3 点 (磨製石斧未成品 1, 砥石 2), 石製品 1 点 (石剣), 加工痕のある剥片 1 点 (瑪瑙), 剥片 2 点 (石英) が出土している。1070 は北東部の底面から, 1072・1074・1075, Q 256・Q 257 は覆土中層から, 1071・1073 は覆土上層から出土している。いずれも埋め戻す過程で放棄されたものと考えられる。

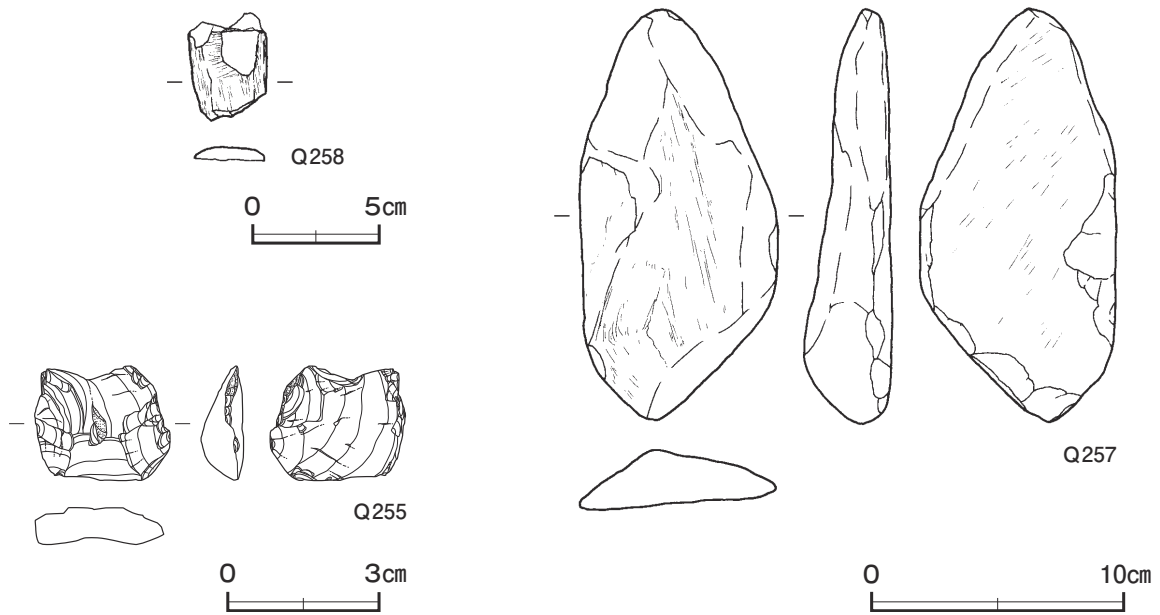
所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 390 図 第 368 号土坑実測図



第 391 图 第 368 号土坑出土遗物实测图(1)



第 392 図 第 368 号土坑出土遺物実測図 (2)

第 368 号土坑出土遺物観察表 (第 391・392 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1070	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	扇状の把手 2本の有節沈線を巡らす 把手周縁刺突文	底面	
1071	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	中空の把手 蒲鉾状隆帯にキザミ目 隆帯に沿って1~2本の有節沈線	覆土上層	
1072	縄文土器	深鉢	-	(13.8)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	大型板状把手 把手頂部は横S字状 鱗状隆帯による文様描画 隆帯に沿って指頭によるナデ 把手頂部・区画内単節縄文RL(縦・斜)	覆土中層	PL141
1073	縄文土器	深鉢	[13.6]	(11.9)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口唇頂部に沈線が一巡 横S字状文が巡る隆帯中央及び隆帯に沿って有節沈線を施文 地文に無節縄文L(縦)	覆土上層	20% PL141
1074	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇頂部に太沈線による楕円文・弧線文 外面斜・横方向のナデ 内面横方向の磨き	覆土中層	
1075	縄文土器	浅鉢	[45.6]	16.7	[11.4]	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	にぶい褐	良好	内側に段 波状口縁 波頂部山形 口唇部断面三角形の隆帯貼付 外面横方向の磨き 内面横方向のナデ 口唇部外・内面に赤彩痕	覆土中層	30% PL141
1076	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部肥厚 肥厚部に単節縄文RL(横) 肥厚部下に沈線が一巡 胴部同一原体(縦)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 255	加工痕のある剥片	2.3	2.8	0.9	5.4	瑪瑙	横長の剥片を用いて片側縁押圧剥離	覆土中	
Q 256	磨製石斧未成品	12.7	7.3	3.5	476.9	石英斑岩	両側縁に微細な敲打痕	覆土中層	PL171 被熱
Q 257	砥石	16.3	7.8	3.4	411.9	砂岩	表面に曲面的、裏面及び側縁部に平坦な砥面	覆土中層	
Q 258	石剣	(4.3)	(3.1)	(0.5)	(9.0)	泥岩	縦位の研磨痕 全周欠損	覆土中	

第 369 号土坑 (第 393 図 PL63)

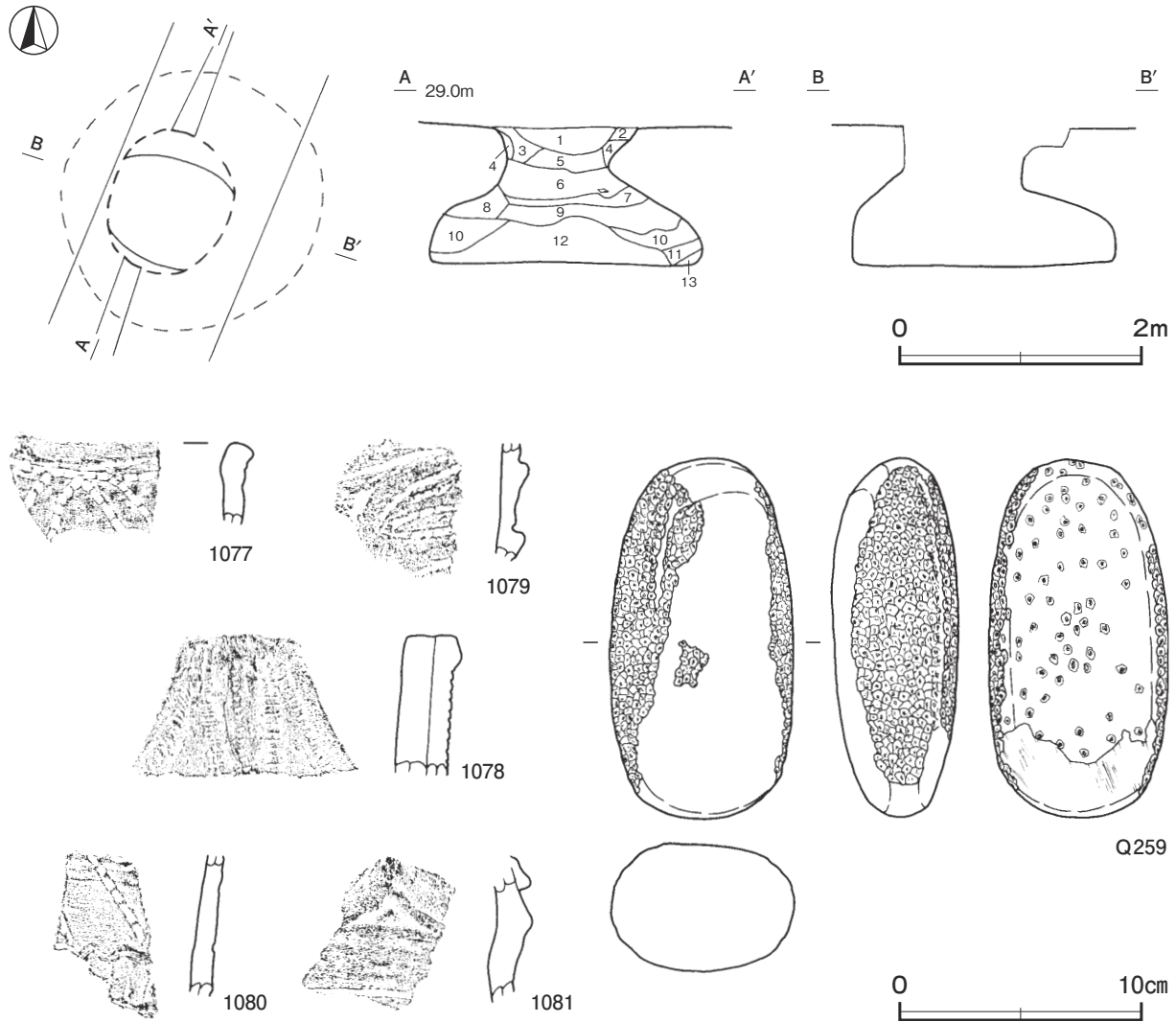
位置 調査区北部中央のC 3 d6 区、標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径 1.18 m、短径 0.98 mの楕円形と推定でき、長径方向はN - 21° - Wである。底面は径 2.15 mほどの円形で、平坦である。確認面からの深さは 114cmである。壁は内彎して、袋状を呈している。

覆土 13層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |



第393図 第369号土坑・出土遺物実測図

- | | | | | | |
|----|-----|-----------|----|--------|-----------|
| 9 | 黒色 | ローム粒子少量 | 12 | にぶい黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 10 | 褐色 | ロームブロック少量 | 13 | 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 11 | 黒褐色 | ロームブロック少量 | | | |

遺物出土状況 縄文土器片 72点（深鉢），石器 2点（磨製石斧未成品，磨石），石核 1点（瑪瑙），剥片 2点（ホルンフェルス，瑪瑙）が出土している。1077～1081，Q 259 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期前葉と考えられる。

第369号土坑出土遺物観察表（第393図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1077	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部肥厚 頂部平坦 有節沈線による横線・弧線文	覆土中	
1078	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	良好	板状把手 把手中央から隆帯が垂下 端部肥厚 隆帯上及び隆帯に沿って爪形文	覆土中	
1079	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	褐	普通	蒲葺状隆帯による横位の楕円区画 区画内有節沈線	覆土中	
1080	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	2本の波状沈線を巡らせ沈線間に幅広の爪形文 斜位の有節沈線	覆土中	
1081	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯により文様描画 横位の沈線が一巡 外・内面横方向のナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 259	磨製石斧 未成品	15.0	7.2	5.3	950.4	安山岩	表裏に研磨痕 両側縁に微細な敲打痕	覆土中	PL171 磨石・ 凹石の再利用

第 370 号土坑 (第 394 図 PL64)

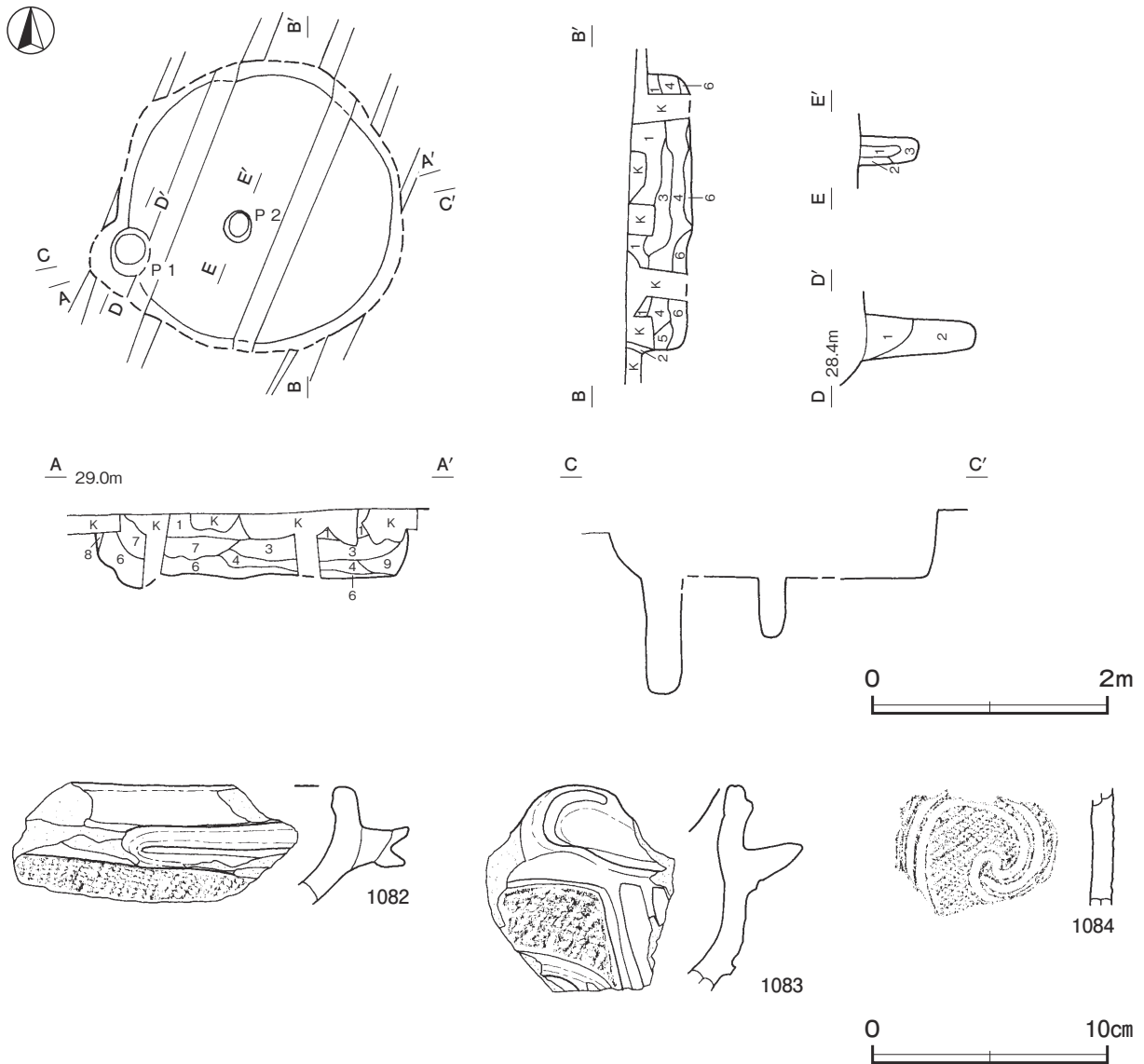
位置 調査区北部中央の C 3 e6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 2.50 m ほどの円形である。底面は平坦で, 深さは 60cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 2 か所。P 1 は南西側の壁面に位置し, 径 23cm の円形で, 深さは 100cm である。P 2 はほぼ中央に位置し, 径 20cm の円形で, 深さ 50cm である。規模と形状からいずれも柱穴と考えられる。第 1 ~ 3 層は, 柱抜き取り後の埋土である。

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量



第 394 図 第 370 号土坑・出土遺物実測図

覆土 9層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 200点（深鉢 198, 浅鉢 2）、石器 1点（砥石）、剥片 2点（瑪瑙, チャート）が出土している。1082～1084は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 370 号土坑出土遺物観察表（第 394 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1082	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	洋襟状口縁 庇状の隆帯による突起 隆帯中央部に太沈線を巡らす 地文に単節縄文LR（横）	覆土中	
1083	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・赤色粒子	橙	良好	波状口縁 口唇頂部指頭による凹みが巡る 波頂部に太沈線によるC字状文 隆帯による文様区画 隆帯に沿って沈線 区画内単節縄文RL（縦）	覆土中	
1084	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	地文に複節縄文RLR（縦）2本の並行沈線による渦巻文	覆土中	

第 371 号土坑（第 395・396 図 PL64）

位置 調査区中央部の C 3 e5 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 414 号土坑に掘り込まれている。

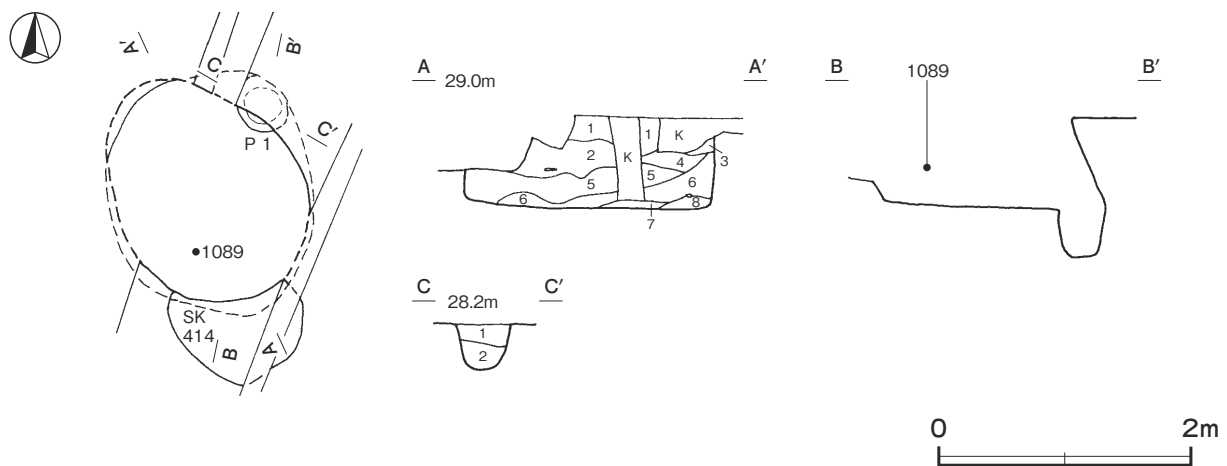
規模と形状 開口部は長径 1.89 m, 短径 1.46 m の楕円形で、長径方向は N - 28° - W である。底面は長径 1.94 m, 短径 1.63 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 72cm で、壁は内傾して、袋状を呈している。

ピット 北壁際に位置し、径 40cm の円形で、深さ 40cm である。規模と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

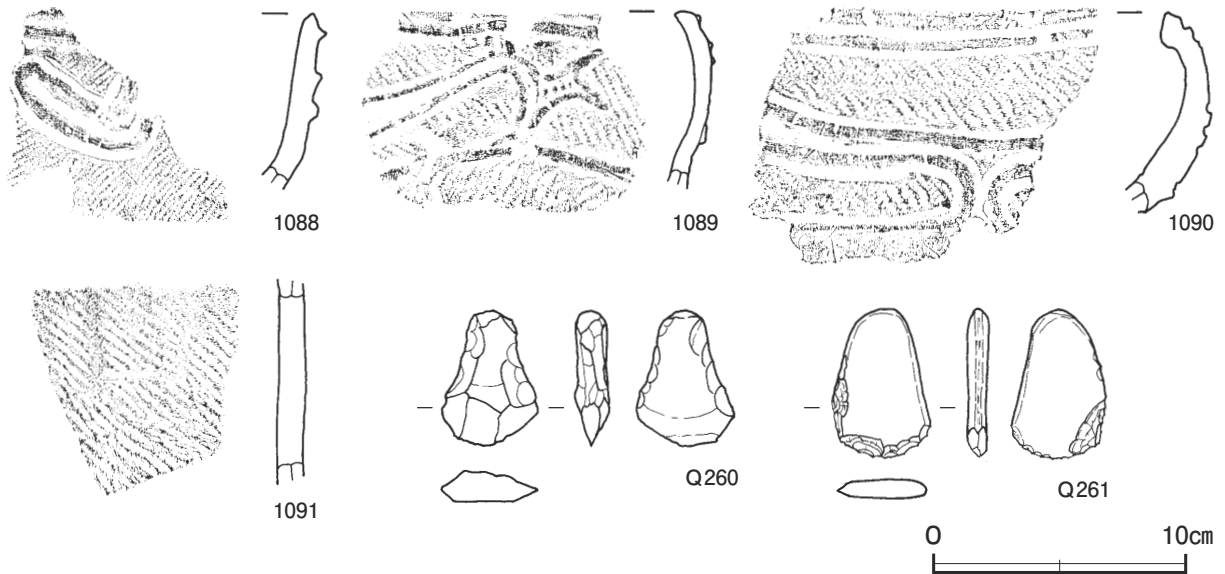
ピット土層解説

- | | | | |
|----------|--------------|---------|--------------|
| 1 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 2 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
|----------|--------------|---------|--------------|

覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第 395 図 第 371 号土坑実測図



第 396 図 第 371 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 328 点（深鉢 327, 浅鉢 1）, 石器 2 点（打製石斧, 磨製石斧）, 石核 1 点（瑪瑙）, 剥片 2 点（瑪瑙, チャート）が出土している。1089 は覆土中層から, 1088・1090・1091, Q 260・Q 261 は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 371 号土坑出土遺物観察表（第 396 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1088	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	灰褐	普通	地文に単節縄文 RL（縦）を間隔を開けて施文背割れ隆帯による文様描画 内面横方向の磨き	覆土中	
1089	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	地文に無節縄文 L（縦）細隆帯による区画文・横 S 字状文 一部に剣先文	覆土中層	
1090	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口縁上部に半載竹管による並行沈線が一巡 地文に単節縄文 RL（横）隆帯による楕円区画	覆土中	
1091	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に無節縄文 L（縦）	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 260	打製石斧	5.4	3.9	1.4	27.8	黒色安山岩	撥形 側縁部表裏より敲打 刃部は片面を敲打	覆土中	PL164 旧石器
Q 261	磨製石斧	5.9	3.8	0.9	28.0	角閃岩	小型 扁平な自然礫の片端部敲打調整 周縁部研磨 刃部欠損	覆土中	PL169

第 377 号土坑（第 397 図 PL64）

位置 調査区北部中央の C 3 d8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.43 ~ 1.50 m の不整円形と推定できる。底面は皿状で, 深さ 31cm である。壁は北西部がほぼ直立しており, 南東部が階段状に立ち上がっている。

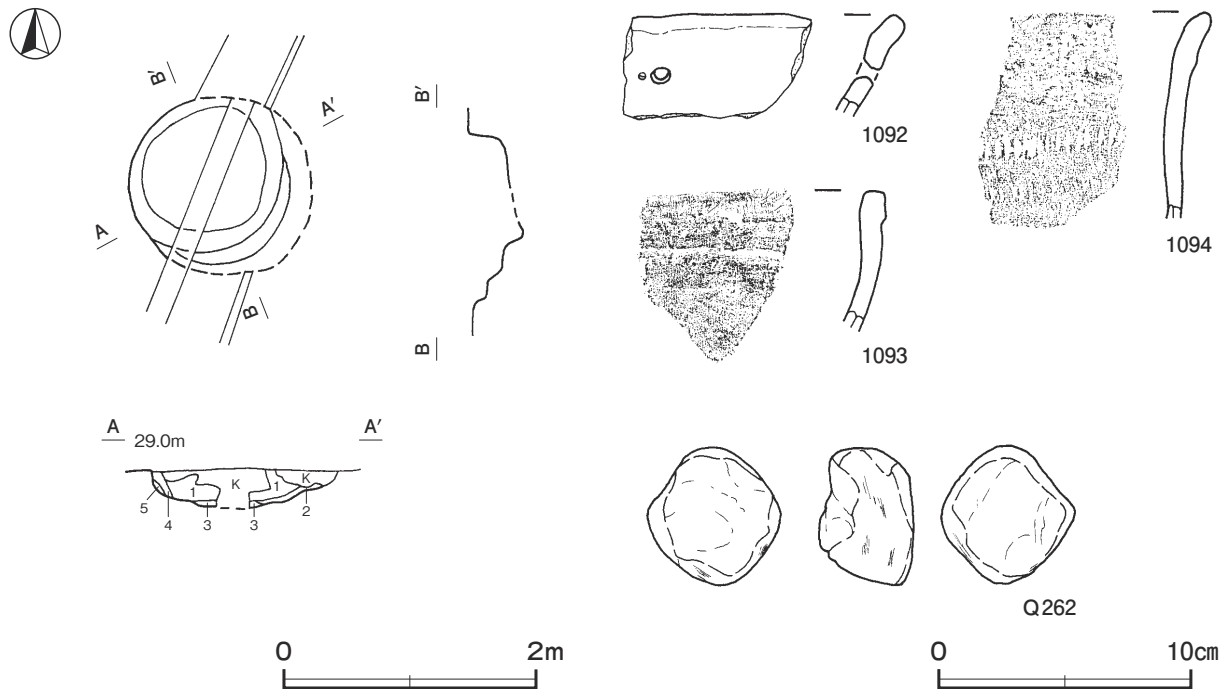
覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 104 点 (深鉢 103, 浅鉢 1), 石器 2 点 (スクレイパー, 敲砥石), 石核 1 点 (石英), 剥片 1 点 (瑪瑙) が出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 397 図 第 377 号土坑・出土遺物実測図

第 377 号土坑出土遺物観察表 (第 397 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1092	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	口縁内側に段外・内面横方向の磨き 2か所の補修孔あり	覆土中	
1093	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	暗褐	普通	口唇部薄い板状の隆帯貼付 口唇部角頭状 外・内面横方向の磨き	覆土中	
1094	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	口唇部外反 2条の爪形文が巡る	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 262	敲砥石	5.5	5.3	3.8	1325	チャート	円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	PL173

第 379 号土坑 (第 398 図)

位置 調査区北部中央の C 3c7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 412 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.58 m, 短径 1.30 m の楕円形で, 長径方向は N - 45° - E である。底面は平坦である。深さは 37cm で, 壁は外傾している。

ピット 2か所。P 1は南西壁際に位置し、長径 35cm、短径 22cmの楕円形で、深さは 20cmである。P 2は中央部に位置し、径 30cmの円形で、深さは 18cmである。いずれも位置と形状から柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量 | 2 暗褐色 ロームブロック微量 |
|----------------------|-----------------|

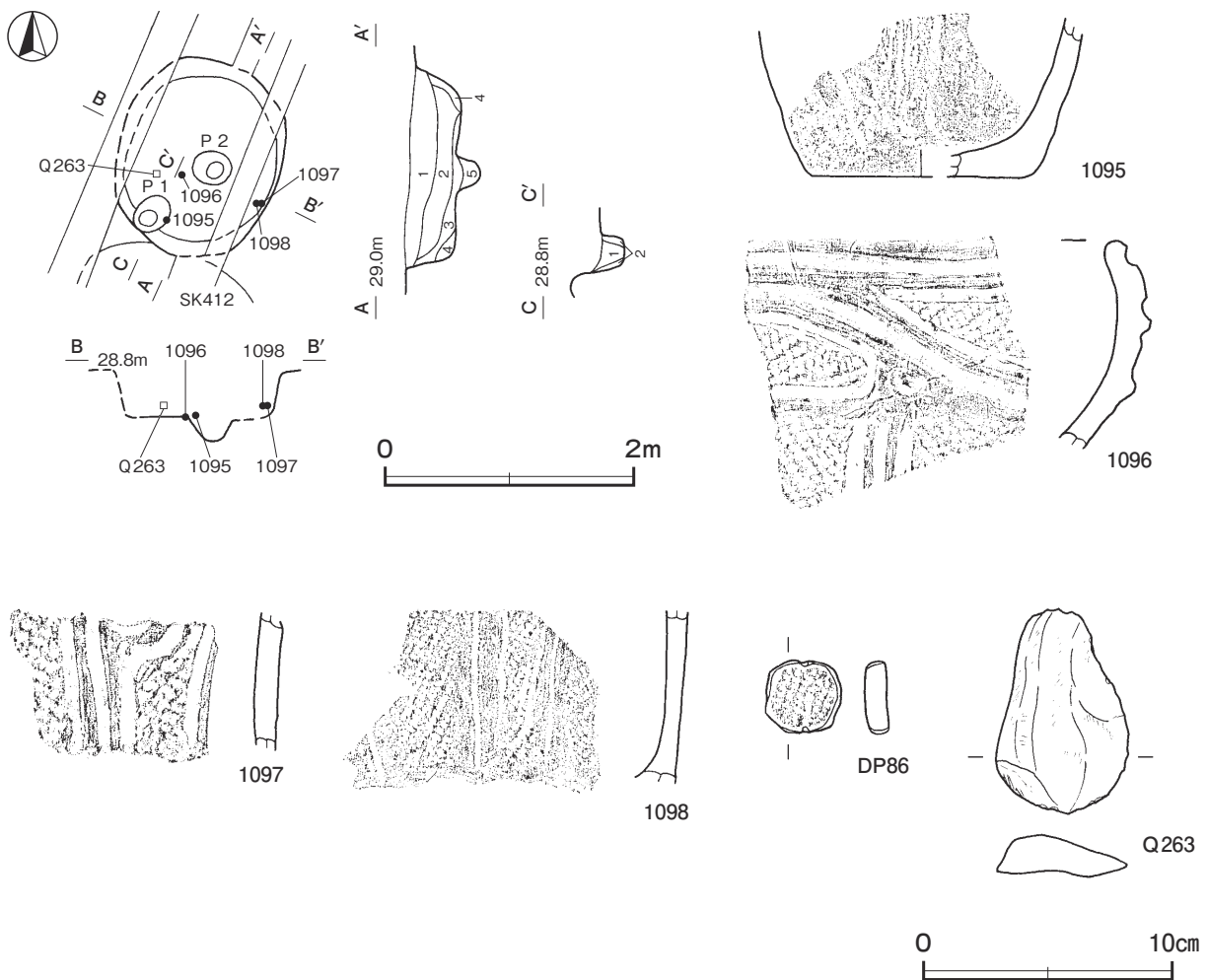
覆土 4層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積と考えられる。第5層は、P 2の覆土である。

土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子多量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 144点(深鉢 139, 浅鉢 5), 土製品 1点(土器片錘), 石器 1点(砥石), 石核 1点(瑪瑙), 剥片 2点(石英, 頁岩)が出土している。1095・1096は底面, 1097・1098, Q 263は覆土下層, DP86は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる



第 398 図 第 379 号土坑・出土遺物実測図

第 379 号土坑出土遺物観察表 (第 398 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1095	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	[8.6]	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	縦位の燃糸文 下部横方向のナデ 底面丁寧な磨き	底面	10%
1096	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部太沈線が一巡 隆帯による区画文 区画内単節縄文 LR (横) 胴部は同一原体による縦施文 3本の沈線を垂下 沈線間磨消	底面	
1097	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 3本の沈線を垂下 沈線間磨消	覆土下層	
1098	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の浅い沈線を垂下 沈線間磨消	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP86	土器片錘	2.9	3.1	0.9	11.3	長石・石英・雲母	褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 263	砥石	8.3	5.4	1.6	71.5	砂岩	片面に自然面 多方向からの砥面をもつ 部分的に曲面状の砥面	覆土下層	

第 380 号土坑 (第 399 図 PL65)

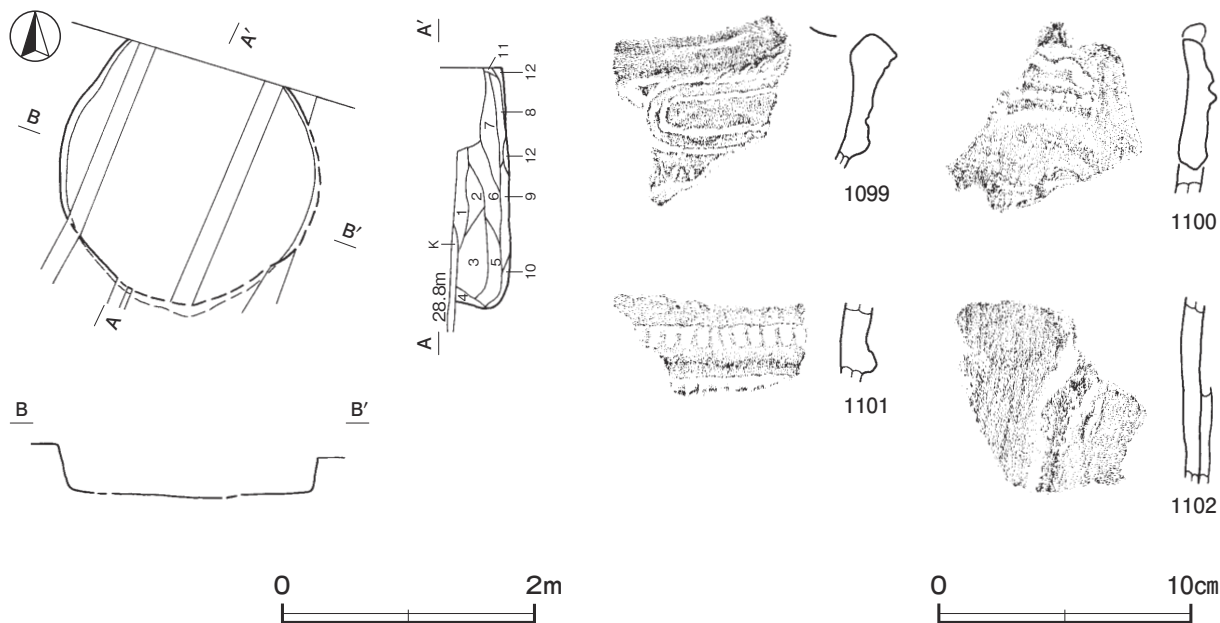
位置 調査区北部中央の C 3c0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているが、開口部は径 2.08 ~ 2.20 m の円形と推定できる。底面は、径 1.96 ~ 2.08 m の円形と推定でき、平坦である。確認面からの深さは 43cm で、南壁はやや内彎して、袋状を呈し、その他はほぼ直立している。

覆土 12 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量 | 11 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子多量 | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |



第 399 図 第 380 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 134 点（深鉢 133, 浅鉢 1）, 石器 2 点（敲石, 砥石）, 石核 1 点（瑪瑙）が出土している。1099～1102 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

第 380 号土坑出土遺物観察表（第 399 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1099	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	黒褐	普通	波状口縁 内側に段 口唇部断面三角形の隆帯が巡る 隆帯上にキザミ目 楕円区画内 2本の有節沈線	覆土中	
1100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	暗褐	普通	板状把手 頂部に凹み 中央部に 2か所の円形穿孔 隆帯上に有節沈線	覆土中	
1101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	灰褐	普通	蒲葺状隆帯が一巡 隆帯に沿って幅広の有節沈線	覆土中	
1102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	蒲葺状の蛇行隆帯が垂下 外面縦方向のナデ	覆土中	

第 383 号土坑（第 400 図）

位置 調査区北西部の C 2 a5 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号堅穴建物跡を掘り込み, 第 395 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.82～1.94 m のほぼ円形である。底面は平坦で, 深さは 68cm である。壁はほぼ直立している。

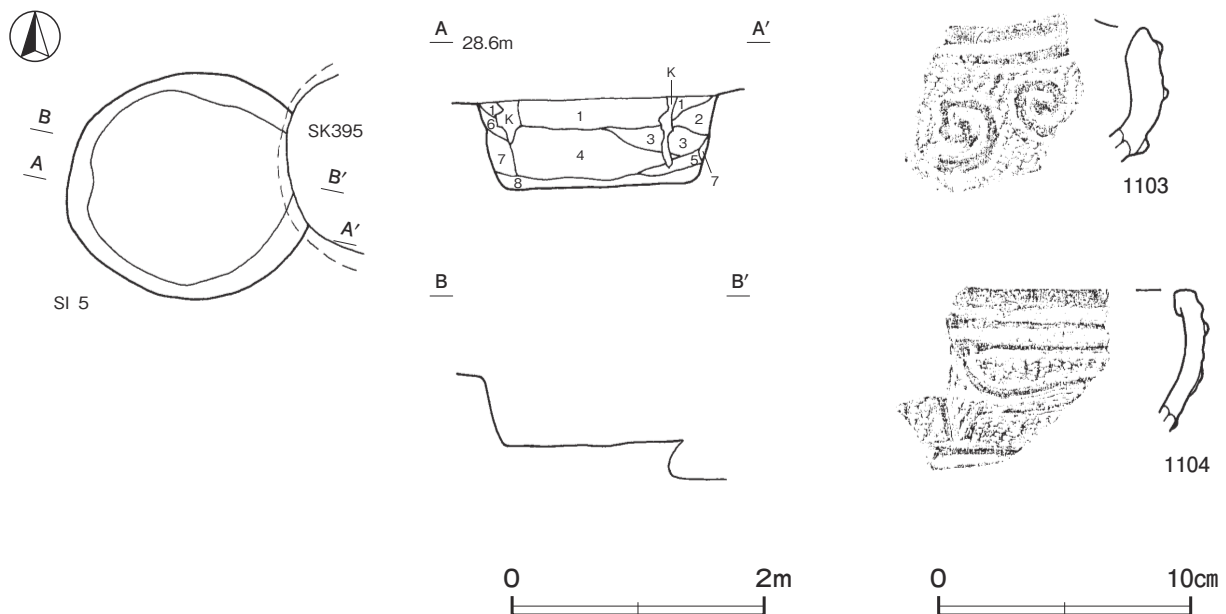
覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており, 不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 75 点（深鉢 72, 浅鉢 3）, 剥片 1 点（瑪瑙）が出土している。1103・1104 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 400 図 第 383 号土坑・出土遺物実測図

第 383 号土坑出土遺物観察表 (第 400 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細糠	にぶい橙	普通	口縁上部に隆帯が一巡。地文に単節縄文 RL (縦) 隆帯による渦巻文貼付	覆土中	
1104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇内側に粘土貼付による段。地文に単節縄文 RL (縦) 2 条の隆帯により文様描画	覆土中	

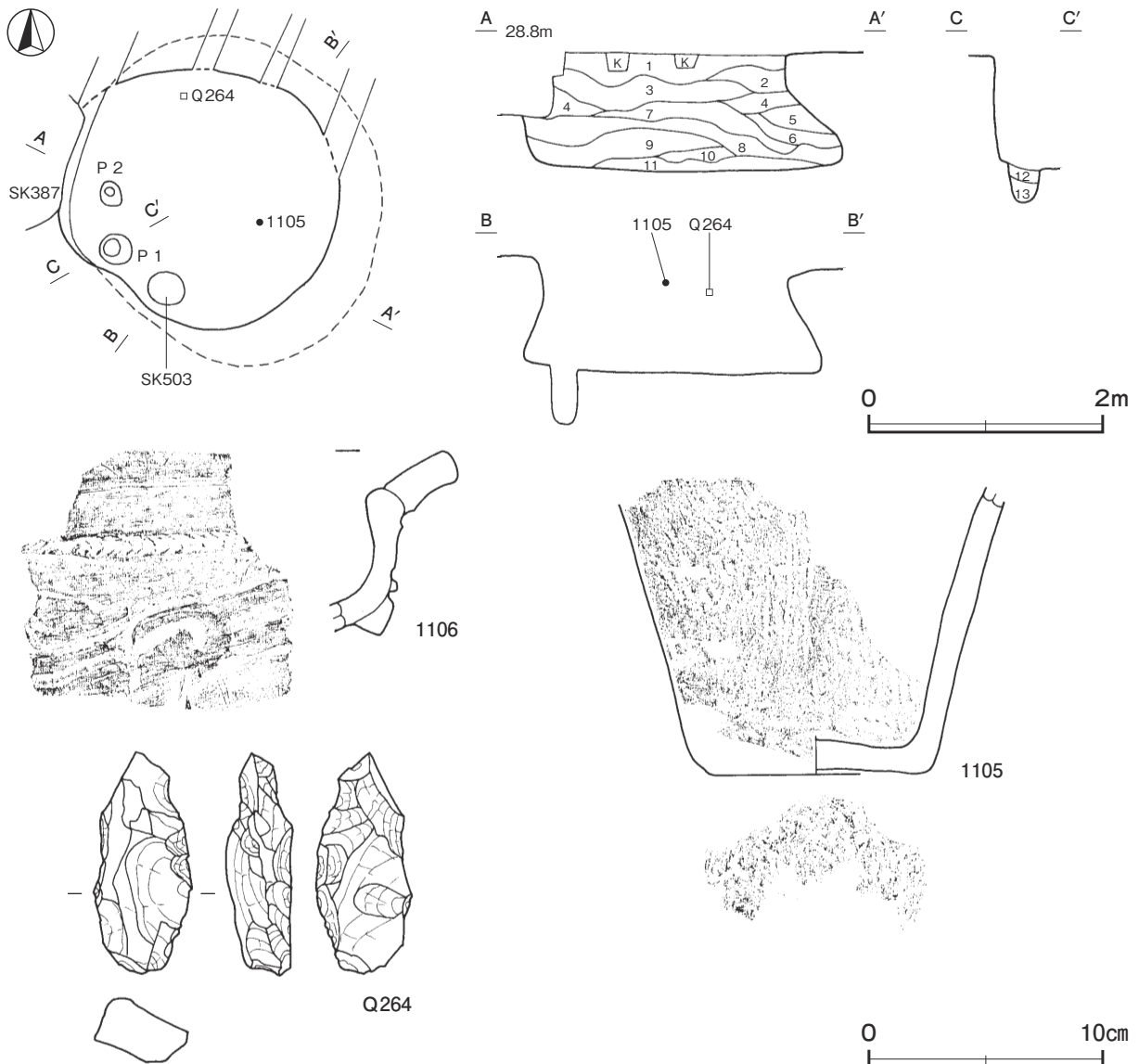
第 386 号土坑 (第 401 図)

位置 調査区西部の C 2 d0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 387・503 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.43 m、短径 2.15 m の楕円形で、長径方向は N - 63° - W である。底面は径 2.50 ~ 2.65 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 98 cm で、壁は内彎して、袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1 は、南西部に位置し、径 30 cm の円形で、深さ 30 cm である。位置と形状から柱穴と考えられる。P 2 は西部に位置し、径 20 cm の円形で、浅い凹み状を呈している。性格は不明である。



第 401 図 第 386 号土坑・出土遺物実測図

覆土 11層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第12・13層は、P1の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9	褐色	ロームブロック多量
3	黒褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	10	黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	11	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	12	褐色	ローム粒子中量
6	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量	13	褐色	ローム粒子多量
7	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片 231点 (深鉢 230, 浅鉢 1), 石器 1点 (打製石斧), 石核 1点 (粘板岩), 剥片 2点 (石英, チャート) が出土している。1105, Q 264 は覆土上層から, 1106 は覆土中から出土している。ある程度埋め戻された段階で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 柱穴と考えられるピットを有する袋状の貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 386 号土坑出土遺物観察表 (第 401 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1105	縄文土器	深鉢	-	(12.3)	9.5	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に無節縄文L (斜・縦) 下端部横方向のナデ	覆土上層	20%
1106	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	黒褐	普通	口縁部くの字状に外反 外反部ベン先状の突起が一巡 幅広の隆帯貼付 隆帯に沈線で渦巻文 外面横方向の磨き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 264	石核	9.5	4.2	2.9	108.4	粘板岩	周縁部を敲打	覆土上層	未成品 ₉

第 387 号土坑 (第 402・403 図)

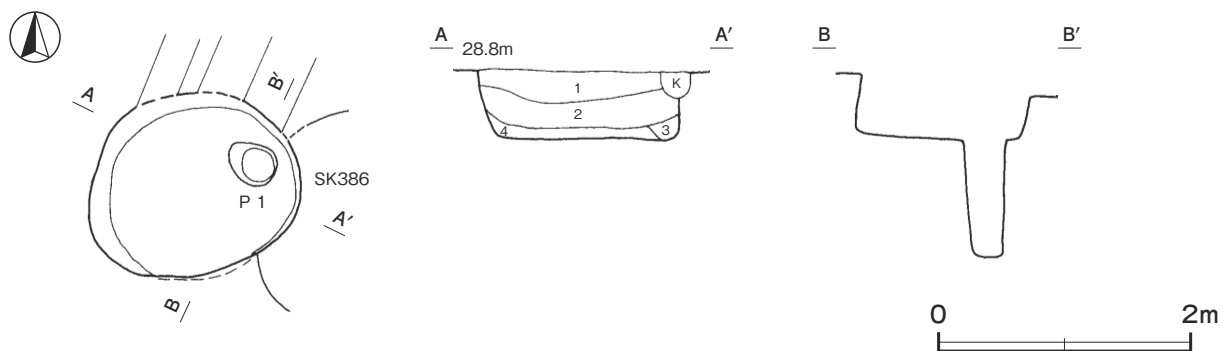
位置 調査区西部の C 2 d9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 386 号土坑を掘り込んでいる。

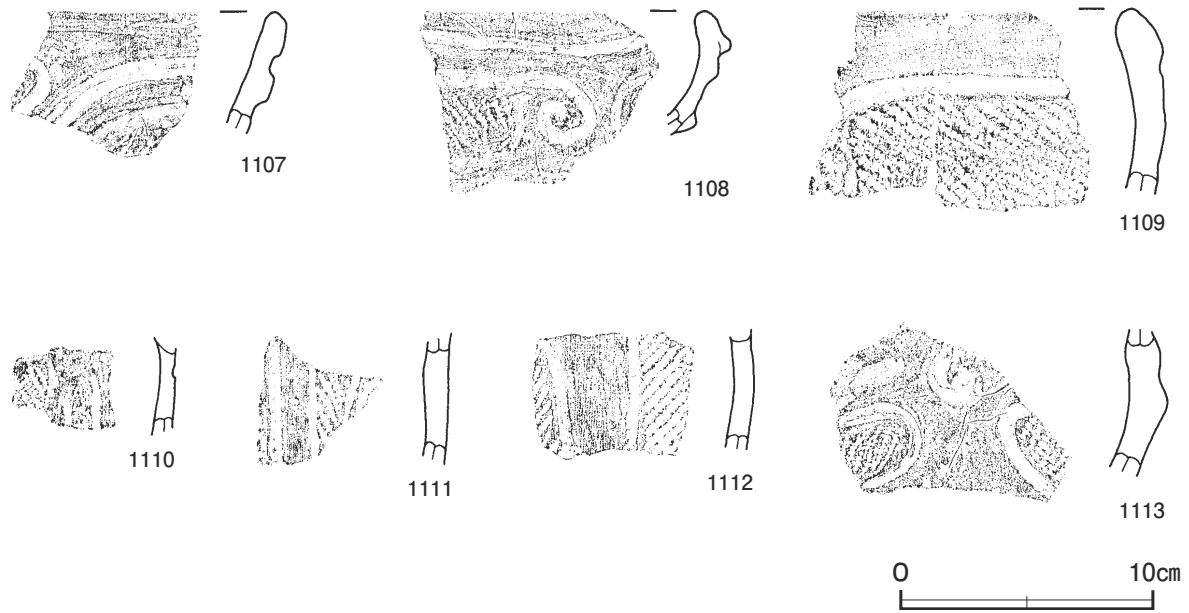
規模と形状 開口部は長径 1.66 m, 短径 1.44 m の楕円形で, 長径方向は N - 62° - E である。底面は平坦で, 深さは 52cm である。壁は南部がやや内傾しており, その他はほぼ直立している。

ピット 北東壁寄りに位置し, 径 30cm の円形で, 深さ 95cm である。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。



第 402 図 第 387 号土坑実測図



第 403 図 第 387 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 67 点 (深鉢), 石器 1 点 (磨製石斧) が出土している。1107 ~ 1113 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 387 号土坑出土遺物観察表 (第 403 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
1107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	極太の沈線により文様描画	覆土中	
1108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部内彎 頂部に沈線が一巡 沈線による渦巻文 区内単節縄文 LR (縦)	覆土中	
1109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	良好	口唇部肥厚 肥厚部無文 地文に単節縄文 RL (横) 太沈線による楕円区画	覆土中	
1110	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 沈線による縦位の楕円区画 区画外磨消	覆土中	
1111	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・雲母	にぶい橙	良好	地文に単節縄文 LR (縦) 2本の並行沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
1112	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	良好	地文に単節縄文 RL (縦) 間隔を開けた沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
1113	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	波状口縁 太沈線による渦巻文・楕円区画 区内単節縄文 RL (縦)	覆土中	

第 388 号土坑 (第 404 図)

位置 調査区西部の C 2 c0 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

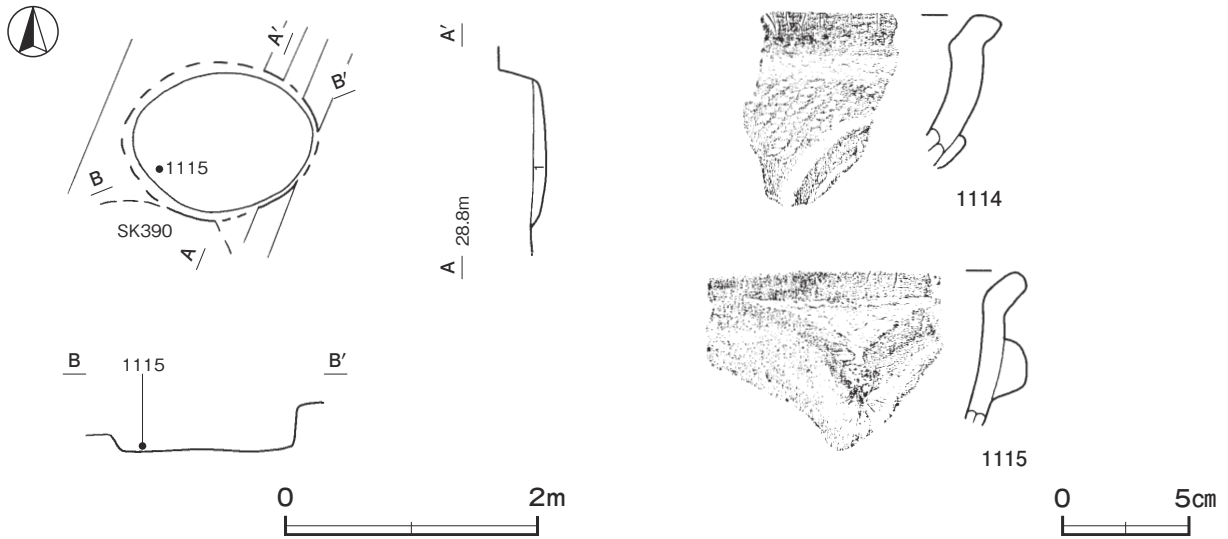
重複関係 第 390 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.55 m, 短径 1.26 m の楕円形で, 長径方向は N - 74° - E である。底面はほぼ平坦で, 深さは 35cm である。壁はほぼ直立している。

覆土 層厚が薄いため, 堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量



第 404 図 第 388 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 7 点（深鉢），剥片 1 点（粘板岩）が出土している。1115 は南西部の底面，1114 は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 388 号土坑出土遺物観察表（第 404 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1114	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	口唇部内削ぎ 頂部は平坦 地文に単節縄文 RL (縦) 隆帯貼付により文様描画	覆土中	
1115	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	無文貼付 口唇部くの字状に外反 隆帯をV字状に	底面	

第 390 号土坑（第 405 図 PL65）

位置 調査区西部の C 2d9 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 389 号土坑を掘り込み，第 388 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.63 ~ 1.75 m のほぼ円形で，底面は皿状である。深さは 32cm で，壁はほぼ直立している。

ピット 2 か所。P 1 は長径 40cm，短径 32cm の楕円形で，深さ 114cm である。規模と配置から柱穴と考えられる。

P 2 は長径 70cm，短径 58cm の楕円形で，深さ 50cm である。補助的な貯蔵施設と考えられる。

P 1 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

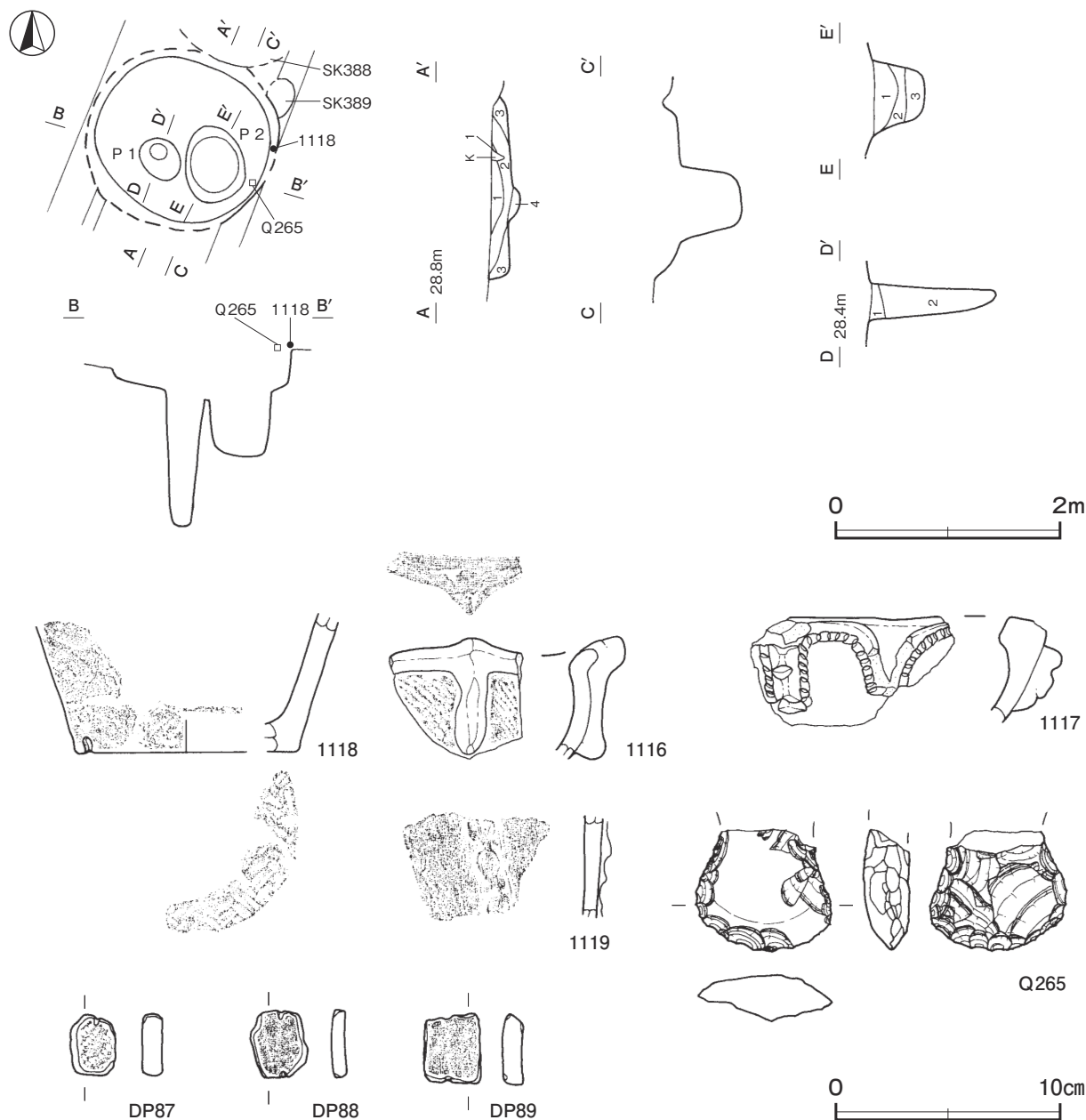
P 2 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

覆土 4 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量



第405図 第390号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 131点（深鉢 127，浅鉢 4），土製品 3点（土器片錘），石器 3点（打製石斧，磨石，敲石），石核 1点（瑪瑙）が出土している。1118，Q 265 は覆土上層から，1116・1117・1119，DP87～DP89 は覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期前葉と考えられる。

第390号土坑出土遺物観察表（第405図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい赤褐	良好	口唇部に突起 頂部から両端を摘み上げた隆帯が垂下 地文に無節縄文L（縦）内面横方向の磨き	覆土中	
1117	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部平坦 縦長の断面三角形の摘み状隆帯貼付 隆帯による半楕円区画 隆帯に沿って有節沈線を施文	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1118	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	[10.0]	長石・石英	明赤褐	普通	無文 外・内面横方向のナデ 底部網代痕	覆土上層	
1119	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・黒色粒子	黒褐	普通	無文 隆帯が垂下 隆帯上に指頭による圧痕文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP87	土器片鏟	2.7	2.0	0.9	7.1	長石・石英・雲母・ 細礫	褐灰色	胴部片 一端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	未成品 _ナ
DP88	土器片鏟	3.0	2.6	0.6	5.5	雲母	にぶい赤褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部粗雑に研磨	覆土中	
DP89	土器片鏟	3.1	2.6	0.9	9.7	長石・雲母	灰褐	胴部片 両端に浅いキザミ目	覆土中	未成品 _ナ

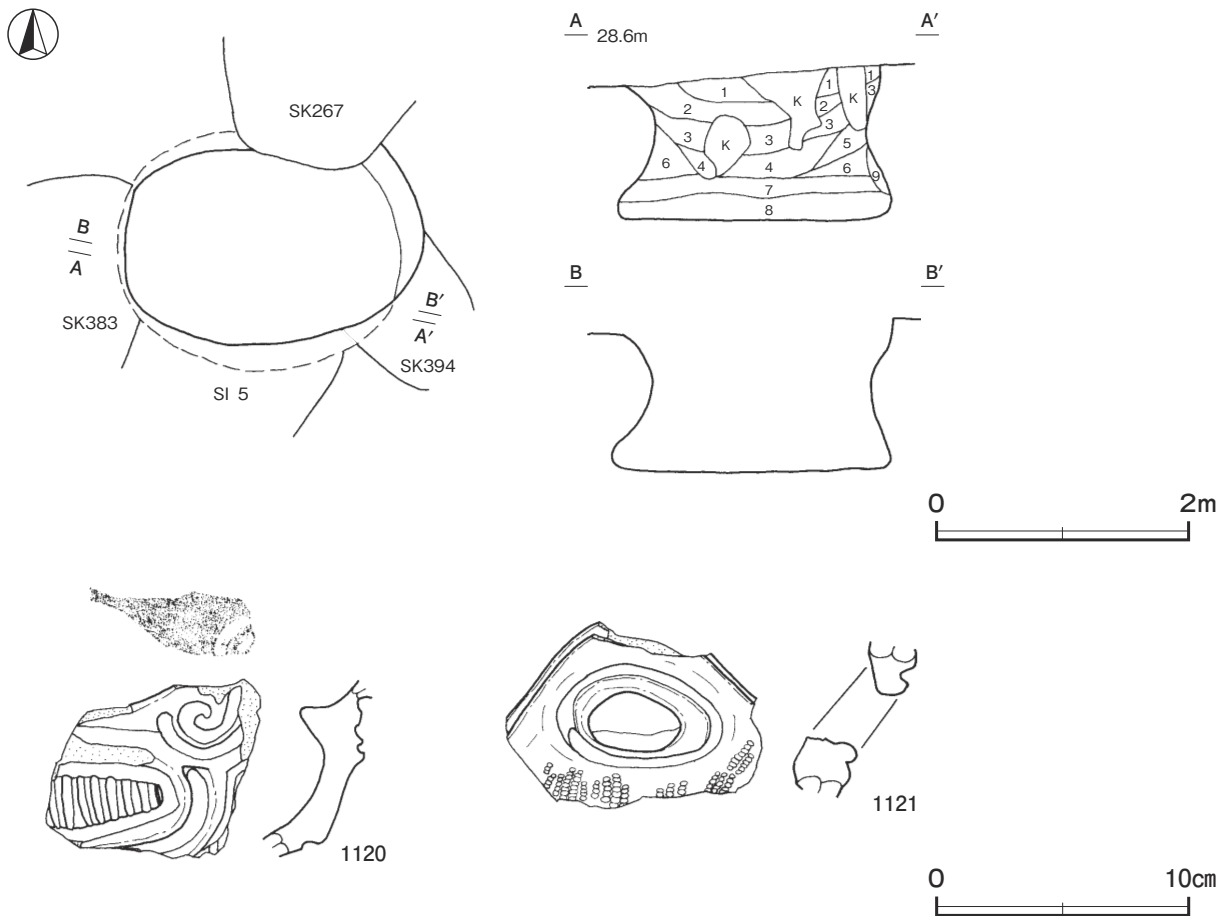
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 265	打裂石斧	(5.5)	6.2	2.0	(79.3)	ホルンフェルス	分銅形 片側に自然面 周縁部表裏を敲打 片刃部欠損	覆土上層	

第 395 号土坑 (第 406 図 PL65)

位置 調査区北西部の C 2 a5 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号竪穴建物跡, 第 383・394 号土坑を掘り込み, 第 267 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.40 m, 短径 1.55 m の楕円形で, 長径方向は N - 86° - E である。底面は長径 2.25 m, 短径 1.90 m の楕円形で, ほぼ平坦である。確認面からの深さは 122cm である。壁は内彎して, 袋状を呈している。



第 406 図 第 395 号土坑・出土遺物実測図

覆土 9層に分層できる。各層に多量のロームブロックや炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	7	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量	8	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量
4	黒褐色	ローム粒子多量、炭化物中量、焼土粒子微量	9	褐色	ロームブロック多量
5	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片 86 点（深鉢）、石器 1 点（磨石）、剥片 1 点（チャート）が出土している。1120、1121 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 395 号土坑出土遺物観察表（第 406 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
1120	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細籾	灰褐	普通	波状口縁 波頂部下に渦巻文 低い隆帯と太沈線による区画 区画内縦位の太沈線で充填	覆土中	
1121	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英	暗赤褐	普通	波状口縁 波状部中央に穿孔 頂部及び穿孔に沿って太沈線を巡らす 地文に単節縄文LR(横)	覆土中	

第 398 号土坑（第 407・408 図）

位置 調査区西部の C 2 d4 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

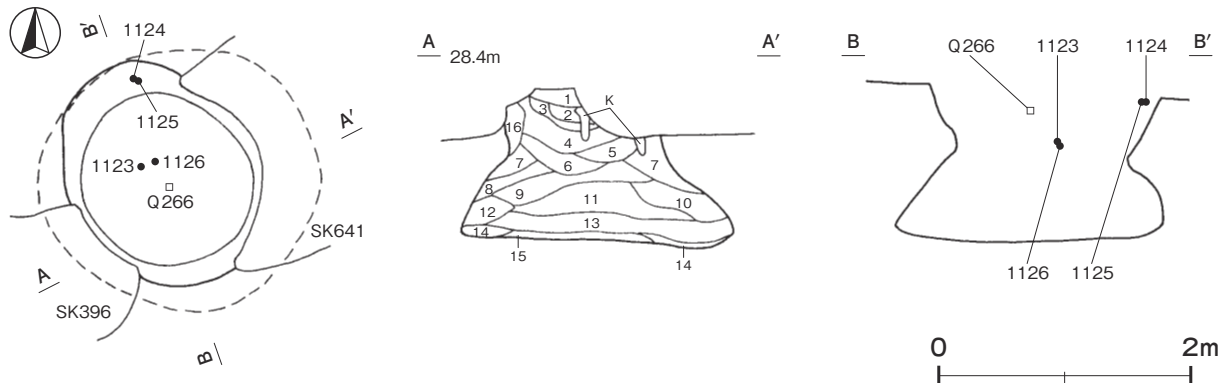
重複関係 第 396・641 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は東部と西部が第 396・641 号土坑に掘り込まれているため、南北径 1.82 m で、東西径は 1.45 m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は径 2.10～2.20 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 120cm で、壁は内彎して、袋状を呈している。

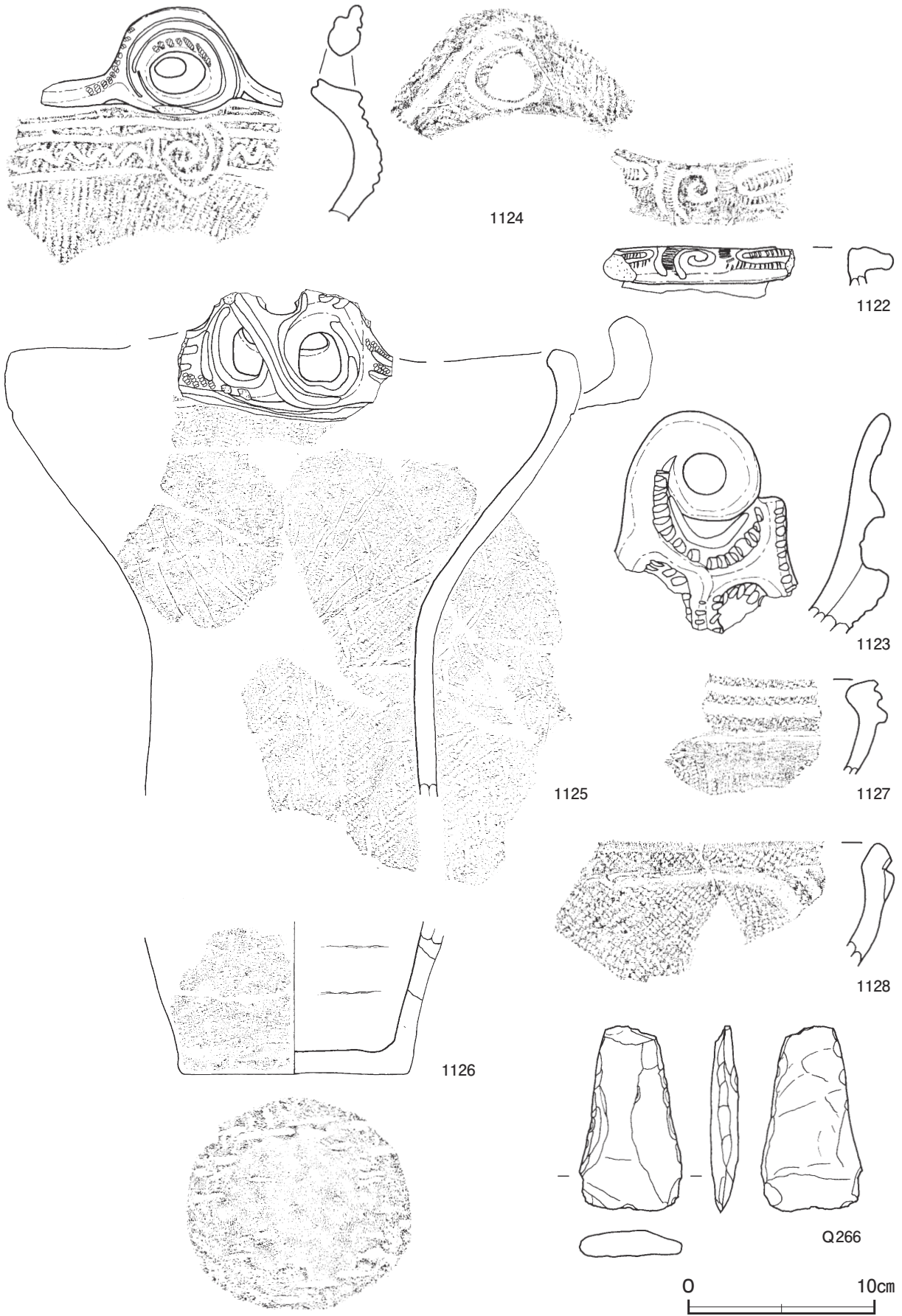
覆土 16 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量	10	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	12	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子中量・炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	14	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	16	褐色	ロームブロック多量



第 407 図 第 398 号土坑実測図



第 408 图 第 398 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 55 点（深鉢 54，浅鉢 1），石器 2 点（打製石斧，磨石）が出土している。1123～1126，Q 266 は，いずれも覆土上層から出土している。ある程度埋め戻された段階で，一括投棄されたものと考えられる。1122・1127・1128 は，覆土中から出土している。

所見 規模と形状から，袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 398 号土坑出土遺物観察表（第 408 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	口唇部庇状に隆帯を貼付し平坦面を作出 平坦面に太沈線による楕円区画と渦巻文 区画に沿って爪形文を施文	覆土中	
1123	縄文土器	深鉢	-	(12.0)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	にぶい橙	良好	板状把手 鱗状の隆帯による渦巻文 隆帯に沿って幅広の有筋沈線	覆土上層	
1124	縄文土器	深鉢	-	(12.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	良好	穿孔の把手 把手外・内面穿孔に沿って1～2本の沈線 口唇頂部平坦 把手をはさみ単節縄文 RL（横）と沈線 把手下に横位の沈線と波状文・渦巻文 地文は同一原体による縦施文	覆土上層	10% PL141
1125	縄文土器	深鉢	[28.0]	(27.3)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	良好	中空把手 把手部に3方向からの穿孔 穿孔に沿って1～2本の沈線 口縁部3本の沈線を巡らし沈線上に単節縄文 RL（横）胴部は結節縄文 RL（縦）を間隔を開けて施文	覆土上層	20% PL141
1126	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	12.0	長石・石英・雲母	橙	普通	無文 外面横方向のナデ 内面縦方向のナデ 底面に網代痕	覆土上層	10%
1127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	明赤褐	良好	口唇部内彎 3条の隆帯が巡る 隆帯上に単節縄文 RL（横）胴部同一原体をまばらに斜施文	覆土中	
1128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい赤褐	良好	口唇部肥厚 肥厚部からV字状隆帯貼付 肥厚部・隆帯上単節縄文 RL（横）肥厚部下（縦）で羽状構成	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 266	打製石斧	10.1	5.5	1.6	106.6	粘板岩	撥形 周縁部微細な敲打調整 刃部は表裏から研磨 使用痕	覆土上層	PL165 被熱

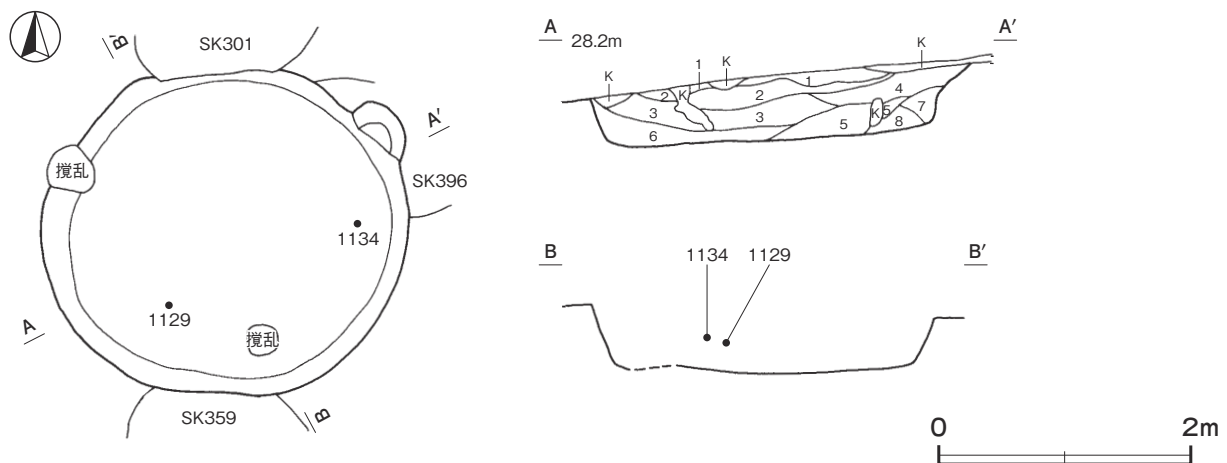
第 399 号土坑（第 409・410 図 PL66）

位置 調査区西部の C 2 d3 区，標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

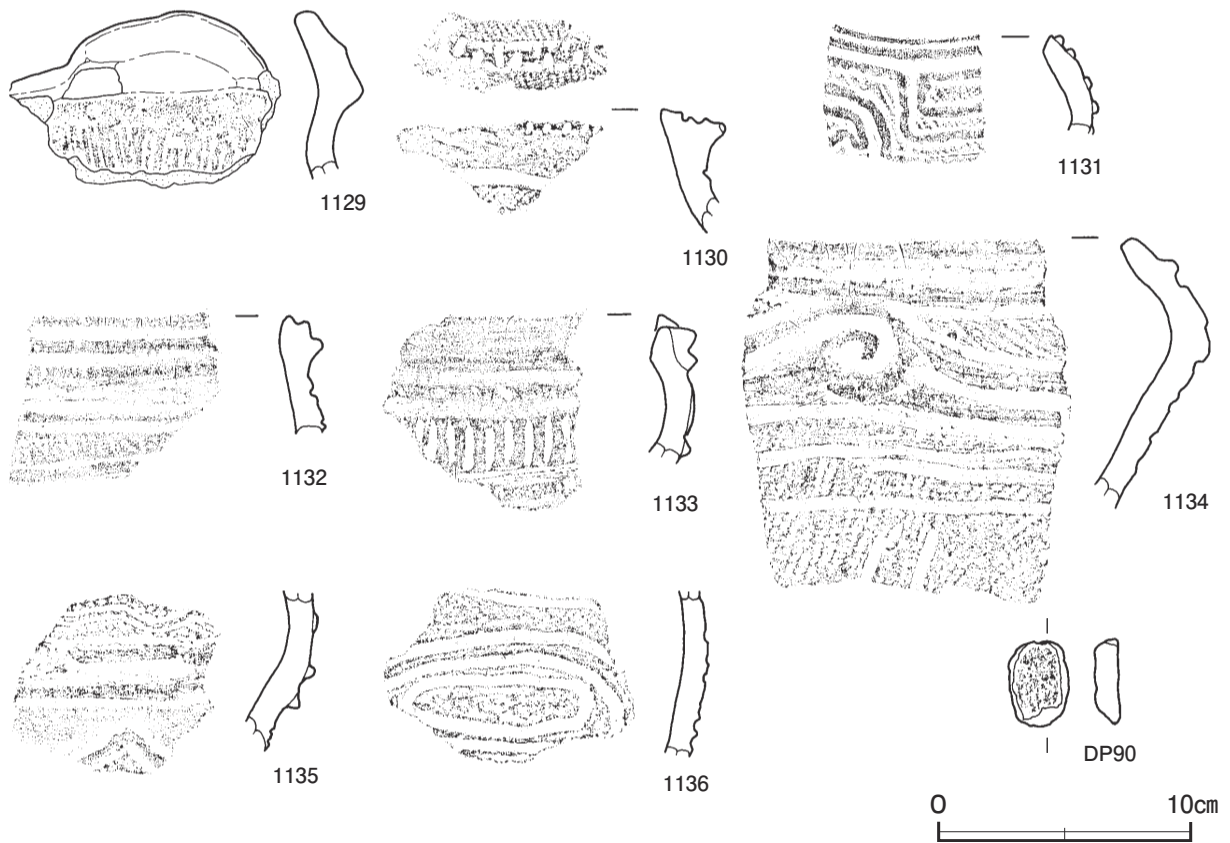
重複関係 第 359・396 号土坑を掘り込み，第 301 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 2.67～2.92 m の円形で，北東部に幅 55cm，奥行 25cm ほどの張り出し部がある。底面はほぼ平坦で，深さは 52cm である。壁は外傾している。

覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており，不規則な堆積状況から，埋め戻されている。



第 409 図 第 399 号土坑実測図



第 410 図 第 399 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|---------|-----------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック中量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗 褐 色 | ローム粒子多量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 239 点 (深鉢 233, 浅鉢 6), 土製品 1 点 (土器片錘), 剥片 4 点 (チャート 1, 砂岩 2, 粘板岩 1) が出土している。1129・1134 は覆土中層から, 1130～1133・1135・1136, DP90 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 399 号土坑出土遺物観察表 (第 410 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	波状口縁 波頂部内彎 口唇頂部平坦 地文に半截竹管による縦位の条線文	覆土中層	
1130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	口唇頂部平坦 平坦面に単節縄文 LR (縦) 口唇端部棒状工具による刺突 並行沈線を巡らせ交互刺突による波状文	覆土中	
1131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口唇部内削ぎ 口唇頂部に細沈線が一巡 地文に単節縄文 LR (縦) 細隆帯による区画文 横位の沈線が巡る	覆土中	
1132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	背割れ隆帯が一巡 地文に単節縄文 RL (横) 横位の沈線が巡る	覆土中	
1133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐	普通	口唇内側に段 頂部平坦 横位の並行沈線を巡らせ文様を区画 区画内縦位の沈線を充填	覆土中	
1134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部内彎 隆帯による区画文・渦巻文 区画内単節縄文 RL (横) 頭部は横位の沈線を数条巡らし区画 胴部は同一原体による縦施文	覆土中層	PL141
1135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	隆帯により横位の文様描画 地文に単節縄文 RL (横) 半截竹管による蛇行沈線が巡る	覆土中	
1136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 LR (縦) を浅く施文 沈線による横槽文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP90	土器片鉢	3.4	2.3	1.0	9.5	長石・石英・雲母	暗褐	胴部片 一端にキザミ目 片側縁を粗雑に研磨	覆土中	未成品 _カ

第401号土坑（第411～413図）

位置 調査区北部中央のC 4c1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第481号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため、開口部は東西径が2.29m、南北径が1.62mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は、東西径が2.15m、南北径が1.59mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定でき、平坦である。確認面からの深さは85cmである。壁は内彎して、袋状を呈している。

ピット 3か所。南西部に集中している。いずれも径30cm程度の円形で、深さはP 1が32cm、P 2・P 3が8cm・10cmである。補助的な貯蔵施設と考えられる。

ピット土層解説

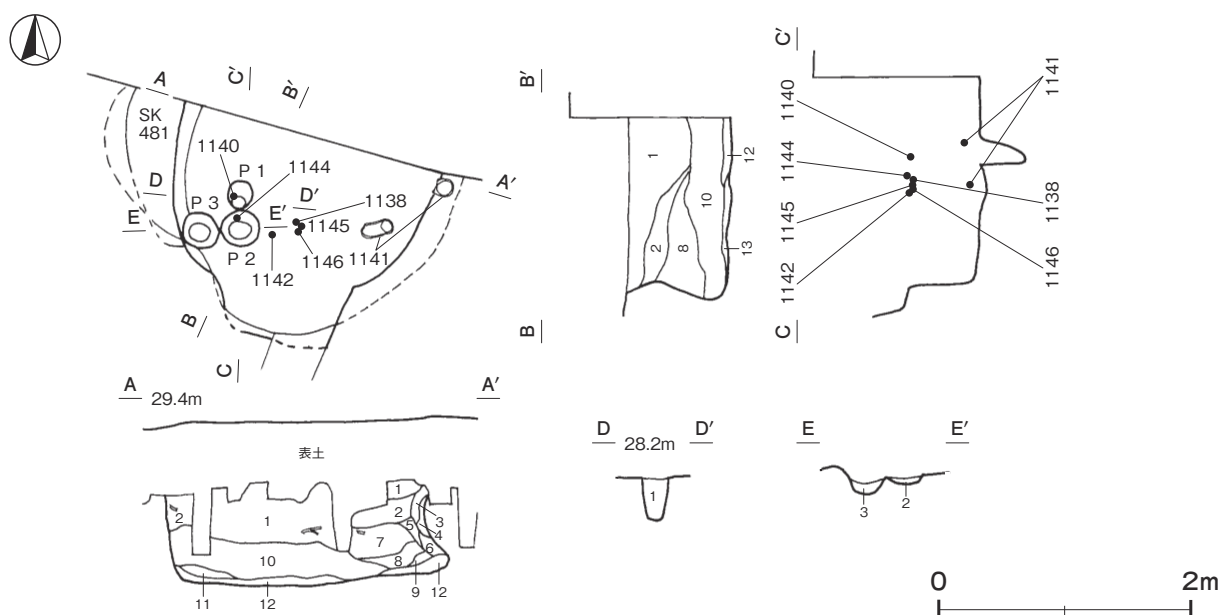
- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | |

覆土 13層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

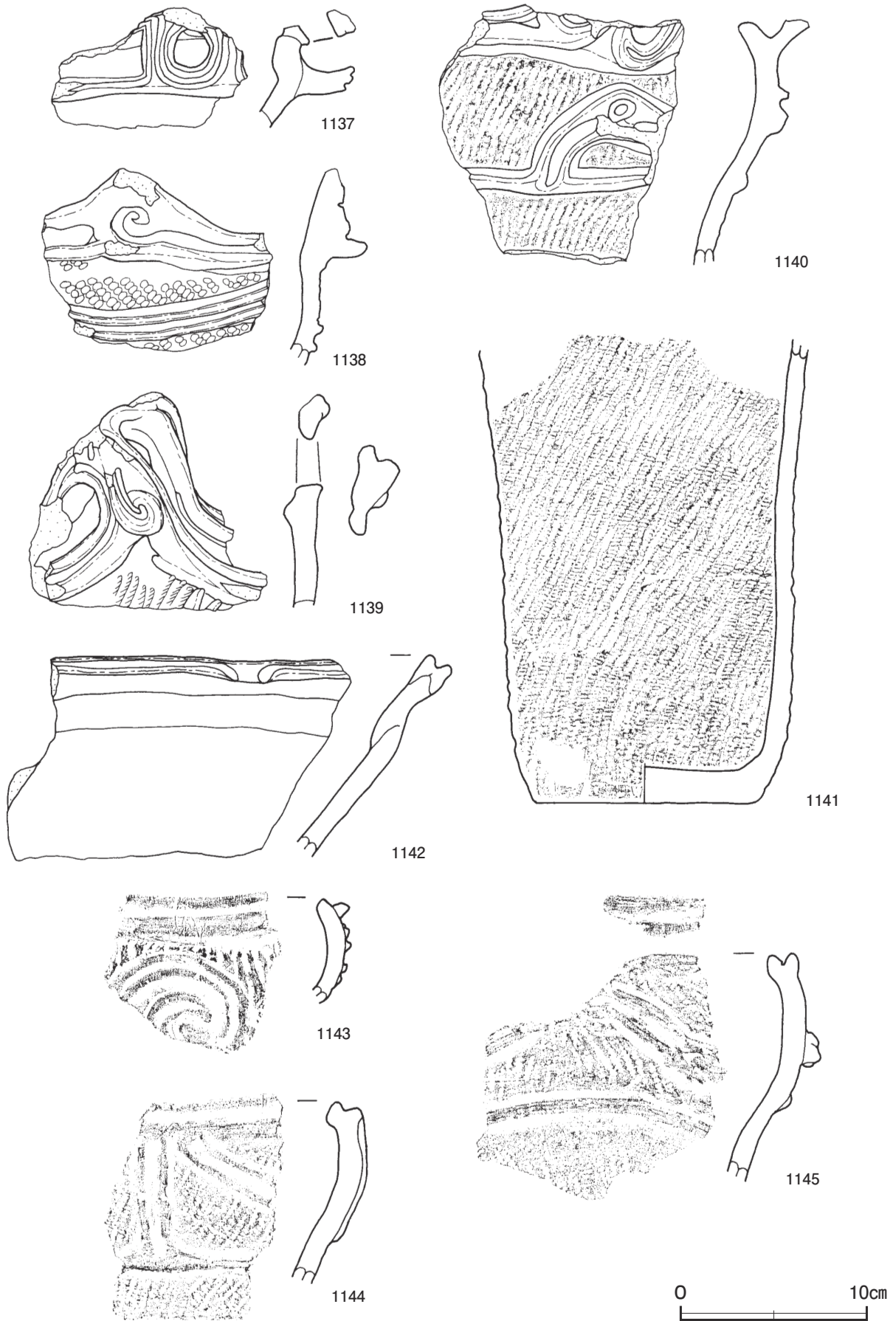
土層解説

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 8 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量 | 9 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黒褐色 ローム粒子少量 | 10 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ローム粒子少量 | 11 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子微量 | 13 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 7 黒褐色 ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片178点（深鉢163、浅鉢15）が出土している。1141は覆土下層から散乱して出土した破片が接合している。1138～1140・1142・1144～1146は、覆土上層から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。



第411図 第401号土坑実測図



第 412 図 第 401 号土坑出土遺物実測図 (1)



1146



第 413 図 第 401 号土坑出土遺物実測図 (2)

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 401 号土坑出土遺物観察表 (第 412・413 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1137	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	黒褐	良好	穿孔に沿って2~3本の沈線が巡る	覆土中	
1138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	波頂部下に渦巻文 庇状の隆帯を貼付 隆帯上に沈線を巡らす 地文に単節縄文 RL (横) 2条の隆帯が巡る	覆土上層	
1139	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石・石英・雲母・細礫	黒褐	良好	穿孔に沿って太沈線が巡る 地文に無節縄文 L (横)	覆土上層	
1140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	中空の把手貼付 地文に単節縄文 RL (縦) 蒲鉾状隆帯を一巡させ口縁部を区画 口縁部背割れ隆帯による文様描画	覆土上層	
1141	縄文土器	深鉢	-	(24.9)	11.8	長石・石英・雲母	橙	普通	全面に0段多糸縄文 RL (縦) 底面丁寧な磨き	覆土下層	30% PL141
1142	縄文土器	浅鉢	-	(10.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	灰褐	普通	口唇頂部に沈線が一巡 外・内面横方向の磨き	覆土上層	
1143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	暗褐	普通	口唇部隆帯が一巡 口唇頂部に太沈線 背割れ隆帯による渦巻文 区画内縦位の沈線	覆土中	
1144	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	におい赤褐	普通	口唇頂部に沈線が一巡 地文に附加条縄文 (縦) 2条の隆帯による文様区画	覆土上層	
1145	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	におい赤褐	普通	口唇頂部に沈線が一巡 単節縄文 RL (横) を施す 隆帯による文様区画	覆土上層	
1146	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇上部に沈線が一巡 区画内単節縄文 RL (横) 隆帯による渦巻文・区画文 頸部無文帯	覆土上層	

第 404 号土坑 (第 414・415 図)

位置 調査区中央部の D 3 a9 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 405 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.28 ~ 1.32 m の円形である。底面は、長径 2.66 m、短径 2.30 m の楕円形で、平坦である。

確認面からの深さは 120cm である。壁は大きく内傾して、袋状を呈している。

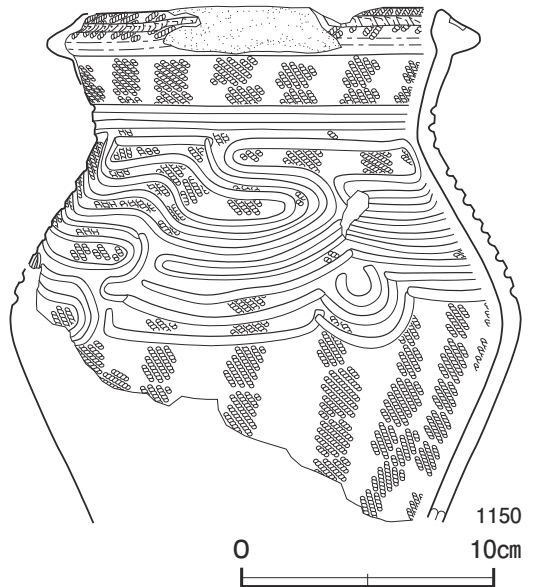
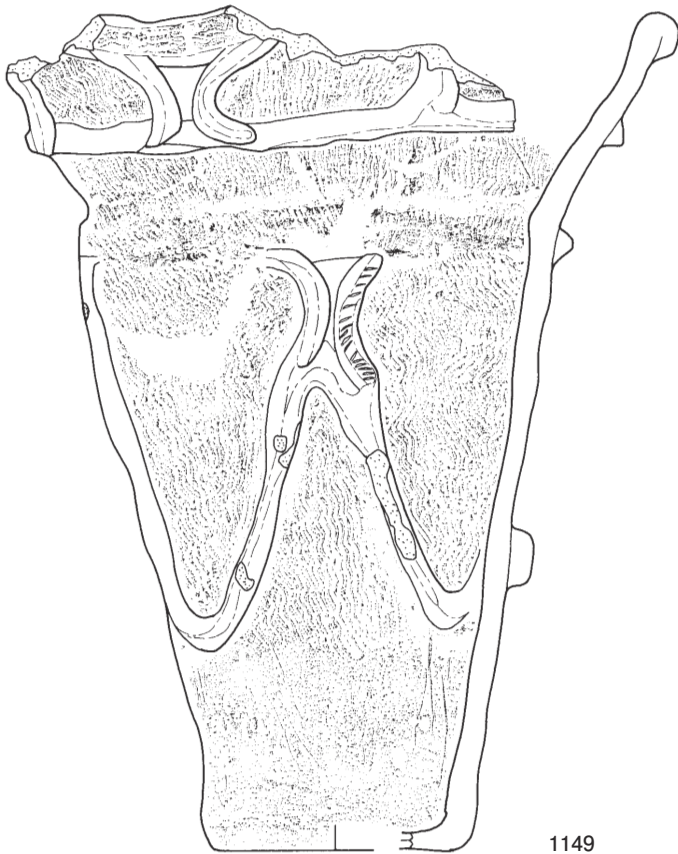
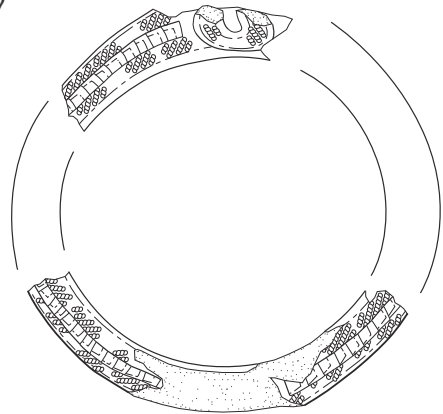
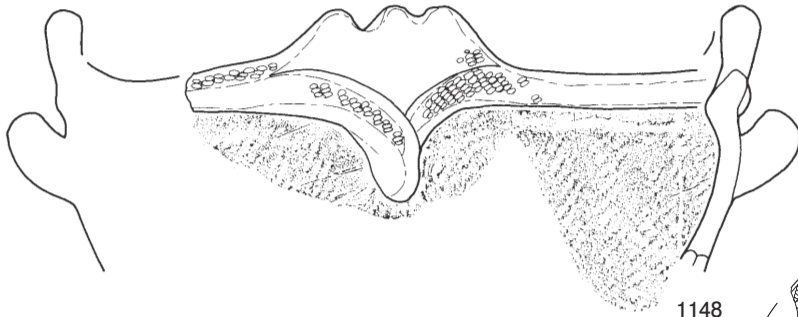
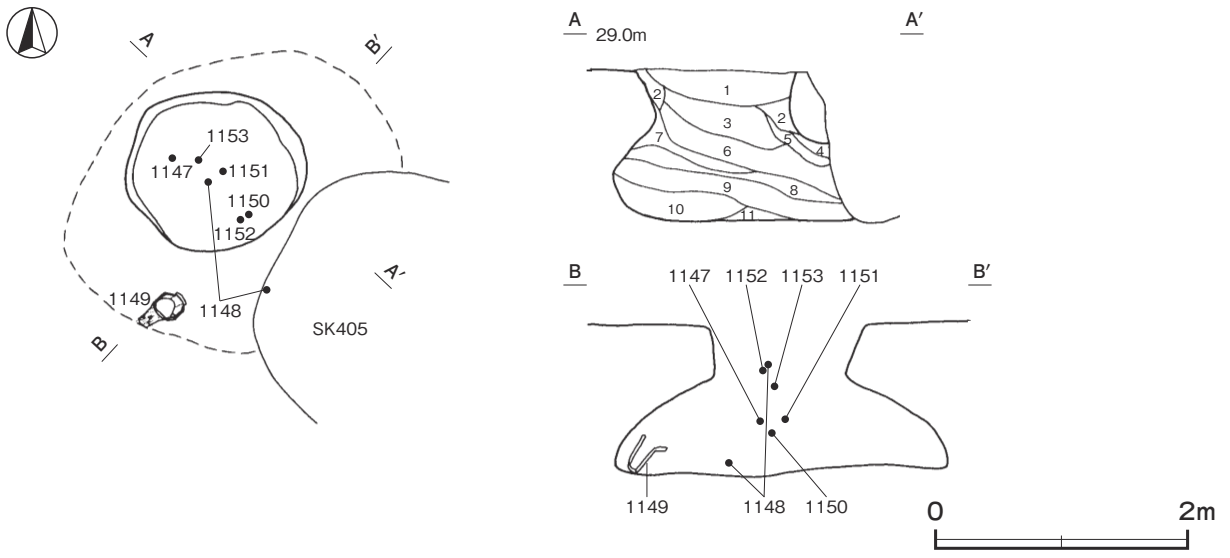
覆土 11 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

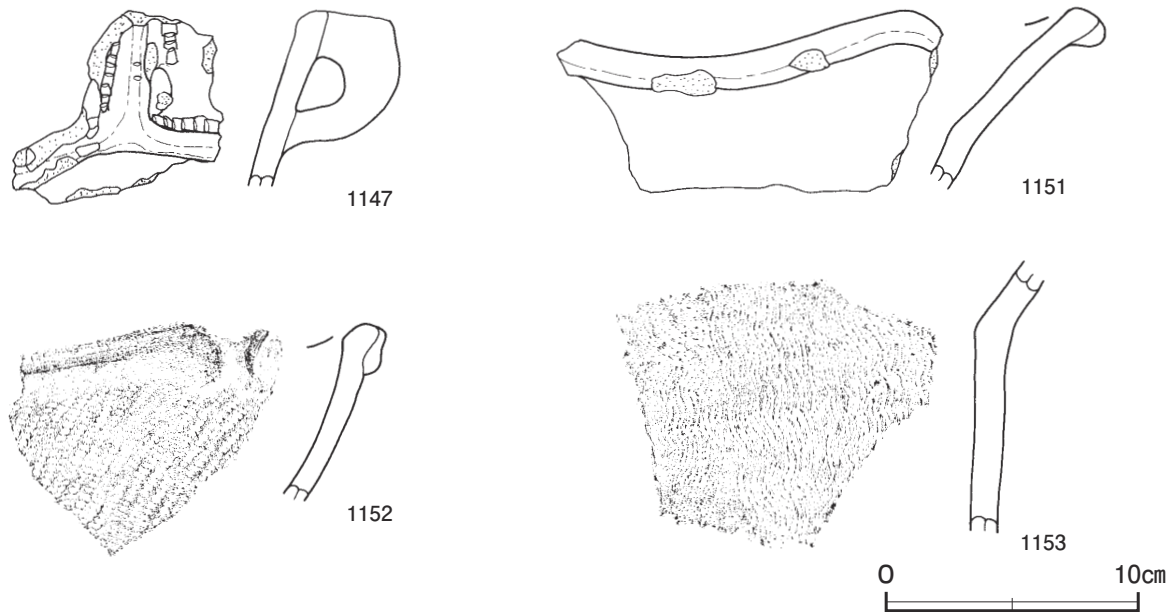
1 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	7 暗 褐 色	ロームブロック多量、焼土粒子少量
2 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗 褐 色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
3 暗 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 褐 色	ロームブロック多量、炭化物少量
4 暗 褐 色	ロームブロック多量	10 褐 色	ロームブロック多量
5 褐 色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	11 暗 褐 色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
6 暗 褐 色	ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土ブロック微量		

遺物出土状況 縄文土器片 135 点 (深鉢 126, 浅鉢 8, 壺 1), 剥片 4 点 (瑪瑙 3, 石英 1), 石核 1 点 (瑪瑙) が出土している。1149 は南壁際底面から正位の状態で出土している。1148 は覆土上層と下層から出土した土器が接合している。1147・1150・1151 は覆土中層から、1152・1153 は覆土上層から出土している。1149 は放置されたものと考えられる。それ以外は、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 414 図 第 404 号土坑・出土遺物実測図



第 415 図 第 404 号土坑出土遺物実測図

第 404 号土坑出土遺物観察表 (第 414・415 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1147	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	中空の把手 把手部側縁及び隆帯に沿って有節沈線	覆土中層	外・内面剥落痕
1148	縄文土器	深鉢	[22.6]	(11.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	波状口縁 波頂部にキザミ目 V字状の隆帯貼付 交点部摘み上げ 隆帯上単節縄文 RL (横) 胴部同一原体 (縦)	覆土上・下層	10% PL142
1149	縄文土器	深鉢	-	33.2	[9.4]	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	波状口縁 口縁部隆帯によるX字状文 頸部を区画し、胴部隆帯によるV字区画 区画上部でX字状に交差 隆帯上及び区画内櫛歯状工具による縦位の波状文 胴部下端横方向のナデ	底面	70% PL142
1150	縄文土器	壺	[16.5]	(20.4)	-	長石・石英	灰褐	普通	口唇頂部隆帯貼付による突起 単節縄文 LR (横) 部分的に有節沈線 地文に同一原体 (縦) 胴部沈線による横位の流水文	覆土中層	60% PL142 二次焼成が著しい
1151	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	明赤褐	良好	波状口縁 口唇頂部平坦で肥厚 内側に緩い段外・内面横方向の磨き	覆土中層	
1152	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇内側に段 口唇部外反 X字状に隆帯貼付 地文に単節縄文 LR (横)	覆土上層	
1153	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	黒褐	普通	波状口縁 口唇頂部平坦で肥厚 内側に緩い段外・内面横方向の磨き 頸部くの字状に外反 12本単位の櫛歯状工具による縦位の波状文	覆土上層	

第 405 号土坑 (第 416 図 PL67)

位置 調査区中央部の D 3 a0 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 404 号土坑を掘り込んでいる。

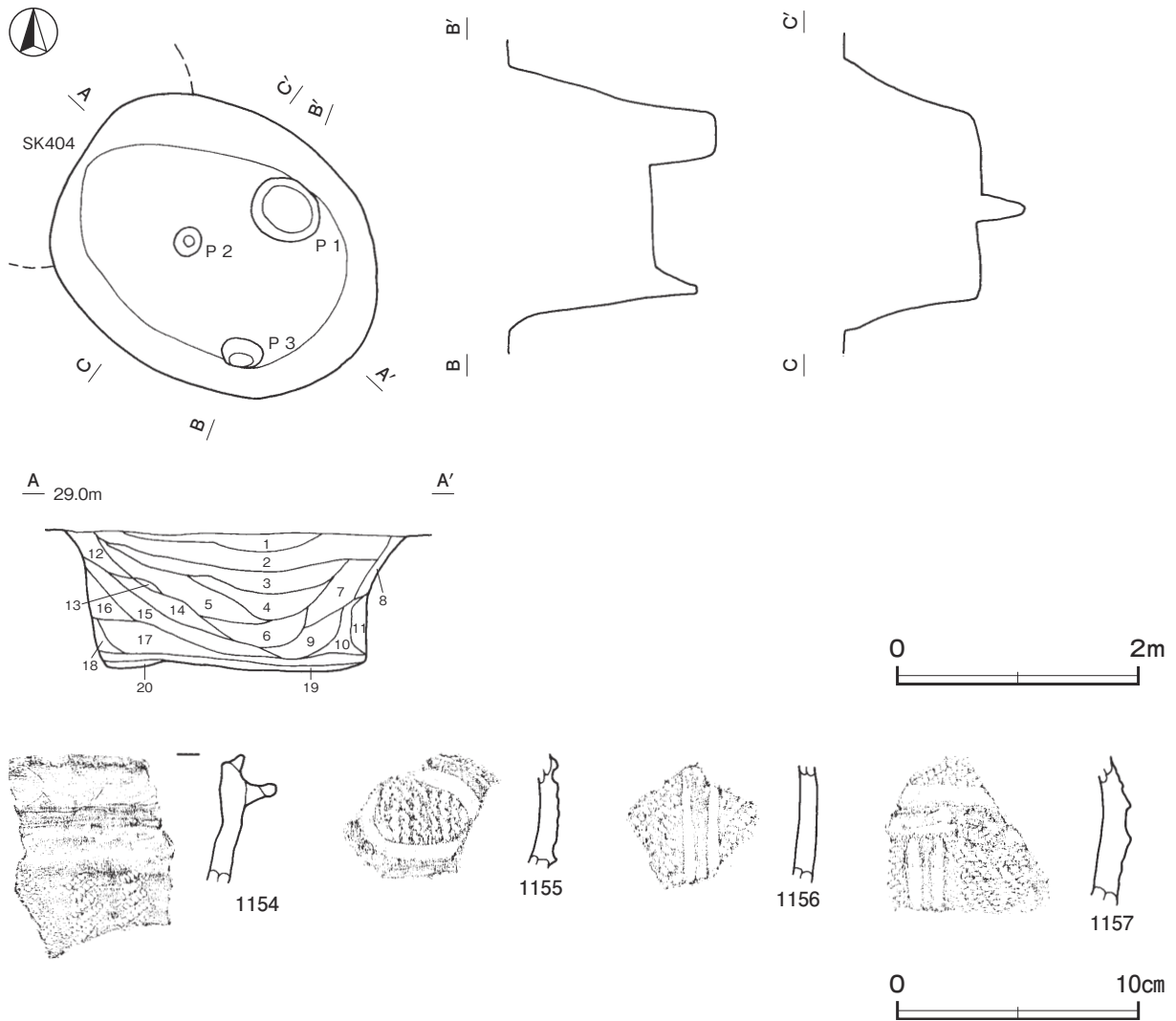
規模と形状 長径 2.80 m, 短径 2.27 m の楕円形で, 長径方向は N - 56° - W である。底面は平坦で, 深さは 120cm である。壁は外傾している。

ピット 3 か所。P 1 は北東壁際に位置し, 長径 60cm, 短径 50cm の楕円形で, 深さは 50cm である。P 2 は中央に位置し, 径 22cm の円形で, 深さは 38cm である。P 3 は, 南壁際に位置し, 長径 34cm, 短径 20cm の楕円形で, 深さは 38cm である。大きさから, P 1 は補助的な貯蔵施設, P 2・P 3 は柱穴と考えられる。

覆土 20 層に分層できる。ロームブロック, 炭化粒子, 焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |



第 416 図 第 405 号土坑・出土遺物実測図

- | | | | |
|----------|------------------|----------|-----------------------|
| 9 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 15 黒 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 10 褐 色 | ローム粒子多量 | 16 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 11 褐 色 | ロームブロック中量 | 17 暗 褐 色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 12 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 | 18 暗 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 13 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 19 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 14 暗 褐 色 | ロームブロック多量, 炭化物微量 | 20 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 50 点(深鉢 47, 浅鉢 3)が出土している。1154 ~ 1157 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 405 号土坑出土遺物観察表 (第 416 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1154	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇頂部に浅い沈線が一巡 庇状の隆帯を巡らし、単節縄文 RL (縦) を間隔を開けて施文	覆土中	
1155	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	良好	隆帯と太沈線により楕円区画 区画内縦位の擦糸文を施文	覆土中	
1156	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の沈線を垂下沈線間磨消	覆土中	
1157	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐	普通	横位の刺突隆帯で口縁部を区画し単節縄文 LR (横) 胴部同一原体による縦施文 並行沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	

第409号土坑（第417図 PL67）

位置 調査区北西部のC 2a7区，標高28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第195・260号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが，開口部は径1.27～1.30 mの円形と推定できる。底面は長径1.48 m，短径1.16 mの楕円形で，平坦である。確認面からの深さは42cmで，南壁は緩やかに内彎して，袋状を呈している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロック，炭化粒子，焼土粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）が出土している。1158は，覆土上層からまとまって出土したものが接合している。第2～6層まで埋め戻した段階で，一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第417図 第409号土坑・出土遺物実測図

第409号土坑出土遺物観察表（第417図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1158	縄文土器	深鉢	[27.0]	(21.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	蛇行隆帯が一巡一部X字状に区画口縁部単節縄文LR（横）胴部は同一原体を間隔を開けて縦施文	覆土上層	10% PL141

第414号土坑（第418図）

位置 調査区中央部のC 3f5区，標高29 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第371号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.06mの円形で、底面は平坦である。深さは46cmで、壁は外傾している。

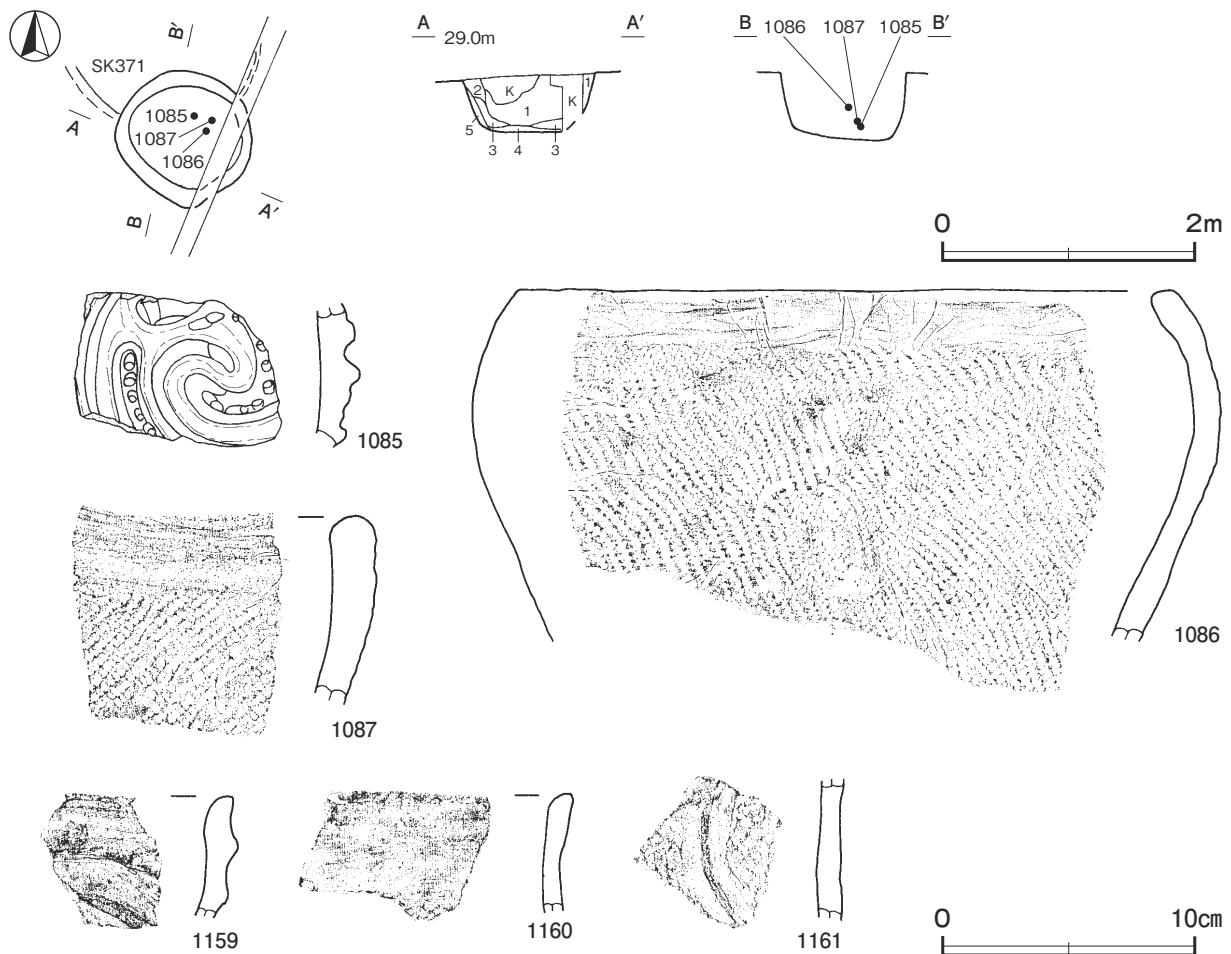
覆土 5層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片59点（深鉢）、剥片2点（チャート）が出土している。1085～1087は、覆土中層からまとめて出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第418図 第414号土坑・出土遺物実測図

第414号土坑出土遺物観察表（第418図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1085	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	良好	隆帯により文様描画 隆帯に沿って太沈線 区画内一部に刺突列	覆土中層	
1086	縄文土器	深鉢	[26.0]	(14.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内彎 口縁部横方向の磨き 地文に0段多糸縄文RL（横）	覆土中層	15%
1087	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	口唇部肥厚 口縁部無文 直下に浅い太沈線が一巡 地文に単節縄文RL（縦）	覆土中層	
1159	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	隆帯による文様描画 隆帯間磨き	覆土中	
1160	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外反 外・内面横方向の磨き	覆土中	
1161	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	地文に無節縄文R（縦） 隆帯に沿ってナデ	覆土中	

第415号土坑（第419図 PL68）

位置 調査区中央部のC3f7区，標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径2.24～2.29mの円形で，底面は平坦である。深さは60cmである。壁は外傾している。

ピット 3か所。P1は径30cmの円形で，深さは60cmである。中央部に位置していることから，柱穴と考えられる。P2・P3は，径30cmほどの円形で，深さ15cm・20cmである。性格は不明である。

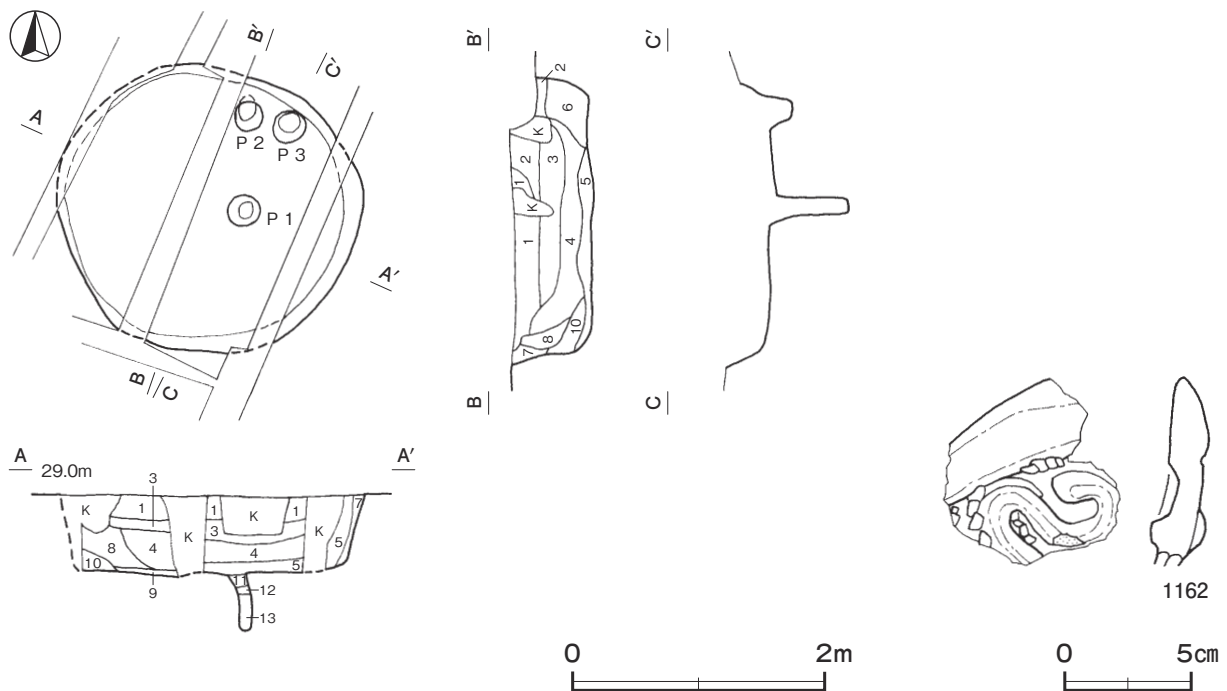
覆土 10層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから，埋め戻されている。第11～13層は，P1の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|---------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子中量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量 | 11 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子中量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片191点（深鉢190，浅鉢1），剥片2点（瑪瑙，石英），石核2点（瑪瑙）が出土している。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第419図 第415号土坑・出土遺物実測図

第415号土坑出土遺物観察表（第419図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1162	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐	良好	把手周縁部無文 隆帯による横S字状文 内側に凹み	覆土中	

第 424 号土坑 (第 420 図 PL68)

位置 調査区南東部の D 4 e3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 428 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.40 ~ 1.50 m の円形である。底面は平坦で, 深さは 65cm である。壁はほぼ直立している。

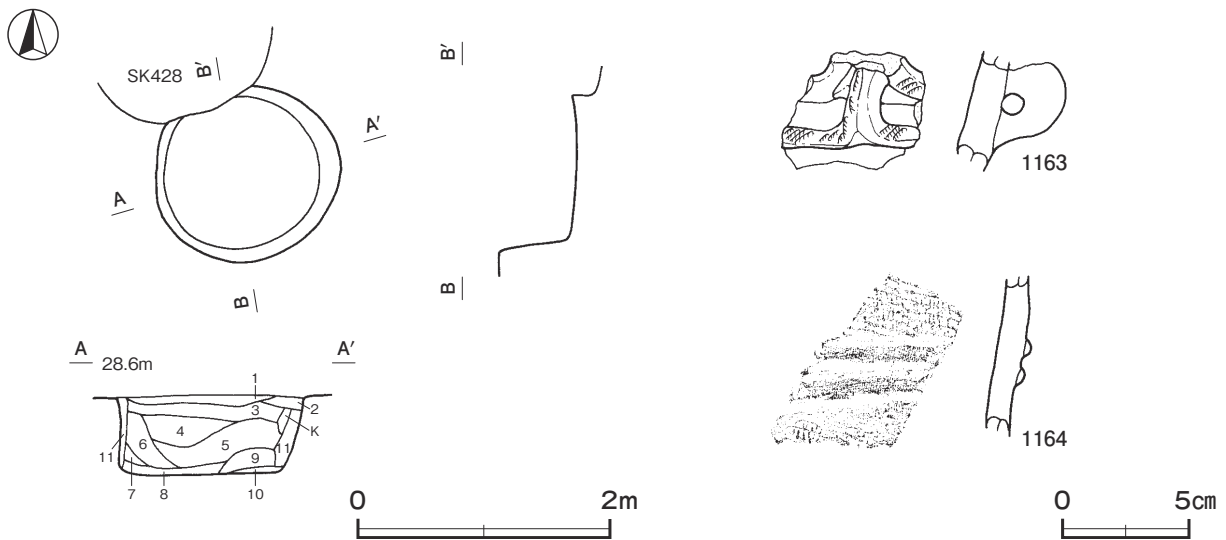
覆土 11 層に分層できる。ロームブロック, 炭化粒子, 焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化物中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 21 点 (深鉢) が出土している。1163・1164 は, 覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 420 図 第 424 号土坑・出土遺物実測図

第 424 号土坑出土遺物観察表 (第 420 図)

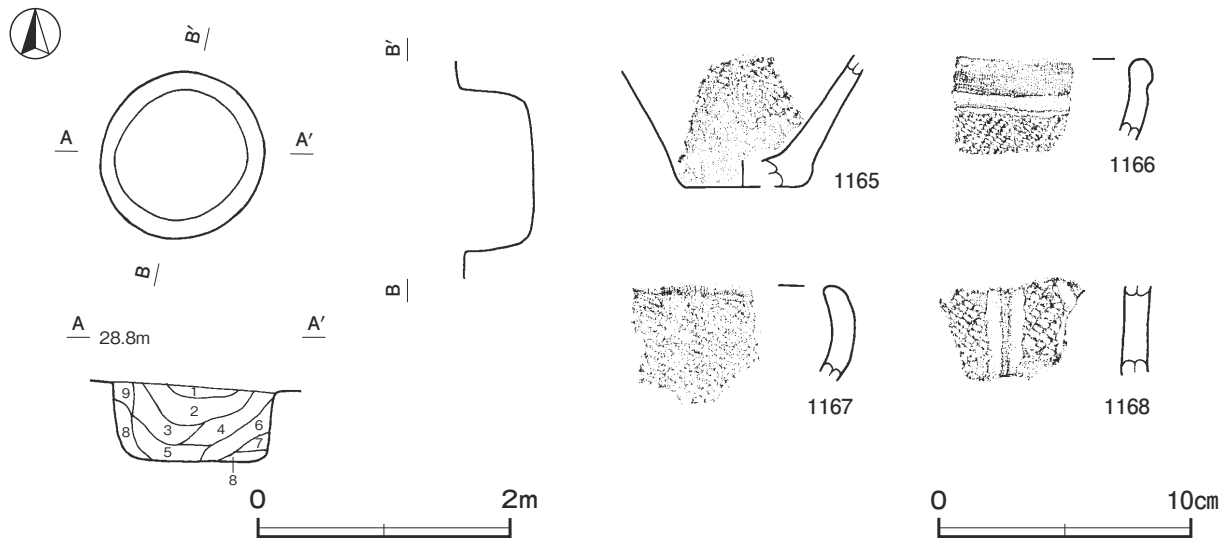
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1163	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	把手側面に無節縄文 L (横)	覆土中	
1164	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	地文に 0 段多条縄文 RL (斜) 2 条の蒲鉾状隆帯が巡る	覆土中	

第 425 号土坑 (第 421 図 PL68)

位置 調査区南東部の D 4 d3 区の区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.26 ~ 1.38 m の円形である。底面は平坦で, 深さは 58cm である。壁はほぼ直立している。

覆土 9 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれており, 焼土粒子や炭化粒子が混入していることから, 埋め戻されている。



第 421 図 第 425 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子少量 | 7 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 ロームブロック多量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子多量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 64 点（深鉢）が出土している。1165～1168 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 425 号土坑出土遺物観察表（第 421 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1165	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	[4.4]	長石・石英・雲母・細礫	赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 下端部斜方向のナデ底面網代痕	覆土中	
1166	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部太沈線が一巡 0 段多条縄文 RL (縦)	覆土中	
1167	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL (横)	覆土中	
1168	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	灰褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2 本の太沈線が垂下	覆土中	

第 426 号土坑（第 422 図 PL69）

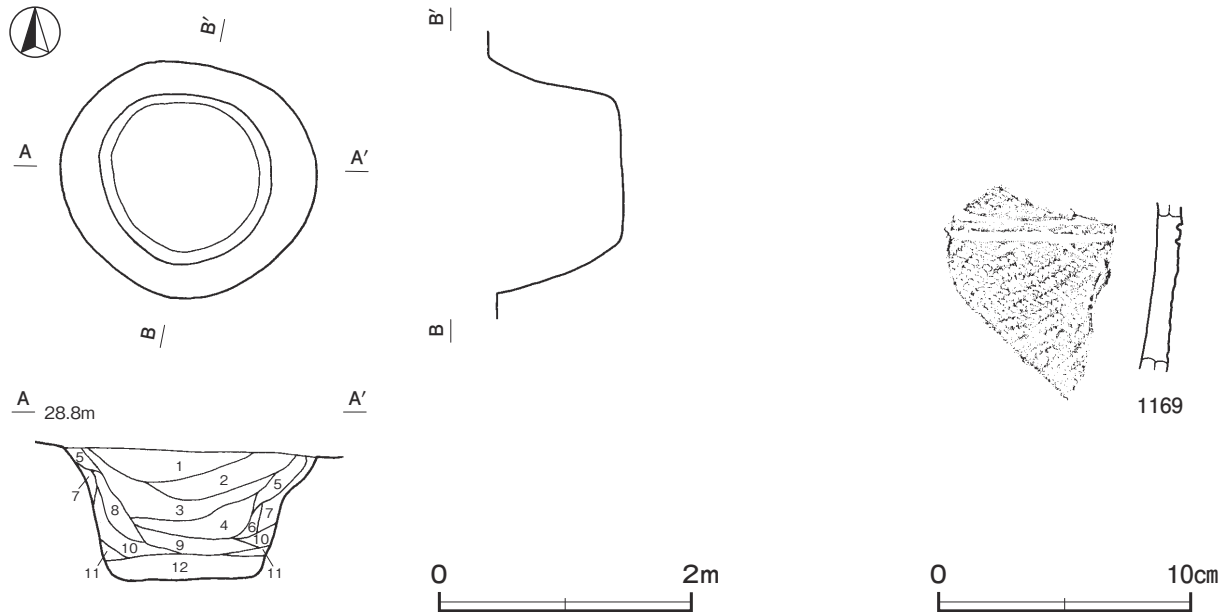
位置 調査区南東部の D 4 d2 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.86～2.02 m の円形で、底面は平坦である。深さは 98cm で、壁は底面から外傾して、中位から緩やかに傾斜している。

覆土 12 層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 8 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 6 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 12 暗褐色 ローム粒子中量 |



第 422 図 第 426 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 26 点（深鉢）が出土している。1169 は、覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。

第 426 号土坑出土遺物観察表（第 422 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1169	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL（縦）半截竹管による横位の沈線が巡る	覆土中	

第 428 号土坑（第 423 図）

位置 調査区南東部の D 4 e3 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 424 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.56 ～ 1.58 m の円形で、底面は平坦である。深さは 78cm で、壁は直立している。

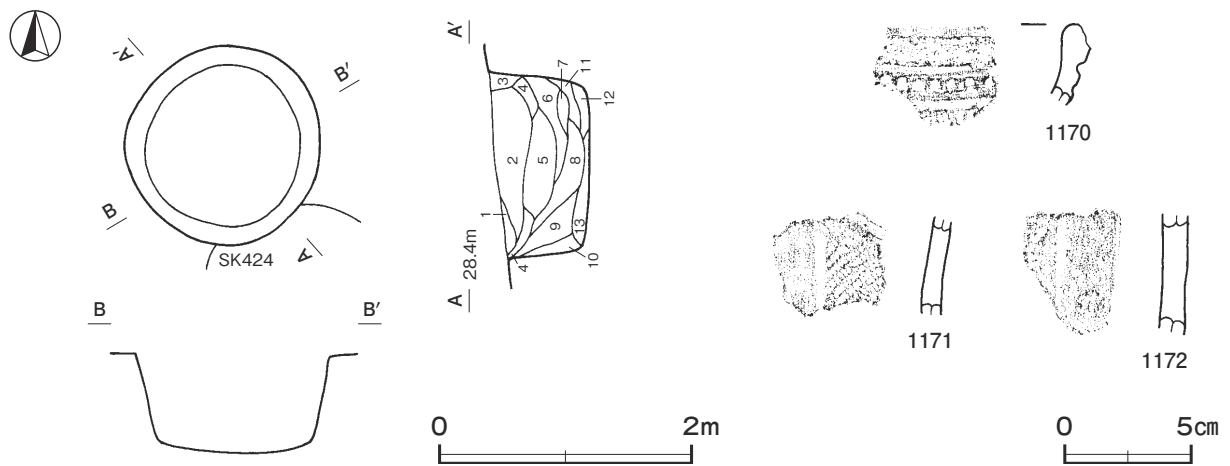
覆土 13 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量 | 10 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 11 褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 61 点（深鉢）、石核 1 点（瑪瑙）が出土している。1170 ～ 1172 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 423 図 第 428 号土坑・出土遺物実測図

第 428 号土坑出土遺物観察表 (第 423 図)

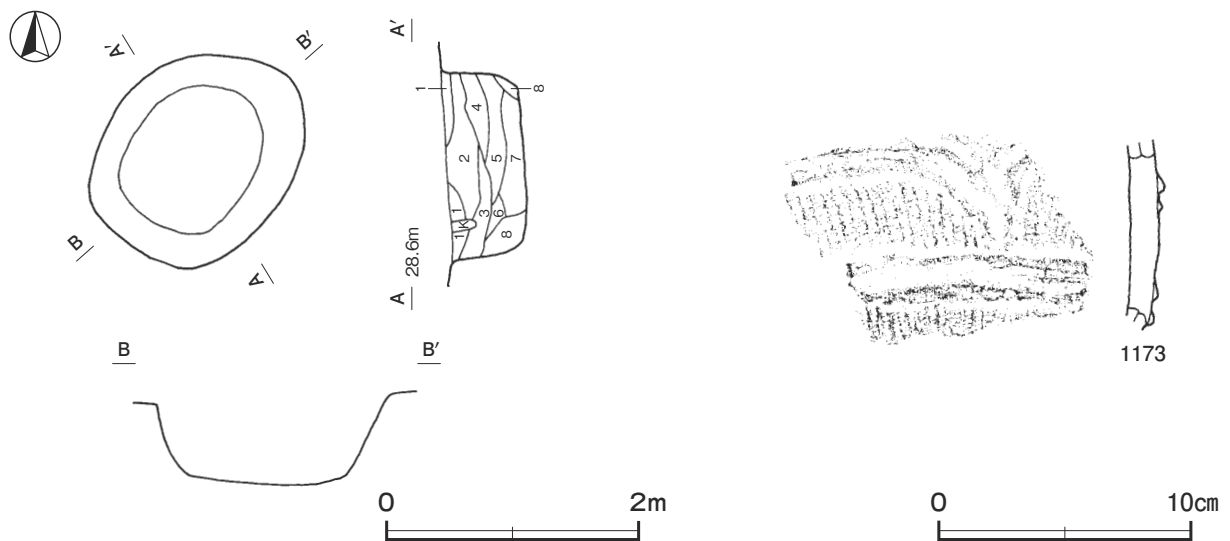
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1170	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・細礫	浅黄橙	普通	並行沈線が一巡、沈線間に円形刺突が巡る。地文に縦位の撚糸文	覆土中	口唇部剥落
1171	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 細礫	橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 沈線を垂下。沈線間磨消	覆土中	
1172	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に単節縄文 RL (横) 2本の沈線を垂下。沈線間磨消	覆土中	

第 432 号土坑 (第 424 図)

位置 調査区南東部の D 4 e1 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.82 m、短径 1.53 m の楕円形で、長径方向は N - 48° - E である。底面は平坦で、深さは 70cm である。壁は外傾している。

覆土 8 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。



第 424 図 第 432 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が出土している。1173は覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

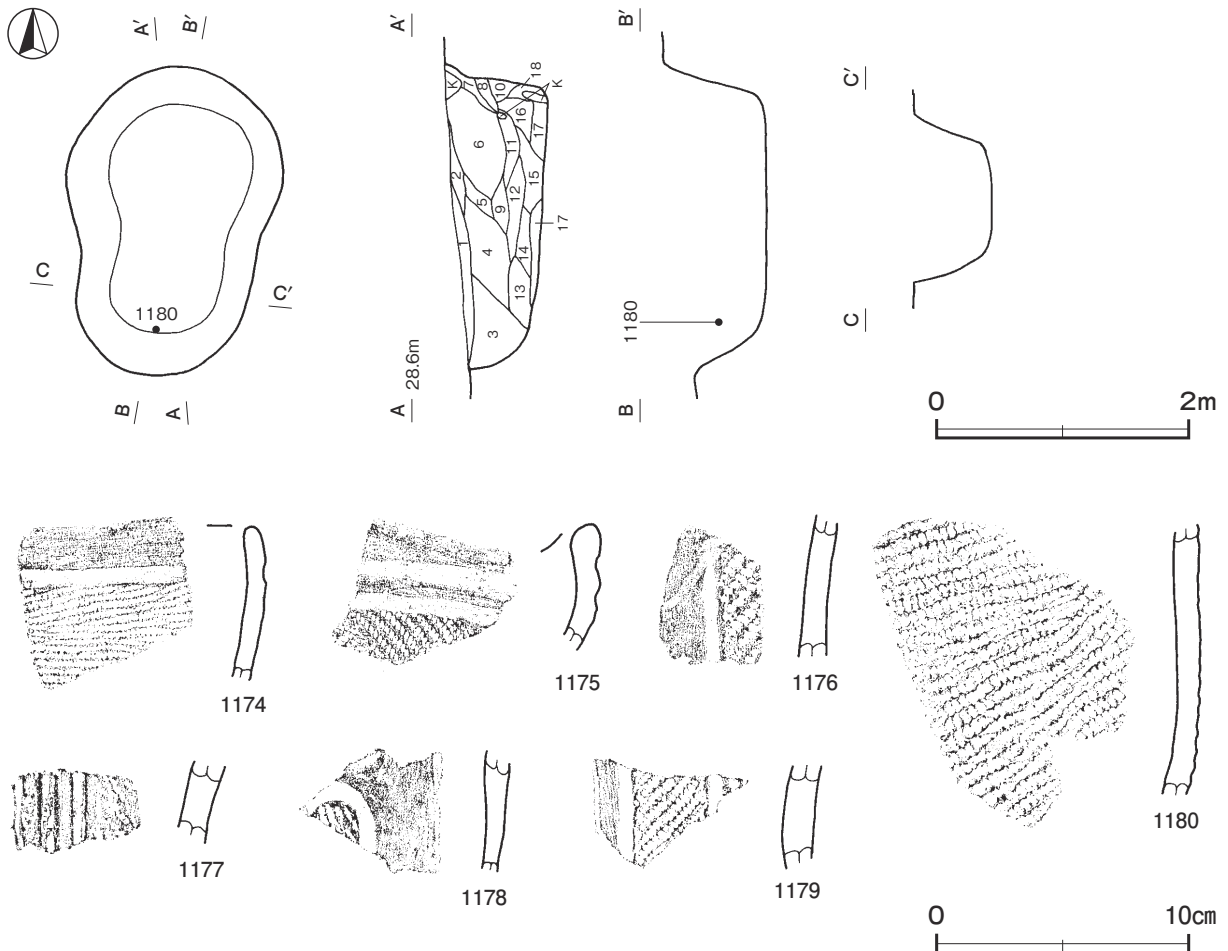
第432号土坑出土遺物観察表(第424図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1173	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	黒褐	普通	0段多糸縄文RL(斜)を施文し、2条の隆帯により区画 区画内2条の隆帯による弧線文	覆土中	

第434号土坑(第425図 PL69)

位置 調査区南東部のD4e1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.44m、短径1.70mの不整楕円形で、長径方向はN-5°-Eである。底面は平坦で、深さは78cmである。壁は外傾している。



第425図 第434号土坑・出土遺物実測図

覆土 18層に分層できる。各層にロームブロックが混入しており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量	11	褐色	ローム粒子多量
3	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	12	褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子中量
5	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
6	黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子多量
7	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック中量
8	極暗褐色	ローム粒子中量	17	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量	18	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 119 点（深鉢）が出土している。1180 は覆土中層, 1174 ~ 1179 は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 434 号土坑出土遺物観察表（第 425 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
1174	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	地文に一段多条縄文 RL (斜) 浅い太沈線が巡る口縁部無文	覆土中	
1175	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	地文に0段多条縄文 RL (横) 口唇部緩く外反浅い太沈線による区画文	覆土中	
1176	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の太沈線を垂下沈線間磨消	覆土中	
1177	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 3本の太沈線を垂下沈線間磨消	覆土中	
1178	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	地文に無節縄文 L (縦) 太沈線により文様描画	覆土中	
1179	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	にぶい黄褐	普通	地文に0段多条縄文 RL (縦) 2本の太沈線を垂下沈線間磨消	覆土中	
1180	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 LR (横) 内面横方向のナデ	覆土中層	

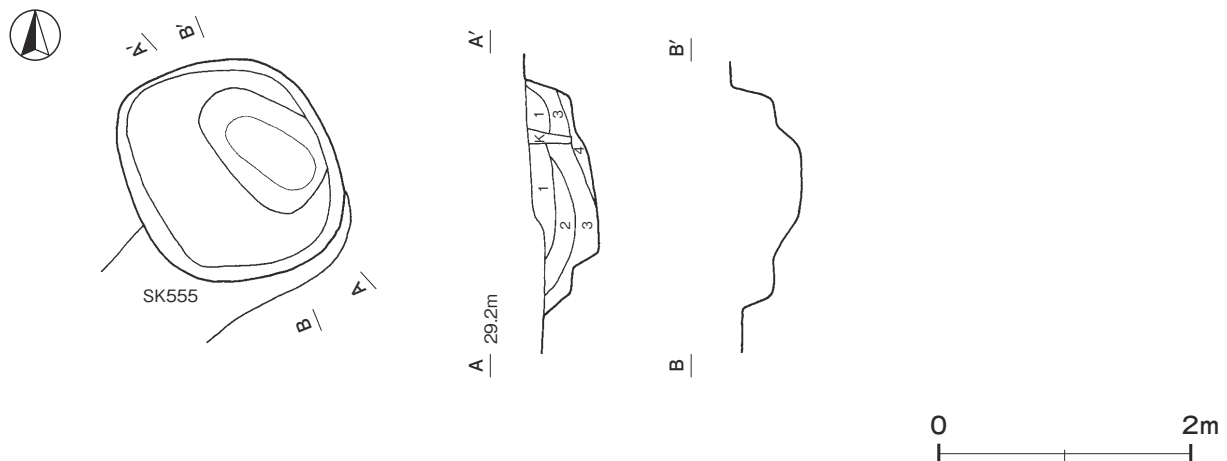
第 440 号土坑（第 426・427 図）

位置 調査区東部の C 4 i2 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

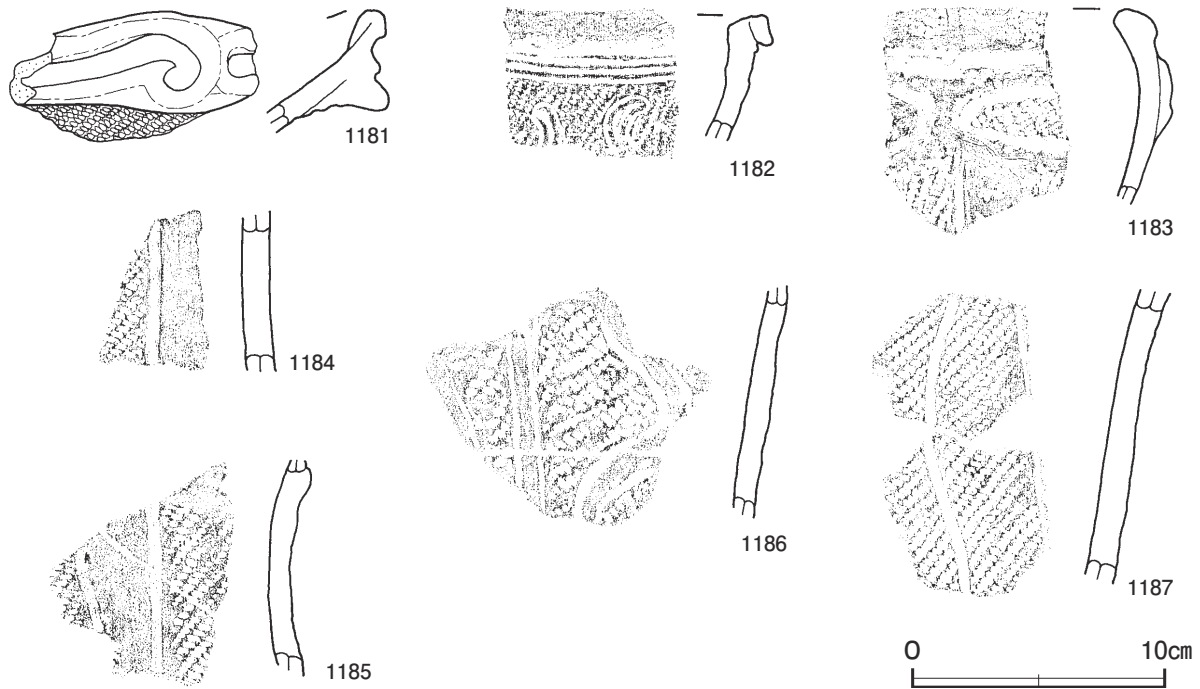
重複関係 第 555 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺 1.65 ~ 1.70 m の隅丸方形で、主軸方向は N - 22° - W である。底面は平坦で、北東部に浅い掘り込みを有している。深さは 50cm で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。黒褐色土が周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。



第 426 図 第 440 号土坑実測図



第 427 図 第 440 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 104 点 (深鉢 103, 浅鉢 1), 石核 1 点 (瑪瑙), 剥片 1 点 (石英), 軽石 1 点, 礫 1 点 (瑪瑙) が出土している。1181 ~ 1187 は, 覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 補助的な貯蔵施設をもつ貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

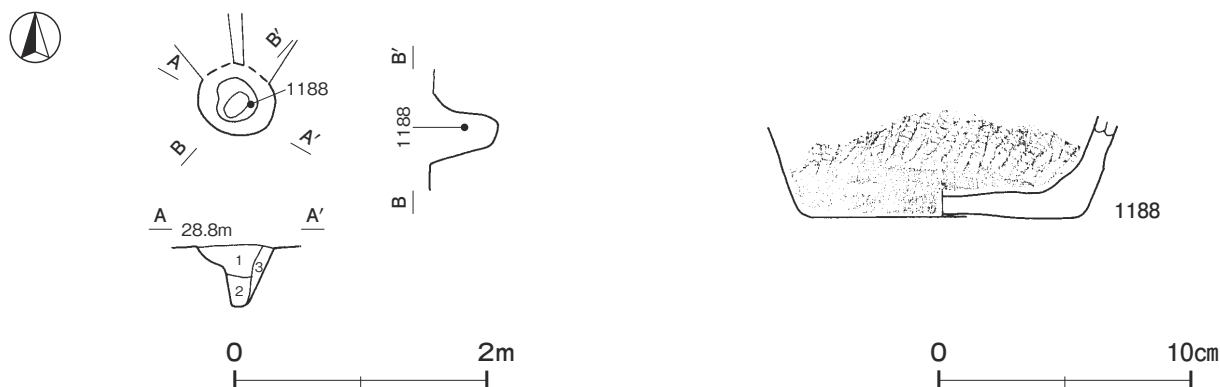
第 440 号土坑出土遺物観察表 (第 427 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1181	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部直立 太沈線による渦巻文 胴部は単節縄文 LR (横)	覆土中	
1182	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇頂部平坦 地文に単節縄文 LR (横) 口縁直下半截竹管による 3 本の沈線を巡らせ, 縦位の弧線文を描画	覆土中	
1183	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部太沈線が一巡 隆帯と沈線による楕円区画 区画内単節縄文 RL (横) 胴部は縦施文 間隔を開け沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	
1184	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 太沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	
1185	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	低い隆帯が一巡 2 本の沈線が垂下 沈線間磨消 地文に単節縄文 RL (縦)	覆土中	
1186	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2 本の沈線による平行線・蛇行線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
1187	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 沈線による直線文・蛇行線文が垂下	覆土中	

第 442 号土坑 (第 428 図)

位置 調査区中央部の C 3 f3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 0.60 m ほどの円形である。底面は皿状を呈し, 深さは 55cm である。壁は外傾している。



第 428 図 第 442 号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。第1・2層は柱抜き取り後の埋土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)が出土している。1188は覆土中層から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、柱穴と考えられる。時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。

第 442 号土坑出土遺物観察表 (第 428 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1188	縄文土器	深鉢	-	(40)	[10.6]	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に0段多糸縄文RL(縦)下端部横方向のナデ 底面丁寧なナデ	覆土中層	

第 443 号土坑 (第 429 図 PL70)

位置 調査区東部のD4b3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は径1.56～1.61mの円形である。底面は径1.45mほどの円形で、平坦である。確認面からの深さは87cmである。壁は緩やかに内彎し、弱い袋状を呈する。

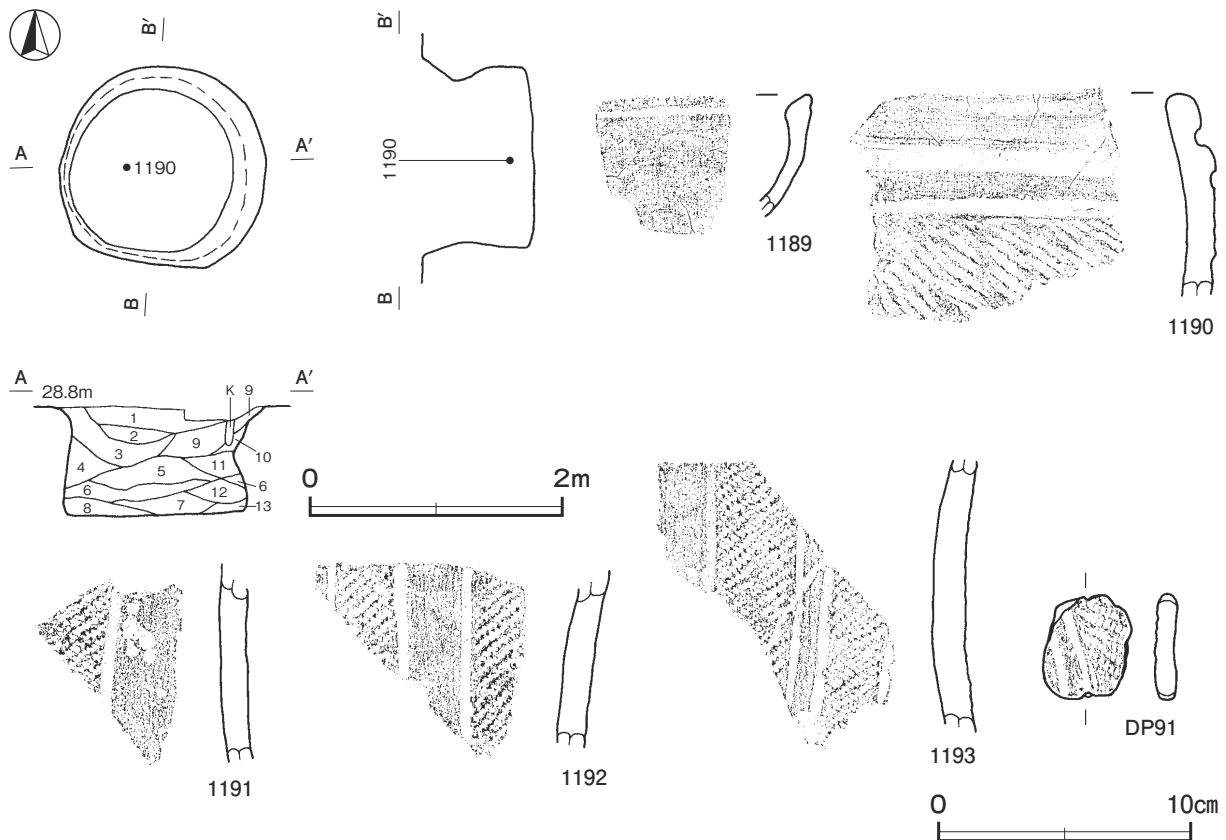
覆土 13層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 9 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片43点(深鉢),土製品1点(土器片錘),剥片1点(瑪瑙)が出土している。1190は、覆土下層から出土している。1189・1191～1193, DP91は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 429 図 第 443 号土坑・出土遺物実測図

第 443 号土坑出土遺物観察表 (第 429 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1189	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部 1 本の沈線を巡らし区画 外・内面横方向の磨き	覆土中	
1190	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部無文、低い隆帯と太沈線により文様区画 地文に単節縄文 RL (横)	覆土下層	
1191	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2 本の沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	
1192	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2 本の沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	
1193	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2 本の沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP91	土器片錘	4.2	3.5	0.9	16.5	長石・石英	灰褐	胴部片 周縁部粗雑に研磨 両端にキザミ目	覆土中	

第 444 号土坑 (第 430 図)

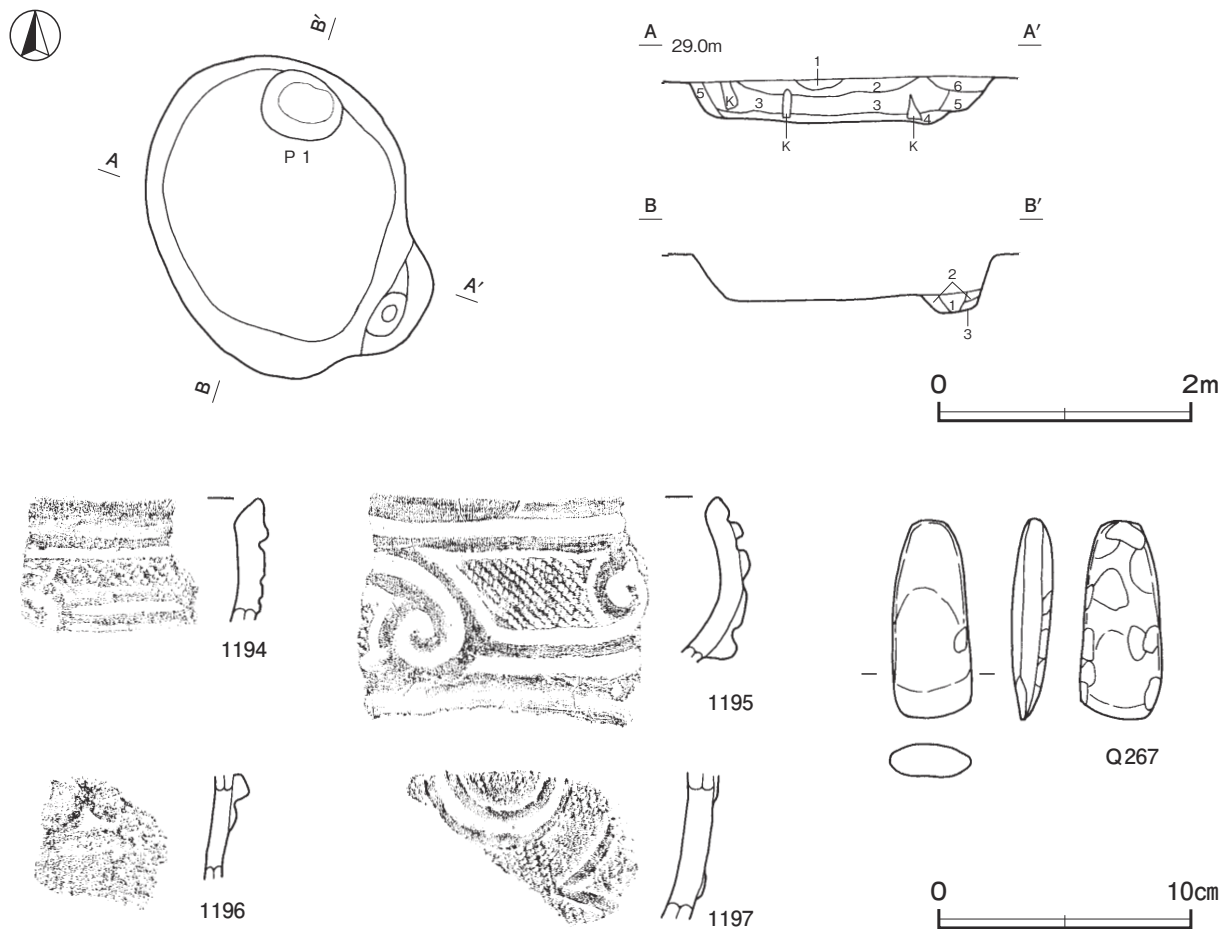
位置 調査区中央部の C 3 j8 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.60 m、短径 2.18 m の不整楕円形で、長径方向は N - 48° - W である。底面は平坦で、深さは 38cm である。壁は緩やかに傾斜している。

ピット 北壁際に位置し、長径 60cm、短径 50cm の楕円形で、深さは 14cm である。第 1・2 層から小礫がまとまって出土している。特殊な貯蔵形態を示している可能性があるが、詳細は不明である。

ピット土層解説

- 1 黒褐色 小礫 (径 0.5 ~ 3cm) 多量, ロームブロック少量
- 2 黒褐色 小礫 (径 0.5 ~ 3cm) 多量, ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量



第 430 図 第 444 号土坑・出土遺物実測図

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------|---------|--------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 72 点 (深鉢), 石器 1 点 (磨製石斧), 石核 1 点 (瑪瑙) が出土している。1194 ~ 1197, Q 267 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 444 号土坑出土遺物観察表 (第 430 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1194	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部低い隆帯が一巡 隆帯に沿って沈線 地文に単節縄文 RL (横) 低い隆帯と沈線による 凹文・楕円区画文	覆土中	
1195	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	口縁上部に太沈線が一巡 隆帯と沈線による区 画文・渦巻文 区画内単節縄文 RL (横) 頸部 無文帯	覆土中	
1196	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	隆帯による摘み状の貼付	覆土中	
1197	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (横) 隆帯による二重凹文・ 剣先文	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 267	磨製石斧	7.9	3.2	1.6	66.4	緑色岩	小型 全面研磨 両側縁に稜 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	PL169

第 451 号土坑 (第 431 図 PL71)

位置 調査区南東部の D 4 c3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号陥し穴を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は長径 1.72 m, 短径 1.20 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 0° である。底面は長径 1.58 m, 短径 1.27 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 100cm である。壁は底面から緩やかに内彎して, 袋状を呈している。

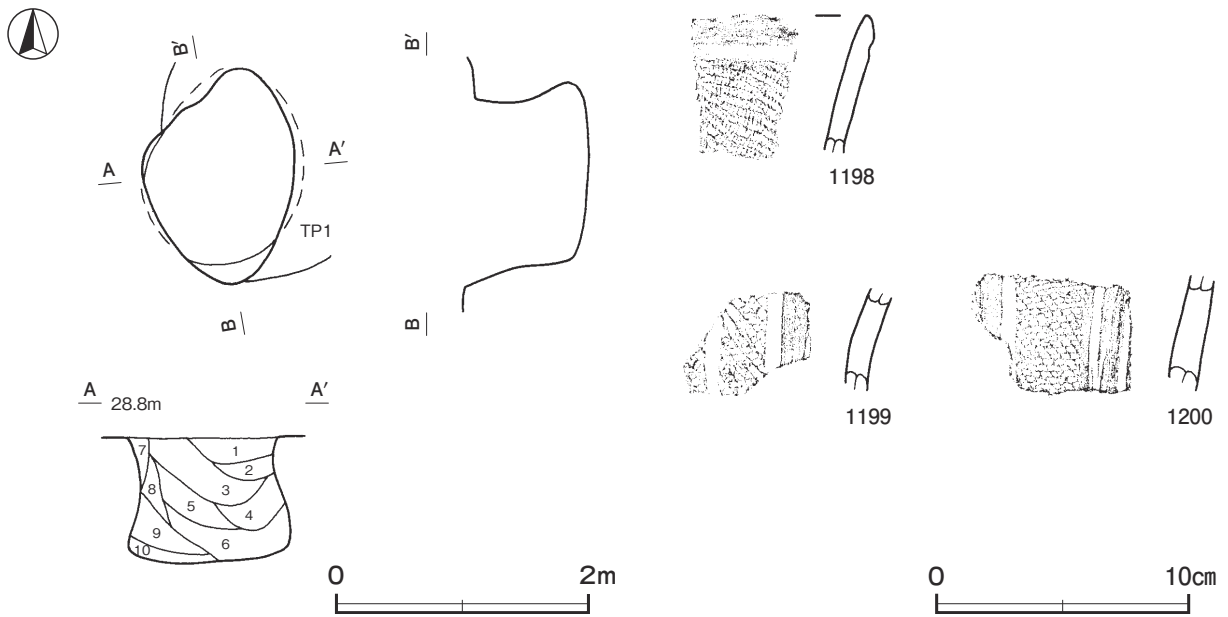
覆土 10 層に分層できる。各層にローム粒子や炭化粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 195 点 (深鉢 194, 浅鉢 1), 石器 1 点 (打製石斧) が出土している。1198 ~ 1200 は, 覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 431 図 第 451 号土坑・出土遺物実測図

第 451 号土坑出土遺物観察表 (第 431 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1198	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	黒褐	普通	口唇頂部に浅い刺突 口縁部無文 浅い沈線が一巡 地文に 0 段多条縄文 RL (斜)	覆土中	
1199	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 太沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
1200	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に 1 段多条縄文 LR (縦) 太沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	

第 455 号土坑 (第 432 図)

位置 調査区東部の C 4 j2 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 477・521 号土坑を掘り込み, 第 457 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.68 m, 短径 1.32 m の楕円形で, 長径方向は N - 31° - E である。底面は平坦で, 深さは 11cm である。壁は緩やかに傾斜している。

ピット 東壁際に位置し, 径 20cm の円形で, 深さは 10cm である。形状から柱穴と考えられる。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

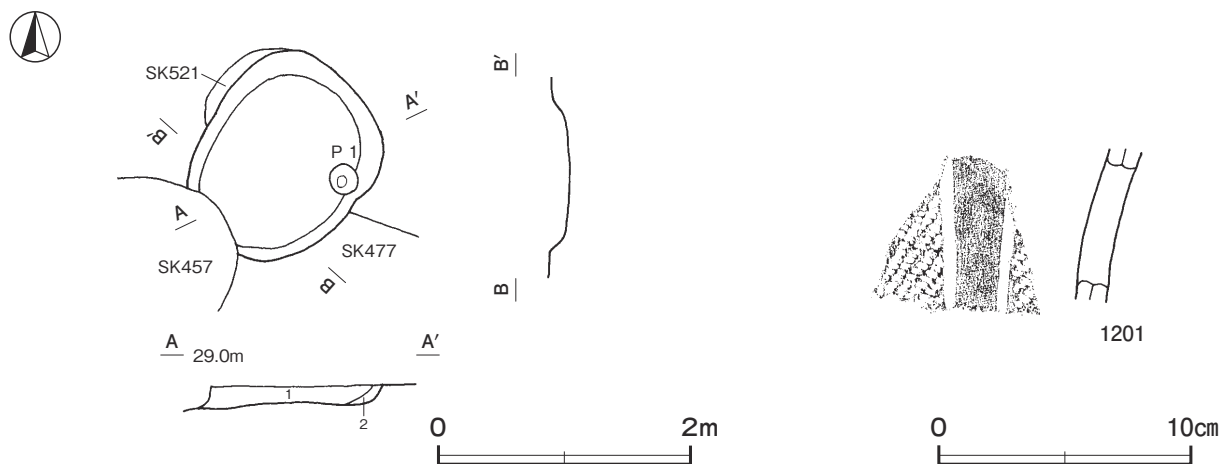
土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 9 点 (深鉢 6, 浅鉢 3) が出土している。1201 は, 覆土中から出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 柱穴と考えられるピットを有する貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 432 図 第 455 号土坑・出土遺物実測図

第 455 号土坑出土遺物観察表 (第 432 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
1201	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2 本の沈線が垂下沈線間磨消	覆土中	

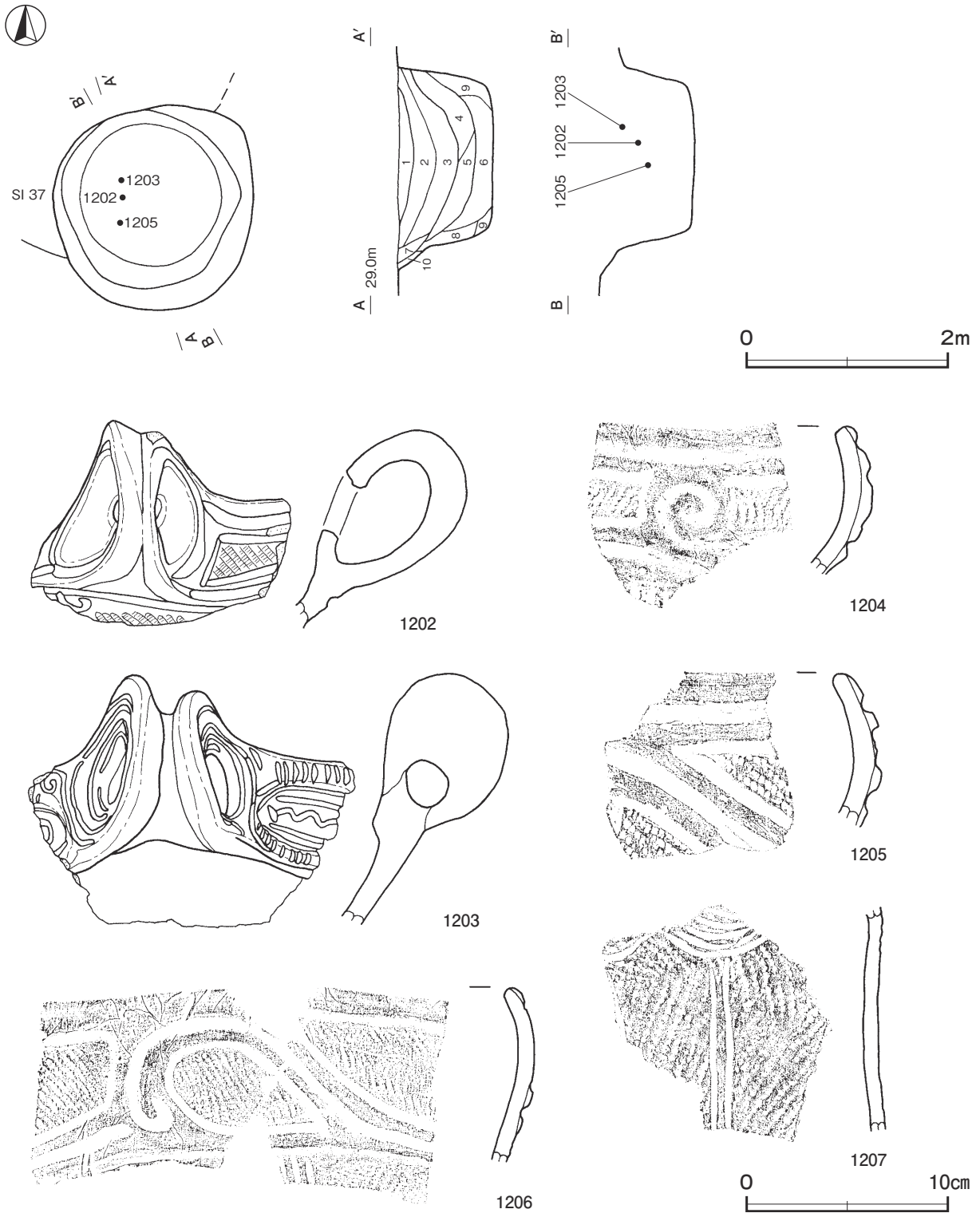
第 456 号土坑 (第 433 図 PL71)

位置 調査区中央部の C 3 j0 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 37 号竪穴建物跡を掘り込んでいます。

規模と形状 径 2.03 ~ 2.22 m の円形で, 底面は平坦である。深さは 93cm で, 壁は外傾している。

覆土 10 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く, 炭化物や焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。



第 433 図 第 456 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 9 暗 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 10 褐 色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 139 点（深鉢 137, 浅鉢 2）が出土している。1202・1205 は覆土中層から, 1203 は覆土上層から出土している。1204・1206・1207 は, 覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 456 号土坑出土遺物観察表（第 433 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1202	縄文土器	深鉢	-	(10.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	把手側縁に 1 本の沈線 沈線による横位の区画 把手下部に沈線 一部に厥手文 区画内及び地 文は無節縄文 L (縦)	覆土中層	PL141
1203	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	にぶい橙	良好	2 条の隆帯による中空の把手 把手周縁多重沈 線による渦巻文 把手に沿ってキザミ目のある 隆帯 沈線による楕円区画 区画内蛇行沈線 頸部無文帯	覆土上層	PL141
1204	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁上部に太沈線 隆帯と沈線による渦巻区画 区画内単節縄文 RL (縦)	覆土中	
1205	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁上部に太沈線 隆帯と太沈線による区画 区画内単節縄文 RL (横)	覆土中層	
1206	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	低い隆帯による渦巻区画 隆帯に沿って沈線を 付加 区画内単節縄文 RL (横) 胴部 (縦) 3 本の沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	PL141
1207	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL (斜・縦) 沈線による重弧 文から 2 本の沈線が垂下	覆土中	

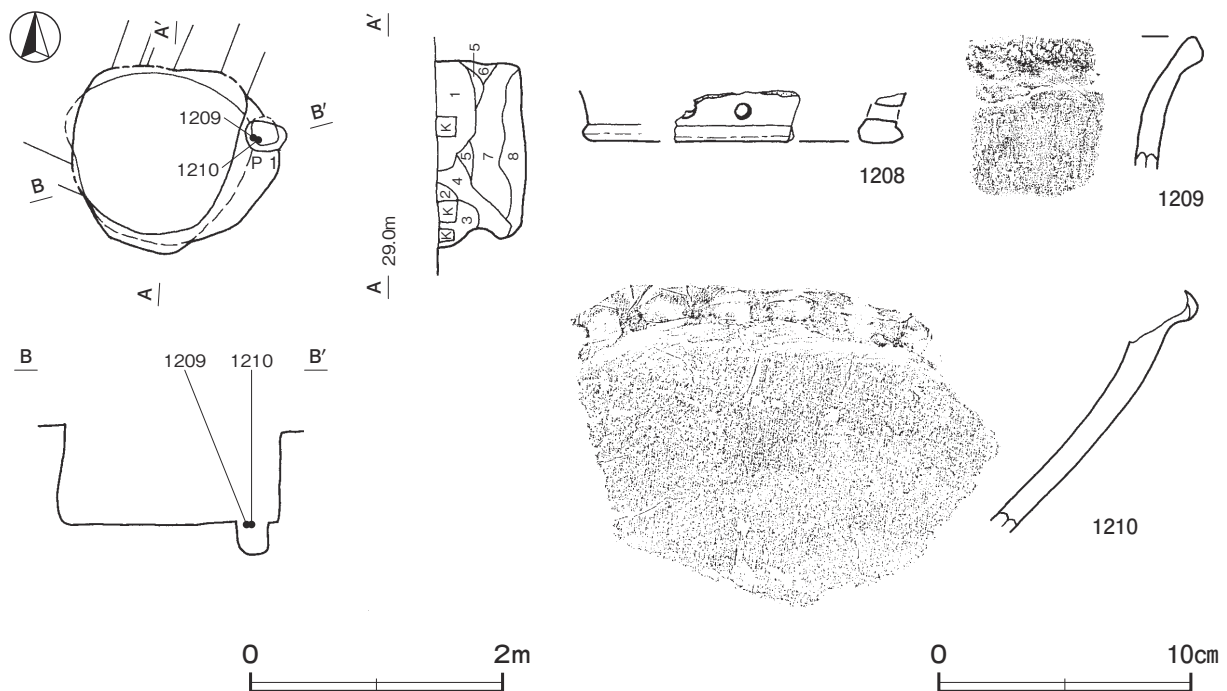
第 464 号土坑（第 434 図 PL72）

位置 調査区西部の C 3 e1 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径 1.65 m, 短径 1.50 m の楕円形で, 長径方向は N - 80° - W である。底面は長径 1.50 m, 短径 1.34 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 75cm である。壁は緩やかに内彎している。

ピット 東壁際に位置し, 径 30cm ほどの円形で, 深さは 28cm である。形状から柱穴と考えられる。

覆土 8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。



第 434 図 第 464 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 69 点（深鉢 63, 浅鉢 5, 器台 1）, 剥片 1 点（瑪瑙）が出土している。1209・1210 は、P 1 の覆土上層から出土している。1208 は、覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、柱穴と考えられるピットを有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 464 号土坑出土遺物観察表（第 434 図）

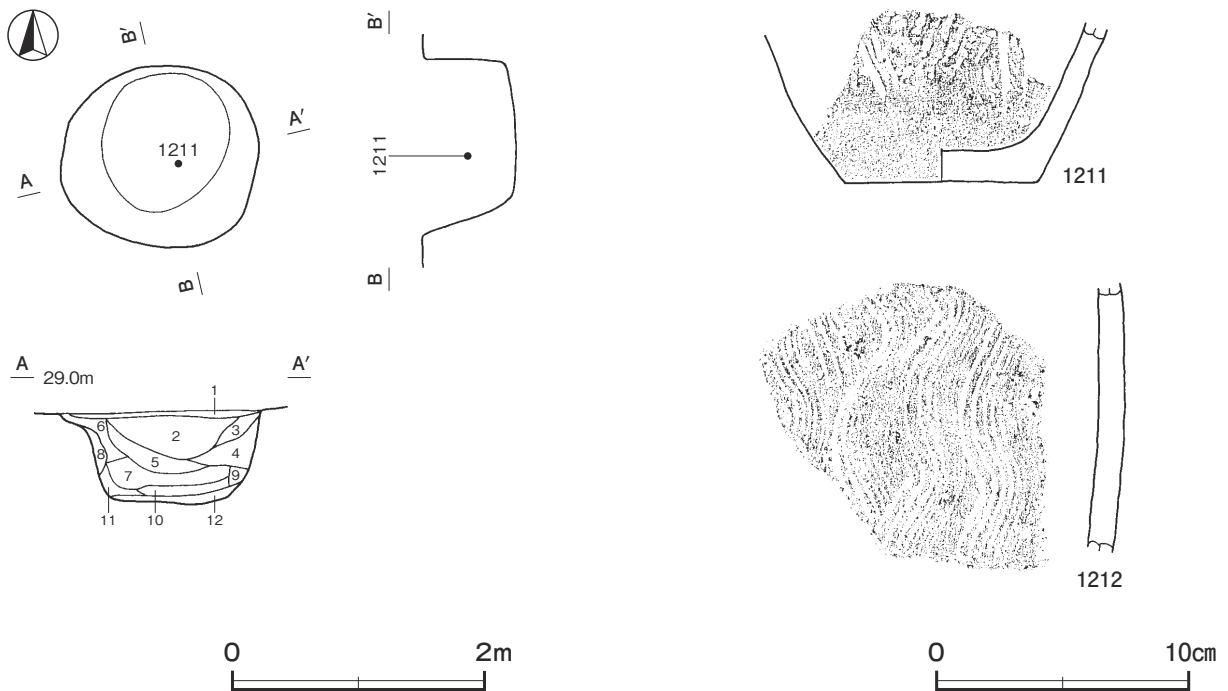
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1208	縄文土器	器台	-	(20)	[12.6]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	側縁に穿孔 底面は円形で中空	覆土中	
1209	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇外反部に単節縄文 RL（横） 胴部は縦方向のナデ	P 1 覆土上層	
1210	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇外反部に指頭による圧痕 外面斜方向のナデ 内面横方向のナデ	P 1 覆土上層	PL141

第 467 号土坑（第 435 図）

位置 調査区中央部の C 3 i5 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.60 m，短径 1.44 m の楕円形で，長径方向は N - 77° - W である。底面は平坦で，深さは 72cm である。壁は外傾している。

覆土 12 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。



第 435 図 第 467 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 40 点（深鉢）が出土している。1211 は覆土中層から、1212 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 467 号土坑出土遺物観察表（第 435 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
1211	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	7.7	長石・石英・雲母	明赤褐	良好	地文に単節縄文 RL (縦) 2 本単位の沈線が垂下 下端部横方向の磨き 底面は丁寧な磨き	覆土中層	10%
1212	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	普通	櫛歯状工具による縦位の蛇行条線文	覆土中	

第 468 号土坑（第 436 図）

位置 調査区西部の C 2 e0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.48 m、短径 1.08 m の楕円形で、長径方向は N - 24° - W である。底面は凹凸があり、深さは 40cm である。壁は緩やかに傾斜している。

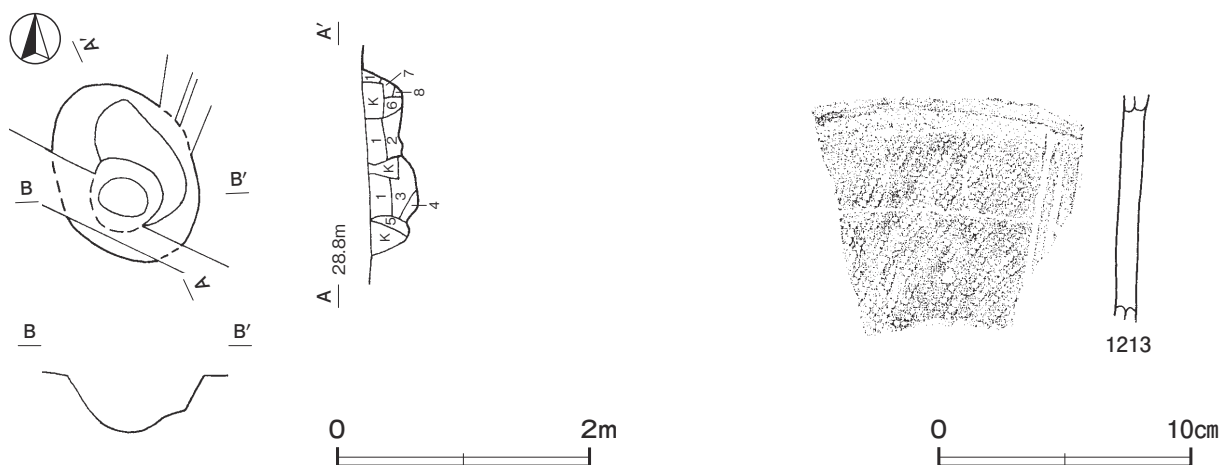
覆土 8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 13 点（深鉢）、礫 1 点（チャート）が出土している。1213 は、覆土中から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 436 図 第 468 号土坑・出土遺物実測図

第 468 号土坑出土遺物観察表 (第 436 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1213	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部低い隆帯が一巡 (縦) 3本の沈線垂下 地文に単節縄文 RL 沈線間磨消	覆土中	

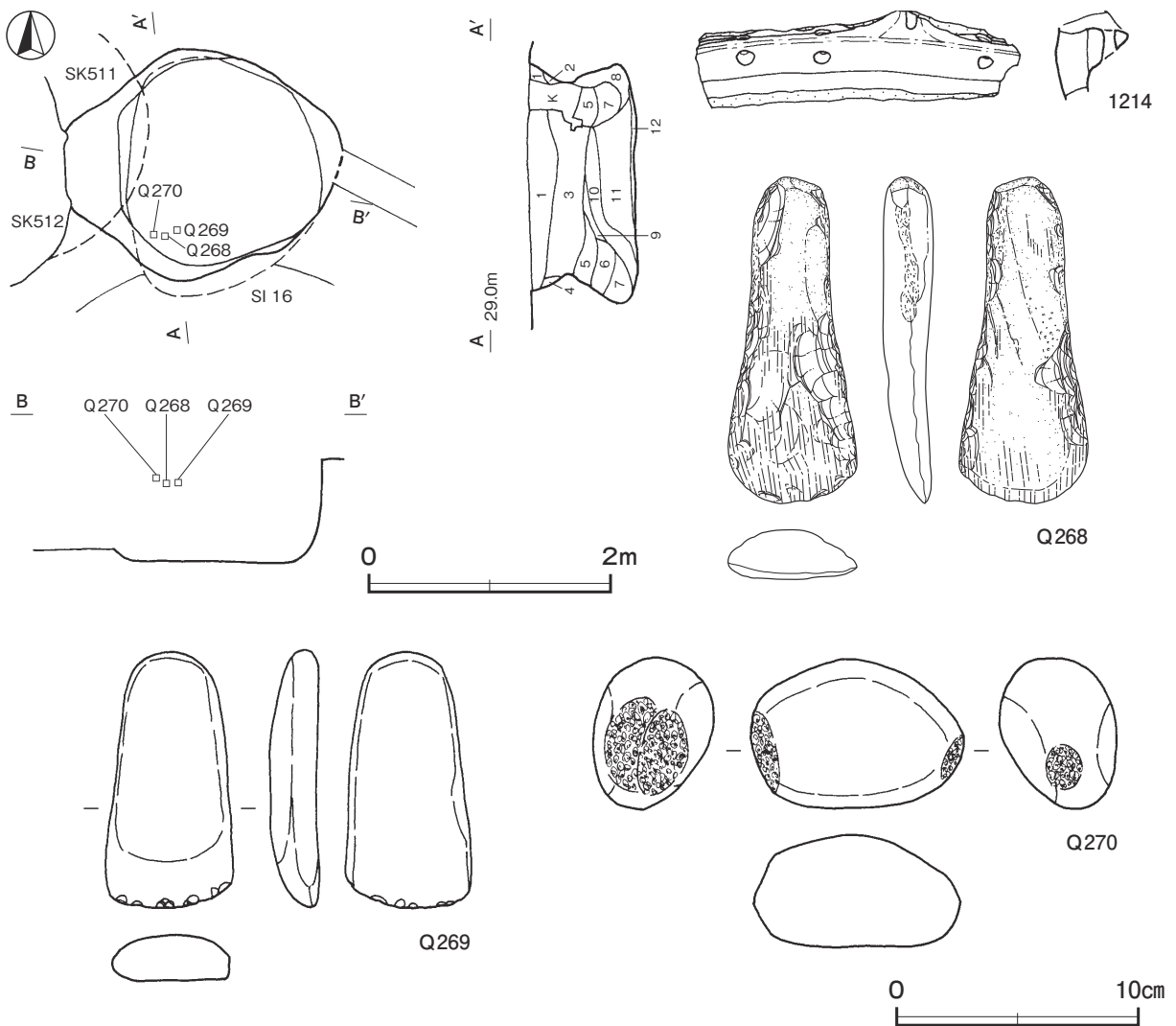
第 474 号土坑 (第 437 図 PL72)

位置 調査区西部の C 3e1 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 16 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 511・512 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.21 m, 短径 1.90 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 86° - E である。底面は長径 1.97 m, 短径 1.34 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 90cm である。壁は, 東壁がほぼ直立しており, 南北壁は内彎して, 袋状を呈している。

覆土 12 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子, 炭化粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。



第 437 図 第 474 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------|-----------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 12 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 241 点(深鉢 229, 浅鉢 11, 有孔鏝付土器 1), 石器 3 点(打製石斧, 磨製石斧, 敲砥石), 剥片 7 点(チャート 3, 石英 2, 瑪瑙 2) が出土している。Q 268 ~ Q 270 は覆土上層から, 1214 は, 覆土中から出土している。いずれも埋め戻した後の凹みに投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期と考えられるが, 詳細は不明である。

第 474 号土坑出土遺物観察表 (第 437 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1214	縄文土器	有孔鏝付土器	-	(38)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	隆帯を鏝状に巡らせ, 隆帯へ垂直に穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 268	打製石斧	13.6	5.9	2.1	160.2	石英片岩	新形 両側縁敲打調整 刃部は表裏を研磨 末広がり	覆土上層	PL166
Q 269	磨製石斧	10.6	5.2	2.0	186.6	変質安山岩	新形 表裏及び側縁部研磨 刃部は片面を研ぎ出す	覆土上層	PL168
Q 270	敲砥石	6.3	8.9	4.9	367.4	石英	楕円礫の両端部に微細な敲打痕	覆土上層	PL173

第 491 号土坑 (第 438 図)

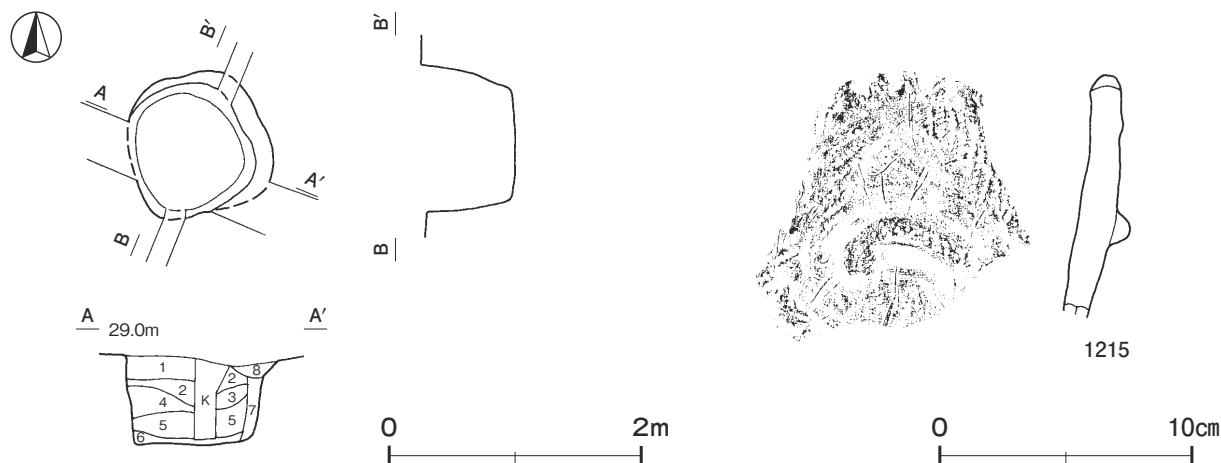
位置 調査区中央部の C 3 g8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.22 m ほどの円形で, 底面は平坦である。深さは 72cm である。壁はほぼ直立している。

覆土 8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |



第 438 図 第 491 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 72 点(深鉢), 剥片 1 点(安山岩)が出土している。1215 は, 覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 491 号土坑出土遺物観察表 (第 438 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1215	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	把手頂部に 4 か所のギザミ目 把手中央に隆帯による渦巻文 周縁部・隆帯上に単節縄文 RL (縦・斜)	覆土中	

第 492 号土坑 (第 439 図)

位置 調査区中央部の C 3 g9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.12 m, 短径 0.96 m の楕円形で, 長径方向は N - 63° - E である。底面は平坦で, 深さは 48cm である。壁は直立している。

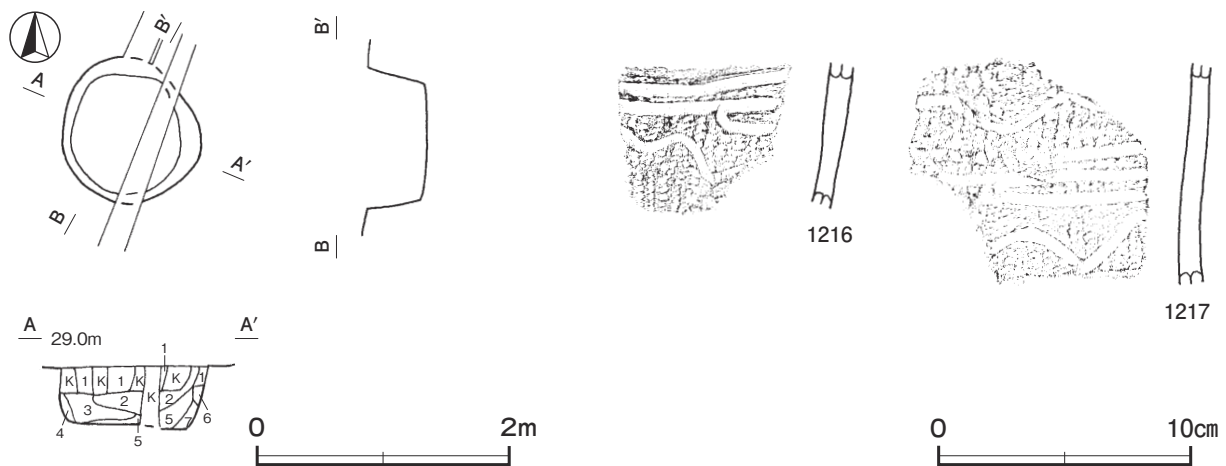
覆土 7 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 135 点 (深鉢 133, 浅鉢 2) が出土している。

所見 規模と形状から, 小型の貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 439 図 第 492 号土坑・出土遺物実測図

第 492 号土坑出土遺物観察表 (第 439 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1216	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	地文に単節縄文 RL (斜) 横位の並行沈線文・蛇行沈線	覆土中	1217 と同一個体。
1217	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	地文に単節縄文 RL (斜) 横位の並行沈線文・蛇行沈線	覆土中	1216 と同一個体。

第 499 号土坑（第 440 図）

位置 調査区中央部の C 3h3 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.12 m，短径 0.98 m の楕円形で，長径方向は N - 25° - W である。底面は平坦で，深さは 18cm である。壁は緩やかに傾斜している。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

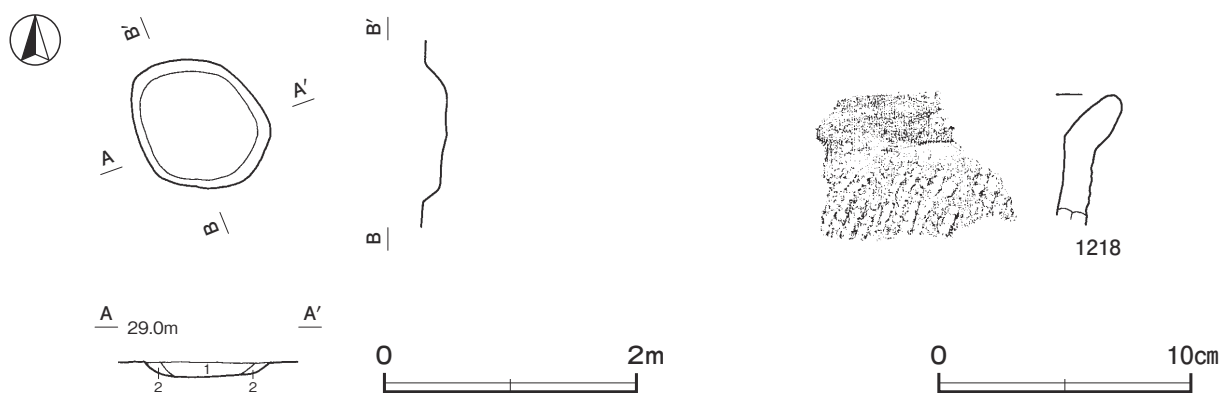
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 8 点（深鉢）が出土している。1218 は，覆土中から出土していることから，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，小型の貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。



第 440 図 第 499 号土坑・出土遺物実測図

第 499 号土坑出土遺物観察表（第 440 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1218	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部無文 口縁直下から単節縄文 RL（縦）	覆土中	

第 500 号土坑（第 441 図）

位置 調査区中央部の C 3h3 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.52 m，短径 1.30 m の楕円形で，長径方向は N - 83° - W である。底面は平坦で，深さは 66cm である。壁はほぼ直立している。

覆土 11 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量

7 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量

8 暗褐色 ロームブロック微量

3 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

9 黒褐色 ロームブロック少量

4 黒褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量

10 暗褐色 ロームブロック少量

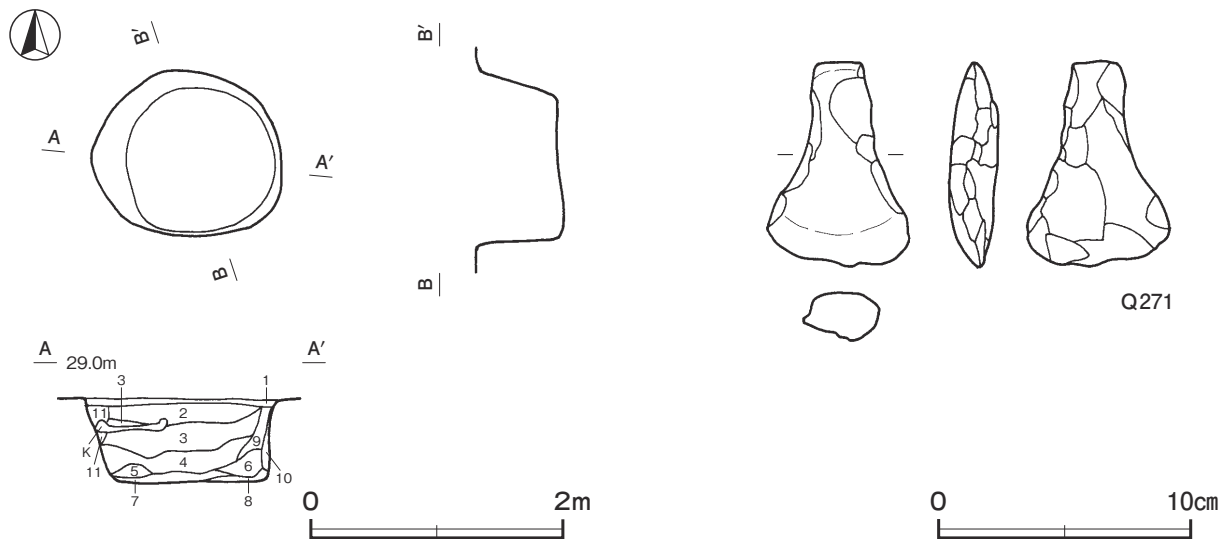
5 黒褐色 ロームブロック微量

11 褐色 ロームブロック少量

6 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 86 点（深鉢 85，浅鉢 1），石器 1 点（打製石斧），剥片 1 点（チャート）が出土している。Q 271 は，覆土中から出土していることから，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期と考えられるが，詳細は不明である。



第 441 図 第 500 号土坑・出土遺物実測図

第 500 号土坑出土遺物観察表（第 441 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 271	打製石斧	8.2	5.7	2.0	74.0	頁岩	新形 片面に自然面 側縁部表裏から敲打調整 刃部末広がり	覆土中	PL166

第 504 号土坑（第 442 図 PL72）

位置 調査区中央部の C 3 j4 区，標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径 2.12 ~ 2.13 m の円形である。底面はほぼ平坦で，深さは 78cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 3 か所。P 1 は西壁際に位置し，長径 46cm，短径 36cm の楕円形で，深さは 46cm である。P 2 は中央部に位置し，径 30cm ほどの円形で，深さは 52cm である。P 3 は中央部に位置し，長径 50cm，短径 42cm の楕円形で，深さは 58cm である。P 1・P 2 は，形状から柱穴と考えられる。P 3 は，形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 10 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

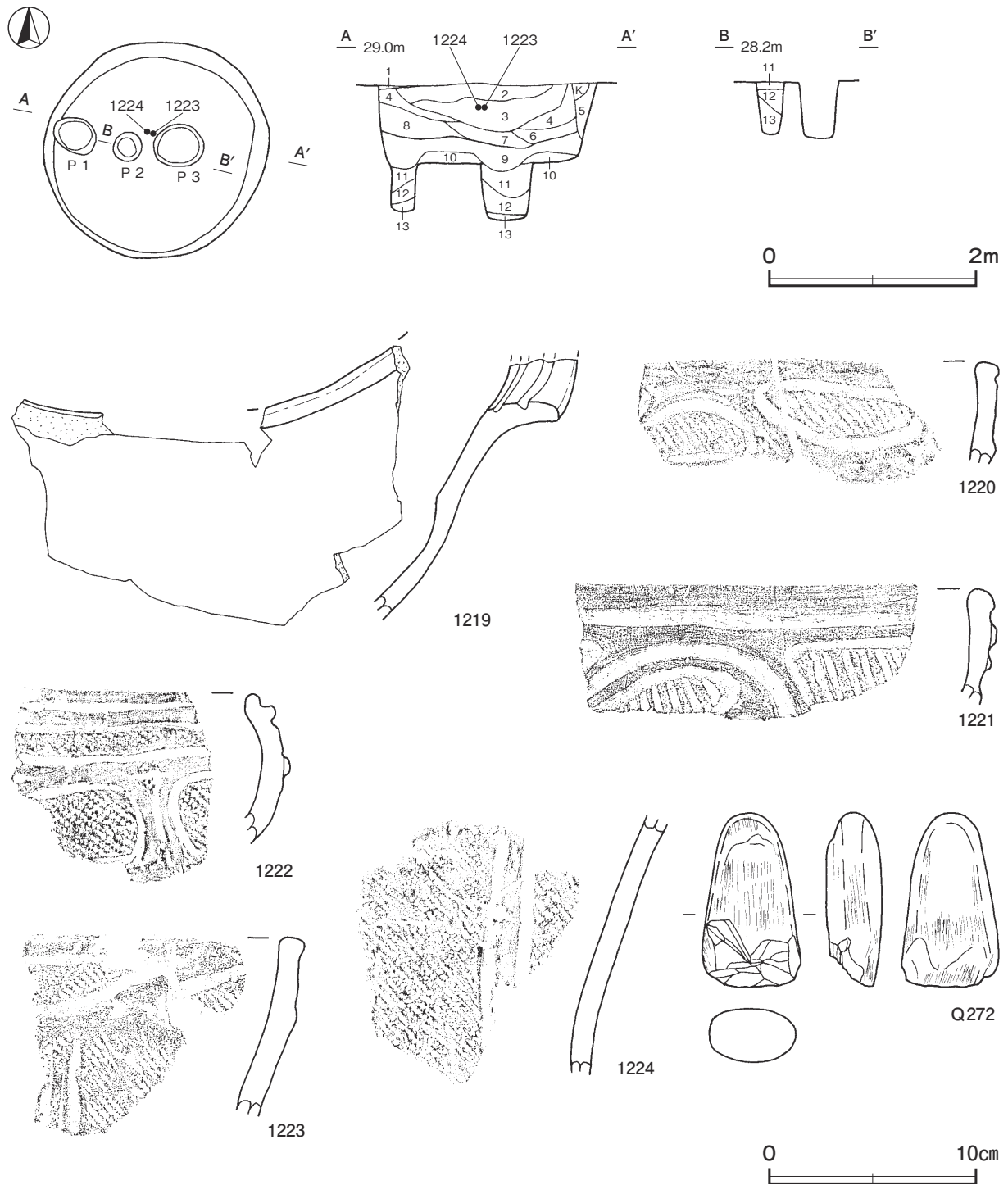
第 11 ~ 13 層は P 1 ~ P 3 の覆土である。

土層解説

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 9 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 10 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | 11 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック微量 | 12 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 13 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 151 点（深鉢 143，浅鉢 8），石器 1 点（打製石斧），剥片 2 点（チャート，石英）が，覆土上層から中層にかけて散乱した状態で出土している。1223・1224 は，破片で覆土上層から出土しており，ある程度埋まってから埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。



第 442 図 第 504 号土坑・出土遺物実測図

第 504 号土坑出土遺物観察表 (第 442 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1219	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・細礫	にぶい橙	普通	口唇部2本の周回する沈線文 外面磨き 内面稜	覆土中	
1220	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口縁に沿って隆帯貼付 地文に単節縄文 RL (横) 太沈線による楕円区画文	覆土中	
1221	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	太沈線を伴う隆帯による区画文 区画内斜位の 沈線文充填	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1222	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・細礫	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文RL(横) 沈線を伴う隆帯による楕円形区画文	覆土中	
1223	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文RL(横) 沈線を伴う隆帯による楕円形区画文 胴部2本の沈線による懸垂文	覆土上層	
1224	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	地文に単節縄文LR(縦) 2本の太沈線間磨消懸垂文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 272	打製石斧	8.5	4.8	2.7	144.7	石英片岩	撥形 刃部は自然礫の端部を片側から敲打	覆土中	PL165

第 509 号土坑 (第 443 図)

位置 調査区南部の C 3j1 区, 標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 径 0.79 ~ 0.84 m の円形で, 底面は平坦である。深さは 20cm で, 壁は外傾している。

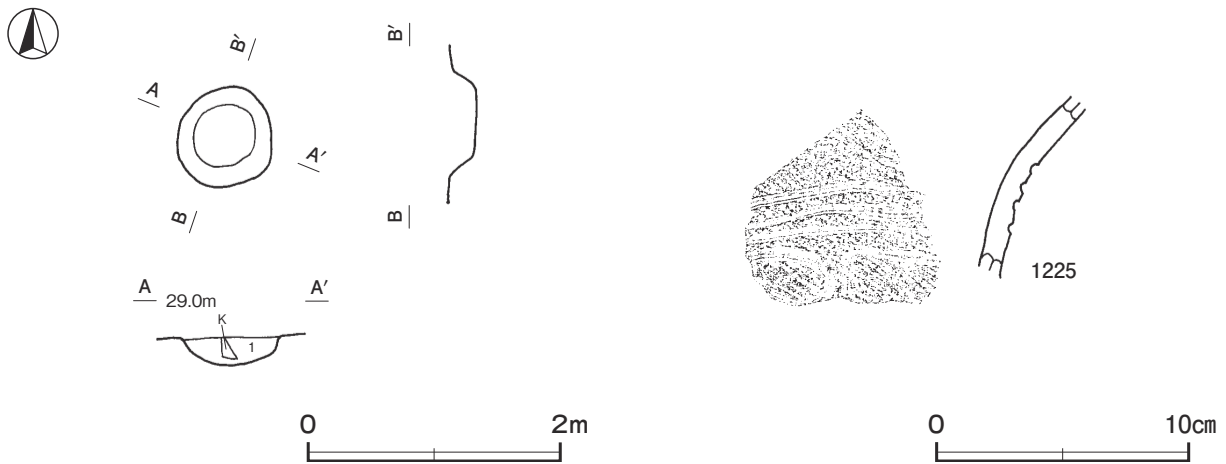
覆土 単一層。黒褐色土が堆積していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 1 点 (深鉢) が覆土中から出土している。

所見 性格は不明である。時期は, 出土土器から中期と考えられるが, 詳細は不明である。



第 443 図 第 509 号土坑・出土遺物実測図

第 509 号土坑出土遺物観察表 (第 443 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1225	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に単節縄文RL(横) 3本の沈線が周回 胴部縄文上に沈線による曲線文	覆土中	

第 511 号土坑 (第 444・445 図 PL73)

位置 調査区西部の C 2e0 区, 標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 474 号土坑を掘り込み, 第 512 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.54 m, 短径 1.38 m の楕円形で, 長径方向は N - 13° - W である。底面は径 2.04 ~ 2.10 m の不整形円で, ほぼ平坦である。確認面からの深さは 78cm で, 壁は西部はほぼ直立し, 東部は内傾して袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 40cm で, 形状から柱穴と考えられる。P 2 は深さ 30cm で, 位置と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

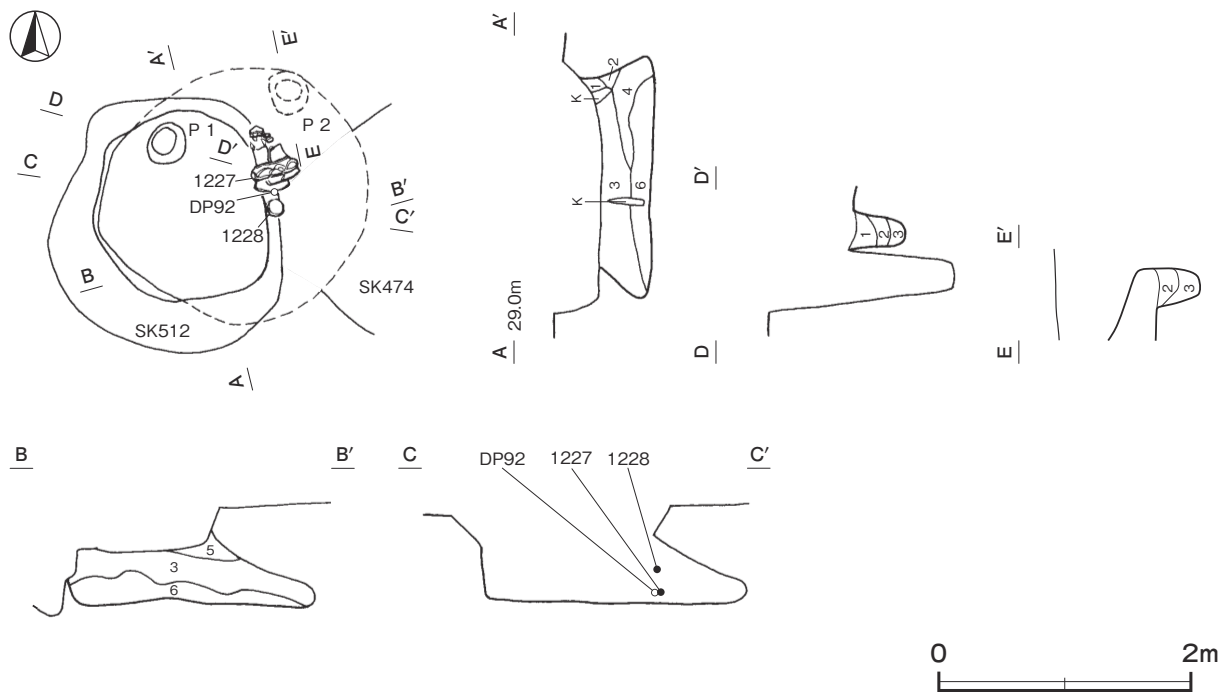
覆土 6層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 91 点 (深鉢), 土製品 1 点 (土器片錘) が出土している。1227 は覆土下層から上半部が横位で出土していることから, ある程度埋め戻された段階で投棄されたものである。1228 は覆土中層, DP92 は覆土下層からそれぞれ出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

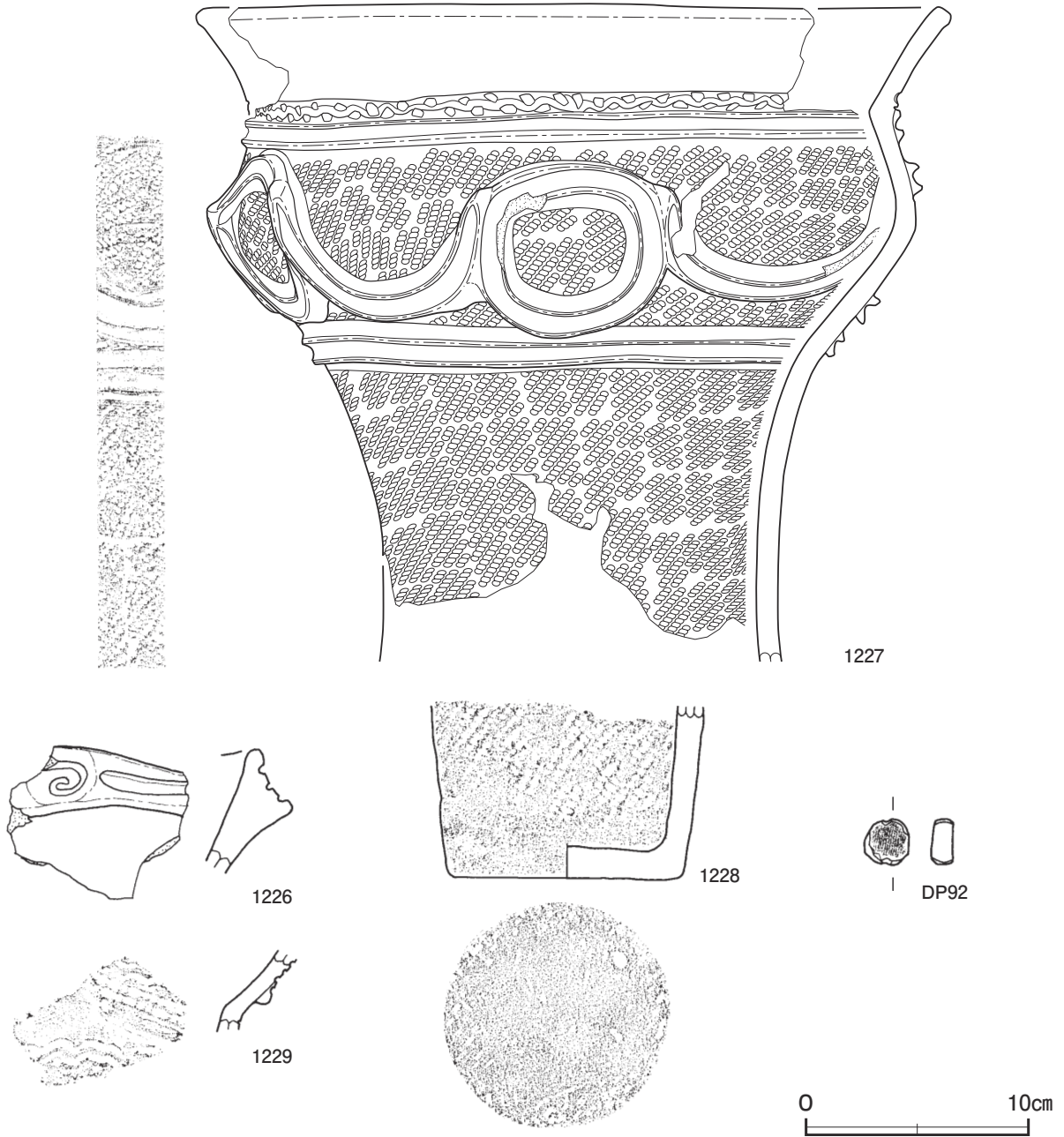
所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 444 図 第 511 号土坑実測図

第 511 号土坑出土遺物観察表 (第 445 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1226	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	波頂部渦巻文 口唇部太沈線文 口縁部無文	覆土中	
1227	縄文土器	深鉢	33.4	(29.6)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	交互刺突文と沈線を伴う隆帯で口頸部文様帯を区画 背割れ隆帯による楕円形文と弧状文 胴部単節縄文 RL (縦) 施文	覆土下層	60% PL142
1228	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	10.2	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文 RL (縦) 施文 底面周縁に網代痕	覆土中層	10% 内面煤付着
1229	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯に沿って 2 本の有節沈線文 頸部 2 本同一施文具による波状文	覆土中	



第 445 図 第 511 号土坑出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP92	土器片錘	2.0	2.0	1.0	4.9	長石・石英	にぶい橙	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土下層	

第 512 号土坑 (第 446 図 PL74)

位置 調査区西部の C 2e0 区, 標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 474・511 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径 2.01 ~ 2.13 m の不整円形で, 底面はほぼ平坦である。深さは 31cm で, 壁は外傾している。

ピット 3 か所。P 1 は南壁際, P 2 は南西壁際, P 3 は北西壁際に位置し, 深さは 45cm・122cm・121cm である。

いずれも, 形状から柱穴と考えられる。

ビット土層解説 (P1・P3)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | |

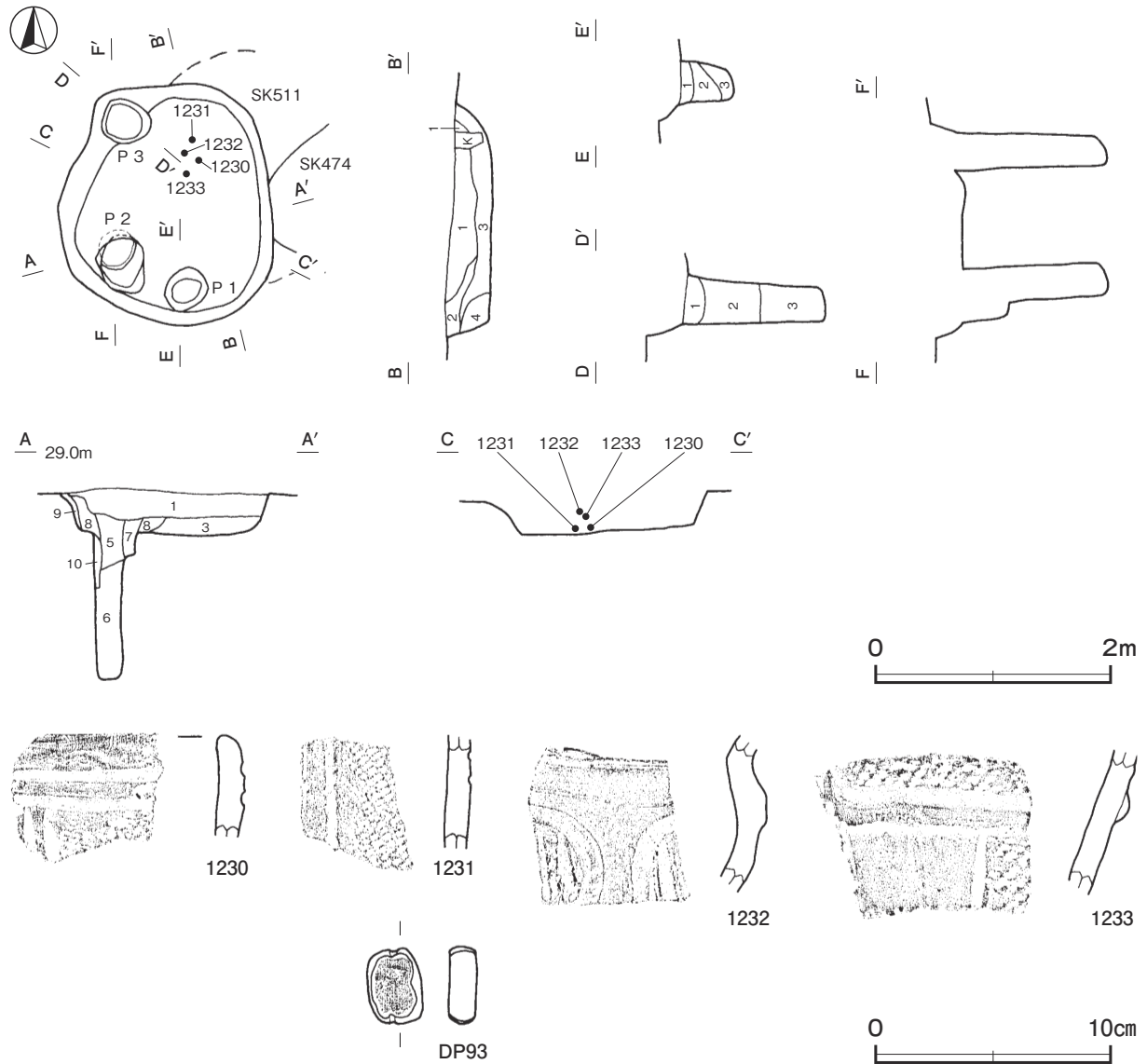
覆土 4層に分層できる。第1層は、黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第2～4層はローム粒子や炭化粒子が含まれていることから埋め戻されている。第5～10層はP2の覆土で、第5・6層は柱痕跡、第7～10層は掘方への埋土である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量 | 7 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 褐色 ローム粒子中量 | 9 褐色 ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 10 暗褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 57点 (深鉢54, 浅鉢3), 土製品1点 (土器片錘), 剥片1点 (砂岩) が中央部の覆土中層を中心に出土している。1230・1231は破片で覆土下層から, 1232・1233は破片で覆土中層からそれぞれ出土し, 流れ込んだか投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第446図 第512号土坑・出土遺物実測図

第 512 号土坑出土遺物観察表 (第 446 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1230	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁に沿って2本の太沈線文周囲 胴部単節縄文RL(縦) 2本の沈線による懸垂文	覆土下層	
1231	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文LR(縦) 沈線が垂下 沈線間磨消	覆土下層	
1232	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	太沈線を伴う隆帯区画文 区画内沈線文で充填	覆土中層	
1233	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	隆帯による区画文 区画内単節縄文LR(横) 胴部(縦) 幅広の磨消懸垂文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP93	土器片錘	3.3	2.3	1.2	11.0	長石・石英・細礫	にぶい橙	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土下層	

第 513 号土坑 (第 447・448 図 PL74)

位置 調査区東部の C 4 j5 区, 標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

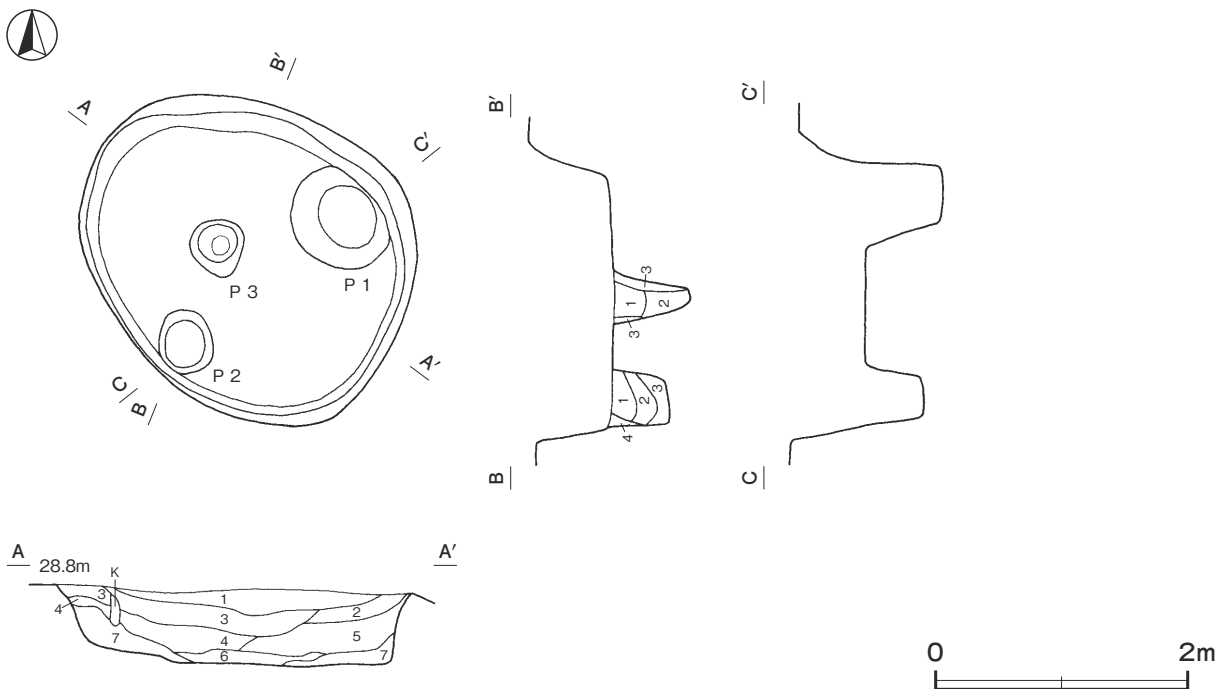
規模と形状 長径 2.80 m, 短径 2.41 m の楕円形で, 長径方向は N - 53° - W である。底面はほぼ平坦で, 深さは 56cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 3 か所。P 1 は北東壁際に位置し, 長径 85cm, 短径 66cm の楕円形で, 深さは 61cm である。P 2 は南西壁際に位置し, 長径 52cm, 短径 44cm の楕円形で, 深さは 46cm である。P 3 は中央部に位置し, 長径 48cm, 短径 44cm の円形で, 深さは 63cm である。P 1・P 2 は, 位置や形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。P 3 は, 位置や形状から柱穴と考えられる。

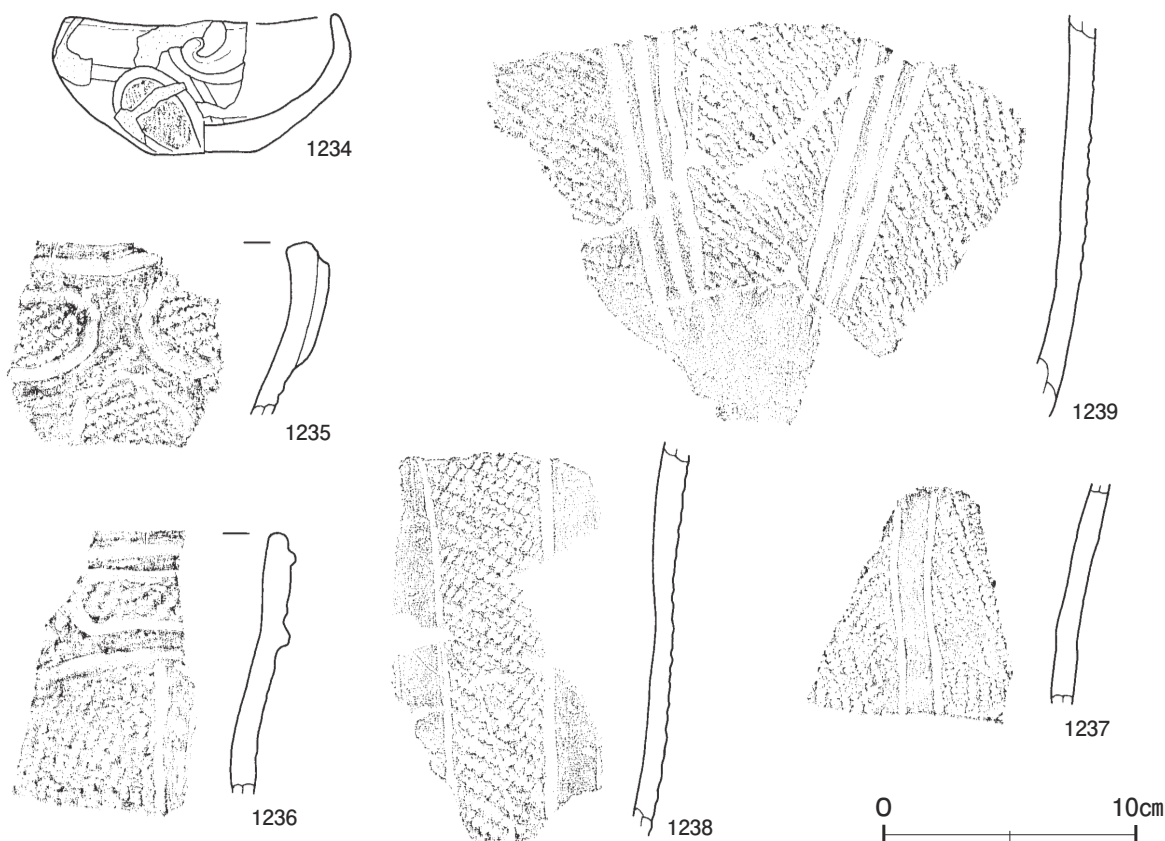
ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック少量

覆土 7層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。



第 447 図 第 513 号土坑実測図



第 448 図 第 513 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 217 点（深鉢 201, 浅鉢 15, 小型浅鉢 1）, 石器 1 点（磨石）, 剥片 1 点（安山岩）が, 覆土全体から散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 513 号土坑出土遺物観察表（第 448 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
1234	縄文土器	小型浅鉢	[10.5]	5.5	4.0	長石・石英	黄灰	普通	口縁部渦巻文を伴う隆帯による区画文 胴部太沈線による楕円形区画 区画内単節縄文 RL (縦) による充填縄文	覆土中	40%
1235	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文は単節縄文 RL (縦) 太沈線を伴う隆帯による楕円形区画	覆土中	
1236	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部区画内単節縄文 LR (横) 胴部 (縦) 太沈線を伴う隆帯による楕円形区画文 やや幅広い沈線間磨消懸垂文	覆土中	
1237	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	単節縄文 RL (横) を地文とし, 一部回転方向を変え, 羽状構成 沈線間磨消懸垂文	覆土中	
1238	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	0 段多条縄文 LR (縦) を地文とし, 太沈線間磨消懸垂文	覆土中	PL142
1239	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	複節縄文 LRL (縦) 3 本の沈線による懸垂文 沈線間磨消	覆土中	PL142

第 517 号土坑 (第 449 図 PL74)

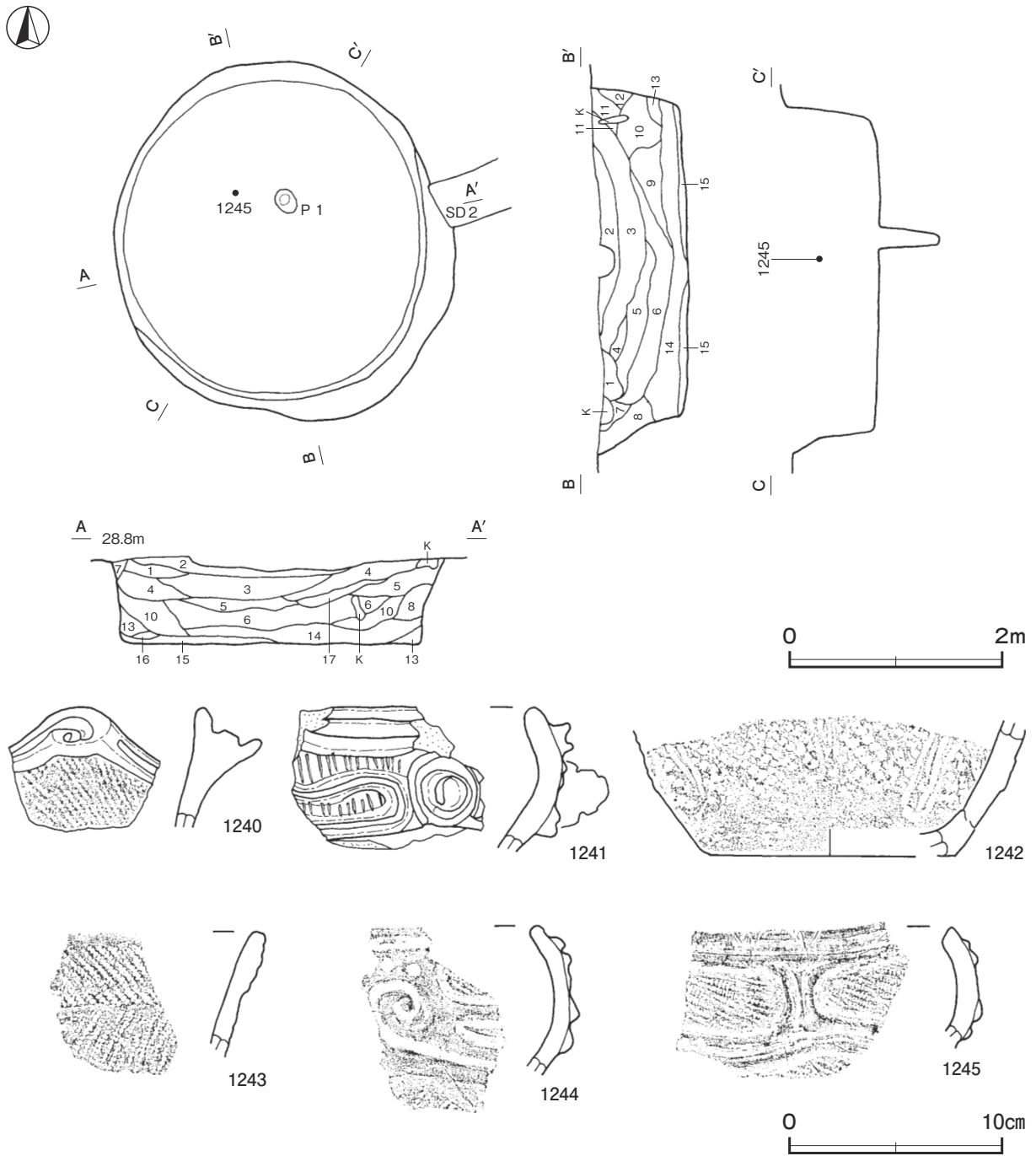
位置 調査区中央部の D 3 a7 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 2 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径 3.44 m, 短径 3.07 m の楕円形で, 長径方向は N - 28° - W である。底面は平坦で, 深さは 79cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 中央部に位置し, 深さ 59cm である。位置や形状から, 柱穴と考えられる。

覆土 17 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。



第 449 図 第 517 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 にぶい褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 16 褐色 | ロームブロック多量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量 | 17 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 426 点（深鉢 411, 浅鉢 15）, 石器 1 点（磨石）, 剥片 1 点（石英）が, 覆土全体から散乱した状態で出土している。1245 は覆土中層から出土しており, 埋土とともに投棄されたものである。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

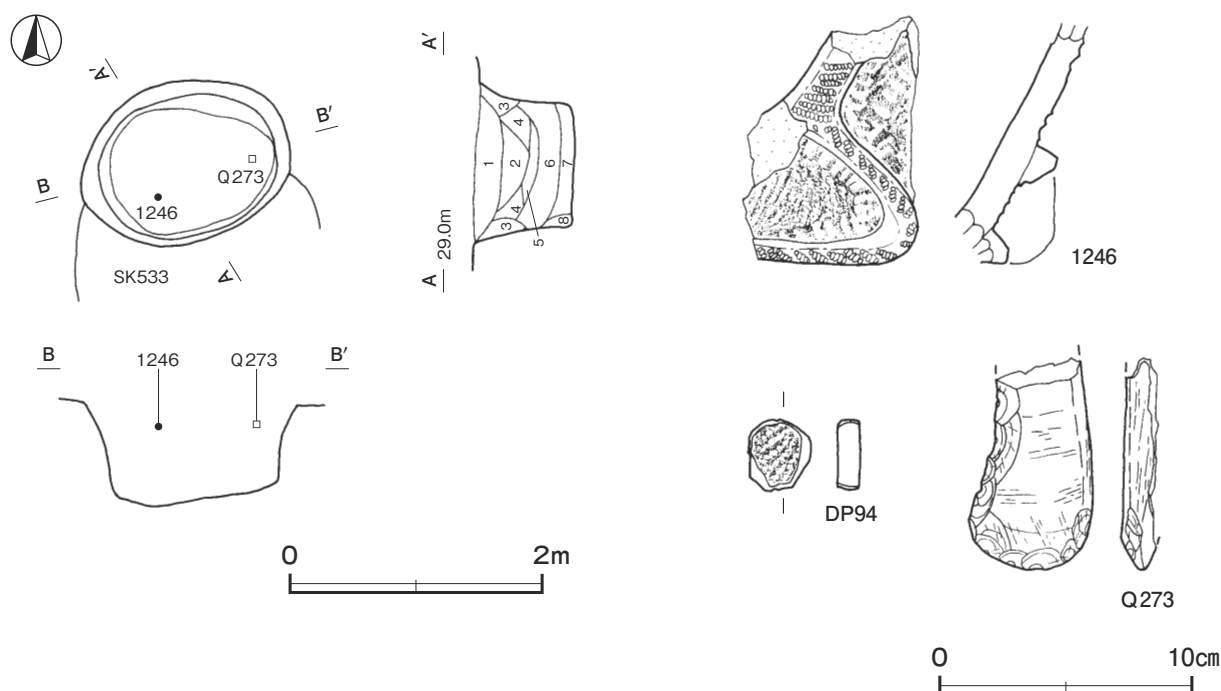
第 517 号土坑出土遺物観察表（第 449 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1240	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部沈線文 (縦) 施文 波頂部渦巻文 単節縄文 LR	覆土中	
1241	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	捻り突起 背割れ隆帯による区画文 区画内クランク文 糸線文充填	覆土中	
1242	縄文土器	深鉢	-	11.6	(5.9)	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	明褐	普通	複節縄文 LRL (縦) を地文とし, 3 本単位の沈線による懸垂文	覆土中	
1243	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁に沿って幅広の隆帯貼付 単節縄文 RL と LR 横回転による羽状構成	覆土中	
1244	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	沈線を伴う隆帯による区画文 区画間円形刺突文・渦巻文	覆土中	
1245	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	0 段多糸縄文 RL (横) 沈線を伴う隆帯による楕円形区画文	覆土中層	

第 518 号土坑（第 450 図 PL75）

位置 調査区中央部の C 3j8 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 533 号土坑を掘り込んでいる。



第 450 図 第 518 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径 1.70 m, 短径 1.28 m の楕円形で, 長径方向は N - 71° - E である。底面はほぼ平坦である。深さは 78cm で, 壁は直立している。

覆土 8 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | | |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 157 点 (深鉢 154, 浅鉢 3), 土製品 1 点 (土器片錘), 石器 1 点 (磨製石斧) が, 覆土中層から上層にかけて, 散乱した状態で出土している。1246 と Q 273 はそれぞれ覆土上層から出土しており, 流れ込んだか投棄されたものと思われる。

所見 規模や形状から, 貯蔵穴と思われる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 518 号土坑出土遺物観察表 (第 450 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1246	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐色	普通	隆帯上及び区画内に単節縄文 RL (横・縦) 隆帯に沿って連続爪形文	覆土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP94	土器片錘	2.8	2.5	0.9	8.3	長石・石英	にぶい赤褐色	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
Q 273	磨製石斧	(8.5)	5.0	(1.4)	(82.9)	緑色岩	短冊形 裏面剥離 表面に研磨痕 片側縁敲打 刃部は敲打調整後研ぎ出す 基部欠損	覆土上層			

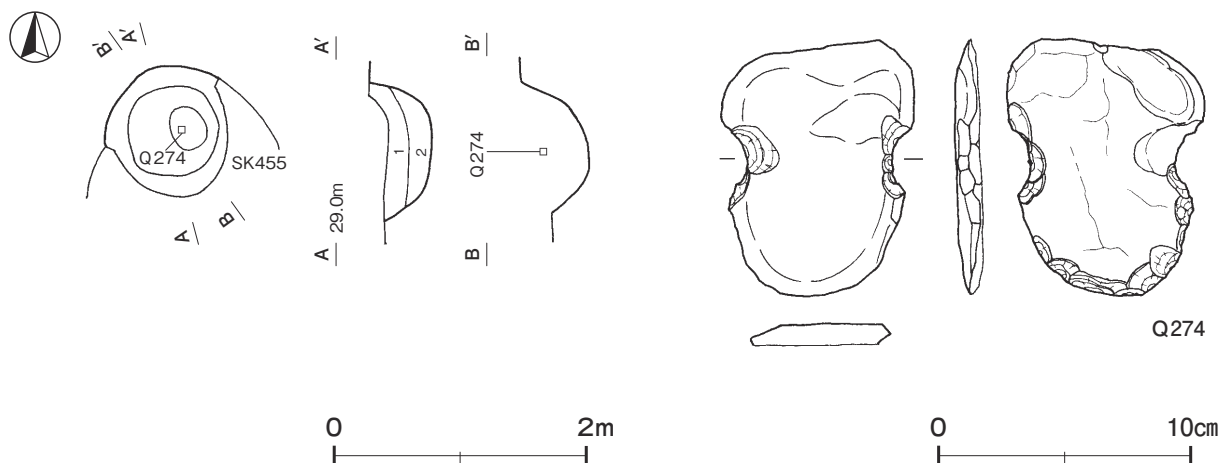
第 521 号土坑 (第 451 図)

位置 調査区東部の C 4j2 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 455 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.00 ~ 1.05 m の円形で, 底面は皿状である。深さは 52cm で, 壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。北側からの流入が見られる自然堆積である。



第 451 図 第 521 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

遺物出土状況 石器1点(打製石斧)が覆土上層から出土しており,流れ込んだか投棄されたものと思われる。

所見 性格は不明である。時期は中期と考えられるが,詳細は不明である。

第521号土坑出土遺物観察表(第451図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 274	打製石斧	10.3	7.7	(1.1)	(113.6)	ホルンフェルス	分銅形 片面に自然面 挟り部は表裏を敲打 刃部は片面を敲打	覆土上層	PL162

第522号土坑(第452図)

位置 調査区東部のD4b8区,標高27mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 径0.82mの円形である。底面は平坦である。深さは21cmで,壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。黒褐色土がレンズ状に堆積していることから,自然堆積である。

土層解説

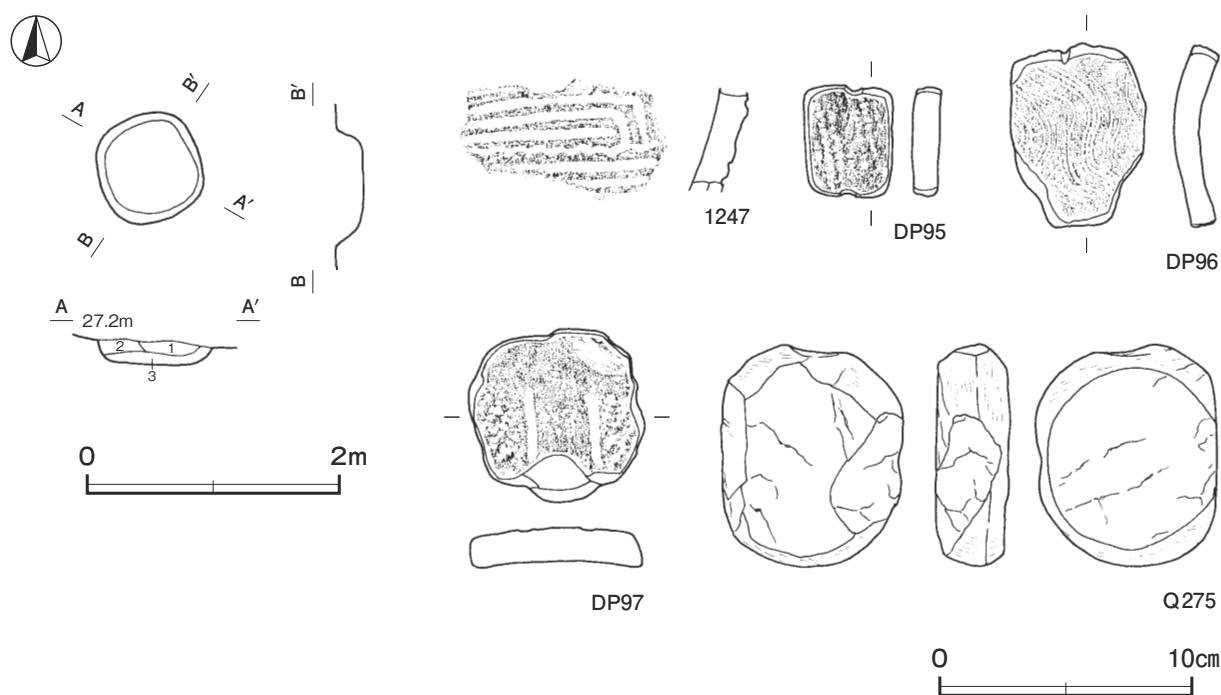
1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片29点(深鉢),土製品4点(土偶1,土器片錘2,土器片円盤1),石器1点(敲砥石)が,覆土中からまばらに出土している。土偶片は,約80m西側に位置する第532号土坑から出土した破片(DP103)と接合している。破碎後,投棄されていたものが,流れ込んだものと思われる。

所見 性格は不明である。時期は出土土器から中期と考えられるが,詳細は不明である。土偶片が,第532号土坑から出土した破片と接合していることから,同時期に開口していたと考えられる。



第452図 第522号土坑・出土遺物実測図

第 522 号土坑出土遺物観察表 (第 452 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1247	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	棒状工具による沈線で矩形文・横走文・波状文	覆土中	

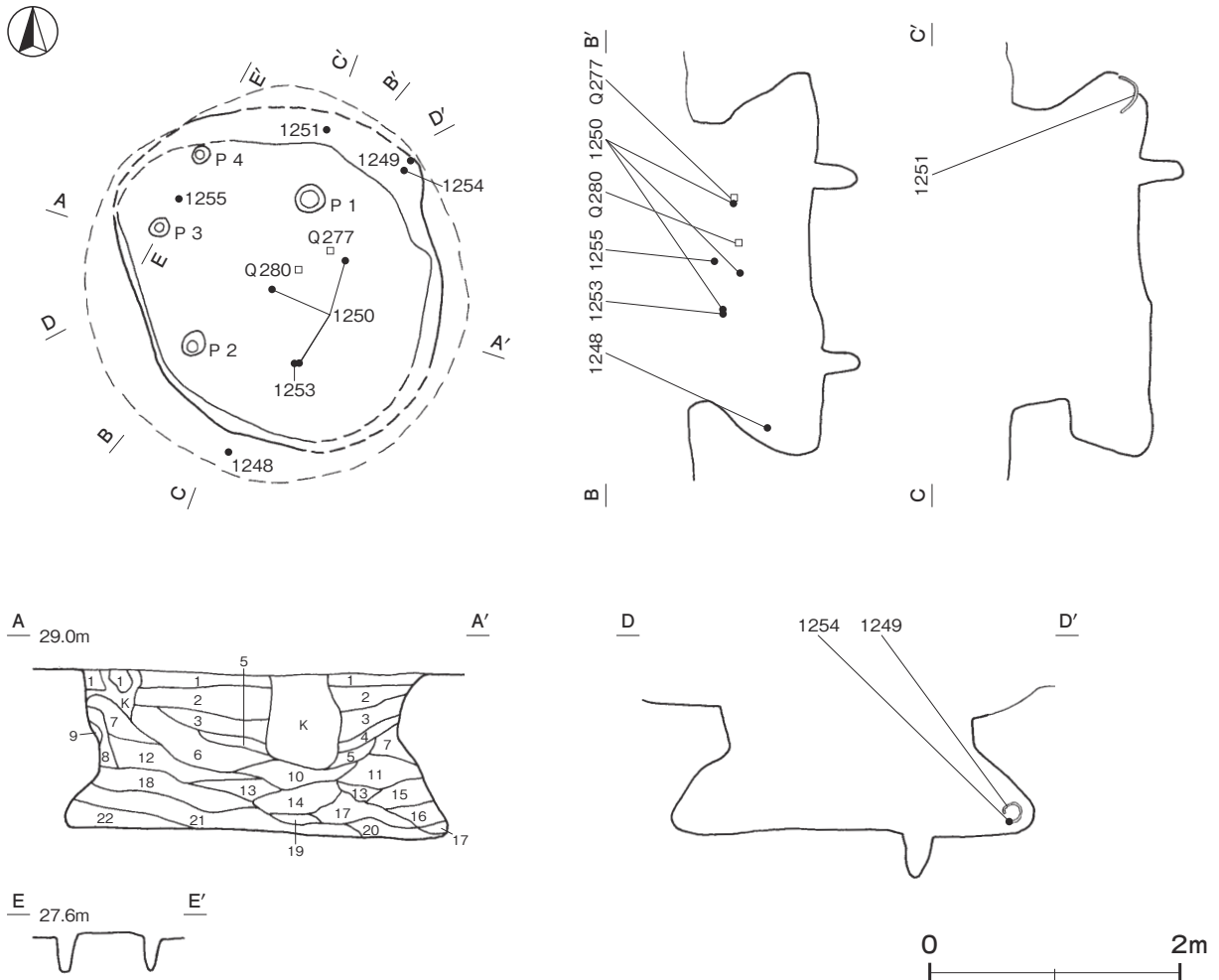
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP95	土器片錘	4.5	3.6	1.1	26.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	
DP96	土器片錘	7.2	5.4	1.1	54.4	長石・石英・雲母	明褐	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	
DP97	土器片円盤	6.9	7.0	1.7	88.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	周縁部研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 275	敲砥石	8.9	7.3	3.0	303.4	チャート	円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	PL173

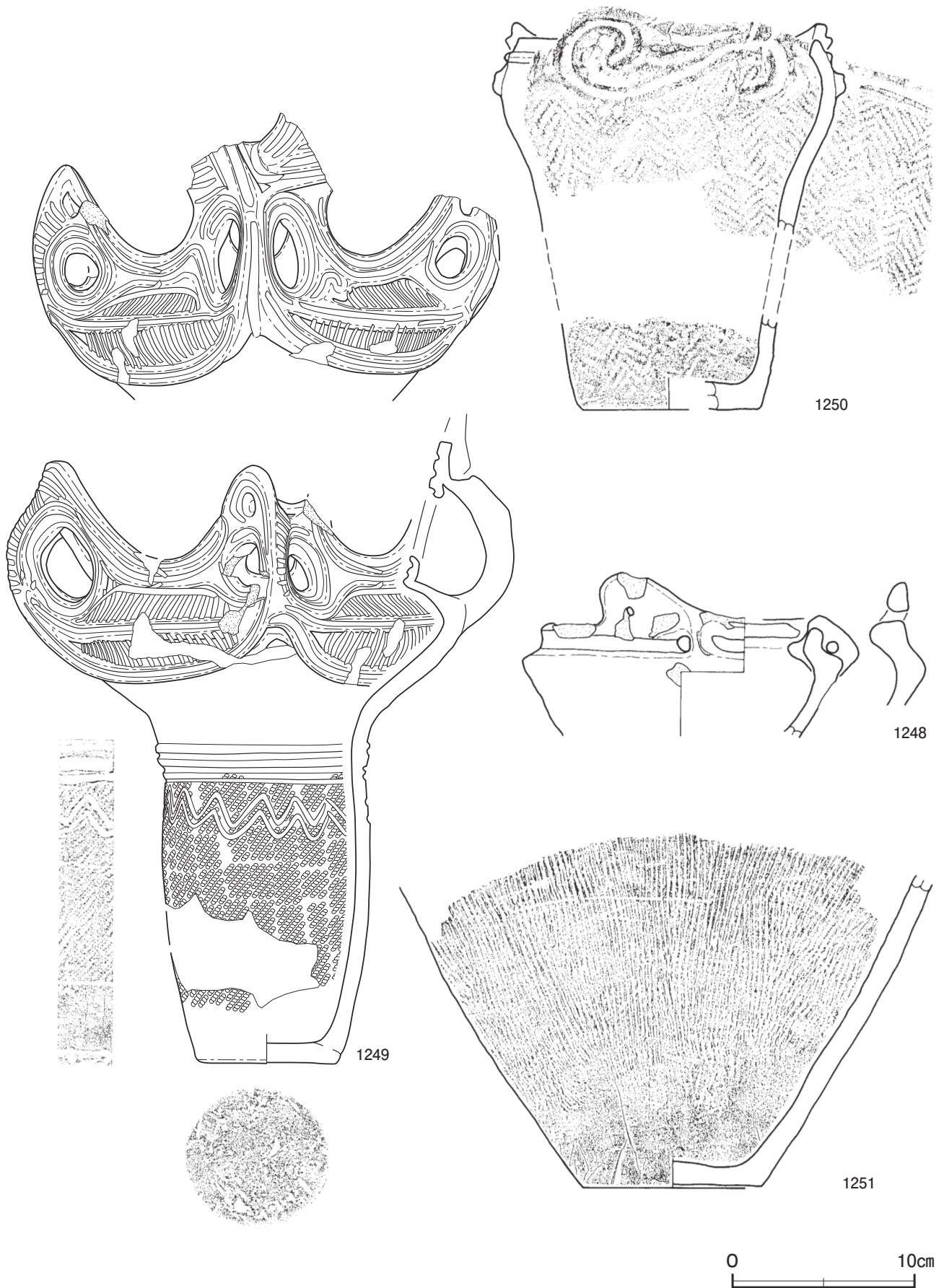
第 532 号土坑 (第 453 ~ 456 図 PL75)

位置 調査区南西部の C 2 j8 区, 標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

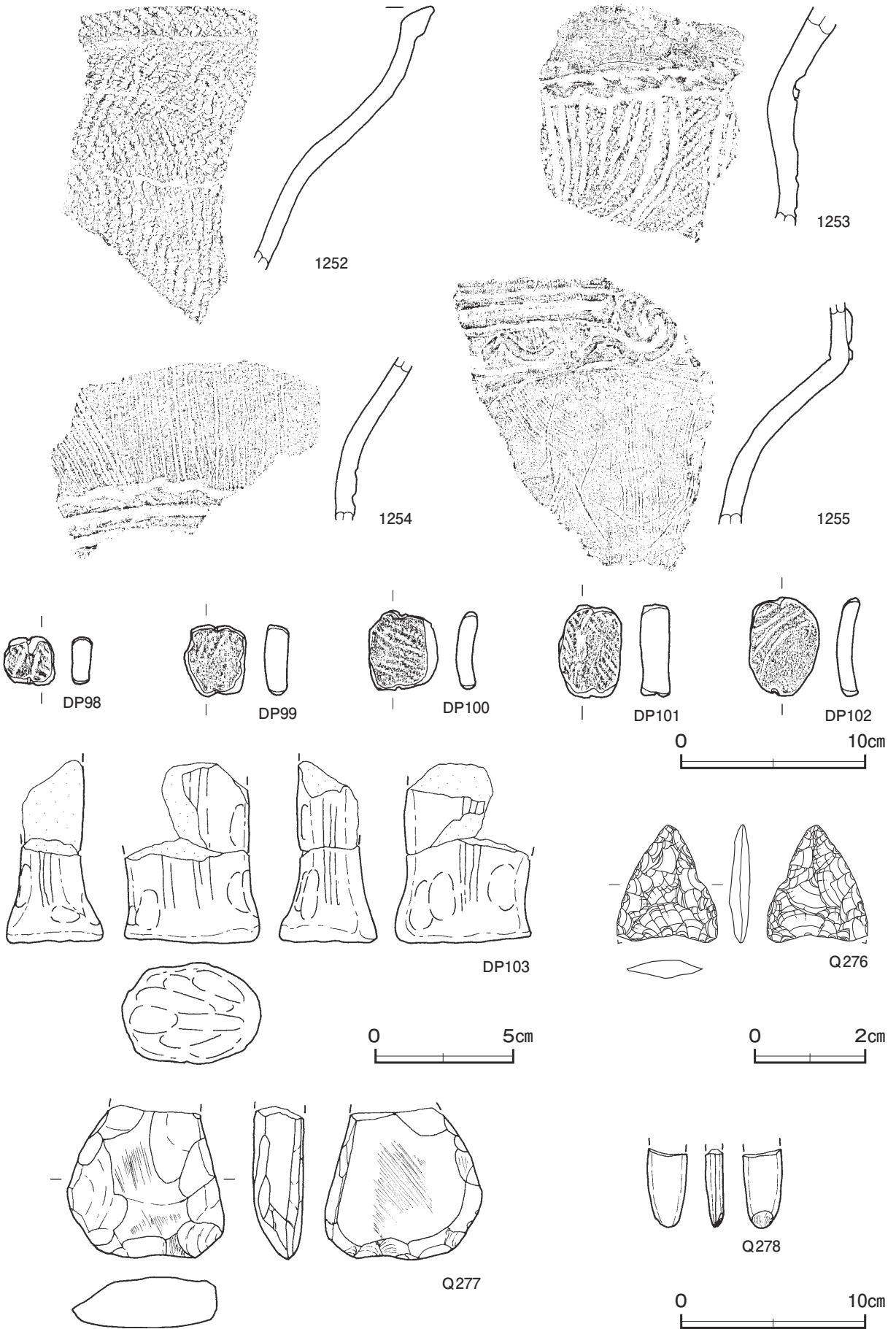
規模と形状 開口部は長径 2.96 m, 短径 2.52 m の楕円形で, 長径方向は N - 50° - W である。底面は径 3.00 ~ 3.04 m の円形で, ほぼ平坦である。確認面からの深さは 125cm で, 壁は中位まで内傾して袋状を呈し, 上位はほぼ直立している。



第 453 図 第 532 号土坑実測図



第 454 图 第 532 号土坑出土遗物实测图 (1)



第 455 図 第 532 号土坑出土遺物実測図 (2)



第 456 図 第 532 号土坑出土遺物実測図 (3)

ピット 4か所。P 1 は北部, P 2 は南西部, P 3 は北西部, P 4 は北西壁際に位置し, 深さは 28 ~ 34cm である。P 1・P 2 は, 位置や形状から柱穴と考えられる。P 3・P 4 は, 性格不明である。

覆土 22層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|----------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 15 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 17 黒色 | ロームブロック微量 |
| 7 にぶい褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 18 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 にぶい褐色 | ロームブロック少量 | 19 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 9 褐色 | ローム粒子中量 | 20 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 10 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 21 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 11 黒褐色 | ローム粒子少量 | 22 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 629 点 (深鉢 599, 浅鉢 30), 土製品 6 点 (土偶 1, 土器片 5), 石器 5 点 (鎌, 磨製石斧, 打製石斧, 敲砥石, 凹石), 剥片 3 点 (トトロ石, ホルンフェルス, 安山岩) が, 覆土全体から散乱した状態で出土している。1249 はほぼ完形で覆土下層から出土していることから, 下層が埋め戻されてから投棄されたものと思われる。1251・1254・Q 279 は覆土下層から, 1248・1250・1253, Q 277・Q 280 は覆土中層から, 1255 は覆土上層から, それぞれ破片や欠けた状態で出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。土偶片は覆土中から出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。覆土中から出土した土偶片は, 約 80 m 東側に位置する第 522 号土坑出土の破片と接合し, 破碎して投棄されたと考えられる。

第 532 号土坑出土遺物観察表 (第 454 ~ 456 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1248	縄文土器	浅鉢	[15.2]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	区画交点に眼鏡状把手 口唇部太沈線 外・内面赤彩痕	覆土中層	30% PL143
1249	縄文土器	深鉢	17.3	35.7	7.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	4 単位の背割れ隆帯による中空把手 背割れ隆帯で文様帯 2 分割 区画内沈線文で充填 頸部無文帯 胴部を周回する 3 本の沈線を伴う隆帯で区画 胴部単節縄文 RL (縦) 2 本の沈線による連続山形文 底面網代痕	覆土下層	90% PL142
1250	縄文土器	深鉢	[16.8]	[21.4]	[9.8]	長石・石英・細礫	黒褐	普通	口縁に沿って背割れ隆帯貼付 背割れ隆帯による横 S 字状文 胴部撚りの異なる単節縄文による縦回転の羽状構成	覆土中層	30% PL143

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1251	縄文土器	深鉢	-	(17.2)	9.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	縦位の撚糸文を全面に施文 胴部下位横方向の磨き 底面磨き	覆土下層	30% PL142
1252	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部肥厚 肥厚部に単節縄文 RL(横) 胴部(縦)	覆土中	PL143
1253	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	頸部と胴部の境界押しされた波状隆帯が一巡 地文に単節縄文 RL(縦) 棒状工具による弧状文	覆土中層	
1254	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	頸部歯状工具及び半截竹管による条線文 太沈線による波状文と並行沈線で胴部と区画	覆土下層	
1255	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	地文に歯状工具による条線文・波状文 背割れ隆帯による区画 区画内波状文・渦巻文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP98	土器片鏃	2.6	2.8	1.0	9.2	長石・石英・雲母	灰褐	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	
DP99	土器片鏃	3.9	3.3	1.3	18.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	
DP100	土器片鏃	4.2	3.7	1.1	17.4	長石・石英	にぶい橙	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	
DP101	土器片鏃	5.1	3.3	1.5	37.2	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	
DP102	土器片鏃	5.3	3.8	1.2	23.1	長石・石英	にぶい赤褐	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	
DP103	土偶	(6.7)	(4.9)	(3.6)	(84.6)	長石・石英・雲母	灰褐	板状 脚部下端張り出し 正面縦位の3本と2本の細沈線垂下 裏面4本1列の細沈線垂下 側縁部3本1列の細沈線垂下 底面指ナデ	覆土中	PL159 SK522と接合

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 276	鏃	2.1	1.9	0.4	(1.3)	チャート	無茎鏃 表裏面押し剥離	覆土中	PL161
Q 277	打製石斧	(8.2)	8.6	2.3	(263.1)	砂岩	分銅形 表裏に自然面 刃部は表裏を敲打 片刃部欠損	覆土中層	磨石の再利用
Q 278	磨製石斧	(4.3)	2.1	1.1	(11.9)	砂岩	極小型 扁平な自然礫を使用し、刃部は片面を研ぎ出す	覆土中	
Q 279	敲砥石	6.1	5.5	3.2	124.0	チャート	円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土下層	PL173
Q 280	凹石	12.2	9.7	4.5	736.5	安山岩	表裏面中央部に敲打による浅い凹み 両側縁中央部に敲打痕 全面磨り調整	覆土中層	PL181

第 536 号土坑 (第 457・458 図 PL76)

位置 調査区西部の C 2i0 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 505 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 2.08 ~ 2.25 m のほぼ円形である。底面は径 2.21 ~ 2.33 m の不整形円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 103cm で、壁は北部を除いて内彎して、袋状を呈している。

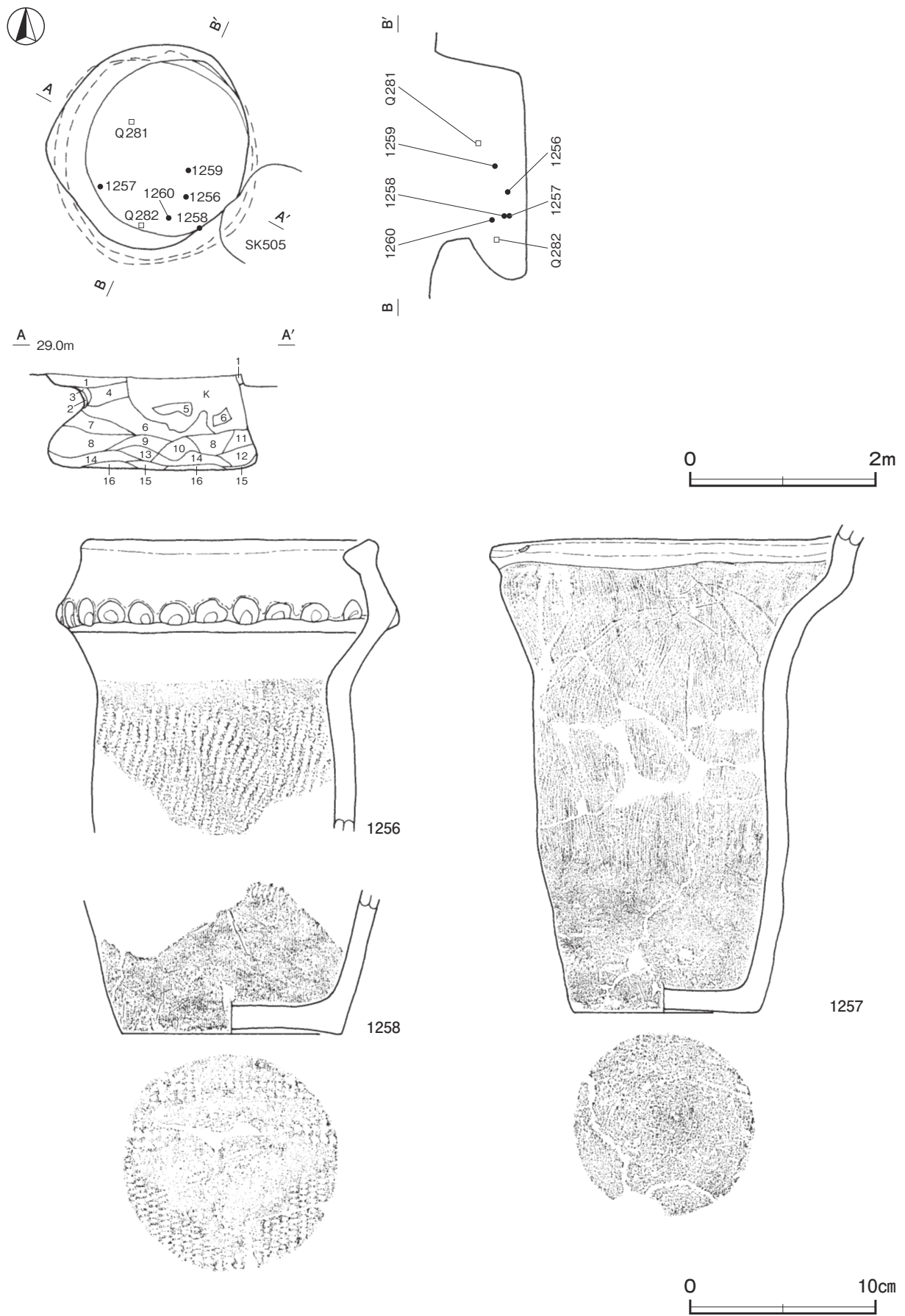
覆土 16 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

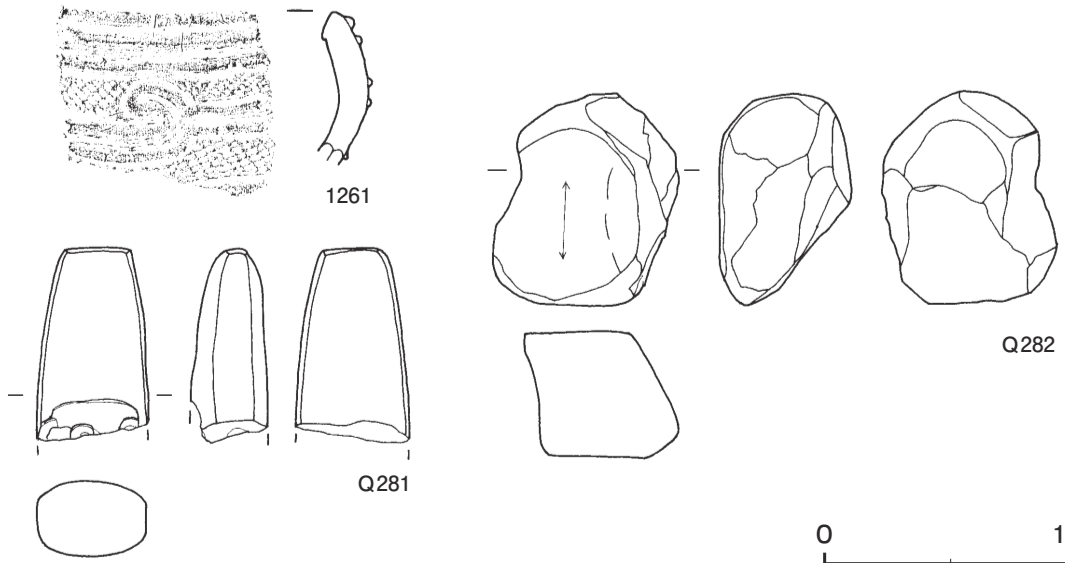
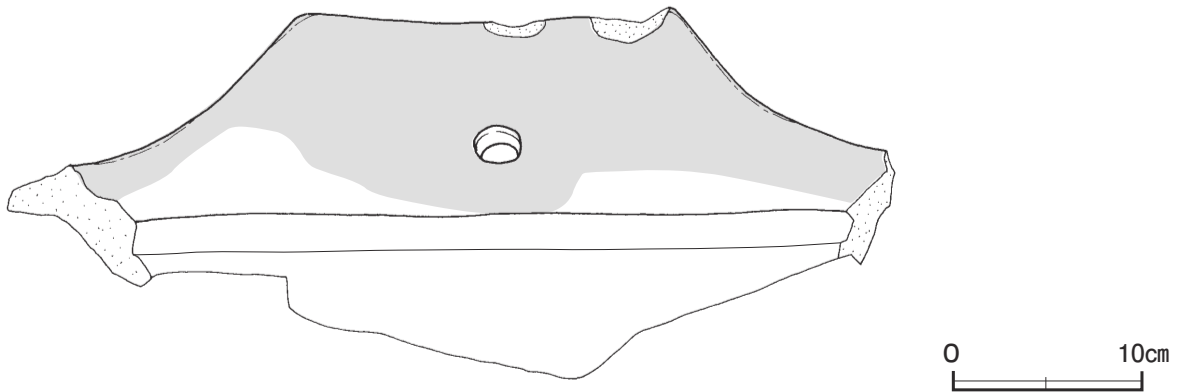
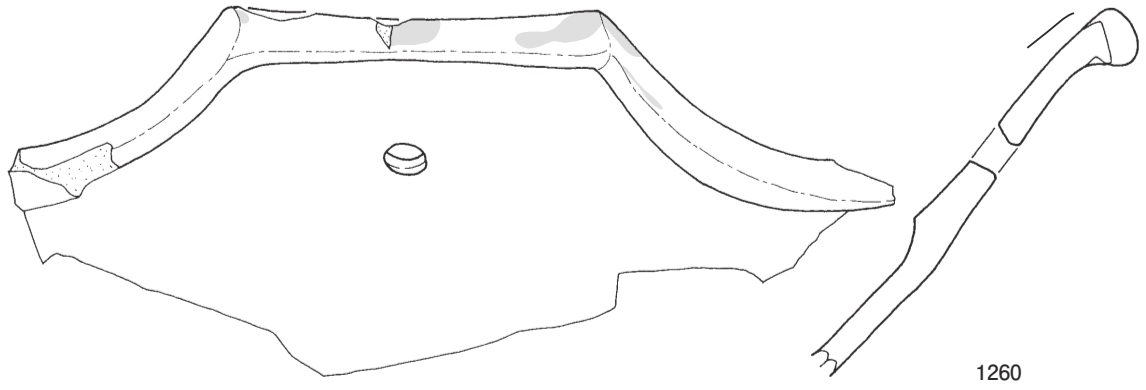
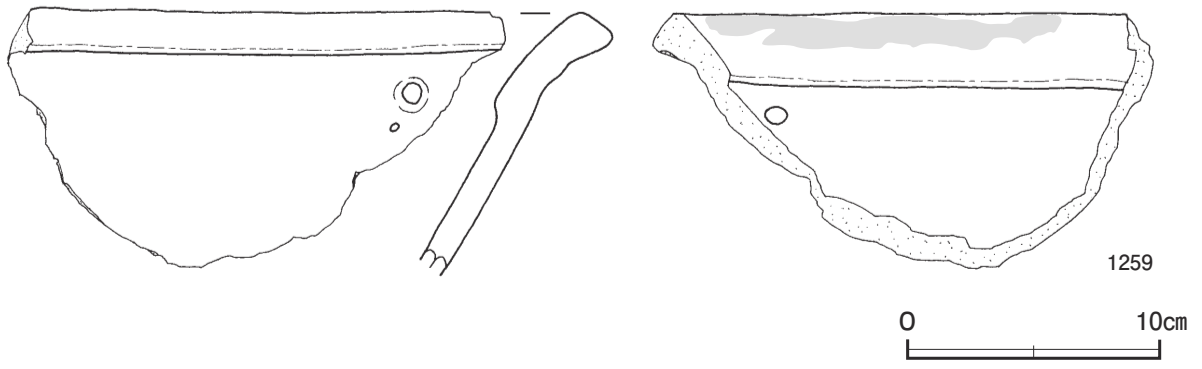
1 黒褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック少量
2 にぶい黄褐色	ローム粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量
6 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子中量	14 にぶい黄褐色	ロームブロック中量
7 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	15 にぶい褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
8 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	16 にぶい褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 182 点 (深鉢 172, 浅鉢 10), 石器 3 点 (磨製石斧, 磨石, 敲砥石) が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1257 はほぼ完形で、覆土下層から出土していることから、ある程度埋め戻されてから投棄されたものと思われる。1256・1258 は覆土下層から、1259・1260, Q 281・Q 282 は覆土中層から破片や欠けた状態で出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 457 图 第 536 号土坑·出土遺物実測図



第 458 図 第 536 号土坑出土遺物実測図

第 536 号土坑出土遺物観察表 (第 457・458 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1256	縄文土器	深鉢	15.2	(15.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁下端押圧隆帯周回 頸部無文帯 胴部単節 縄文 RL 斜回転による縦走縄文	覆土下層	50% PL143
1257	縄文土器	深鉢	19.0	(26.4)	9.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁に 1 単位の突起痕 口縁に隆帯貼付 胴部 櫛歯状工具による縦走波状文	覆土下層	90% PL143
1258	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	11.8	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部櫛歯状工具による条線文 底面網代痕	覆土下層	10%
1259	縄文土器	浅鉢	-	(12.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部に穿孔 外・内面磨き 内面に稜	覆土中層	
1260	縄文土器	浅鉢	-	(19.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	波頂部に穿孔 口唇部肥厚 外・内面磨き	覆土中層	10% PL143
1261	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	2 条の背割れ隆帯による口縁部区画 区画内地位に単節縄文 LR (縦) 背割れ隆帯による渦巻文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 281	磨製石斧	(7.8)	4.5	3.1	(168.0)	緑色凝灰岩	定角式 全面研磨 刃部欠損	覆土中層	PL167
Q 282	敲砥石	8.4	7.4	5.3	355.2	砂岩	円礫の両端部に敲打痕 表裏及び側縁に砥面をもつ	覆土中層	磨製石斧の再利用

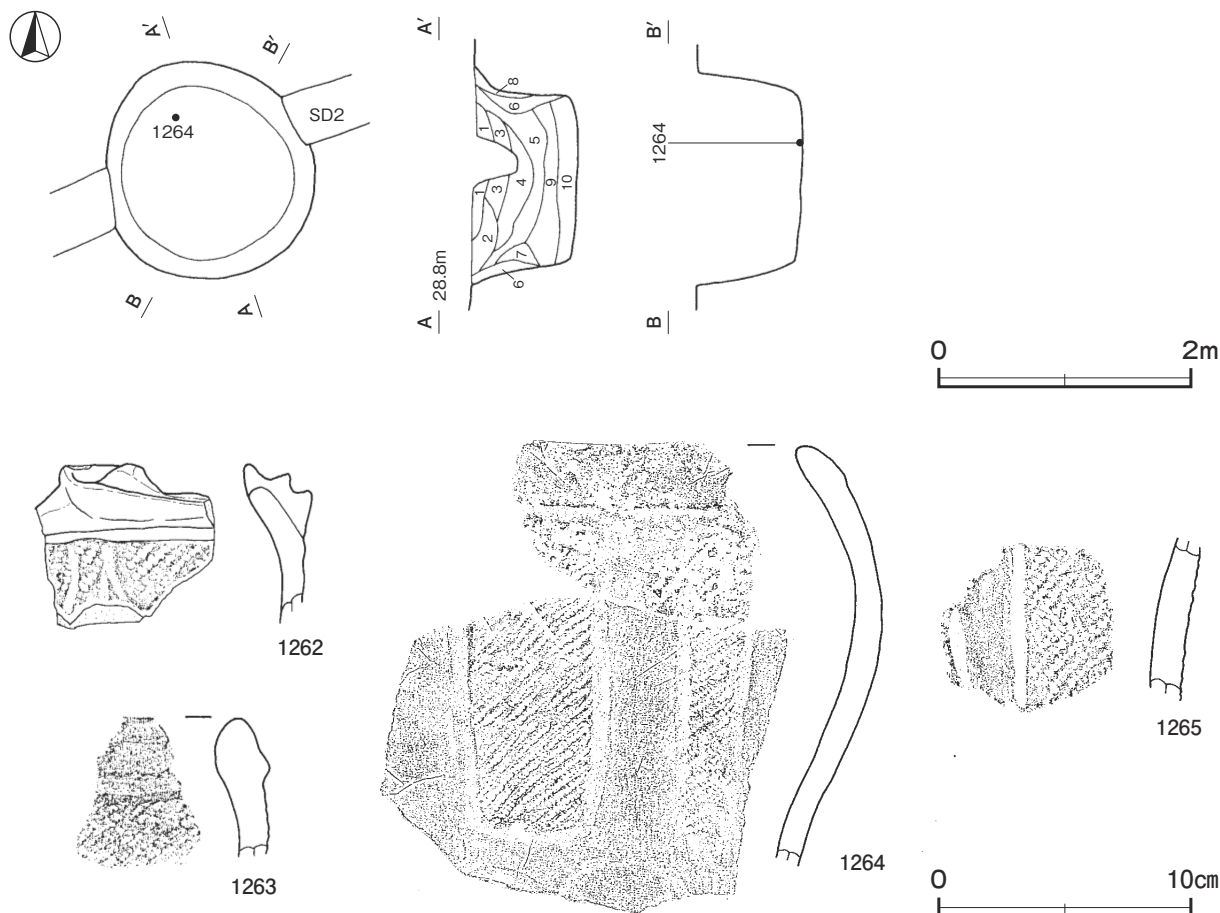
第 537 号土坑 (第 459 図 PL76)

位置 調査区南部の D 3 b3 区, 標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 2 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.64 ~ 1.75 m の円形で, 底面は平坦である。深さは 78cm で, 壁は直立している。

覆土 10 層に分層できる。黒褐色土がレンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。



第 459 図 第 537 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|---------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 157 点（深鉢 149, 浅鉢 8）, 石器 1 点（石皿）が出土している。1264 は北部の覆土下層から、破片が散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

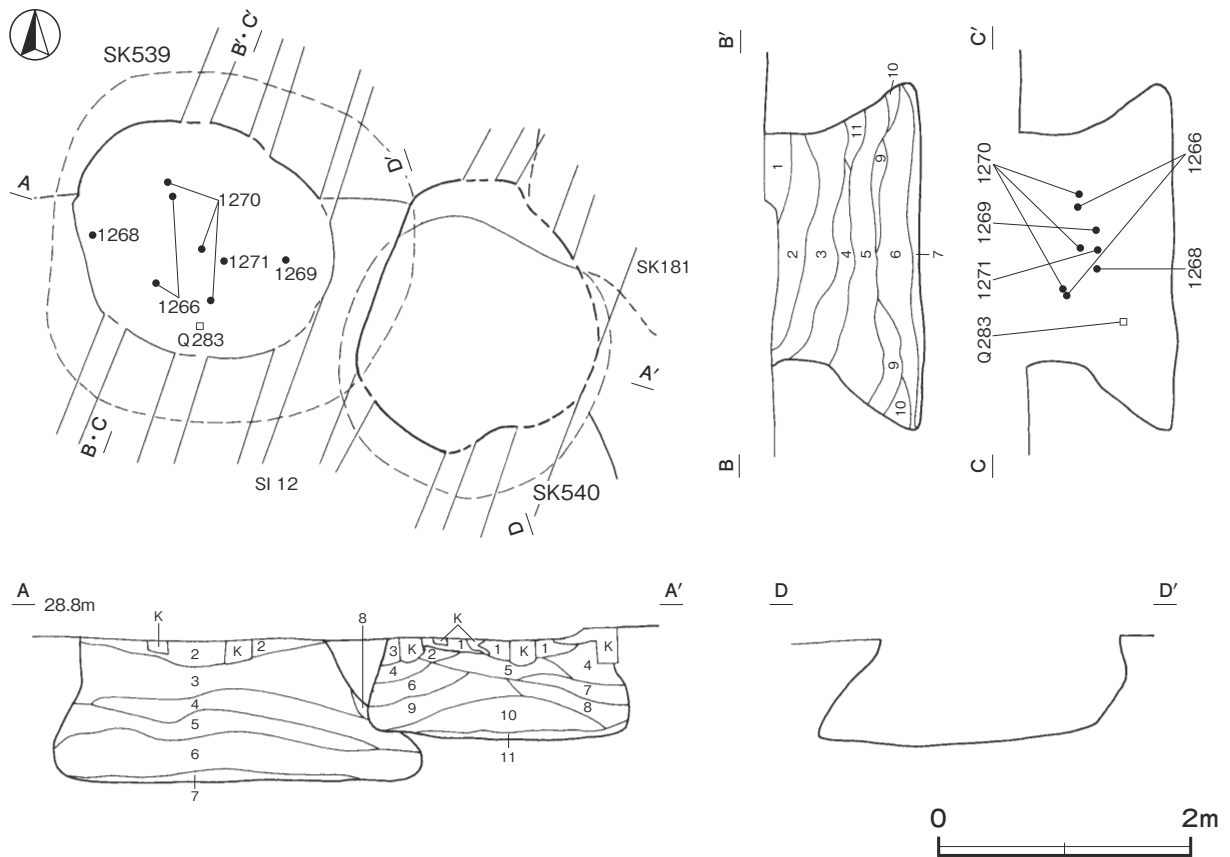
第 537 号土坑出土遺物観察表（第 459 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
1262	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇部に凹み 口縁に沿って背割れ隆帯貼付 単節縄文 RL (縦) 沈線による弧状文	覆土中	
1263	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁に沿って微隆起線文 口縁下単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	
1264	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁に沿って隆帯貼付 楕円形の太沈線区画文 区画内単節縄文 RL (縦) 充填	覆土下層	PL144
1265	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (縦) 太沈線間磨消懸垂文	覆土中	

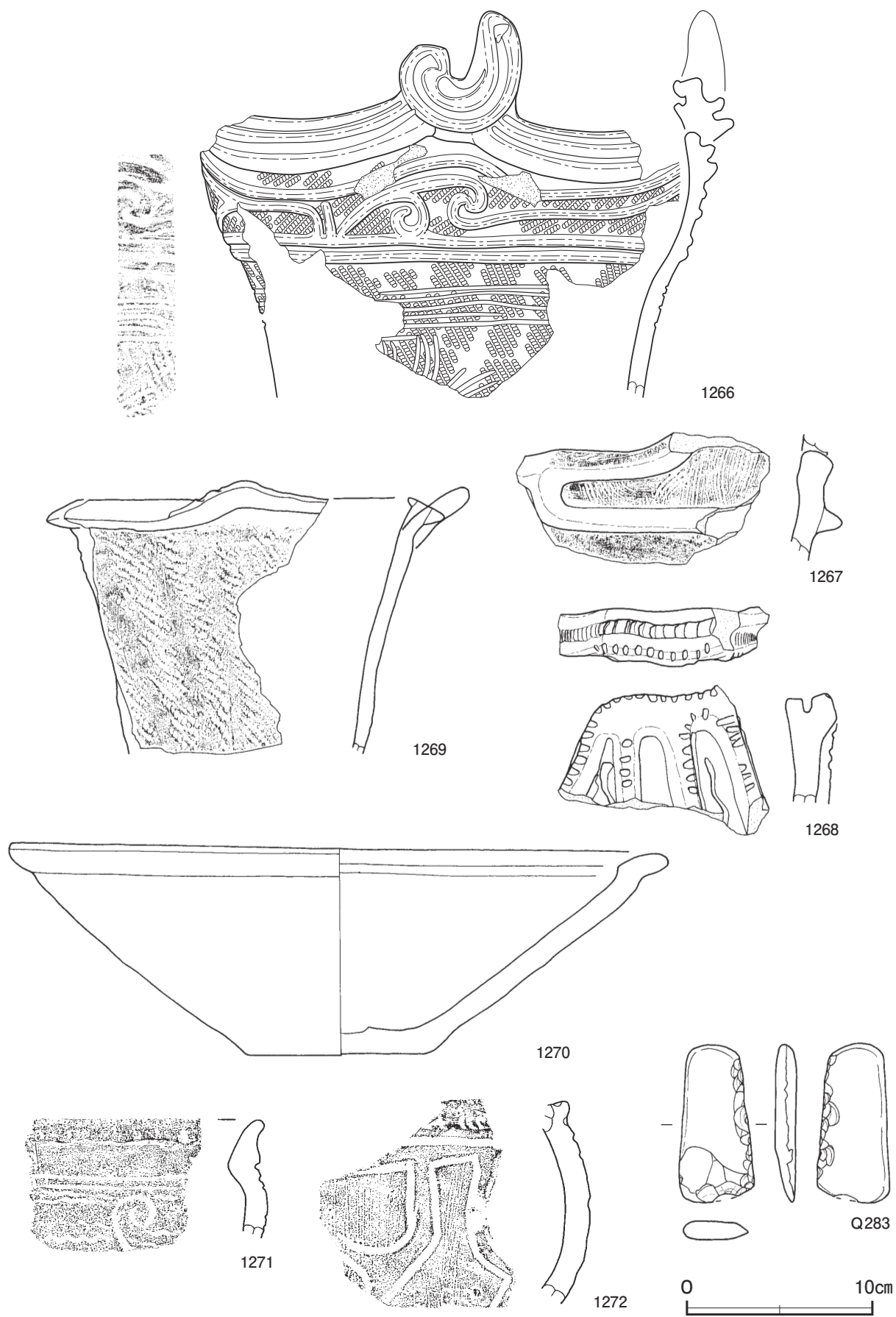
第 539 号土坑（第 460・461 図 PL76）

位置 調査区中央部の C 3 e2 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 12 号堅穴建物, 第 540 号土坑に掘り込まれている。



第 460 図 第 539・540 号土坑実測図



第 461 图 第 539 号土坑出土遗物实测图

規模と形状 開口部は長径 2.10 m，短径 1.73 m の楕円形で，長径方向は N - 52° - W である。底面は径 2.74 ~ 2.86 m の不整形円で，ほぼ平坦である。確認面からの深さは 120cm で，壁は内彎して，袋状を呈している。

覆土 11 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量，鹿沼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量 | 11 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 326 点（深鉢 325，浅鉢 1），石器 2 点（打製石斧）が，覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1266・1270 は覆土上層から中層にかけて出土しており，離れた位置のものが接合していることから，破碎されたものが投棄されたと考えられる。1268・1269・1271，Q 283 は，破片や欠けた状態で覆土中層から出土しており，埋土と一緒に投棄されたものと考えられる。

所見 規模や形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 539 号土坑出土遺物観察表（第 461 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1266	縄文土器	深鉢	28.0	(20.4)	-	長石・石英	暗赤褐	普通	口縁に沿って 2 条の背割れ隆帯一巡。口縁部単節縄文 LR (横) 隆帯による区画文・渦巻文・剣先文。頸部同一原体 (縦) 5 本の横走沈線文	覆土上~中層	30% PL144
1267	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	厚めの隆帯による区画文。区画間歯状工具による条線文で充填	覆土中	
1268	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇部連続爪形文。口縁に沿ってキザミ目を有する隆帯文	覆土中層	
1269	縄文土器	深鉢	[17.9]	(14.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部に平坦面作出。胴部縞状に単節縄文 LR (縦) 施文	覆土中層	10% PL144
1270	縄文土器	浅鉢	34.7	11.6	9.5	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	口唇部は大きく開き平坦面作出。内面に稜	覆土上~中層	70% PL144 外面煤付着
1271	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	普通	口縁部沈線による横走文・波状文・渦巻文	覆土中層	
1272	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁に沿う隆帯下に連続爪形文。口縁部ヘラ状工具による条線上に沈線による曲線文	覆土中	PL144

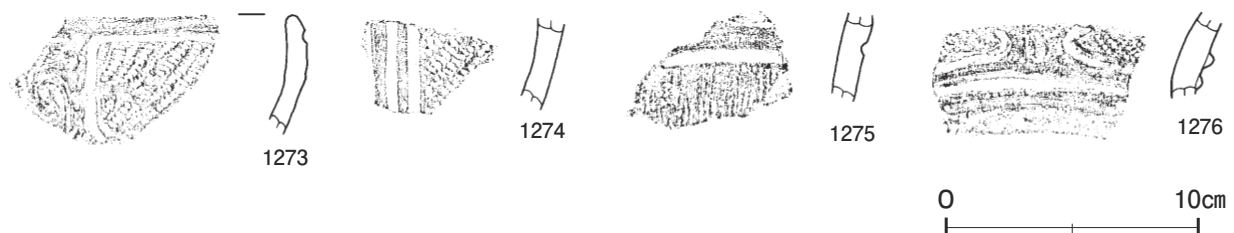
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 283	打製石斧	8.6	4.1	1.1	(60.3)	変質安山岩	撥形 表裏に自然面 片側縁敲打調整 刃部は片面を敲打	覆土中層	PL165

第 540 号土坑（第 460・462 図 PL77）

位置 調査区中央部の C 3e3 区，標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 12 号竪穴建物跡，第 181・539 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径 1.78 ~ 1.92 m の不整形円形である。底面は径 2.10 ~ 2.52 m の不整形円で，ほぼ平坦である。確認面からの深さは 85cm で，壁は北東部が外傾し，その他は内彎して，袋状を呈している。



第 462 図 第 540 号土坑出土遺物実測図

覆土 11層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 42 点 (深鉢), 剥片 1 点 (チャート) が, 覆土中からまばらに出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 540 号土坑出土遺物観察表 (第 462 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
1273	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	地文の単節縄文 LR (横) 沈線による方形区画文 区画と区画の間沈線による断手文	覆土中	
1274	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	地文の単節縄文 RL (縦) 3本の沈線による磨 消懸垂文	覆土中	
1275	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	褐	普通	地文に縦位の燃糸文 横位の太沈線が一巡	覆土中	
1276	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 沈線を伴う隆帯による 区画文 区画の接点に円形刺突文	覆土中	

第 541 号土坑 (第 463・464 図 PL77)

位置 調査区中央部の C 3 f2 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 12 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.45 ~ 1.47 m の不整形円形である。底面は径 1.75 ~ 1.82 m の不整形円形で, ほぼ平坦である。確認面からの深さは 79cm で, 壁は東部を除いて内彎して, 袋状を呈している。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

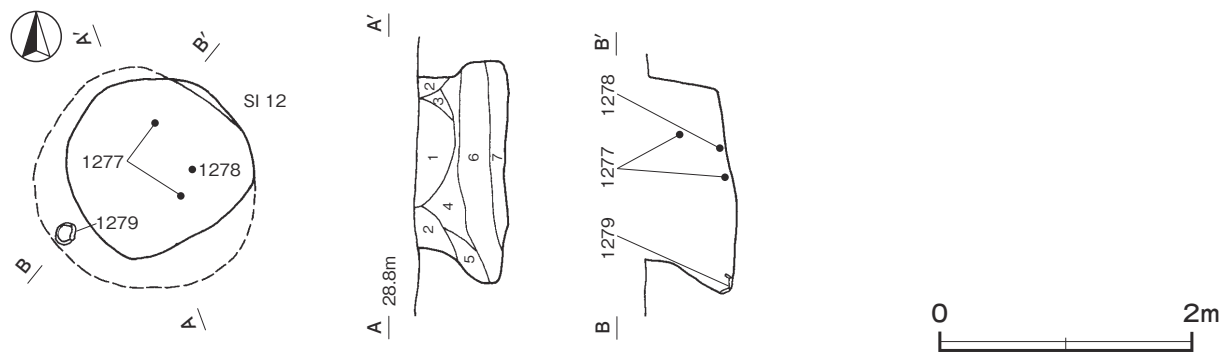
土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

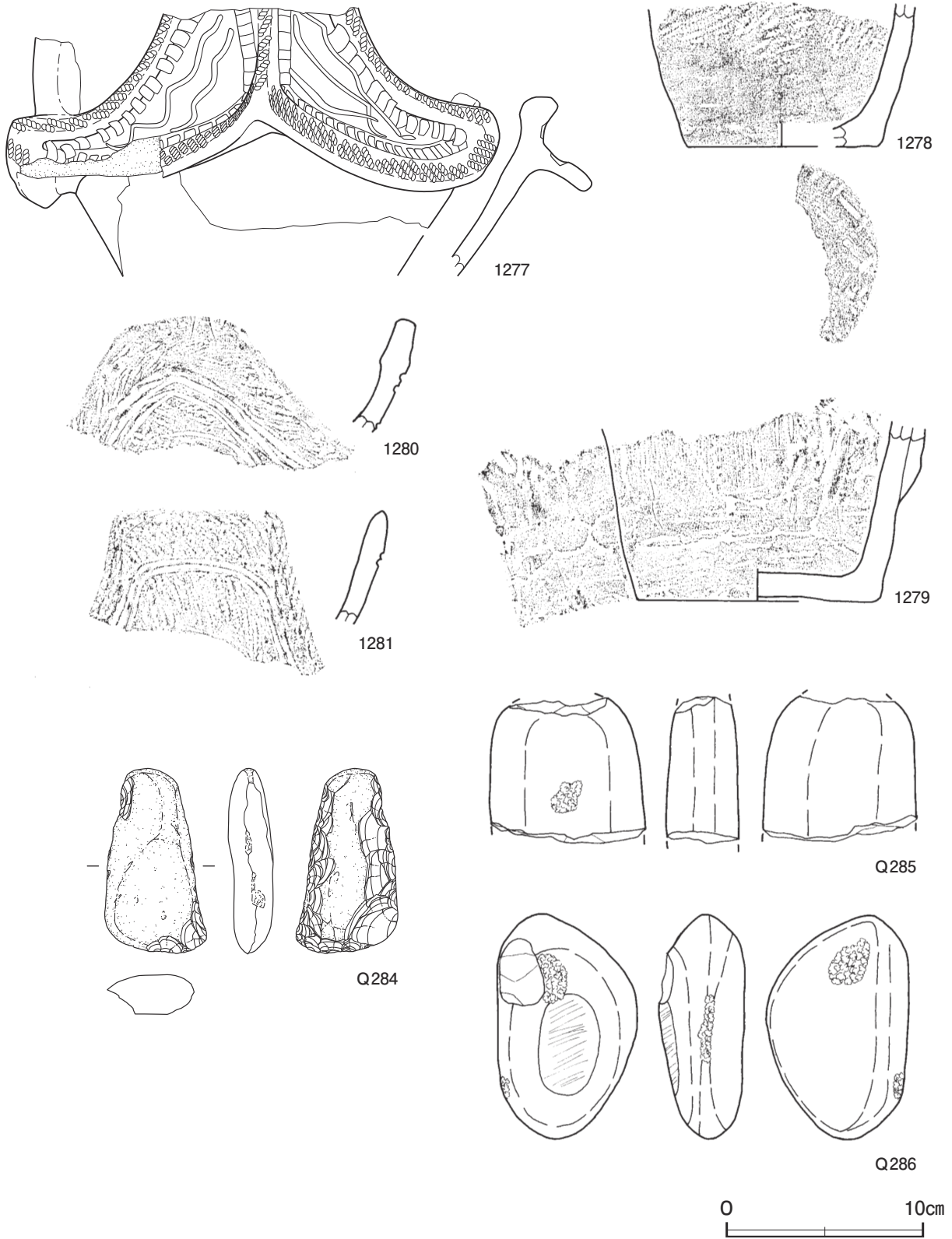
遺物出土状況 縄文土器片 59 点 (深鉢), 石器 3 点 (打製石斧, 磨石, 敲石) が, 覆土全体からまばらに出土している。1277 は離れた位置から出土したものが接合しており, 破碎されたものが投棄されたと思われる。

1278・1279 は破片で覆土下層から出土していることから, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 463 図 第 541 号土坑実測図



第 464 図 第 541 号土坑出土遺物実測図

第 541 号土坑出土遺物観察表 (第 464 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1277	縄文土器	深鉢	23.0	(13.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	縄文施文の庇状隆帯による区画文 隆帯に沿って連続爪形文 区画内沈線による波状文 頸部無文帯	覆土中~下層	30% PL144
1278	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	[9.8]	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	地文に0段多条単節縄文RL(縦)施文 胴部下端部磨き 底面網代痕	覆土下層	10%
1279	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	12.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	櫛歯状工具による縦位の条線文上に蒲鉾状隆帯垂下 底面網代痕	覆土下層	20%
1280	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤褐	普通	口縁に沿って無節縄文L施文の隆帯貼付 隆帯に伴って数本の沈線文	覆土中	
1281	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁に沿って縄文施文の隆帯貼付 隆帯に伴って半截竹管による並行沈線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 284	打製石斧	9.5	5.2	2.3	147.5	緑色岩	撥形 自然稜の側縁部の片面を敲打 刃部は表裏を敲打	覆土中	PL165
Q 285	磨石	(7.5)	7.9	3.7	(363.1)	安山岩	全面磨面 表面に微細な敲打痕 下半部欠損	覆土中	
Q 286	敲石	11.4	7.2	4.4	450.5	緑色岩	全面磨面 表裏面・側面に微細な敲打痕	覆土中	PL173

第 542 号土坑 (第 465・466 図 PL77)

位置 調査区中央部のC 3 f2区, 標高 29 mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 12・16 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径 2.43 ~ 2.47 m の不整形円形である。底面は径 2.32 ~ 2.36 m の円形で, ほぼ平坦である。確認面からの深さは 84cm で, 壁は北西部がほぼ直立し, その他が内彎して, 袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 120cm で, 形状から柱穴と考えられる。P 2 は深さ 17cm で, 性格不明である。

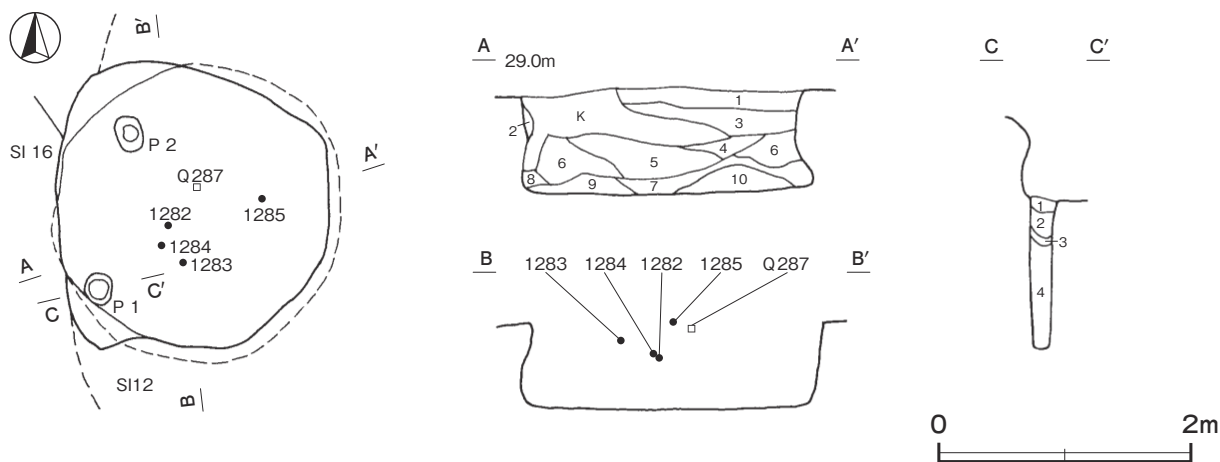
ピット土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

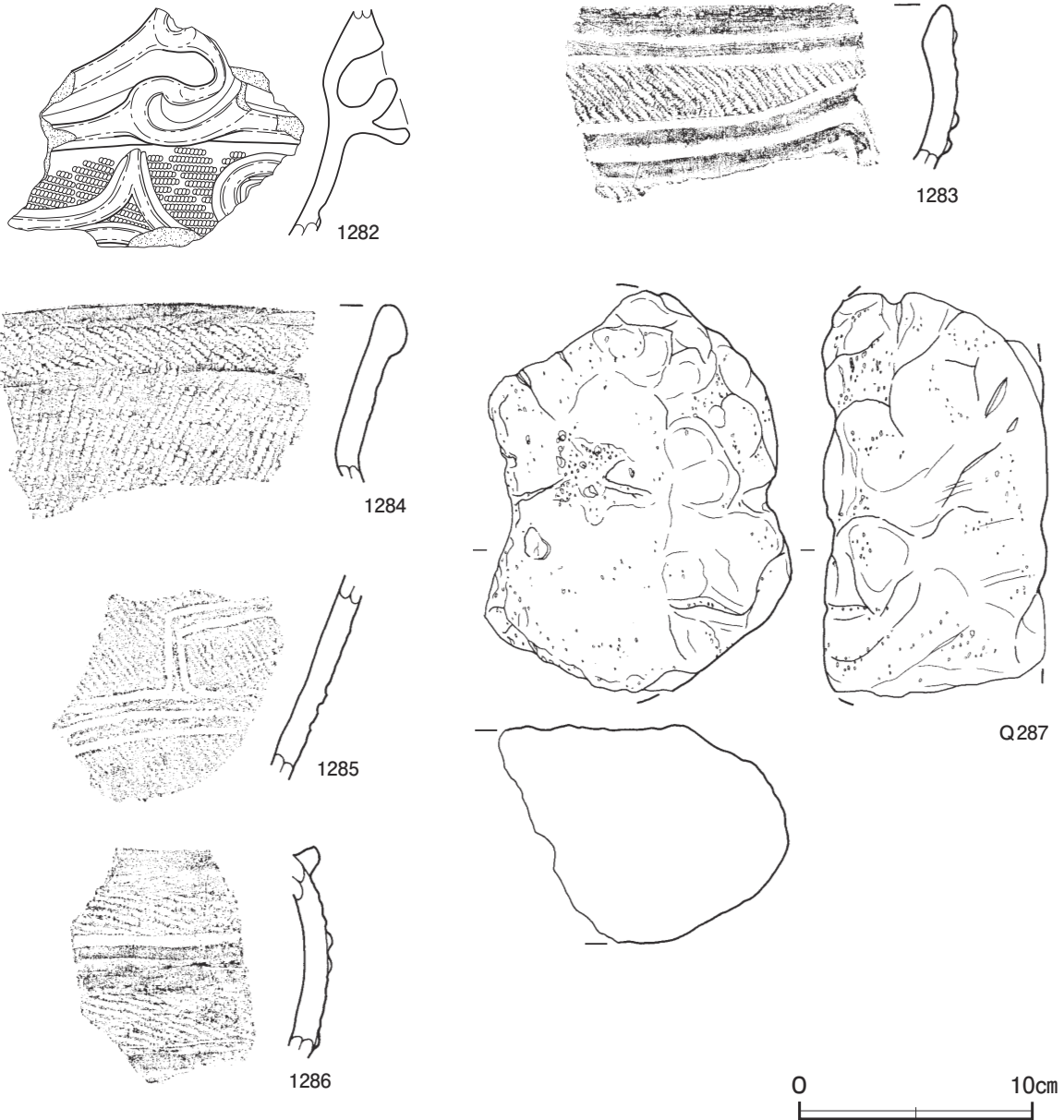
覆土 10 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量
- 10 黒褐色 ロームブロック中量



第 465 図 第 542 号土坑実測図



第 466 図 第 542 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 197 点（深鉢），石器 1 点（浮子）が，覆土上層から中層にかけて，散乱した状態で出土している。1282～1284 は破片で覆土中層から，1285，Q 287 は破片や欠けた状態で覆土上層から出土しており，埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 542 号土坑出土遺物観察表（第 466 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1282	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	厚めの隆帯による渦巻文を有する把手。隆帯による区画文。地文に単節縄文LR（斜）。渦巻文0段多条縄文RL（縦）。沈線を伴う隆帯による区画文。区画内沈線を伴う2条の隆帯による弧状文。	覆土中層	PL145
1283	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通		覆土中層	
1284	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐	普通	口縁に沿って単節縄文RL（横）。施文の隆帯貼付。頸部同一原体（縦）。	覆土中層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1285	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	地文に単節縄文RL(縦) 矩形文 胴部と3本の沈線文で区画	覆土上層	
1286	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	地文の単節縄文LR(縦) 沈線を伴う2条の隆帯による区画文 区画内横走文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 287	浮子	(17.1)	(13.2)	9.6	(5526)	軽石	中央部わずかに凹む 上面・側面に研磨痕	覆土上層	

第 543 号土坑 (第 467 ~ 470 図 PL78)

位置 調査区中央部の C 3 g2 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 12 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.80 m, 短径 1.59 m の楕円形で, 長径方向は N - 76° - W である。底面は長径 2.55 m, 短径 1.97 m の楕円形で, ほぼ平坦である。確認面からの深さは 110cm で, 壁は北東部が緩やかに内彎しており, その他が大きく内彎して, 袋状を呈している。

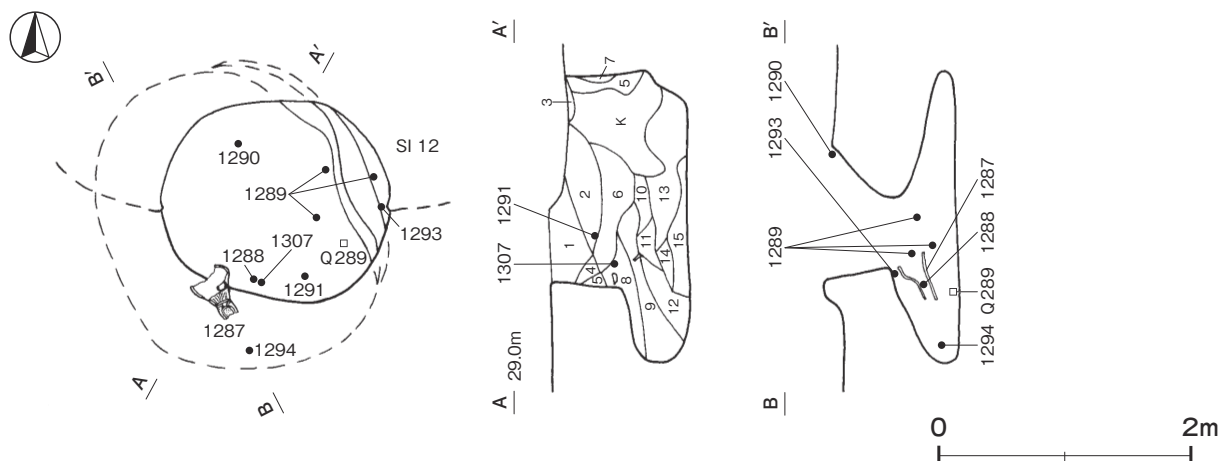
覆土 15 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

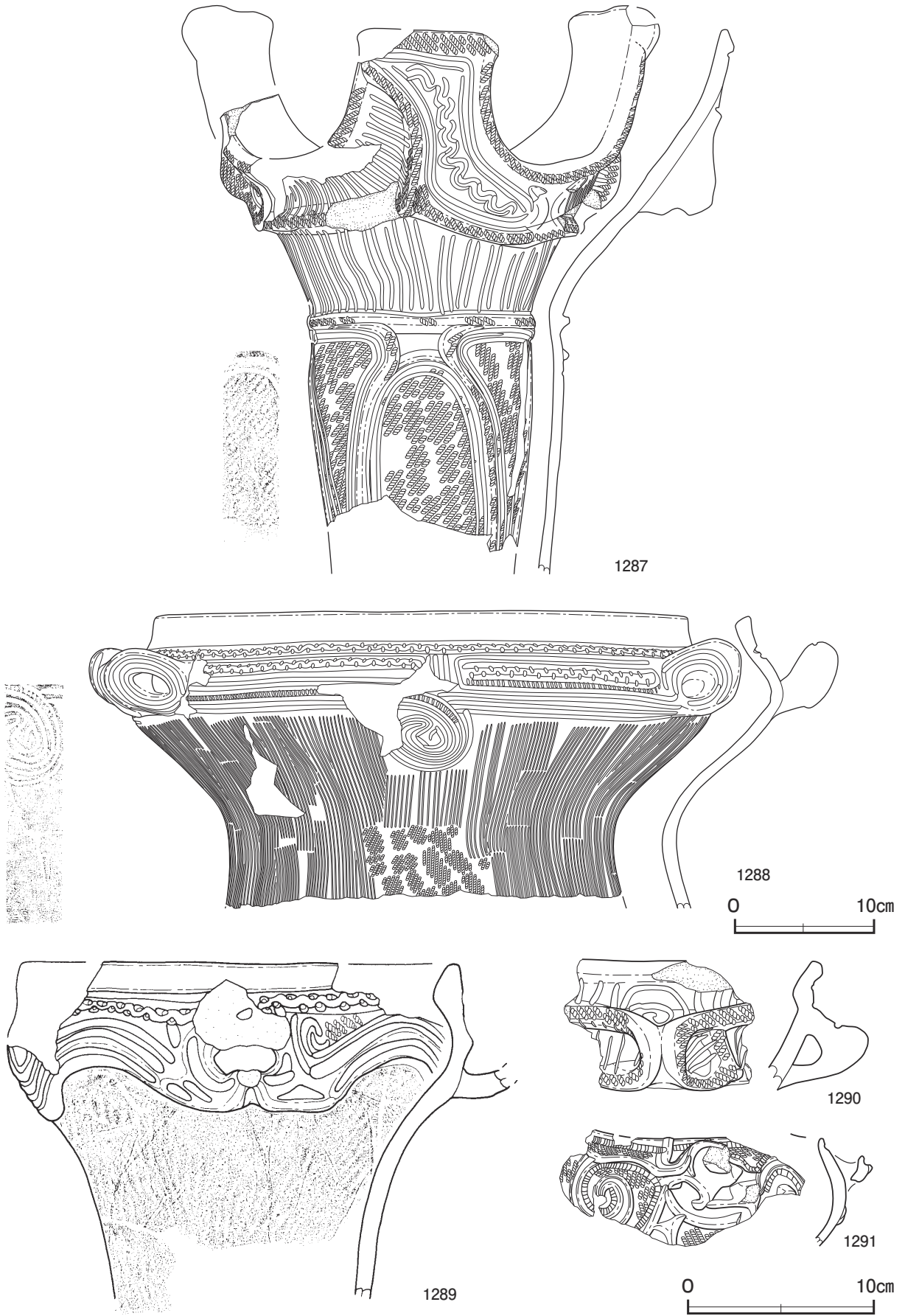
- | | | | |
|----------|-------------------|---------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 11 極暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 にぶい褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 | 15 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 316 点 (深鉢 315, 小型浅鉢 1), 石器 3 点 (磨製石斧 2, 凹石 1) が, 全体の各層から散乱した状態で出土している。1287 と 1288 は覆土下層から横位の状態で出土しており, ある程度埋まってから, 投棄されたものと思われる。1289 は覆土中層から下層にかけて出土し, 離れた位置のものが接合していることから, 破碎したものを投棄したと思われる。1294, Q 289 は覆土下層から, 1293 は覆土中層から, 1290 は覆土上層から, それぞれ破片や欠けた状態で出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

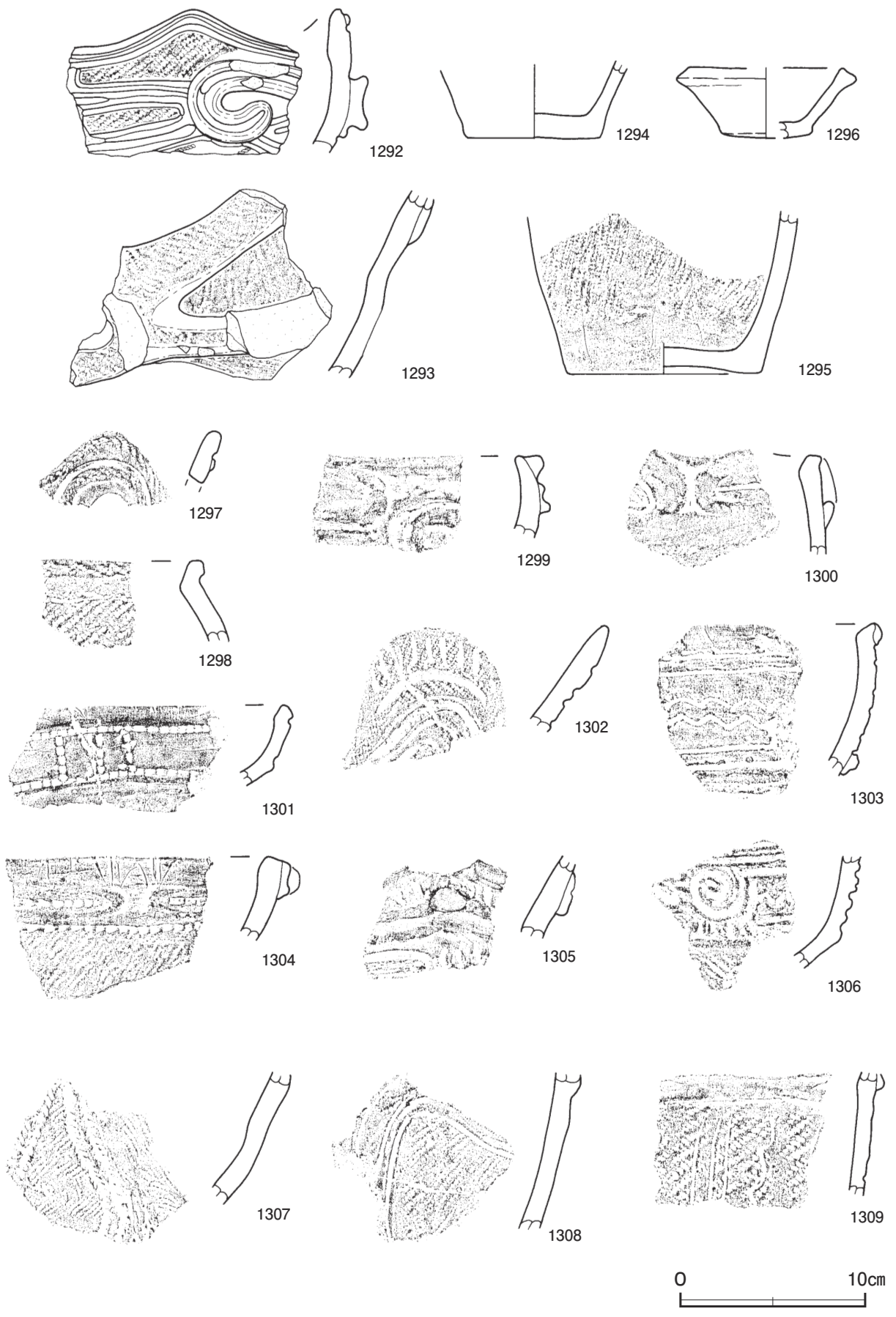
所見 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



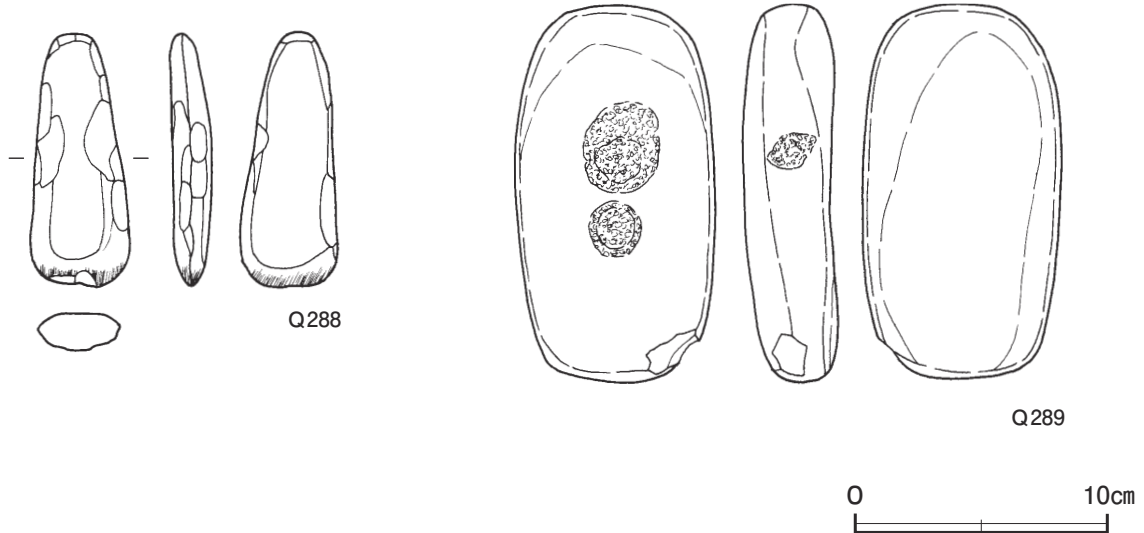
第 467 図 第 543 号土坑実測図



第 468 図 第 543 号土坑出土遺物実測図 (1)



第 469 图 第 543 号土坑出土遗物实测图 (2)



第 470 図 第 543 号土坑出土遺物実測図 (3)

第 543 号土坑出土遺物観察表 (第 468 ~ 470 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1287	縄文土器	深鉢	27.0	(40.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	良好	口縁に沿って0段多条単節縄文RL(横)施文の庇状隆帯による区画文 区画内並行沈線文・沈線文を充填 頸部縦位の沈線文 胴部縄文施文の隆帯による逆U字文	覆土下層	90% PL145
1288	縄文土器	深鉢	38.5	(21.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	3単位の眼鏡状把手 環状部沈線による円文・突起部渦巻文 交互刺突文と沈線による方形区画文 区画内横位の交互刺突文と沈線文を充填 胴部櫛歯状工具による条線 一部に単節縄文RL(縦)	覆土下層	50% PL145
1289	縄文土器	深鉢	23.3	(18.1)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	把手部剥離 口縁に沿って交互刺突文 2本の沈線を伴う背割れ隆帯による波状文 胴部単節縄文RL(斜)施文	覆土中～下層	30% PL145
1290	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	縄文施文の厚みのある隆帯による楕円形区画文 区画内縦位の沈線で充填	覆土上層	PL145
1291	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	有節沈線を伴う隆帯による渦巻文	覆土中	PL145
1292	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文の単節縄文RL(縦)上に背割れ隆帯による区画文 区画内背割れ隆帯による渦巻文	覆土中	
1293	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	太沈線を伴う単節縄文RL(横)施文の厚みのある隆帯による区画文 区画内単節縄文充填	覆土中層	10%
1294	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	下端部及び底面入念な磨き	覆土下層	20%
1295	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	10.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦)施文 下端部横方向の指によるナデ 底面網代痕	覆土中	10%
1296	縄文土器	小型浅鉢	[8.3]	3.9	[4.8]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部外削ぎ状で平坦 外・内面横方向のナデ	覆土中	30%
1297	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	波頂部中央に穿孔 口縁に沿って単節縄文RL(横)施文の隆帯貼付	覆土中	
1298	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇頂部平坦 口唇部単節縄文RL(横) 横ナデによる凹線が一巡 胴部同一原体(縦)	覆土中	
1299	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部平坦面作出 断面蒲鉾形の隆帯による楕円形区画文	覆土中	
1300	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	隆帯による楕円形区画文 区画内沈線文 頸部無節縄文L施文	覆土中	
1301	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	隆帯による区画文 隆帯に沿って有節沈線文 3本の縦位の有節沈線文	覆土中	
1302	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	波頂部単節縄文LR(縦)施文の隆帯上にキザミ目 口縁に沿って弧状の沈線文	覆土中	
1303	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による区画文 区画内半截竹管による平行線文・波状文	覆土中	
1304	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部に平坦面 隆帯による楕円形区画文 区画内有節沈線文 胴部無節縄文L(横)施文	覆土中	
1305	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	背割れ隆帯による区画文 区画内沈線文で充填	覆土中	
1306	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	沈線による方形区画 区画内渦巻文・波状文 単節縄文LR(縦)施文	覆土中	
1307	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁に沿って無節縄文Lをランダムに施文した隆帯貼付 隆帯に沿って2本の有節沈線施文	覆土中	
1308	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文LR(横) 断面蒲鉾形の隆帯に沿って半截竹管による並行沈線	覆土中	
1309	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	頸部と胴部の境界に隆帯貼付 地文の単節縄文RL(縦)上に3本の条線文と蛇行沈線文が垂下	覆土中	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴			出土位置	備 考
Q 288	磨製石斧	10.1	4.0	1.8	95.9	角閃岩	短冊形 自然礫の両側縁に微細な敲打痕 刃部は表裏から研ぎ出す			覆土中	PL168
Q 289	凹石	15.0	7.9	3.8	712.4	砂岩	全面磨り調整 表面2か所、側面1か所敲打による凹み痕			覆土下層	PL181

第 544 号土坑 (第 471 図)

位置 調査区中央部の C 3h3 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 550 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.90 m, 短径 1.65 m の楕円形で, 長径方向は N - 34° - W である。底面はほぼ平坦である。深さは 8 cm で, 壁は外傾している。

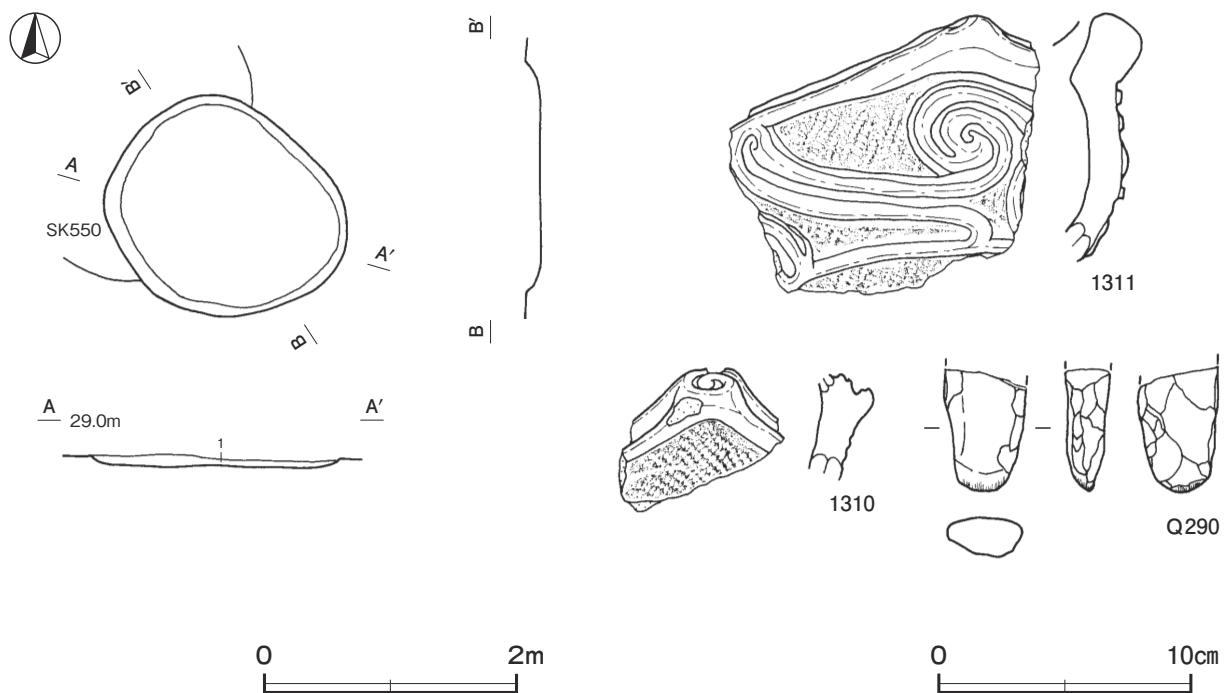
覆土 単一層。黒褐色土が堆積していることから, 自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (深鉢), 石器 1 点 (打製石斧) が, 覆土中からまばらに出土している。

所見 性格は不明である。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 471 図 第 544 号土坑・出土遺物実測図

第 544 号土坑出土遺物観察表 (第 471 図)

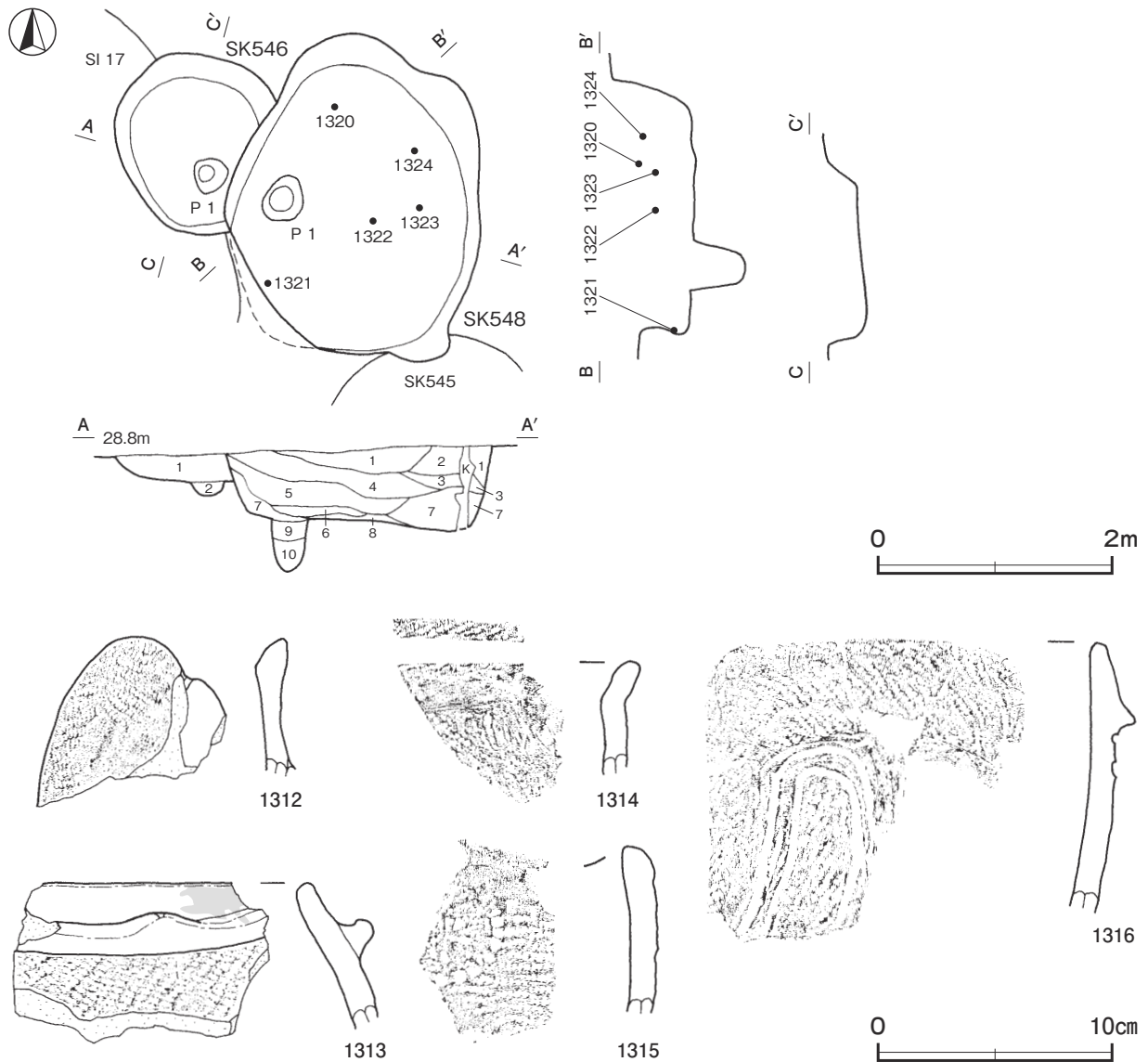
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
1310	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	波頂部渦巻文、口唇部に沈線文、口縁に沿って隆帯貼付 単節縄文 RL (横) 施文	覆土中		
1311	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文 RL (縦) 上に隆帯による区画文 区画内沈線を伴う 2 条の隆帯による渦巻文	覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q 290	打製石斧	(4.9)	3.2	1.8	(36.9)	ホルンフェルス	撥形	片面に自然面	周縁部敲打調整	基部欠損	覆土中	

第 546 号土坑 (第 472 図 PL78)

位置 調査区中央部の C 3g1 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 17 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 548 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.59 m, 短径 1.40 m の楕円形で, 長径方向は N - 20° - W である。底面はほぼ平坦である。



第 472 図 第 546・548 号土坑, 第 546 号土坑出土遺物実測図

深さは 22cm で, 壁は外傾している。

ピット 中央部の南寄りに位置し, 深さは 12cm である。形状から柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層できる。黒褐色土がレンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 121 点 (深鉢), 剥片 1 点 (チャート) が, 覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 546 号土坑出土遺物観察表 (第 472 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1312	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	双峰状の大波状口縁 地文に単節縄文 RL(横・縦)	覆土中	
1313	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	無文帯下に庇状隆帯貼付 隆帯下単節縄文 LR(横) 施文	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1314	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細礫・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部無節縄文L(横) 口縁に沿って隆帯貼付 口縁下単節縄文LR	覆土中	
1315	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	普通	口縁に沿って隆帯貼付 地文に単節縄文RL(斜) 有節沈線による渦巻文	覆土中	
1316	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁に沿って単節縄文RL(横) 施文の隆帯貼付 隆帯に沿って2本の沈線文	覆土中	

第 547 号土坑 (第 473 図)

位置 調査区中央部のC 3i9 区, 標高 29 mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 446 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.80 m, 短径 1.32 mの楕円形で, 長径方向はN - 30° - Wである。底面は, 南東方向に緩やかに下降している。深さは 37cmで, 壁はほぼ直立している。

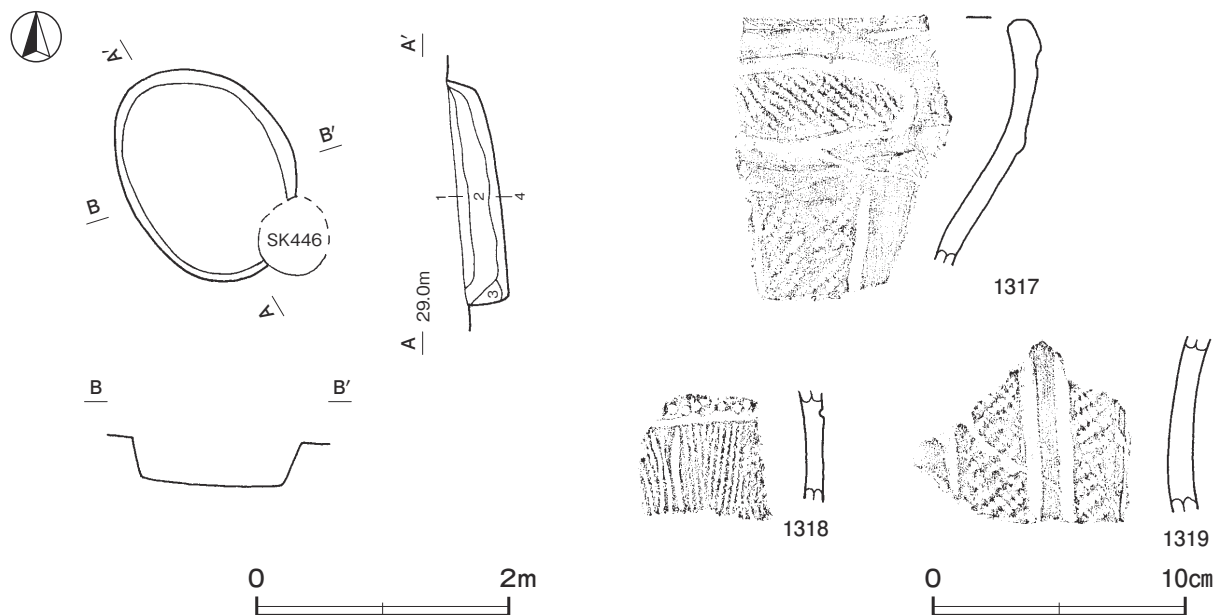
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 86 点 (深鉢), 剥片 1 点 (石英) が, 覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 473 図 第 547 号土坑・出土遺物実測図

第 547 号土坑出土遺物観察表 (第 473 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1317	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	太沈線を伴う隆帯による楕円形区画文 区画内 単節縄文RL(横) 胴部同一原体(縦) 太沈 線による懸垂文 沈線間磨消	覆土中	
1318	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	にぶい黄褐	普通	円形刺突文と沈線で胴部と区画 胴部縦走る 擦糸文 沈線による懸垂文	覆土中	
1319	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	0段多条単節縄文RL(縦) 太沈線間磨消懸垂文	覆土中	

第 548 号土坑 (第 472・474 図 PL78)

位置 調査区中央部の C 3 h2 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 545・546 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.75 m, 短径 2.12 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 5° - W である。底面はほぼ平坦で, 深さは 72cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 中央部から西寄りに位置し, 深さは 46cm である。形状から柱穴と考えられる。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

第 9・10 層は P 1 の覆土である。

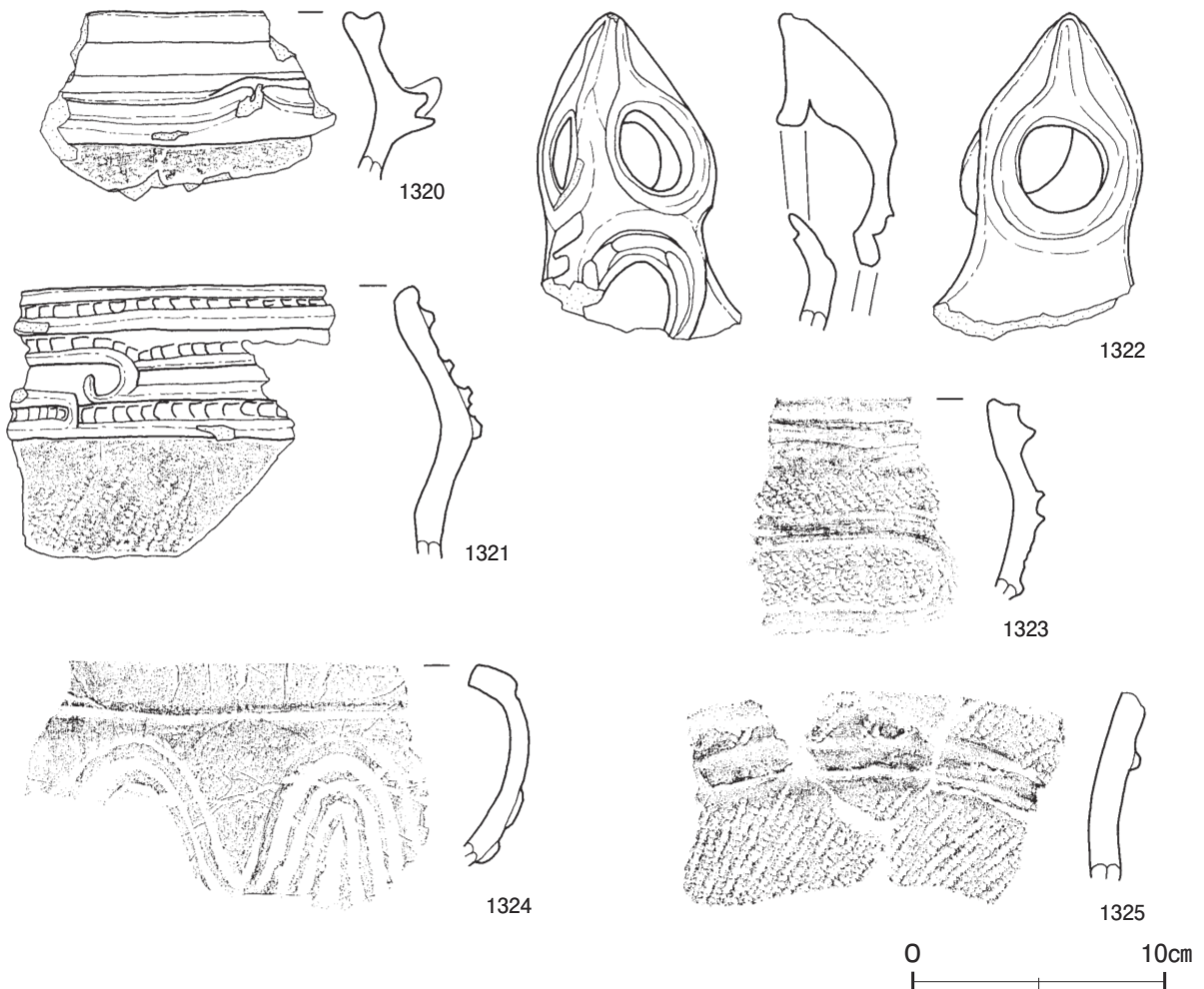
土層解説

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量 | 6 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 57 点 (深鉢 49, 浅鉢 8) が, 覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。

1321 ~ 1324 は覆土中層から, 1320 は覆土上層から, それぞれ破片で出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 474 図 第 548 号土坑出土遺物実測図

第 548 号土坑出土遺物観察表 (第 474 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1320	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部凹み 洋襟状口縁 突起を有する庇状隆帯による区画	覆土上層	
1321	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	有節沈線文を伴う隆帯による口縁部区画 区画内隆起線による渦巻文 単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中層	PL145
1322	縄文土器	深鉢	-	(12.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	背割れ隆帯による3孔を有する剣先状の中空把手	覆土中層	
1323	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	口唇部凹み 背割れ隆帯による区画文 地文の単節縄文 RL (横) 上にクランク文	覆土中層	
1324	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って隆帯貼付 沈線を伴う重層する隆帯による波状文	覆土中層	PL145
1325	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	頸部と胴部を沈線を伴う隆帯で区画 胴部単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	

第 549 号土坑 (第 475 ~ 477 図 PL78)

位置 調査区中央部の C 3 g1 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 16 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径 1.65 ~ 1.69 m のほぼ円形である。底面は径 1.95 ~ 1.99 m の不整形円で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 74cm で、壁は内彎して、袋状を呈している。

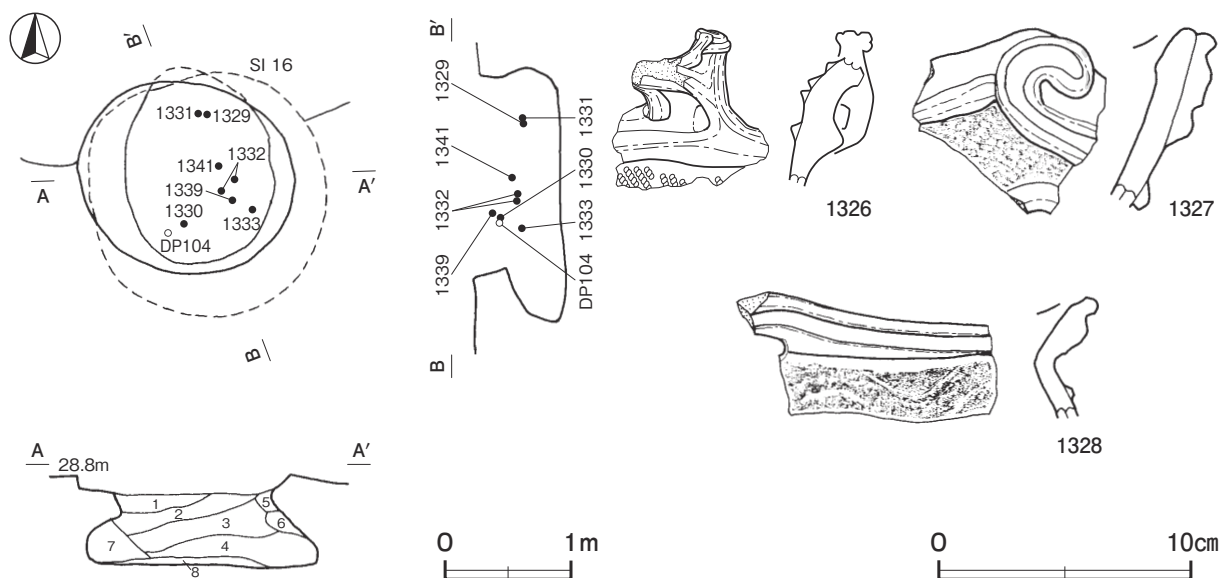
覆土 8 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

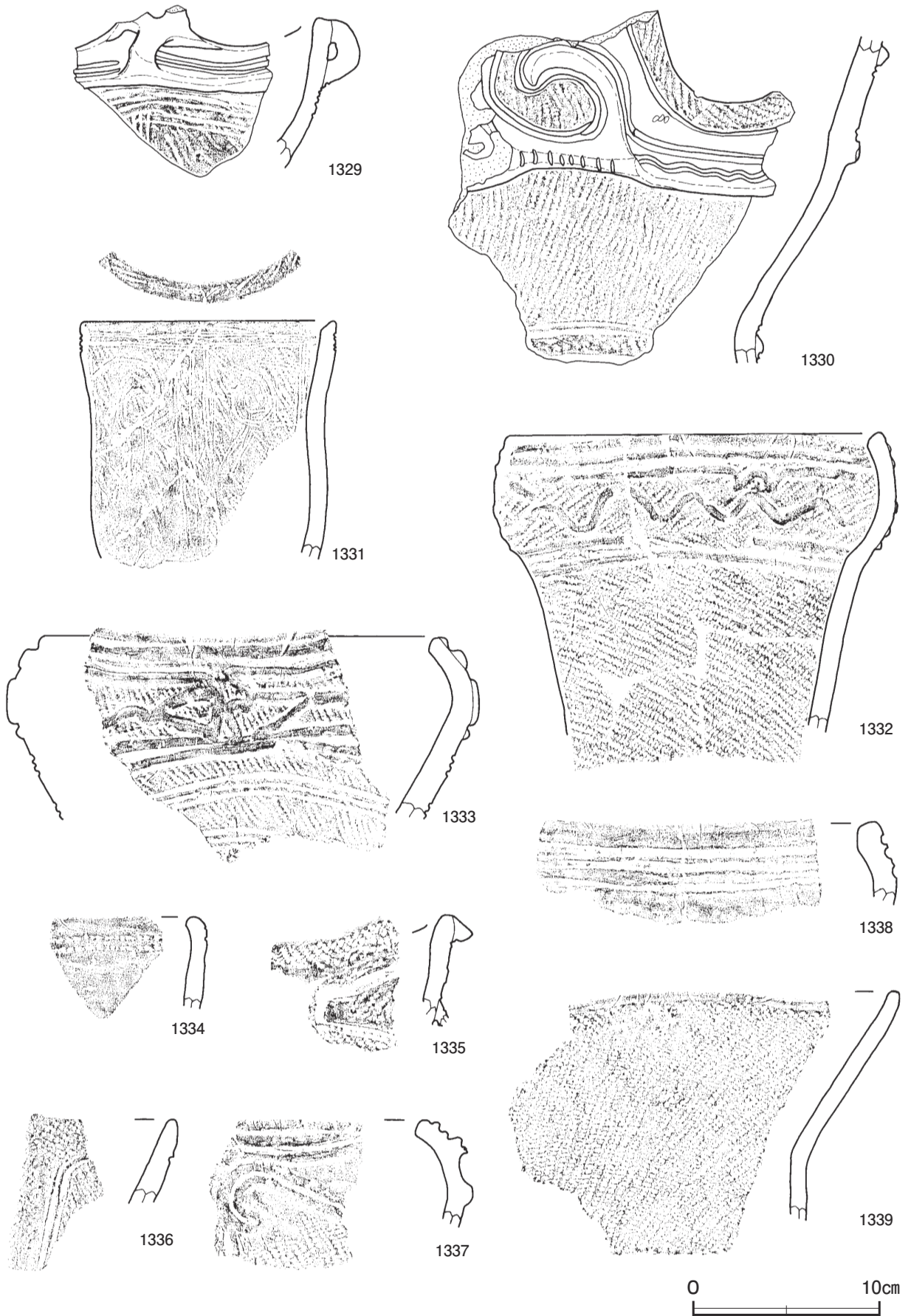
- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 288 点 (深鉢 286, 浅鉢 2), 土製品 1 点 (土器片錘), 石器 2 点 (磨製石斧, 石皿), 剥片 4 点 (チャート 3, 黒曜石 1) が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1329・1331 ~ 1333・1341 は覆土中層から, 1330・1339, DP104 は覆土上層から, それぞれ破片で出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

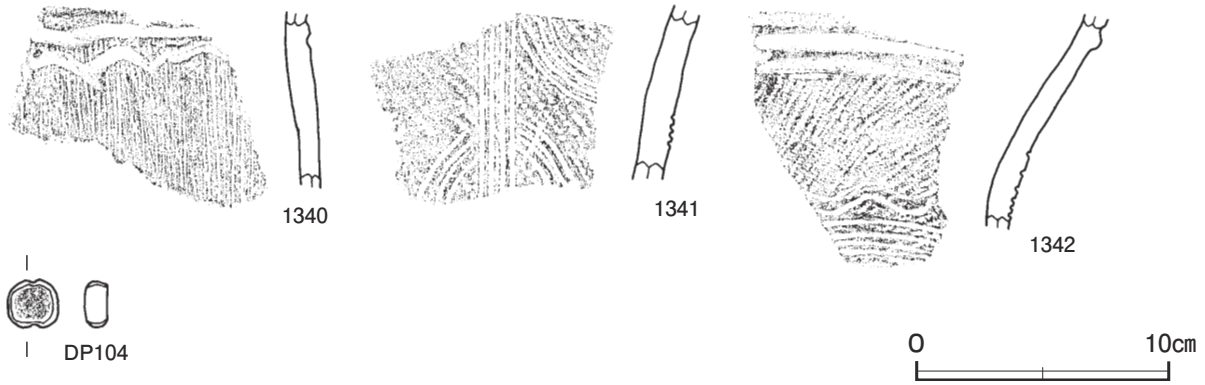
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 475 図 第 549 号土坑・出土遺物実測図



第 476 図 第 549 号土坑出土遺物実測図(1)



第 477 図 第 549 号土坑出土遺物実測図 (2)

第 549 号土坑出土遺物観察表 (第 475 ~ 477 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1326	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英	灰黄褐	良好	突起頂部渦巻文 口縁に沿って隆帯貼付 内面にも隆帯描出	覆土中	PL144
1327	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	頂部背割れ隆帯による渦巻文 単節縄文 RL (横) 施文	覆土中	
1328	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	波頂部に穿孔 口縁に沿って背割れ隆帯一巡 単節縄文 RL (縦) を施文 隆帯による波状文	覆土中	
1329	縄文土器	深鉢	-	(9.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	口縁に沿って2条の隆帯貼付 隆帯下地文に無節縄文 L (縦) 半截竹管による横・縦の沈線文	覆土中層	
1330	縄文土器	深鉢	-	(19.1)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	波頂部厚めの隆帯による渦巻文 単節縄文 RL (斜) 施文の厚めの隆帯による区画文 区画に沿って沈線文 頸部同一原体による縄文で胴部と区画	覆土上層	10% PL144
1331	縄文土器	深鉢	[13.5]	(12.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部内削ぎ状 地文に無節縄文 L (縦) 半截竹管による3本の縦位区画 区画内同施文具による渦巻文・重菱形文	覆土中層	20% PL144
1332	縄文土器	深鉢	[20.0]	(16.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部単節縄文 LR (横) 2条の隆帯による区画区画内隆帯による波状文 胴部同一原体 (縦)	覆土中層	30% PL144
1333	縄文土器	深鉢	[21.4]	(9.8)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に撚糸文 2条の隆帯による口縁部区画区画内隆帯による波状文と三角形の文様描出 頸部3本組の沈線文周囲	覆土中層	10% PL144
1334	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄褐	普通	口縁上部に2列の有節沈線文一巡	覆土中	
1335	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁に沿って単節縄文 RL (横) 施文の厚めの隆帯貼付 隆帯に沿って有節沈線	覆土中	
1336	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁に沿って単節縄文 RL (横) 施文の隆帯貼付 隆帯に沿って半截竹管による沈線文	覆土中	
1337	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁に沿って背割れ隆帯貼付 背割れ隆帯による横 S 字状文 地文に単節縄文 LR (縦)	覆土中	
1338	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁上部3本の太沈線一巡 内面に稜 外・内面磨き	覆土中	
1339	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁上部単節縄文 RL (横) が一巡 以下同一原体による縦回転で口縁部羽状構成	覆土上層	PL144
1340	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	縦位の条線文を地文とし、横位の蛇行沈線が一巡	覆土中	
1341	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	地文の単節縄文 LR (縦) 上に半截竹管による4条単位の縦線文・弧状文を描出	覆土中層	
1342	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に0段多条縄文 RL (縦) 背割れ隆帯一巡 頸部下位半截竹管による蛇行沈線・並行沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP104	土器片錘	1.8	2.0	0.9	4.6	長石・石英・雲母	暗褐	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土上層	

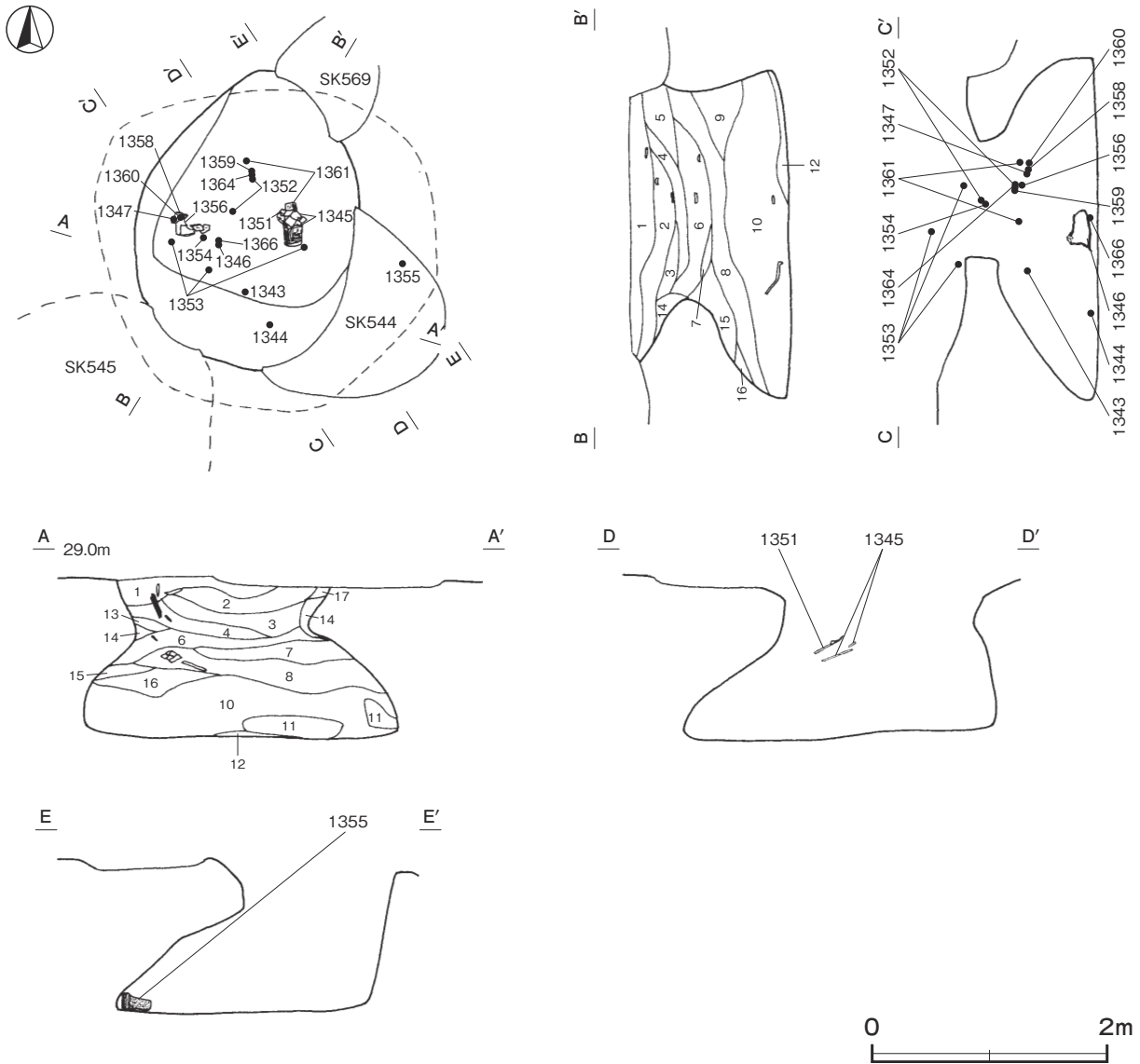
第 550 号土坑 (第 478 ~ 483 図 PL79・102)

位置 調査区中央部の C 3h2 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 544・545・569 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.51 m、短径 1.82 m の楕円形で、長径方向は N - 9° - E である。底面は径 2.92 ~ 2.98 m の不整形円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 136cm で、壁は中位まで内彎して、袋状を呈し、上位は外傾している。

覆土 17 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



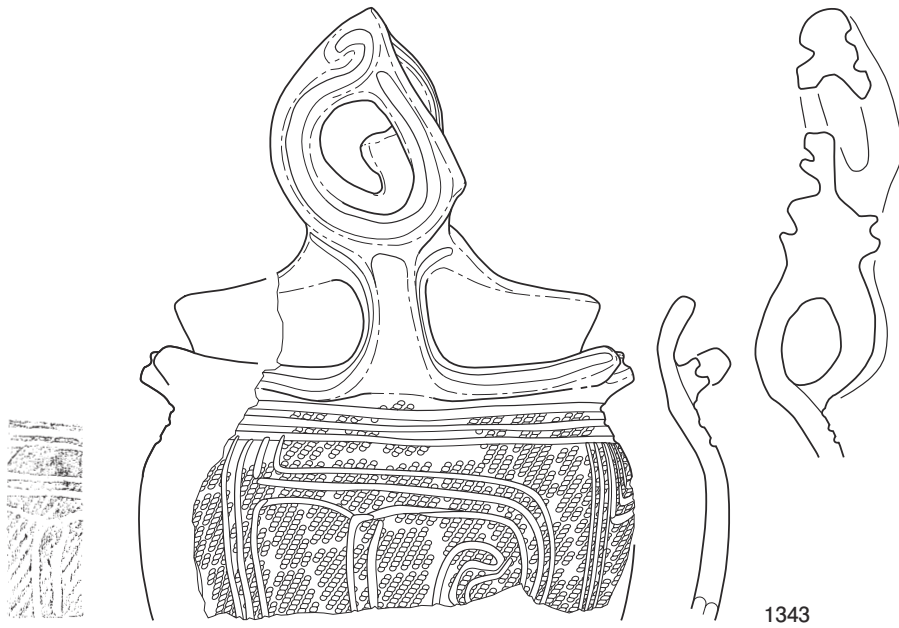
第 478 図 第 550 号土坑実測図

土層解説

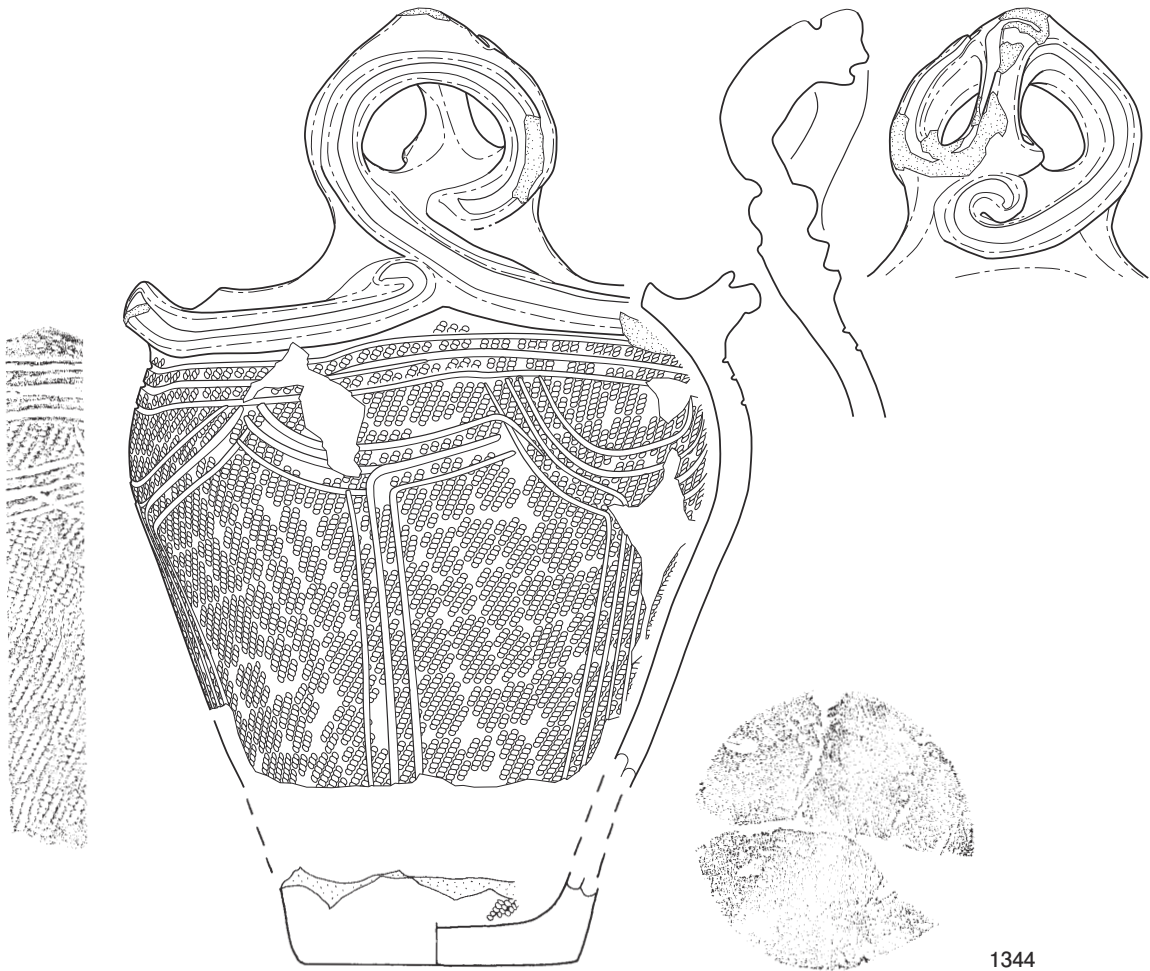
- | | | | |
|----------|-------------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 にぶい褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 17 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 9 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 348 点（深鉢 322, 浅鉢 26）, 石器 3 点（打製石斧, 磨製石斧, 石錘）, 加工痕のある剥片 1 点, 覆土全体に散乱した状態で出土している。1346・1355 はほぼ完形で, 1344 は上半部がほぼ完全な形で, いずれも底面近くから横位の状態で出土しており, 遺棄されたものと思われる。1366 は底面, 1345・1361 は覆土中層, 1352・1353 は覆土上層からそれぞれ出土し, 大型破片や離れた位置のものが接合していることから, 破碎したものを投棄されたと思われる。1366 は底面から, 1343・1347・1351・1356・1358・1360 は覆土中層からそれぞれ破片で出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



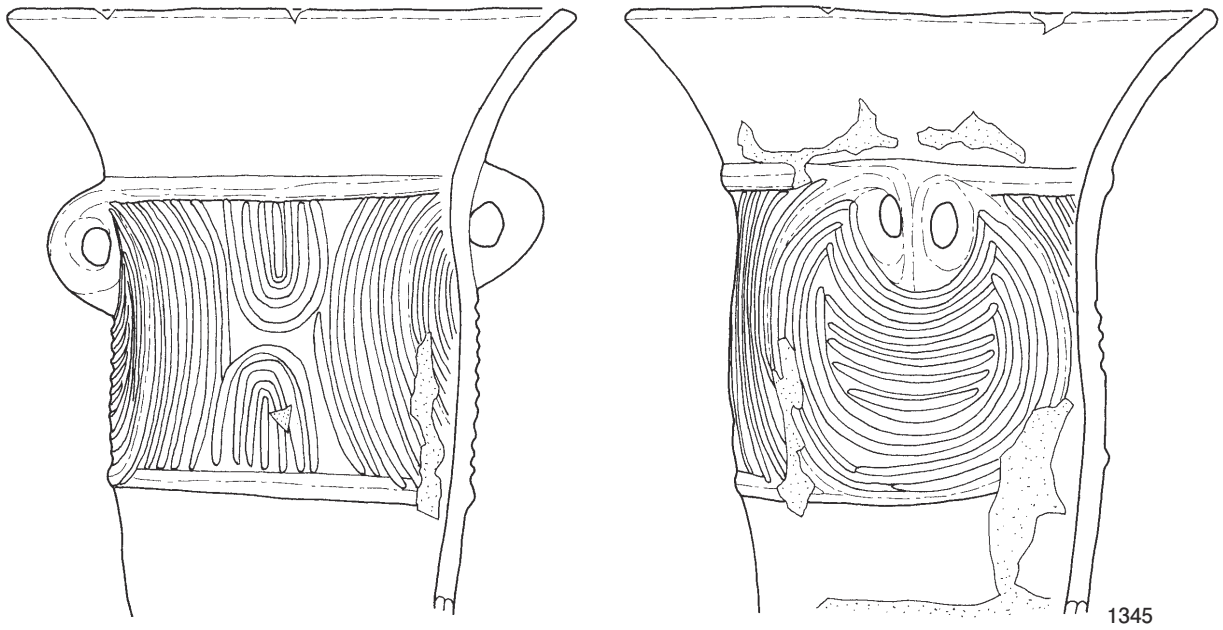
1343



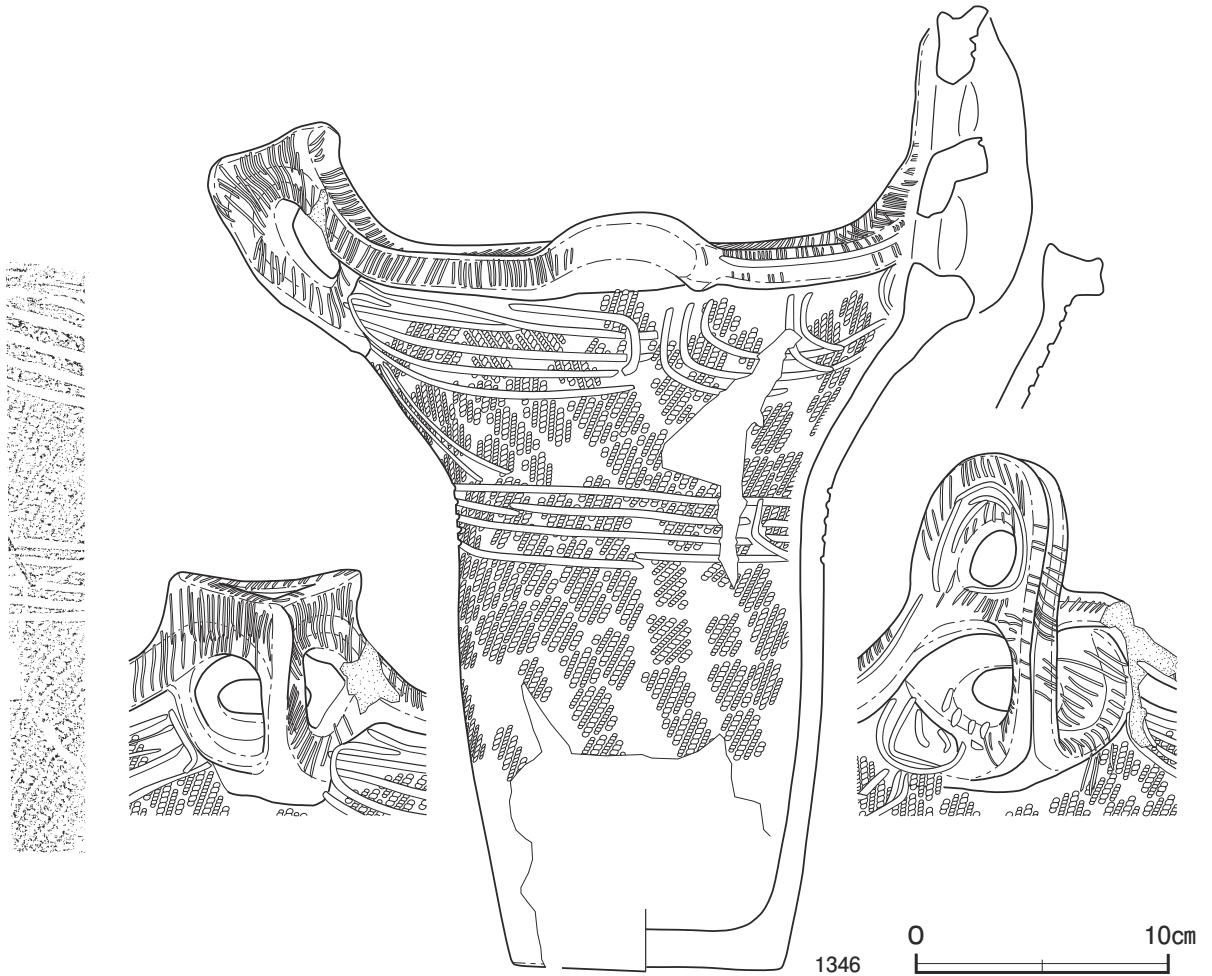
1344

0 10cm

第 479 图 第 550 号土坑出土遗物实测图 (1)



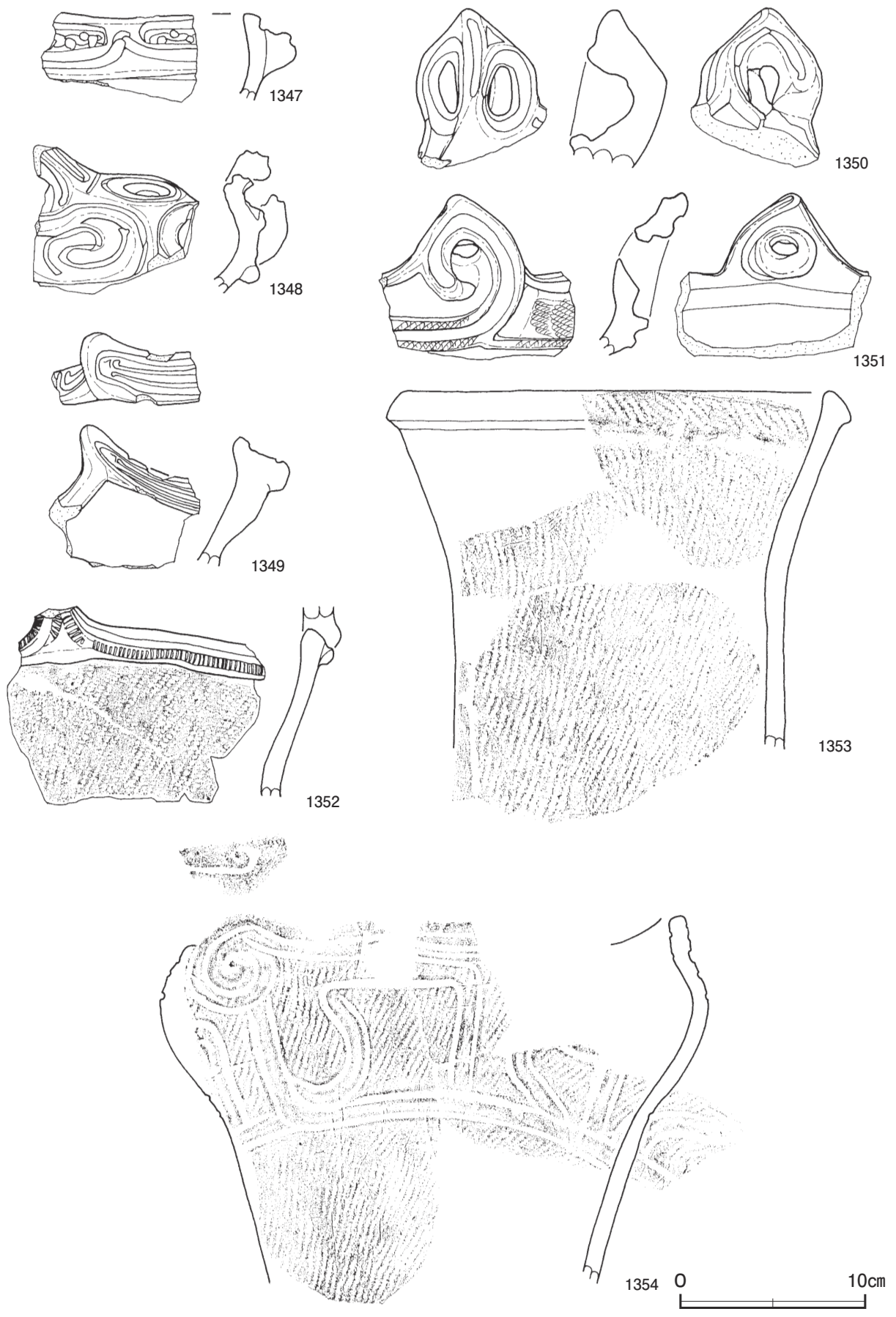
1345



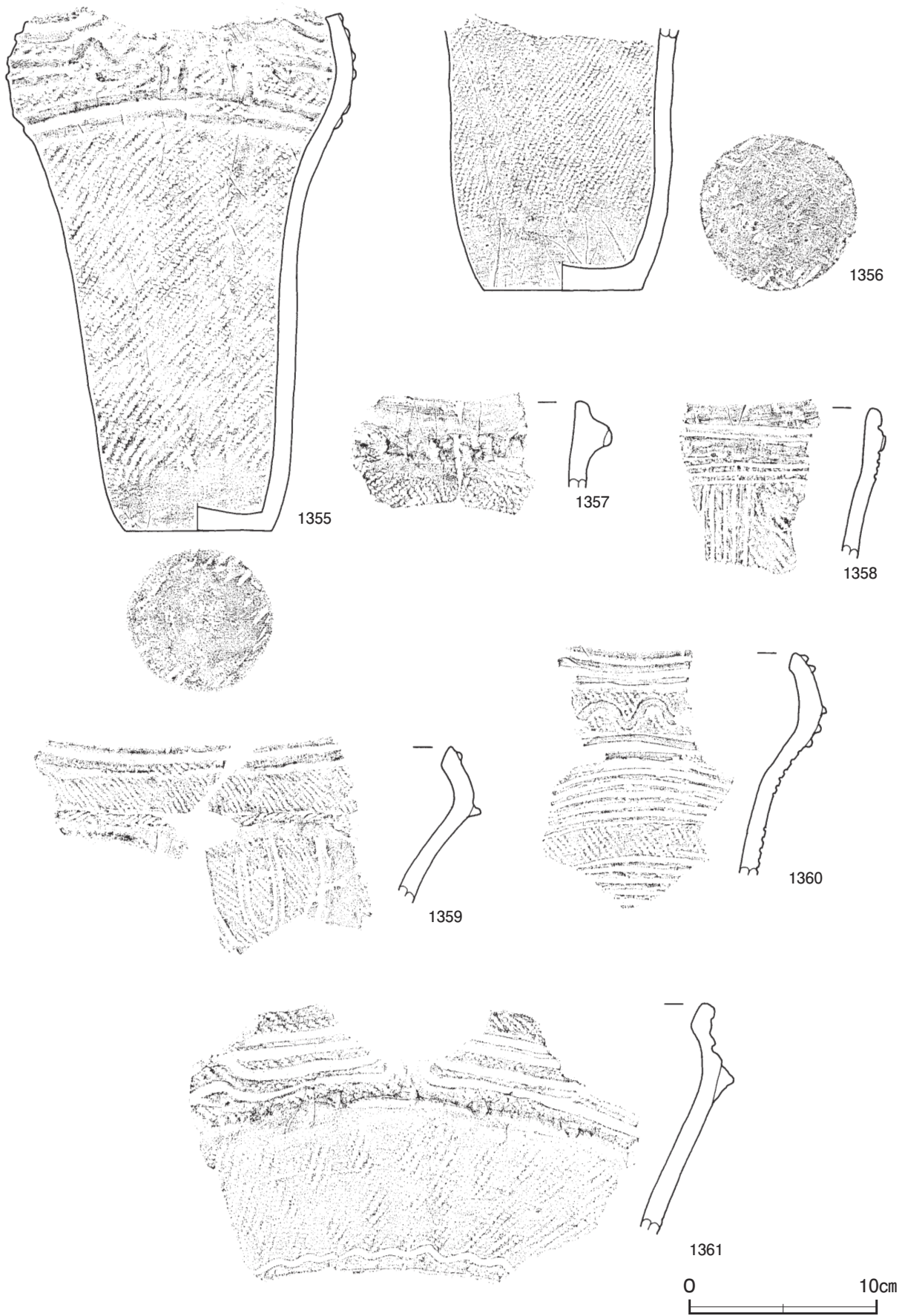
1346

0 10cm

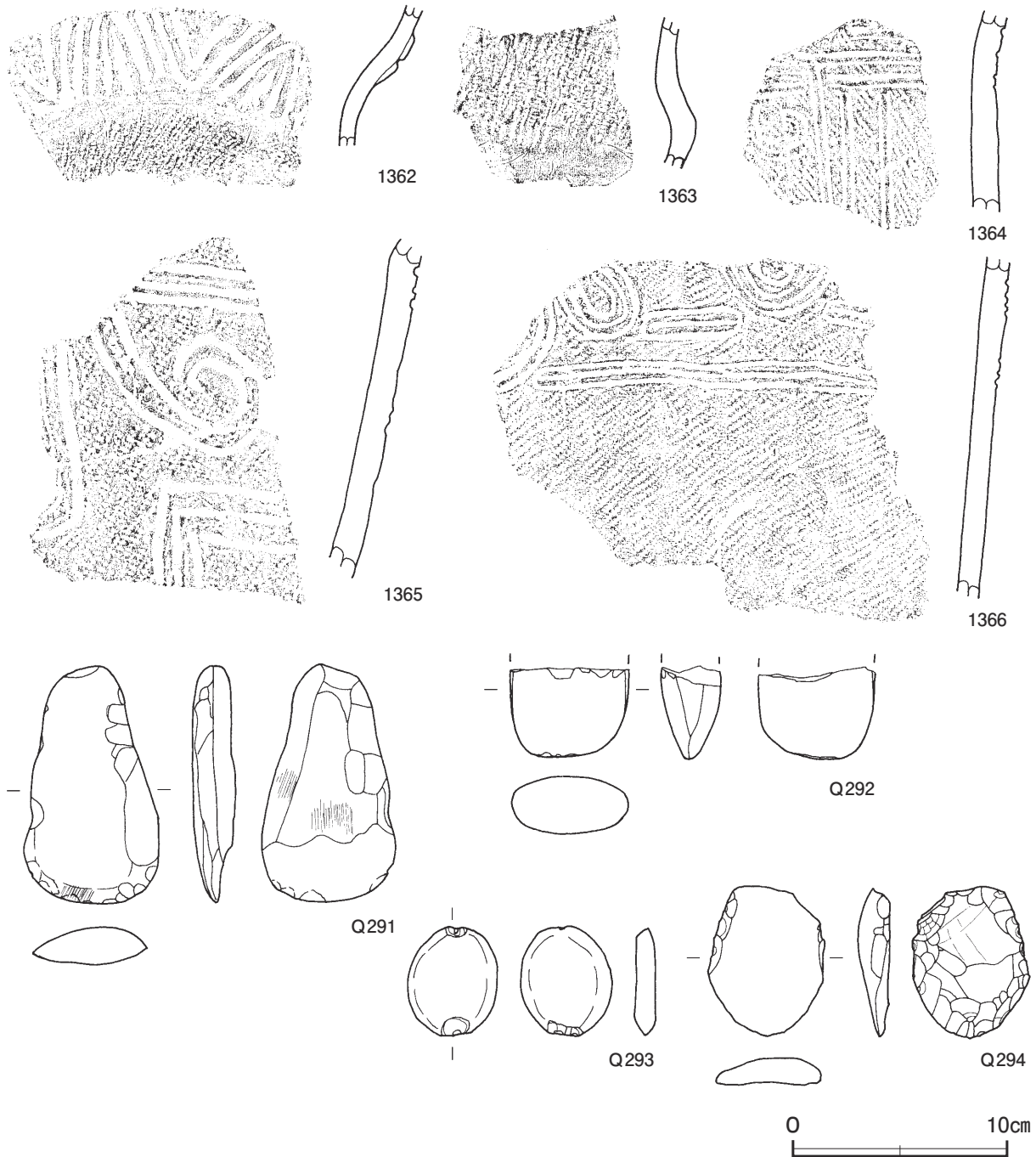
第 480 図 第 550 号土坑出土遺物実測図 (2)



第 481 图 第 550 号土坑出土遗物实测图 (3)



第 482 図 第 550 号土坑出土遺物実測図 (4)



第 483 図 第 550 号土坑出土遺物実測図 (5)

第 550 号土坑出土遺物観察表 (第 479 ~ 483 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1343	縄文土器	深鉢	[16.8]	(24.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁下突起を有する庇状の背割れ隆帯貼付 胴部単節縄文 RL (縦) 3本の沈線による横走文・縦線文・渦巻文	覆土中層	30% PL146
1344	縄文土器	深鉢	17.5	[38.0]	11.0	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	3孔を有する背割れ隆帯による中空把手 口縁部強く内彎 口唇部やや幅広く中央部が凹む 背割れ隆帯による庇状口縁 地文に単節縄文 RL (縦) 3本単位の沈線による横走文・弧状文・懸垂文	底面	70% PL146
1345	縄文土器	深鉢	22.8	(24.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口頸部無文 胴部と蒲鉾状隆帯で区画 胴部上位に眼鏡状把手1対 把手から楕円形状に隆帯貼付 隆帯に沿って重層する沈線による楕円形文・弧状文 胴部下位無文 赤彩痕	覆土中層	70% PL146
1346	縄文土器	深鉢	25.0	38.2	10.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部に細条線文 頂部が平坦な三角形の中中空把手と環状把手 厚めの隆帯による庇状口縁 沈線による楕円形区画文 区画内横走文と小波状文で充填 頸部と胴部を5本の沈線で区画 附加条縄文 RL (縦) 施文	底面	80% PL146

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1347	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁に沿う隆帯と庇状の背割れ隆帯による区画文 区画内交互刺突文	覆土中層	
1348	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部背割れ隆帯と沈線による渦巻文	覆土中	
1349	縄文土器	浅鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄褐	普通	波頂部沈線による蕨手文 口唇部肥厚 4本の 沈線文周囲 胴部に孔	覆土中	
1350	縄文土器	深鉢	-	(8.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	背割れ隆帯の頂点が山形を呈する眼鏡状把手	覆土中	
1351	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口唇部外削ぎ状で凹み 無節縄文 RL (横) 施文の背割れ隆帯による環状把手	覆土中層	
1352	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部に凹み 胴部単節縄文 RL (縦) 施文	覆土上層	
1353	縄文土器	深鉢	[23.0]	(19.5)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	口縁に沿って縄文施文の隆帯貼付 全面単節縄文 RL (縦) 施文	覆土上層	20%
1354	縄文土器	深鉢	[26.6]	(20.0)	-	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	波頂部沈線による渦巻文 地文に単節縄文 RL (縦) 部分的に磨消されている2本単位の沈線による区画文 区画内逆C字文・クランク文 胴部単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中層	20%
1355	縄文土器	深鉢	16.7	(28.3)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部平坦面作出 2条の隆帯で口縁部区画内2条の隆帯による横走文・波状文 胴部0段多条単節縄文 RL (縦) 施文 底面網代痕	底面	90% PL146
1356	縄文土器	深鉢	-	(14.0)	8.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文 RL (縦) 胴部下位ナデ 底面網代痕	覆土中層	20% 煤付着
1357	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁に沿って指頭押圧された厚めの隆帯貼付 単節縄文 RL を回転方向を変えて羽状構成	覆土中層	
1358	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って半截竹管による横走文 地文に単節縄文 LR (縦) 同施文具による懸垂文	覆土中層	
1359	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	地文に無節縄文 R (横) 背割れ隆帯と縄文施文の隆帯による区画 胴部半截竹管によるU字状の文様描画	覆土中層	
1360	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	2条の隆帯で口縁部を区画 隆帯による波状文 地文に単節縄文 LR (縦) 6本の沈線文	覆土中層	PL146
1361	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (横) 施文の隆帯で口縁部区画 区画内隆帯に沿って横走沈線文 胴部 (縦)	覆土中層	PL146
1362	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	良好	沈線を伴う隆帯による重層山形文 単節縄文 RL (縦)	覆土中	
1363	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	胴部下位無文で膨らむ 単節縄文 RL (縦)	覆土中	
1364	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	黒褐	普通	地文に無節 L (縦) 半截竹管による横走文・垂下文・渦巻文	覆土中層	
1365	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2から3本の沈線による横走文・渦巻文・方形文	覆土中	PL147
1366	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 3本の沈線による渦巻文・木葉文	底面	PL147

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 291	打製石斧	11.2	6.3	2.0	154.9	石英斑岩	撥形 表裏に自然面 刃部は片面を敲打後研磨 平刃	覆土中	PL165
Q 292	磨製石斧	(4.2)	5.5	2.8	(86.5)	緑色岩	定角式 側縁部に稜 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す 平刃 使用痕	覆土中	
Q 293	石錘	5.1	4.3	1.0	30.8	安山岩	両端部打撃によりキザミ目作出	覆土中	
Q 294	加工痕のある剥片	7.1	5.6	1.5	59.4	石英	1次剥離後、周縁部押圧剥離	覆土中	

第 553 号土坑 (第 484 図 PL79)

位置 調査区南部の D 3 b5 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 2 号溝に掘り込まれている。

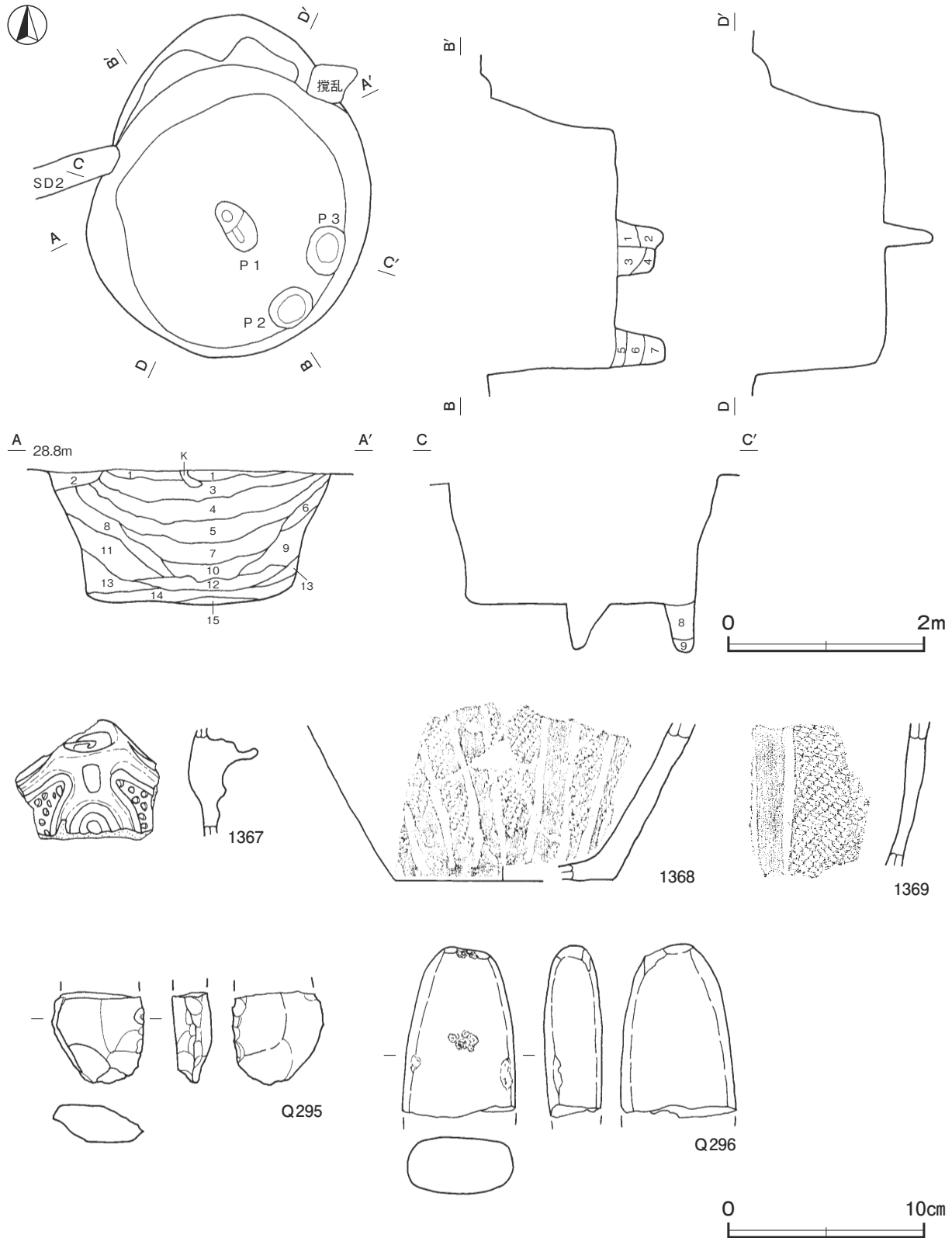
規模と形状 長径 3.49 m、短径 2.84 m の楕円形で、長径方向は N - 3° - E である。底面はほぼ平坦である。深さは 139cm で、壁はほぼ直立している。

ピット 3 か所。P 1 は中央部、P 2 は南東壁際、P 3 は東壁際に位置し、深さはそれぞれ 48cm・52cm・49 cm である。いずれも、位置や形状から柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	6 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	7 黒褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック中量	8 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	9 極暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック少量		

覆土 15 層に分層できる。第 1・3～5 層は黒褐色土や暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第 8～15 層はロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第 484 図 第 553 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|---------|-------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒 褐 色 | ローム粒子少量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |

- 9 にぶい褐色 ロームブロック少量
- 10 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 11 褐色 ローム粒子少量
- 12 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 13 極暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
- 14 極暗褐色 ロームブロック少量
- 15 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 231 点（深鉢 218, 浅鉢 13）, 石器 2 点（打製石斧, 磨製石斧未成品）が, 覆土全体から散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

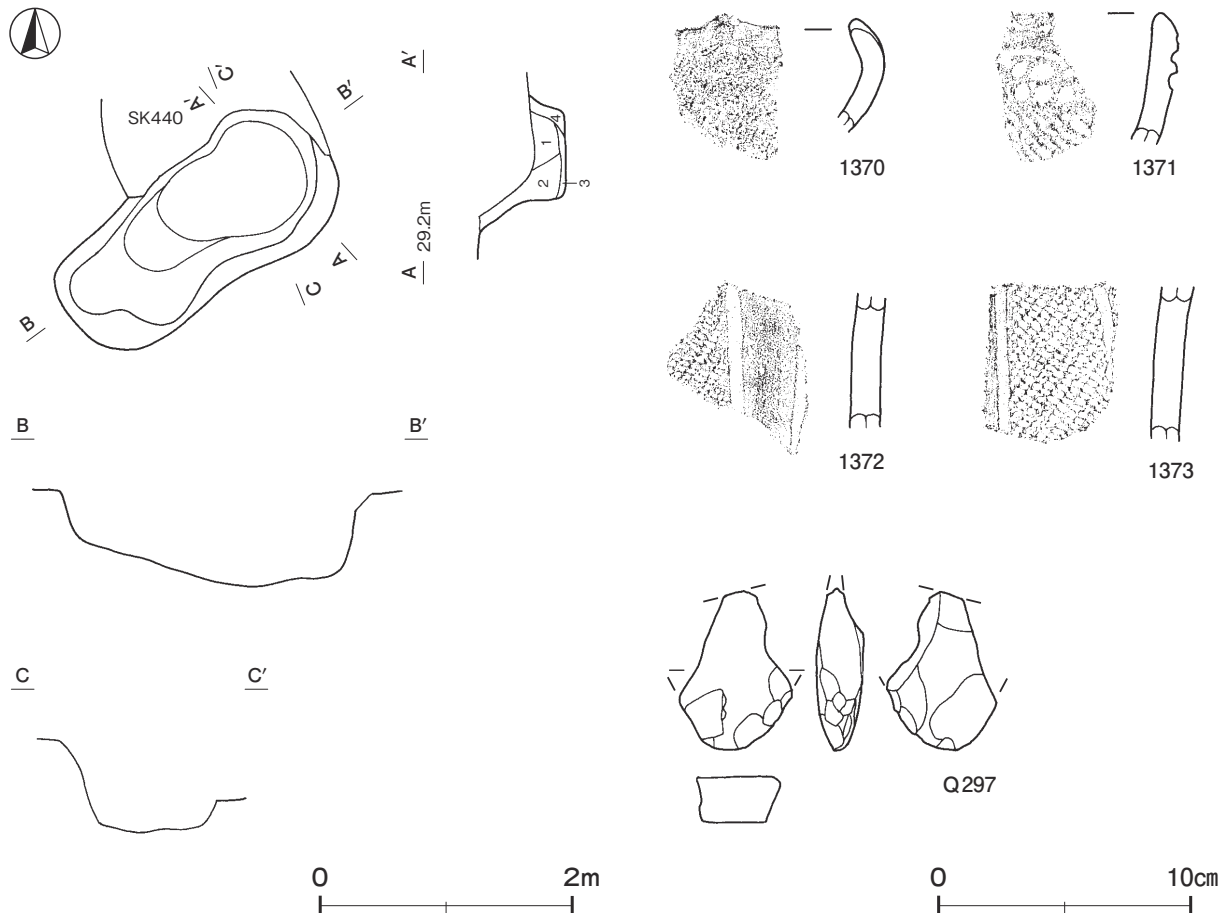
第 553 号土坑出土遺物観察表（第 484 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1367	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	波頂部渦巻文 沈線を伴う隆帯による区画文 区画内刺突文	覆土中	
1368	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	[11.1]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	胴部太沈線間磨消懸垂文 単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	10%
1369	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 太沈線間磨消懸垂文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 295	打製石斧	(4.7)	4.7	2.0	(54.4)	ホルンフェルス	撥形 片側縁に微細な敲打痕 基部欠損	覆土中	
Q 296	磨製石斧未成品	(8.8)	5.8	3.0	(224.2)	砂岩	表裏面研磨 周縁部微細な敲打痕 刃部欠損	覆土中	

第 555 号土坑（第 485 図）

位置 調査区東部の C 4 i2 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。



第 485 図 第 555 号土坑・出土遺物実測図

重複関係 第 440 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 2.40 m，短軸 1.03 m の隅丸長方形で，長軸方向は N - 54° - E である。底面は北東へ緩やかに下降している。深さは 34 ~ 70cm で，壁はほぼ直立している。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|-------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 4 褐 色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 78 点（深鉢），石器 1 点（打製石斧）が，覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。

第 555 号土坑出土遺物観察表（第 485 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
1370	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	細い単節縄文 RL（縦）を全面に施文	覆土中	
1371	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁に沿って沈線 2 列の円形刺突 無節縄文 L（縦）施文	覆土中	
1372	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL（縦） 太沈線間磨消懸垂文	覆土中	
1373	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL（縦） 太沈線間磨消懸垂文	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 297	打製石斧	(6.5)	(4.5)	1.9	(54.7)	安山岩	撥形 側縁部欠損 刃部は表裏を敲打 剣先状	覆土中	PL165

第 556 号土坑（第 486 図 PL79）

位置 調査区中央部の D 3 a7 区，標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 14 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.84 ~ 1.90 m のほぼ円形である。底面は平坦で，深さは 68cm である。壁はほぼ直立している。

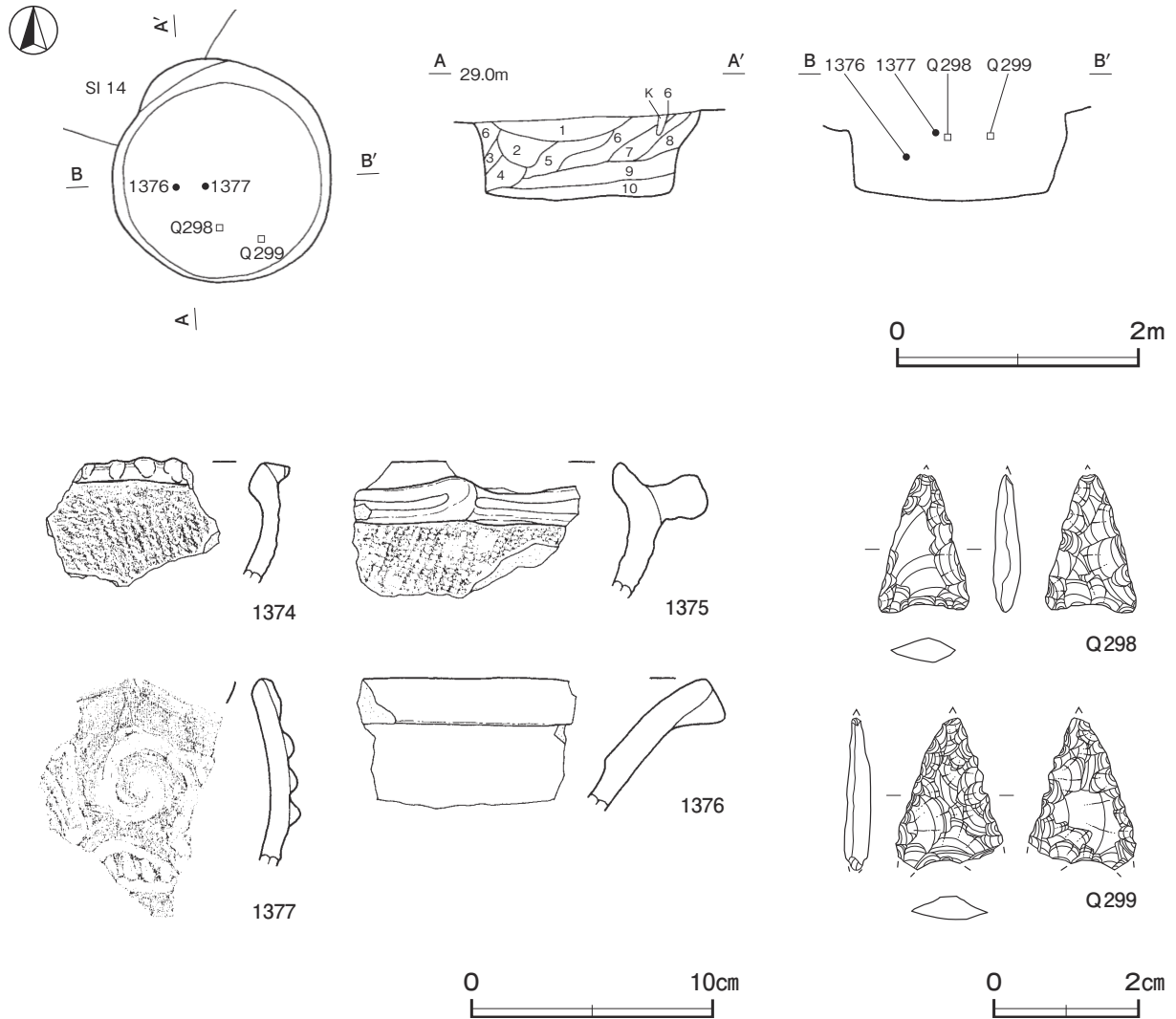
覆土 10 層に分層できる。多くの層にロームブロックや炭化物などが含まれ，不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|----------------------|
| 1 黒 褐 色 | 炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 褐 色 | ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量 | 7 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック中量，炭化物微量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック中量，炭化物少量 | 9 褐 色 | ロームブロック中量，炭化物少量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量 | 10 褐 色 | ロームブロック中量，炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 273 点（深鉢 272，浅鉢 1），石器 3 点（鏃 2，打製石斧 1），剥片 3 点（チャート 2，ホルンフェルス 1）が，覆土上層から中層を中心に散乱した状態で出土している。1376 は覆土中層から，1377，Q 298・Q 299 は覆土上層からそれぞれ出土し，ある程度埋まってから埋土と一緒に投棄されたと思われる。

所見 規模や形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。



第 486 図 第 556 号土坑・出土遺物実測図

第 556 号土坑出土遺物観察表 (第 486 図)

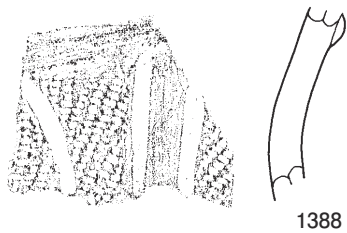
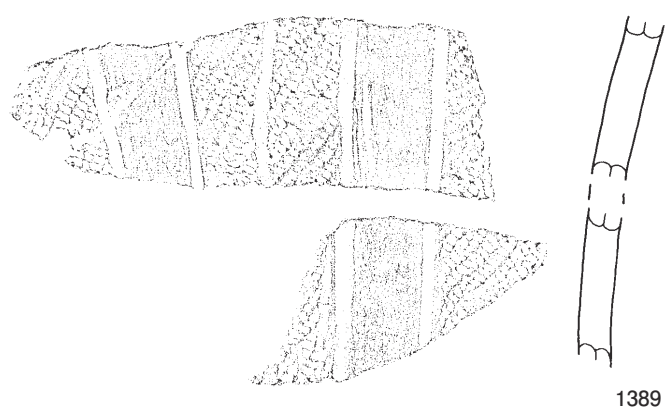
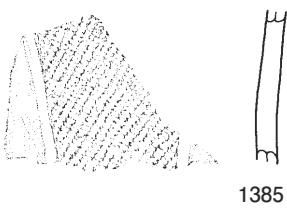
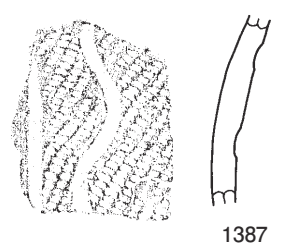
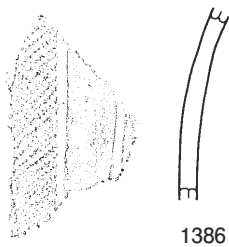
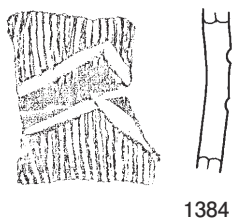
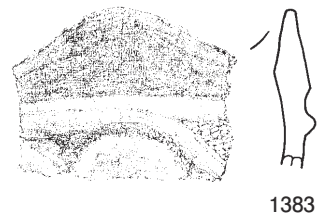
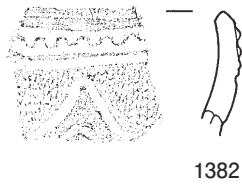
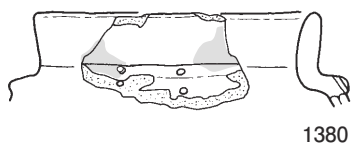
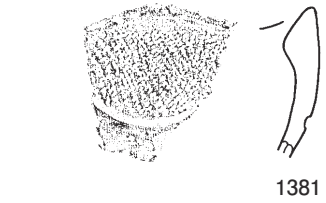
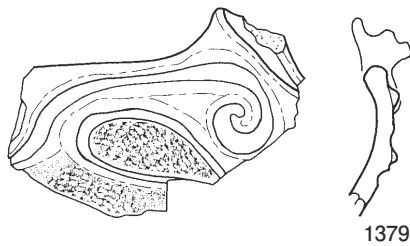
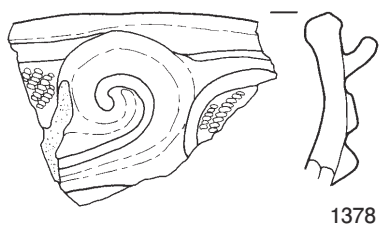
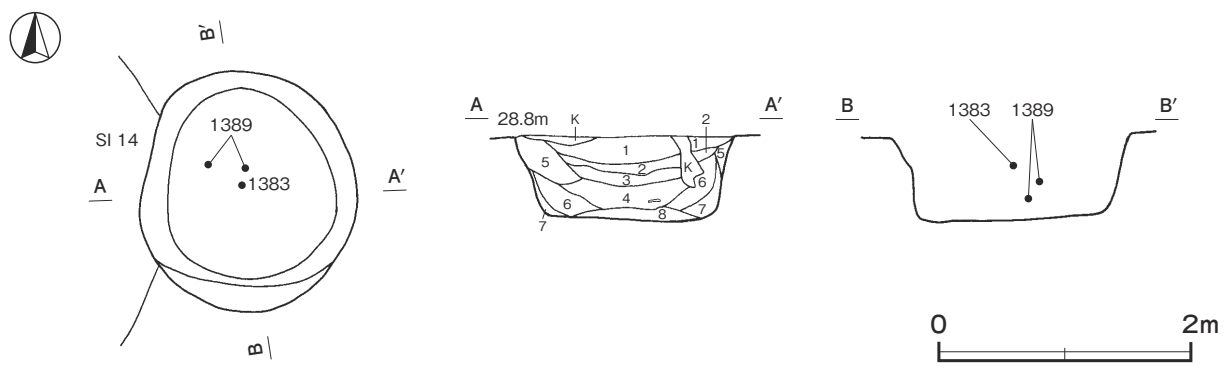
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
1374	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って押圧隆起線貼付 0段多条単節縄文LR(縦)施文	覆土中	
1375	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って庇状の背割れ隆帯貼付 単節縄文LR(横)施文	覆土中	
1376	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面磨き 内面に稜	覆土中層	
1377	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	波頂部渦巻文 沈線を伴う隆帯による区画文 区画内沈線文で充填	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 298	鏃	(1.9)	1.3	0.4	(0.8)	ホルンフェルス	無茎鏃 全面押圧剥離 先端部欠損	覆土上層	PL161
Q 299	鏃	(2.1)	(1.5)	0.4	(0.9)	安山岩	無茎鏃 全面押圧剥離 先端部・両脚部欠損	覆土上層	PL161

第 557 号土坑 (第 487 図 PL80)

位置 調査区中央部の C 3 i7 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 14 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。



第 487 图 第 557 号土坑·出土遗物实测图

規模と形状 長径 1.92 m, 短径 1.70 mの楕円形で, 長径方向はN - 10° - Wである。底面は平坦で, 深さは80cmである。壁はほぼ直立している。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 212点 (深鉢 211, 有孔罎付土器 1), 石器 1点 (磨石), 剥片 1点 (チャート) が, 覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1389は覆土中層から, 1383は覆土上層からそれぞれ出土し, ある程度埋まってから埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 557 号土坑出土遺物観察表 (第 487 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1378	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	庇状隆帯貼付 地文に単節縄文 LR (横) 太沈線を伴う隆帯による楕円形区画 区画間渦巻文	覆土中	
1379	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	渦巻文をもつ突起 単節縄文 LR (横) 太沈線を伴う隆起線による区画文 区画内渦巻文	覆土中	
1380	縄文土器	有孔罎付土器	[11.0]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁下部に平坦面 平坦面から斜めに穿孔	覆土中	
1381	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	単節縄文 RL (横) 沈線を伴う隆帯による楕円形区画文	覆土中	
1382	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁に沿って交互衝突による波状文 地文に撚糸文 沈線間磨消 弧状文	覆土中	
1383	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (斜) 太沈線を伴う隆起線による区画文	覆土上層	
1384	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	撚糸文上に太沈線間磨消弧状文	覆土中	
1385	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (縦) 施文 太沈線による懸垂文 沈線間磨消	覆土中	1386 と同一個体。
1386	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (縦) 施文 太沈線による懸垂文 沈線間磨消	覆土中	1385 と同一個体。
1387	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (縦) 施文 太沈線による懸垂文 沈線間磨消	覆土中	
1388	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部と胴部を隆帯で区画 単節縄文 RL (縦) 施文 太沈線による懸垂文 沈線間磨消	覆土中	
1389	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	0 段多糸単節縄文 RL (縦) 施文 太沈線による懸垂文 沈線間磨消	覆土中層	PL147

第 558 号土坑 (第 488 図)

位置 調査区中央部の C 3 h6 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 14 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.62 m, 短径 1.44 mの楕円形で, 長径方向はN - 84° - Eである。底面は平坦で, 深さは52cmである。壁は外傾している。

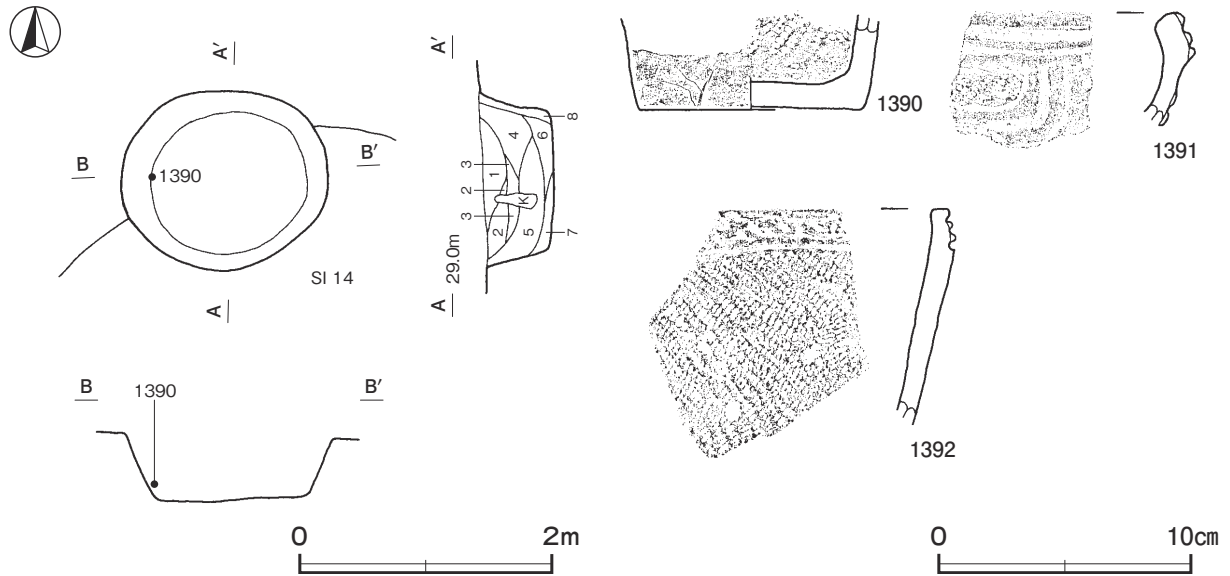
覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 37点 (深鉢) が, 覆土中からまばらに出土している。1390は覆土下層から出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模や形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 488 図 第 558 号土坑・出土遺物実測図

第 558 号土坑出土遺物観察表 (第 488 図)

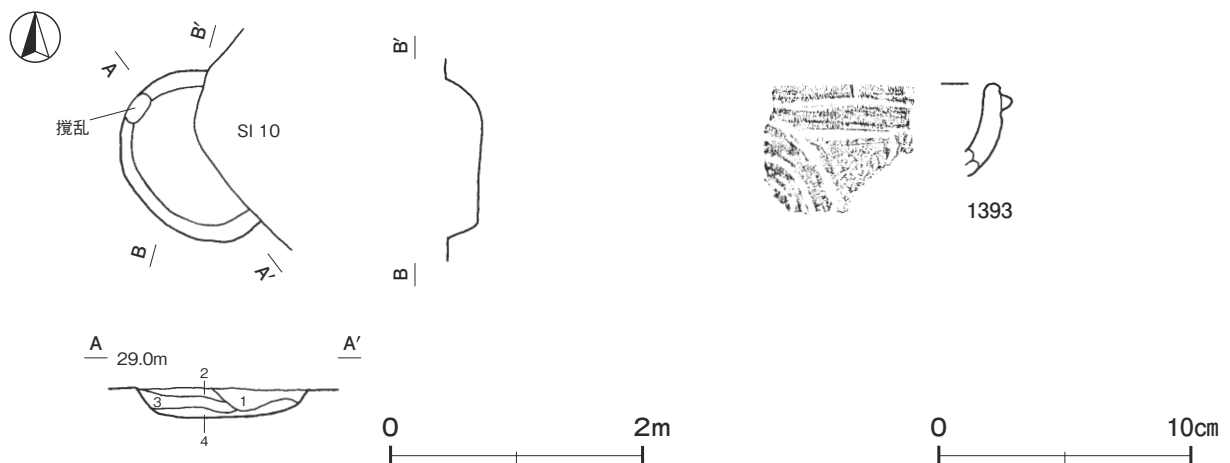
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1390	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	9.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (縦) 下端部指ナデ	覆土下層	10%
1391	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (縦) 2本一組の隆帯によるクラック文	覆土中	
1392	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁に沿って交互刺突文 単節縄文 RL (横) 施文	覆土中	

第 559 号土坑 (第 489 図)

位置 調査区東部の C 4 j3 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 10 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第 10 号竪穴建物に掘り込まれているため、南北径は 1.42 m で、東西径は 0.65 m しか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向は N - 34° - W である。底面は平坦で、深さは 29cm である。壁は外傾している。



第 489 図 第 559 号土坑・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片9点（深鉢8，浅鉢1）が，覆土中からまばらに出土している。

所見 性格は不明である。時期は，出土土器から中期と考えられるが，詳細は不明である。

第559号土坑出土遺物観察表（第489図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1393	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部太沈線 地文に複節縄文RLR（横） 隆帯による区画文	覆土中	

第561号土坑（第490図）

位置 調査区中央部のC4il区，標高29mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第15号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は長径1.19m，短径0.96mの楕円形で，長径方向はN-85°-Eである。底面は長径1.86m，短径1.66mの楕円形で，ほぼ平坦である。確認面からの深さは70cmで，壁は中位まで内彎して，袋状を呈し，上位は外傾している。

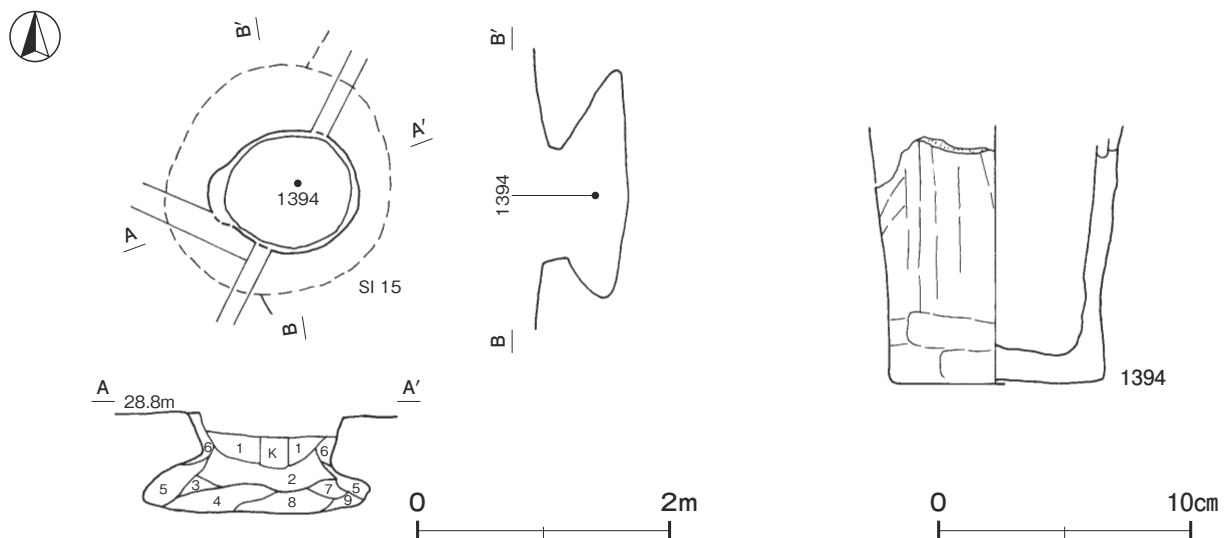
覆土 9層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片41点（深鉢），石器1点（磨石）が，覆土中からまばらに出土している。1394は破片で覆土中層から出土し，埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模や形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，中期と考えられるが，詳細は不明である。



第490図 第561号土坑・出土遺物実測図

第 561 号土坑出土遺物観察表 (第 490 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1394	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	8.6	長石・石英・雲母	灰褐	普通	胴部縦方向の指ナデ 下部横方向の指ナデ	覆土中層	20%

第 564 号土坑 (第 491 図 PL80)

位置 調査区東部の C 4 i4 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 21 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.62 ~ 1.69 m のほぼ円形である。底面は平坦で, 深さは 64cm である。壁は外傾している。

ピット 径 76 ~ 80cm の円形で, 深さ 26cm である。形状から, 補助的な貯蔵施設と考えられる。

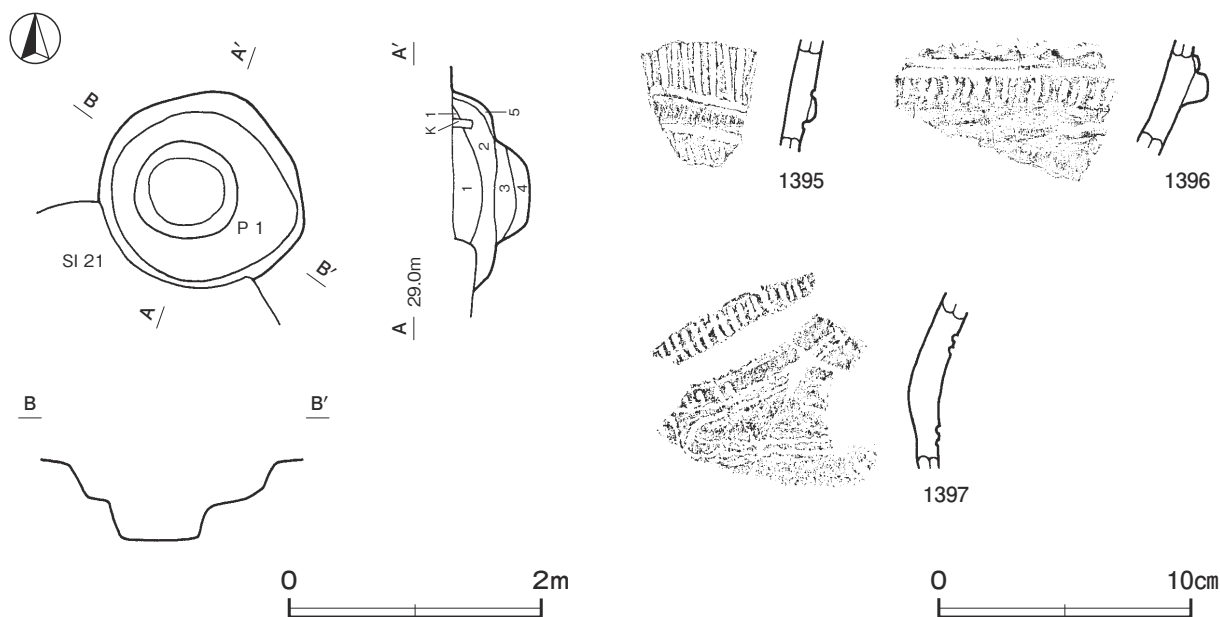
覆土 3 層に分層できる。暗褐色土がレンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。第 4・5 層は, P 1 の覆土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 23 点 (深鉢) が, 覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 規模や形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 491 図 第 564 号土坑・出土遺物実測図

第 564 号土坑出土遺物観察表 (第 491 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1395	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	縦位の沈線文 横位のキザミ目をもつ蒲鉾状隆帯貼付	覆土中	
1396	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	隆帯に沿って沈線による波状文・2本の沈線文 横位のキザミ目をもつ蒲鉾状隆帯で胴部と区画	覆土中	
1397	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	2列の有節沈線文を伴う隆帯による区画文	覆土中	

第 567 号土坑 (第 492 図 PL80)

位置 調査区北東部の C 4 e3 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 568・577 号土坑に掘り込まれている。

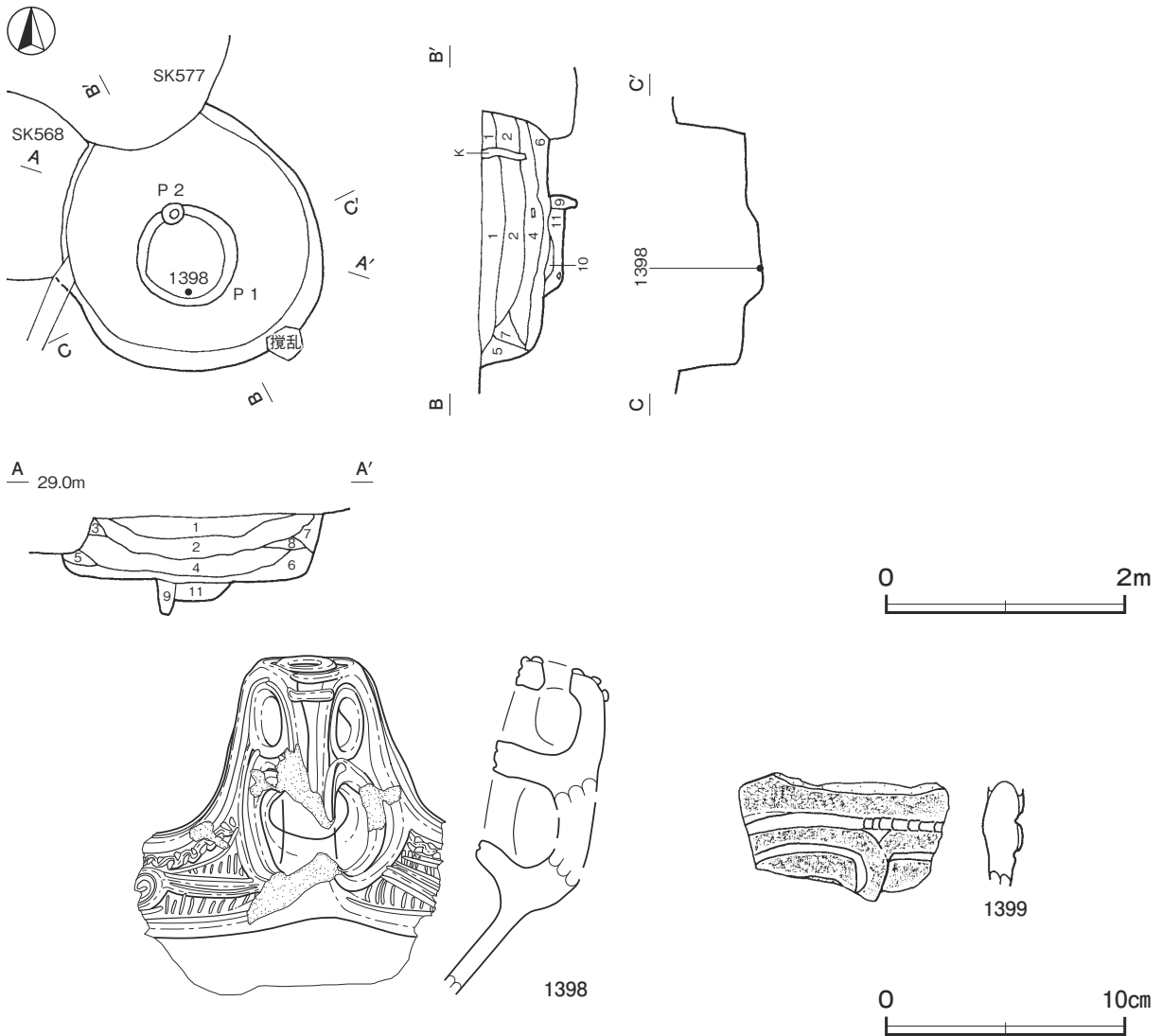
規模と形状 長径 2.33 m, 短径 2.10 m の楕円形で, 長径方向は N - 26° - W である。底面は平坦で, 深さは 58cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 2 か所。P 1 は中央部に位置し, 径 86 ~ 90cm の円形で, 深さは 16cm である。P 2 は P 1 の北壁際に位置し, 深さ 32cm である。P 2 は, P 1 を埋めた後に掘り込まれている。P 1 は, 形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は, 位置や形状から柱穴と考えられる。

覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。第 9 層は P 2, 第 10・11 層は P 1 の覆土である

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化材微量 | | |



第 492 図 第 567 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 89 点（深鉢 78, 浅鉢 11）, 石器 1 点（磨石）が, 覆土中からまばらな状態で出土している。1398 は底面から出土していることから, 埋め戻す前に投棄されたか, 遺棄されたものと思われる。
所見 規模や形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 567 号土坑出土遺物観察表（第 492 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1398	縄文土器	深鉢	-	(14.2)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	背割れ隆帯による口縁部区画, 口縁に沿って交互刺突文, 区画内渦巻文・沈線文で充填	底面	10% PL147
1399	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線文と角押文を伴う縄文施文の隆帯による区画文, 区画内単節縄文 RL (横) 充填	覆土中	

第 568 号土坑（第 493 図）

位置 調査区北東部の C 4 e3 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 567・575・577 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.70 m, 短径 1.55 m の楕円形で, 長径方向は N - 73° - W である。底面は平坦で, 深さは 28cm である。壁は外傾している。

ピット 2 か所。P 1 は南西壁際に位置し, 長径 66cm, 短径 50cm の楕円形で, 深さは 60cm である。西側壁は内彎している。P 2 は西壁際に位置し, 深さ 16cm である。P 1 は, 形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は, 性格不明である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

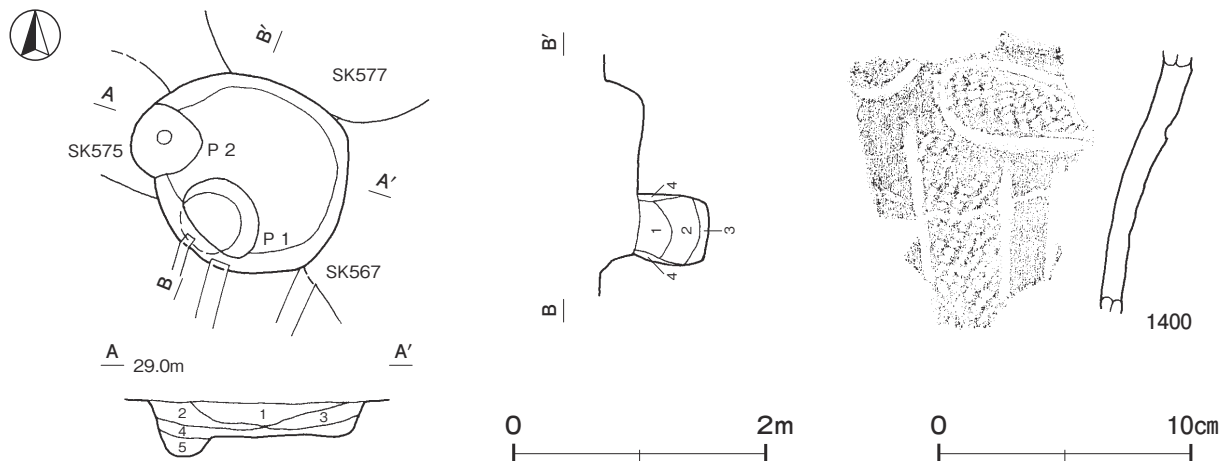
覆土 4 層に分層できる。ロームブロックを含む層が堆積していることから, 埋め戻されている。第 5 層は P 2 の覆土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 5 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 60 点（深鉢 57, 浅鉢 3）が, 覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 規模や形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 493 図 第 568 号土坑・出土遺物実測図

第 568 号土坑出土遺物観察表 (第 493 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1400	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線による楕円形区画文 (横) 胴部 (縦) 沈線区画の磨消懸垂文	覆土中	

第 574 号土坑 (第 494・495 図 PL81)

位置 調査区西部の C 2h7 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 20 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

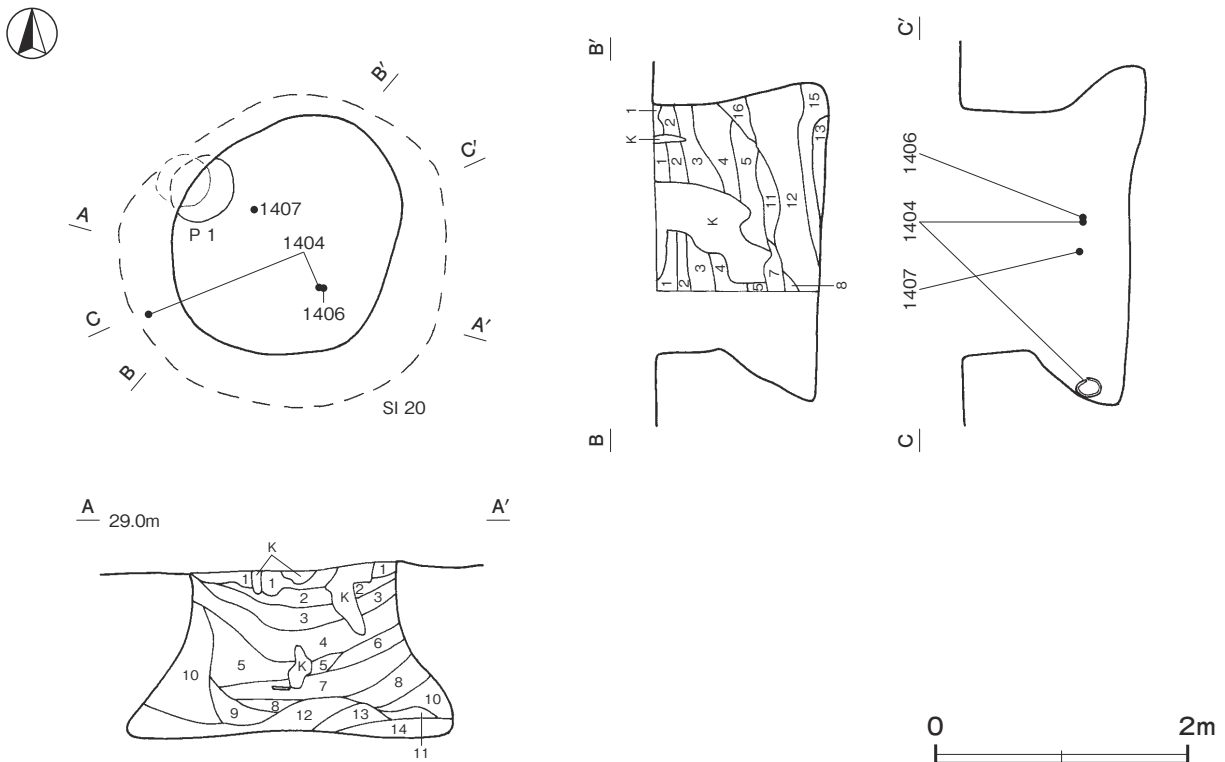
規模と形状 開口部は長径 2.02 m、短径 1.67 m の楕円形で、長径方向は N - 57° - E である。底面は径 2.38 ~ 2.54 m の不整形円で、平坦である。確認面からの深さは 148cm で、壁は中位まで内彎して、袋状を呈し、上位はほぼ直立している。

ピット 北西壁際に位置し、長径 58cm、短径 48cm の楕円形を呈している。深さは 45cm で、西壁は内彎している。形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

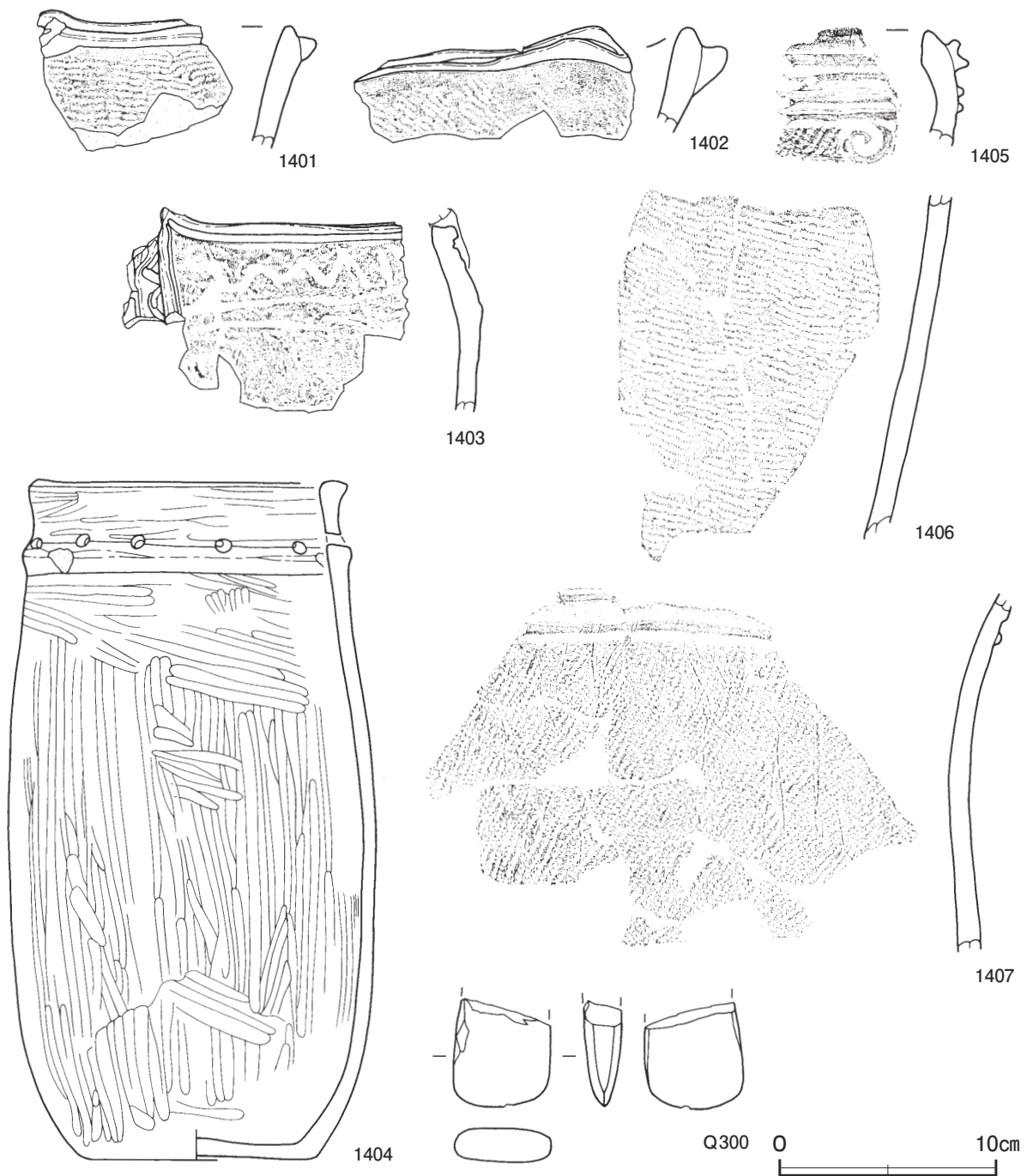
覆土 16 層に分層できる。ロームブロックを含む層などが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 13 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 14 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子中量 |



第 494 図 第 574 号土坑実測図



第 495 図 第 574 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 146 点（深鉢 142，浅鉢 3，有孔罎付土器 1），石器 1 点（磨製石斧）が，覆土中層から下層にかけて散乱した状態で出土している。1404 は覆土中層と下層から出土し，離れた位置のものが接合していることから，破碎したものを投棄したと思われる。1406・1407 は，覆土中層から出土しており，埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模や形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 574 号土坑出土遺物観察表 (第 495 図)

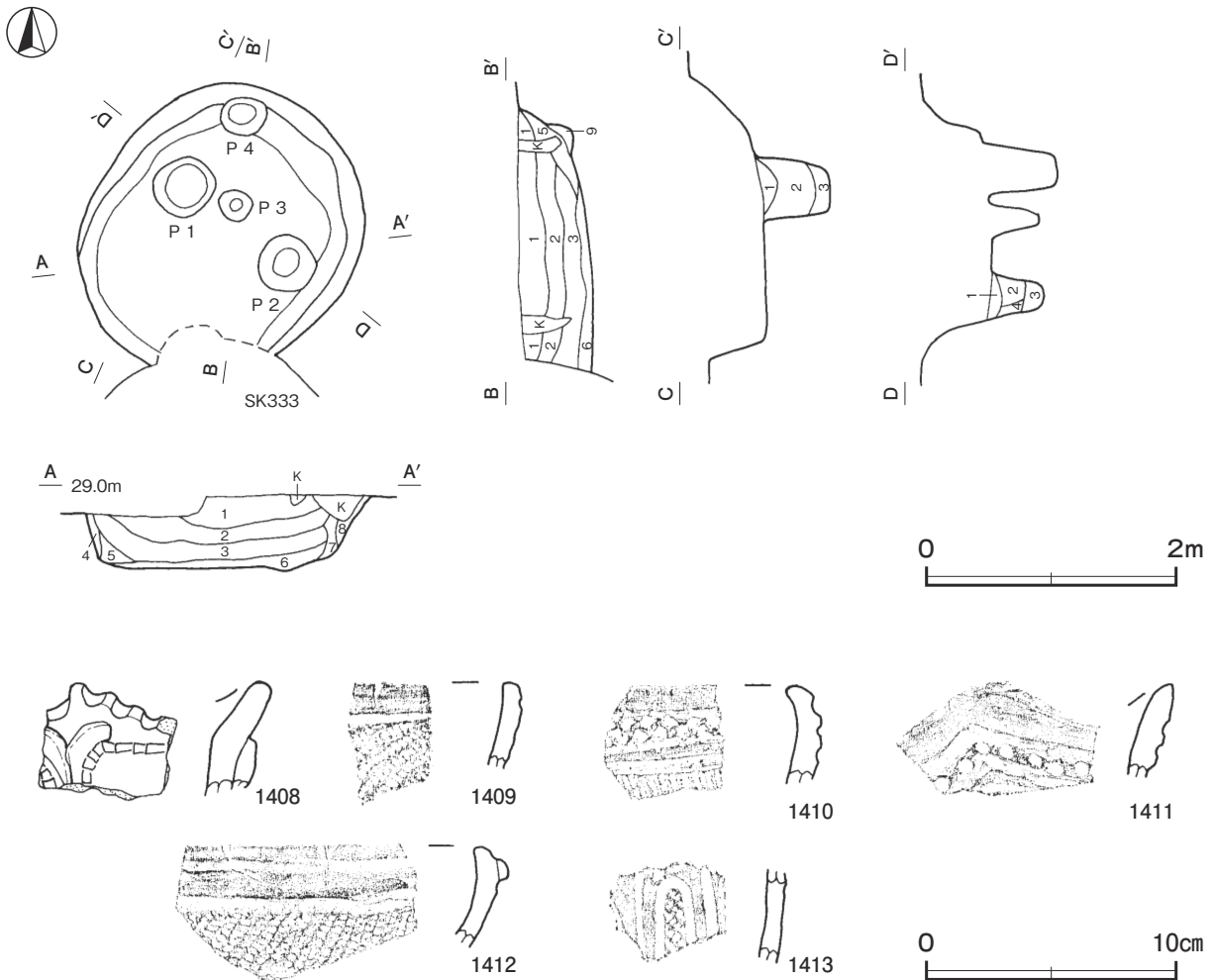
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1401	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	無節縄文 L (斜) 施文	覆土中	1402・1406 と同一個体。
1402	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄褐	普通	無節縄文 L (縦) 施文	覆土中	1401・1406 と同一個体。
1403	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	-	長石・石英	灰褐	普通	口縁に沿う隆帯と波頂部から垂下する隆帯による区画文 区画内沈線による波状文	覆土中	10%
1404	縄文土器	有孔罎付土器	14.8	31.7	11.0	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部下位に 12 か所の穿孔 口縁部と胴部は隆帯により区画 表面全体に化粧土 外・内面ともに丁寧な磨き 外・内面赤彩痕	覆土中～下層	90% PL147 外面煤付着
1405	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	背割れ隆帯による区画文 区画内単節縄文 LR (横) 隆帯による渦巻文	覆土中	
1406	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	無節縄文 L (縦・斜) 施文	覆土中層	1401・1402 と同一個体。
1407	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	灰褐	普通	2条の隆帯で胴部と区画 胴部単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 300	磨製石器	(5.0)	4.6	(1.4)	(53.6)	蛇紋岩	定角式 全面研磨 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す 平刃	覆土中	PL167

第 576 号土坑 (第 496 図 PL82)

位置 調査区中央部の C 3 d4 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 333 号土坑に掘り込まれている。



第 496 図 第 576 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長軸 2.42 m, 短軸 2.10 m の隅丸長方形で, 長軸方向は N - 35° - E である。底面はほぼ平坦で, 深さは 55cm である。壁は外傾している。

ピット 4 か所。P 1 は北西部, P 2 は南東壁際, P 3 は中央部からやや北寄り, P 4 は北コーナー部に位置し, 深さは, それぞれ 60cm, 46cm, 42cm, 18cm である。位置や形状から, P 1・P 2 は補助的な貯蔵施設, P 3 は柱穴と考えられる。P 4 は, 性格不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 3 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | 4 褐 色 | ロームブロック中量 |

覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 9 層は P 4 の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 6 極 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 7 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 8 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | 9 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 156 点 (深鉢) が, 覆土全体から散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 576 号土坑出土遺物観察表 (第 496 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1408	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	波頂部に V 字状隆起線貼付 口唇部棒状工具による波状押圧文 隆起線に沿って有節沈線文	覆土中	
1409	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	褐	普通	口縁に沿って沈線文 単節縄文 LR (横) 施文	覆土中	
1410	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁に沿って交互刺突による波状文 縦位の擦糸文	覆土中	
1411	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁に沿って並行沈線 沈線間に円形刺突文	覆土中	
1412	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	
1413	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	縦位の沈線による楕円形区画 区画内単節縄文 LR (縦) 充填	覆土中	

第 577 号土坑 (第 497 ~ 501 図 PL82・103)

位置 調査区北東部の C 4 d3 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 567・578 号土坑を掘り込み, 第 568 号土坑に掘り込まれている。

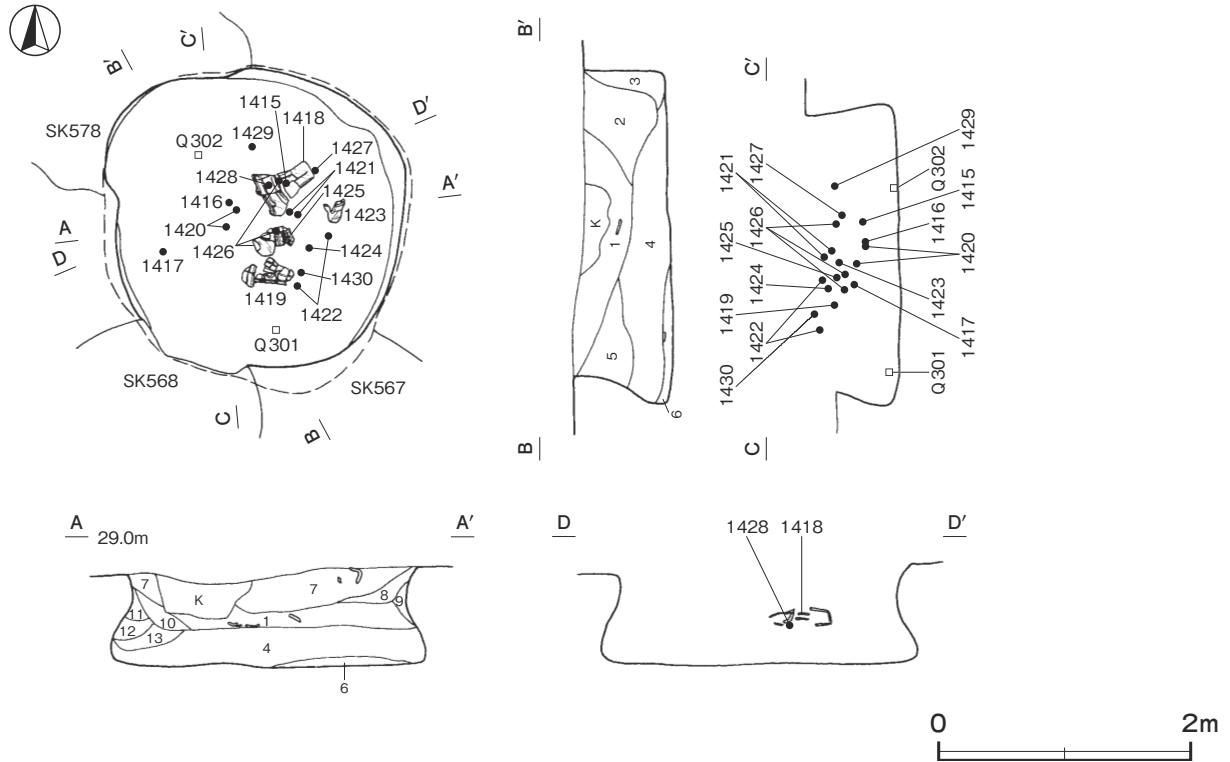
規模と形状 開口部は径 2.40 m ほどの円形である。底面は径 2.58 ~ 2.70 m のほぼ円形で, 平坦である。確認面からの深さは 77cm で, 壁は中位まで内彎して, 袋状を呈し, 上位は外傾している。

覆土 13 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|----------|------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 褐 色 | ロームブロック中量 | 10 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化物少量 |
| 4 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 12 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 6 褐 色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 | 13 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 357 点 (深鉢 329, 浅鉢 28), 土製品 2 点 (土器片錘, 土器片円盤), 石器 4 点 (打製石斧, 磨製石斧, 磨石, 敲砥石) が, 覆土上層から中層を中心に散乱した状態で出土している。1418 は, ほぼ完形で覆土中層から横位で出土しており, ある程度埋まってから遺棄されたか, 投棄されたものと思われる。1426



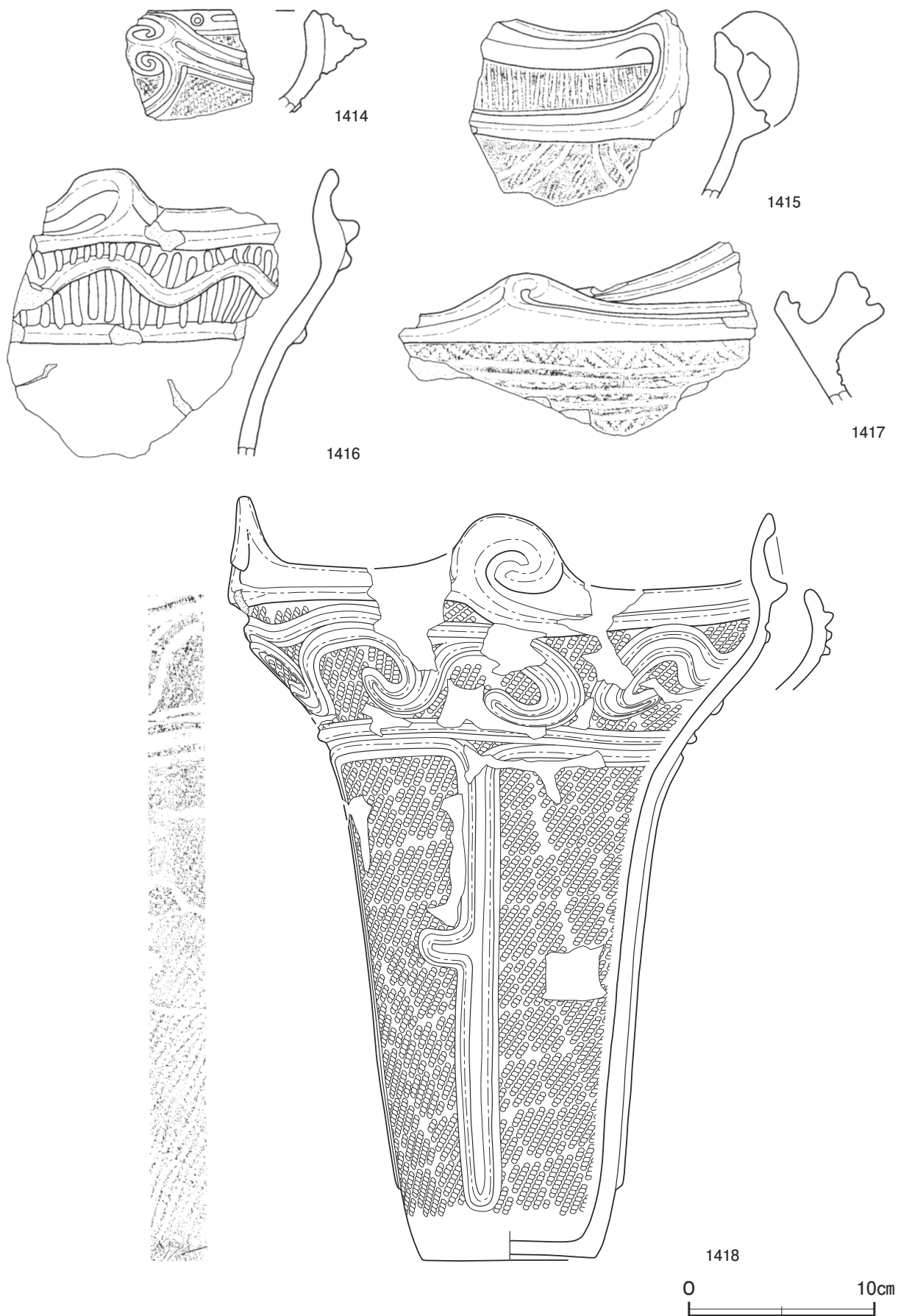
第 497 図 第 577 号土坑実測図

は覆土中層から、1422 は覆土上層からそれぞれ出土している。これらは、離れた位置のものが接合していることから、破碎したものを投棄したと思われる。Q 301・Q 302 は覆土下層から、1415～1417・1420・1427・1428・1431 は覆土中層から、1419・1421・1423～1425・1429・1430 は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 577 号土坑出土遺物観察表 (第 498～501 図)

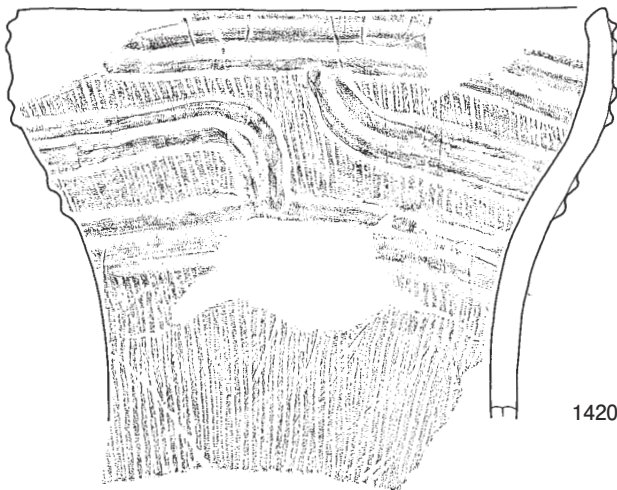
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1414	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	口唇部沈線一巡 円形刺突文 突起状の隆帯 貼付 隆帯上に2方向の渦巻文 単節縄文 LR (横) 背割れ隆帯による区画文	覆土中	
1415	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	厚みのある背割れ隆帯で口縁部区画 眼鏡状 把手 区画内沈線文で充填 胴部単節縄文 RL (縦) 2本の沈線による弧状文	覆土中層	
1416	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	断面蒲葺形の隆帯で口縁部を区画 区画内同隆帯による波状文 縦位の沈線文で充填 頸部無文	覆土中層	10% PL147
1417	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部に沈線一巡 外側波状口縁 頂部に渦巻文をもつ庇状の背割れ隆帯一巡 単節縄文 LR の原体圧痕による V 字構成 半截竹管による 2本の並行沈線文	覆土中層	PL147
1418	縄文土器	深鉢	25.0	41.2	9.3	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	波頂部に渦巻文 口縁に沿う隆帯と2条の隆帯で口頸部区画 区画内背割れ隆帯による連続渦巻文 胴部単節縄文 RL (縦) 2条の隆帯による逆上の字状文 底面に縄文原体圧痕文	覆土中層	90% PL148
1419	縄文土器	深鉢	[28.8]	(38.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部沈線を伴う隆帯で区画 区画内2条の隆帯による渦巻文・波状文 胴部3本組の沈線で区画 0段多条単節縄文 LR (縦) 同施文具で縦区画 区画内同施文具による麻手文 輪積み痕	覆土上層	70% PL148
1420	縄文土器	深鉢	[23.2]	(16.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部2条単位の沈線を伴う背割れ隆帯で区画 区画内同隆帯によるクランク文 胴部縦位の擦糸文施文	覆土中層	30% PL147
1421	縄文土器	深鉢	22.5	(15.7)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁に沿う庇状の背割れ隆帯と沈線を伴う隆帯で口頸部区画 区画内沈線を伴う隆帯による連続弧状文・波状文 胴部0段多条単節縄文 LR (縦) 施文	覆土上層	60% PL148
1422	縄文土器	深鉢	[30.0]	(18.7)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部断面半円状の隆帯で区画 口縁部上位地文の縄文を磨消 やや幅のある背割れ隆帯による弧状文貼付 口縁部下位単節縄文 LR (縦) 隆帯による波状文 頸部単節縄文上に3本組の並行沈線文 同沈線文で胴部と区画 輪積み痕	覆土上層	10% PL147



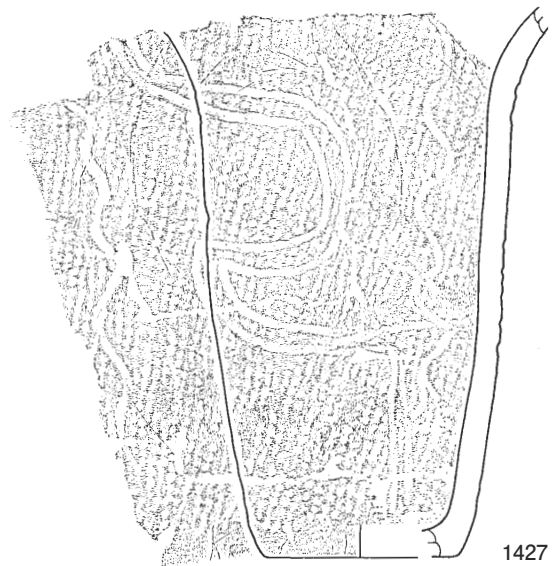
第 498 图 第 577 号土坑出土遗物实测图 (1)



1419



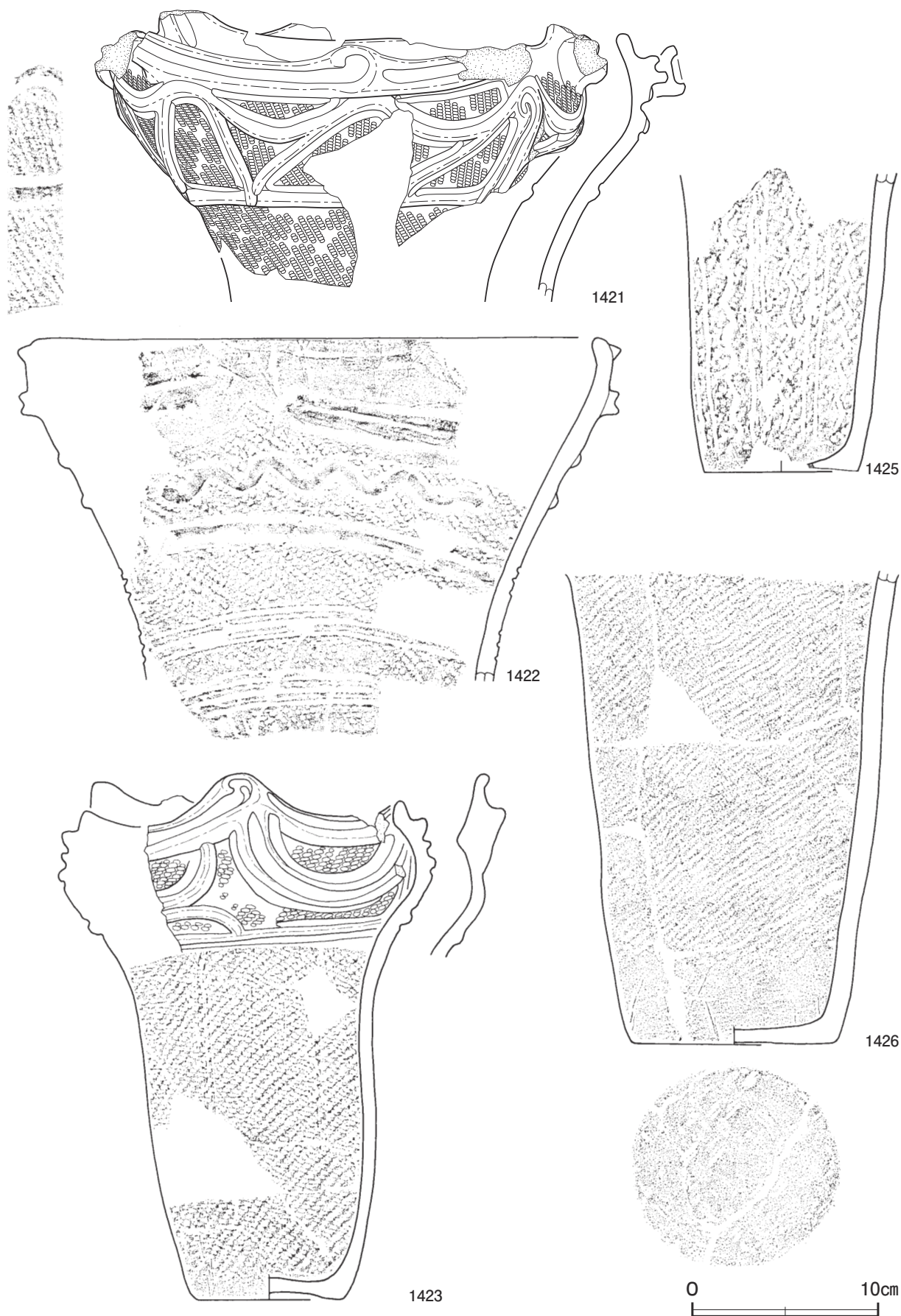
1420



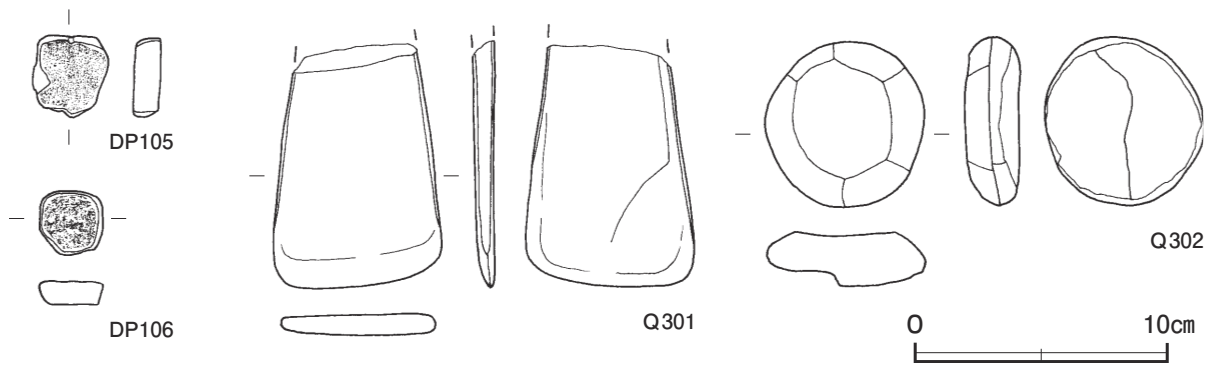
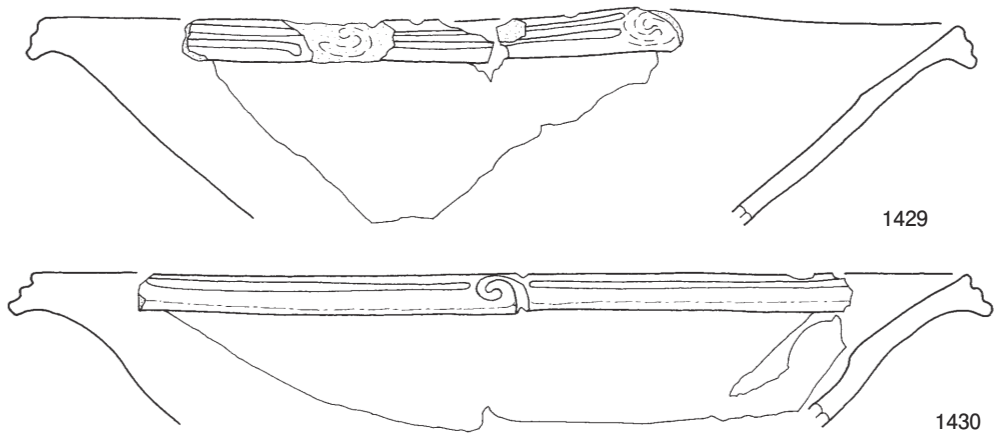
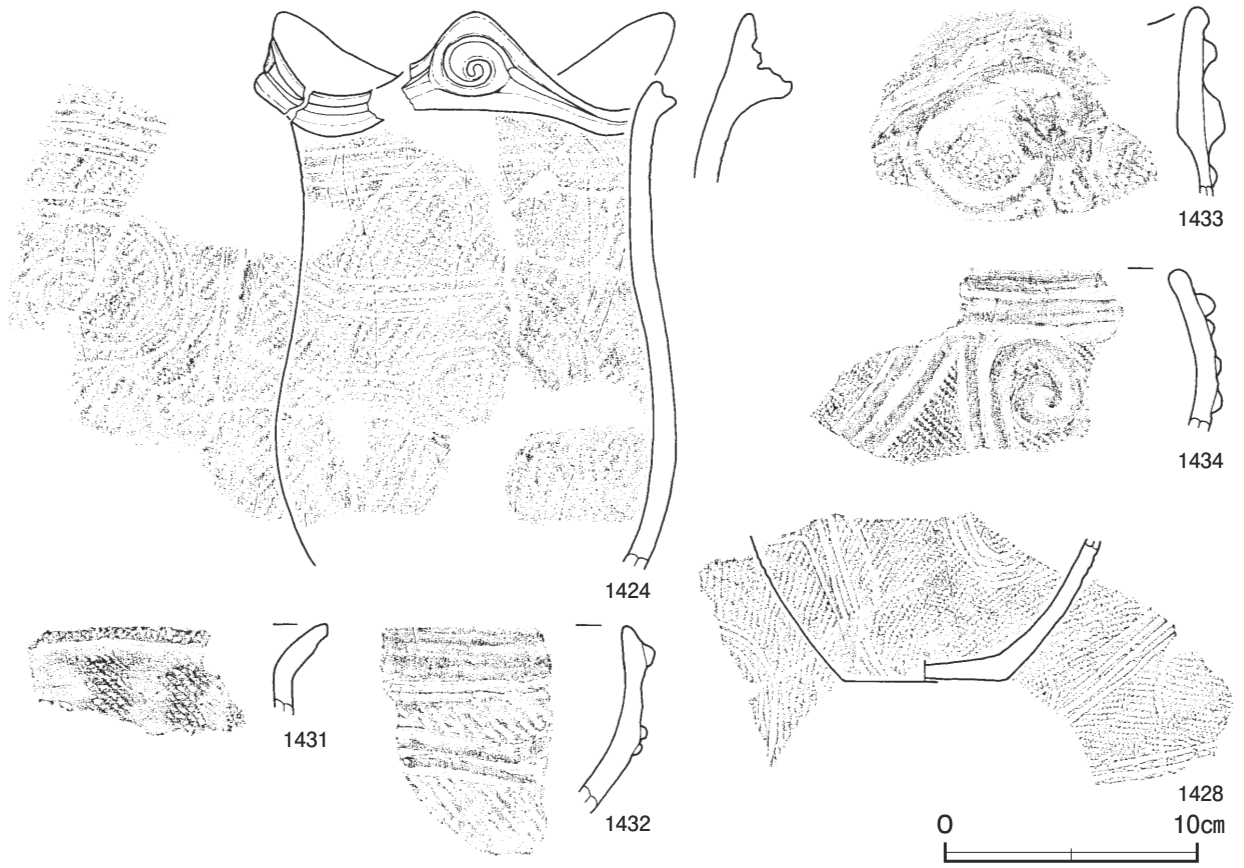
1427



第 499 図 第 577 号土坑出土遺物実測図 (2)



第 500 图 第 577 号土坑出土遗物实测图 (3)



第 501 図 第 577 号土坑出土遺物実測図(4)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1423	縄文土器	深鉢	[16.9]	28.5	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	波頂部に渦巻文 口唇部太沈線周囲 隆帯で口頸部を区画 区画内太沈線を伴う背割れ隆帯による弧状文 胴部0段多条単節縄文RL(縦)施文	覆土上層	80% PL147
1424	縄文土器	深鉢	14.0	(22.2)	-	長石・石英・雲母・細礫	赤褐	普通	口唇部渦巻文 単節縄文RL(縦) 半截竹管による横線文・渦巻文・縦線文を描画	覆土上層	50% PL148
1425	縄文土器	深鉢	-	(16.1)	8.2	長石・石英・雲母	灰褐	普通	単節縄文RL(縦) ほぼ等間隔に2本の並行沈線を垂下 沈線間に蛇行沈線垂下	覆土上層	40%
1426	縄文土器	深鉢	-	(25.7)	11.0	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	0段多条単節縄文RL(縦) 下端部横方向のナデ 底面粗い網代痕	覆土中層	60% PL148
1427	縄文土器	深鉢	-	(22.0)	[7.8]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文LR(斜) 蛇行沈線垂下 間に平行する沈線によるコの字状文垂下	覆土中層	70% PL148
1428	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	6.4	長石・石英・雲母	明褐	普通	単節縄文RL(縦) 3本単位の沈線による縦線文・円文を描画 底面丁寧な磨き	覆土中層	10%
1429	縄文土器	浅鉢	[48.2]	(10.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	2本の沈線による平行線文・渦巻文 内面に稜外・内面横方向のナデ	覆土上層	10% 外面煤付着
1430	縄文土器	浅鉢	[49.2]	(8.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	1本の太沈線・渦巻文 内面に稜 外・内面横方向の磨き	覆土上層	20% PL147
1431	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部無節縄文L(縦) 胴部同一原体による間を開けての縞状施文	覆土中層	
1432	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部断面蒲鋒状の背割れ隆帯による区画文 無節縄文L(縦) 施文	覆土中	
1433	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁に沿って太沈線を伴う隆帯による区画文・渦巻文 区画内単節縄文LR(斜) 充填	覆土中	
1434	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文RL(横) 2条の隆帯による区画文・渦巻文	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP105	土器片錘	3.2	3.0	1.0	12.5	長石・石英	にぶい褐	一端のみ粗雑に研磨 両端にキザミ目	覆土中	
DP106	土器片円盤	2.6	2.5	0.9	7.8	長石・石英	明赤褐	周縁部粗雑に研磨	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 301	打製石斧	(9.8)	6.7	0.9	(113.3)	角閃岩	撥形 表裏面及び周縁部研磨 刃部は表裏を研磨 基部欠損 薄型の平刃	覆土下層	
Q 302	敲砥石	6.9	6.3	2.3	126.0	チャート	円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土下層	PL173

第 578 号土坑 (第 502・503 図 PL82)

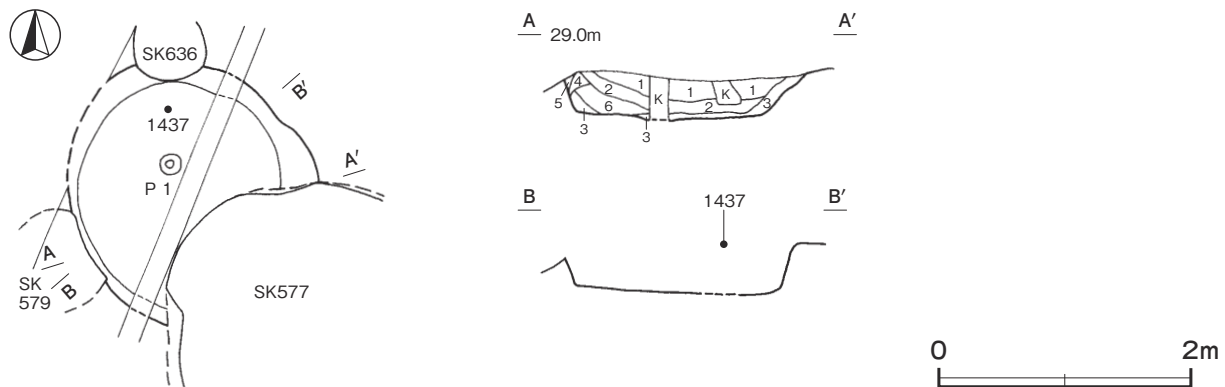
位置 調査区北東部のC 4 d3区, 標高 29 mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 577・579・636 号土坑に掘り込まれている。

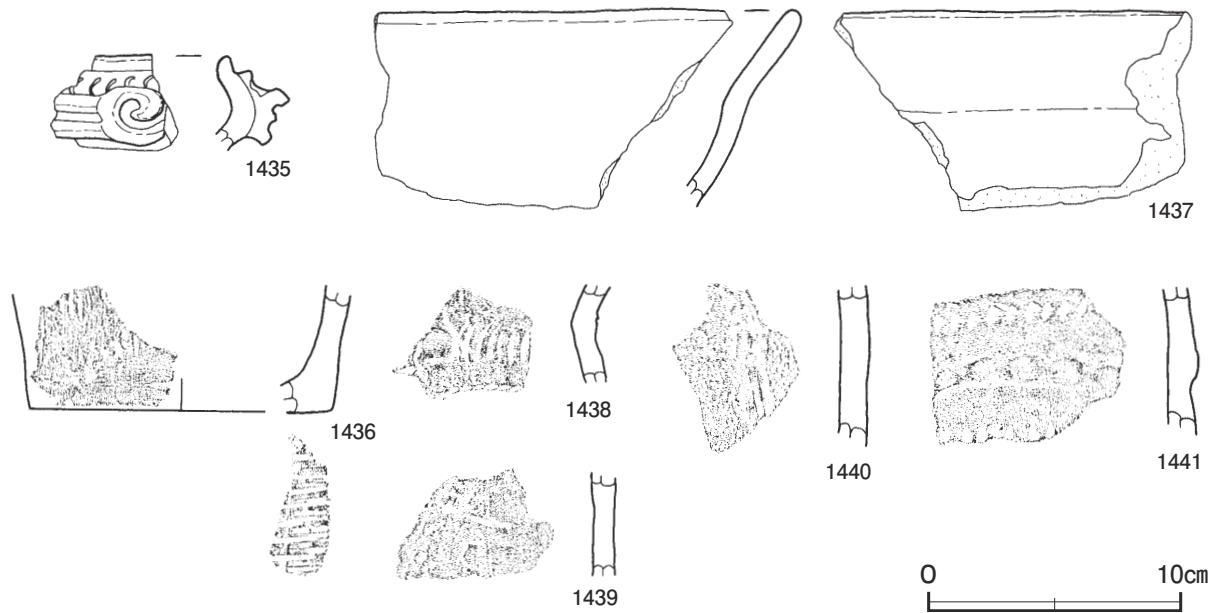
規模と形状 南東部を第 577 号土坑に掘り込まれているため, 北東・南西径は 1.84 mで, 北西・南東径は 2.00 mしか確認できなかった。長径方向は N - 29° - Wで, 楕円形と推定できる。底面はほぼ平坦で, 深さは 40cmである。壁は外傾している。

ピット 中央部に位置している。深さは 35cmで, 壁はほぼ直立している。位置や形状から, 柱穴と考えられる。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。



第 502 図 第 578 号土坑実測図



第 503 図 第 578 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|---------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 38 点（深鉢 30, 浅鉢 8）が, 覆土中からまばらに出土している。1437 は覆土上層から出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

第 578 号土坑出土遺物観察表 (第 503 図)

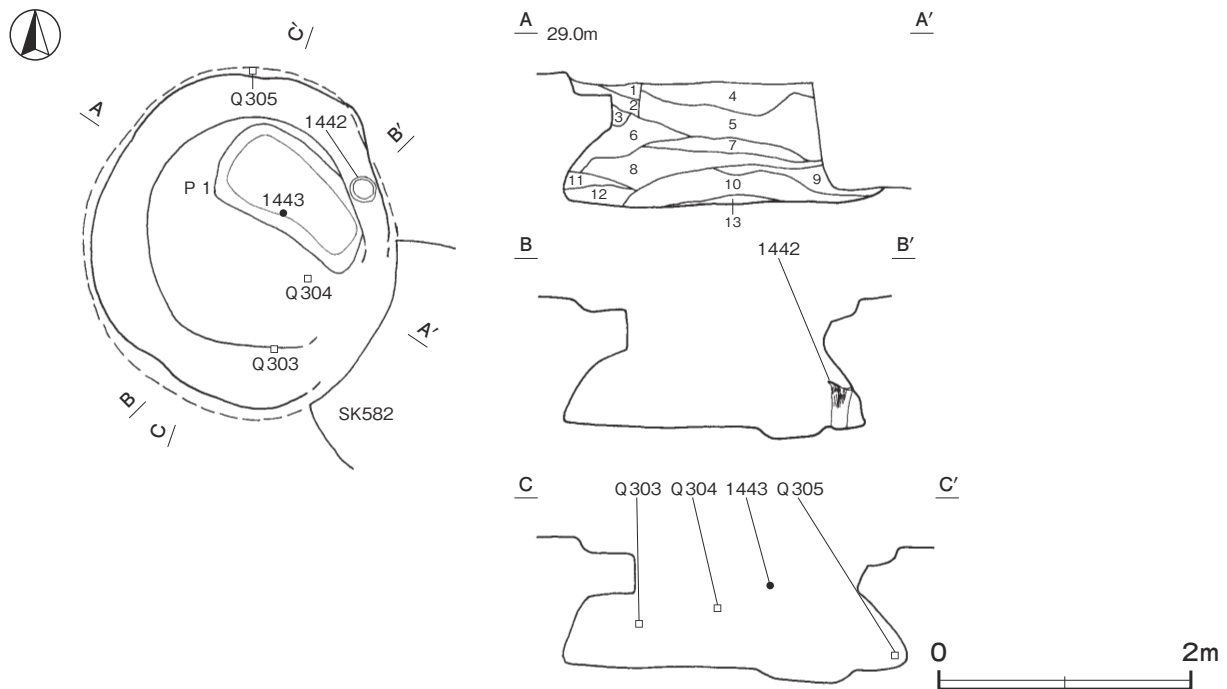
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1435	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	連続爪形文を伴う背割れ隆帯による渦巻文	覆土中	
1436	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	[12.0]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	縦走する擦糸文 胴下端部横ナデ 底面網代痕	覆土中	
1437	縄文土器	浅鉢	-	(7.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	内彎して立ち上がる 内面に稜	覆土上層	外面煤付着
1438	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	押圧された隆起線垂下 横位の連続爪形文	覆土中	
1439	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	キザミ目をもつ斜行隆起線貼付	覆土中	
1440	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・細礫	にぶい黄褐	普通	単節縄文 RL (斜) 上に隆起線垂下	覆土中	
1441	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄褐	普通	押圧された横位の隆起線貼付 隆起線の上下に 連続三角刺突文	覆土中	

第 581 号土坑 (第 504・505 図 PL83)

位置 調査区中央部の C 2 f0 区, 標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 582 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.66 m, 短径 2.35 m の楕円形で, 長径方向は N - 7° - W である。底面は長径 2.77 m, 短径 2.50 m の楕円形で, ほぼ平坦である。確認面からの深さは 106cm で, 壁は中位まで内彎して, 袋状を呈し, 上位はほぼ直立してから外傾している。



第 504 図 第 581 号土坑実測図

ピット 北東部に位置し、長軸 136cm、短軸 72cm の不整形長方形である。深さは 10cm で、壁は外傾している。北東壁との間に完形の 1442 が正位の状態出土していることや形状から、墓坑の可能性がある。

覆土 13層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

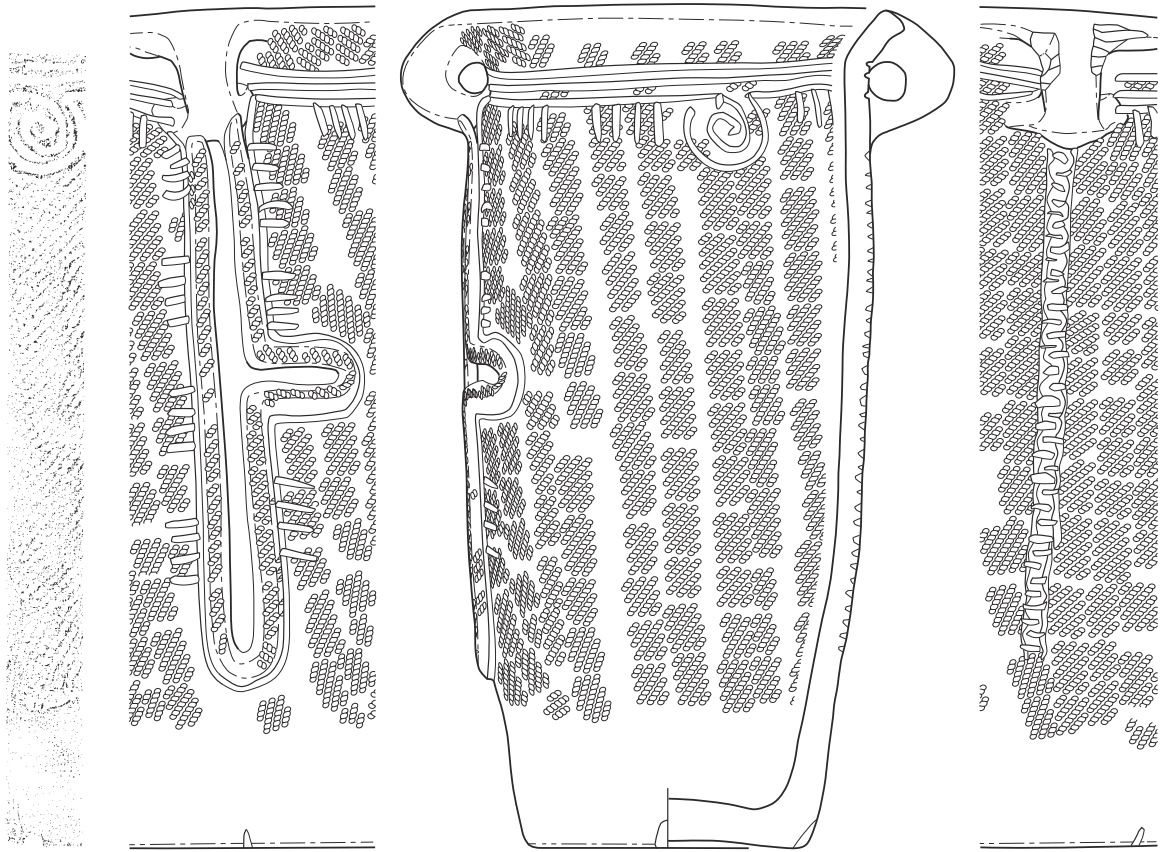
- | | | | |
|-------|----------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 12 極黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 477 点（深鉢 462、浅鉢 15）、石器 4 点（磨製石斧 3、敲砥石 1）、剥片 4 点（チャート、石英、安山岩、ホルンフェルス）が、覆土全体に散乱した状態で出土している。1442 は北東壁と P 1 との間の底面から、完形で正位の状態出土している。埋め戻される前に置かれたものと思われる。Q 305 は覆土下層から、Q 303・Q 304 は覆土中層から、1443 は覆土上層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。廃絶後、墓坑として使われた可能性がある。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 581 号土坑出土遺物観察表（第 505 図）

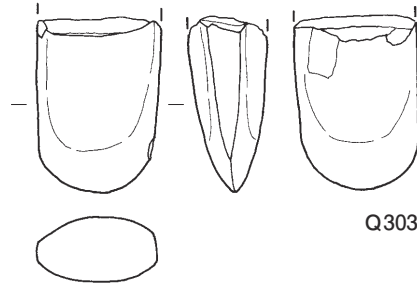
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1442	縄文土器	深鉢	17.4	33.5	11.0	長石・石英・雲母	暗褐	良好	胴部と渦巻文をもつ3本の沈線文で区画 区画下断続するキザミ目周回 把手から縄文施文のトの字状隆帯垂下 隆帯に沿って断続するキザミ目単節縄文 RL (縦) を間隔を空けて縞状に施文 底面網代痕	底面	95% PL149
1443	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	縄文施文の隆帯による渦巻文区画内沈線を伴う 隆帯による渦巻文 区画間刺突文 内面に稜	覆土上層	



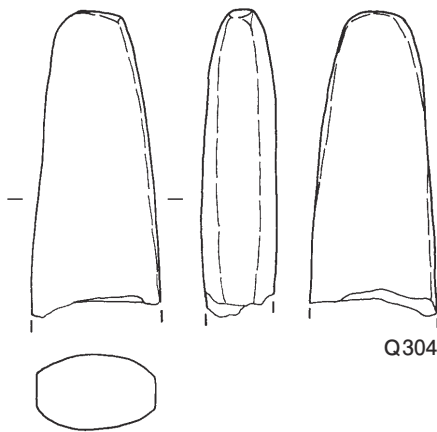
1442



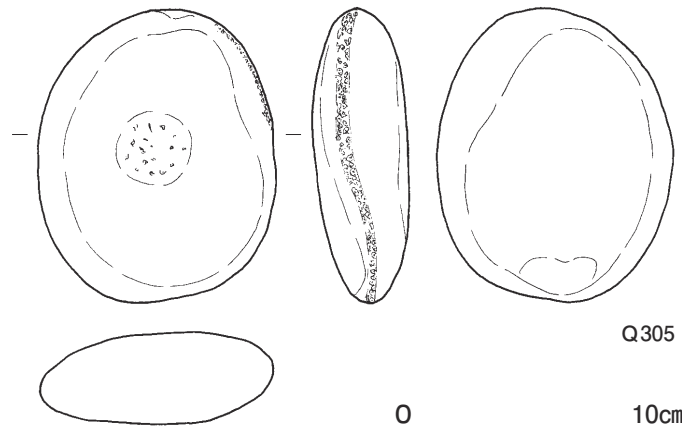
1443



Q303



Q304



Q305



第 505 図 第 581 号土坑出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 303	磨製石斧	(6.9)	5.0	3.1	(167.7)	凝灰岩	定角式 側縁に稜 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す 欠損部研磨痕	ハマ	
Q 304	磨製石斧	(12.2)	5.2	3.0	(305.4)	安山岩	定角式 全面研磨 刃部欠損		PL167
Q 305	敲砥石	11.7	9.5	3.8	587.1	緑色岩	全面磨り調整 側縁及び片面中央部に微細な敲打痕		PL173

第 582 号土坑 (第 506・507 図 PL83)

位置 調査区中央部の C 2 f0 区, 標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 581 号土坑を掘り込み, 第 13 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.95 ~ 2.05 m のほぼ円形である。底面は長径 2.44 m, 短径 2.08 m の楕円形で, ほぼ平坦である。確認面からの深さは 95cm で, 壁は南西部を除いて, 内彎して, 袋状を呈している。

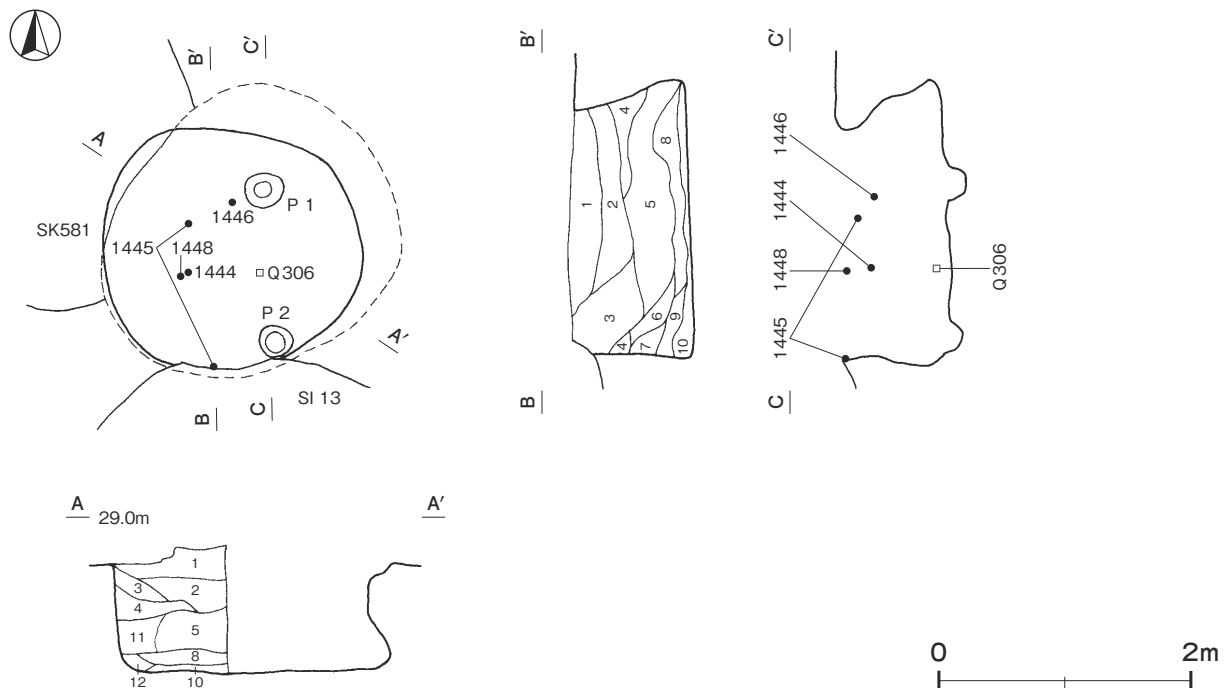
ピット 2 か所。P 1 は中央部から北寄り, P 2 は南東壁際に位置し, 深さはそれぞれ, 18cm・12cm である。いずれも, 位置から柱穴と考えられる。

覆土 12 層に分層できる。第 3 ~ 12 層はロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。第 1・2 層は黒褐色土がレンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

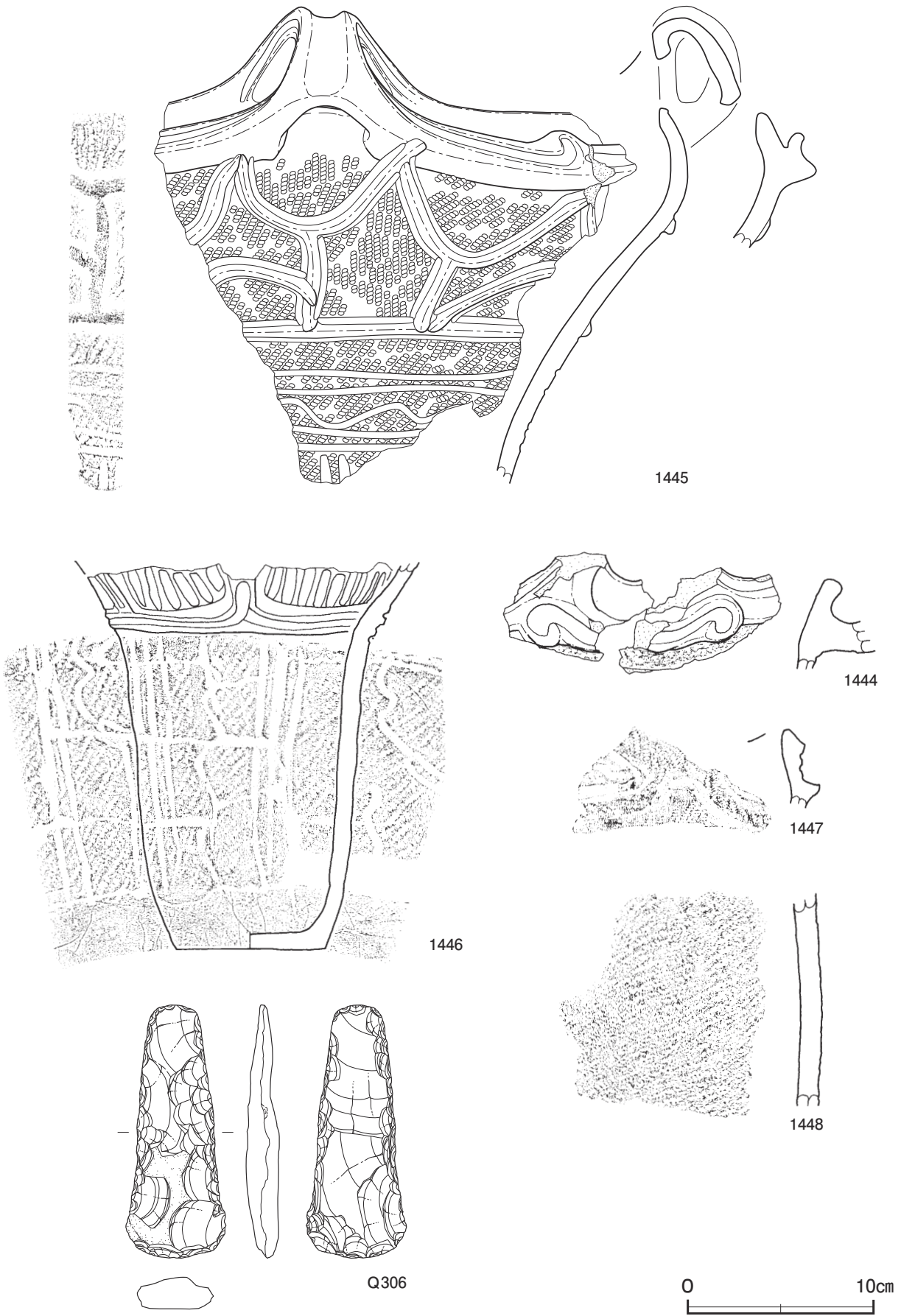
土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 8 黒暗色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 201 点 (深鉢 197, 浅鉢 4), 石器 1 点 (打製石斧), 剥片 2 点 (チャート) が, 覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1445 は覆土上層から出土し, 離れた位置にあるものが接合していることから, 破碎したものを投棄したと思われる。Q 306 は覆土下層から, 1444・1446・1448 は, 覆土



第 506 図 第 582 号土坑実測図



第 507 図 第 582 号土坑出土遺物実測図

上層からそれぞれ出土し、投棄されたか流れ込んだものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 582 号土坑出土遺物観察表 (第 507 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
1444	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	灰黄褐	普通	把手下端部太沈線による相対する渦巻文 単節縄文 LR (縦) 施文	覆土上層	
1445	縄文土器	深鉢	-	(25.7)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	背割れ隆帯による二重口縁 隆帯で口縁部を区画 区内沈線に伴う隆帯による相対弧状文 頸部単節縄文 RL (縦) 上に太沈線による横走文・波状文	覆土上層	20% PL149
1446	縄文土器	深鉢	-	(21.1)	8.0	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	良好	背割れ隆帯による区画文 区内縦位の沈線文で充填 胴部単節縄文 RL (縦) 沈線による懸垂文・懸垂波状文	覆土上層	90% PL149
1447	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	縄文施文の厚みのある隆帯による区画文 隆帯に沿って沈線文 区内単節縄文 RL (縦) で充填	覆土中	
1448	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	複節縄文 RLR (縦) 施文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 306	打製石斧	13.7	5.4	1.8	137.7	ホルンフェルス	撥形 表裏面を微細な敲打調整	覆土下層	PL165

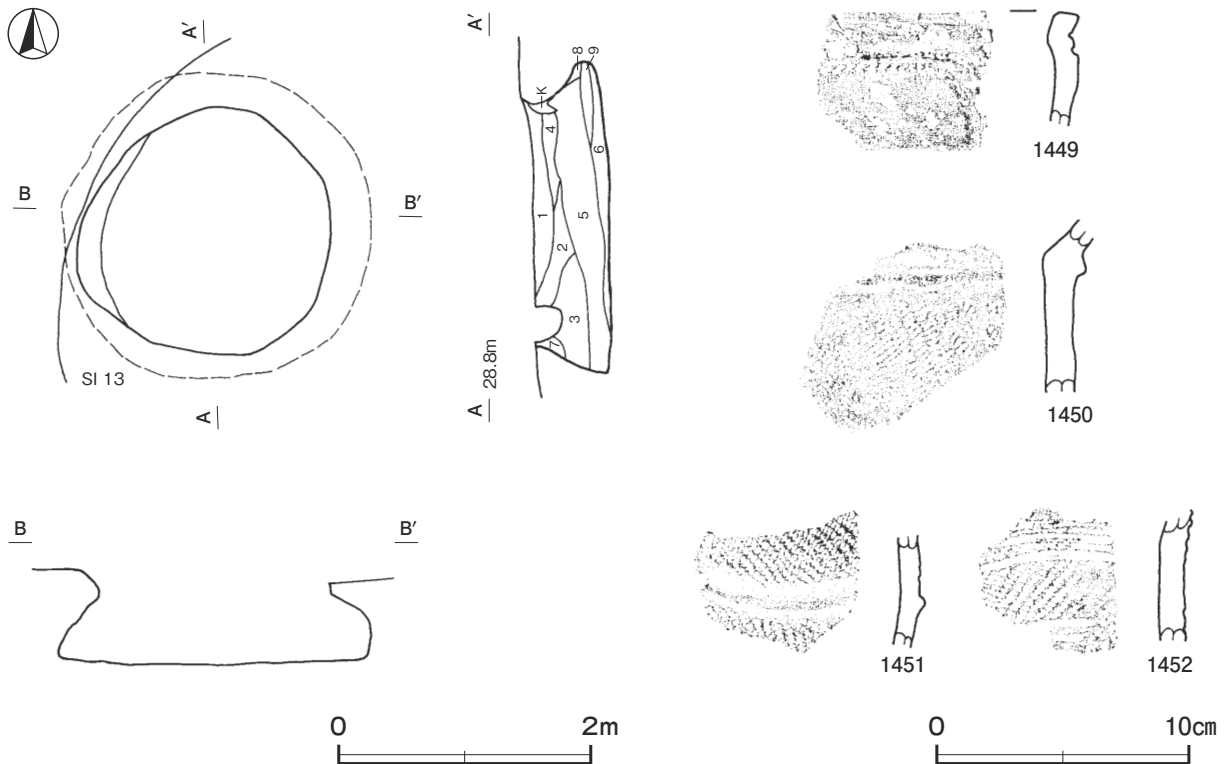
第 583 号土坑 (第 508 図 PL84)

位置 調査区中央部の C 2 g0 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 13 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.95 ~ 2.10 m のほぼ円形である。底面は径 2.41 ~ 2.50 m のほぼ円形で、平坦である。確認面からの深さは 90cm で、壁は内彎して、袋状を呈している。

覆土 9 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第 508 図 第 583 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|---------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 灰褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 におい褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 明褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 135 点（深鉢 128, 浅鉢 7）, 石器 1 点（磨石）, 剥片 1 点（チャート）が, 覆土全体から散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 583 号土坑出土遺物観察表（第 508 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
1449	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい黄褐	普通	口縁に沿って隆帯貼付 隆帯に沿って 2 列の有筋沈線文	覆土中	
1450	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	隆帯により口頸部と胴部を区画 胴部 0 段多条単節縄文 RL (横) 施文	覆土中	
1451	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい褐	普通	口縁部と胴部を隆帯で区画 胴部単節縄文 RL (横) 施文	覆土中	
1452	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	におい黄褐	普通	単節縄文 RL (縦) 3 本の沈線による横走文	覆土中	

第 584 号土坑（第 509 図 PL84）

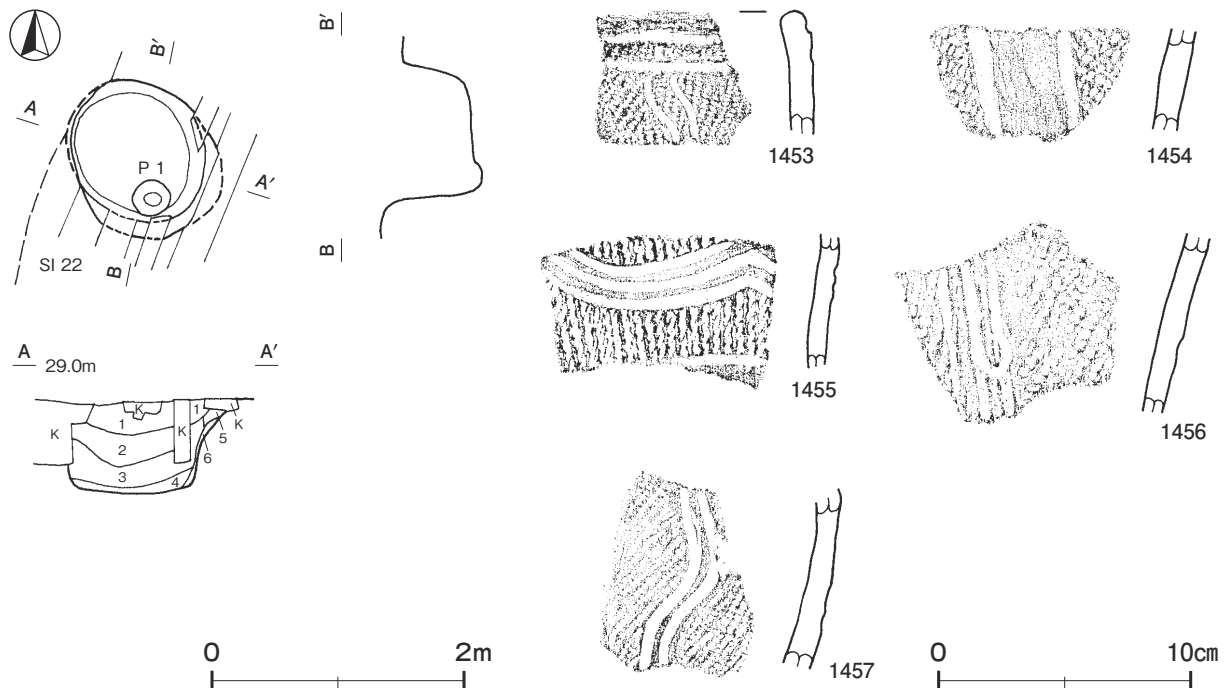
位置 調査区北部の C 4c1 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 22 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.35 m, 短径 1.12 m の楕円形で, 長径方向は N - 50° - W である。底面は平坦で, 深さは 70cm である。壁は直立している。

ピット 南壁際に位置し, 深さは 8cm である。性格は不明である。

覆土 6 層に分層できる。暗褐色土がレンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。



第 509 図 第 584 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|------|---------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 176 点（深鉢 167, 浅鉢 9）, 石器 1 点（石皿）, 剥片 6 点（チャート 3, 瑪瑙 1, 黒曜石 1, 石英 1）が, 覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 584 号土坑出土遺物観察表（第 509 図）

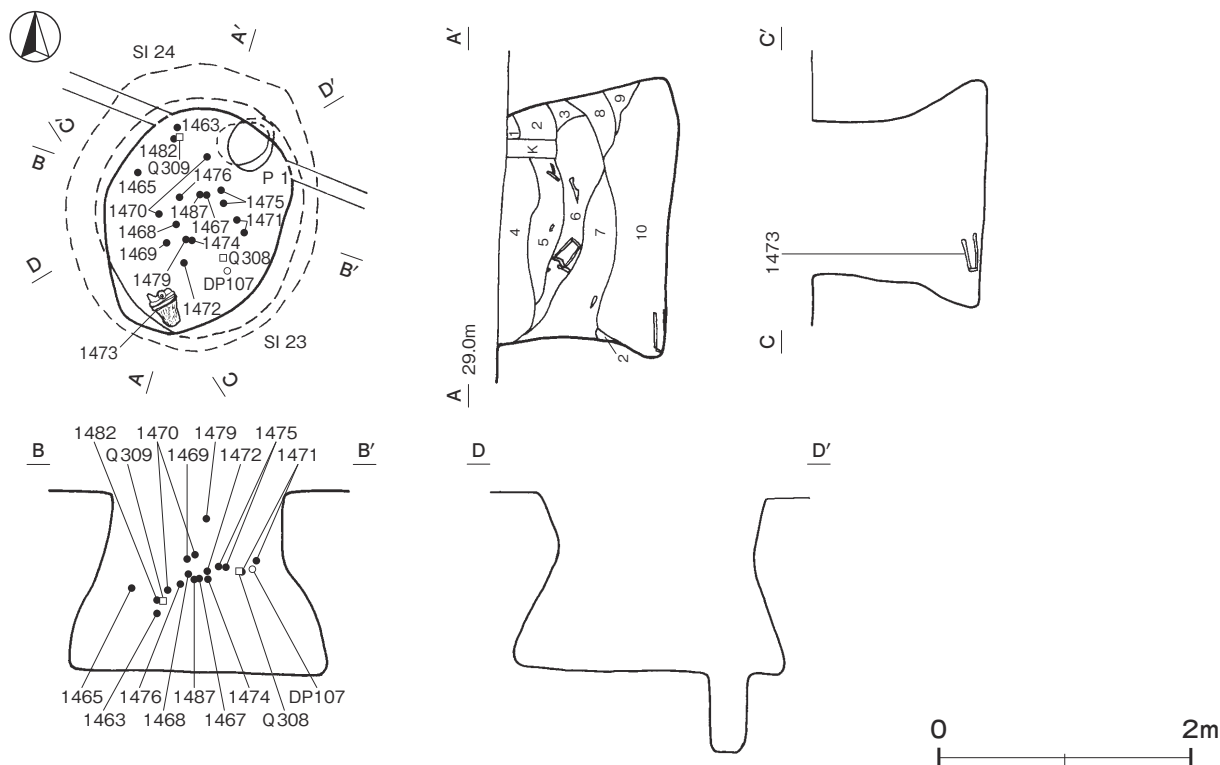
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1453	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	橙	普通	単節縄文 RL (縦) 口縁に沿って 2 本の太沈線による横走文・懸垂波状文	覆土中	
1454	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	0 段多条単節縄文 LR (縦) 太沈線間磨消懸垂文	覆土中	
1455	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	黒褐	普通	縦位の燃糸文 3 本一組の沈線間磨消連弧文	覆土中	
1456	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	単節縄文 RL (縦) 3 本一組の沈線による懸垂文	覆土中	
1457	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	単節縄文 RL (縦) 太沈線間磨消懸垂波状文	覆土中	

第 585 号土坑（第 510 ~ 515 図 PL84・85・102）

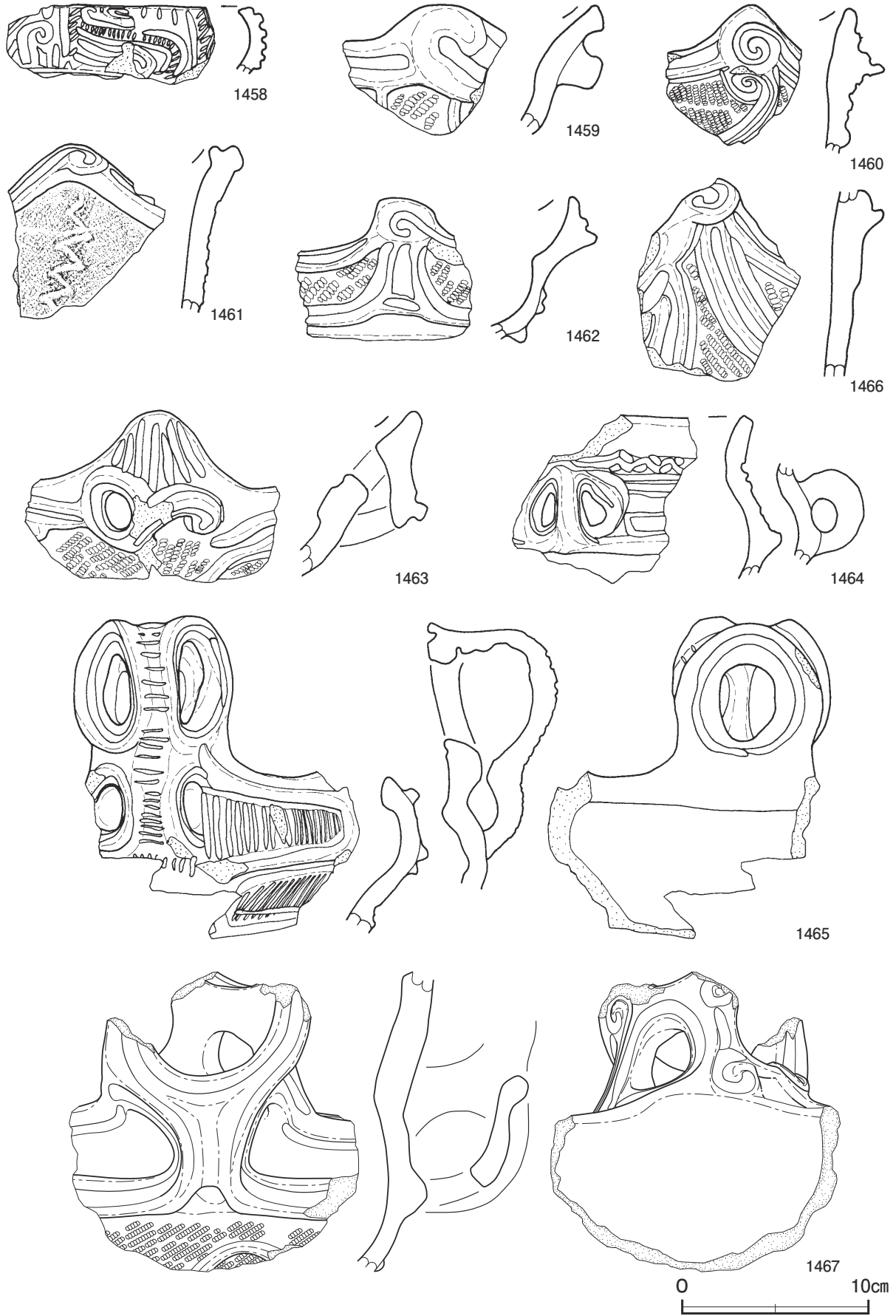
位置 調査区中央部の C 3g4 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 23 号堅穴建物跡を掘り込み, 第 24 号堅穴建物に掘り込まれている。

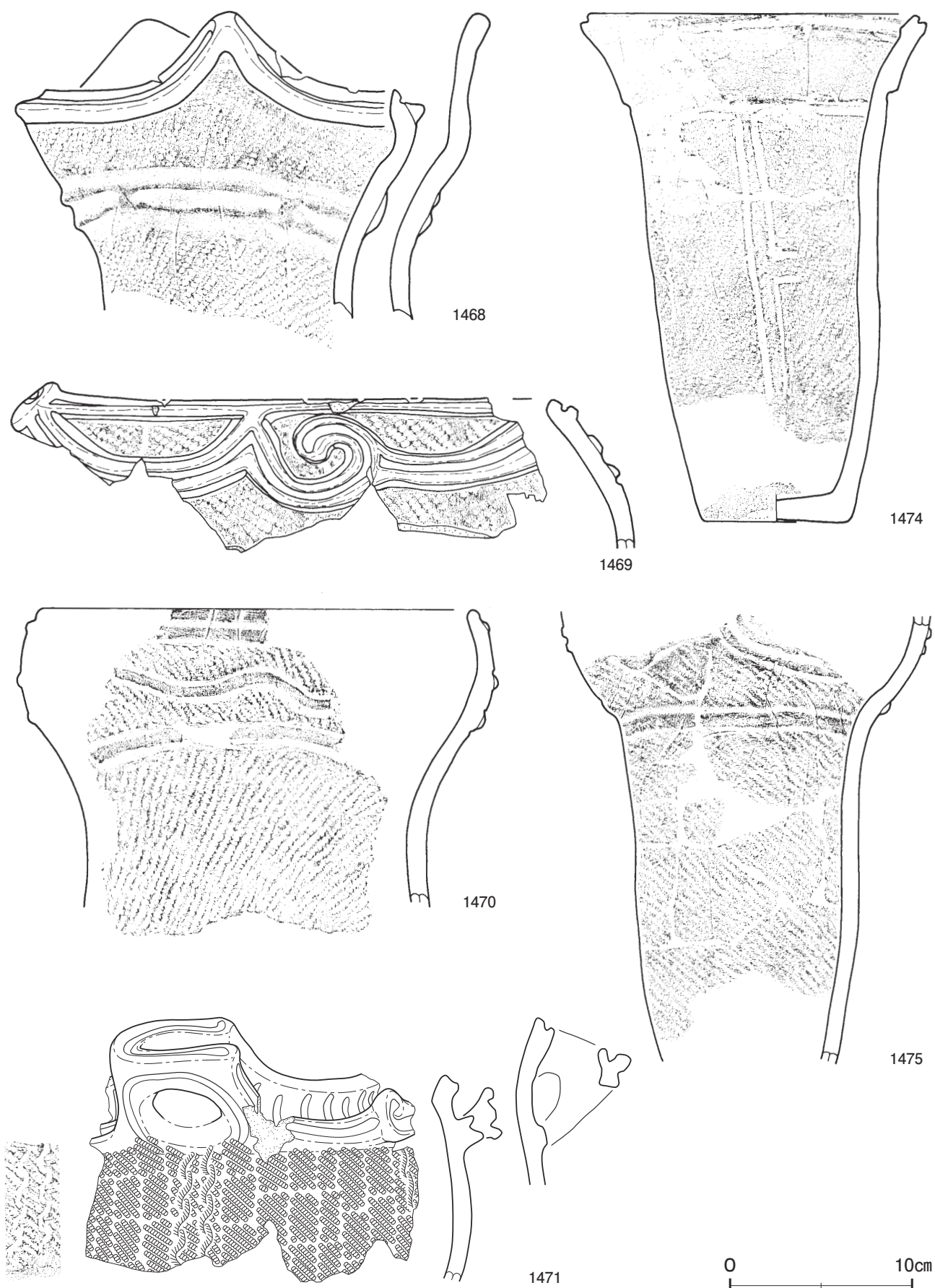
規模と形状 開口部は長径 1.81 m, 短径 1.40 m の楕円形で, 長径方向は N - 16° - E である。底面は長径 2.22 m, 短径 1.99 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 140cm で, 壁は内傾して, 袋状を呈している。



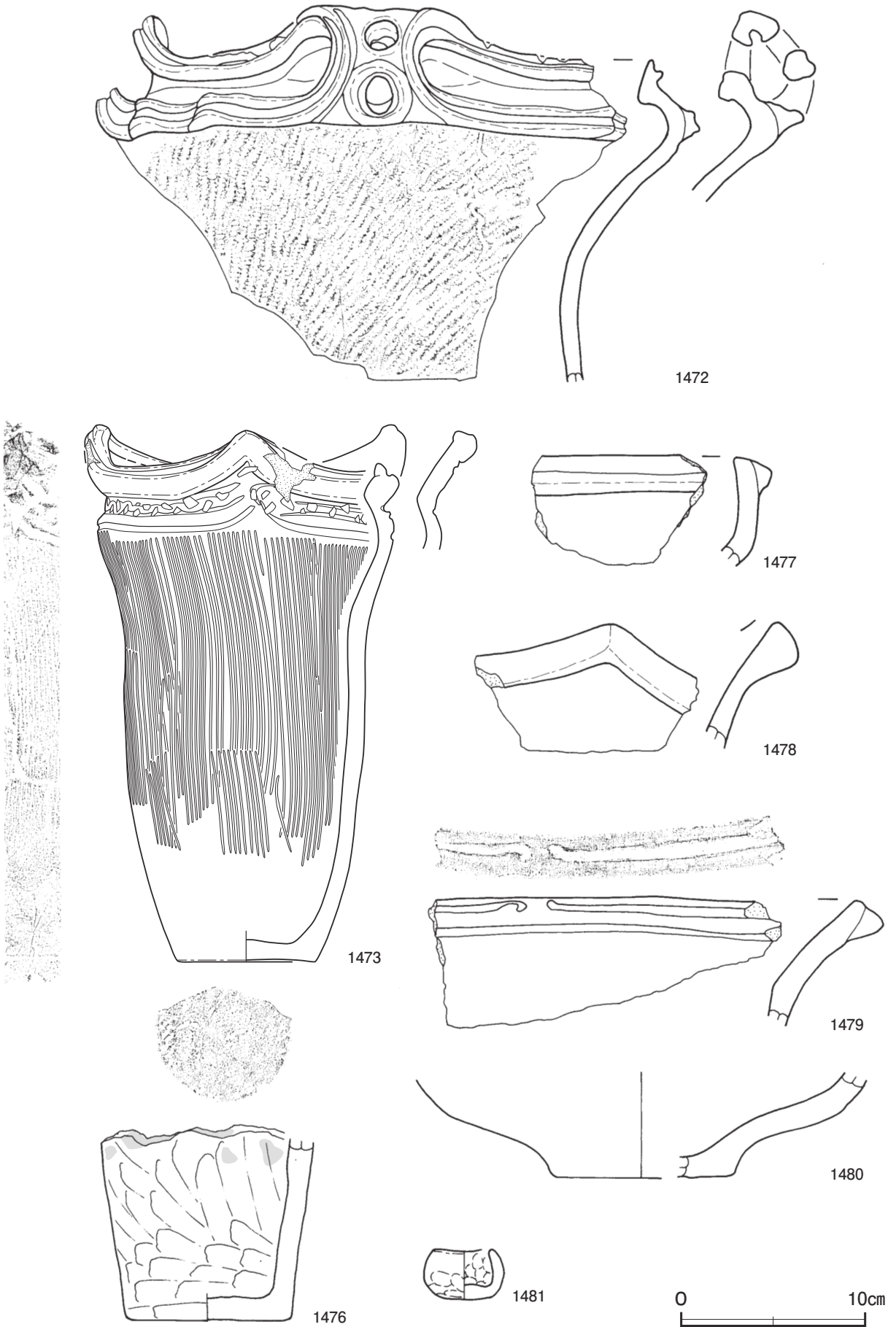
第 510 図 第 585 号土坑実測図



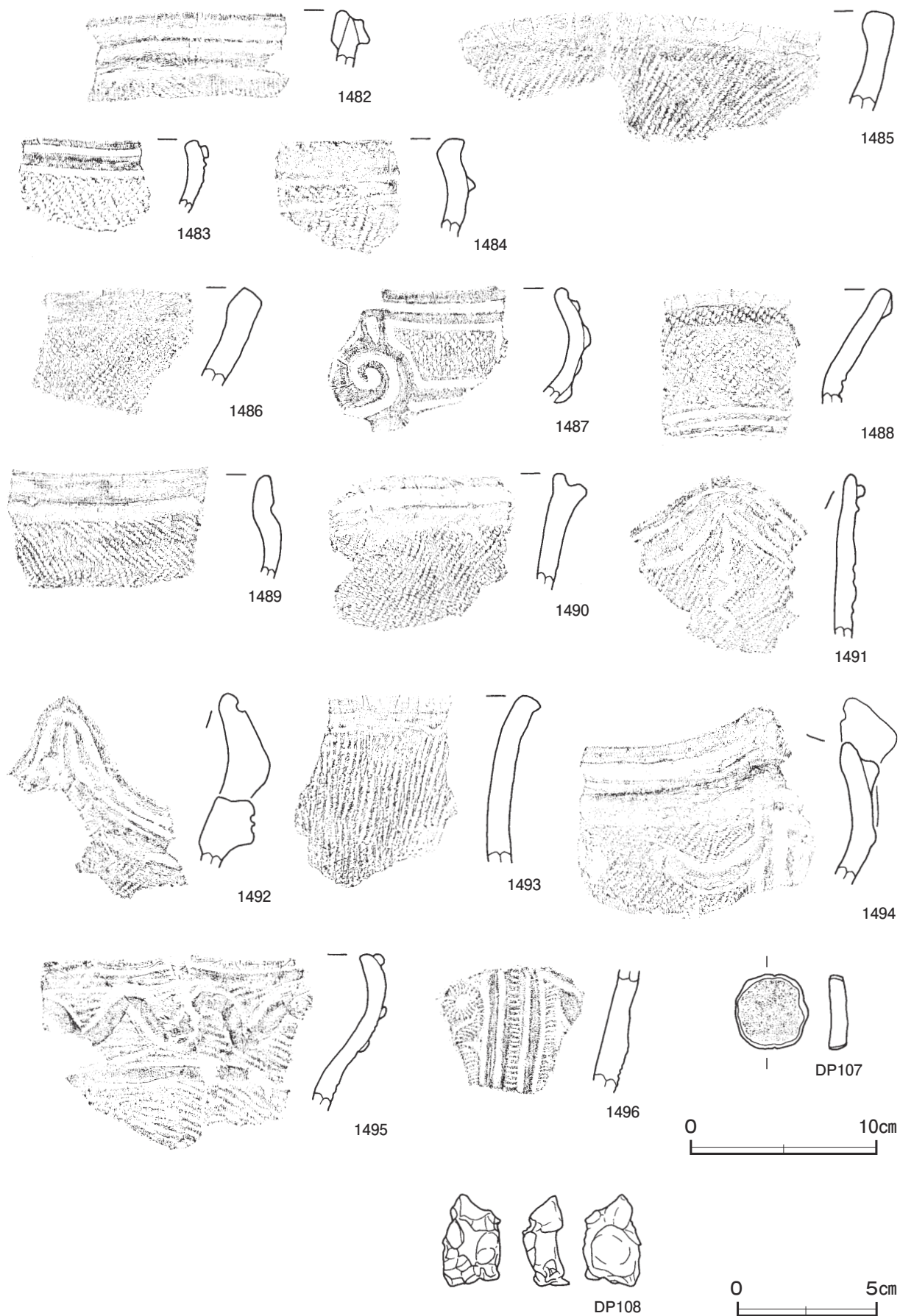
第 511 図 第 585 号土坑出土遺物実測図 (1)



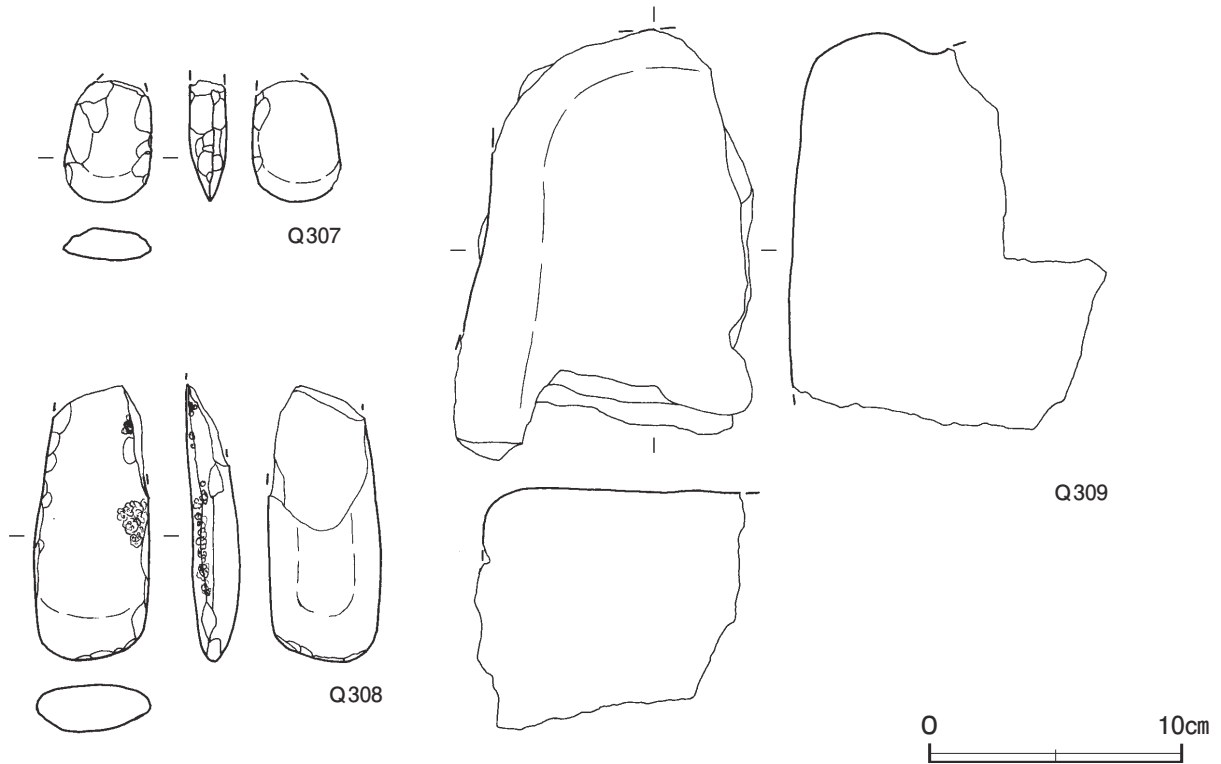
第512图 第585号土坑出土遗物实测图(2)



第 513 图 第 585 号土坑出土遺物実測图 (3)



第 514 图 第 585 号土坑出土遗物实测图 (4)



第 515 図 第 585 号土坑出土遺物実測図 (5)

ピット 北東壁際に位置し、長径 46cm、短径 34cmの楕円形である。深さは 56cmで、西壁が内傾している。形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックを含む層などが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|--------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | 10 黄褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミス少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 1180点(深鉢1163, 浅鉢16, ミニチュア土器 1), 土製品 2点(土器片錘, 不明土製品), 石器 6点(磨製石斧 4, 磨石 1, 砥石 1), 剥片 3点(瑪瑙)が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1473は、ほぼ完形で底面近くから出土し、埋め戻される前に遺棄されたと思われる。1474は、ほぼ完形で覆土中層から出土し、ある程度埋まってから遺棄されたか投棄されたと思われる。1470は、覆土中層から出土し、離れた位置にあるものが接合していることから、破碎したものを投棄したと思われる。1463・1465・1467～1469・1471・1472・1475・1476・1482・1487, DP107, Q 308・Q 309は覆土中層から、1479は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 585 号土坑出土遺物観察表 (第 511 ～ 515 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1458	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	キザミ目をもつ隆帯による区画文 区画内沈線による渦巻文・曲線文	覆土中	
1459	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	波頂部太沈線を伴う隆帯による渦巻文 単節縄文 RL(縦) 隆帯垂下	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1460	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	波頂部太沈線による渦巻文 単節縄文 RL (横) 沈線を伴う隆帯による渦巻文	覆土中	
1461	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	橙	普通	口唇部沈線文 波頂部渦巻文 単節縄文 RL (縦) 波頂部から沈線による懸垂山形文	覆土中	1491と同一個体。
1462	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	波頂部に渦巻文 口唇部に凹み 波頂部から2条の隆帯を垂下させ区画文 区画内単節縄文 LR (横) 施文	覆土中	
1463	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	頂部縦位の沈線文 眼鏡状把手 単節縄文 RL (縦) 2条の隆帯による区画文	覆土中層	
1464	縄文土器	深鉢	-	(8.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	交互刺突文と隆帯で口縁部区画 区画交点眼鏡状把手 区画内沈線による2本の横走文・矩形文	覆土中	
1465	縄文土器	深鉢	-	(17.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	環状部中央に沈線文 口縁部沈線を伴う隆帯による区画文 区画内縦位の沈線文で充填	覆土中層	10% PL149
1466	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	波頂部に渦巻文 口唇部に凹み 単節縄文 LR (縦) 背割れ隆帯による区画文	覆土中	
1467	縄文土器	深鉢	-	(16.1)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部上半部同隆帯による幅の狭い楕円形区画文 口縁部下半部単節縄文 RL (縦) 隆帯による波状文	覆土中層	10% PL149
1468	縄文土器	深鉢	19.2	(16.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	全面に単節縄文 RL (縦) 施文 口唇部やや幅もち中央部が凹む 口縁部と胴部を鎖状隆帯で区画	覆土中層	60% PL150
1469	縄文土器	深鉢	-	(9.2)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口唇部に沈線 沈線を伴う隆帯による区画文 区画内単節縄文 LR (縦) 同隆帯による弧状文・渦巻文	覆土中層	PL149
1470	縄文土器	深鉢	[22.9]	(16.4)	-	長石・石英	灰褐	普通	口縁部沈線を伴う隆帯による区画 単節縄文 RL (横) 隆帯による横走波状文 胴部同一原体 (縦)	覆土中層	10% PL149
1471	縄文土器	深鉢	-	(14.5)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい黄褐	普通	口唇部に沈線文 庇状の背割れ隆帯により胴部と区画 区画内縦位の沈線文で充填 胴部単節縄文 LR (縦) 2列縦位の結節縄文	覆土中層	10% PL150
1472	縄文土器	深鉢	-	(20.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	背割れ隆帯による幅の狭い楕円形区画文 区画部2孔を有する橋状把手 胴部単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中層	30% PL150
1473	縄文土器	深鉢	16.5	29.2	7.4	長石・石英・雲母	黒褐	普通	蒲鉾状隆帯と沈線を伴う隆帯で幅が狭い口縁部文様帯区画 区画内交互刺突文 胴部歯状工具による条線文 底面網代痕	覆土下層	90% PL150 内面炭化物付着
1474	縄文土器	深鉢	[17.9]	28.0	8.1	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部沈線文 太沈線で胴部と区画 胴部単節縄文 RL (縦) 2本組のトの字状の沈線文	覆土中層	90% PL150
1475	縄文土器	深鉢	-	(24.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	全面に単節縄文 LR (縦) 施文 口頸部沈線を伴う隆帯で区画 区画内背割れ隆帯によるクラクク文	覆土中層	60% PL150
1476	縄文土器	深鉢	-	(9.9)	8.1	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい黄褐	普通	外・内面指ナデ	覆土中層	10% 炭化物付着
1477	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部外削ぎ状で平坦 外・内面磨き	覆土中	
1478	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	口唇部外削ぎ状で平坦 外・内面磨き	覆土中	
1479	縄文土器	浅鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	沈線文一巡 外・内面磨き 内面に稜	覆土上層	
1480	縄文土器	浅鉢	-	(5.8)	[9.7]	長石・石英	にぶい黄褐	普通	下端部指ナデ 底部突出 内面磨き 赤彩痕	覆土中	10%
1481	縄文土器	ミニチュア土器	3.0	2.7	2.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	手握ね 外・内面指ナデ	覆土中	60%
1482	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	明黄褐	普通	口縁に沿って凹みのある厚めの隆帯貼付 歯状工具による縦線文	覆土中層	
1483	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部沈線一巡 口縁に沿って沈線を伴う隆帯貼付 0段多条単節縄文 RL (横) 施文	覆土中	
1484	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁に沿って縄文施文の2条の隆帯貼付 単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	
1485	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	単節縄文 RL (縦) 施文 口縁に沿って磨消	覆土中	
1486	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	にぶい黄褐	普通	全面単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	
1487	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	単節縄文 LR (横) 太沈線を伴う隆帯による区画文 区画間渦巻文	覆土中層	
1488	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	明褐	普通	口縁に沿って隆帯貼付 隆帯上に単節縄文 RL (縦) 胴部 (縦) 施文 3本の沈線で区画	覆土中	
1489	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄褐	普通	口縁に沿って隆帯貼付 隆帯下太沈線周回 単節縄文 RL (横) 施文	覆土中	
1490	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい黄褐	普通	口唇部太沈線 単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	
1491	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	口縁に沿って隆帯貼付 単節縄文 RL (縦) 波頂部から沈線による懸垂山形文	覆土中	1461と同一個体。
1492	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	褐	普通	波頂部沈線による縦線文・交互刺突文 口唇部に凹み 口縁に沿って沈線を伴う背割れ隆帯貼付 単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	
1493	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄褐	普通	口縁に沿って隆帯貼付 胴部縦位の捺糸文	覆土中	
1494	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子・細礫	赤褐	普通	単節縄文 RL (縦) 口縁に沿う隆帯と波頂部から垂下する隆帯による区画文 区画内隆帯による波状文	覆土中	
1495	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	単節縄文 LR (斜) 断面半円形の隆帯で口縁部区画 区画内同隆帯による波状文	覆土中	
1496	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	キザミ目をもつ隆帯と沈線を伴う隆帯による区画文 区画内キザミ目をもつ隆帯による蕨手文・三叉文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP107	土器片鏝	4.0	3.9	1.0	16.9	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	一端のみ粗雑に研磨 両端にキザミ目	覆土中層	
DP108	不明土製品	3.3	2.1	1.6	5.1	長石・石英	にぶい黄褐	上端部突起状 下端部貼付文 内面指頭による抉り	覆土中	巻き貝模倣。

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 307	磨製石斧	(4.9)	3.5	1.5	(39.0)	緑色岩	小型 表裏面研磨 両側縁敲打調整 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す ハマグリ刃	覆土中	
Q 308	磨製石斧	(11.0)	4.5	2.1	(115.7)	砂岩	短冊形 両側縁微細な敲打調整 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中層	PL168 被熱
Q 309	砥石	(16.1)	(11.8)	(12.5)	(2757.0)	砂岩	表面に砥面 中央部敲打によりわずかに凹む	覆土中層	被熱

第 586 号土坑 (第 516 図 PL85)

位置 調査区中央部の C 2 f9 区, 標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は径 1.21 ~ 1.30 m のほぼ円形である。底面は長径 2.42 m, 短径 2.20 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 109cm で, 壁は内彎して, 袋状を呈している。

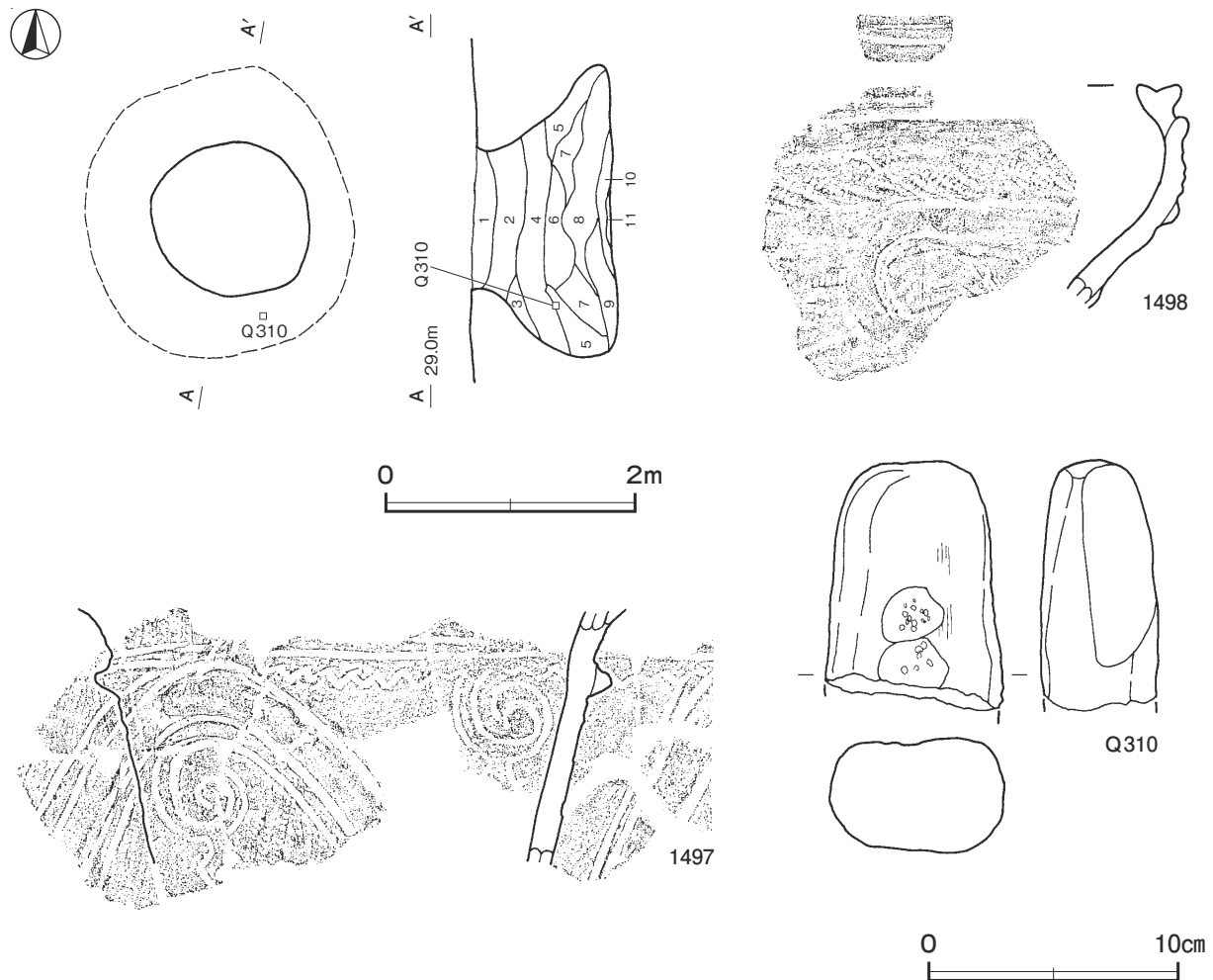
覆土 11 層に分層できる。ロームブロックを含む層などが不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-----------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 124 点 (深鉢), 石器 3 点 (磨製石斧, 敲石, 凹石) が, 覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。Q 310 は覆土中層から出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 516 図 第 586 号土坑・出土遺物実測図

第 586 号土坑出土遺物観察表 (第 516 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1497	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (斜) 沈線を伴う隆帯で頸部と胴部を区画 隆帯に沿って沈線による鋸歯状文 胴部 2本の沈線文を伴う隆帯による曲線文 間隔を置いて沈線による渦巻文・波状文垂下 隆帯により口縁部文様帯区画 区画内単節縄文 RL (横) 蒲鉾状隆帯によるクランク文	覆土中	PL149
1498	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通		覆土中	PL149

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 310	凹石	(9.9)	7.1	4.6	(439.3)	安山岩	表裏面磨り調整 表面中央部に2か所の敲打による凹み痕 先端部敲打痕 下部部欠損 磨石兼用	覆土中層	PL181

第 588 号土坑 (第 517 ~ 523 図 PL86・103)

位置 調査区北部の C 4c2 区, 標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

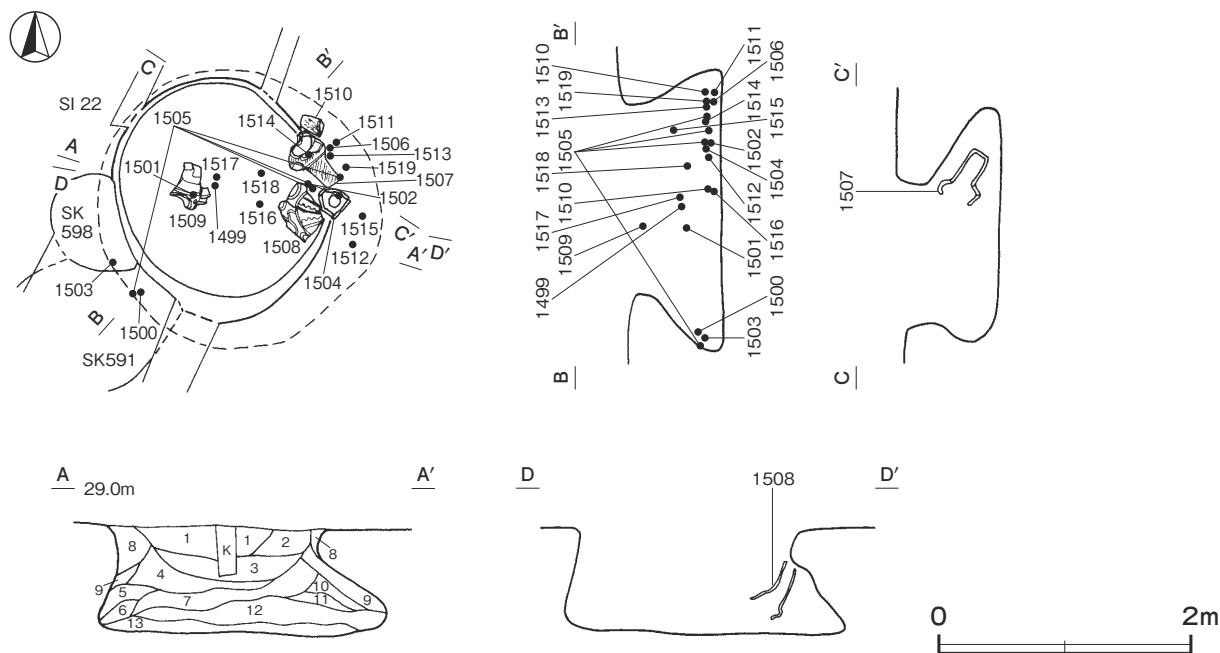
重複関係 第 22 号竪穴建物, 第 591・598 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.88 m, 短径 1.55 m の楕円形で, 長径方向は N - 45° - W である。底面は径 2.14 ~ 2.19 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 84cm で, 壁は中位まで内彎して, 袋状を呈し, 上位はほぼ直立している。

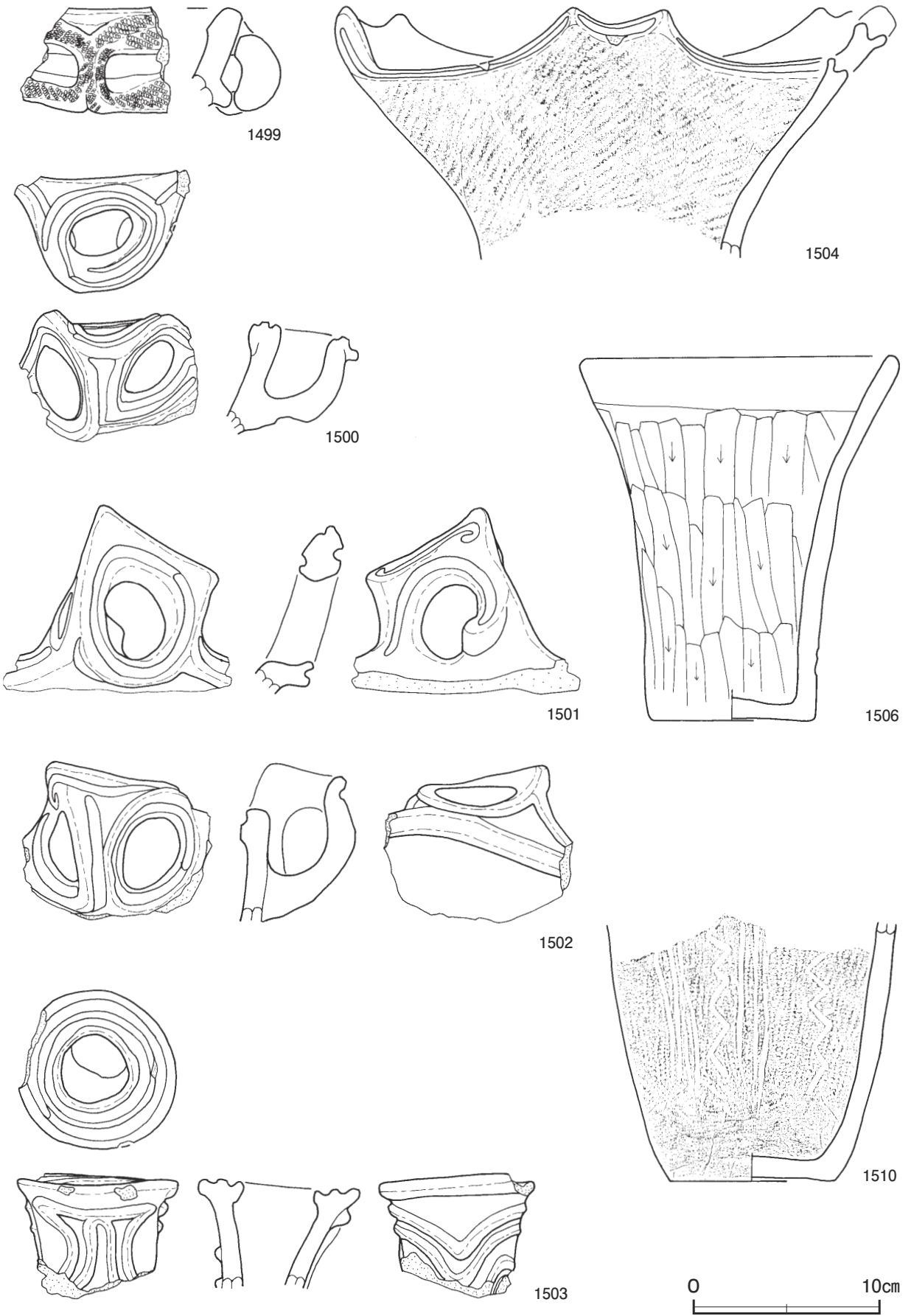
覆土 13 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

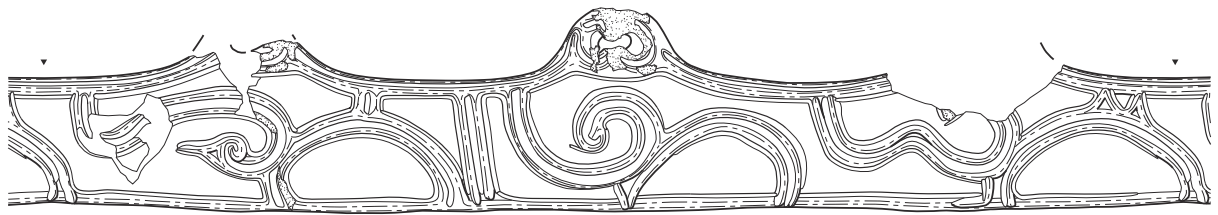
- | | | | |
|-------|----------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 褐色 | ロームブロック多量 | 12 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| | | 13 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |



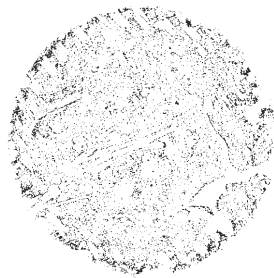
第 517 図 第 588 号土坑実測図



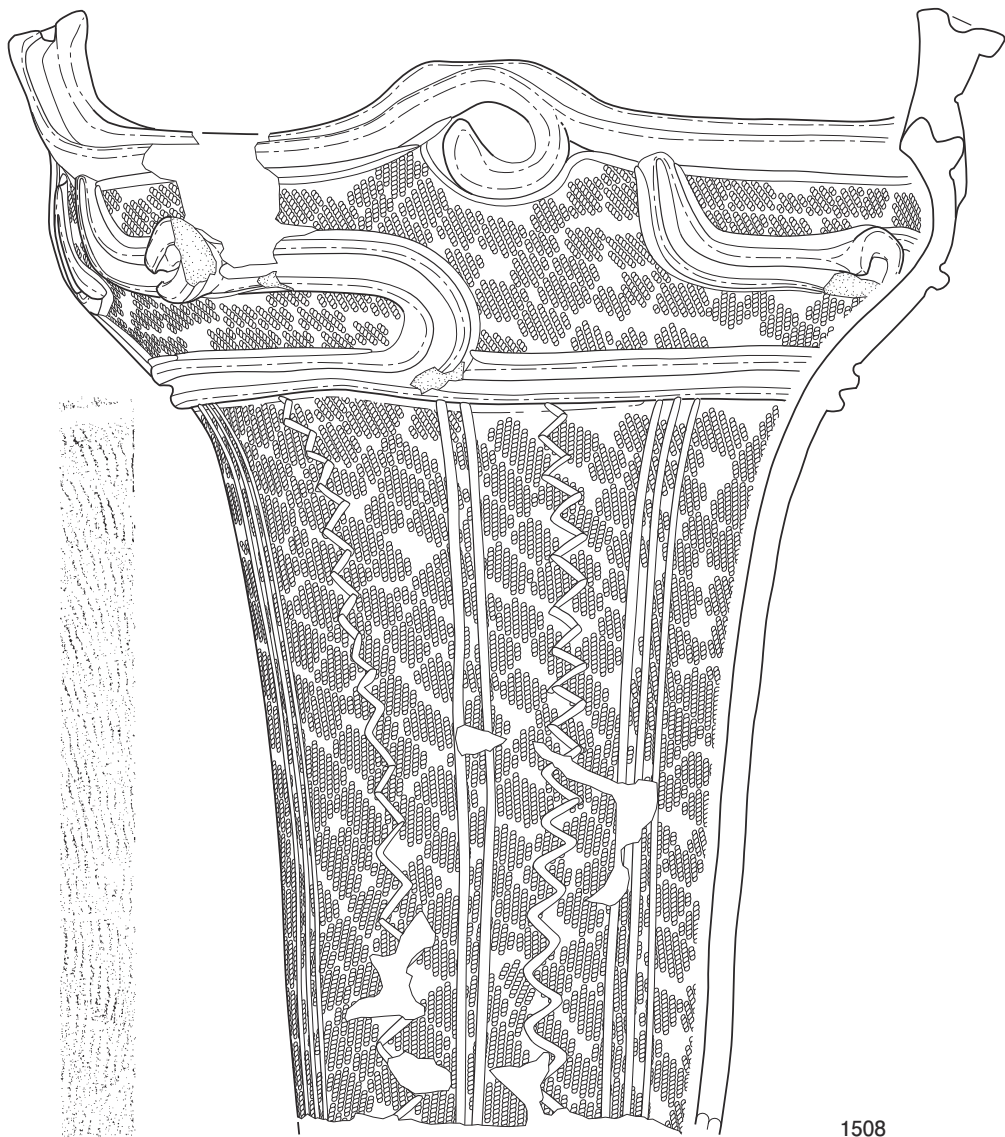
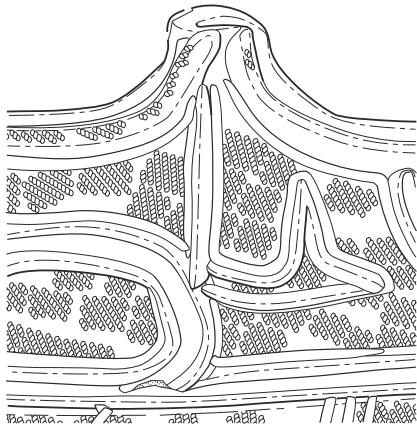
第 518 图 第 588 号土坑出土遺物実測図 (1)



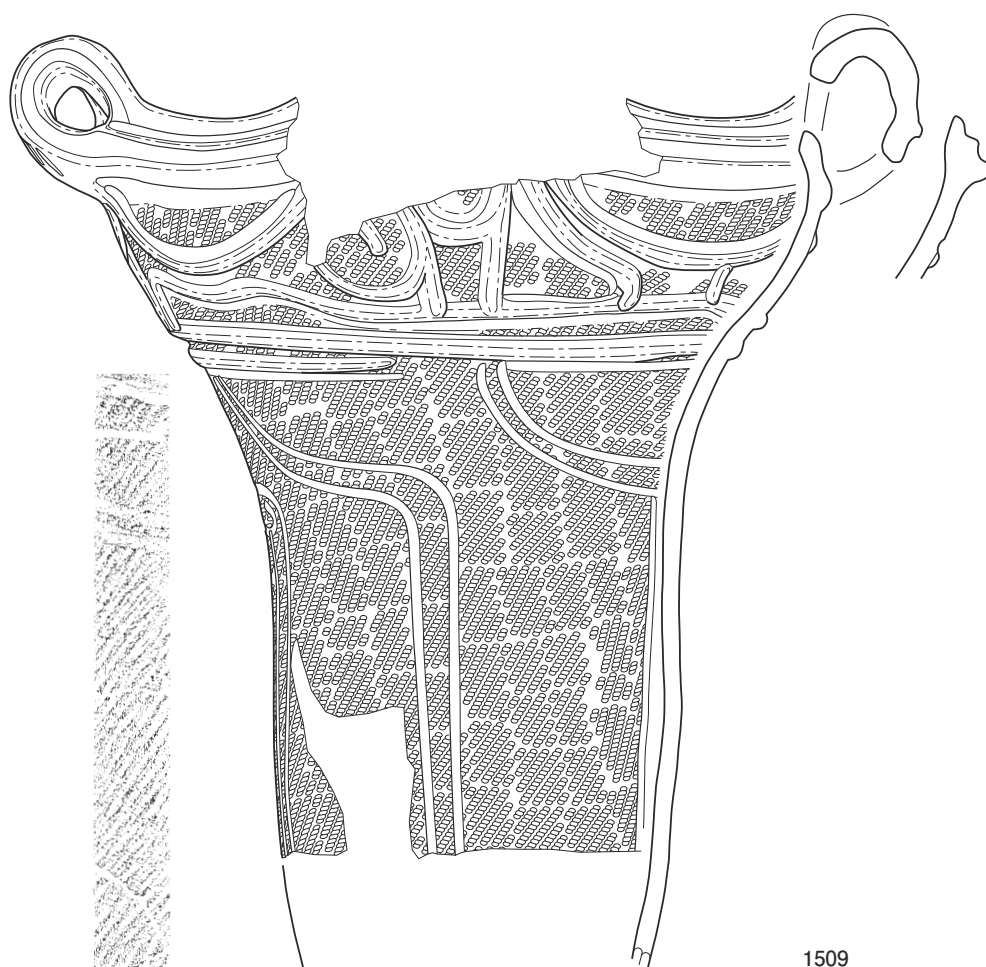
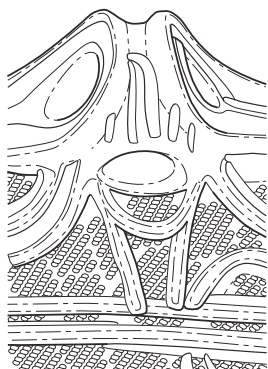
1507



第 519 图 第 588 号土坑出土遗物实测图 (2)



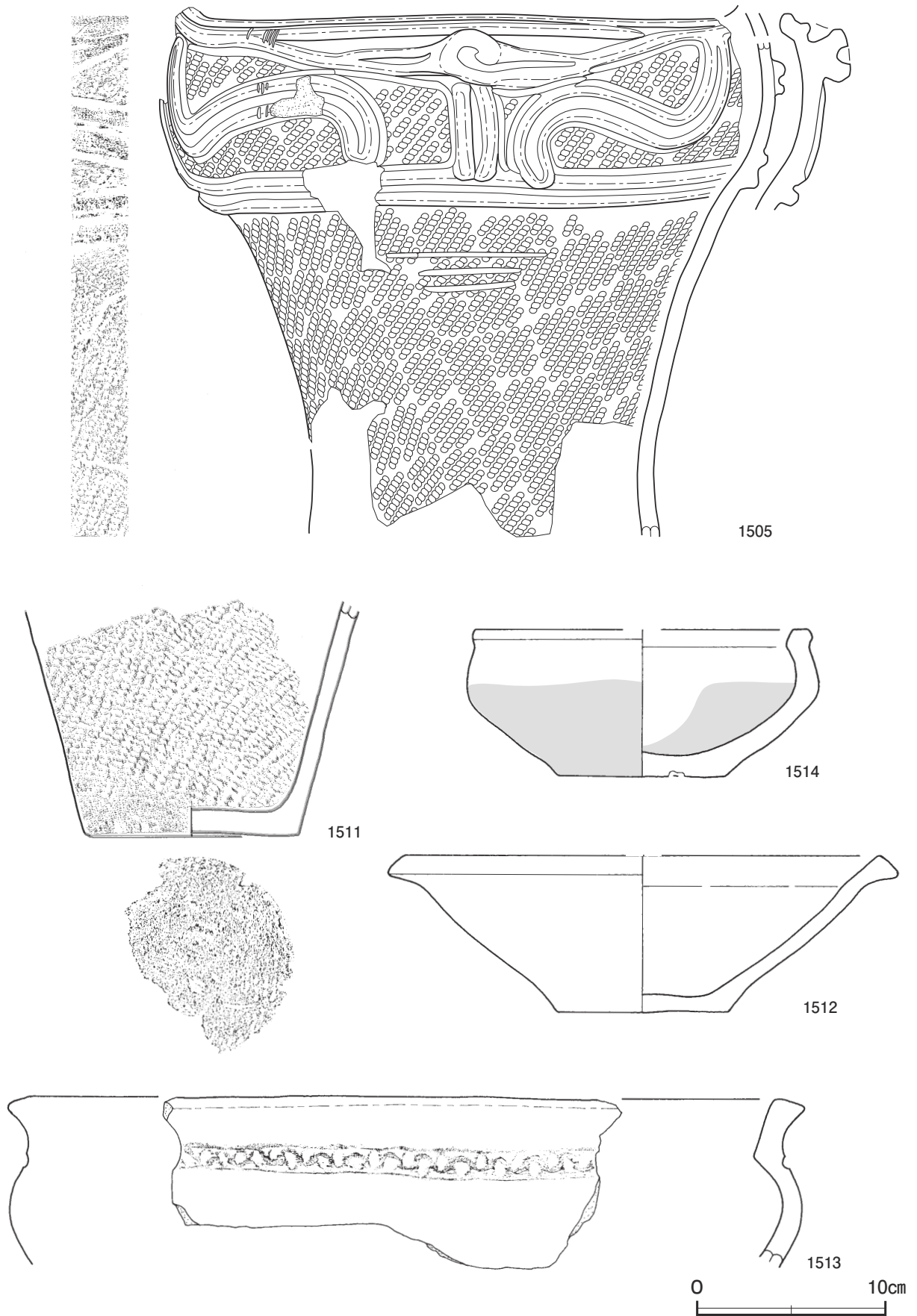
第 520 図 第 588 号土坑出土遺物実測図 (3)



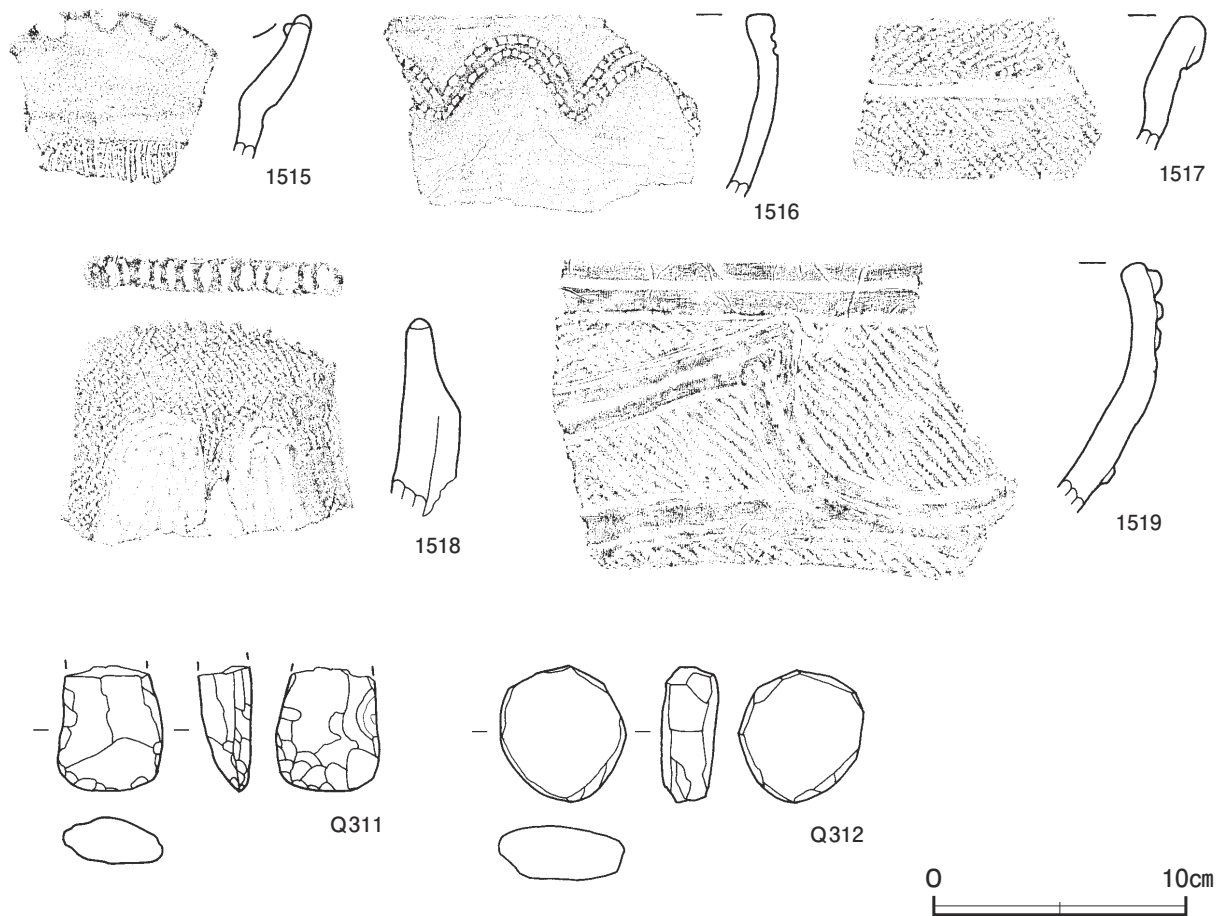
1509



第 521 图 第 588 号土坑出土遗物实测图 (4)



第 522 図 第 588 号土坑出土遺物実測図 (5)



第 523 図 第 588 号土坑出土遺物実測図 (6)

遺物出土状況 縄文土器片 444 点 (深鉢 431, 浅鉢 12, 小型浅鉢 1), 石器 4 点 (打製石斧 1, 磨石 2, 敲砥石 1) が, 覆土下層を中心に散乱した状態で出土している。1507・1508 は覆土下層からほぼ完形で, 横位及び倒位で出土していることから, 廃絶して間もないころ, 遺棄あるいは投棄されたものと思われる。1509 は覆土上層からほぼ完形で横位で出土しており, ある程度埋まってから, 遺棄あるいは投棄されたものと思われる。1505 は覆土下層から出土し, 離れた位置のものが接合していることから, 破碎して投棄したものと思われる。1500・1502～1504・1510～1514・1516・1519 は覆土下層から, 1499・1501・1515・1517・1518 は覆土中層からそれぞれ出土していることから, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 588 号土坑出土遺物観察表 (第 518～523 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1499	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (横) 施文の厚みのある隆帯による眼鏡状把手	覆土中層	
1500	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母・細礫・黄色粒子	にぶい褐	普通	孔に沿って環状の太沈線文	覆土下層	
1501	縄文土器	深鉢	-	(10.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	孔に沿って環状の太沈線文 一部に蕨手文	覆土中層	
1502	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黄色粒子	明褐	普通	中空部に沿って環状の太沈線文 一部渦状	覆土下層	
1503	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	中空部に沿って 2 重の環状沈線文 把手側面部背割れ隆帯による文様描画	覆土下層	
1504	縄文土器	深鉢	27.0	(13.7)	-	長石・石英・細礫	橙	普通	口唇部に太沈線周回 全面に 0 段多条単節縄文 RL (縦)	覆土下層	60% PL152
1505	縄文土器	深鉢	33.5	(28.5)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	沈線を伴う背割れ隆帯により口頸部区画 区画内クラク文 胴部 0 段多条単節縄文 RL (縦)	覆土下層	60% PL152

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1506	縄文土器	深鉢	[16.5]	19.7	8.8	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 胴部縦方向の削りとナデ 底面丁寧なナデ	覆土下層	95% PL153
1507	縄文土器	深鉢	29.5	44.2	10.5	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線を伴う隆帯による口頸部区画 2条一組の隆帯による渦巻文・弧状文・剣先文 胴部0段多条単節縄文RL(縦) 施文 底面網代痕	覆土下層	95% PL153
1508	縄文土器	深鉢	31.0	(44.6)	-	長石・石英・雲母・細礫	黒褐	良好	地文に単節縄文RL(横) 波頂部隆帯による渦巻文 口唇部太沈線 口頸部沈線を伴う隆帯で区画 区画内沈線を伴う隆帯によるクランク文・剣先文 胴部沈線による懸垂文・波状懸垂文	覆土下層	90% PL153
1509	縄文土器	深鉢	26.7	(37.8)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	2条一組の隆帯により口頸部区画 区画内隆帯による弧状文・渦巻文 胴部0段多条単節縄文RL(縦) 沈線による懸垂文・弧状文・矩形文	覆土上層	80% PL152
1510	縄文土器	深鉢	-	(14.0)	8.8	長石・石英・雲母	橙	普通	間隔を空けて単節縄文RL(斜) 施文 3本単位の沈線による懸垂文 懸垂文間鋸歯状の沈線垂下	覆土下層	30%
1511	縄文土器	深鉢	-	(12.5)	11.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	単節縄文RL(縦) 施文 下端部横方向のナデ 底面網代痕	覆土下層	20%
1512	縄文土器	浅鉢	[25.2]	8.4	9.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	内面に稜 外・内面横位のナデ	覆土下層	30% PL153
1513	縄文土器	浅鉢	[39.6]	(9.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	頸部交互刺突による連続波状文 外・内面横方向の磨き	覆土下層	10%
1514	縄文土器	小型浅鉢	[17.6]	7.9	[9.0]	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	口縁下に凹線 外・内面横方向の磨き	覆土下層	40% PL153
1515	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	波頂部に棒状工具によるキザミ目 口縁部横方向のナデ 胴部半截竹管による縦位の条線文	覆土中層	
1516	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁に沿って2列の有節沈線による連続弧状文一巡	覆土下層	
1517	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁に沿って沈線を伴う単節縄文LR(横) 施文の隆帯貼付 隆帯下同一原体(縦)	覆土中層	
1518	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁に沿って縄文施文の隆帯と波頂部から垂下する隆帯による区画文 区画内半截竹管による並行沈線文で充填	覆土中層	
1519	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に沈線一巡 単節縄文RL(横) 蒲鉾状隆帯で口縁部区画 区画内2条の隆帯による弧状文	覆土下層	

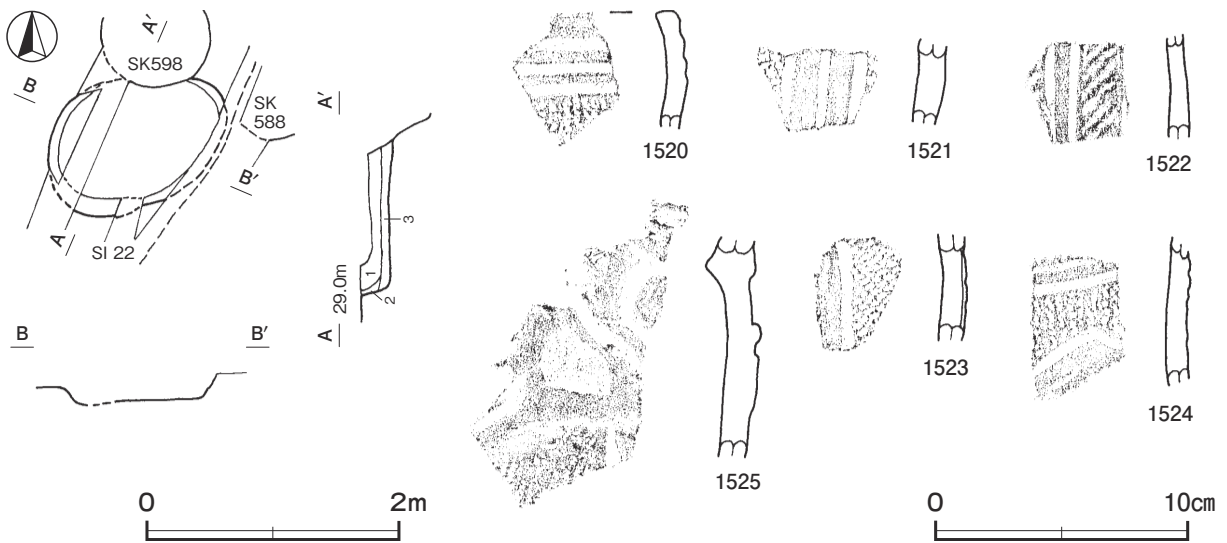
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 311	打製石斧	(4.9)	4.2	2.1	(59.2)	緑色岩	撥形 表裏面研磨 両側縁・刃部表裏を敲打 基部欠損	覆土中	
Q 312	敲砥石	5.4	4.9	2.2	85.7	石英斑岩	円礫の周縁部に微細な敲打痕・砥面をもつ 表面に砥面	覆土中	PL173

第 591 号土坑 (第 524 図)

位置 調査区北部の C 4 d2 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 22 号堅穴建物跡・第 588 号土坑を掘り込み, 第 598 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東・南西径 1.45 m, 北西・南東径 1.18 m の楕円形で, 長径方向は N - 48° - E である。底面は平坦で, 深さは 21cm である。壁は外傾している。



第 524 図 第 591 号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 81点（深鉢）が、覆土中からまばらに出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第591号土坑出土遺物観察表（第524図）

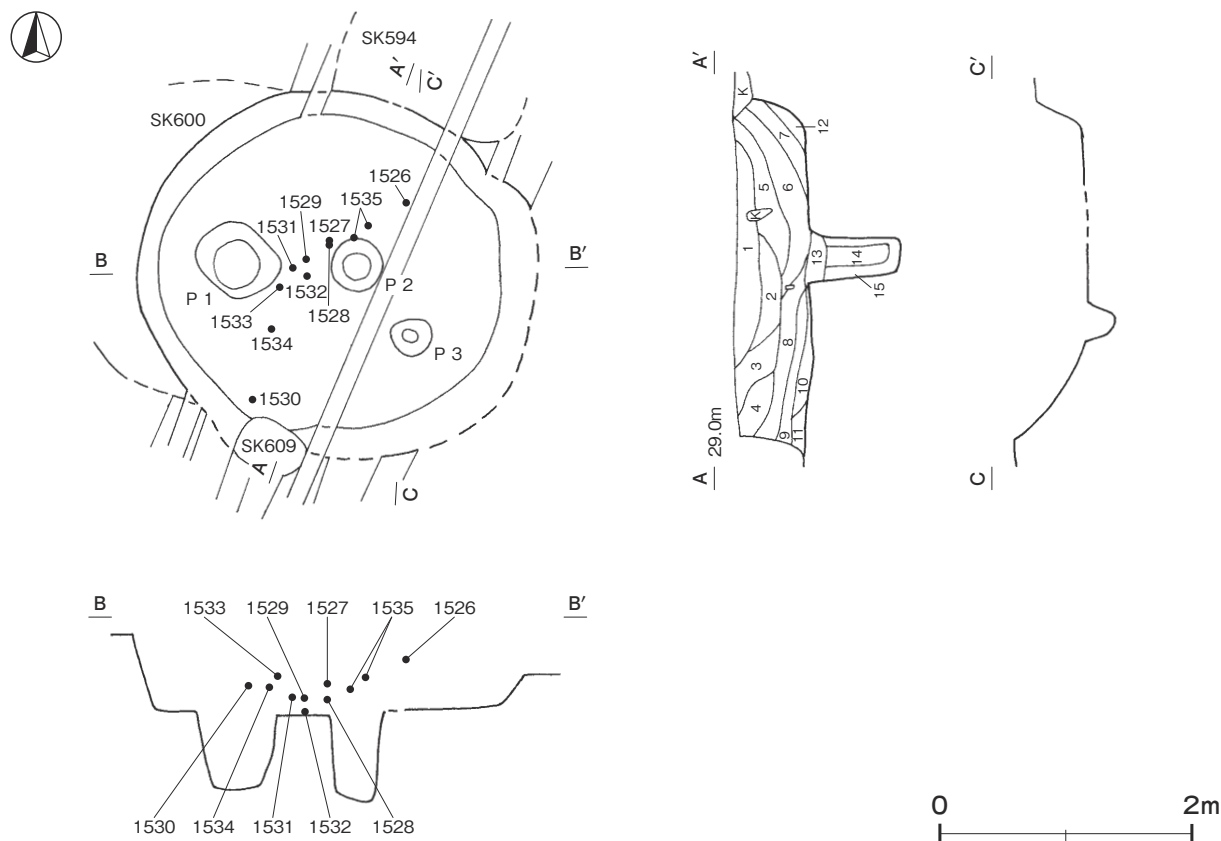
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1520	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って3本の沈線一巡 縦位の捺糸文施文	覆土中	
1521	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	単節縄文LR（縦） 3本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土中	
1522	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	無節縄文R（縦） 2本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土中	
1523	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	複節縄文LRL（縦） 2本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土中	
1524	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	縦位の捺糸文上に弧状の並行沈線文 沈線間磨消	覆土中	
1525	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	太沈線を伴う隆帯による楕円形区画文 区画内単節縄文充填 胴部単節縄文RL（縦）施文	覆土中	

第593号土坑（第525～527図）

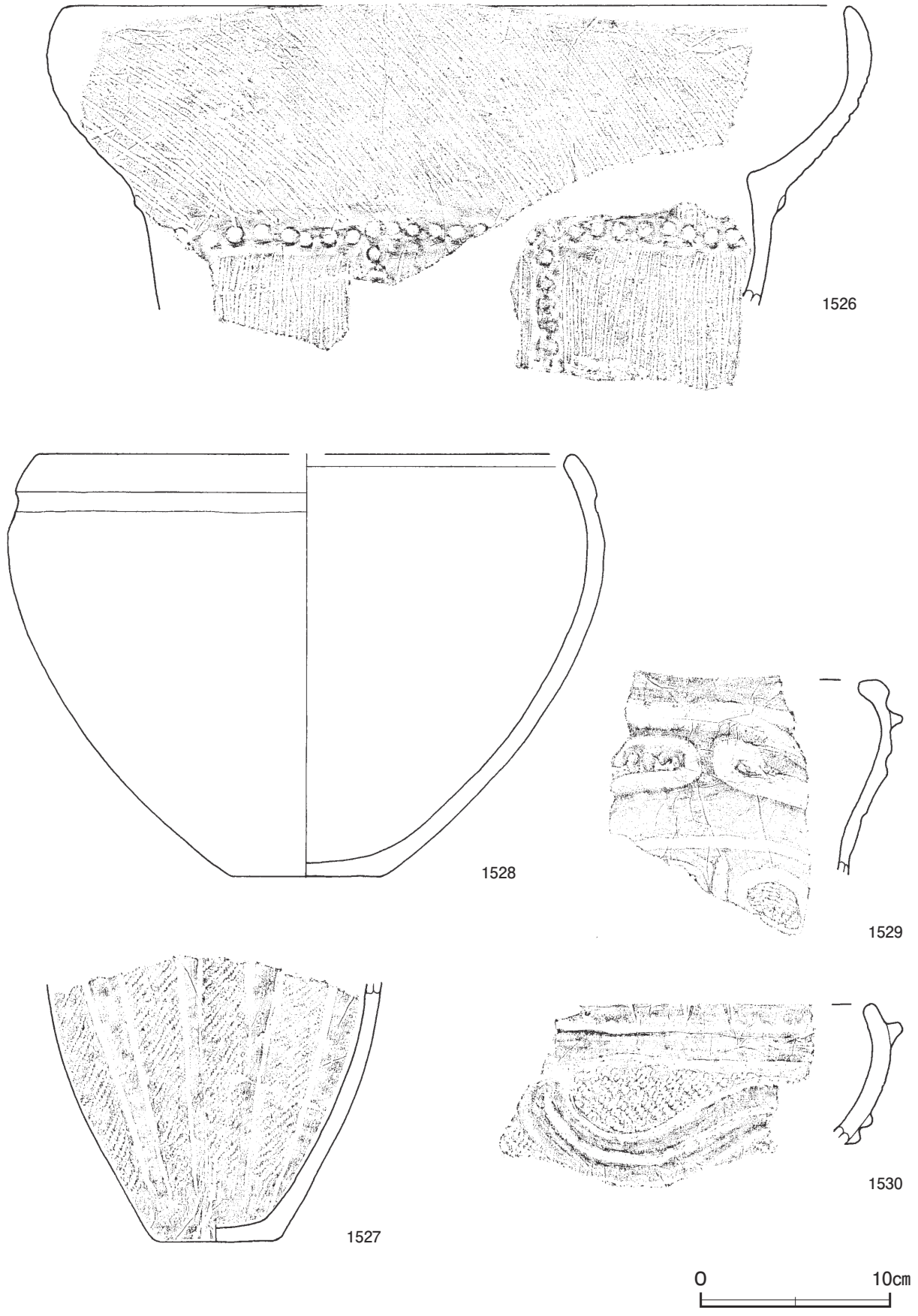
位置 調査区中央部のC4f2区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第594・600号土坑を掘り込み、第609号土坑に掘り込まれている。

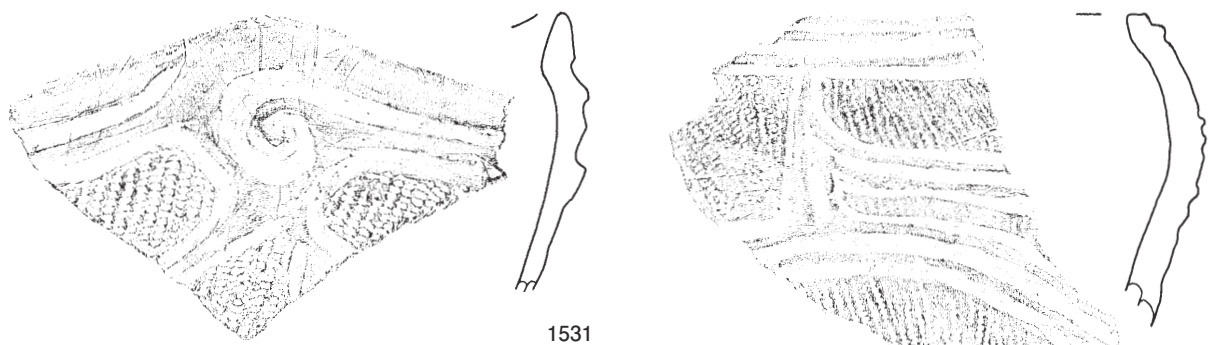
規模と形状 径3.06～3.18mのほぼ円形で、底面は平坦である。深さは64cmで、壁は外傾している。



第525図 第593号土坑実測図



第 526 図 第 593 号土坑出土遺物実測図 (1)

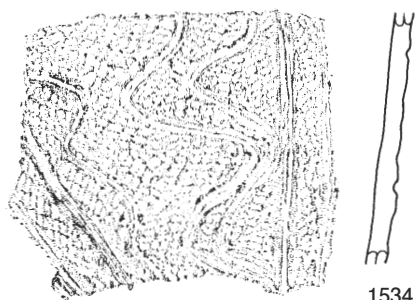


1531

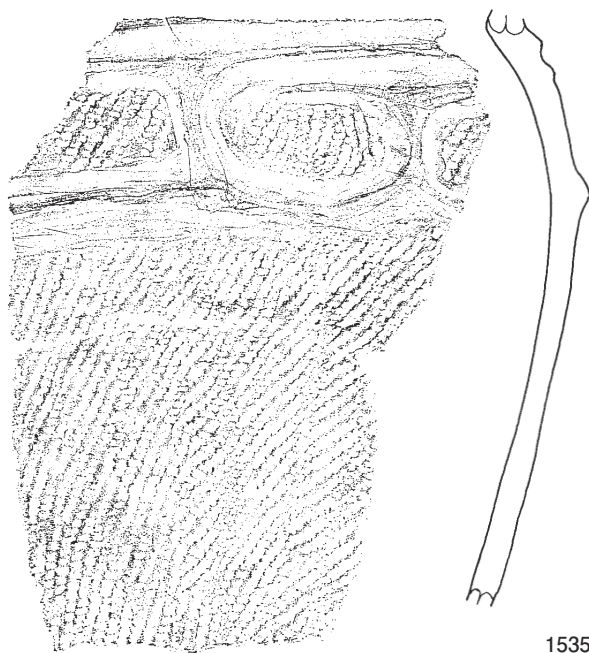
1532



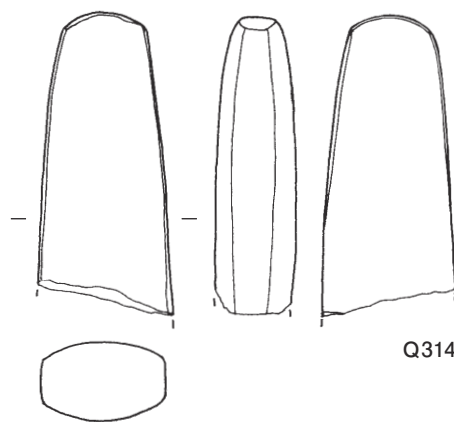
1533



1534

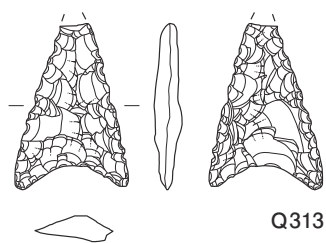


1535



Q314

0 10cm



Q313

0 2cm

第 527 图 第 593 号土坑出土遗物实测图 (2)

ピット 3か所。P1は西部、P2は中央部、P3は南東部に位置し、深さはそれぞれ64cm・74cm・22cmである。

P1は、補助的な貯蔵施設と考えられる。P2は、位置や形状から柱穴と考えられる。P3は、性格不明である。

覆土 12層に分層できる。ロームブロックを含む層が堆積していることから、埋め戻されている。第13～15層はP2の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	9	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
2	暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量	10	褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	11	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	12	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	13	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	14	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7	極暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量	15	暗褐色	ロームブロック少量
8	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量			

遺物出土状況 縄文土器片717点（深鉢698、鉢1、浅鉢18）、石器4点（鏃、磨製石斧、磨石、砥石）、剥片7点（砂岩3、チャート2、粘板岩1、石英1）が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1528・1529・1531・1532は覆土下層から、1527・1530・1533～1535は覆土中層から、1526は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第593号土坑出土遺物観察表（第526・527図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1526	縄文土器	深鉢	[41.0]	(16.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部へラ状工具による斜行沈線文 円形刺突文をもつ隆帯で胴部と区画 胴部縦位のへラ状工具による縦位の沈線文上に押圧隆帯垂下	覆土上層	20% PL152
1527	縄文土器	深鉢	-	(13.8)	6.8	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	単節縄文RL(縦) 2単位の沈線垂下 沈線間磨消 下端部横方向の磨き	覆土中層	30%
1528	縄文土器	鉢	[27.8]	25.5	7.8	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って隆帯貼付 隆帯下太沈線 外・内面横位の丁寧な磨き	覆土下層	50% PL152
1529	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	凹線を伴う微隆起線による区画文 区画内渦巻文頸部無文帯 胴部太沈線による楕円形区画文・懸垂文 区画内単節縄文RL(斜) 充填	覆土下層	PL152
1530	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁に沿って厚みのある隆帯貼付 0段多条単節縄文RL(横) 背割れ隆帯による曲線文	覆土中層	
1531	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	波頂部に渦巻文 単節縄文LR(斜) 太沈線を伴う隆帯による区画文 胴部同一原体による施文上に太沈線による懸垂文	覆土下層	PL152
1532	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	2本一組の沈線を伴う隆帯で口縁部区画 区画内単節縄文LR(縦・斜) 同隆帯による曲線文	覆土下層	
1533	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁に沿って2列の円形刺突文 0段多条単節縄文RL(横・斜) 2本の沈線による連弧文沈線間磨消	覆土中層	PL152
1534	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	単節縄文RL(横・斜・縦)を粗雑に施文 縦・斜の並行沈線・蛇行沈線垂下	覆土中層	
1535	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	単節縄文RL(縦) 凹線を伴う隆起線による区画文 区画内楕円形文・矩形文	覆土中層	PL152

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 313	鏃	(2.2)	1.5	0.3	(0.9)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離 先端部欠損	覆土中	PL161
Q 314	磨製石斧	(12.0)	5.4	3.2	(343.1)	砂岩	定角式 全面研磨 刃部欠損	覆土中	PL167

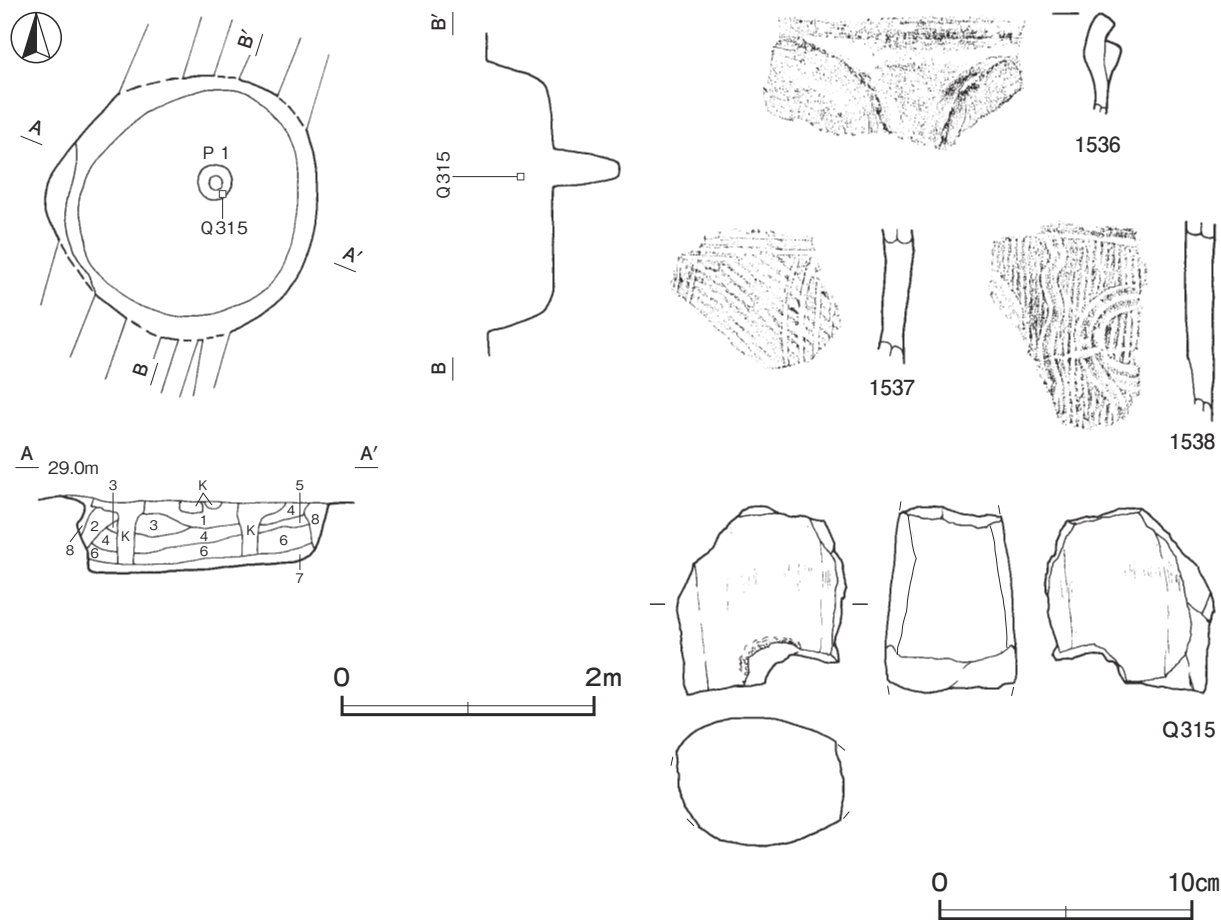
第595号土坑（第528図 PL87）

位置 調査区中央部のC4e2区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径2.14mのほぼ円形である。底面は平坦である。深さは56cmで、壁は外傾している。

ピット 中央部の北東寄りに位置し、深さは54cmである。位置や形状から、柱穴と考えられる。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第 528 図 第 595 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|---------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 6 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 75 点（深鉢 69, 浅鉢 6）, 石器 2 点（磨製石斧, 磨石）が, 覆土中からまばらに出土している。Q 315 は覆土中層から出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 595 号土坑出土遺物観察表（第 528 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1536	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	断面三角形の隆起線による弧状文	覆土中	
1537	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	無節縄文 R（横）上に半截竹管による横走文・縦走文	覆土中	
1538	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	縦位の撚糸文上に半截竹管による横位区画 胴部同施文具による波状文・蕨手文	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 315	磨石	(7.5)	(6.7)	5.3	(320.7)	砂岩	表裏面研磨	表面中央部微細な敲打痕	周縁部剥離	覆土中層	

第 596 号土坑 (第 529 図)

位置 調査区北部の C 4 e3 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 599 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.02 m, 短径 0.78 m の楕円形で, 長径方向は N - 78° - W ある。底面は平坦で, 深さは 67 cm である。壁は直立している。

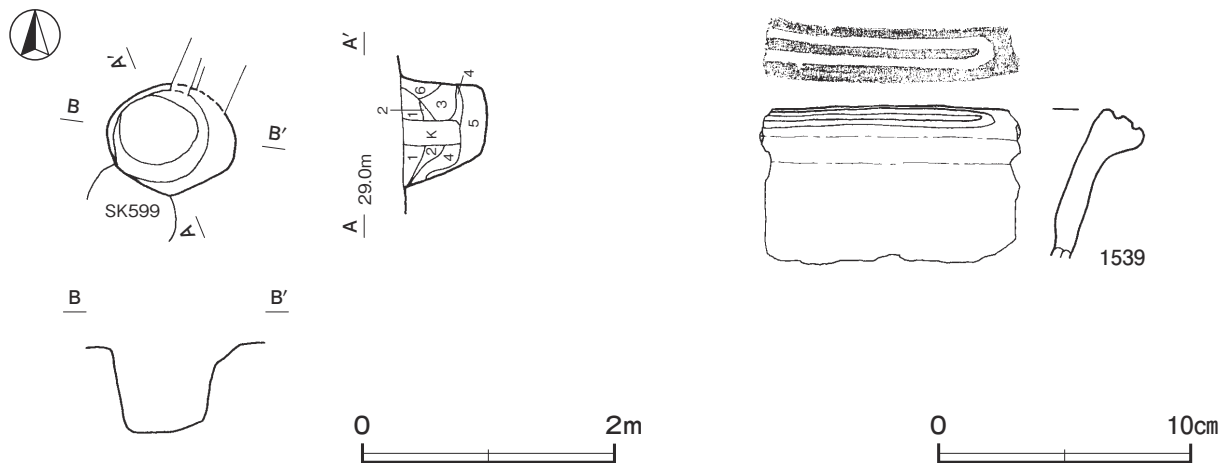
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 22 点 (深鉢 20, 浅鉢 2) が, 覆土中からまばらに出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 529 図 第 596 号土坑・出土遺物実測図

第 596 号土坑出土遺物観察表 (第 529 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1539	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線による長楕円文 内面に稜 外・内面横方向の磨き 口唇部・口縁部内面赤彩痕	覆土中	

第 600 号土坑 (第 530 図 PL85)

位置 調査区中央部の C 4 f2 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 593 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 2.45 ~ 2.62 m のほぼ円形である。底面は平坦で, 深さは 93cm である。壁はほぼ直立している。

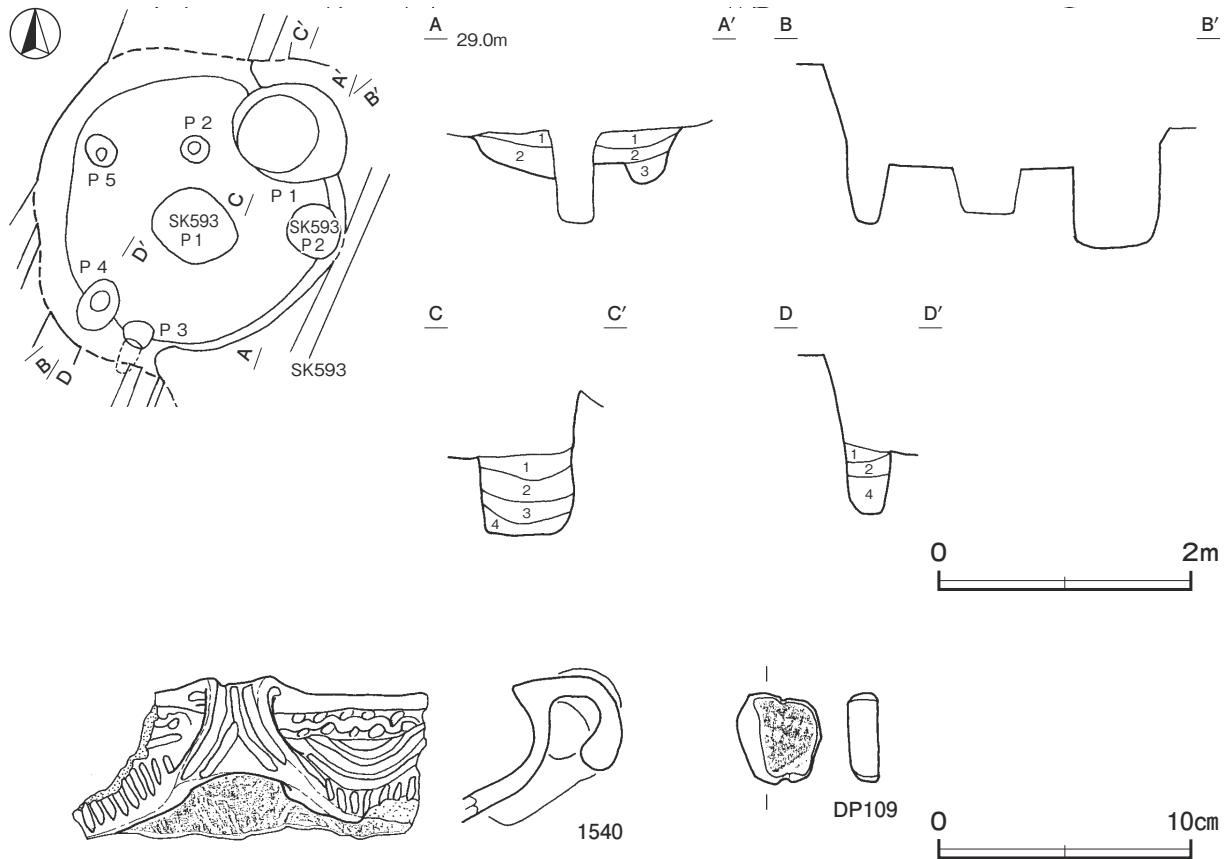
ピット 5 か所。P 1 は北東壁際, P 2 は北部, P 3 は南壁際, P 4 は南西壁際, P 5 は北西部に位置している。

深さはそれぞれ 65cm・32cm・36cm・48cm・28cm である。P 1 は, 位置や形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

P 2・P 3 は, 位置や形状から柱穴と考えられる。P 4・P 5 は, 性格不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |



第 530 図 第 600 号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれている層が堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 101 点 (深鉢 98, 浅鉢 3), 土製品 1 点 (土器片錘), 石器 1 点 (磨石) が, 覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土状況から中期中葉と考えられる。

第 600 号土坑出土遺物観察表 (第 530 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1540	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	隆帯と庇状隆帯で口縁部区画。口縁に沿って交互刺突文。区画内沈線による弧状文と縦線文で充填。胴部縦位の擦糸文。	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP109	土器片錘	3.6	3.4	1.2	16.6	長石・石英	にぶい褐色	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中		

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Home
	編集	Adobe InDesign CS4
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
	図面類	RICOH imagio MP W4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡 (第2分冊)

東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成29(2017)年 3月15日 印刷

平成29(2017)年 3月17日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけほの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

TEL 029-227-5505

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡

東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第2分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉 十 郎 北 堀 遺 跡 勘

(第2分冊)

公益財団法人茨城県教育財団